
北区次世代育成支援行動計画策定のための
アンケート調査報告書



平成21年3月

北 区

目 次

第1章 調査の概要

1. 調査の目的	3
2. 調査の種類	3
3. 調査の設計	3
4. 調査内容	4
5. 回収結果	5
6. 報告書を利用するにあたって	5

第2章 調査結果の詳細

・ 就学前児童・就学児童の保護者	9
1. 調査票の記入者	9
2. 回答者の基本属性	9
3. 保護者の就労状況について	17
4. 北区の子育て環境について	28
5. あて名の子どもの子育て全般について	33
6. 仕事と生活の調和について	40
7. 妊娠・出産・育児について	51
8. 地域での子育て支援について	57
9. 住宅環境について	65
10. 子どもの遊び場や外出環境について（就学前児童が対象）	68
11. 保育サービス等の利用状況と利用意向について	72
12. 就学児童の日常生活について	96
13. 放課後や休日の居場所と過ごし方について（就学児童が対象、一部就学前児童も含む）	100
14. 子育て支援サービスの利用状況と利用意向について（就学前児童が対象）	116
15. まちづくりや今後の子育て支援策について	122
・ 12歳～18歳の区民	135
1. 回答者の基本属性	135
2. 北区について	140
3. 普段の生活や考え方について	145
4. 学校生活について	160
5. 放課後や休日の過ごし方について	167
6. 将来の仕事や結婚、子育てについて	175
・ 30歳以上40歳未満の、世帯主と夫又は妻のみの世帯、世帯主のみの世帯	183
1. 回答者の基本属性	183
2. 家族および生活全般について	185
3. 将来への不安、結婚、子育てについて	189
4. 労働基準法・社会保険等支援の認知状況について	199
5. 地域交流について	200
6. 少子社会に対する考え方について	204
7. 子育てしやすい環境整備について	206

．世帯主と子のみで構成されている世帯の18歳以下の子どもの保護者	209
1．回答者の基本属性	209
2．北区の子育て環境について	216
3．あて名の子どもの子育て全般について	218
4．仕事と生活の調和について	222
5．住宅環境について	224
6．あて名の子どもの日常生活について	226
7．地域での子育て支援について	229
8．母子家庭、父子家庭について（母子家庭、父子家庭が対象）	231
9．まちづくりや子育て支援のあり方について	248
．事業所	251
1．事業所の概要について	251
2．一般事業主行動計画について	255
3．仕事と子育て（生活）の両立支援に関する取り組みについて	258
4．子育て支援制度の利用促進に関する取り組みについて	266
5．経営方針における子育て支援の位置づけについて	269
6．子育て支援策の効果について	270
7．仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を推進するための北区への要望	274

第3章 自由回答のまとめ

自由回答のまとめ	277
----------	-----

資料 使用した調査票

第1章

調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、保育ニーズをはじめとした様々な子育て支援サービスに関する区民の意見等を把握し、平成 21 年度に策定する『北区次世代育成支援行動計画（平成 22 年度～平成 26 年度）』の基礎資料を得ることを目的として実施した。

2. 調査の種類

本調査は、以下の 6 種類の調査を実施した。

- 就学前児童（就学前の子どもの保護者）
- 就学児童（小学 1 年生から 6 年生までの子どもの保護者）
- 12 歳～18 歳の区民
- 30 歳以上 40 歳未満の、世帯主と夫又は妻のみの世帯（子どものいない世帯）、世帯主のみの世帯（独身者）
- 世帯主と子のみで構成されている世帯の 18 歳以下の子どもの保護者
- 事業所（従業員数が 10 人以上 300 人未満）

3. 調査の設計

6 種類の調査は以下のように設計した。

調査の設計

調査種別	項目	内 容
就学前児童 （就学前の子どもの保護者）	対象者数	1,500 人
	抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
	調査地域	区内全域
	調査方法	郵送配布・郵送回収（礼状形式の督促 1 回実施）
	調査時期	平成 20 年 11 月 27 日～12 月 11 日
就学児童 （小学 1 年生から 6 年生までの子どもの保護者）	対象者数	1,500 人
	抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
	調査地域	区内全域
	調査方法	郵送配布・郵送回収（礼状形式の督促 1 回実施）
	調査時期	平成 20 年 11 月 27 日～12 月 11 日
12 歳～18 歳の区民	対象者数	1,000 人（12 歳～14 歳、15 歳～17 歳 各 500 人）
	抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
	調査地域	区内全域
	調査方法	郵送配布・郵送回収（礼状形式の督促 1 回実施）
	調査時期	平成 20 年 11 月 27 日～12 月 11 日
30 歳以上 40 歳未満の、世帯主と夫又は妻のみの世帯（子どものいない世帯）、世帯主のみの世帯（独身者）	対象者数	1,000 人（子どものいない世帯、独身者 各 500 人）
	抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
	調査地域	区内全域
	調査方法	郵送配布・郵送回収（礼状形式の督促 1 回実施）
	調査時期	平成 20 年 11 月 27 日～12 月 11 日
世帯主と子のみで構成されている世帯の 18 歳以下の子どもの保護者	対象者数	300 人
	抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
	調査地域	区内全域
	調査方法	郵送配布・郵送回収（礼状形式の督促 1 回実施）
	調査時期	平成 20 年 11 月 27 日～12 月 11 日
事業所 （従業員数が 10 人以上 300 人未満）	対象者数	428 事業所
	抽出方法	東京商工会議所北支部の協力による資料から無作為抽出
	調査地域	区内全域
	調査方法	郵送配布・郵送回収（礼状形式の督促 1 回実施）
	調査時期	平成 20 年 11 月 27 日～12 月 11 日

4. 調査内容

調査種別ごとの調査内容は以下のとおりである。

調査内容

調査種別	調査内容
<p>就学前児童 (就学前の子どもの保護者)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・保護者の就労状況について ・子育ての環境について ・子育て全般について ・仕事と生活の調和について ・妊娠・出産・育児について ・地域での子育て支援について ・住宅環境について ・遊び場や外出環境について ・保育サービス等の利用状況について ・病児・病後児保育について ・一時預かりについて ・宿泊を伴う一時預かりについて ・来年度就学予定の子どもの放課後の過ごし方について ・ベビーシッターの利用状況について ・今後の保育サービス等の利用意向について ・子育て支援サービスの認知度・利用状況などについて ・地域子育て支援拠点事業の利用について ・今後の子育て支援策について
<p>就学児童 (小学1年生から6年生までの子どもの保護者)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・保護者の就労状況について ・子育ての環境について ・子育て全般について ・仕事と生活の調和について ・住宅環境について ・子どもの日常生活について ・地域での子育て支援について ・放課後や休日の過ごし方について ・病児・病後児保育について ・一時預かりについて ・宿泊を伴う一時預かりについて ・ベビーシッターの利用状況について ・まちづくりや子育て支援のあり方について
<p>12歳～18歳の区民</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・北区について ・ふだんの生活や考え方について ・学校生活について ・放課後(夕方)や休日の過ごし方について ・将来の仕事や結婚、子育てについて
<p>30歳以上40歳未満の、世帯主と夫又は妻のみの世帯(子どものいない世帯)、世帯主のみの世帯(独身者)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・家族及び生活全般について ・将来への不安、結婚、子育てについて ・労働基準法・社会保険等による支援の周知状況について ・地域交流について ・少子社会に対する考え方について ・子育てしやすい環境整備について
<p>世帯主と子のみで構成されている世帯の18歳以下の子どもの保護者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・子育ての環境について ・子育て全般について ・仕事と生活の調査について ・住宅環境について ・子どもの日常生活について ・地域での子育て支援について ・母子家庭・父子家庭の方 ・まちづくりや子育て支援のあり方について
<p>事業所 (従業員数が10人以上300人未満)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・次世代育成支援行動計画について ・仕事と子育ての両立支援に関する取り組みについて ・子育て支援制度の利用促進に関する取り組みについて ・経営方針における子育て支援策の位置づけについて ・子育て支援策の効果について

5 . 回収結果

回収結果は以下のとおりである。

回収結果

調査種別		配布数	有効回収数	有効回収率
就学前児童（就学前の子どもの保護者）		1,500	787	52.5%
就学児童 （小学1年生から6年生までの子どもの保護者）		1,500	784	52.3%
12歳～18歳の区民	全体	1,000	369	36.9%
	）12歳～14歳	500	146	29.2%
	）15歳～17歳	500	218	43.6%
30歳以上40歳未満の、 世帯主と夫又は妻のみ の世帯（子どものいない世帯）、世帯主のみ の世帯（独身者）	全体	1,000	279	27.9%
	）子どものいない世帯	500	215	43.0%
	）独身者	500	59	11.8%
世帯主と子のみで構成されている世帯の18歳以下の 子どもの保護者		300	132	44.0%
事業所（従業員数が10人以上300人未満）		428	104	24.3%
合計		5,728	2,455	42.9%

調査種別の有効回収数欄について、）12歳～14歳（146）、又は）15歳～17歳（218）と属性を回答していないものがあるため、全体（369）との合計は、一致しない。もと同様である。

6 . 報告書を利用するにあたって

- (1) 図・表中のn、件数とは、基数となる実数のことである。
- (2) 回答はn、件数を100%として百分率で算出してある。小数点以下第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が全体を示す数値と一致しないことがある
- (3) 図・表中の-は回答者が皆無のものである。
- (4) 複数回答ができる質問では、回答比率の合計が100%を超える。
- (5) 調査結果で、各質問の全体の結果を□内に示している。
- (6) 子どもの年齢別や学年別、世帯の就労パターン別など調査対象者の基本属性にかかわる図・表については、基本属性に「無回答」があるため、全体の示す数値と一致しない。
- (7) 図・表において、回答の選択肢表記を簡略化している場合がある。

第2章

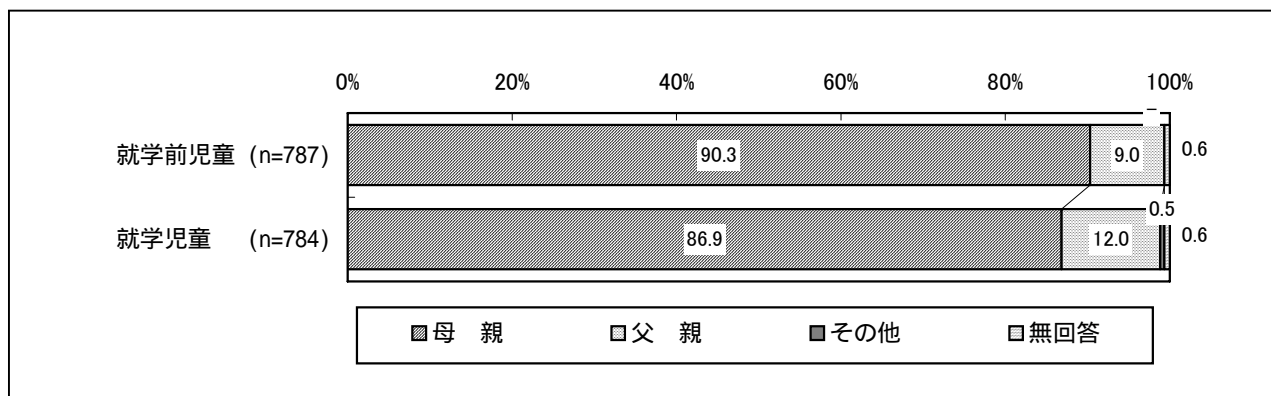
調査結果の詳細

・就学前児童・就学児童の保護者

1. 調査票の記入者

調査票の記入者は、就学前児童の保護者・就学児童の保護者とも「母親」が多くそれぞれ90.3%、86.9%となっている。

調査票の記入者



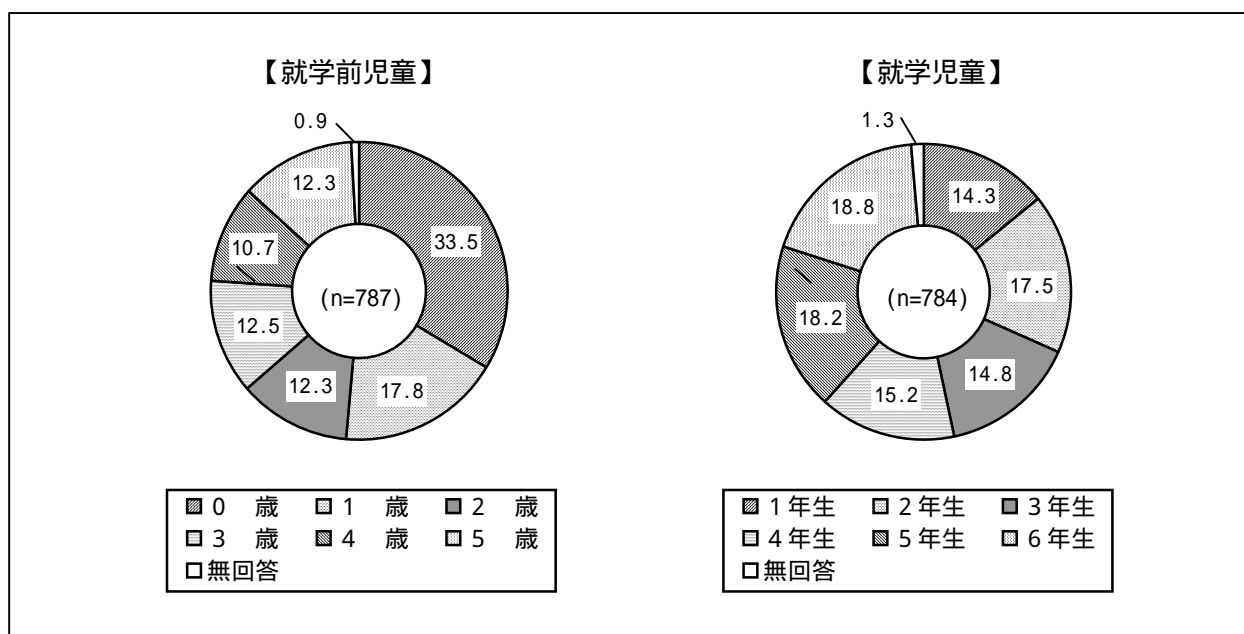
2. 回答者の基本属性

(1) 調査対象者の年齢・学年

就学前児童の年齢は、「0歳」が最も多く33.5%、次いで「1歳」が17.8%、「3歳」が12.5%、「2歳」「5歳」がともに12.3%、「4歳」が10.7%となっている。

就学児童の学年は、「6年生」が最も多く18.8%、次いで「5年生」が18.2%、「2年生」が17.5%、「4年生」が15.2%、「3年生」が14.8%、「1年生」が14.3%となっている。

調査対象者の年齢・学年



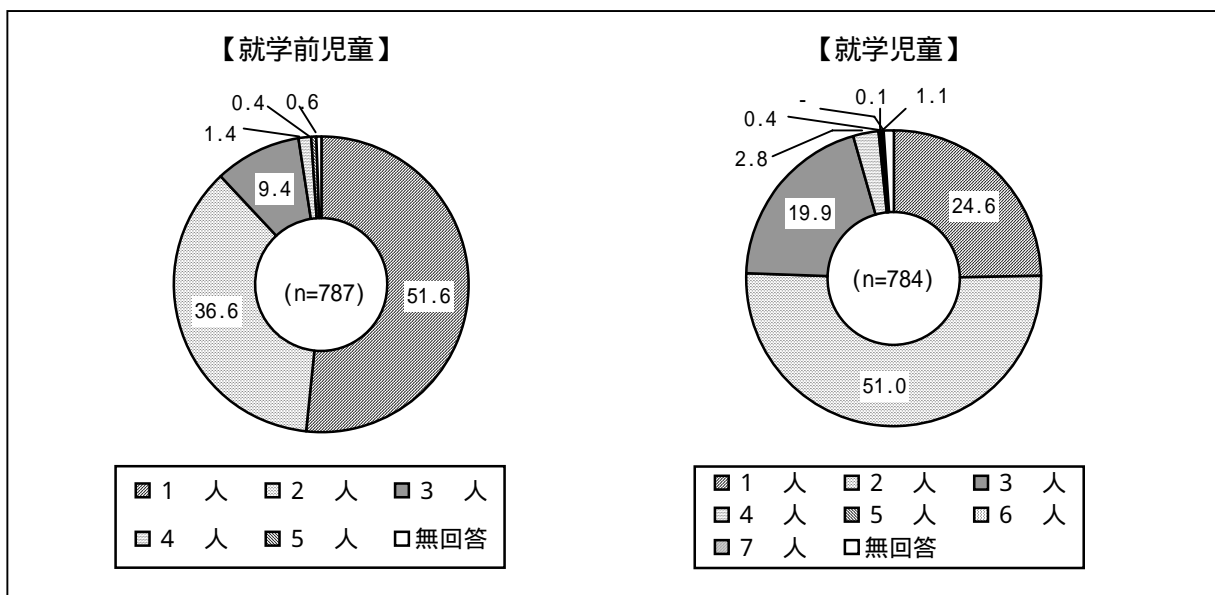
(2) 子ども数と末子の年齢

子ども数

子ども数について、就学前児童の保護者では「1人」が最も多く51.6%、次いで「2人」が36.6%、「3人」が9.4%、「4人以上」が1.8%となっている。

就学児童の保護者では「2人」が最も多く51.0%、次いで「1人」が24.6%、「3人」が19.9%、「4人以上」が3.3%となっている。

子ども数

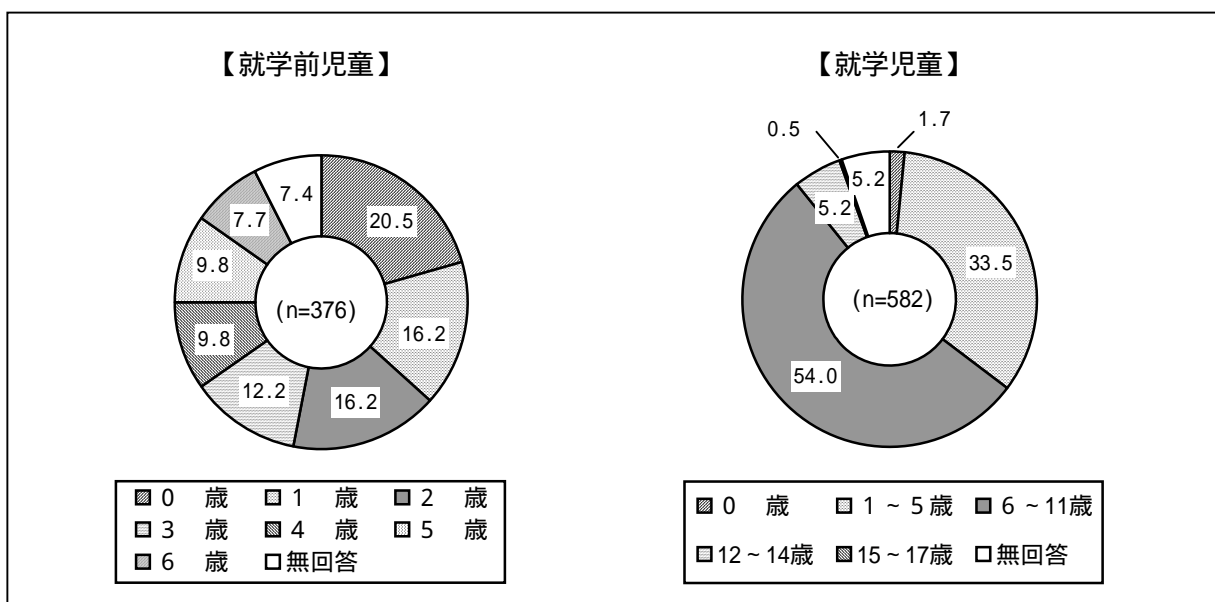


末子の年齢

子どもが2人以上いる人の末子の年齢について、就学前児童の保護者では「0歳」が最も多く20.5%、次いで「1歳」「2歳」がともに16.2%、「3歳」が12.2%、「4歳」「5歳」がともに9.8%、「6歳」が7.7%となっている。

就学児童の保護者では「6～11歳」が最も多く54.0%、次いで「1～5歳」が33.5%、「12～14歳」が5.2%、「0歳」が1.7%、「15～17歳」が0.5%となっている。

末子の年齢

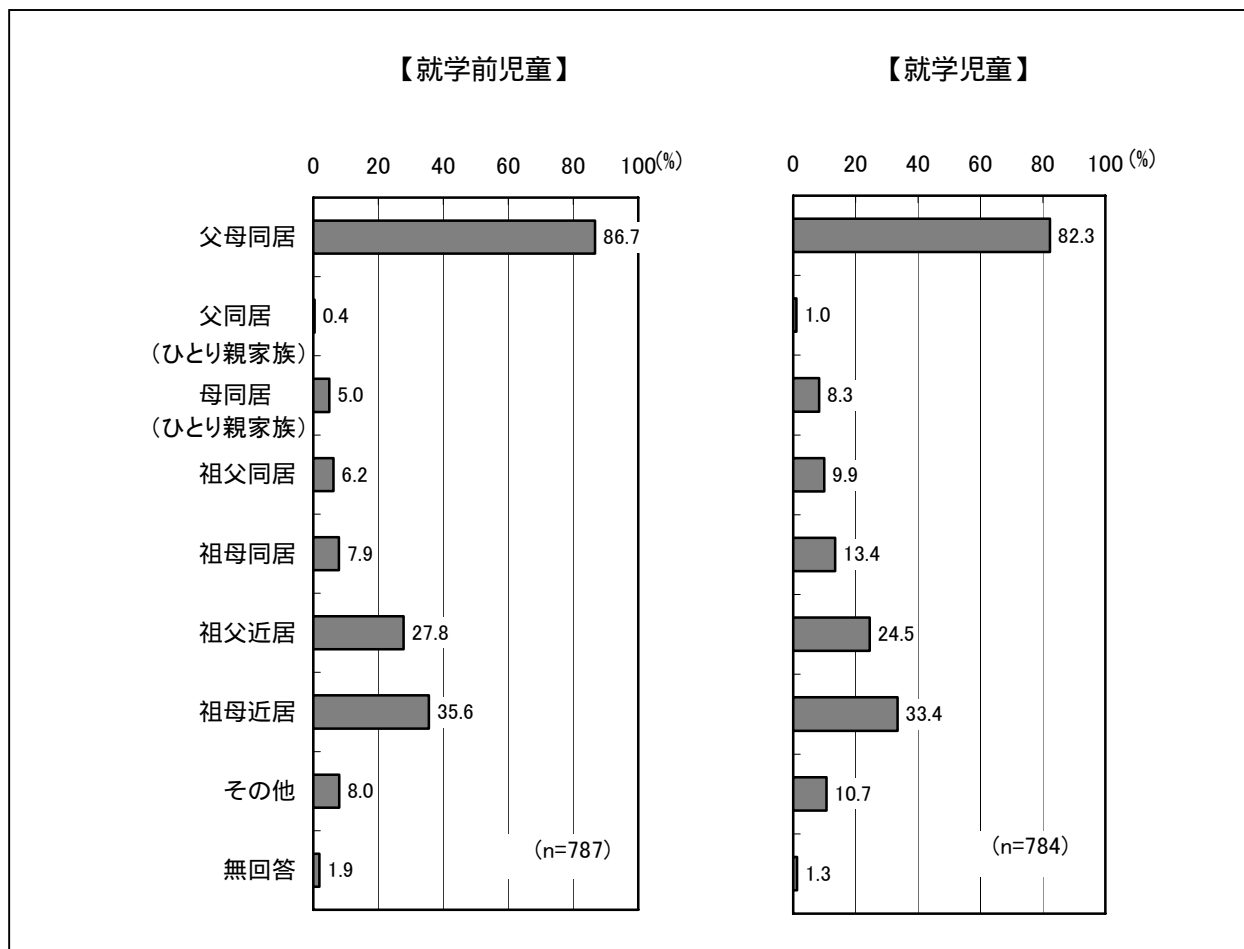


(3) 同居家族

同居家族は、就学前児童の保護者では「父母同居」が最も多く 86.7%、次いで「祖母近居」が 35.6%、「祖父近居」が 27.8%と続き、「祖母同居」や「祖父同居」の3世代世帯もそれぞれ 7.9%、6.2%となっている。一方、「母同居（ひとり親家族）」は 5.0%、「父同居（ひとり親家族）」は 0.4%となっている。

就学児童の保護者も「父母同居」が最も多く 82.3%、次いで「祖母近居」が 33.4%、「祖父近居」が 24.5%と続き、「祖母同居」や「祖父同居」の3世代世帯もそれぞれ 13.4%、9.9%となっている。一方、「母同居（ひとり親家族）」は 8.3%、「父同居（ひとり親家族）」は 1.0%となっている。

同居家族



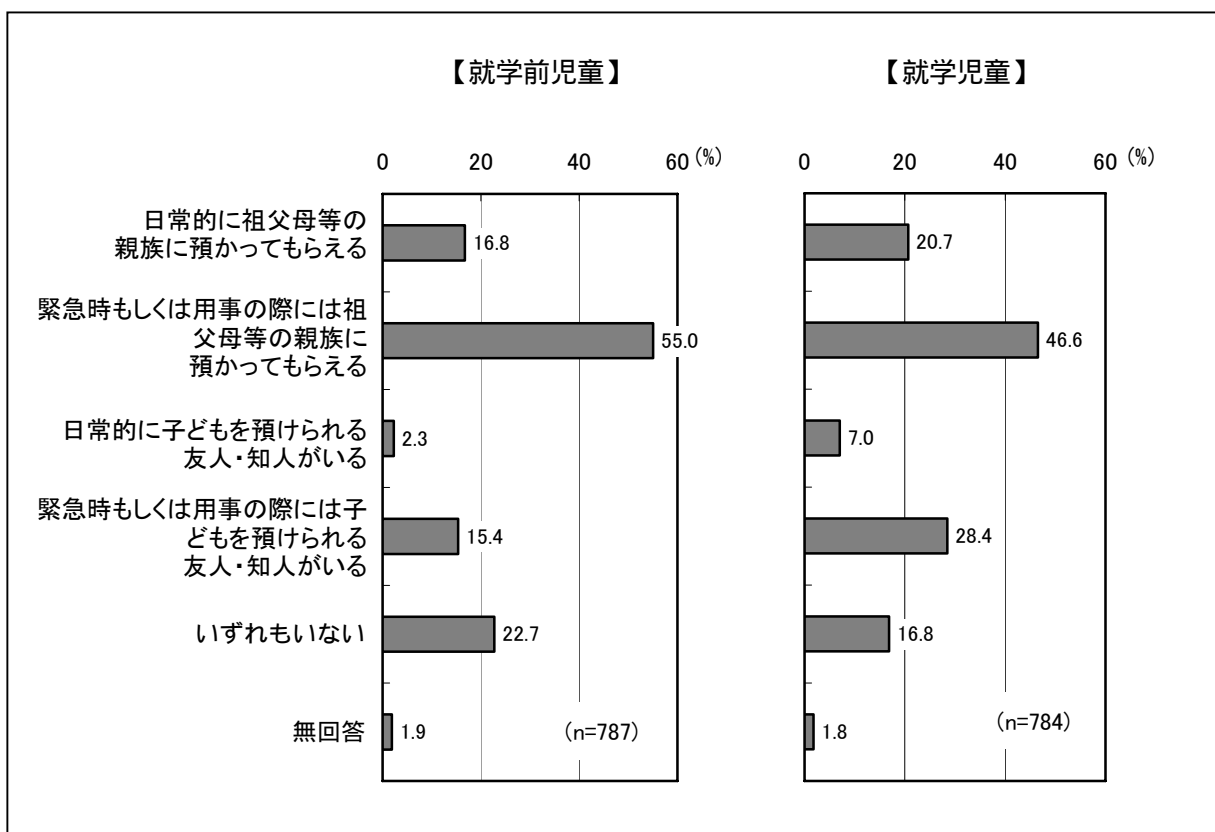
(4) 子どもを預かってもらえる人

子どもを預かってもらえる人の有無

子どもを預かってもらえる人の有無をみると、就学前児童の保護者では「緊急時もしくは用事の際に祖父母等の親族に預かってもらえる」が最も多く55.0%、次いで「いずれもない」が22.7%、「日常的に祖父母等の親族に預かってもらえる」が16.8%、「緊急時もしくは用事の際には子どもを預けられる友人・知人がいる」が15.4%と続いている。

就学児童の保護者でも「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族に預かってもらえる」が最も多く46.6%、次いで「緊急時もしくは用事の際には子どもを預けられる友人・知人がいる」が28.4%、「日常的に祖父母等の親族に預かってもらえる」が20.7%、「いずれもない」が16.8%と続いている。

子どもを預かってもらえる人の有無（複数回答）



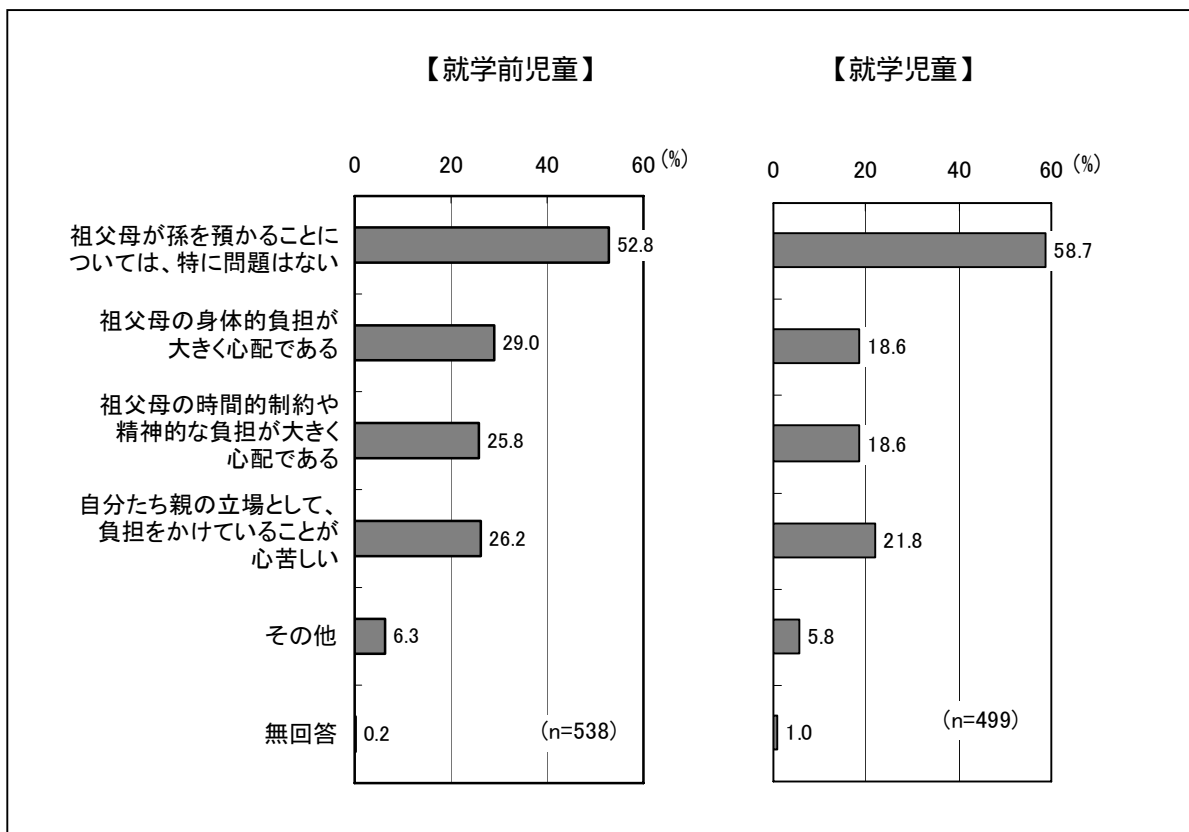
祖父母や友人・知人に預かってもらっていることへの感じ方

ア．祖父母に預かってもらっていることへの感じ方

子どもを預かってもらえる人の有無で「日常的に祖父母等の親族に預かってもらえる」「緊急時もしくは用事の際に祖父母等の親族に預かってもらえる」と回答した人の祖父母に預かってもらっていることへの感じ方をみると、就学前児童の保護者では「祖父母が孫を預かることについては、特に問題はない」が最も多く52.8%となっているが、「祖父母の身体的負担が大きく心配である」(29.0%)、「祖父母の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」(25.8%)、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」(26.2%)もそれぞれ2割台を占めている。

就学児童の保護者でも「祖父母が孫を預かることについては、特に問題はない」が最も多く58.7%となっているが、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」(21.8%)、「祖父母の身体的負担が大きく心配である」「祖父母の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」(ともに18.6%)もそれぞれ2割前後を占めている。

祖父母に預かってもらっていることへの感じ方(複数回答)

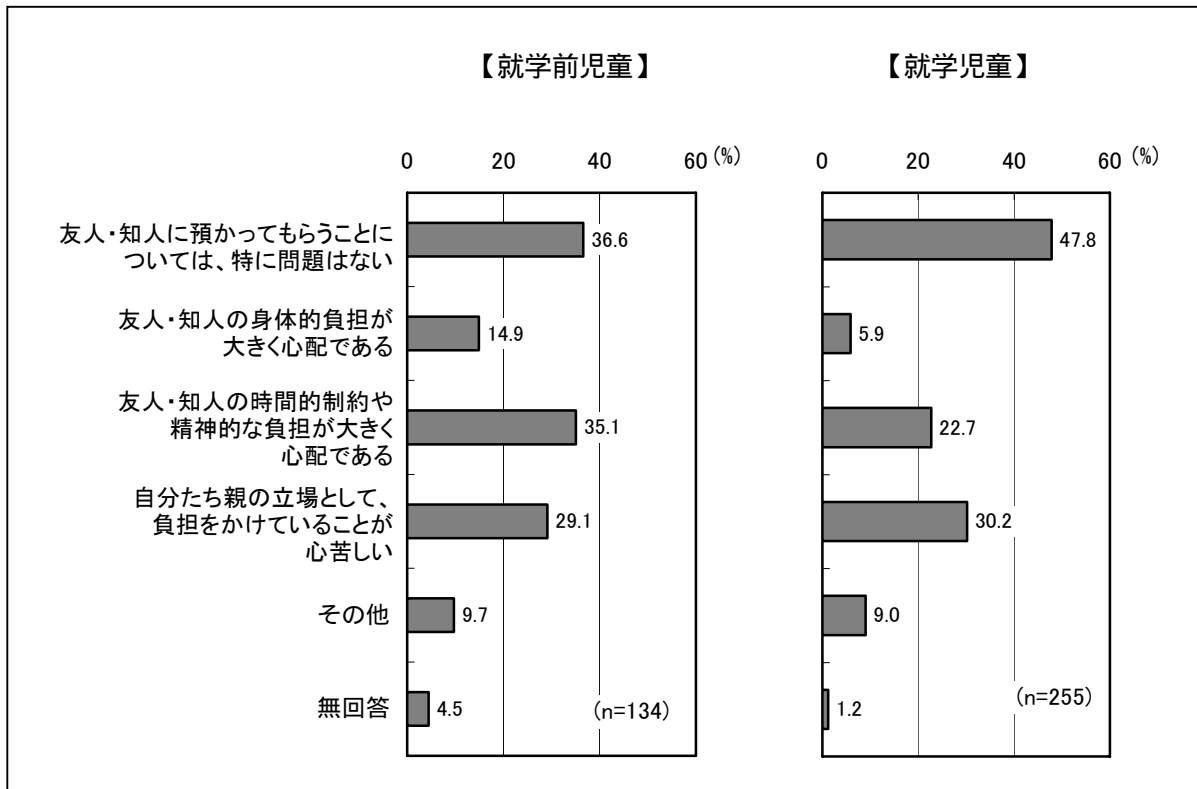


イ．友人や知人に預かってもらっていることへの感じ方

子どもを預かってもらえる人の有無で「日常的に子どもを預けられる友人・知人がいる」「緊急時もしくは用事の際には子どもを預けられる友人・知人がいる」と回答した人の友人や知人に預かってもらっていることへの感じ方をみると、就学前児童の保護者では「友人・知人に預かってもらうことについては、特に問題はない」が最も多く36.6%となっているが、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」(35.1%)、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」(29.1%)も3割前後を占めている。

就学児童の保護者では「友人・知人に預かってもらうことについては、特に問題はない」が最も多く47.8%となっているが、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」(30.2%)、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」(22.7%)も2割～3割を占めている。

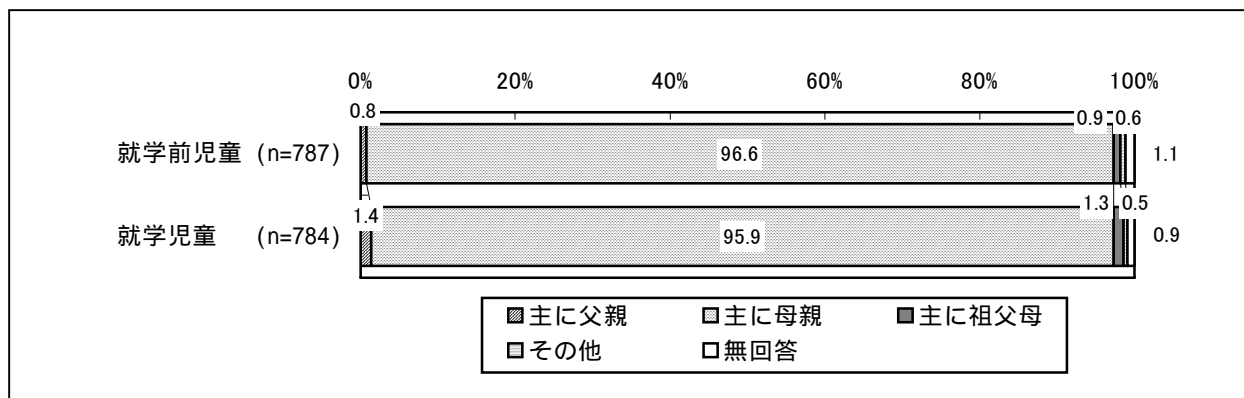
友人や知人に預かってもらっていることへの感じ方（複数回答）



(5) 子どもの世話を主に行っている人

子どもの世話を主に行っている人を見ると、就学前児童の保護者・就学児童の保護者とも「主に母親」が最も多く、就学前児童の保護者が96.6%、就学児童の保護者が95.9%となっている。

子供の世話を主に行っている人

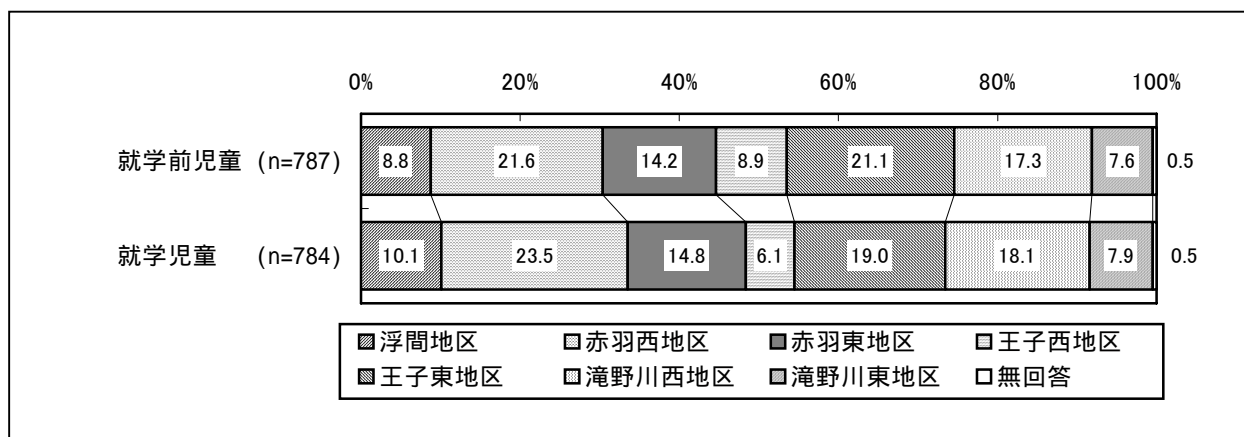


(6) 居住地区

居住地区をみると、就学前児童の保護者では「赤羽西地区」が最も多く21.6%、次いで「王子東地区」が21.1%、「滝野川西地区」が17.3%、「赤羽東地区」が14.2%と続く。

就学児童の保護者でも「赤羽西地区」が最も多く23.5%、次いで「王子東地区」が19.0%、「滝野川西地区」が18.1%、「赤羽東地区」が14.8%と続いている。

居住地区

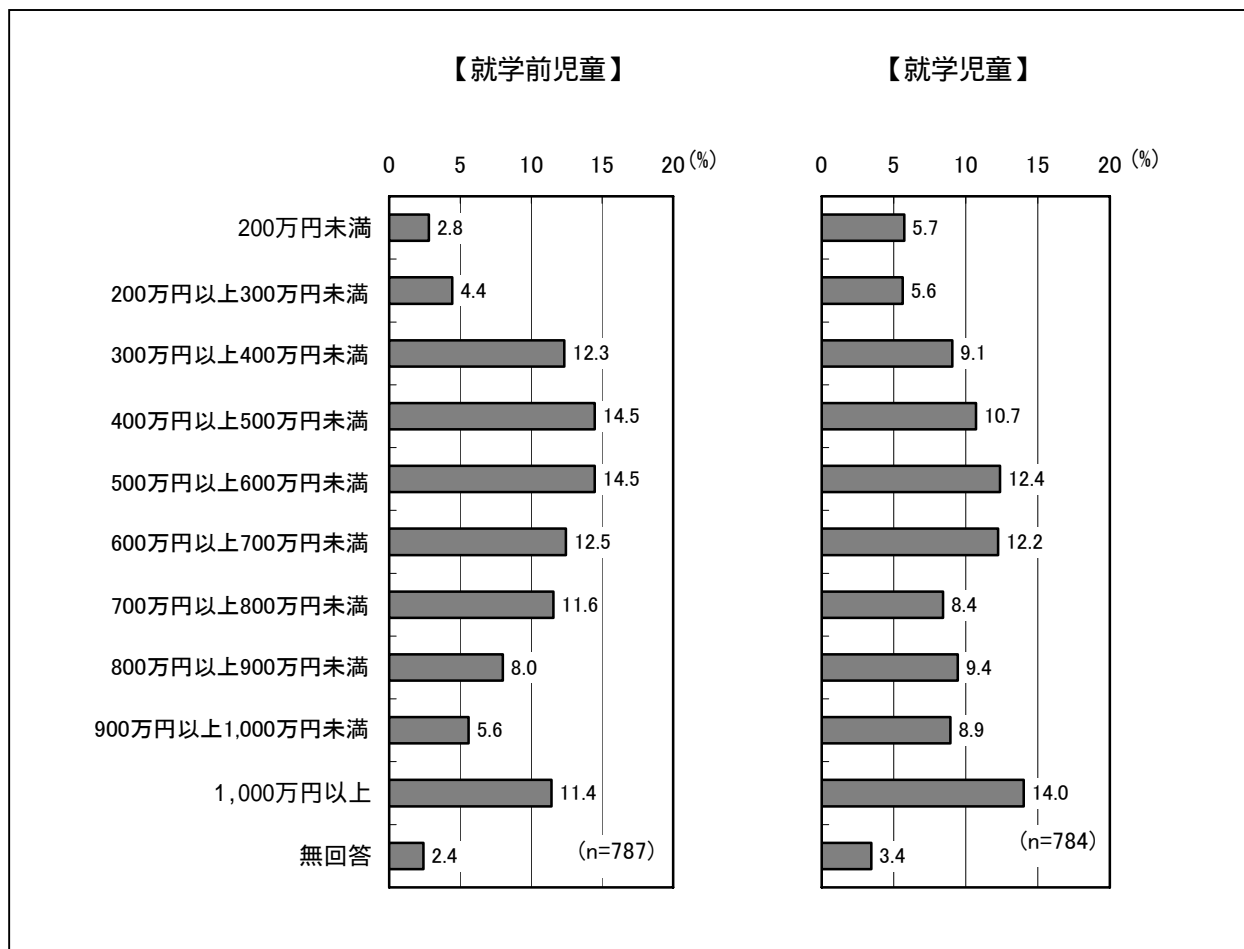


(7) 世帯の年収

世帯の年収をみると、就学前児童の保護者では「400万円以上500万円未満」「500万円以上600万円未満」が最も多くともに14.5%、次いで「600万円以上700万円未満」が12.5%、「300万円以上400万円未満」が12.3%、「700万円以上800万円未満」が11.6%、「1,000万円以上」が11.4%と続いている。

就学児童の保護者では「1,000万円以上」が最も多く14.0%、次いで「500万円以上600万円未満」が12.4%、「600万円以上700万円未満」が12.2%、「400万円以上500万円未満」が10.7%と続いている。

世帯の年収



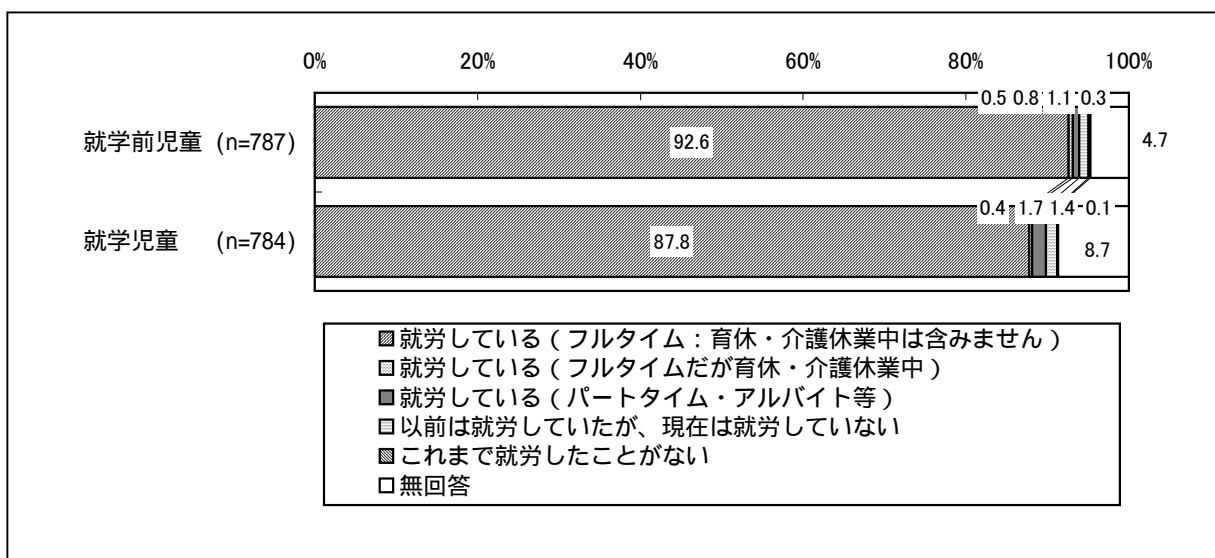
3. 保護者の就労状況について

(1) 父親

父親の就労状況

父親の就労状況をみると、就学前児童の保護者・就学児童の保護者とも「就労している（フルタイム）」が最も多く就学前児童の保護者が92.6%、就学児童の保護者が87.8%となっている。

父親の就労状況



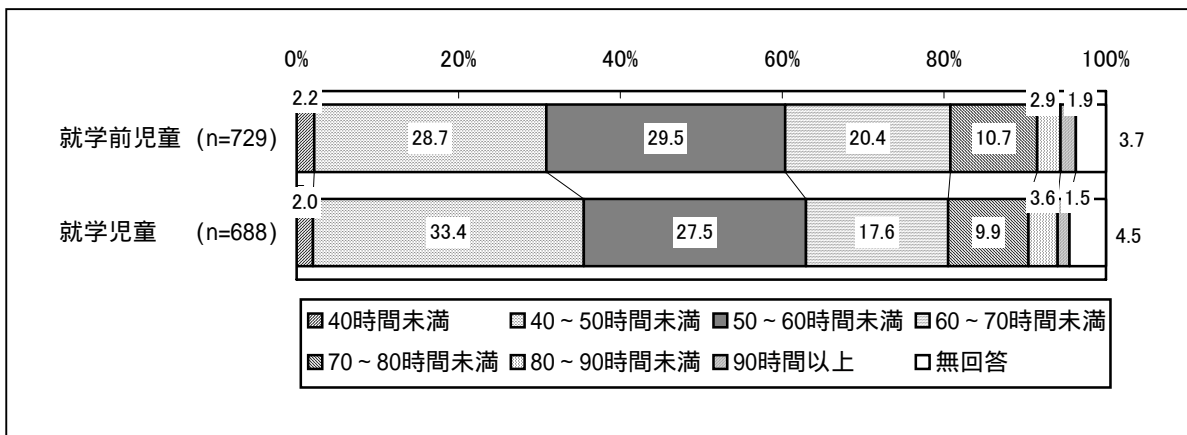
フルタイムの就労時間と帰宅時間

ア. 1週あたりの平均的な就労時間

父親の就労状況で「就労している（フルタイム）」と回答した人の1週あたりの平均的な就労時間をみると、就学前児童の保護者では「50～60 時間未満」が最も多く 29.5%、次いで「40～50 時間未満」が28.7%、「60～70 時間未満」が20.4%と続いている。

就学児童の保護者では「40～50 時間未満」が最も多く 33.4%、次いで「50～60 時間未満」が27.5%、「60～70 時間未満」が17.6%と続いている。

1週あたりの平均的な就労時間

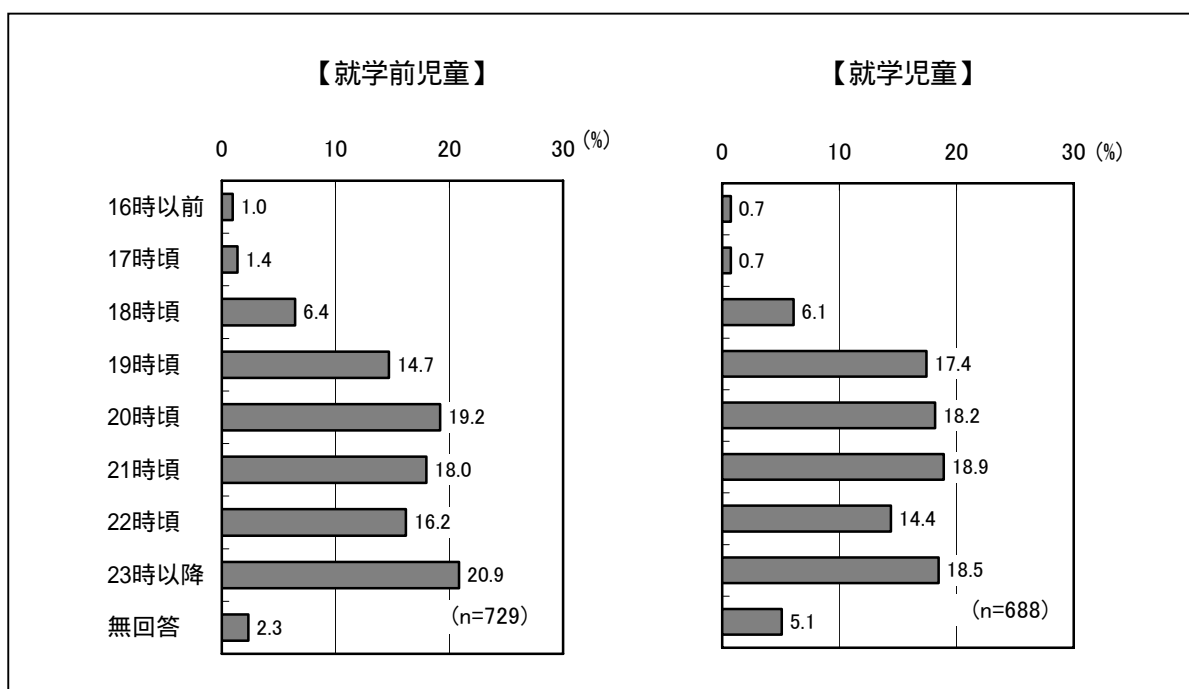


イ．平均的な帰宅時間

父親の就労状況で「就労している(フルタイム)」と回答した人の平均的な帰宅時間をみると、就学前児童の保護者では「23時以降」が最も多く20.9%、「22時頃」(16.2%)も含めると、全体の約4割の人は「22時以降」に帰宅している。次いで「20時頃」が19.2%、「21時頃」が18.0%、「19時頃」が14.7%となっている。

就学児童の保護者では「21時頃」が最も多く18.9%、次いで「23時以降」が18.5%、「20時頃」が18.2%、「19時頃」が17.4%、「22時頃」が14.4%となっている。

平均的な帰宅時間



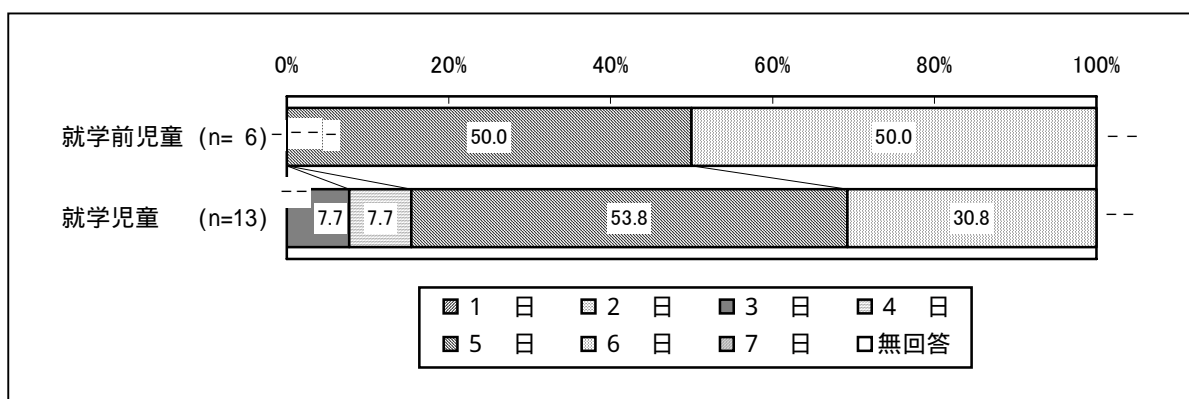
パート・アルバイト等の就労日数と勤務時間

ア．1週あたりの平均的な就労日数

父親の就労状況で「就労している(パートタイム・アルバイト等)」と回答した人の1週あたりの平均的な就労日数をみると、就学前児童の保護者では「5日」「6日」がともに50.0%となっている。

就学児童の保護者では「5日」が最も多く53.8%、次いで「6日」が30.8%、「3日」「4日」がともに7.7%となっている。

1週あたりの平均的な就労日数

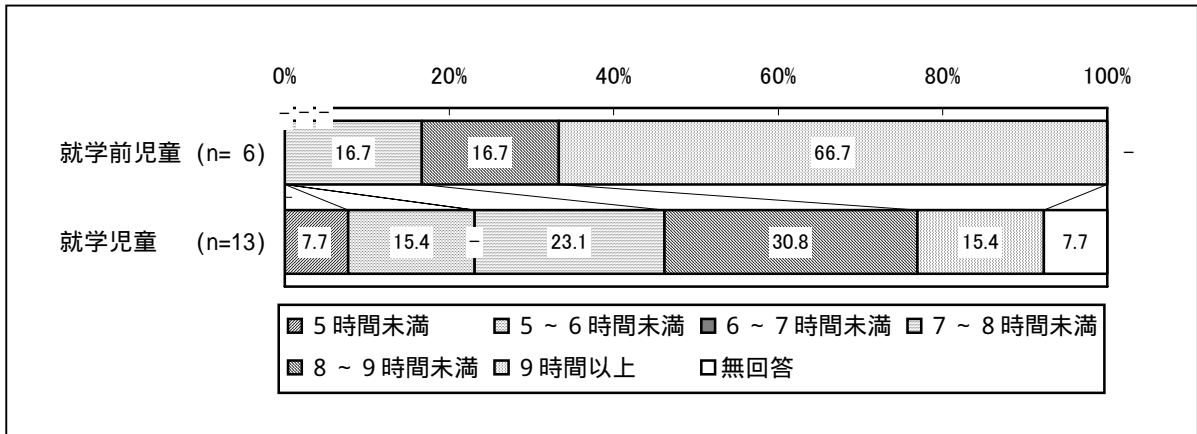


イ．1日あたりの平均的な勤務時間

父親の就労状況で「就労している（パートタイム・アルバイト等）」と回答した人の1日あたりの平均的な勤務時間をみると、就学前児童の保護者では「9時間以上」が最も多く66.7%となっている。

就学児童の保護者では「8～9時間未満」が最も多く30.8%、次いで「7～8時間未満」が23.1%となっている。

1日あたりの平均的な勤務時間

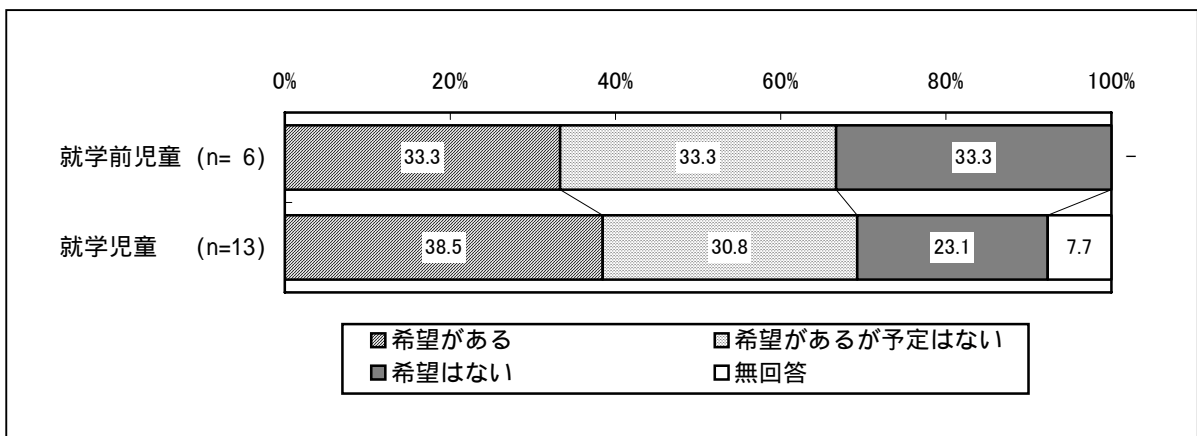


ウ．フルタイムへの転換希望

父親の就労状況で「就労している（パートタイム・アルバイト等）」と回答した人のフルタイムへの転換希望をみると、就学前児童の保護者では「希望がある」「希望があるが予定はない」「希望はない」がともに33.3%となっている。

就学児童の保護者では「希望がある」が最も多く38.5%、次いで「希望があるが予定はない」が30.8%、「希望はない」が23.1%となっている。

フルタイムへの転換希望



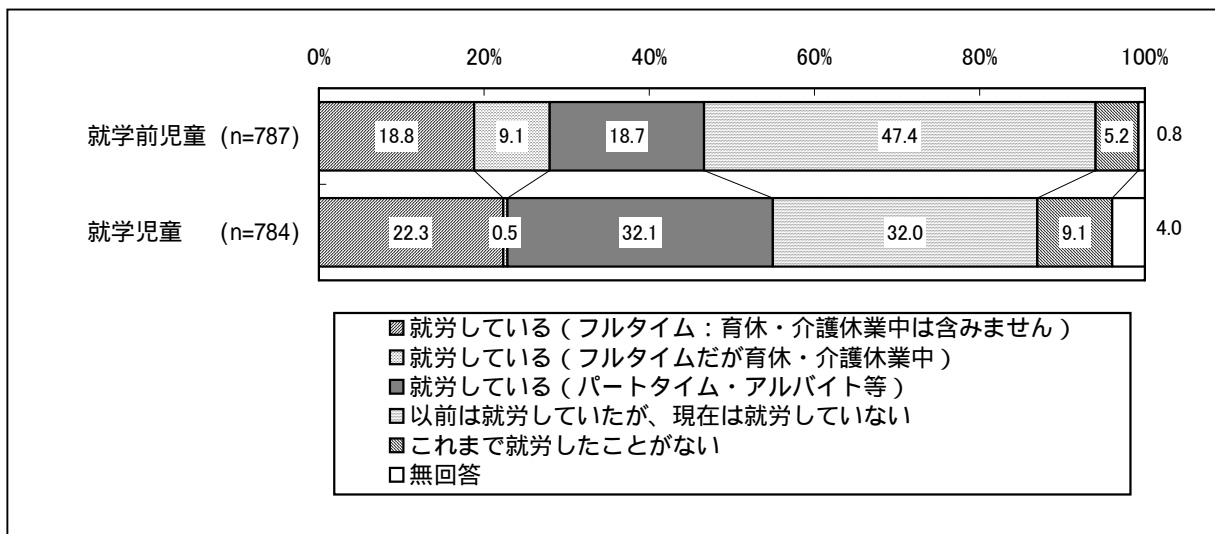
(2) 母親

母親の就労状況

母親の就労状況を見ると、就学前児童の保護者では「以前は就労していたが、現在は就労していない」が最も多く47.4%、次いで「就労している（フルタイム）」が18.8%、「就労している（パート・アルバイト等）」が18.7%となっている。

就学児童の保護者では「就労している（パート・アルバイト等）」が最も多く32.1%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」（32.0%）もほぼ同じ割合を示している。次いで「就労している（フルタイム）」が22.3%となっている。

母親の就労状況



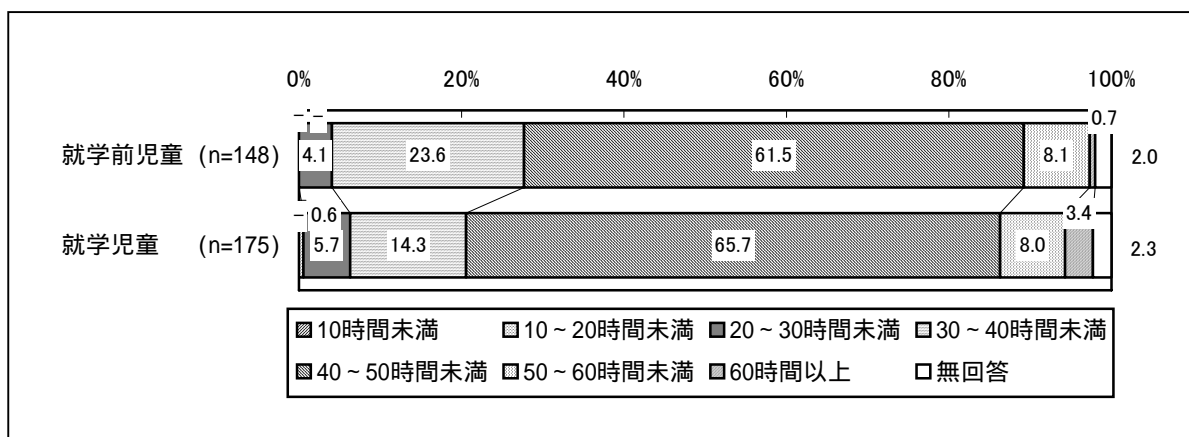
フルタイムの就労時間と帰宅時間

ア．1週あたりの平均的な就労時間

母親の就労状況で「就労している（フルタイム）」と回答した人の1週あたりの平均的な就労時間をみると、就学前児童の保護者では「40～50 時間未満」が最も多く61.5%、次いで「30～40 時間未満」が23.6%となっている。

就学児童の保護者でも「40～50 時間未満」が最も多く65.7%、次いで「30～40 時間未満」が14.3%となっている。

1週あたりの平均的な就労時間

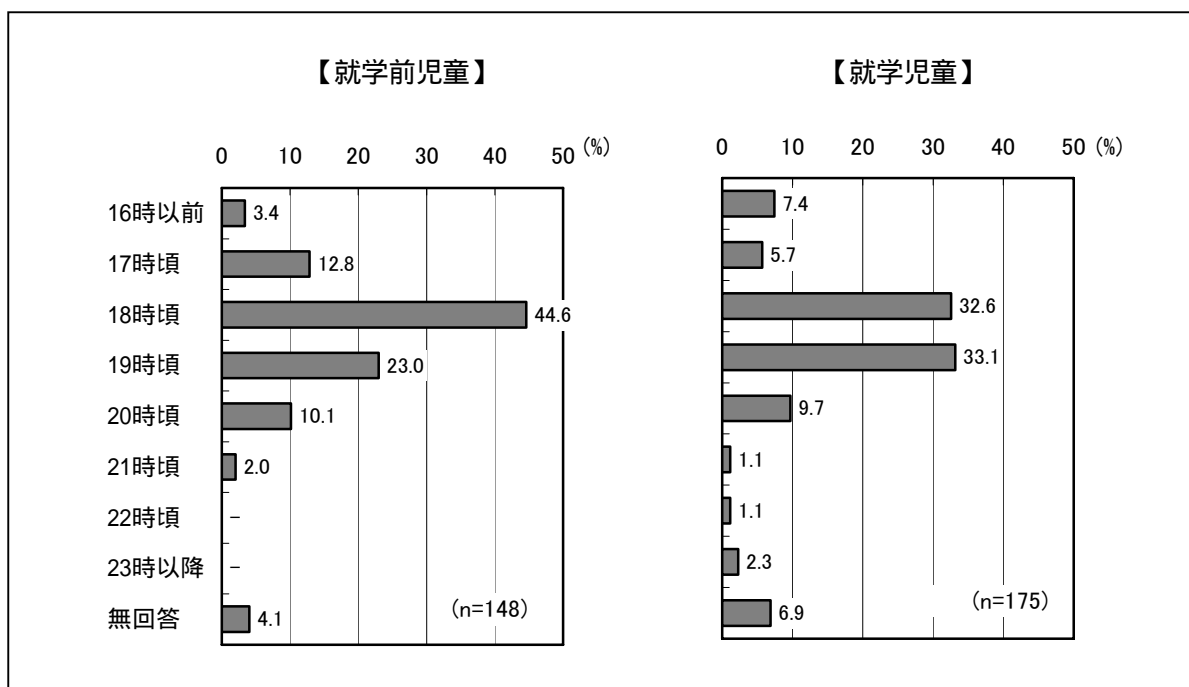


イ．平均的な帰宅時間

母親の就労状況で「就労している(フルタイム)」と回答した人の平均的な帰宅時間をみると、就学前児童の保護者では「18時頃」が最も多く44.6%、次いで「19時頃」が23.0%、「17時頃」が12.8%、「20時頃」が10.1%と続いている。

就学児童の保護者では「19時頃」が最も多く33.1%、「18時頃」(32.6%)もほぼ同じ割合を示している。次いで「20時頃」が9.7%となっている。

平均的な帰宅時間



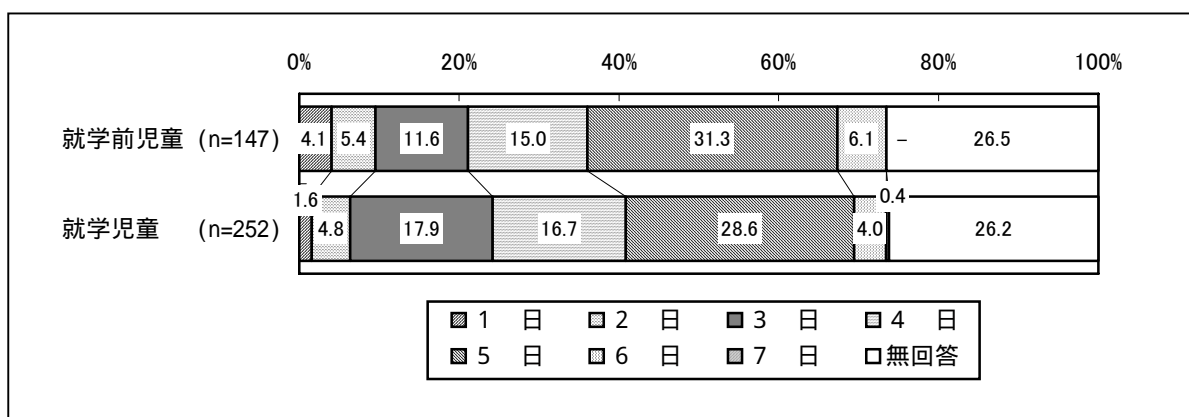
パート・アルバイト等の就労日数と勤務時間

ア．1週あたりの平均的な就労日数

母親の就労状況で「就労している(パートタイム・アルバイト等)」と回答した人の1週あたりの平均的な就労日数をみると、就学前児童の保護者では「5日」が最も多く31.3%、次いで「4日」が15.0%、「3日」が11.6%となっている。

就学児童の保護者でも「5日」が最も多く28.6%、次いで「3日」が17.9%、「4日」が16.7%となっている。

1週あたりの平均的な就労日数

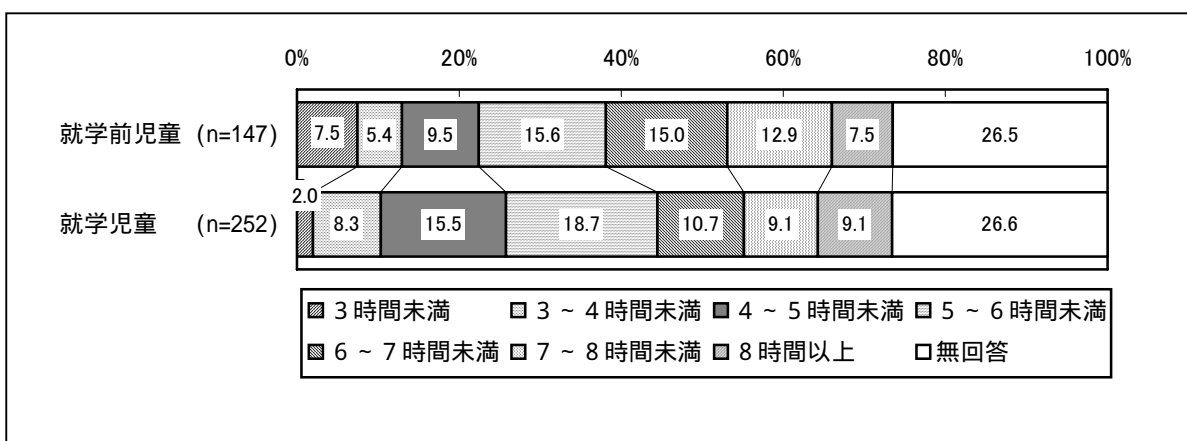


イ．1日あたりの平均的な勤務時間

母親の就労状況で「就労している（パートタイム・アルバイト等）」と回答した人の1日あたりの平均的な勤務時間をみると、就学前児童の保護者では「5～6時間未満」が最も多く15.6%、「6～7時間未満」（15.0%）もほぼ同じ割合を示している。次いで「7～8時間未満」が12.9%、「4～5時間未満」が9.5%となっている。

就学児童の保護者でも「5～6時間未満」が最も多く18.7%、次いで「4～5時間未満」が15.5%、「6～7時間未満」が10.7%となっている。

1日あたりの平均的な勤務時間

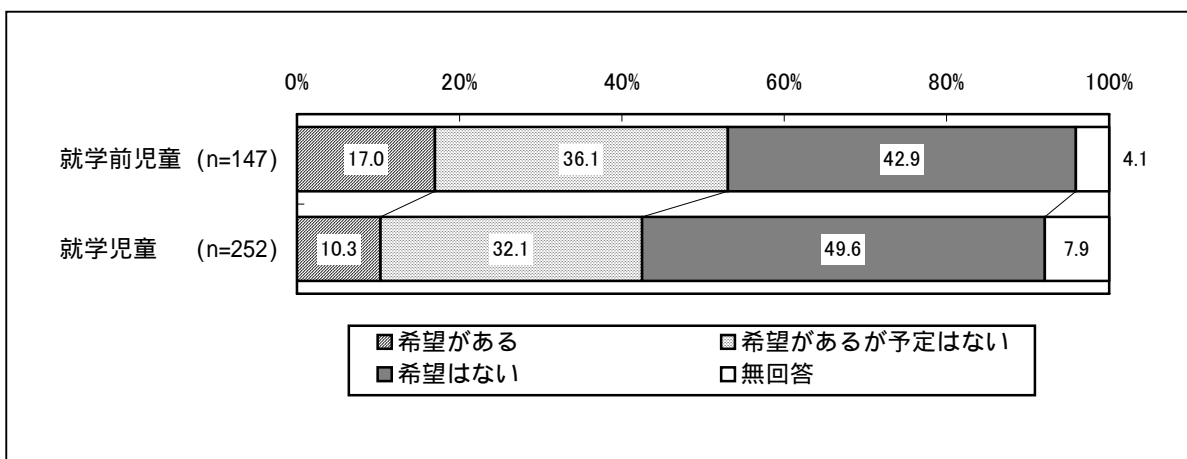


ウ．フルタイムへの転換希望

母親の就労状況で「就労している（パートタイム・アルバイト等）」と回答した人のフルタイムへの転換希望をみると、就学前児童の保護者では「希望はない」が最も多く42.9%、次いで「希望があるが予定はない」が36.1%、「希望がある」が17.0%となっている。

就学児童の保護者でも「希望はない」が最も多く49.6%、次いで「希望があるが予定はない」が32.1%、「希望がある」が10.3%となっている。

フルタイムへの転換希望



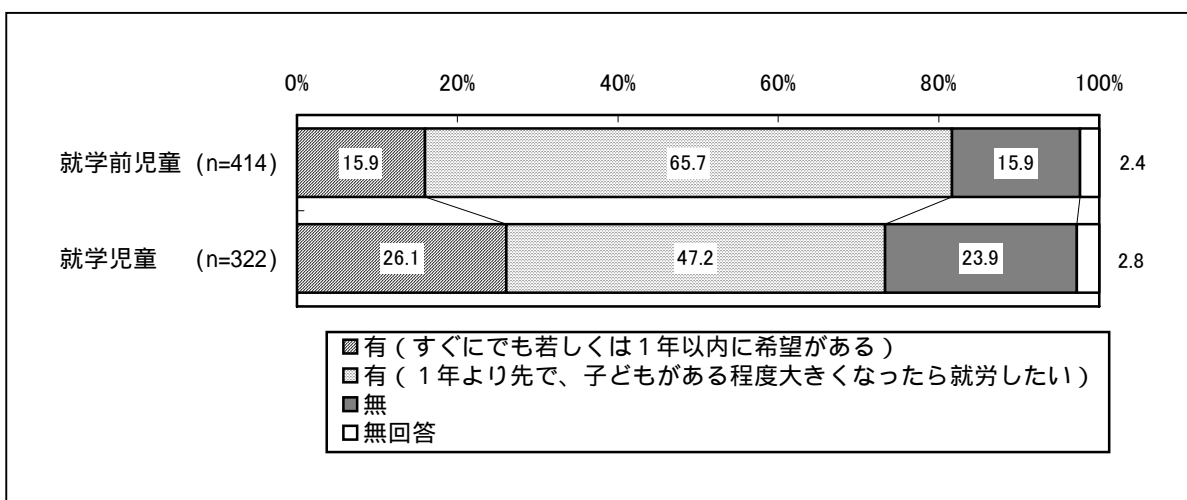
(3) 母親の就労意向

就労意向の有無

母親の就労状況で「以前は就労していたが、現在は就労していない」「これまで就労したことがない」と回答した人の就労意向の有無をみると、就学前児童の保護者では「有(子どもが大きくなったら)」が最も多く65.7%あり、「有(すぐにでも・1年以内)」(15.9%)も含めると、8割以上の方が就労意向を有しており、「無」は15.9%となっている。

就学児童の保護者でも「有(子どもが大きくなったら)」が最も多く47.2%あり、「有(すぐにでも・1年以内)」(26.1%)も含めると、7割以上の方が就労意向を有しており、「無」は23.9%となっている。

就労意向の有無

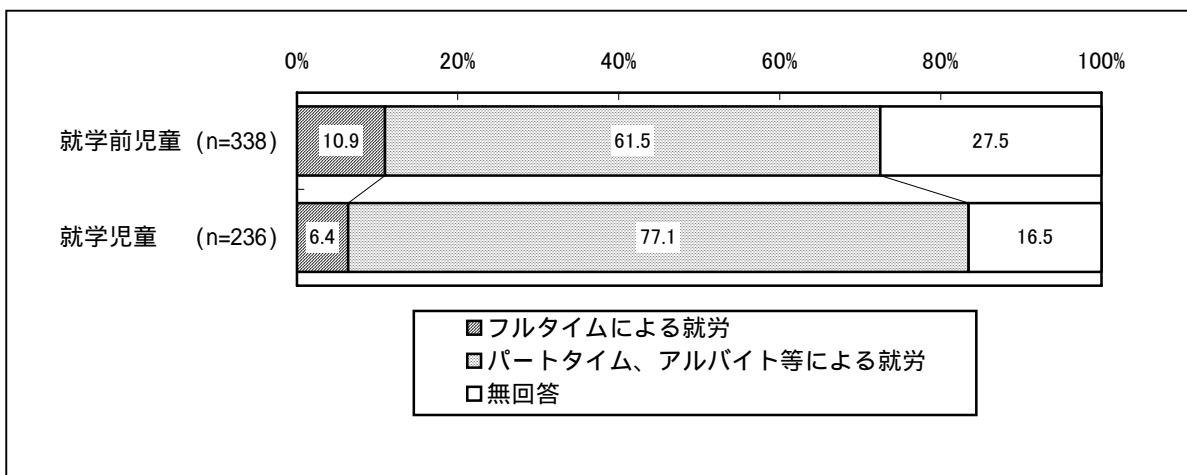


希望する就労形態

ア. 希望する就労形態

母親の就労意向で「有(子どもが大きくなったら)」「有(すぐにでも・1年以内)」と回答した人の希望する就労形態をみると、就学前児童の保護者・就学児童の保護者とも「パートタイム・アルバイト等による就労」が最も多くそれぞれ61.5%、77.1%となっており、「フルタイムによる就労」は就学前児童の保護者が10.9%、就学児童の保護者が6.4%となっている。

希望する就労形態



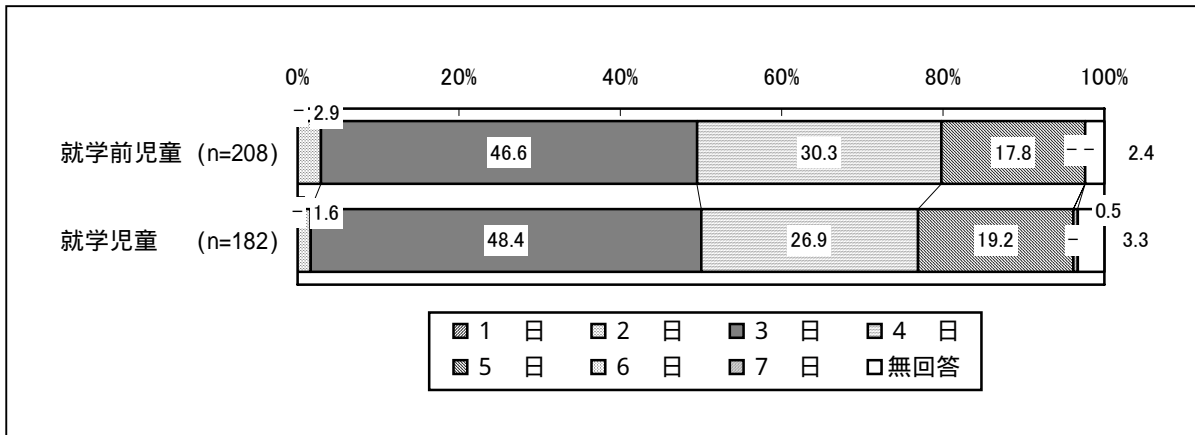
イ．パート・アルバイトの就労希望日数と勤務希望時間

a．1週あたりの就労希望日数

母親の就労意向で「有（子どもが大きくなったら）」、「有（すぐにも・1年以内）」と回答した人の1週あたりの就労希望日数をみると、就学前児童の保護者では「3日」が最も多く46.6%、次いで「4日」が30.3%、「5日」が17.8%となっている。

就学児童の保護者でも「3日」が最も多く48.4%、次いで「4日」が26.9%、「5日」が19.2%となっている。

1週あたりの就労希望日数

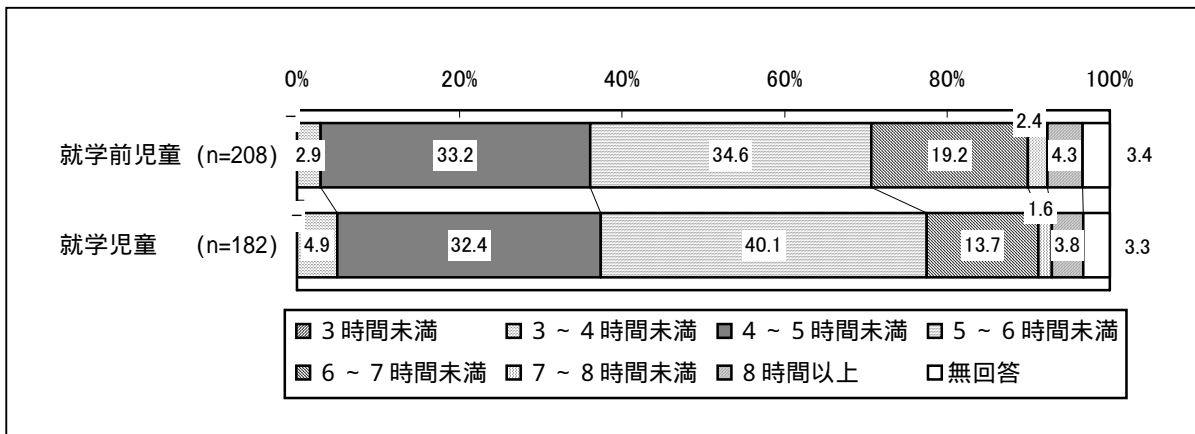


b．1日あたりの勤務希望時間

母親の就労意向で「有（子どもが大きくなったら）」、「有（すぐにも・1年以内）」と回答した人の1日あたりの勤務希望時間をみると、就学前児童の保護者では「5～6時間未満」が最も多く34.6%、次いで「4～5時間未満」が33.2%、「6～7時間未満」が19.2%となっている。

就学児童の保護者でも「5～6時間未満」が最も多く40.1%、次いで「4～5時間未満」が32.4%、「6～7時間未満」が13.7%となっている。

1日あたりの勤務希望時間



就労希望がありながら働いていない理由

ア．就労希望がありながら働いていない理由

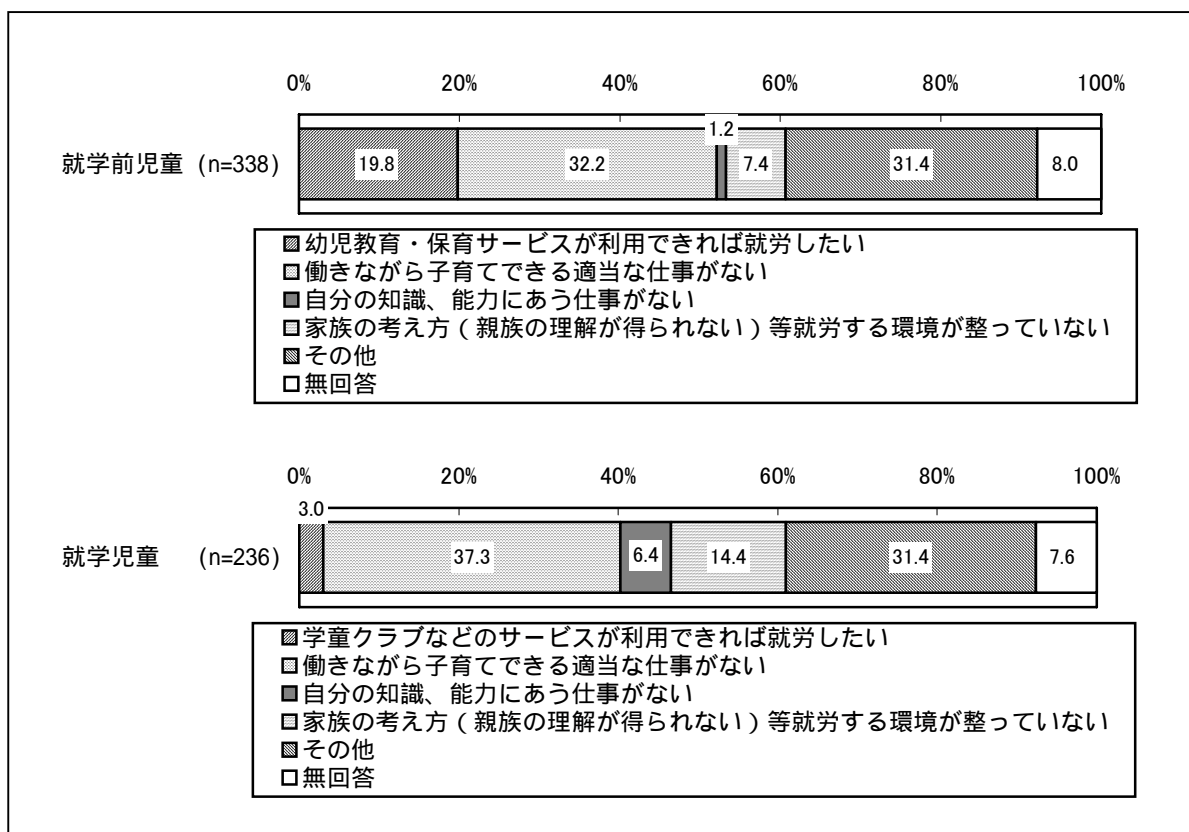
母親の就労意向で「有（子どもが大きくなったら）」「有（すぐにでも・1年以内）」と回答した人の就労希望がありながら働いていない理由をみると、就学前児童の保護者では「働きながら子育てできる適当な仕事がない」が最も多く32.2%、次いで「幼児教育・保育サービスが利用できれば就労したい」が19.8%となっている。

就学児童の保護者でも「働きながら子育てできる適当な仕事がない」が最も多く37.3%、次いで「家族の考え方等就労する環境が整っていない」が14.4%となっている。

「その他」の内容として、就学前児童の保護者では“子どもが小さいうちは子育てに専念したいから”“子どものそばにいたいから”“育児と仕事の両立は無理だから”“働く時間が持てないから”“妊娠中又は次の子どもがほしいから”などの意見が寄せられている。

就学児童の保護者でも“末子が小さいので子育てに専念したいから”“親の介護のため”“子どもに障害等があるから”“自身に健康上の問題があるから”などの意見が寄せられている。

就労希望がありながら働いていない理由

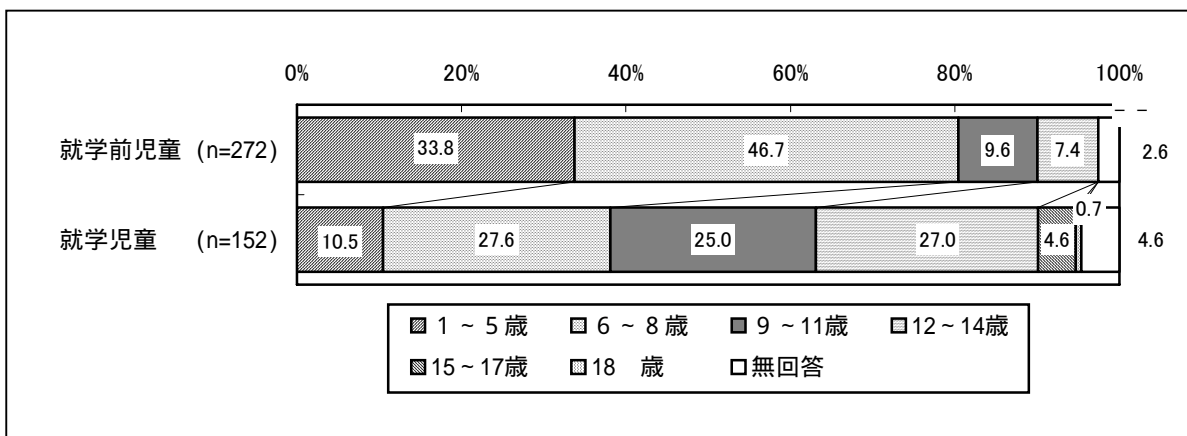


イ．就労するときの子どもの年齢

母親の就労意向で「有（子どもが大きくなったら）」と回答した人の就労するときの子どもの年齢をみると、就学前児童では「6～8歳」が最も多く46.7%、次いで「1～5歳」が33.8%、「9～11歳」が9.6%、「12～14歳」が7.4%となっている。

就学児童の保護者でも「6～8歳」が最も多く27.6%、次いで「12～14歳」（27.0%）、「9～11歳」（25.0%）もほぼ同じ割合を示している。次いで「1～5歳」が10.5%、「15～17歳」が4.6%となっている。

就労するときの子どもの年齢

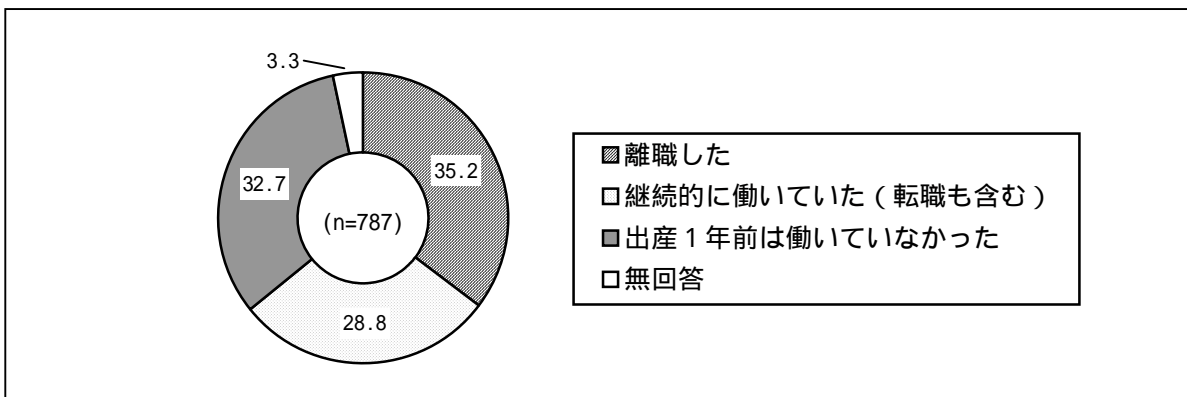


出産前後の離職状況（就学前児童の保護者が対象）

ア．出産前後の離職の有無

出産前後の離職の有無についてみると、出産前後に「離職した」人が35.2%、「継続的に働いていた」人が28.8%、「出産1年前は働いていなかった」人が32.7%となっている。

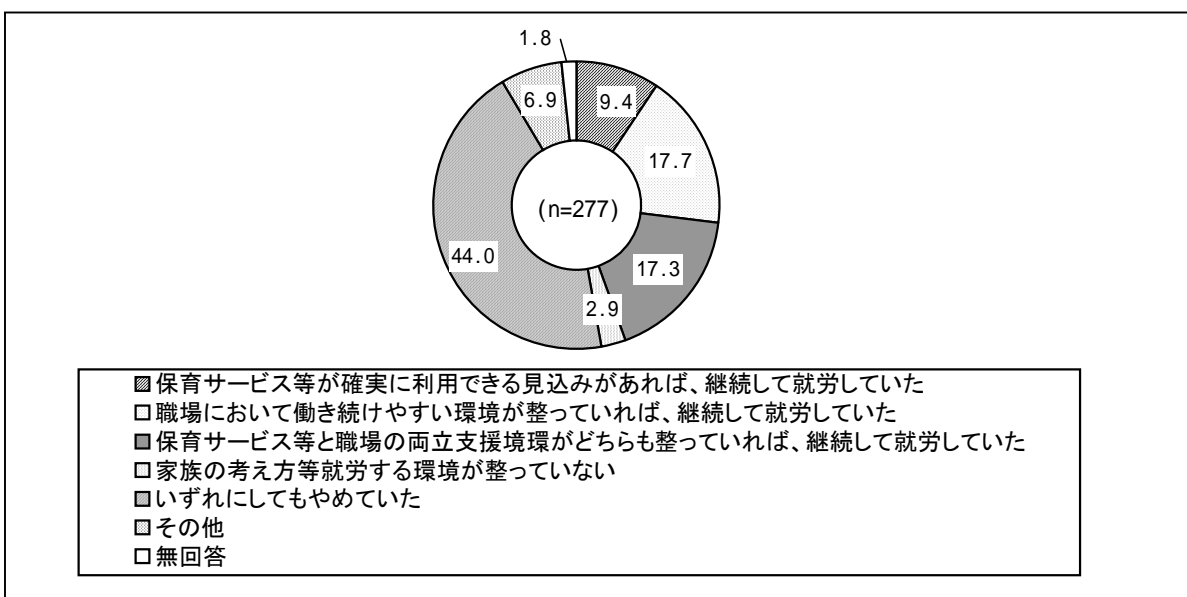
出産前後の離職の有無



イ．就労継続の条件

出産前後に「離職した」と回答した人の就労継続の条件をみると、「条件が整っていれば継続して就労していた」が44.4%（「保育サービス等が確実に利用できる見込みがあれば、継続して就労していた」9.4% + 「職場において働き続けやすい環境が整っていれば、継続して就労していた」17.7% + 「保育サービス等と職場の両立支援環境が整っていれば、継続して就労していた」17.3%）、「家族の考え方等就労する環境が整っていない」が2.9%、「いずれにしてもやめていた」が44.0%となっている。

就労継続の条件



4. 北区の子育て環境について

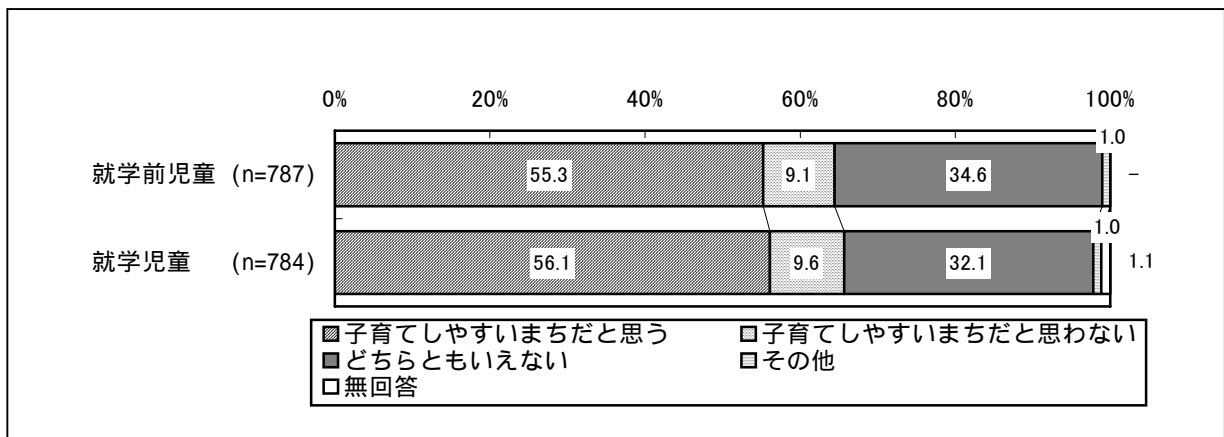
(1) 北区の子育てのしやすさ

北区の子育てのしやすさ

北区の子育てのしやすさをみると、就学前児童の保護者では「子育てしやすいまちだと思う」が55.3%、「子育てしやすいまちだと思わない」が9.1%、「どちらともいえない」が34.6%となっている。

就学児童の保護者では「子育てしやすいまちだと思う」が56.1%、「子育てしやすいまちだと思わない」が9.6%、「どちらともいえない」が32.1%となっている。

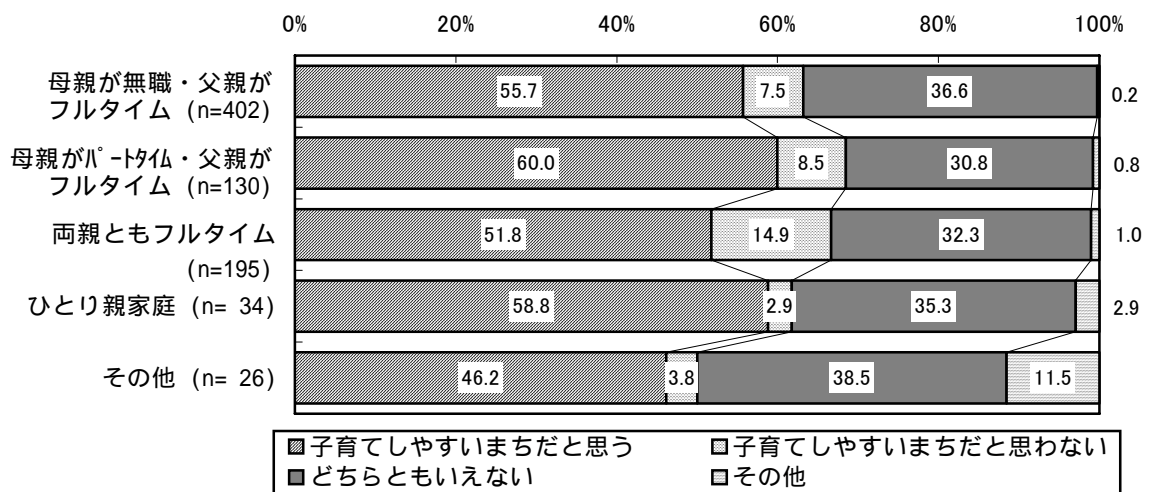
北区の子育てのしやすさ



【世帯の就労パターン別】

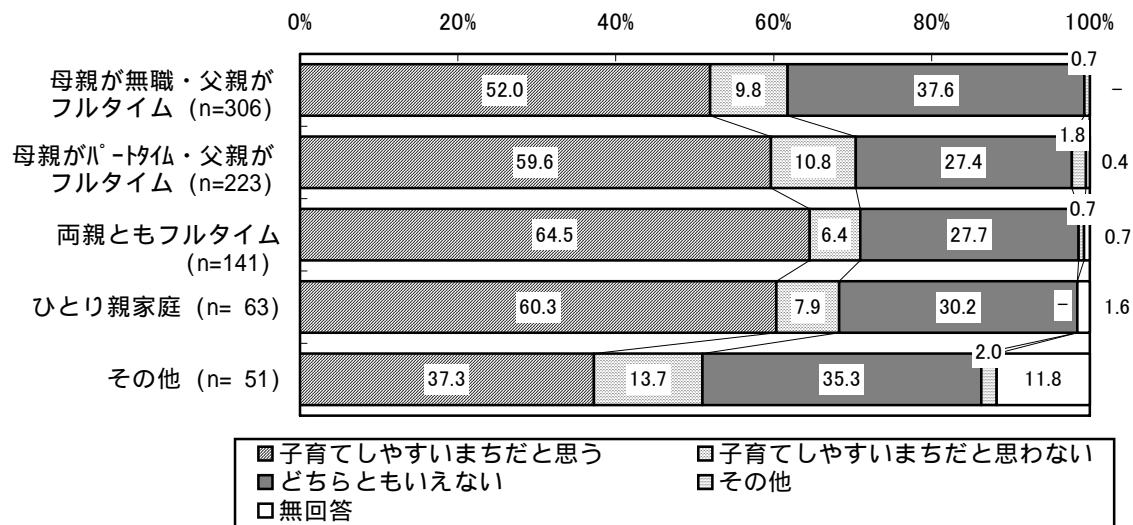
世帯の就労パターン別にみると、就学前児童の保護者では両親ともフルタイムの世帯で「子育てしやすいまちだと思わない」が多く14.9%となっている。

北区の子育てのしやすさ（就学前児童）



就学児童の保護者では、両親ともフルタイムの世帯で「子育てしやすいまちだと思う」（64.5%）が多く、母親が無職・父親がフルタイムの世帯では「どちらともいえない」（37.6%）が多い。

北区の子育てのしやすさ（就学児童）



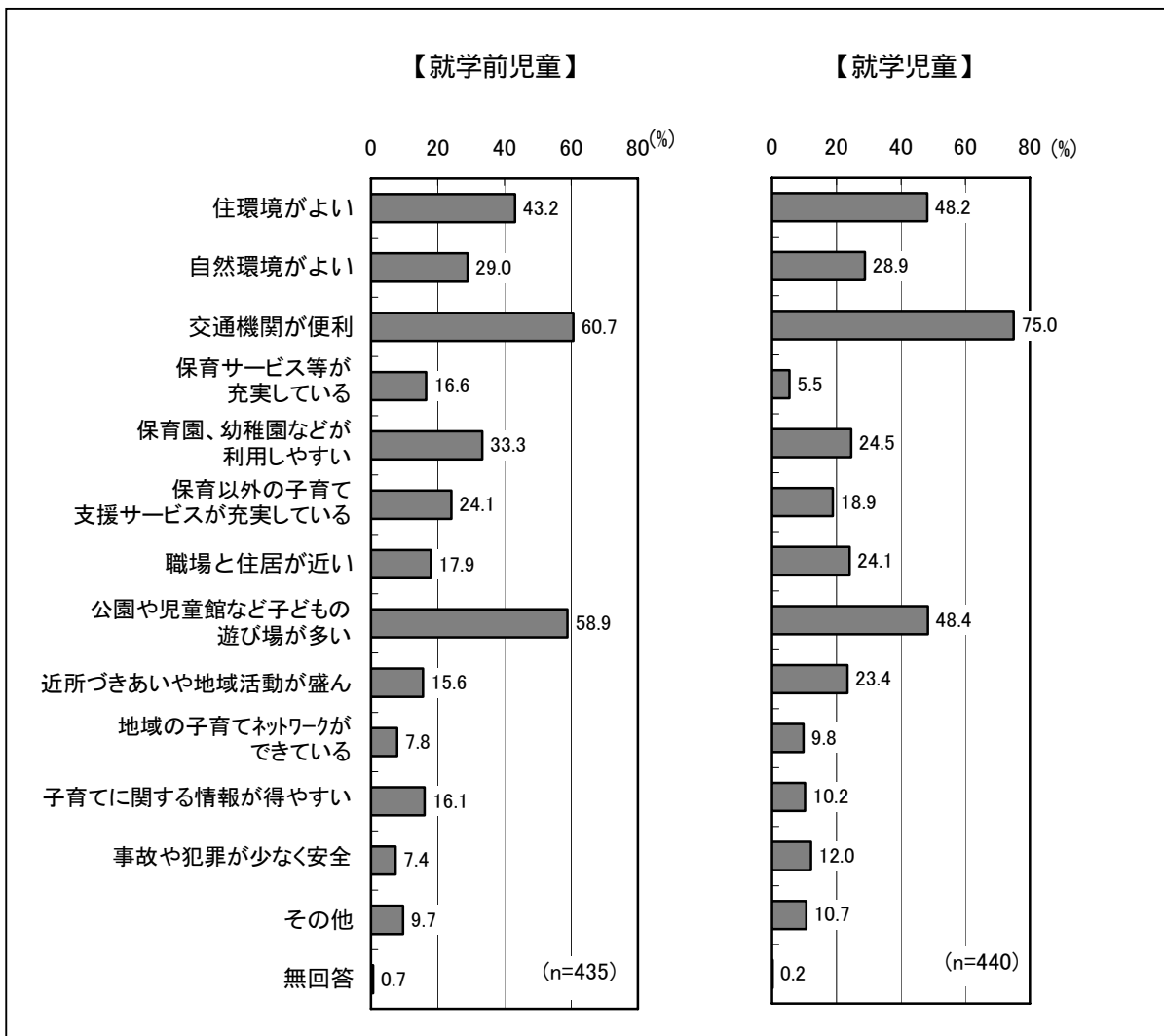
子育てしやすいまちだと思ふ理由と思わない理由

ア. 子育てしやすいまちだと思ふ理由

北区の子育てのしやすさで「子育てしやすいまちだと思ふ」と回答した人の子育てしやすいまちだと思ふ理由をみると、就学前児童の保護者では「交通機関が便利」が最も多く60.7%、次いで「公園や児童館など子どもの遊び場が多い」が58.9%、「住環境がよい」が43.2%、「保育園・幼稚園などが利用しやすい」が33.3%、「自然環境がよい」が29.0%と続いている。

就学児童の保護者でも「交通機関が便利」が最も多く75.0%、次いで「公園や児童館など子どもの遊び場が多い」が48.4%、「住環境がよい」が48.2%、「自然環境がよい」が28.9%と続いている。

子育てしやすいまちだと思ふ理由（複数回答）

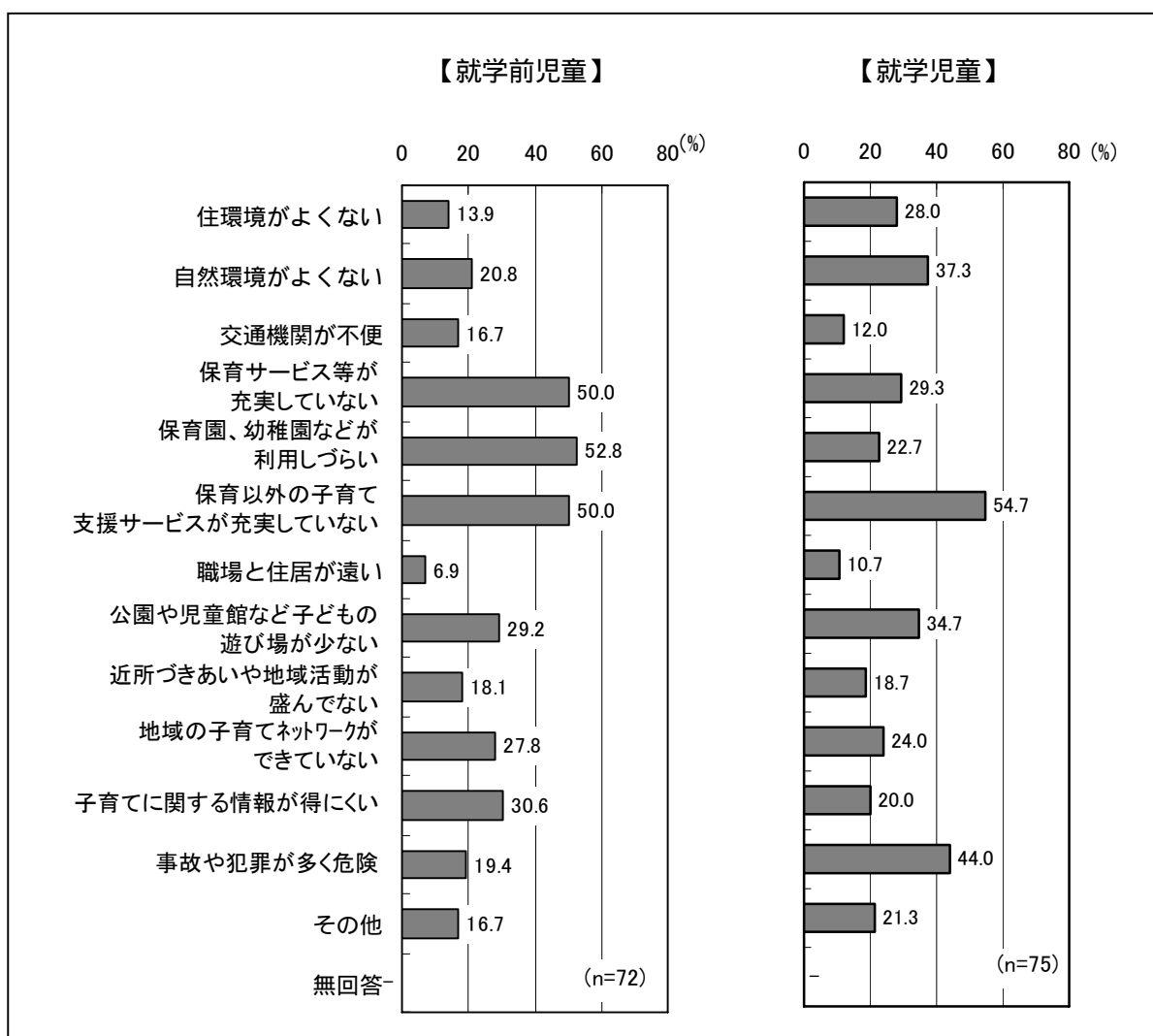


イ. 子育てしやすいまちだと思わない理由

北区の子育てのしやすさで「子育てしやすいまちだと思わない」と回答した人の子育てしやすいまちだと思わない理由をみると、就学前児童の保護者では「保育園、幼稚園などが利用しづらい」が最も多く52.8%、「保育サービス等が充実していない」「保育以外の子育て支援サービスが充実していない」（ともに50.0%）もほぼ同じ割合を示している。次いで「子育てに関する情報が得にくい」が30.6%、「公園や児童館など子どもの遊び場が少ない」が29.2%、「地域の子育てネットワークができていない」が27.8%と続いている。

就学児童の保護者では「保育以外の子育て支援サービスが充実していない」が最も多く54.7%、次いで「事故や犯罪が多く危険」が44.0%、「自然環境がよくない」が37.3%、「公園や児童館など子どもの遊び場が少ない」が34.7%、「保育サービス等が充実していない」が29.3%、「住環境がよくない」が28.0%と続いている。

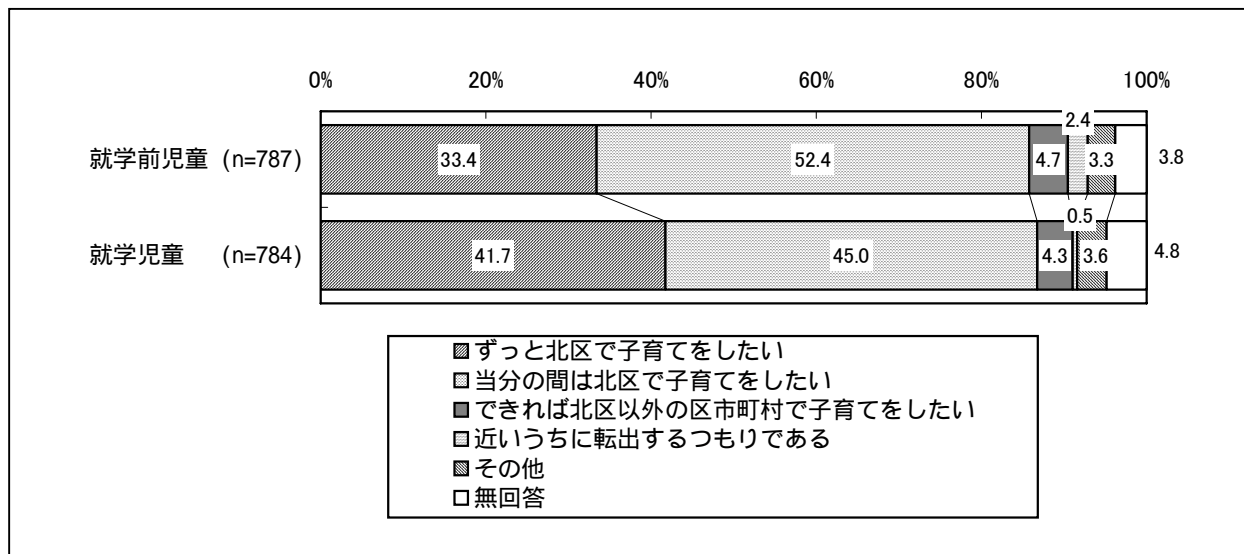
子育てしやすいまちだと思わない理由（複数回答）



(2) 北区での子育ての継続意向

北区での子育ての継続意向をみると、就学前児童の保護者・就学児童の保護者とも「今後も北区で子育てをしたい」（「ずっと北区で子育てをしたい」+「当分の間は北区で子育てをしたい」）が多く、就学前児童の保護者が85.8%（33.4%+52.4%）、就学児童の保護者が86.7%（41.7%+45.0%）となっている。

北区での子育ての継続意向

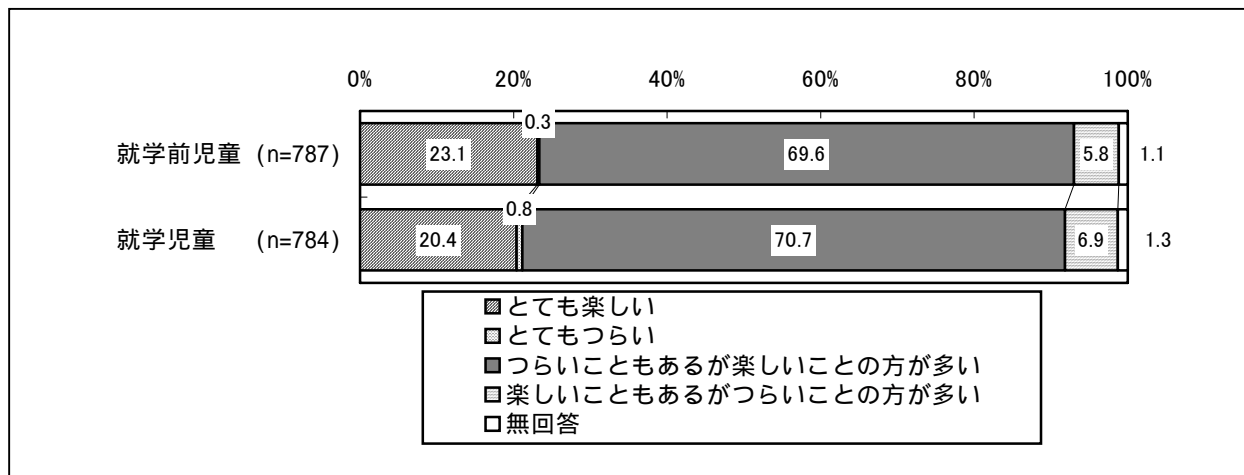


5. あて名の子どもの子育て全般について

(1) 子育ての楽しさ

子育ての楽しさをみると、就学前児童の保護者・就学児童の保護者とも“子育てが楽しい”(「とても楽しい」+「つらいこともあるが楽しいことの方が多い」)が多く、就学前児童の保護者が92.7%(23.1%+69.6%)、就学児童の保護者が91.1%(20.4%+70.7%)となっている。

子育ての楽しさ

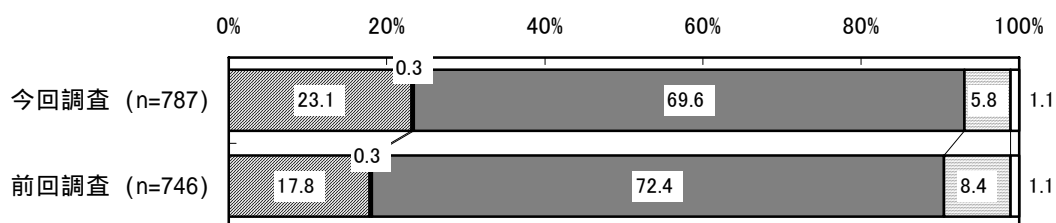


【前回調査との比較】

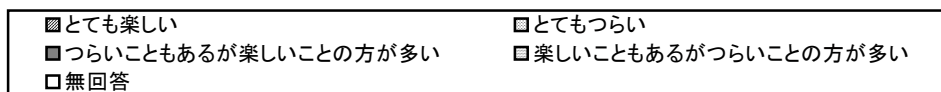
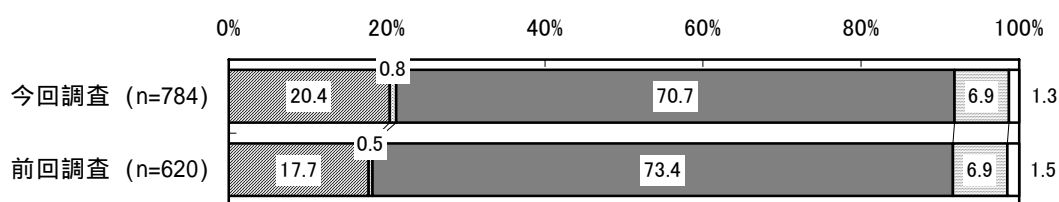
前回調査と比較してみると、就学前児童の保護者・就学児童の保護者とも“子育てが楽しい”は前回とほぼ同じ割合を示しているものの、「とても楽しい」は、前回に比べて就学前児童の保護者が5.3ポイント、就学児童の保護者が2.7ポイントそれぞれ増加している。

子育ての楽しさ

<就学前児童>



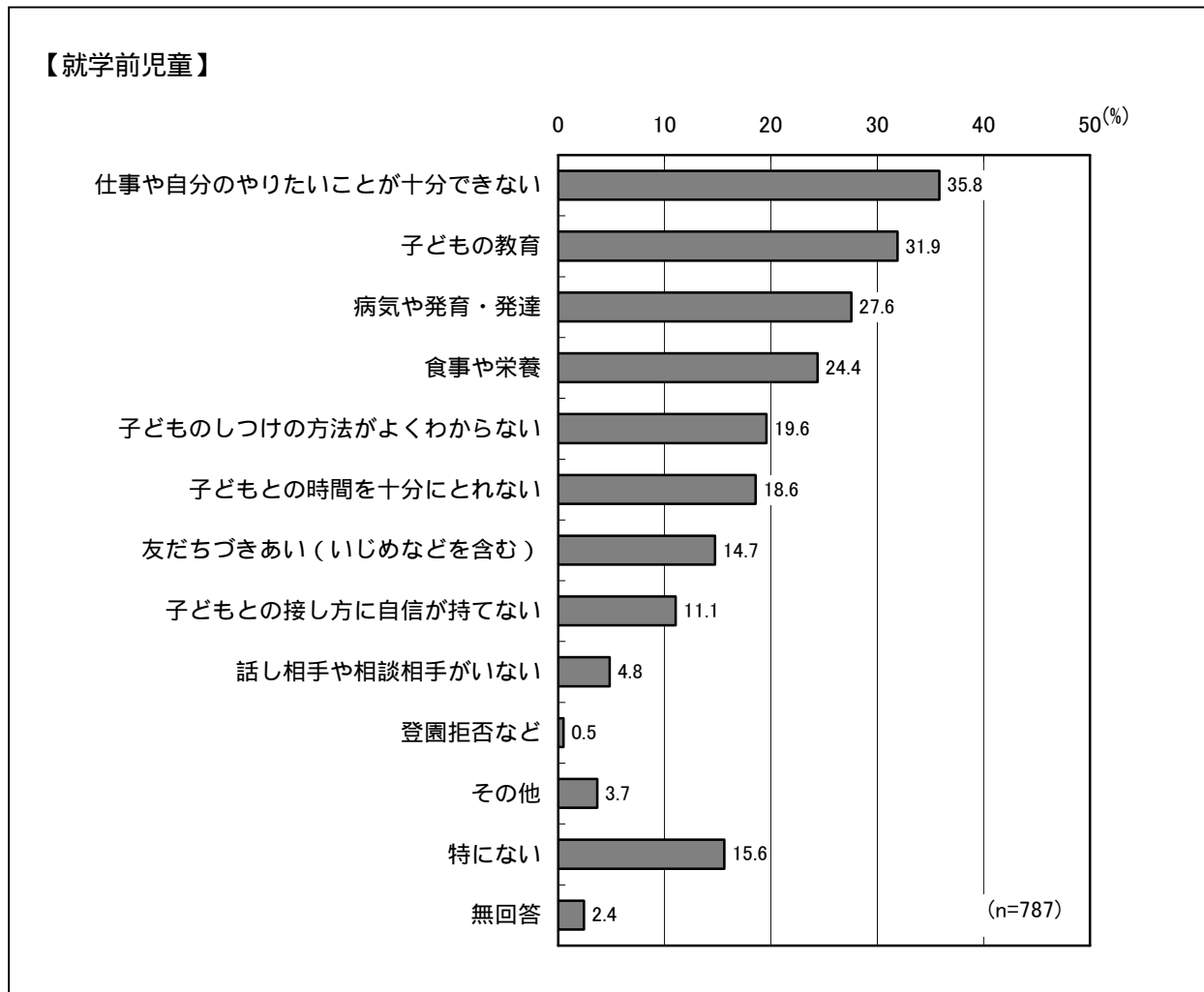
<就学児童>



(2) 子育てで悩んでいること、気になること

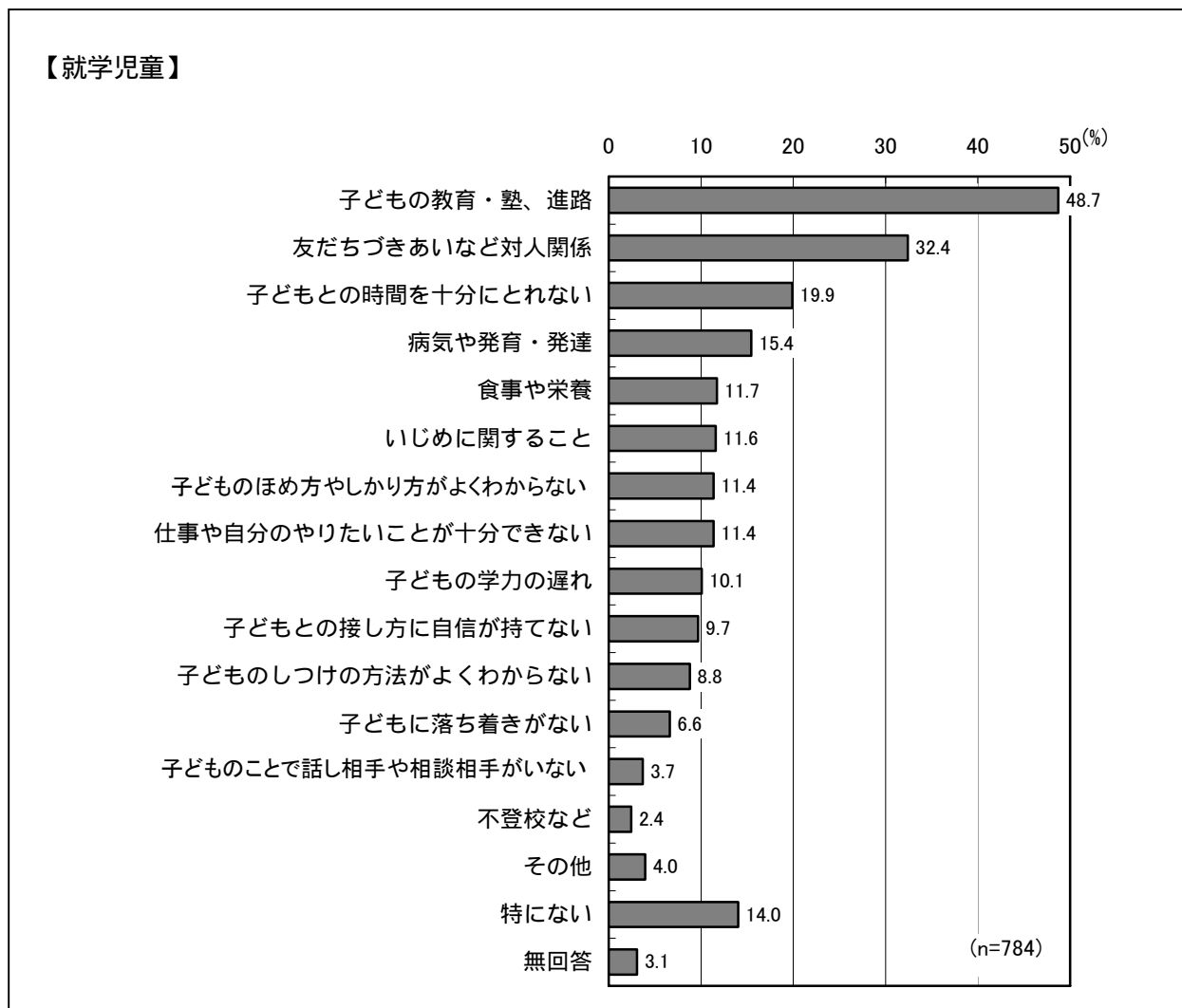
子育てで悩んでいること、気になることをみると、就学前児童の保護者では「仕事や自分のやりたいことが十分できない」が最も多く35.8%、次いで「子どもの教育」が31.9%、「病気や発育・発達」が27.6%、「食事や栄養」が24.4%と続き、「特にない」は15.6%となっている。

子育てで悩んでいること、気になること（複数回答）



子育てで悩んでいること、気になることをみると、就学児童の保護者では「子どもの教育・塾・進路」が最も多く48.7%、次いで「友だちづきあいなど対人関係」が32.4%、「子どもとの時間を十分にとれない」が19.9%、「病気や発育・発達」が15.4%と続き、「特にない」は14.0%となっている。

子育てで悩んでいること、気になること（複数回答）

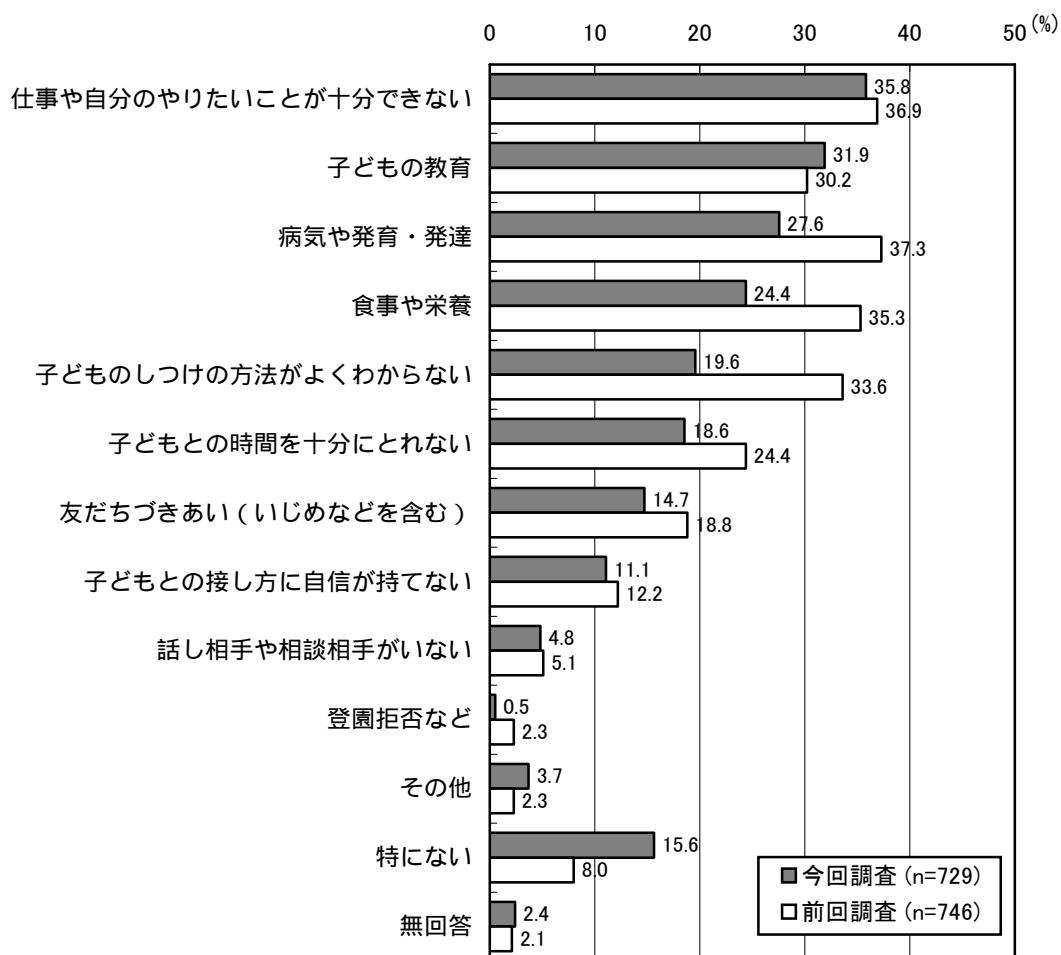


【前回調査との比較】

前回調査と比較してみると、就学前児童の保護者では「子どものしつけの方法がよくわからない」は14.0ポイント、「食事や栄養」が10.9ポイント、「病気や発育・発達」が9.7ポイント、「子どもとの時間を十分にとれない」が5.8ポイントそれぞれ減少している。一方、「特にない」は7.6ポイント増加している。

子育てで悩んでいること、気になること（複数回答）

<就学前児童>

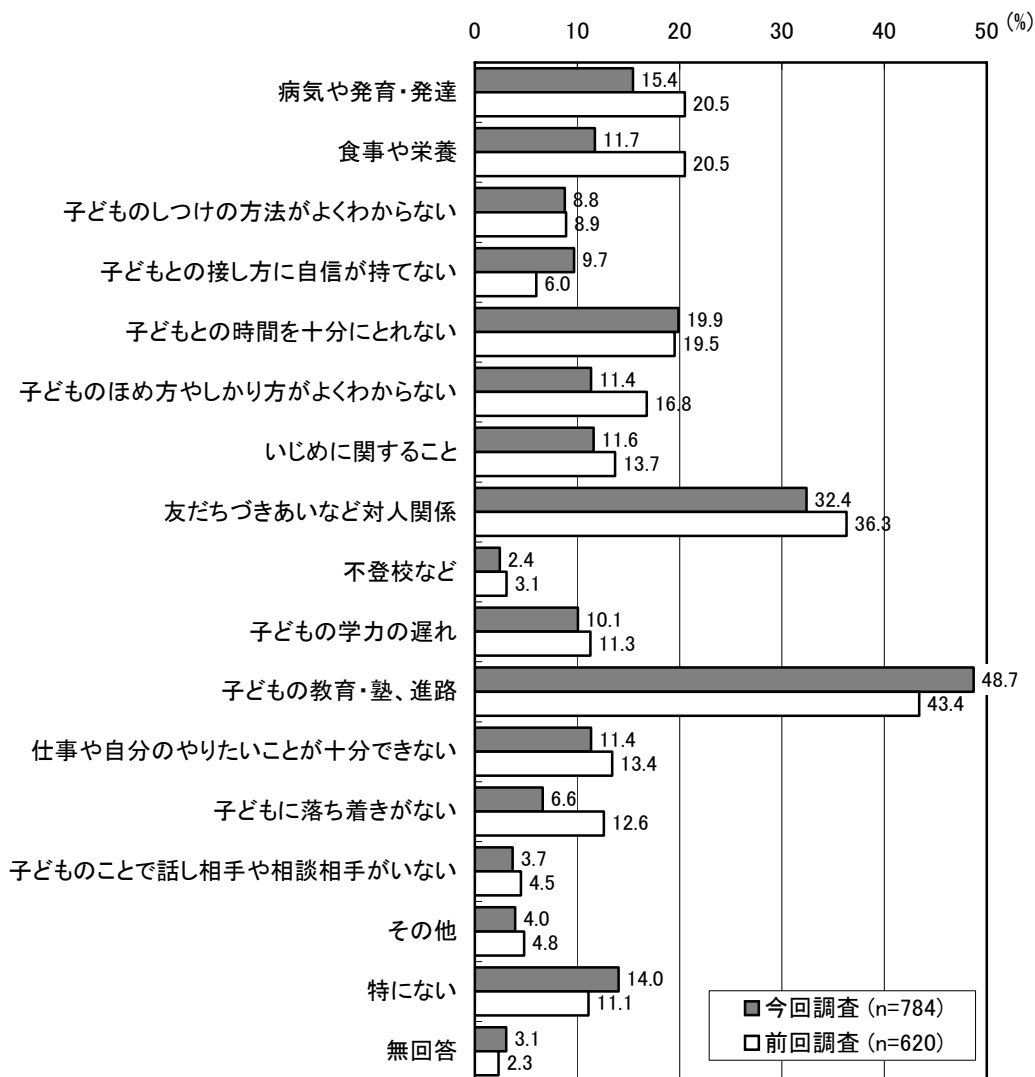


【前回調査との比較】

前回調査と比較してみると、就学児童の保護者では「食事や栄養」が8.8ポイント、「子どもに落ち着きがない」が6.0ポイント、「子どものほめ方やしかり方がよくわからない」が5.4ポイント、「病気や発育・発達」が5.1ポイントそれぞれ減少している。一方、「子どもの教育・塾、進路」が5.3ポイント増加している。

子育てで悩んでいること、気になること（複数回答）

<就学児童>

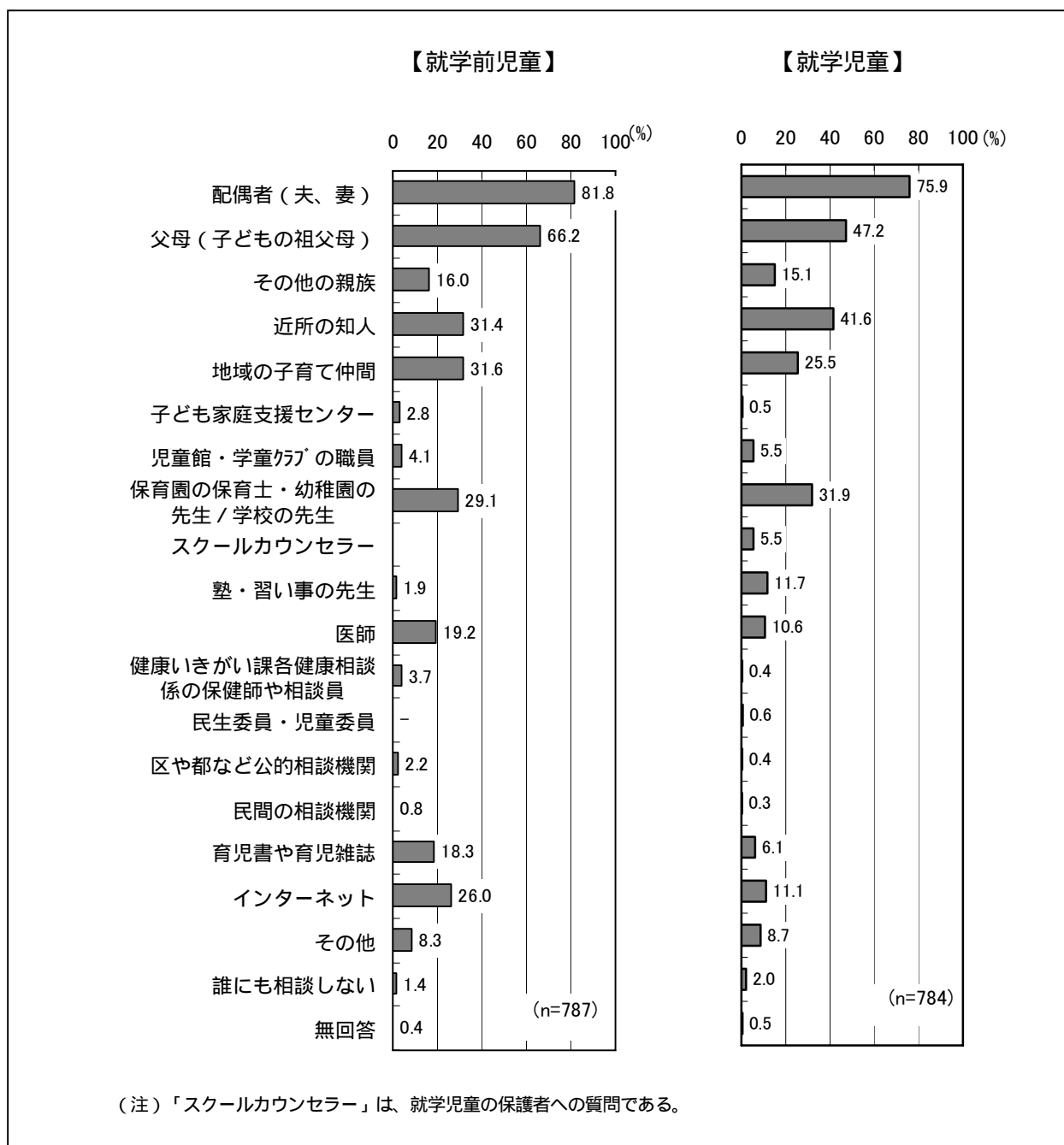


(3) 子育ての相談先

子育ての相談先をみると、就学前児童の保護者では「配偶者」が最も多く81.8%、次いで「父母」が66.2%、「地域の子育て仲間」が31.6%、「近所の知人」が31.4%、「保育園の保育士・幼稚園の先生」が29.1%、「インターネット」が26.0%と続いている。

就学児童の保護者では「配偶者」が最も多く75.9%、次いで「父母」が47.2%、「近所の知人」が41.6%、「学校の先生」が31.9%、「地域の子育て仲間」が25.5%と続いている。

子育ての相談先（複数回答）

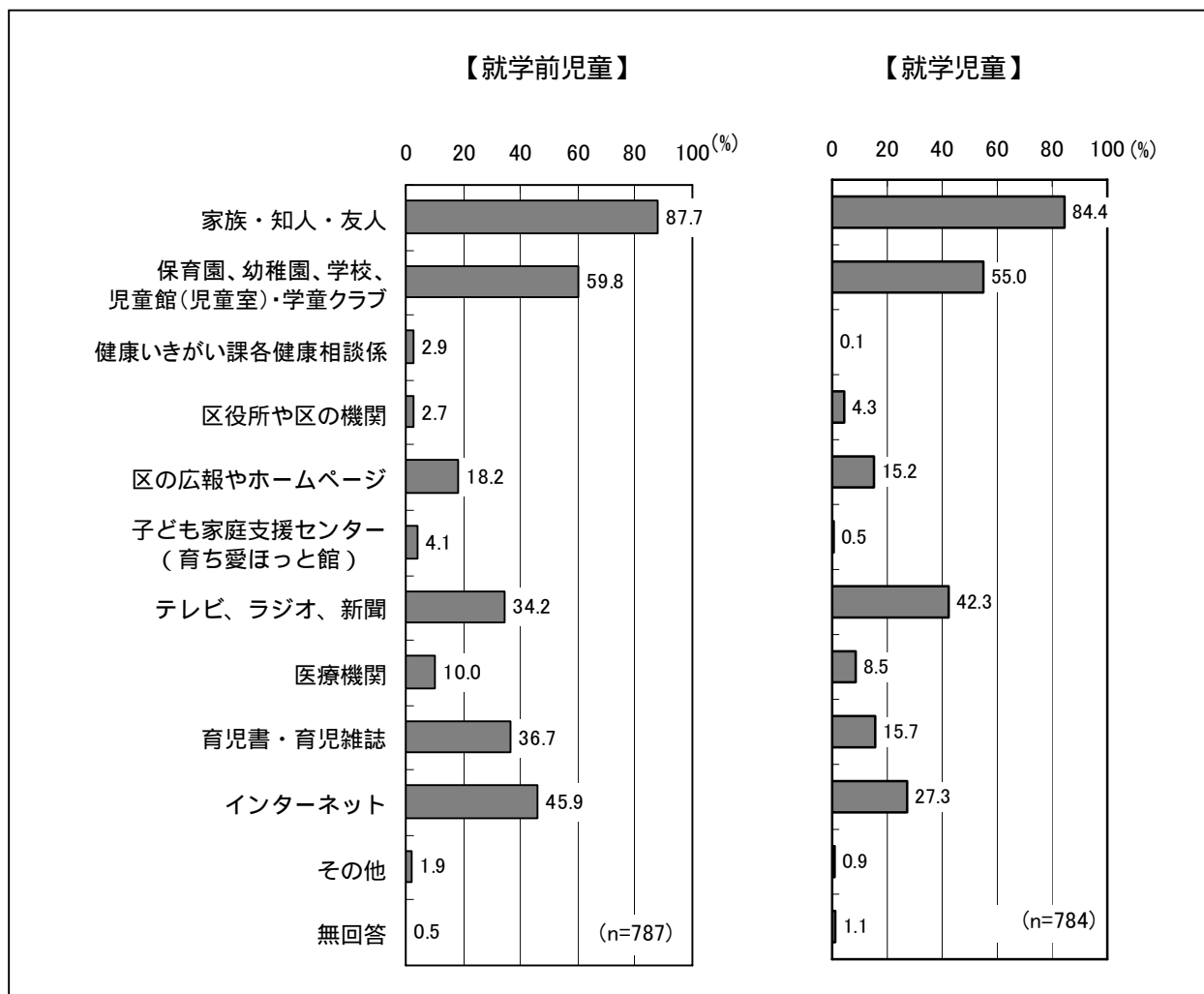


(4) 子育て情報の入手先

子育て情報の入手先をみると、就学前児童の保護者では「家族・知人・友人」が最も多く 87.7%、次いで「保育園、幼稚園、学校、児童館・学童クラブ」が 59.8%、「インターネット」が 45.9%、「育児書・育児雑誌」が 36.7%、「テレビ、ラジオ、新聞」が 34.2%と続いている。

就学児童の保護者でも「家族・知人・友人」が最も多く 84.4%、次いで「保育園、幼稚園、学校、児童館・学童クラブ」が 55.0%、「テレビ、ラジオ、新聞」が 42.3%、「インターネット」が 27.3%、「育児書・育児雑誌」が 15.7%と続いている。

子育て情報の入手先（複数回答）



6. 仕事と生活の調和について

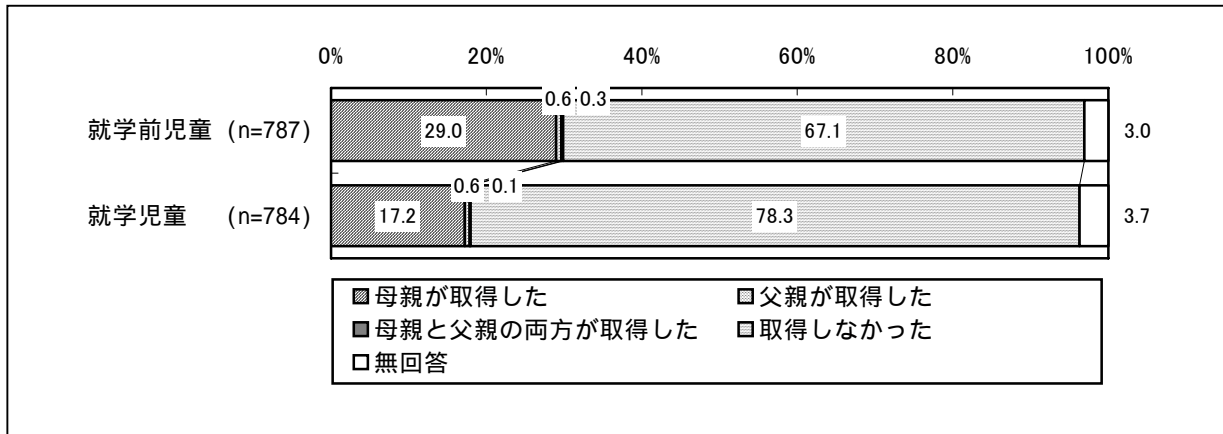
(1) 育児休業の取得状況

育児休業の取得状況

育児休業の取得状況を見ると、就学前児童の保護者では「育児休業を取得した」が29.9%（「母親が取得した」29.0% + 「父親が取得した」0.6% + 「母親と父親の両方が取得した」0.3%）、「取得しなかった」が67.1%となっている。

就学児童の保護者では「育児休業を取得した」が17.9%（「母親が取得した」17.2% + 「父親が取得した」0.6% + 「母親と父親の両方が取得した」0.1%）、「取得しなかった」が78.3%となっている。

育児休業取得の有無

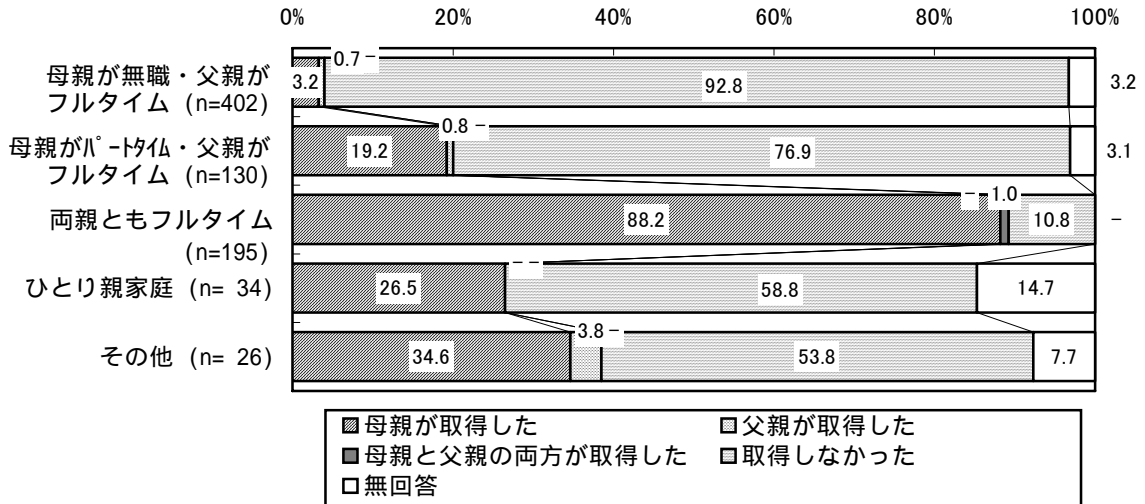


【世帯の就労パターン別】

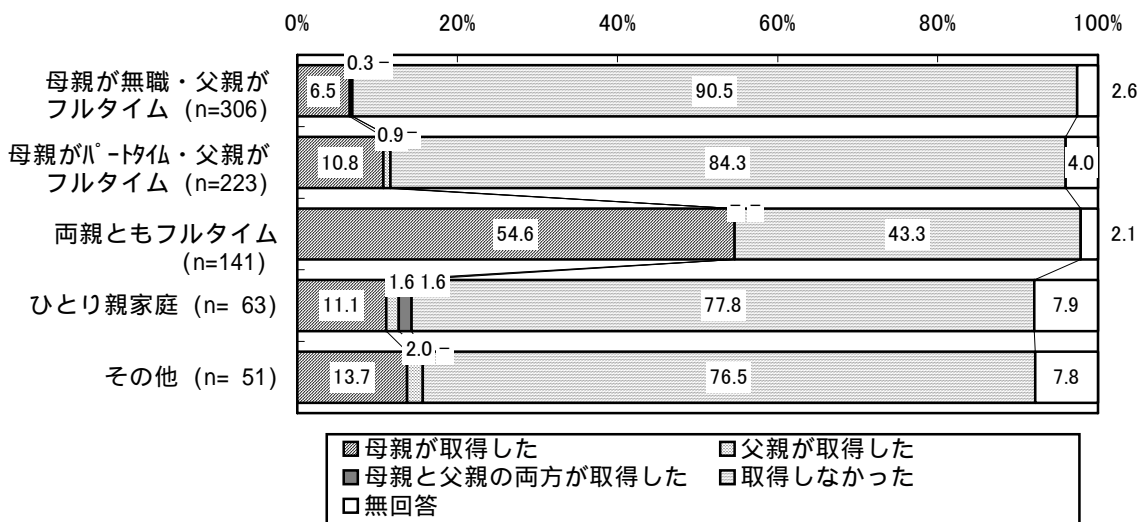
世帯の就労パターン別にみると、就学前児童の保護者・就学児童の保護者とも両親がフルタイムの世帯では「母親が取得した」（それぞれ88.2%、54.6%）が多くなっているが、その割合は就学前児童の保護者に比べて就学児童の保護者が33.6ポイント低くなっている。

育児休業取得の有無

<就学前児童>



<就学児童>

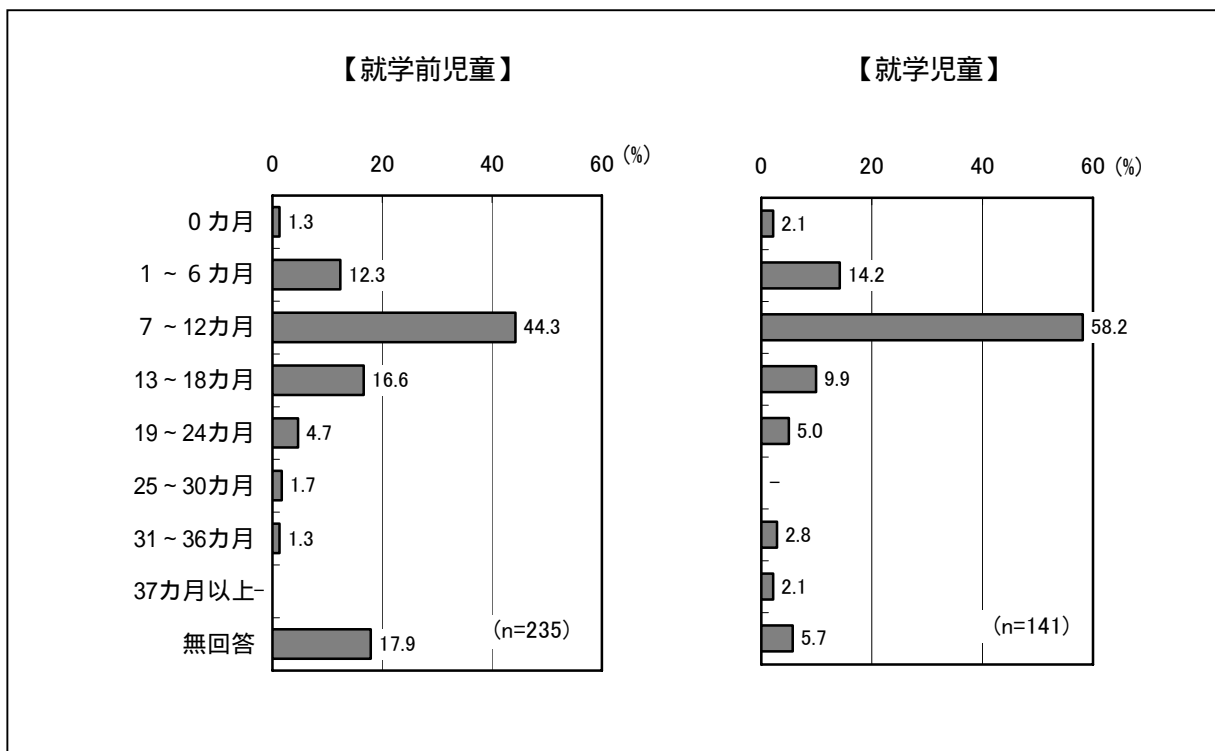


育児休業から復帰したときの子どもの月齢

育児休業の取得状況で“育児休業を取得した”と回答した人の育児休業から復帰したときの子どもの月齢をみると、就学前児童の保護者では「7～12カ月」が最も多く44.3%、次いで「13～18カ月」が16.6%、「1～6カ月」が12.3%と続いている。

就学児童の保護者でも「7～12カ月」が最も多く58.2%、次いで「1～6カ月」が14.2%、「13～18カ月」が9.9%と続いている。

育児休業を取得したときの子どもの月齢



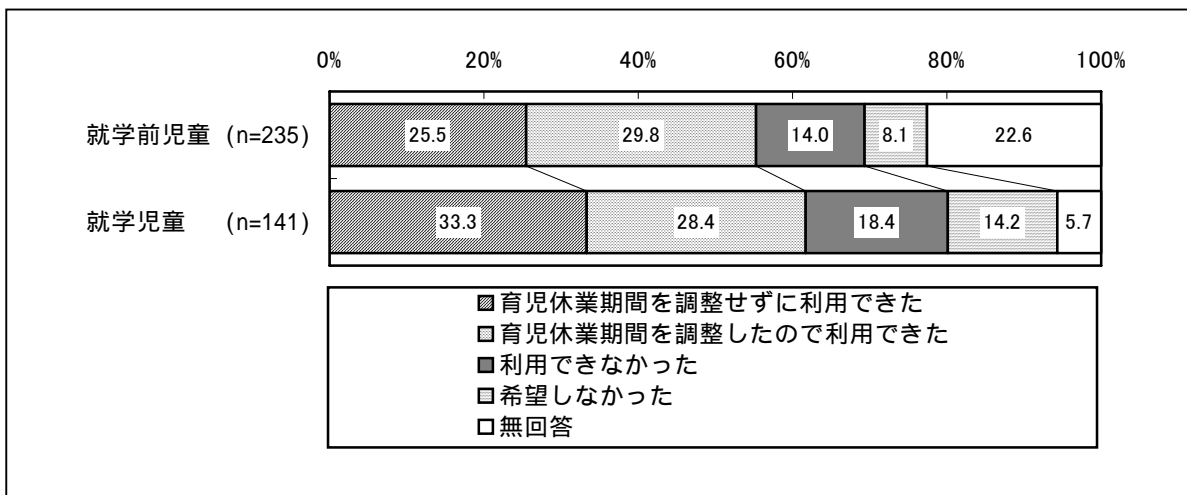
育児休業明けの保育サービス等の利用状況

ア．育児休業明けの保育サービス等の利用状況

育児休業明けの保育サービス等の利用状況をみると、就学前児童の保護者では「育児休業期間を調整したので利用できた」が最も多く 29.8%、次いで「育児休業期間を調整せずに利用できた」が 25.5%、「利用できなかった」が 14.0%、「希望しなかった」が 8.1%となっている。

就学児童の保護者では「育児休業期間を調整せずに利用できた」が最も多く 33.3%、次いで「育児休業期間を調整したので利用できた」が 28.4%、「利用できなかった」が 18.4%、「希望しなかった」が 14.2%となっている。

育児休業明けの保育サービス等の利用状況

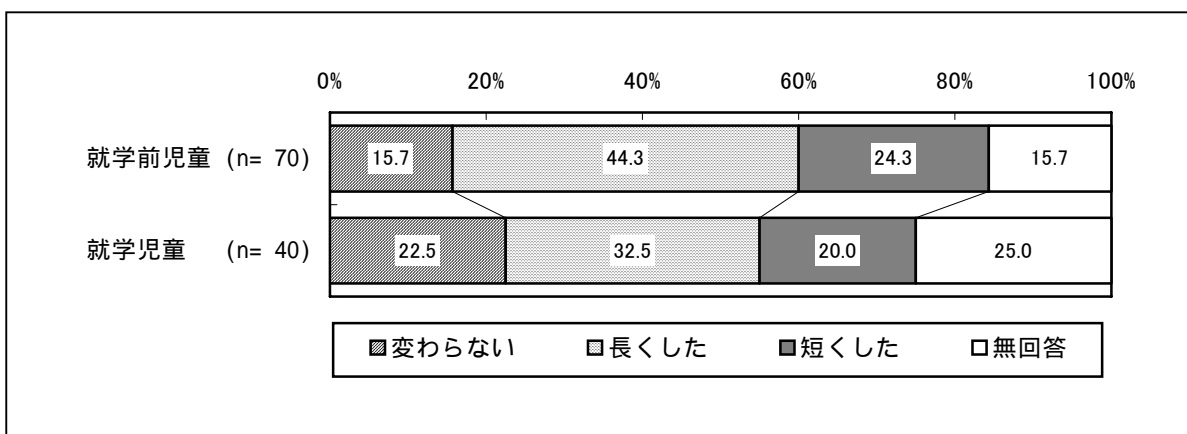


イ．保育サービス等が利用できたときの育児休業期間延長の有無

育児休業明けの保育サービスの利用状況で「育児休業期間を調整したので利用できた」と回答した人の希望する保育サービス等が利用できたときの育児休業期間延長の有無をみると、就学前児童の保護者では「長くした」(44.3%)が「短くした」(24.3%)を 20 ポイント上回っている。

就学児童の保護者では「長くした」(32.5%)が「短くした」(20.0%)を 12.5 ポイント上回っている。

保育サービス等が利用できたときの育児休業期間延長の有無



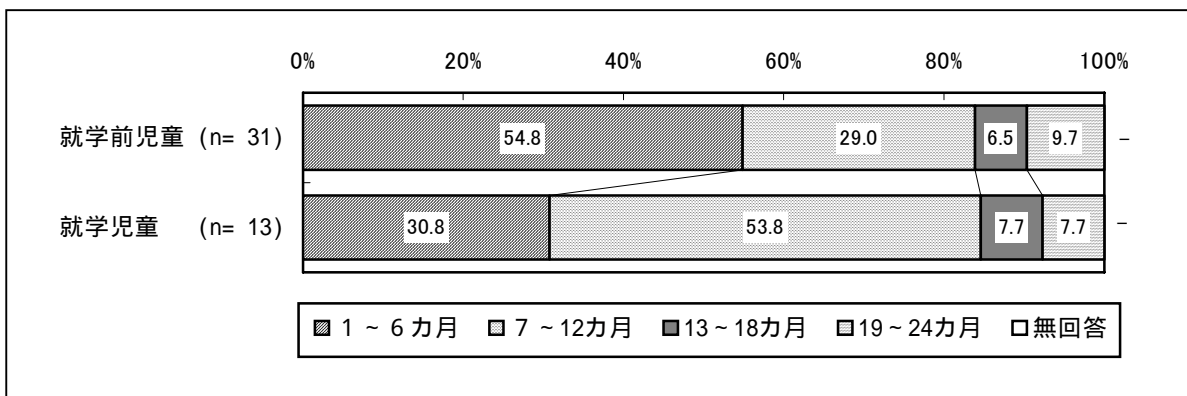
ウ．長くしたとき、短くしたときの育児休業期間

a．長くしたときの育児休業期間

希望する保育サービス等が利用できたときの育児休業期間を「長くした」と回答した人の長くしたときの育児休業期間をみると、就学前児童の保護者では「1～6カ月」が最も多く54.8%、次いで「7～12カ月」が29.0%となっている。

就学児童の保護者では「7～12カ月」が最も多く53.8%、次いで「1～6カ月」が30.8%となっている。

長くしたときの育児休業期間

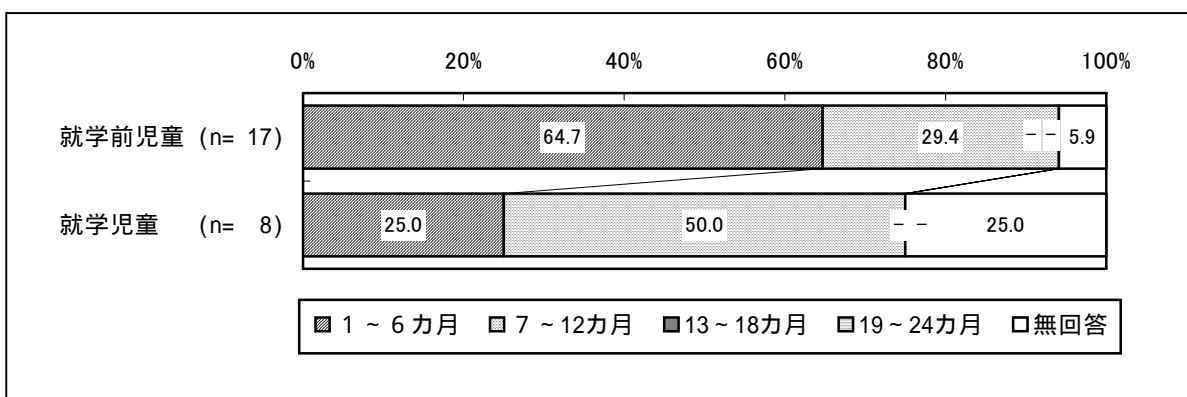


b．短くしたときの育児休業期間

希望する保育サービス等が利用できたときの育児休業期間を「短くした」と回答した人の短くしたときの育児休業期間をみると、就学前児童の保護者では「1～6カ月」が最も多く64.7%、次いで「7～12カ月」が29.4%となっている。

就学児童の保護者では「7～12カ月」が最も多く50.0%、次いで「1～6カ月」が25.0%となっている。

短くしたときの育児休業期間

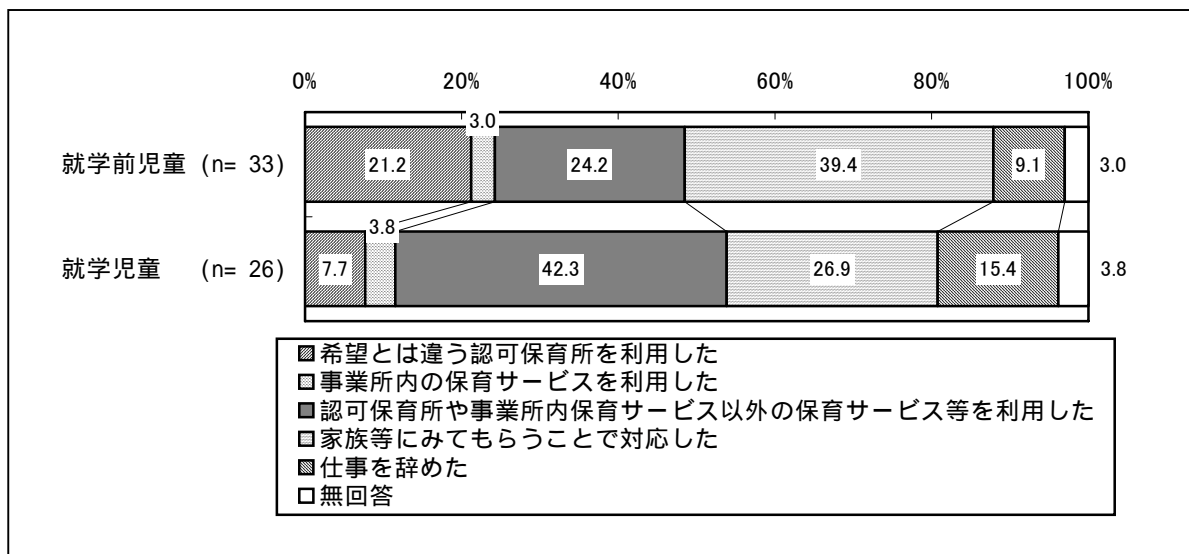


エ．育児休業明けに、保育サービス等を利用できなかったときの対応

育児休業明けの保育サービスの利用状況で「利用できなかった」と回答した人の保育サービス等を利用できなかったときの対応をみると、就学前児童の保護者では「家族等にみてもらうことに対応した」が最も多く 39.4%、次いで「認可保育所や事業所内保育サービス以外の保育サービス等を利用した」が 24.2%、「希望とは違う認可保育所を利用した」が 21.2%となっている。

就学児童の保護者では「認可保育所や事業所内保育サービス以外の保育サービス等を利用した」が最も多く 42.3%、次いで「家族等にみてもらうことに対応した」が 26.9%、「仕事を辞めた」が 15.4%となっている。

育児休業明けに、保育サービス等を利用できなかったときの対応



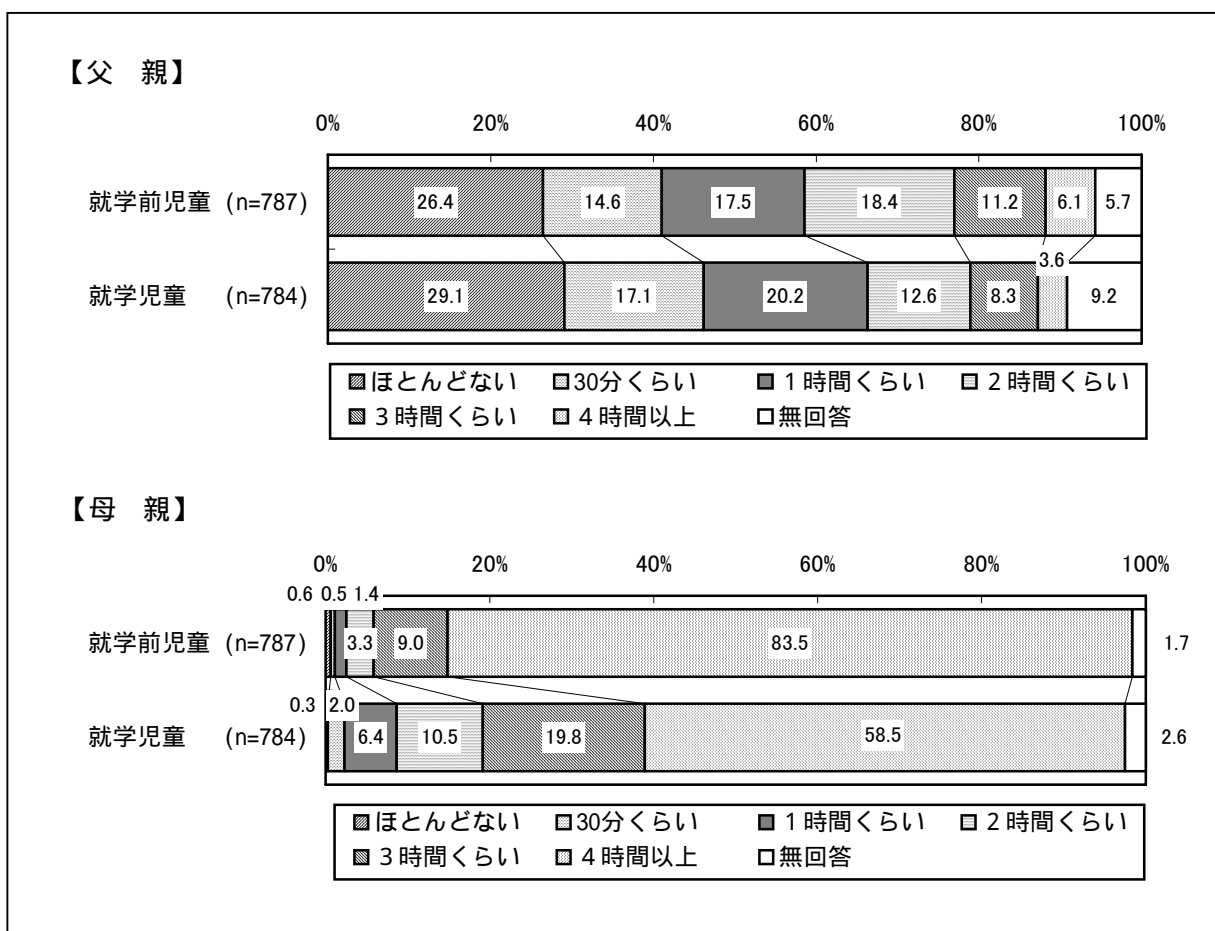
(2) 子どもと接する時間

平日

平日の子どもと接する時間をみると、父親の場合には仕事で家にいない人が多いことから、就学前児童の保護者・就学児童の保護者とも「ほとんどない」が最も多くそれぞれ26.4%、29.1%、次いで就学前児童の保護者では「2時間くらい」が18.4%、就学児童の保護者では「1時間くらい」が20.2%となっている。

一方、母親の場合には、就学前児童の保護者・就学児童の保護者とも「4時間以上」が最も多くそれぞれ83.5%、58.5%あり、「3時間くらい」（それぞれ9.0%、19.8%）を含めると、就学前児童の保護者の9割以上、就学児童の保護者の約8割は3時間以上子どもと接しているようである。

平日の子どもと接する時間

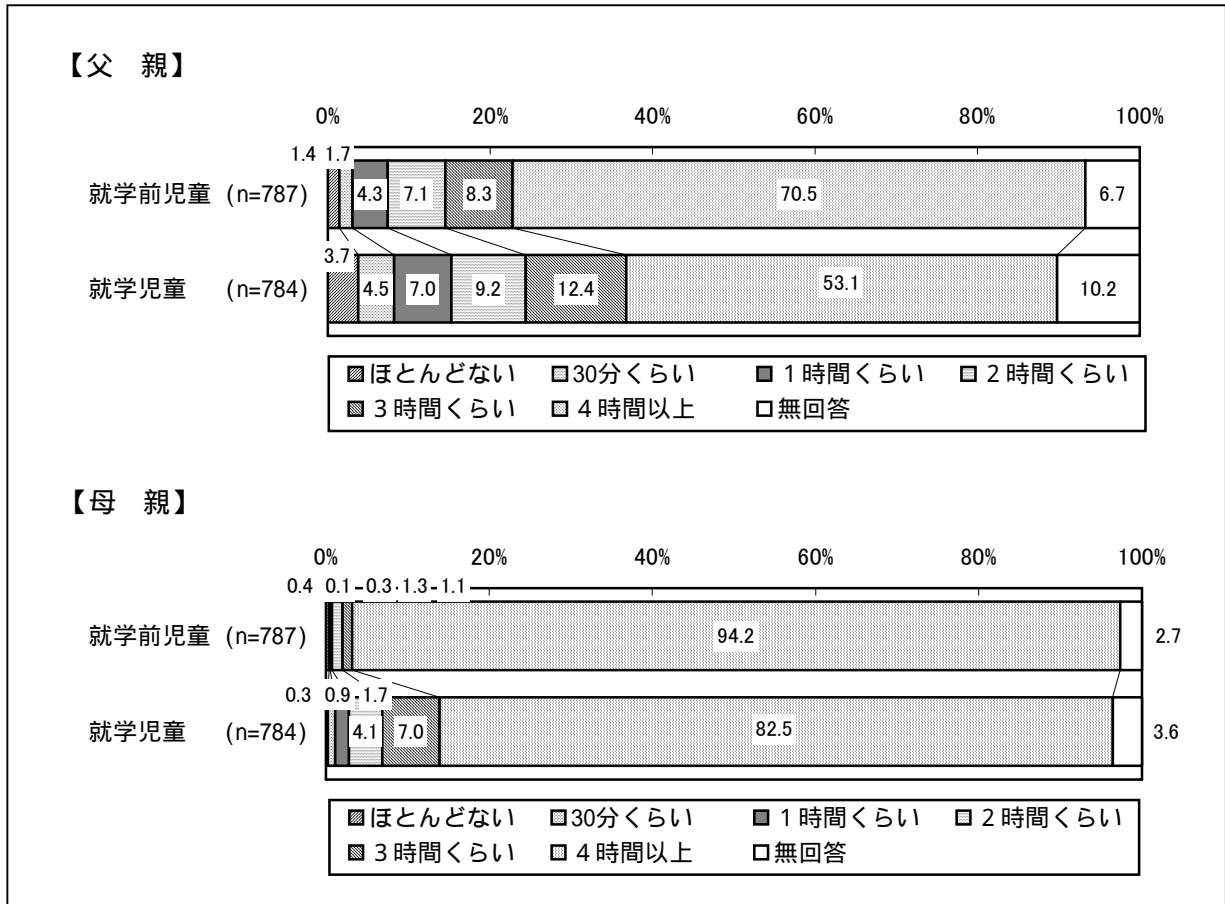


休 日

休日の子どもと接する時間をみると、父親の場合、就学前児童の保護者・就学児童の保護者とも「4時間以上」が最も多くそれぞれ70.5%、53.1%となっているが、別の見方をすると、休日ですえ子どもと接する時間が少ない父親が2割～約4割もいるという状況がうかがえる。

一方、母親の場合には、就学前児童の保護者の9割以上、就学児童の保護者の8割以上が「4時間以上」子どもと接している。

休日の子どもと接する時間

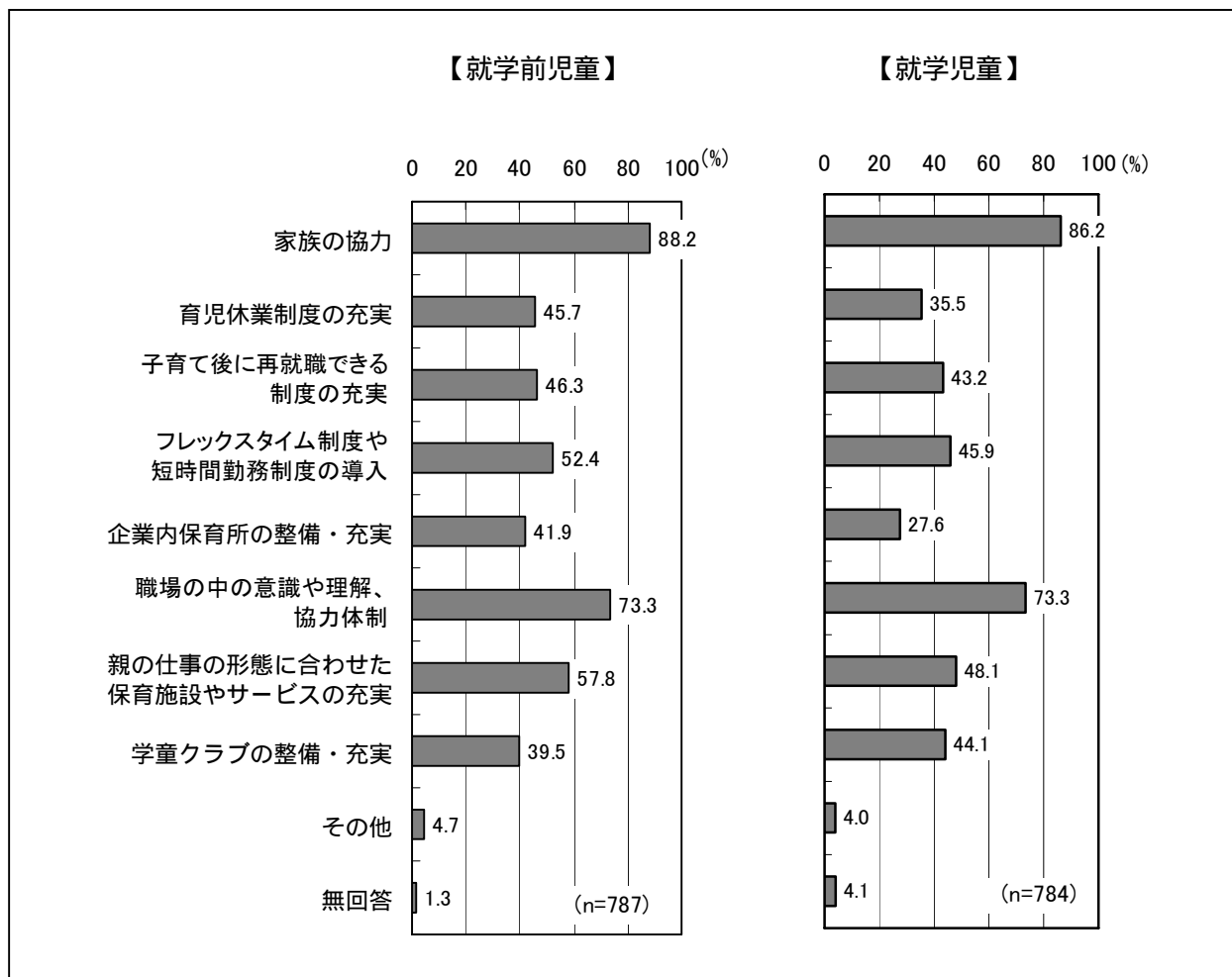


(3) 仕事と子育てを両立させるために必要なこと

仕事と子育てを両立させるために必要なことをみると、就学前児童の保護者では「家族の協力」が最も多く88.2%、次いで「職場の中の意識や理解、協力体制」が73.3%、「親の仕事の形態に合わせた保育施設やサービスの充実」が57.8%、「フレックスタイム制度や短時間勤務制度の導入」が52.4%と続いている。

就学児童の保護者でも「家族の協力」が最も多く86.2%、次いで「職場の中の意識や理解、協力体制」が73.3%、「親の仕事の形態に合わせた保育施設やサービスの充実」が48.1%、「フレックスタイム制度や短時間勤務制度の導入」が45.9%と続いている。

仕事と子育てを両立させるために必要なこと（複数回答）



【世帯の就労パターン別】

世帯の就労パターン別にみると、就学前児童の保護者では母親が無職・父親がフルタイムの世帯で「家族の協力」が最も多く89.3%、次いで「職場の中の意識や理解、協力体制」が72.6%、「子育て後に再就職できる制度の充実」が53.7%と続いている。母親がパートタイム・父親がフルタイムの世帯でも「家族の協力」が最も多く86.9%、次いで「職場の中の意識や理解、協力体制」が72.3%、「フレックスタイム制度や短時間勤務体制の導入」が47.7%と続いている。両親ともフルタイムの世帯では「家族の協力」が最も多く89.2%、次いで「職場の中の意識や理解、協力体制」が75.9%、「親の仕事の形態に合わせた保育施設サービスの充実」が70.3%と続いている。ひとり親家庭では、「家族の協力」「親の仕事の形態に合わせた保育施設サービスの充実」が最も多くともに73.5%、次いで「職場の中の意識や理解、協力体制」70.6%と続いている。

仕事と子育てを両立させるために必要なこと（複数回答）

就学前児童

（単位：人、％）

	件数	家族の協力	育児休業制度の充実	子育て後に再就職できる制度の充実	フレックスタイム制度や短時間勤務体制の導入	企業内保育所の整備・充実
全体	787	88.2	45.7	46.3	52.4	41.9
母親が無職・父親がフルタイム	402	89.3	43.0	53.7	51.2	49.0
母親がパートタイム・父親がフルタイム	130	86.9	43.1	44.6	47.7	36.9
両親ともフルタイム	195	89.2	52.3	33.8	59.0	31.8
ひとり親家庭	34	73.5	47.1	38.2	47.1	29.4
その他	26	88.5	50.0	42.3	50.0	50.0
	件数	職場の中の意識や理解、協力体制	親の仕事の形態に合わせた保育施設サービスの充実	学童クラブの整備・充実	その他	無回答
全体	787	73.3	57.8	39.5	4.7	1.3
母親が無職・父親がフルタイム	402	72.6	53.5	33.8	3.0	1.2
母親がパートタイム・父親がフルタイム	130	72.3	46.9	34.6	0.8	1.5
両親ともフルタイム	195	75.9	70.3	53.3	11.3	1.5
ひとり親家庭	34	70.6	73.5	44.1	2.9	-
その他	26	73.1	65.4	42.3	3.8	-

就学児童の保護者では母親が無職・父親がフルタイムの世帯で「家族の協力」が最も多く 89.2%、次いで「職場の中の意識や理解、協力体制」が 73.2%、「親の仕事の形態に合わせた保育施設やサービスの充実」が 51.0%と続いている。母親がパートタイム・父親がフルタイムの世帯でも「家族の協力」が最も多く 90.6%、次いで「職場の中の意識や理解、協力体制」が 73.1%、「学童クラブの整備・充実」が 49.3%と続いている。両親ともフルタイムの世帯では「家族の協力」が最も多く 87.2%、次いで「職場の中の意識や理解、協力体制」が 75.2%、「学童クラブの整備・充実」が 53.9%と続いている。ひとり親家庭では「職場の中の意識や理解、協力体制」が最も多く 82.5%、次いで「家族の協力」が 71.4%、「子育て後に再就職できる制度の充実」が 47.6%と続いている。

仕事と子育てを両立させるために必要なこと（複数回答）

就学児童

(単位:人、%)

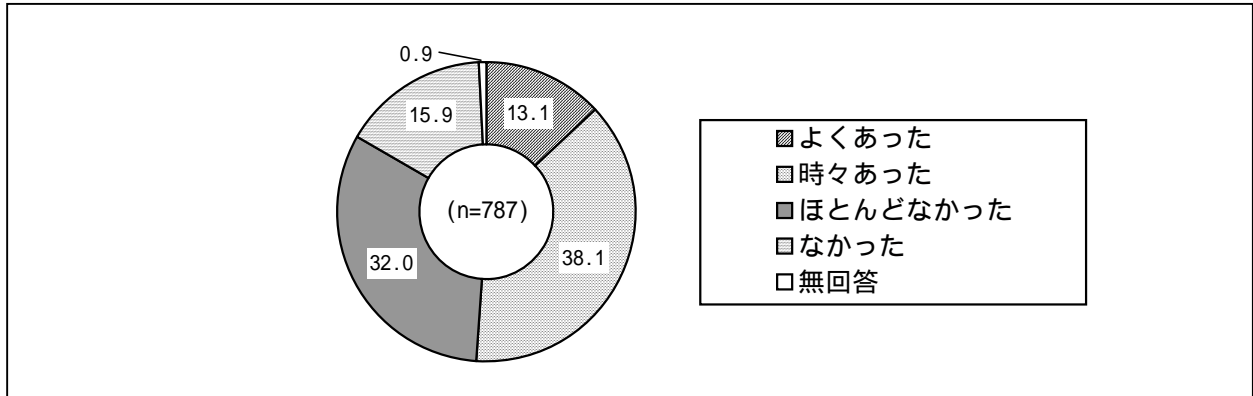
	件数	家族の協力	育児休業制度の充実	再就職できる子育て後に	入務やタイムフレックスや短時間勤務の導入	充実	企業内保育所の整備・
全体	784	86.2	35.5	43.2	45.9		27.6
母親が無職・父親がフルタイム	306	89.2	36.9	44.4	49.7		29.1
母親がパートタイム・父親がフルタイム	223	90.6	35.0	45.3	44.4		30.9
両親ともフルタイム	141	87.2	34.0	37.6	43.3		22.7
ひとり親家庭	63	71.4	34.9	47.6	44.4		22.2
その他	51	64.7	33.3	37.3	39.2		23.5
	件数	制解意職 場、識、場 協、識、中 力、や、の 体理	設やサ の充実 び	親の仕 事の形 態に合 わ	学童ク ラブの 整備・ 充	その他	無回答
全体	784	73.3	48.1	44.1	4.0		4.1
母親が無職・父親がフルタイム	306	73.2	51.0	37.3	4.2		2.9
母親がパートタイム・父親がフルタイム	223	73.1	46.2	49.3	3.1		2.7
両親ともフルタイム	141	75.2	51.8	53.9	5.0		5.7
ひとり親家庭	63	82.5	34.9	39.7	6.3		4.8
その他	51	58.8	45.1	41.2	0.0		11.8

7. 妊娠・出産・育児について

(1) 妊娠中、母親が精神的に不安定になったことの有無（就学前児童が対象）

妊娠中、母親が精神的に不安定になったことの有無をみると、“あった”が51.2%（「よくあった」13.1% + 「時々あった」38.1%），“なかった”が47.9%（「ほとんどなかった」32.0% + 「なかった」15.9%）となっている。

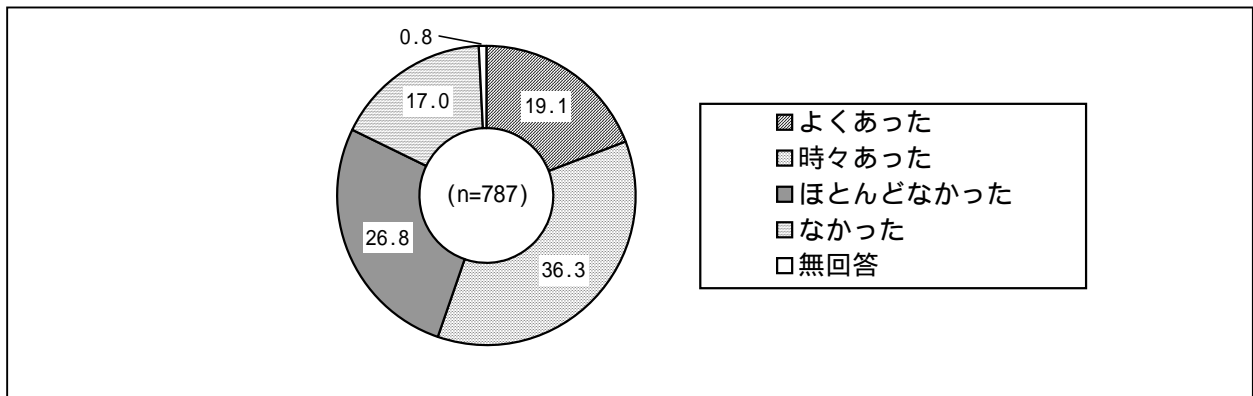
妊娠中、母親が精神的に不安定になったことの有無



(2) 出産後1カ月の間、母親が精神的に不安定になったことの有無（就学前児童が対象）

出産後1カ月の間、母親が精神的に不安定になったことの有無をみると、“あった”が55.4%（「よくあった」19.1% + 「時々あった」36.3%），“なかった”が43.8%（「ほとんどなかった」26.8% + 「なかった」17.0%）となっている。

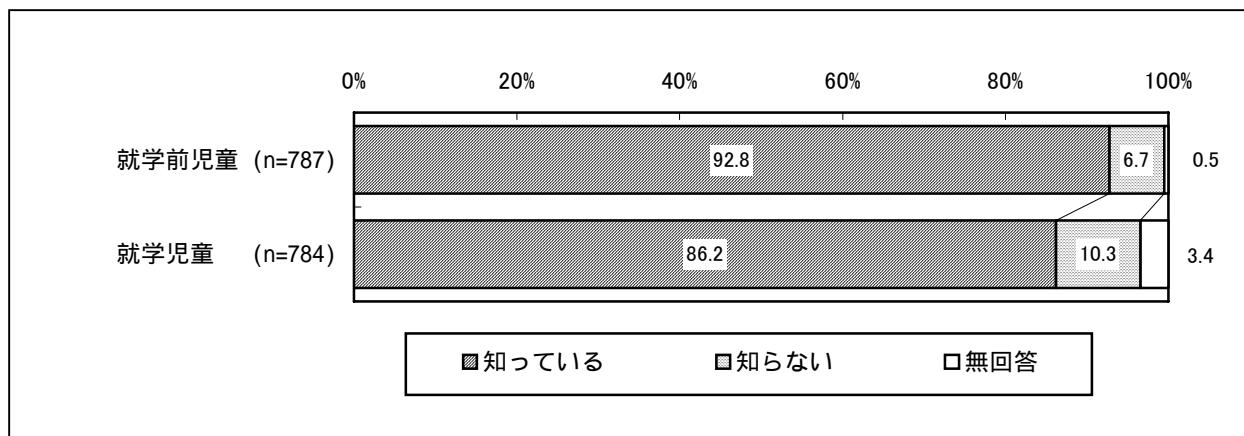
出産後1カ月の間、母親が精神的に不安定になったことの有無



(3) 休日や夜間に受診できる医療機関の認知状況

休日や夜間に受診できる医療機関の認知状況をみると、就学前児童の保護者・就学児童の保護者とも「知っている」が多く、就学前児童の保護者が92.8%、就学児童の保護者が86.2%となっている。

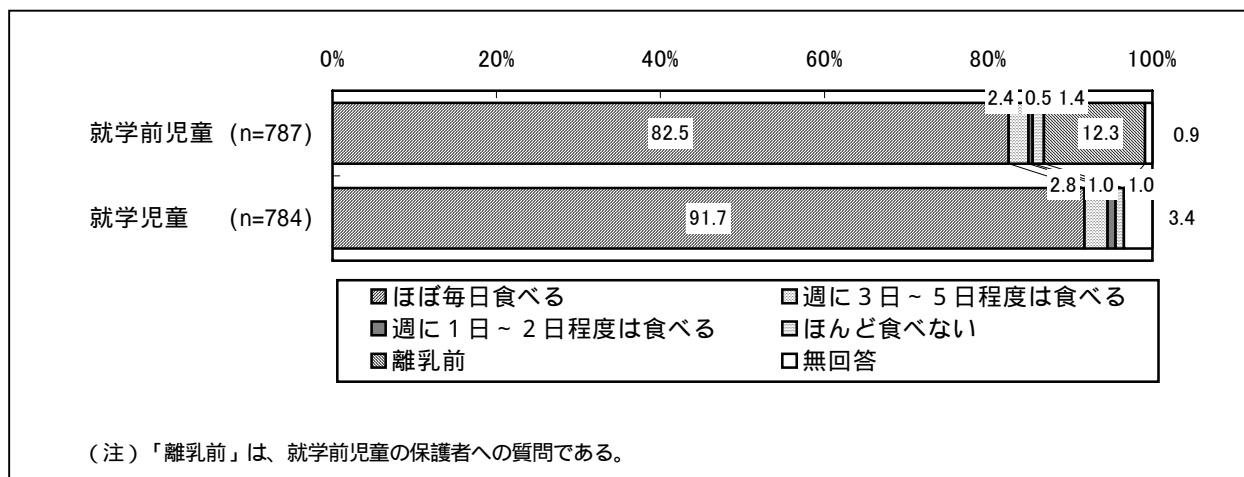
休日や夜間に受診できる医療機関の認知状況



(4) 朝食の摂取状況

朝食の摂取状況をみると、就学前児童の保護者・就学児童の保護者とも調査対象の子どもが「ほぼ毎日食べる」と回答した人が最も多く就学前児童の保護者が82.5%、就学児童の保護者が91.7%となっている。これに対し、「週に3日～5日程度は食べる」(それぞれ2.4%、2.8%)、「週に1日～2日程度は食べる」(それぞれ0.5%、1.0%)、「ほとんど食べない」(それぞれ1.4%、1.0%)と回答した人も少なからずみられる。

朝食の摂取状況

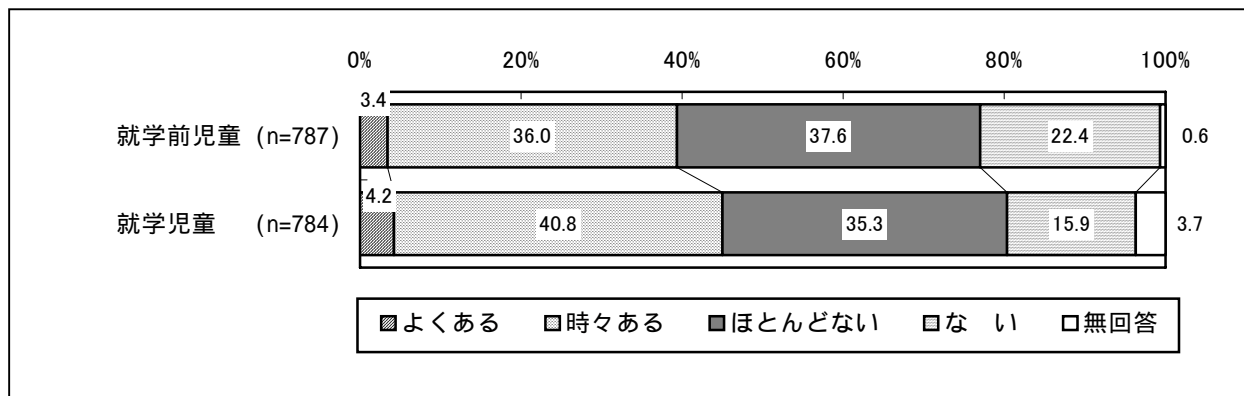


(5) 子どもの世話をしたくないときの有無

子どもの世話をしたくないときの有無をみると、就学前児童の保護者では“ある”が39.4%（「よくある」3.4%+「時々ある」36.0%），“ない”が60.0%（「ほとんどない」37.6%+「ない」22.4%）となっている。

就学児童の保護者では“ある”が45.0%（「よくある」4.2%+「時々ある」40.8%），“ない”が51.2%（「ほとんどない」35.3%+「ない」15.9%）となっている。

子どもの世話をしたくないときの有無



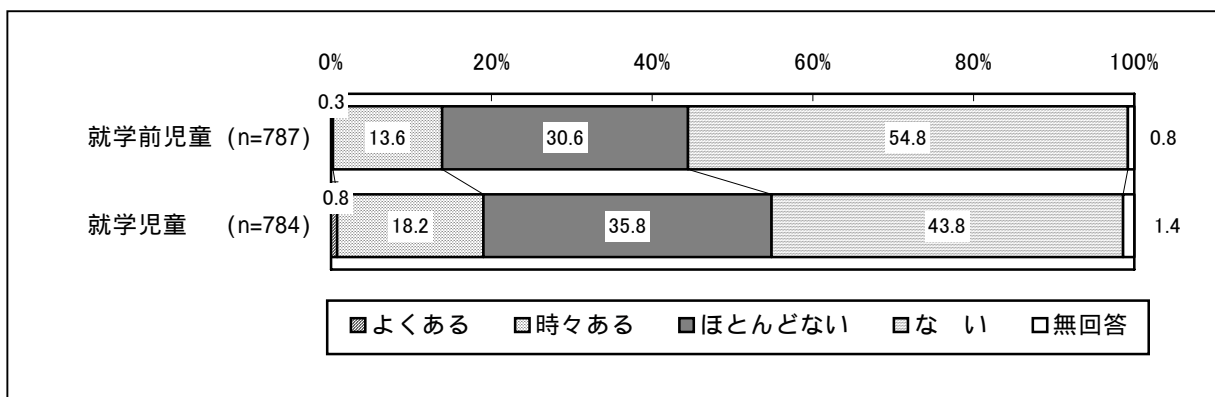
(6) 児童虐待

子どもを虐待していると思うこと

子どもを虐待していると思うことをみると、就学前児童の保護者では“ある”が13.9%（「よくある」0.3%+「時々ある」13.6%），“ない”が85.4%（「ほとんどない」30.6%+「ない」54.8%）となっている。

就学児童の保護者では“ある”が19.0%（「よくある」0.8%+「時々ある」18.2%），“ない”が79.6%（「ほとんどない」35.8%+「ない」43.8%）となっている。

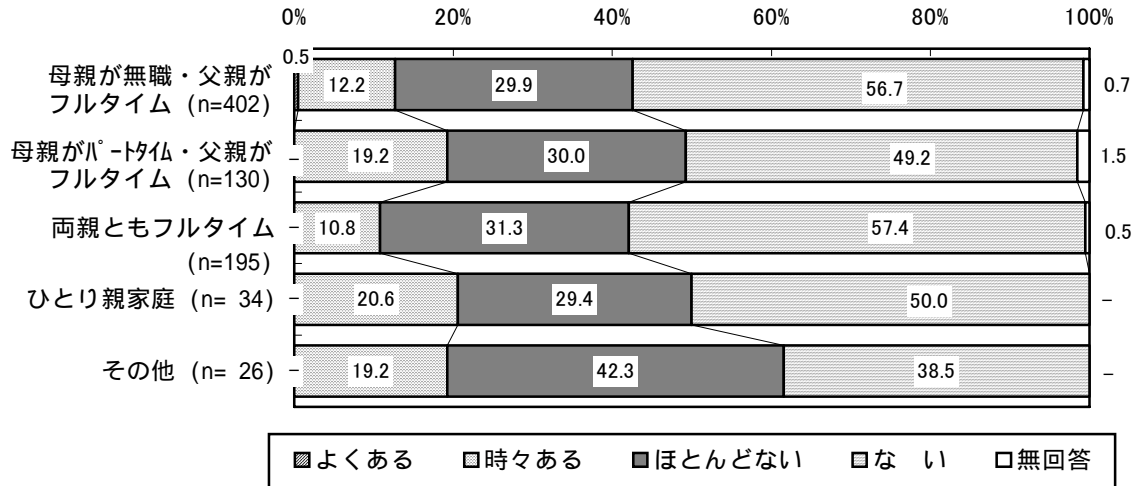
子どもを虐待していると思うこと



【世帯の就労パターン別】

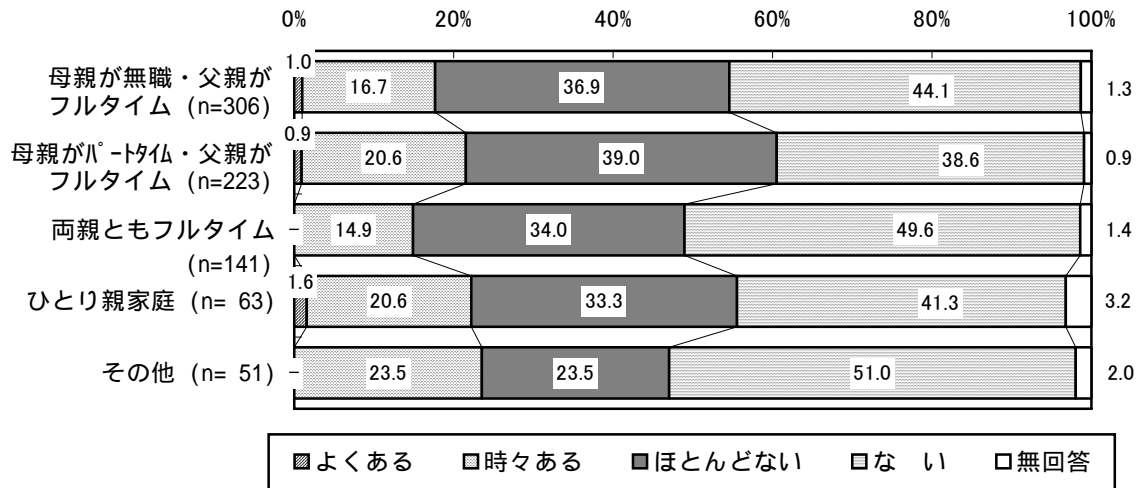
世帯の就労パターン別にみると、就学前児童の保護者では“ある”（「よくある」+「時々ある」）が多いのは、それぞれひとり親家庭 20.6%（0.0%+20.6%）、母親がパートタイム・父親がフルタイムの世帯 19.2%（0.0%+19.2%）、その他 19.2%（0.0%+19.2%）となっている。

子どもを虐待していると思うこと（就学前児童）



就学児童の保護者では“ある”（「よくある」+「時々ある」）が多いのは、それぞれその他 23.5%（0.0%+23.5%）、ひとり親家庭 22.2%（1.6%+20.6%）、母親がパートタイム・父親がフルタイムの世帯 21.5%（0.9%+20.6%）となっている。

子どもを虐待していると思うこと（就学児童）

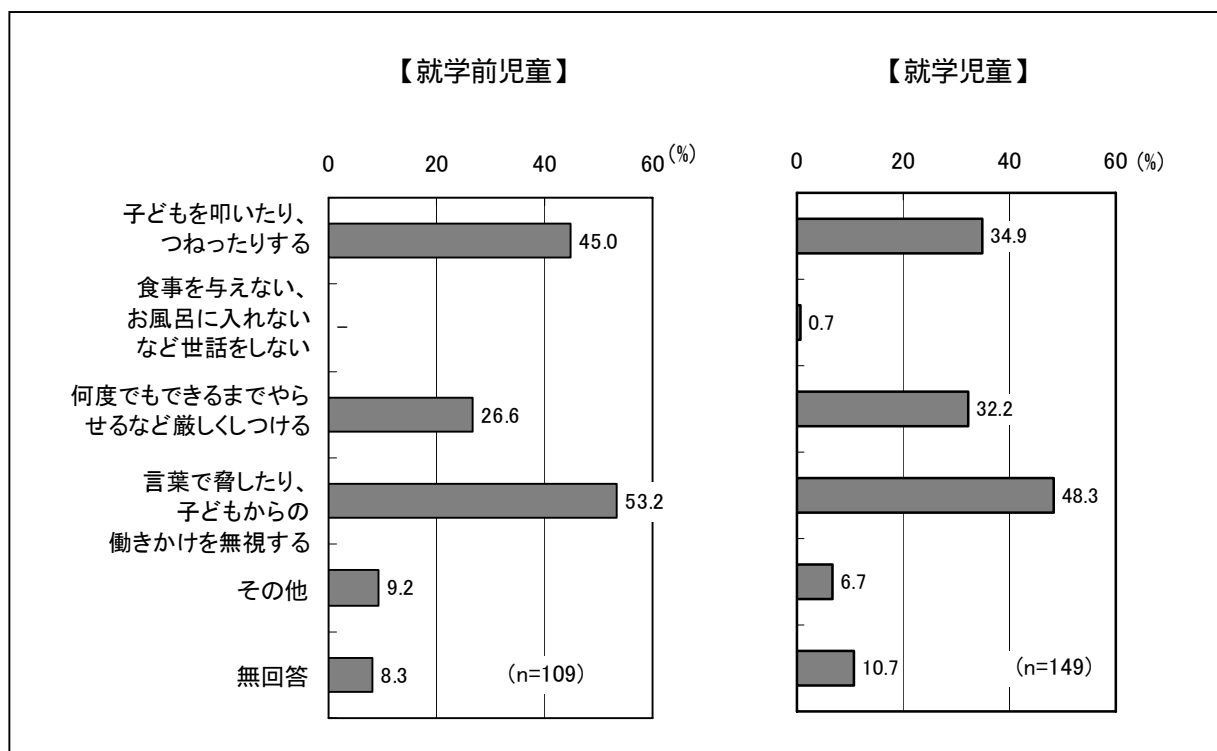


子どもを虐待していると思うとき

子どもを虐待していると思うことが“ある”と回答した人の子どもを虐待していると思うときをみると、就学前児童の保護者では「言葉で脅したり、子どもからの働きかけを無視する」が最も多く53.2%、次いで「子どもを叩いたり、つねったりする」が45.0%、「何度でもできるまでやらせるなど厳しくしつける」が26.6%となっている。

就学児童の保護者では「言葉で脅したり、子どもからの働きかけを無視する」が最も多く48.3%、次いで「子どもを叩いたり、つねったりする」が34.9%、「何度でもできるまでやらせるなど厳しくしつける」が32.2%となっている。

子どもを虐待していると思うとき（複数回答）



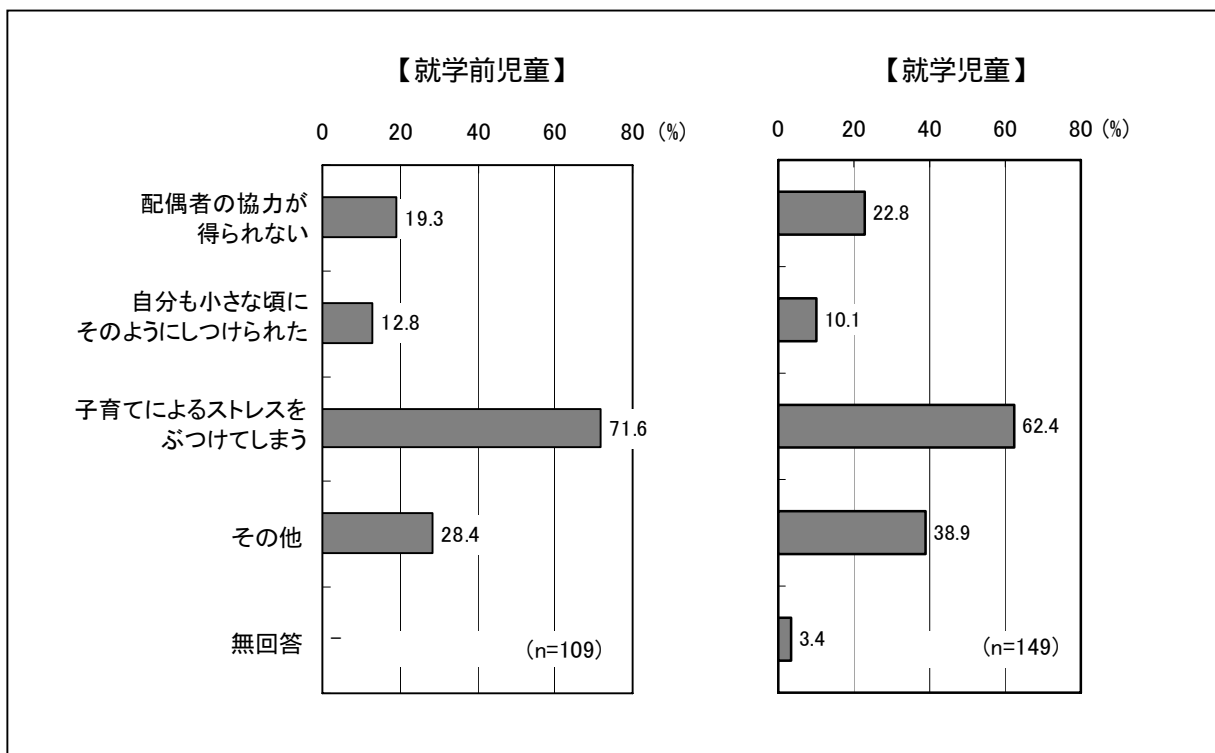
児童虐待の理由

子どもを虐待していると思うことが“ある”と回答した人の児童虐待の理由をみると、就学前児童の保護者では「子育てによるストレスをぶつけてしまう」が最も多く71.6%、次いで「配偶者の協力が得られない」が19.3%、「自分も小さな頃にそのようにしつけられた」が12.8%となっている。

就学児童の保護者でも「子育てによるストレスをぶつけてしまう」が最も多く62.4%、次いで「配偶者の協力が得られない」が22.8%、「自分も小さな頃にそのようにしつけられた」が10.1%となっている。

「その他」の内容として、就学前児童の保護者では“子どもが言うことをきかなかったり、悪い事をしてしつけのつもり”“疲れと自分の感情をコントロールできない”などの意見が寄せられている。就学児童の保護者では“自分で自分の身のまわりのことはできるようになってほしいから”、“いろいろなストレスでやつあたりしてしまう”“その子1人だけに時間がさけないと感情的になってしまう傾向がある”などの意見が寄せられている。

児童虐待の理由（複数回答）



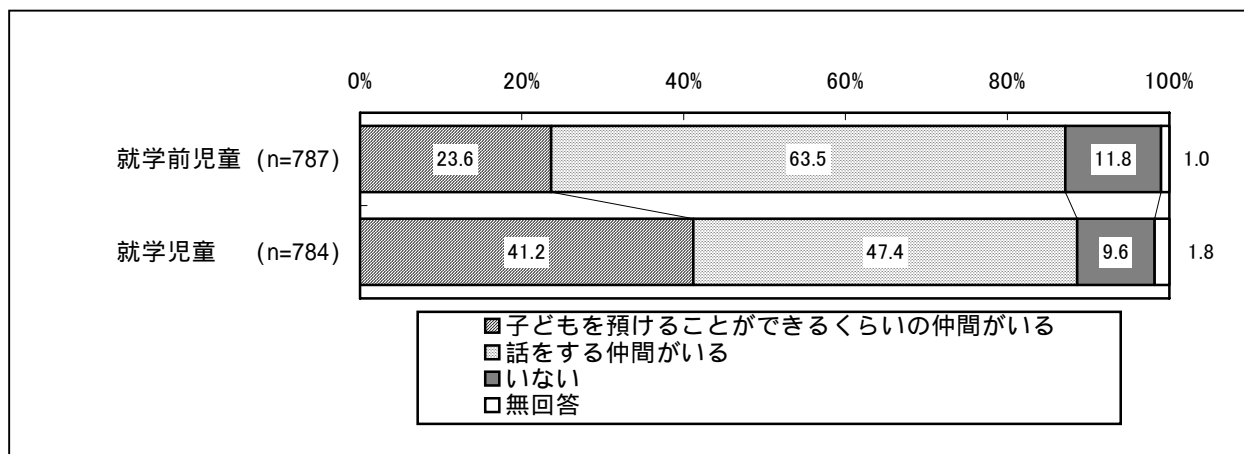
8. 地域での子育て支援について

(1) 子育て仲間の有無

子育て仲間の有無をみると、就学前児童の保護者では「話をする仲間がいる」が最も多く63.5%、次いで「子どもを預けることができるくらいの仲間がいる」が23.6%、「いない」が11.8%となっている。

就学児童の保護者でも「話をする仲間がいる」が最も多く47.4%、次いで「子どもを預けることができるくらいの仲間がいる」が41.2%、「いない」が9.6%となっている。

子育て仲間の有無

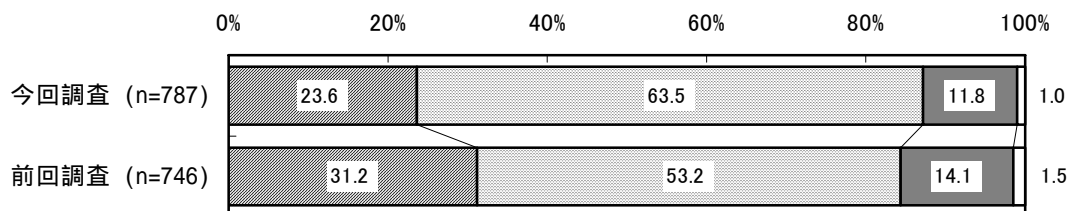


【前回調査との比較】

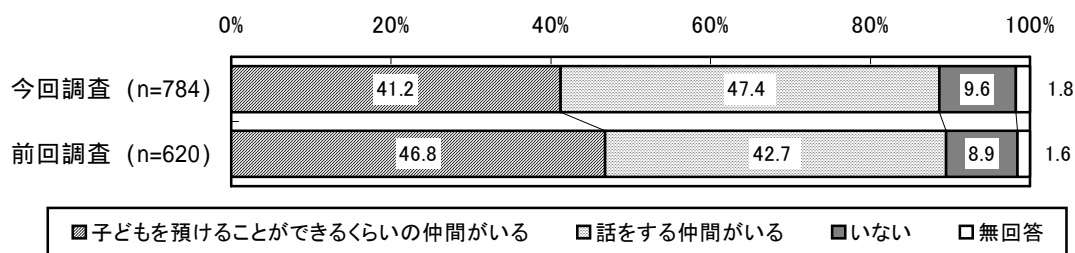
前回調査と比較してみると、就学前児童の保護者・就学児童の保護者とも「子どもを預けることができるくらいの仲間がいる」がそれぞれ7.6ポイント、5.6ポイント減少しているのに対し、「話をする仲間がいる」がそれぞれ10.3ポイント、4.7ポイント増加している。また、「いない」は就学前児童の保護者は2.3ポイント減少しているのに対し、就学児童の保護者は0.7ポイント増加している。

子育て仲間の有無

<就学前児童>



<就学児童>



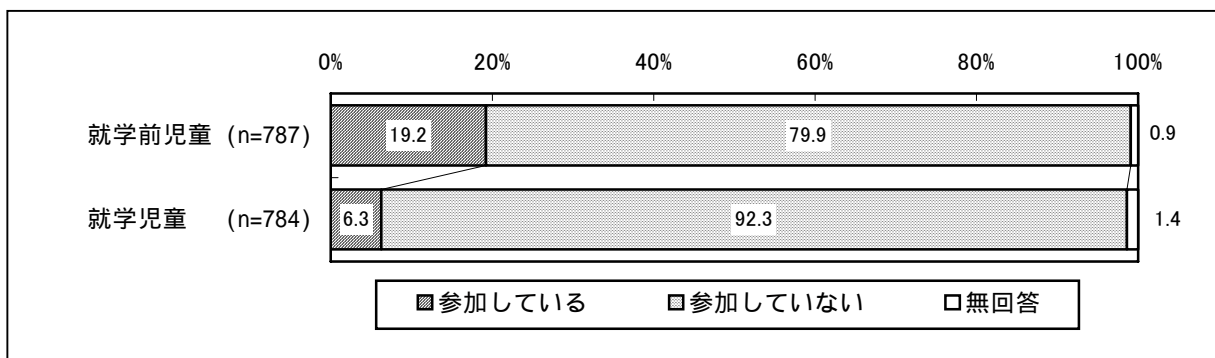
(2) 子育てサークルへの参加状況

子育てサークルへの参加状況

子育てサークルへの参加状況を見ると、就学前児童の保護者では「参加している」が19.2%、「参加していない」が79.9%となっている。

就学児童の保護者では「参加している」が6.3%、「参加していない」が92.3%となっている。

子育てサークルへの参加状況

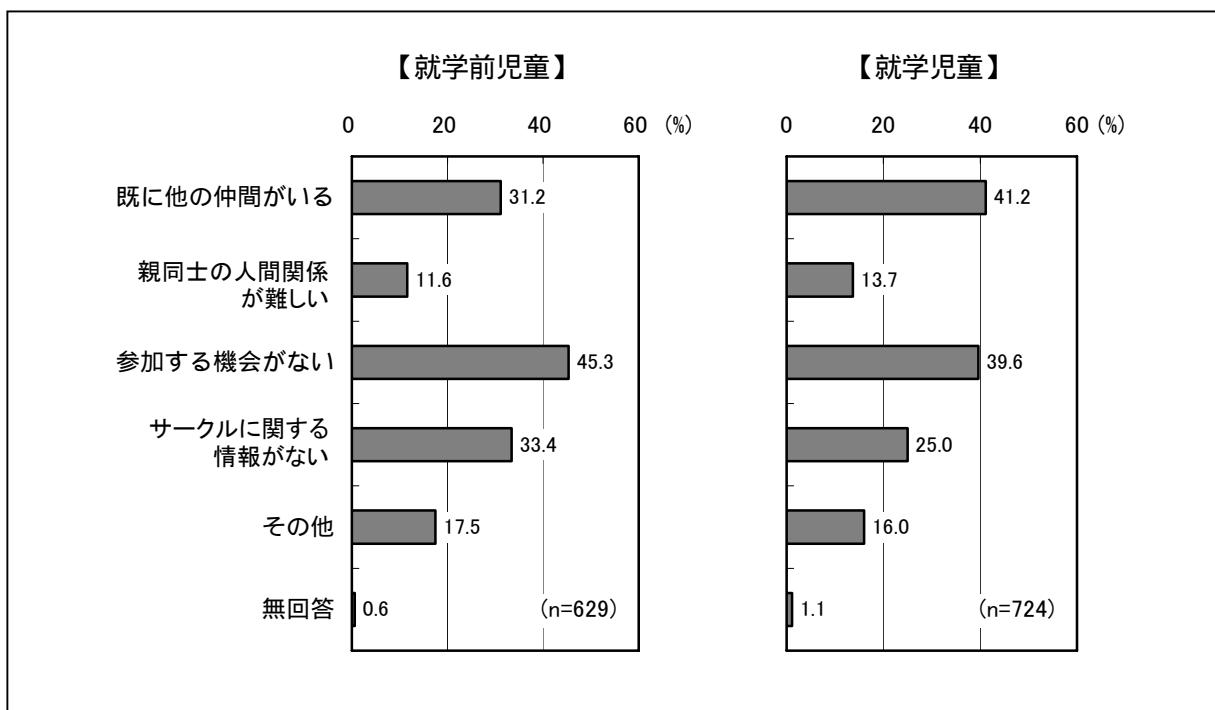


子育てサークルに参加していない理由

子育てサークルに「参加していない」と回答した人の子育てサークルに参加していない理由を見ると、就学前児童の保護者では「参加する機会がない」が最も多く45.3%、次いで「サークルに関する情報がない」が33.4%、「既に他の仲間がいる」が31.2%となっている。

就学児童の保護者では「既に他の仲間がいる」が最も多く41.2%、次いで「参加する機会がない」が39.6%、「サークルに関する情報がない」が25.0%となっている。

子育てサークルに参加していない理由（複数回答）

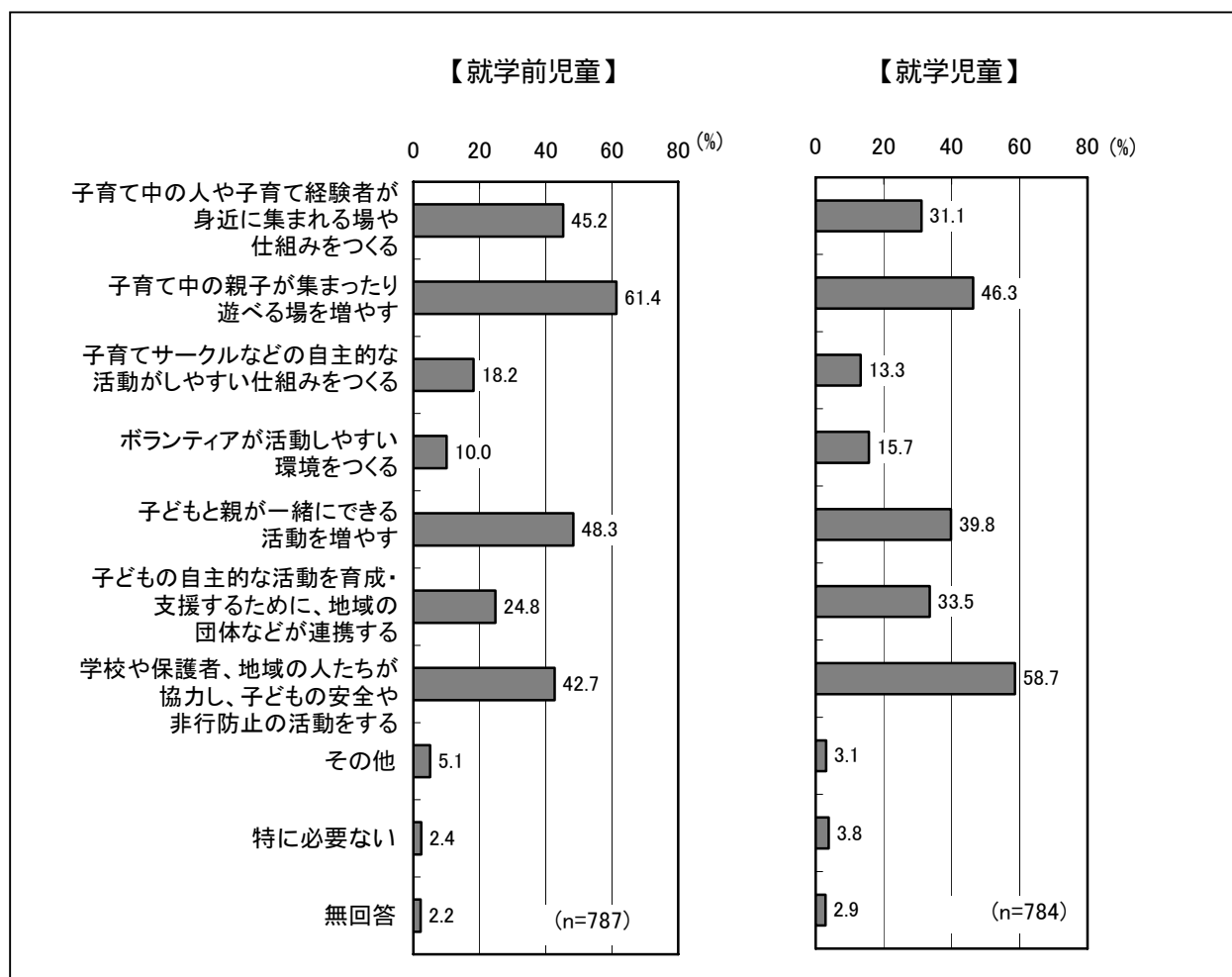


(3) 安心して子育てをするために地域の取り組みで必要なこと

安心して子育てをするために地域の取り組みで必要なことをみると、就学前児童の保護者では「子育て中の親子が集まったり遊べる場を増やす」が最も多く61.4%、次いで「子どもと親と一緒にできる活動を増やす」が48.3%、「子育て中の人や子育て経験者が身近に集まれる場や仕組みをつくる」が45.2%、「学校や保護者、地域の人たちが協力し、子どもの安全や非行防止の活動をする」が42.7%と続いている。

就学児童の保護者では「学校や保護者、地域の人たちが協力し、子どもの安全や非行防止の活動をする」が最も多く58.7%、次いで「子育て中の親子が集まったり遊べる場を増やす」が46.3%、「子どもと親と一緒にできる活動を増やす」が39.8%、「子どもの自主的な活動を育成・支援するために、地域の団体などが連携する」が33.5%となっている。

安心して子育てをするために地域の取り組みで必要なこと（複数回答）



【子どもの年齢別】

子どもの年齢別にみると、0～1歳児の保護者では「子育て中の親子が集まったり遊べる場を増やす」が最も多くそれぞれ68.2%、67.1%、次いで「子どもと親と一緒にできる活動を増やす」がそれぞれ53.0%、47.9%、「子育て中の人や子育て経験者が身近に集まれる場や仕組みをつくる」がそれぞれ52.7%、47.1%と続いている。

2歳児の保護者では「子育て中の親子が集まったり遊べる場を増やす」が最も多く63.9%、次いで「子育て中の人や子育て経験者が身近に集まれる場や仕組みをつくる」「子どもと親と一緒にできる活動を増やす」がともに49.5%となっている。

3歳児の保護者では「子育て中の親子が集まったり遊べる場を増やす」が最も多く53.1%、次いで「子どもと親と一緒にできる活動を増やす」が51.0%、「学校や保護者、地域の人たちが協力し、子どもの安全や非行防止の活動をする」が44.9%と続いている。

4歳児の保護者では「子育て中の親子が集まったり遊べる場を増やす」「学校や保護者、地域の人たちが協力し、子どもの安全や非行防止の活動をする」が最も多くともに47.6%、次いで「子どもと親と一緒にできる活動を増やす」が38.1%と続いている。

5歳児の保護者では「子育て中の親子が集まったり遊べる場を増やす」が最も多く51.5%、次いで「学校や保護者、地域の人たちが協力し、子どもの安全や非行防止の活動をする」が48.5%、「子どもと親と一緒にできる活動を増やす」が41.2%と続いている。

安心して子育てをするために地域の取り組みで必要なこと（複数回答）

就学前児童

（単位：人、％）

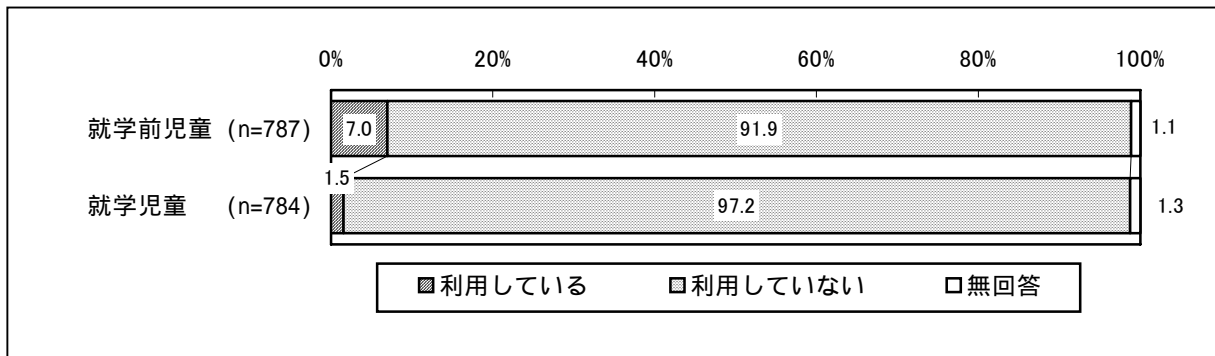
	件数	子育て中の人や子育て経験者が身近に集まれる場や仕組みをつくる	子育て中の親子が集まったり遊べる場を増やす	子育てサークルなどの自主的な活動がしやすい仕組みをつくる	ボランティアが活動しやすい環境をつくる	子どもと親と一緒にできる活動を増やす
全体	787	45.2	61.4	18.2	10.0	48.3
0歳	264	52.7	68.2	22.7	9.8	53.0
1歳	140	47.1	67.1	21.4	8.6	47.9
2歳	97	49.5	63.9	16.5	12.4	49.5
3歳	98	40.8	53.1	12.2	10.2	51.0
4歳	84	28.6	47.6	9.5	8.3	38.1
5歳	97	36.1	51.5	17.5	10.3	41.2
	件数	子どもの自主的な活動を育成・支援するために、地域の団体などが連携する	学校や保護者、地域の人たちが協力し、子どもの安全や非行防止の活動をする	その他	特に必要ない	無回答
全体	787	24.8	42.7	5.1	2.4	2.2
0歳	264	25.0	41.7	3.8	1.9	2.3
1歳	140	17.9	32.9	5.0	0.7	2.1
2歳	97	29.9	47.4	9.3	6.2	1.0
3歳	98	26.5	44.9	4.1	1.0	4.1
4歳	84	19.0	47.6	2.4	4.8	2.4
5歳	97	30.9	48.5	6.2	1.0	1.0

(4) ファミリーサポート

ファミリーサポートの利用状況

ファミリーサポートの利用状況を見ると、就学前児童の保護者、就学児童の保護者とも「利用していない」が最も多く、就学前児童の保護者が91.9%、就学児童の保護者が97.2%となっている。

ファミリーサポートの利用状況

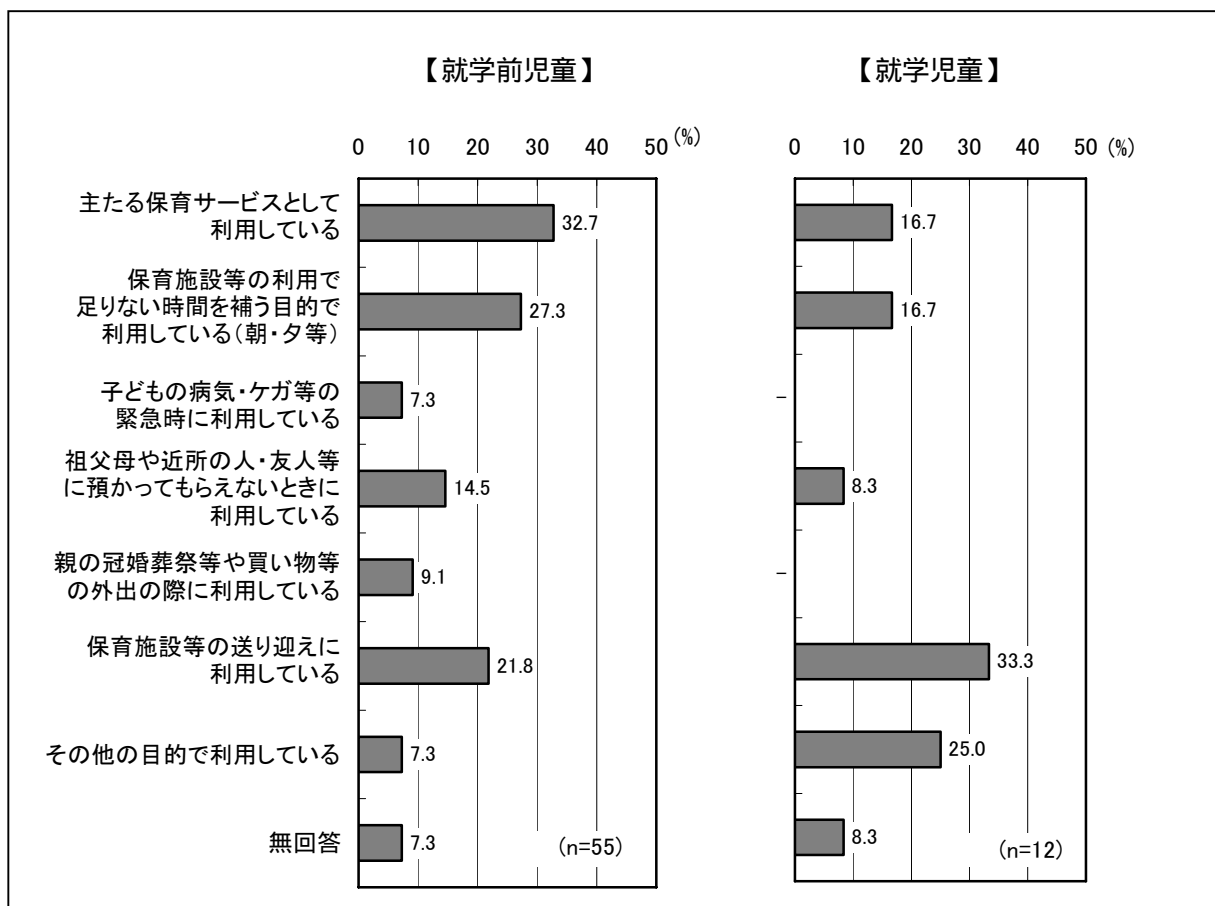


ファミリーサポートの利用目的

ファミリーサポートを「利用している」と回答した人のファミリーサポートの利用目的を見ると、就学前児童の保護者では「主たる保育サービスとして利用している」が最も多く32.7%、次いで「保育施設等の利用で足りない時間を補う目的で利用している」が27.3%、「保育施設等の送り迎えに利用している」が21.8%と続いている。

就学児童の保護者では「保育施設等の送り迎えに利用している」が最も多く33.3%となっている。

ファミリーサポートの利用目的（複数回答）



ファミリーサポートの利用頻度

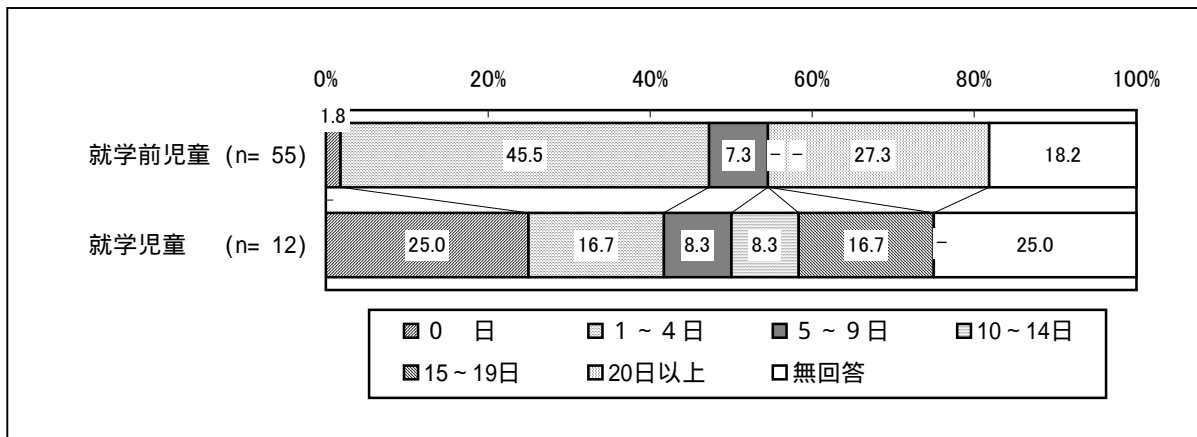
ア．1カ月あたりの利用日数と1回あたりの利用時間

a．1カ月あたりの利用日数

ファミリーサポートを「利用している」と回答した人の1カ月あたりの利用日数をみると、就学前児童の保護者では「1～4日」が最も多く45.5%、次いで「20日以上」が27.3%となっている。

就学児童の保護者では「0日」が最も多く25.0%、次いで「1～4日」「15～19日」がともに16.7%となっている。

1カ月あたりの利用日数

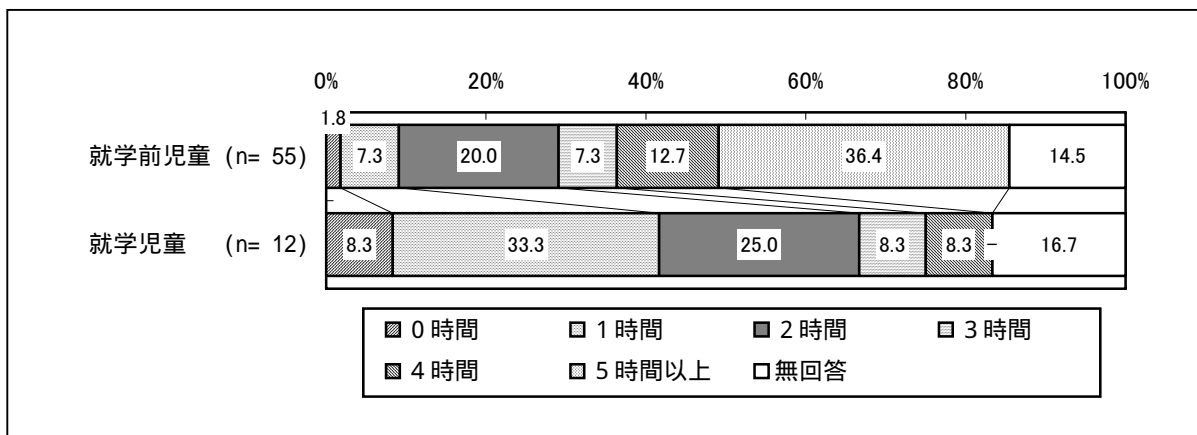


b．1回あたりの利用時間

ファミリーサポートを「利用している」と回答した人の1回あたりの利用時間をみると、就学前児童の保護者では「5時間以上」が最も多く36.4%、次いで「2時間」が20.0%となっている。

就学児童の保護者では「1時間」が最も多く33.3%、次いで「2時間」が25.0%となっている。

1回あたりの利用時間



イ．利用希望意向

a．1カ月あたりの利用希望日数

ファミリーサポートを「利用している」と回答した人の1カ月あたりの利用希望日数をみると、就学前児童の保護者では「1～4日」が最も多く9.1%、次いで「20日以上」が7.3%、「5～9日」が5.5%となっている。

就学児童の保護者では「1～4日」が8.3%となっている。

1カ月あたりの利用希望日数

(単位:人、%)

区 分	件 数	0 日	1～4日	5～9日	10～14日	15～19日	20日以上	無回答
就学前児童	55	—	9.1	5.5	—	—	7.3	78.2
就学児童	12	8.3	8.3	—	—	—	—	83.3

b．1回あたりの利用希望時間

ファミリーサポートを「利用している」と回答した人の1回あたりの利用希望時間をみると、就学前児童の保護者では「5時間以上」最も多く12.7%となっている。

就学児童の保護者では「2時間」「3時間」がともに8.3%となっている。

1回あたりの利用希望時間

(単位:人、%)

区 分	件 数	0時間	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間以上	無回答
就学前児童	55	—	1.8	3.6	1.8	5.5	12.7	74.5
就学児童	12	—	—	8.3	8.3	—	—	83.3

未利用者の利用意向

ア．1カ月あたりの利用希望日数

ファミリーサポートを「利用していない」と回答した人の1カ月あたりの利用希望日数をみると、就学前児童の保護者、就学児童の保護者とも「1～4日」が最も多く、就学前児童の保護者が26.0%、就学児童の保護者が12.9%となっている。

1カ月あたりの利用希望日数

(単位:人、%)

区 分	件 数	0 日	1～4日	5～9日	10～14日	15～19日	20日以上	無回答
就学前児童	723	1.2	26.0	2.5	1.0	0.1	2.9	66.3
就学児童	762	2.0	12.9	1.3	0.5	0.1	0.5	82.7

イ．1回あたりの利用希望時間

ファミリーサポートを「利用していない」と回答した人の1回あたりの利用希望時間をみると、就学前児童の保護者では「5時間以上」が最も多く10.4%、就学児童の保護者では「3時間」「4時間」が最も多くともに3.7%となっている。

1回あたりの利用希望時間

(単位:人、%)

区 分	件 数	0時間	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間以上	無回答
就学前児童	723	1.1	2.4	5.8	6.5	7.7	10.4	66.1
就学児童	762	1.4	2.0	3.5	3.7	3.7	2.6	83.1

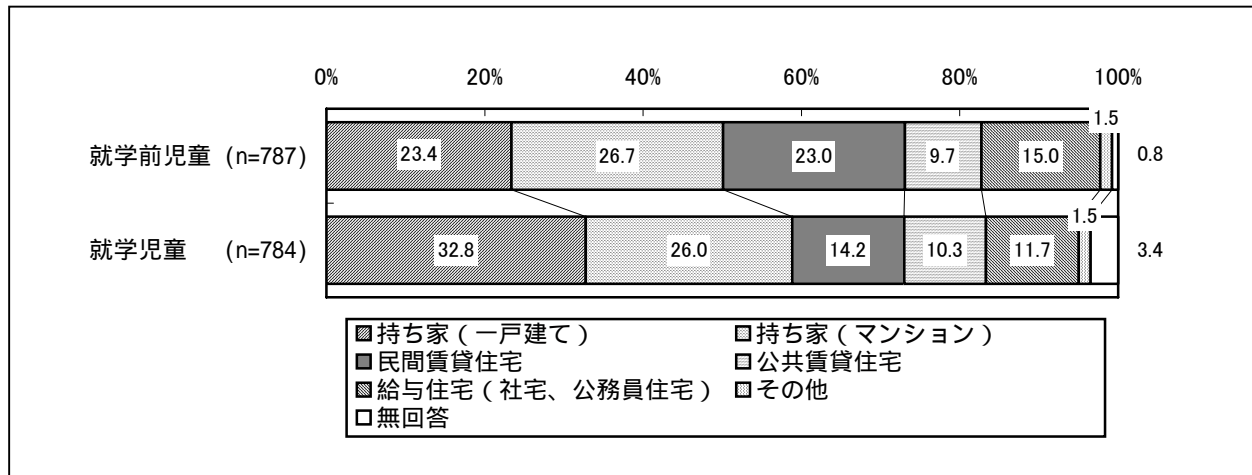
9. 住宅環境について

(1) 住居形態

居住形態をみると、就学前児童の保護者では「持ち家（マンション）」が最も多く26.7%、次いで「持ち家（一戸建て）」が23.4%、「民間賃貸住宅」が23.0%、「給与住宅」が15.0%となっている。

就学児童の保護者では「持ち家（一戸建て）」が最も多く32.8%、次いで「持ち家（マンション）」が26.0%、「民間賃貸住宅」が14.2%となっている。

住居形態

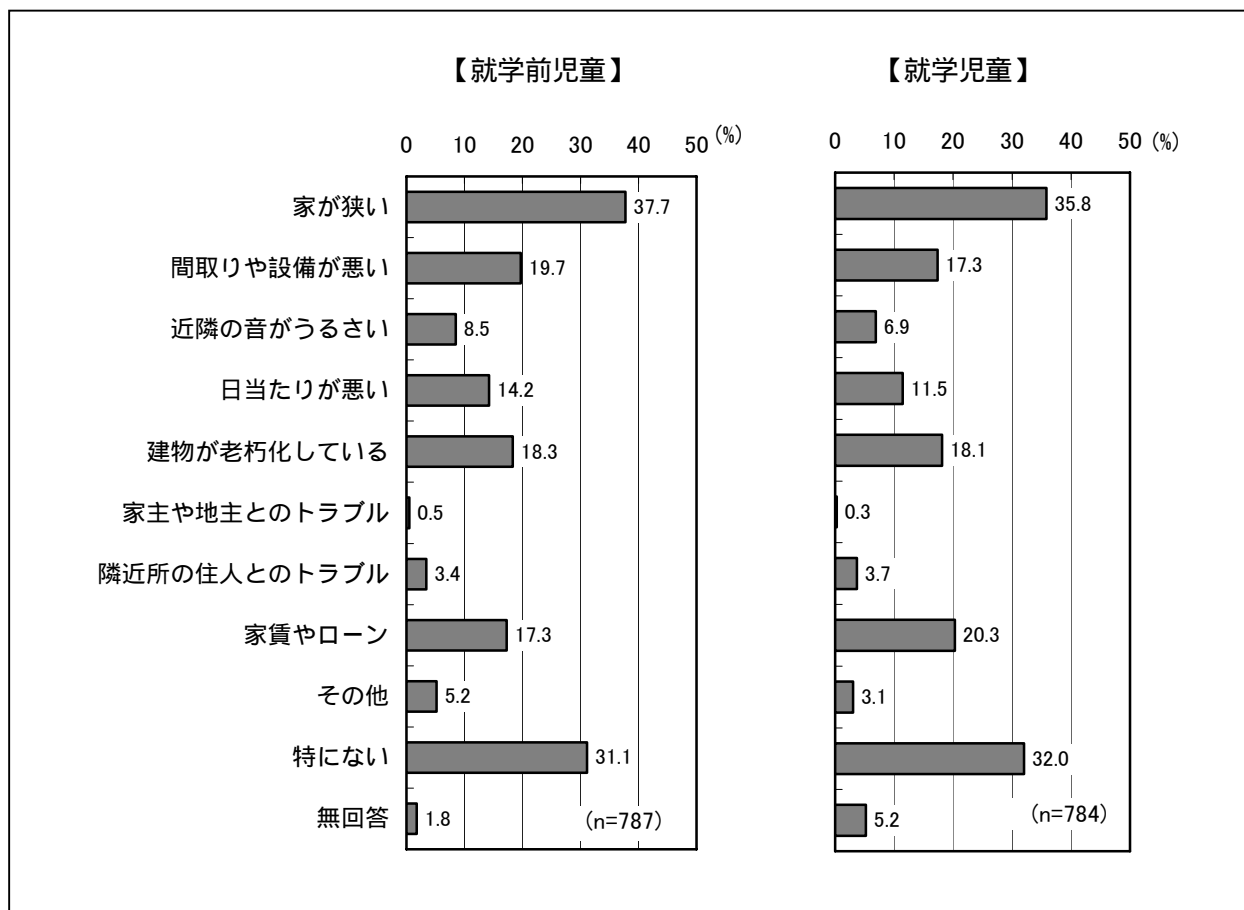


(2) 住宅で困っていること

住宅で困っていることをみると、就学前児童の保護者では「家が狭い」が最も多く37.7%、次いで「特にない」が31.1%、「間取りや設備が悪い」が19.7%、「建物が老朽化している」が18.3%、「家賃やローン」が17.3%と続いている。

就学児童の保護者でも「家が狭い」が最も多く35.8%、次いで「特にない」が32.0%、「家賃やローン」が20.3%、「建物が老朽化している」が18.1%、「間取りや設備が悪い」が17.3%と続いている。

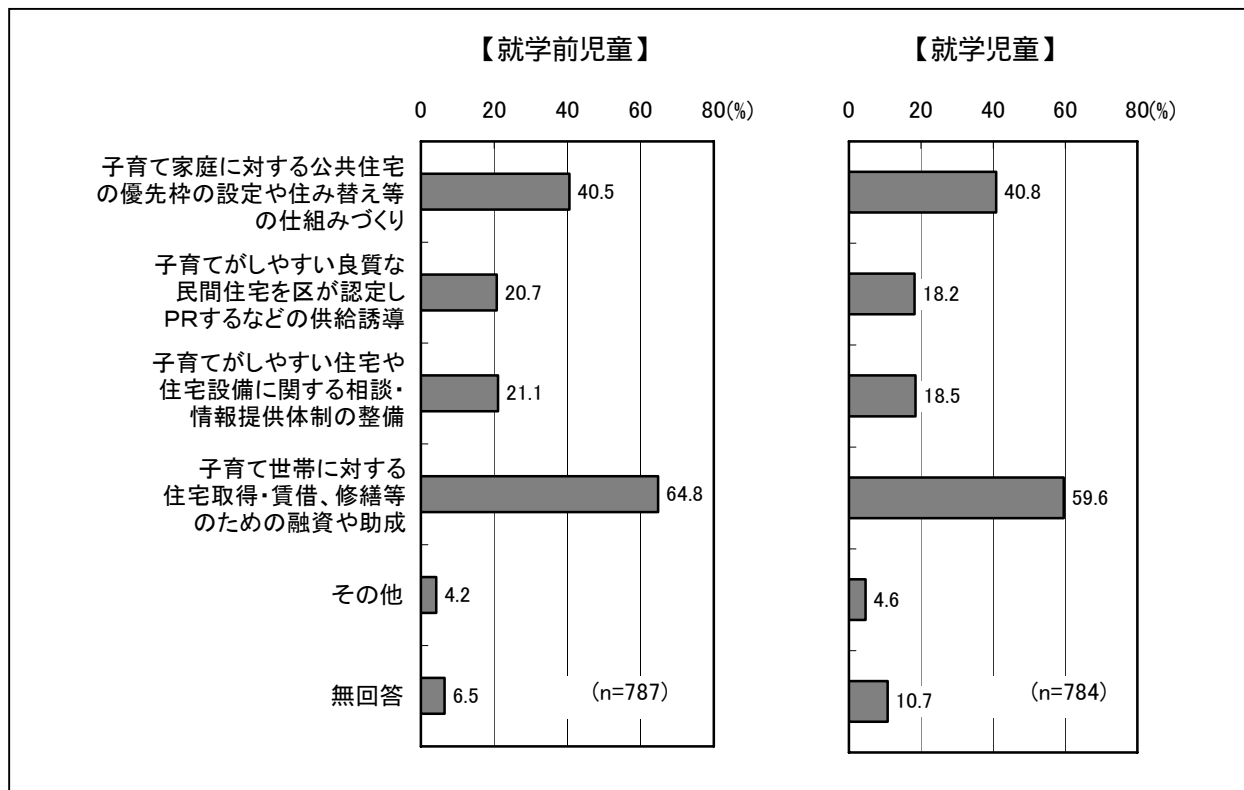
住宅で困っていること（複数回答）



(3) 子育て世帯に必要な住宅施策

子育て世帯に必要な住宅施策をみると、就学前児童の保護者・就学児童の保護者とも「子育て世帯に対する住宅取得・賃貸、修繕等のための融資や助成」が最も多くそれぞれ64.8%、59.6%となっており、次いで「子育て家庭に対する公共住宅の優先枠の設定や住み替え等の仕組みづくり」がそれぞれ40.5%、40.8%となっている。

子育て世帯に必要な住宅施策（複数回答）

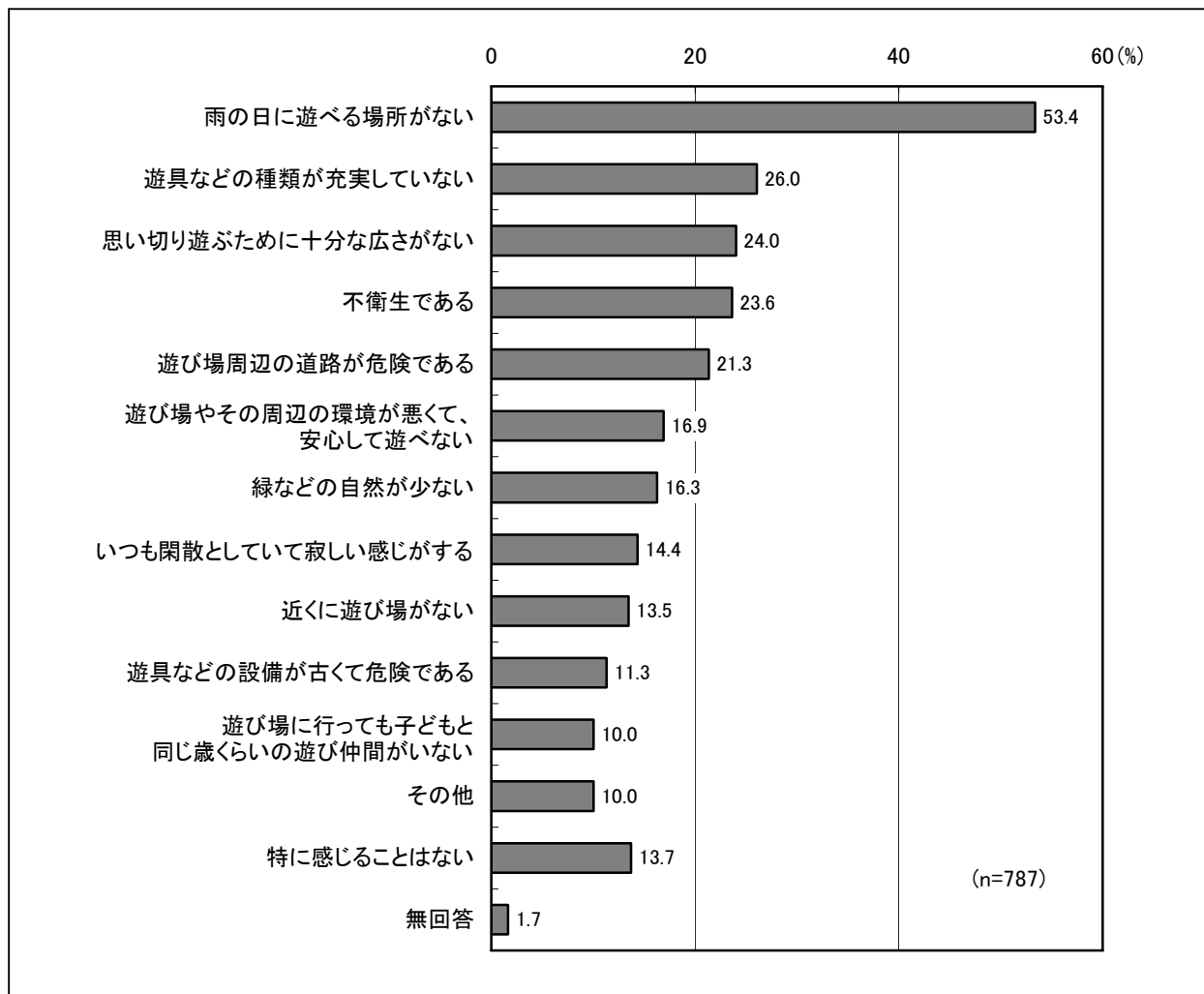


10. 子どもの遊び場や外出環境について（就学前児童が対象）

(1) 子どもの遊び場について日頃感じていること

子どもの遊び場について日頃感じていることをみると、「雨の日に遊べる場所がない」が最も多く53.4%、次いで「遊具などの種類が充実していない」が26.0%、「思い切り遊ぶために十分な広さがない」が24.0%、「不衛生である」が23.6%、「遊び場周辺の道路が危険である」が21.3%と続いている。

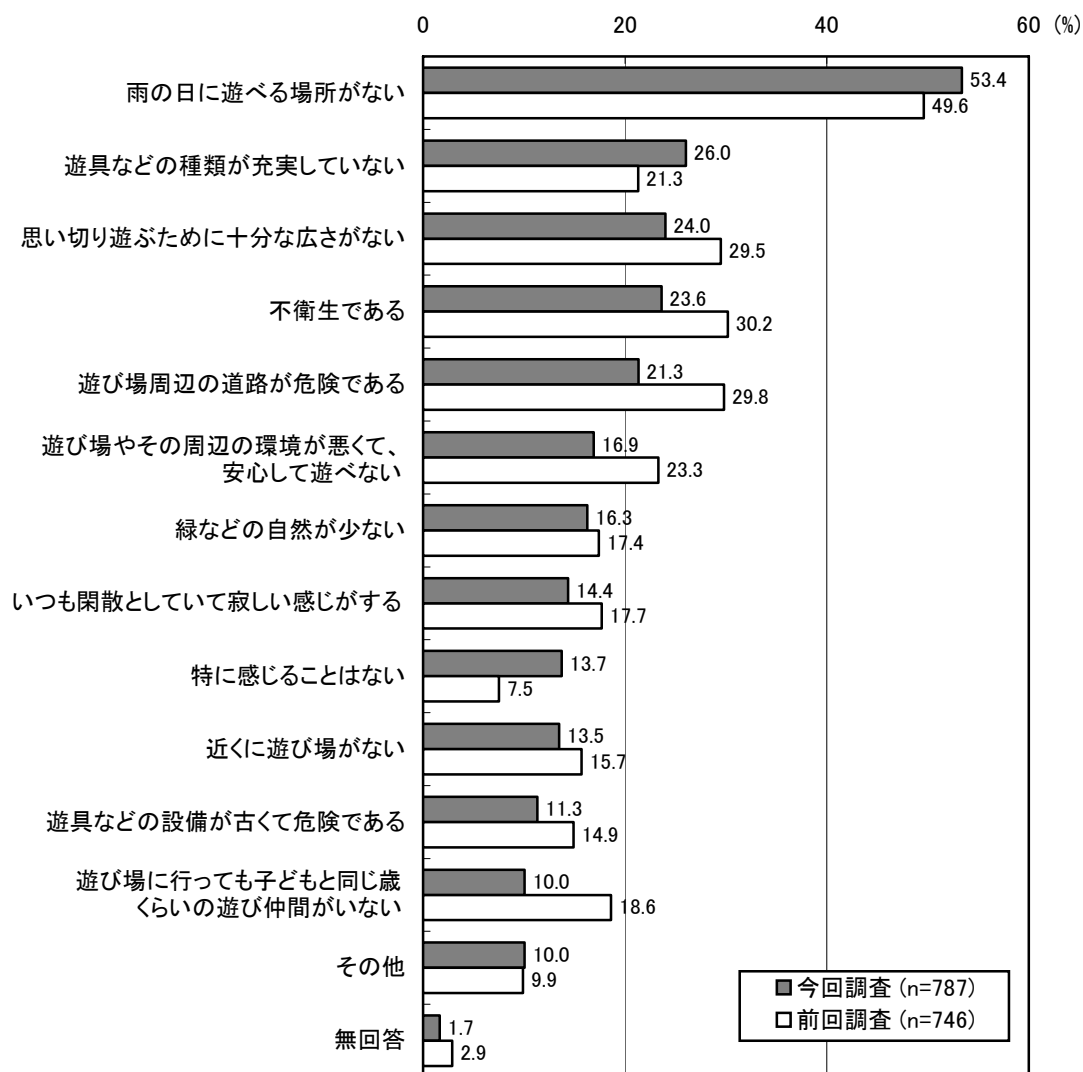
子どもの遊び場について日頃感じていること（複数回答）



【前回調査との比較】

前回調査と比較してみると、「特に感じることはない」が6.2ポイント増加しているのに対し、「遊び場に行っても子どもと同じ歳くらいの遊び仲間がない」が8.6ポイント、「遊び場周辺の道路が危険である」が8.5ポイント、「不衛生である」が6.6ポイント、「遊び場やその周辺の環境が悪くて、安心して遊べない」が6.4ポイント、「思い切り遊ぶために十分な広さがない」が5.5ポイントそれぞれ減少している。

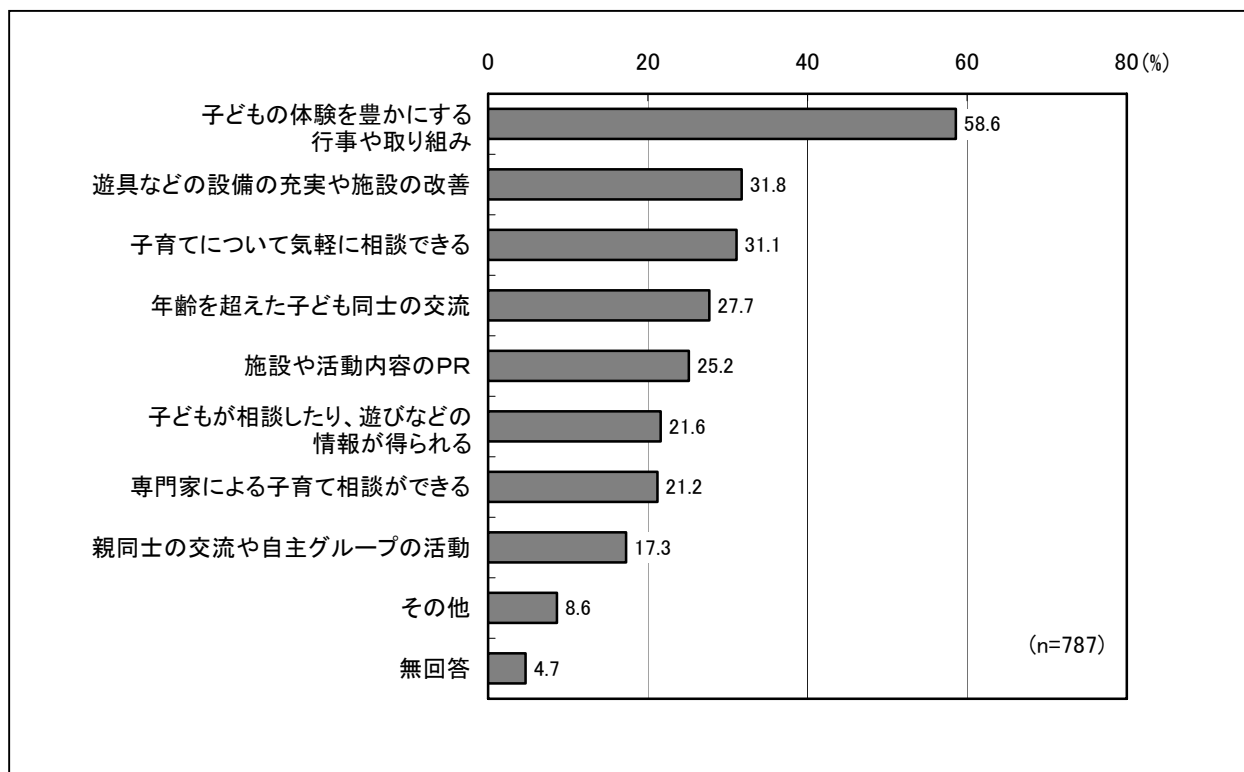
子どもの遊び場について日頃感じていること（複数回答）



(2) 児童館・児童室への要望

児童館・児童室への要望をみると、「子どもの体験を豊かにする行事や取り組み」が最も多く58.6%、次いで「遊具などの設備の充実や施設の改善」が31.8%、「子育てについて気軽に相談できる」が31.1%、「年齢を超えた子ども同士の交流」が27.7%、「施設や活動内容のPR」が25.2%と続いている。

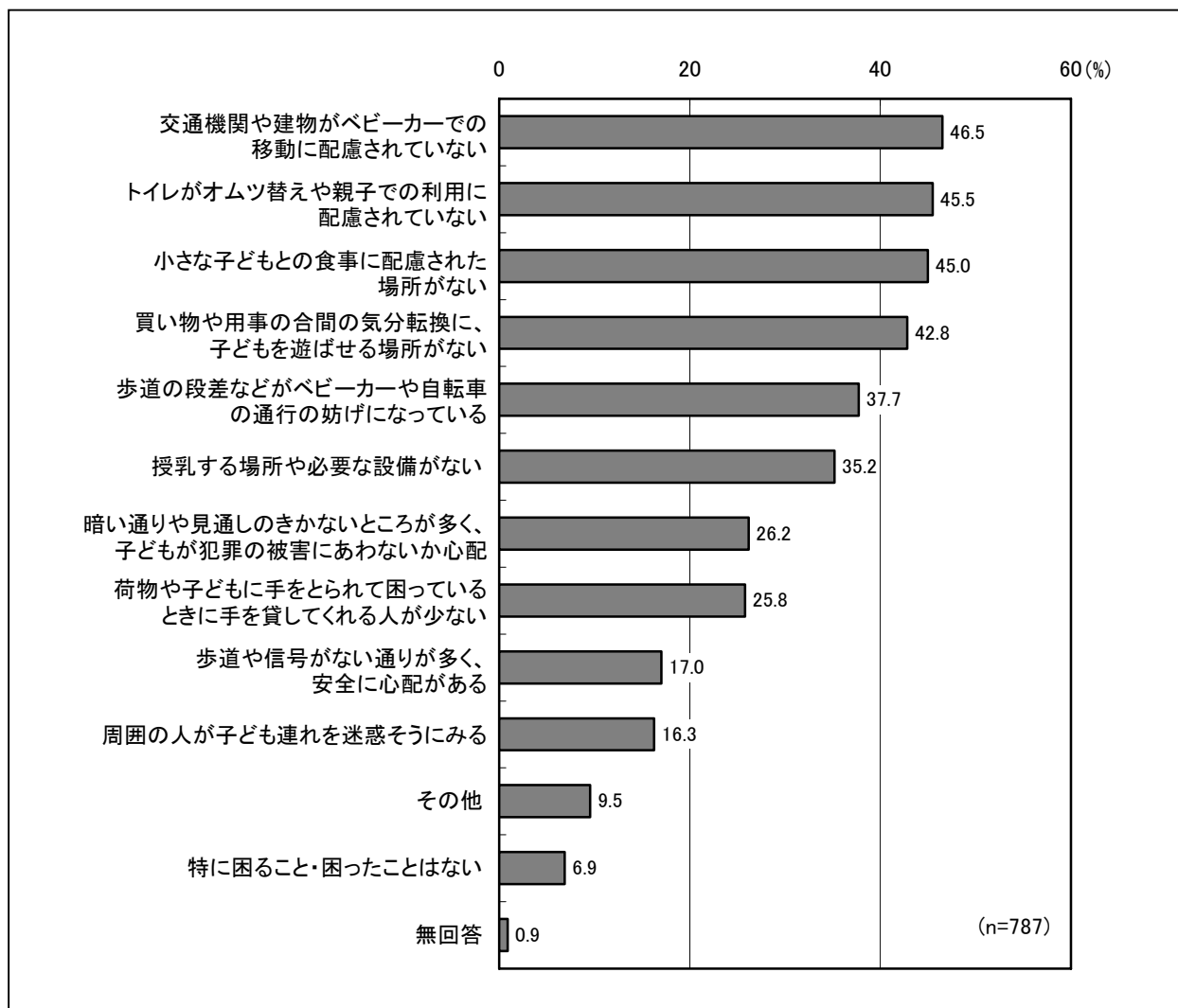
児童館・児童室への要望（複数回答）



(3) 子どもと外出するときに困ること・困ったこと

子どもと外出するときに困ること・困ったことをみると、「交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていない」が最も多く46.5%、「トイレがオムツ替えや親子での利用に配慮されていない」(45.5%)、「小さな子どもとの食事に配慮された場所がない」(45.0%)もほぼ同じ割合を示している。次いで「買い物や用事の合間の気分転換に、子どもを遊ばせる場所がない」が42.8%、「歩道の段差などがベビーカーや自転車の通行の妨げになっている」が37.7%、「授乳する場所や必要な設備がない」が35.2%と続いている。

子どもと外出するときに困ること・困ったこと(複数回答)



11. 保育サービス等の利用状況と利用意向について

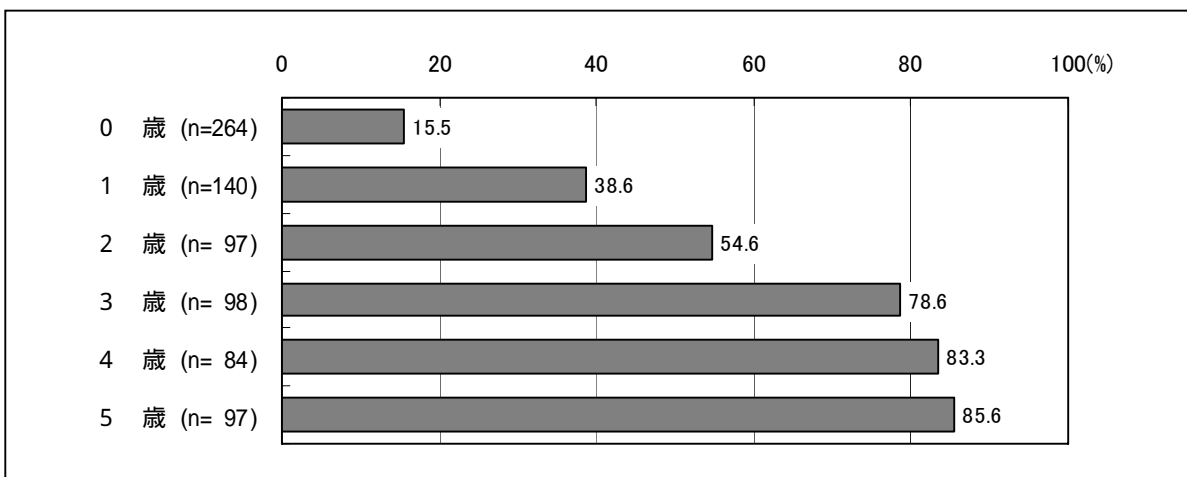
(1) 保育サービス等の利用状況(就学前児童が対象)

保育サービス等の利用状況

ア. 保育サービス等の利用状況

保育サービス等の利用状況を見ると、「利用している」と回答した人は0歳児が15.5%、1歳児が38.6%、2歳児が54.6%、3歳児が78.6%、4歳児が83.3%、5歳児が85.6%となっている。

保育サービス等の利用状況

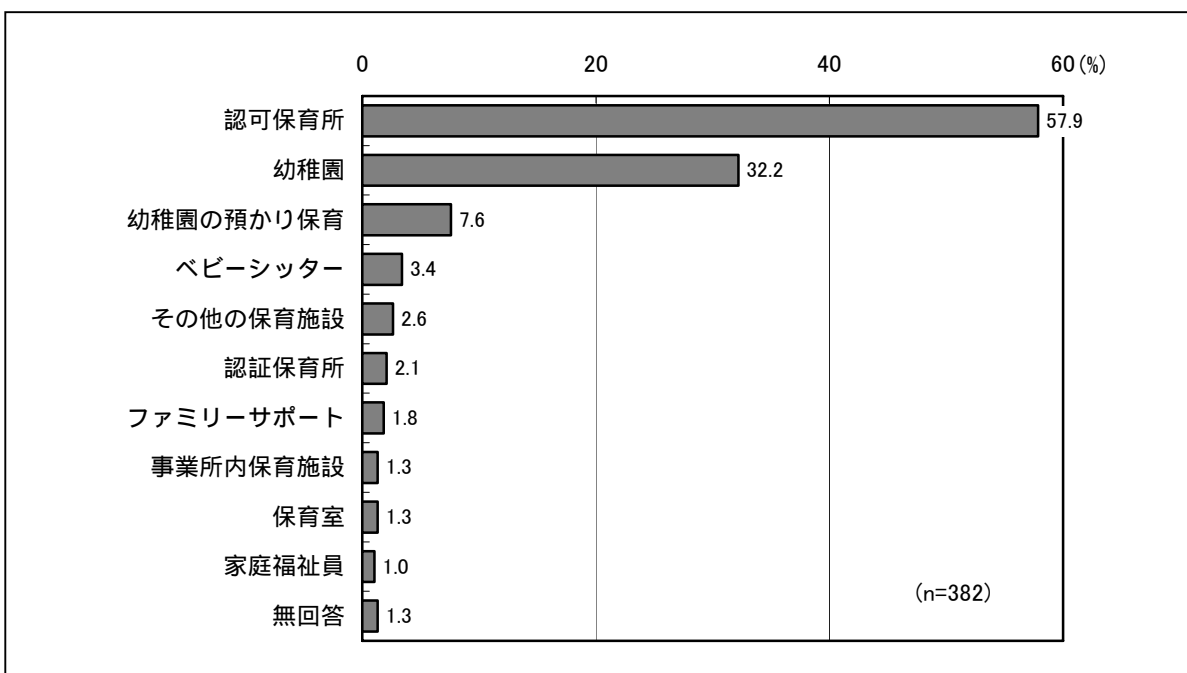


イ. 利用している保育サービス等

a. 利用している保育サービス等

保育サービス等を「利用している」と回答した人の利用している保育サービス等を見ると、「認可保育園」が最も多く57.9%、次いで「幼稚園」が32.2%、「幼稚園の預かり保育」が7.6%、「ベビーシッター」が3.4%、「その他の保育施設」が2.6%、「認証保育所」が2.1%と続いている。

利用している保育サービス等(複数回答)



b . 1 週あたりの利用日数

保育サービス等を「利用している」と回答した人の1週あたりの利用日数をみると、「5日」が最も多く認可保育所、認証保育所、幼稚園では87%を超えている。また、幼稚園の預かり保育では「1日」(44.8%)が多くなっている。

1 週あたりの利用日数

(単位:人、%)

区 分	件 数	1 日	2 日	3 日	4 日	5 日	6 日	7 日	無回答
認可保育所	221	0.5	1.4	-	2.3	87.8	6.3	-	1.8
認証保育所	8	-	-	-	-	87.5	12.5	-	-
保育室	5	-	-	-	20.0	40.0	20.0	-	20.0
家庭福祉員	4	25.0	-	-	-	75.0	-	-	-
事業所内保育施設	5	-	20.0	-	-	80.0	-	-	-
その他の保育施設	10	20.0	10.0	20.0	-	30.0	10.0	-	10.0
幼稚園	123	1.6	-	0.8	1.6	87.8	2.4	-	5.7
幼稚園の預かり保育	29	44.8	13.8	10.3	-	17.2	-	-	13.8

c . 1 日あたりの利用時間

保育サービス等を「利用している」と回答した人の1日あたりの利用時間をみると、認可保育所では「8～10時間未満」が最も多く46.6%、「10～12時間未満」(33.0%)も含めると、認可保育所利用者の約8割が「8～12時間未満」利用している。また、幼稚園では「4～6時間未満」(70.7%)、幼稚園の預かり保育では「2～4時間未満」(65.5%)がそれぞれ最も多い。

1 日あたりの利用時間

(単位:人、%)

区 分	件 数	2時間未満	2～4時間未満	4～6時間未満	6～8時間未満	8～10時間未満	10～12時間未満	12時間以上	無回答
認可保育所	221	-	0.5	1.8	15.4	46.6	33.0	1.8	0.9
認証保育所	8	-	-	-	37.5	25.0	37.5	-	-
保育室	5	-	-	-	60.0	20.0	20.0	-	-
家庭福祉員	4	-	-	-	25.0	75.0	-	-	-
事業所内保育施設	5	-	-	20.0	40.0	-	40.0	-	-
その他の保育施設	10	-	30.0	40.0	10.0	20.0	-	-	-
幼稚園	123	2.4	2.4	70.7	21.1	-	-	-	3.3
幼稚園の預かり保育	29	20.7	65.5	3.4	-	3.4	-	-	6.9

d . 利用開始時間と利用終了時間

(a) 利用開始時間

保育サービス等を「利用している」と回答した人の保育サービス等の利用開始時間をみると、認可保育所では「8時」が最も多く47.5%、「9時」（40.3%）も含めると、「8～9時」が8割以上を占めている。幼稚園では「9時」が最も多く73.2%、幼稚園の預かり保育では「14時以降」が86.2%となっている。

利用開始時間

(単位:人、%)

区 分	件 数	7時以前	8 時	9 時	10 時	11 時	12 時	13 時	14時以降	無回答
認可保育所	221	9.0	47.5	40.3	2.3	0.5	-	-	-	0.5
認証保育所	8	-	37.5	50.0	-	-	-	-	12.5	-
保育室	5	-	20.0	60.0	-	20.0	-	-	-	-
家庭福祉員	4	-	50.0	25.0	25.0	-	-	-	-	-
事業所内保育施設	5	-	20.0	60.0	20.0	-	-	-	-	-
その他の保育施設	10	-	10.0	50.0	20.0	-	-	-	20.0	-
幼稚園	123	-	10.6	73.2	8.9	-	-	2.4	-	4.9
幼稚園の預かり保育	29	-	3.4	3.4	-	-	-	-	86.2	6.9

(b) 利用終了時間

保育サービス等を「利用している」と回答した人の保育サービス等の利用終了時間をみると、認可保育所では「18時」が最も多く37.6%、「17時」（26.7%）、「16時」（23.5%）も含めると、「16～18時」が約9割を占めている。また、幼稚園では「14時」が最も多く71.5%となっている。幼稚園の預かり保育では「16時」が最も多く37.9%、「17時」（31.0%）、「15時」（20.7%）を含めると、利用終了時間は「15～17時」が約9割を占めている。

利用終了時間

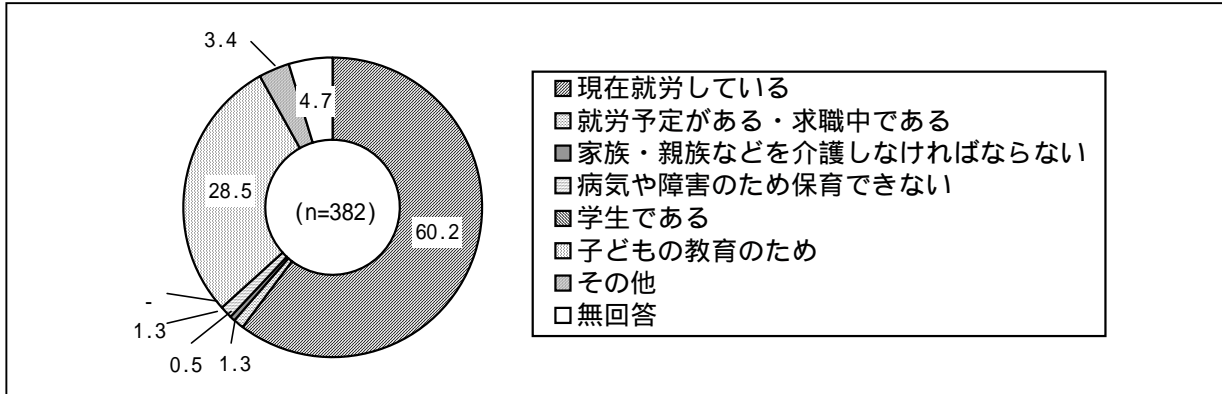
(単位:人、%)

	件 数	13時以前	14 時	15 時	16 時	17 時	18 時	19 時	20時以降	無回答
認可保育所	221	1.4	0.5	0.9	23.5	26.7	37.6	7.7	0.9	0.9
認証保育所	8	-	12.5	-	12.5	12.5	37.5	12.5	12.5	-
保育室	5	-	-	-	40.0	40.0	20.0	-	-	-
家庭福祉員	4	-	-	-	25.0	25.0	50.0	-	-	-
事業所内保育施設	5	-	20.0	20.0	-	20.0	20.0	20.0	-	-
その他の保育施設	10	20.0	30.0	10.0	-	20.0	-	-	20.0	-
幼稚園	123	8.9	71.5	13.0	1.6	-	-	-	-	4.9
幼稚園の預かり保育	29	-	3.4	20.7	37.9	31.0	-	-	-	6.9

保育サービス等を利用している理由

保育サービス等を「利用している」と回答した人の保育サービス等を利用している理由をみると、「現在就労している」が最も多く60.2%、次いで「子どもの教育のため」が28.5%となっている。

保育サービス等を利用している理由

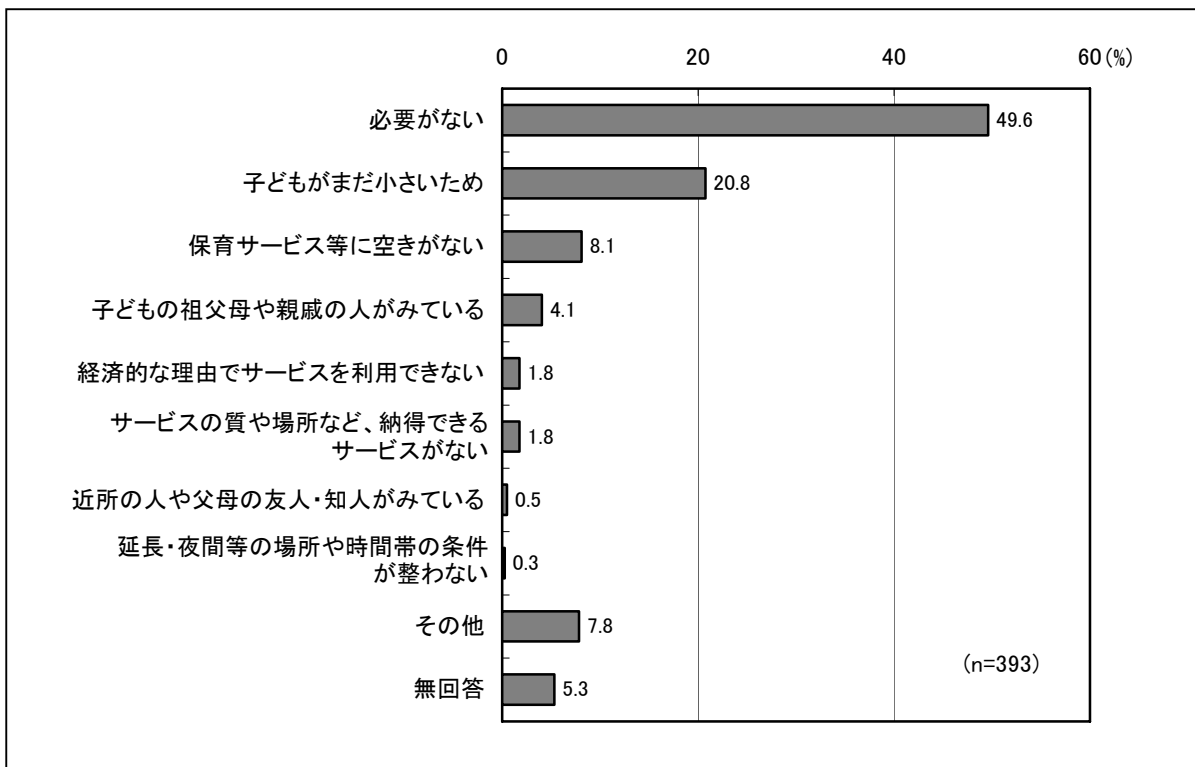


保育サービス等を利用していない理由

ア．保育サービス等を利用していない主な理由

保育サービス等を「利用していない」と回答した人の保育サービス等を利用していない主な理由をみると、「必要がない」が最も多く49.9%、次いで「子どもがまだ小さいため」が20.8%となっている。

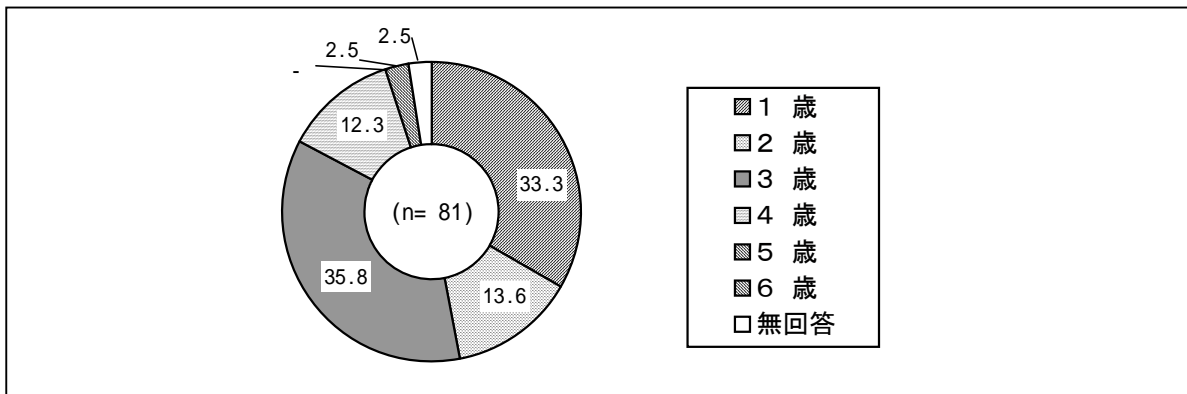
保育サービス等を利用していない主な理由



イ．子どもを預ける年齢

保育サービス等を利用していない理由で「子どもがまだ小さいため」と回答した人の子どもを預ける年齢をみると、「3歳」が最も多く35.8%、「1歳」（33.3%）、「2歳」（13.6%）を含めると、「1～3歳」が8割以上を占めている。

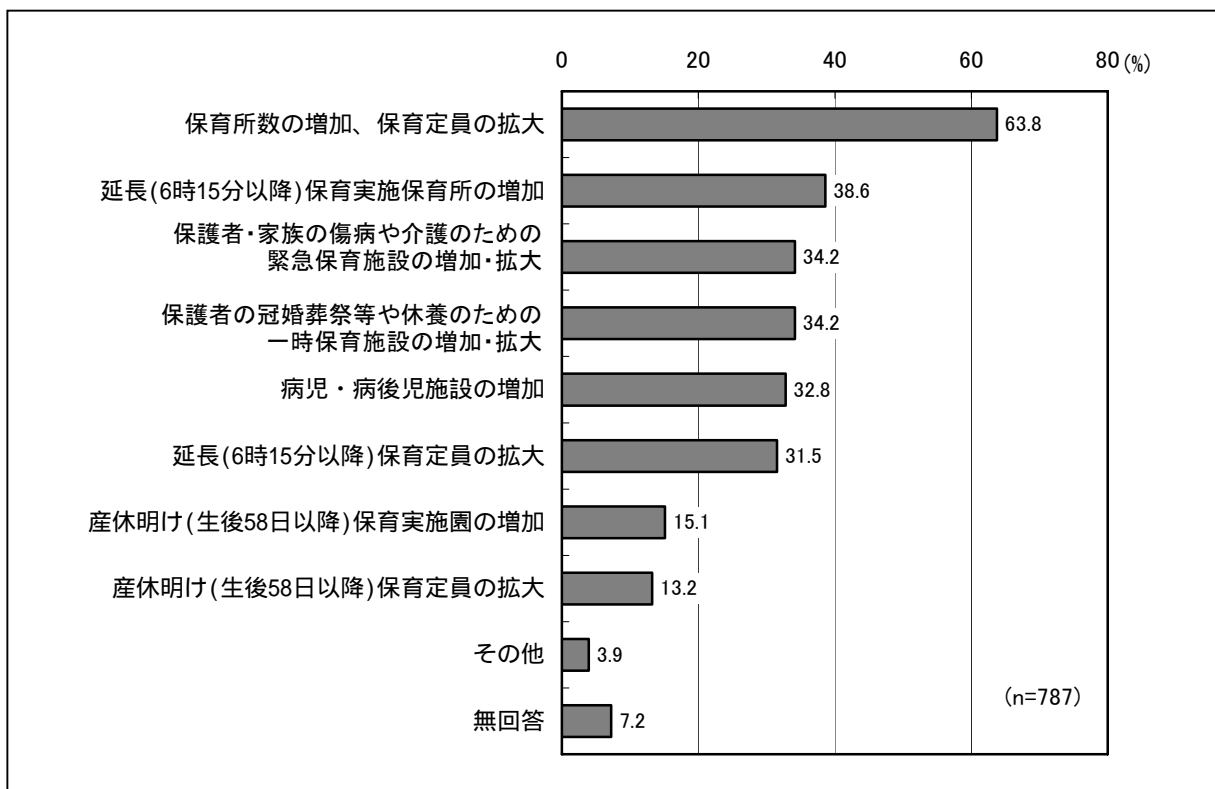
子どもを預ける年齢



認可保育所で充実する必要があること

認可保育所で充実する必要があることをみると、「保育所数の増加・保育定員の拡大」が最も多く63.8%、次いで「延長(6時15分以降)保育実施保育所の増加」が38.6%、「保護者・家族の傷病や介護のための緊急保育施設の増加・拡大」「保護者の冠婚葬祭等や休養のための一時保育施設の増加・拡大」がともに34.2%、「病児・病後児施設の増加」が32.8%、「延長(6時15分以降)保育定員の拡大」が31.5%と続いている。

認可保育所で充実する必要があること（複数回答）



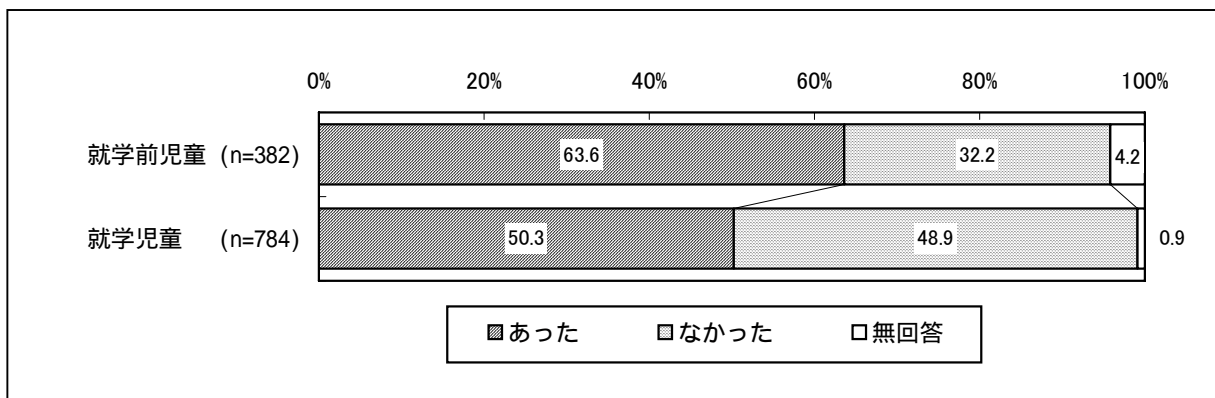
(2) 病児・病後児保育の利用状況

子どもが病気等で保育サービス等を利用できなかったことや学校を休まなければならなかったことの有無

子どもが病気等で保育サービス等を利用できなかったことや学校を休まなければならなかったことの有無をみると、就学前児童の保護者では「あった」が63.6%、「なかった」が32.2%となっている。

就学児童の保護者では「あった」が50.3%、「なかった」が48.9%となっている。

子どもが病気等で保育サービス等を利用できなかったことや学校を休まなければならなかったことの有無



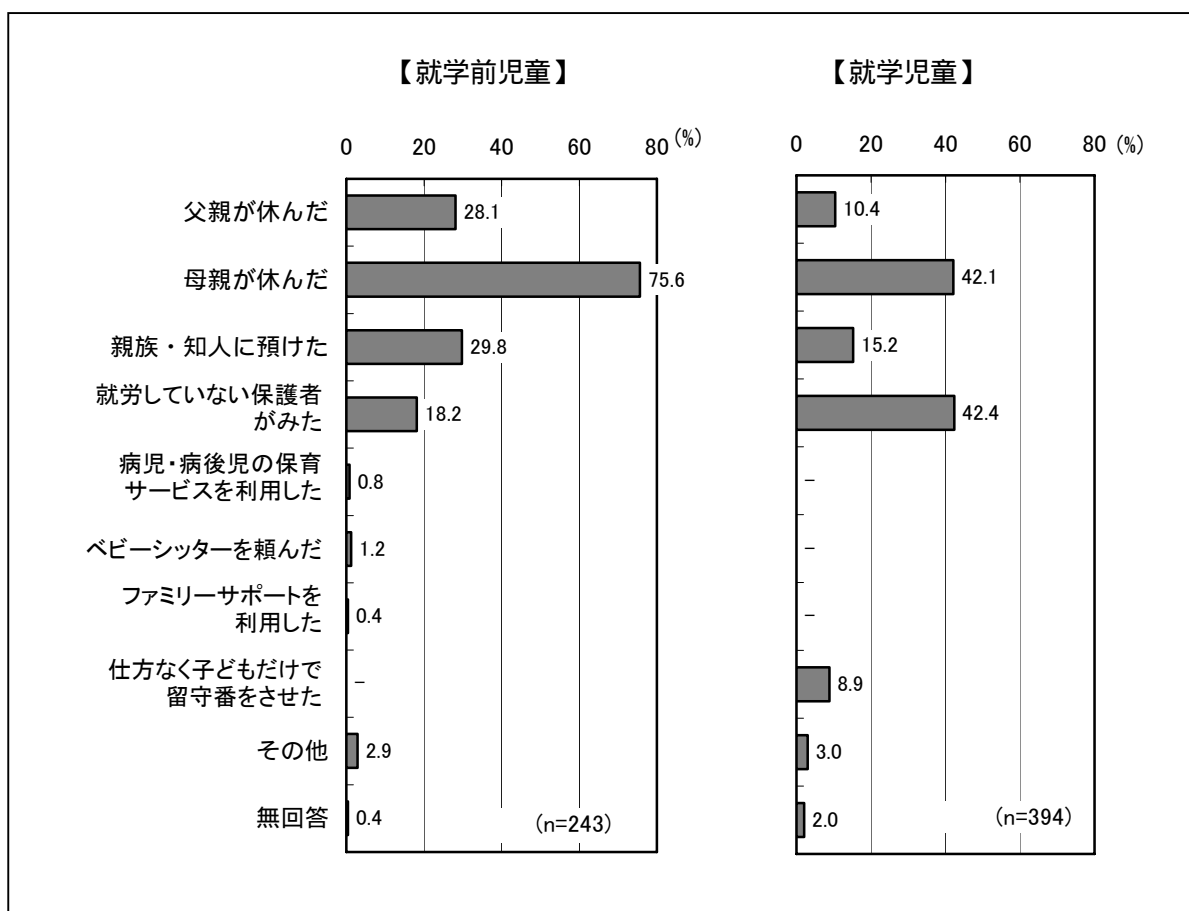
対処方法と対処日数

ア．1年間の対処方法

子どもが病気等で保育サービス等を利用できなかったことや学校を休まなければならなかったことが「あった」と回答した人の1年間の対処方法をみると、就学前児童の保護者では「母親が休んだ」が最も多く75.6%、次いで「親族・知人に預けた」が29.8%、「父親が休んだ」が28.1%、「就労していない保護者がみた」が18.2%と続いている。

就学児童の保護者では「就労していない保護者がみた」が最も多く42.4%、「母親が休んだ」(42.1%)もほぼ同じ割合を示している。次いで「親族・知人に預けた」が15.2%、「父親が休んだ」が10.4%と続いている。なお、「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」も8.9%あった。

1年間の対処方法（複数回答）



イ．1年間の対処日数

子どもが病気等で保育サービス等を利用できなかったことや学校を休まなければならなかったことが「あった」と回答した人の1年間の対処日数をみると、就学前児童の保護者では父親が休んだ場合は「1～4日」(60.9%)、母親が休んだ場合は「1～4日」(26.6%)、「5～9日」(24.5%)、「10～14日」(21.7%)、親族・知人に預けた場合や就労していない保護者がみた場合は「1～4日」(それぞれ36.1%、36.4%)、「5～9日」(それぞれ29.2%、34.1%)が多い。

就学児童の保護者では父親が休んだ、母親が休んだ、親族・知人に預けた、就労していない保護者がみた場合も「1～4日」が最も多く6割～8割を占めている。なお、仕方なく子どもだけで留守番させたも、「1～4日」が最も多く8割を占めている。

1年間の対処日数(複数回答)

(単位:人、%)

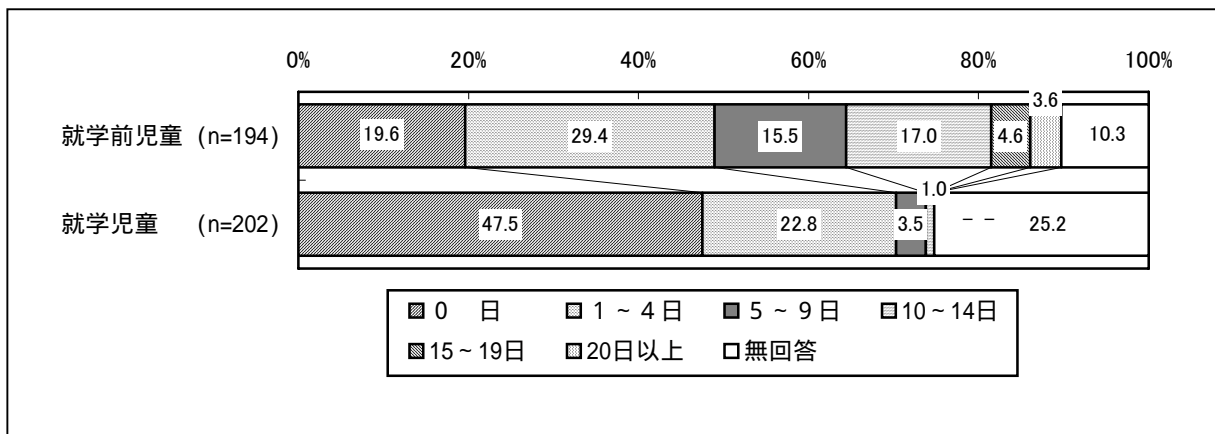
区 分		全 体	0 日	1～4日	5～9日	10～14日	15～19日	20日以上	無回答
就 学 前 児 童	父親が休んだ	69	-	60.9	24.6	7.2	2.9	2.9	1.4
	母親が休んだ	184	-	26.6	24.5	21.7	6.0	15.2	6.0
	親族・知人に預けた	72	-	36.1	29.2	19.4	2.8	11.1	1.4
	就労していない保護者がみた	44	-	36.4	34.1	13.6	4.5	9.1	2.3
	病児・病後児の保育サービスを利用した	3	-	100.0	-	-	-	-	-
	ベビーシッターを頼んだ	3	-	66.7	-	-	-	33.3	-
	ファミリーサポートを利用した	1	-	-	100.0	-	-	-	-
	仕方なく子どもだけで留守番させた	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他	7	-	28.6	-	42.9	-	28.6	-
就 学 児 童	父親が休んだ	41	7.3	80.5	7.3	2.4	-	-	2.4
	母親が休んだ	166	-	77.7	12.0	4.8	0.6	-	4.8
	親族・知人に預けた	60	1.7	78.3	15.0	1.7	-	-	3.3
	就労していない保護者がみた	167	-	64.1	14.4	7.2	-	4.8	9.6
	病児・病後児の保育サービスを利用した	-	-	-	-	-	-	-	-
	ベビーシッターを頼んだ	-	-	-	-	-	-	-	-
	ファミリーサポートを利用した	-	-	-	-	-	-	-	-
	仕方なく子どもだけで留守番させた	35	-	80.0	14.3	5.7	-	-	-
	その他	12	-	41.7	16.7	8.3	-	16.7	16.7

施設等に預けたいと思った日数

子どもが病気等で保育サービス等を利用できなかったことや学校を休まなければならなかったときに、「父親が休んだ」「母親が休んだ」「親族・知人に預けた」と回答した人の施設等に預けたいと思った日数をみると、就学前児童の保護者では「1～4日」が最も多く29.4%、次いで「0日」が19.6%、「10～14日」が17.0%、「5～9日」が15.5%となっている。

就学児童の保護者では「0日」が最も多く47.5%、次いで「1～4日」が22.8%となっている。

施設等に預けたいと思った日数



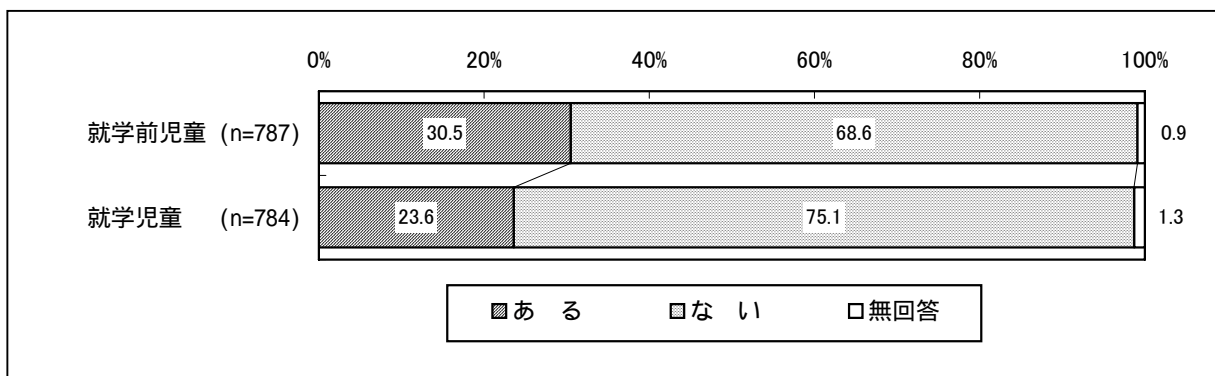
(3) 一時保育の利用状況

子どもを家族以外に一時的に預けたことの有無

この1年間に、私用やリフレッシュ、冠婚葬祭等で子どもを家族以外に一時的に預けたことの有無をみると、就学前児童の保護者では「ある」が30.5%、「ない」が68.6%となっている。

就学児童の保護者では「ある」が23.6%、「ない」が75.1%となっている。

子どもを家族以外に一時的に預けたことの有無

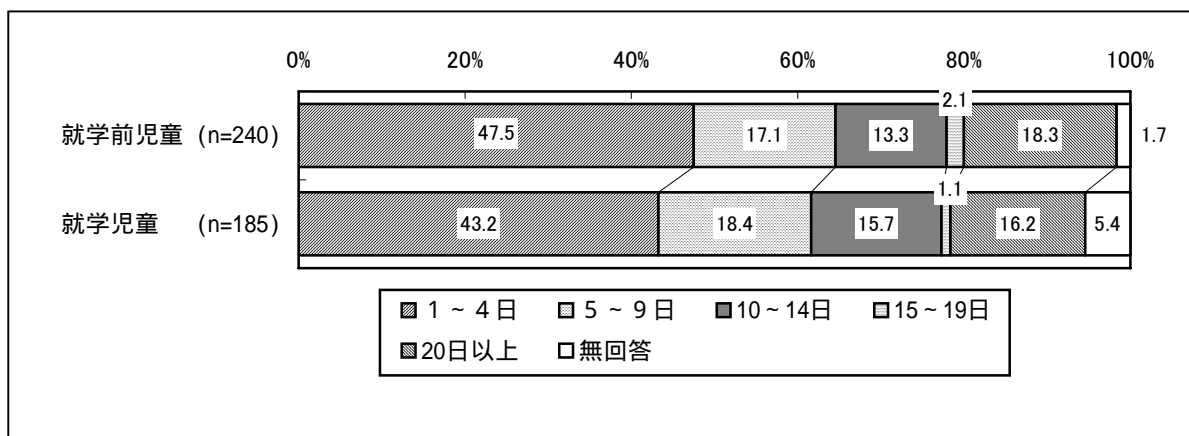


1年間の対処日数と子どもを預けた理由別の日数

ア. 1年間の対処日数

この1年間に、私用やリフレッシュ、冠婚葬祭等で子どもを家族以外に一時的に預けたことが「ある」と回答した人の対処日数をみると、就学前児童の保護者・就学児童の保護者とも「1～4日」が最も多くそれぞれ47.5%、43.2%となっている。

1年間の対処日数

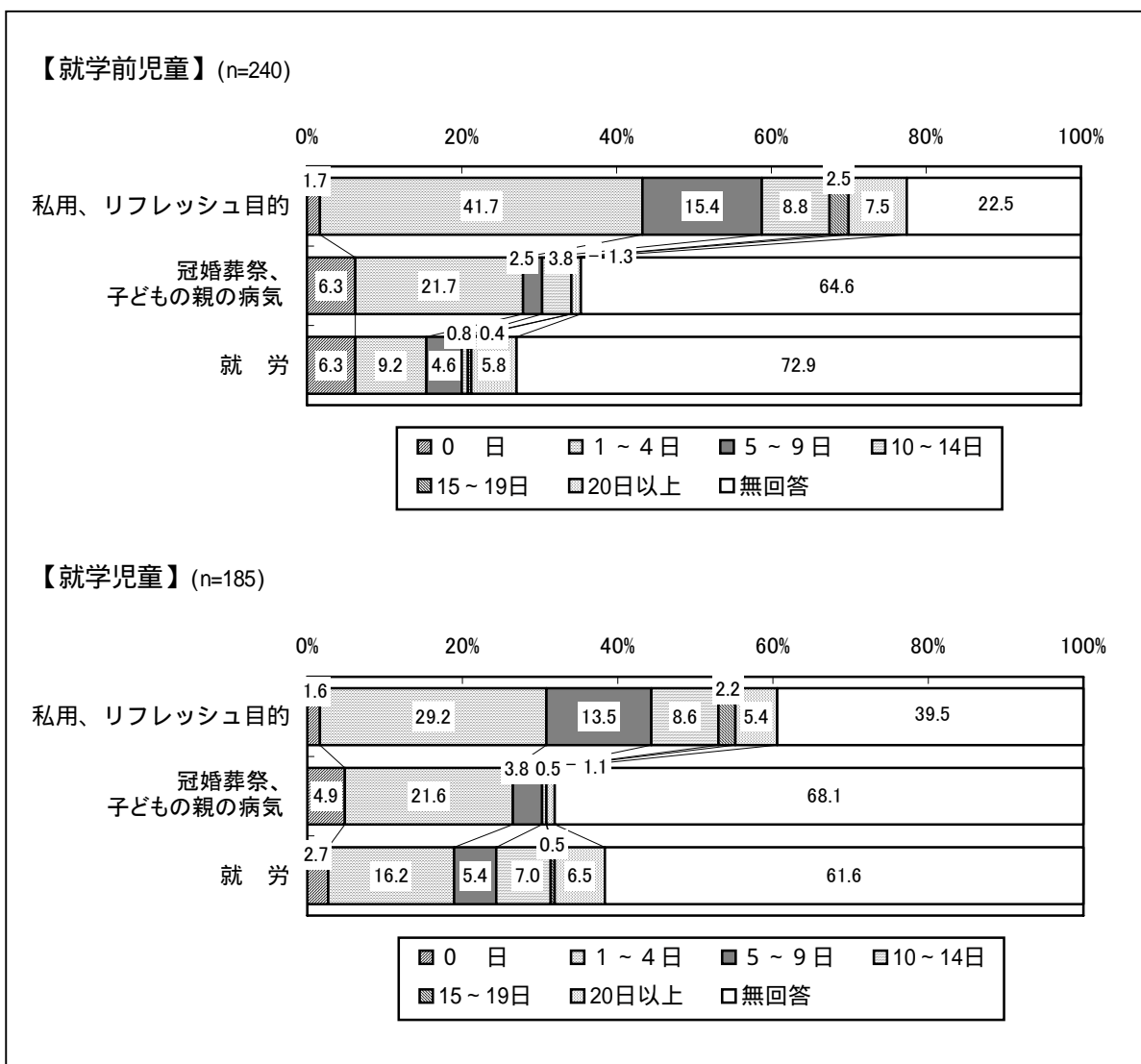


イ．子どもを預けた理由別の日数

この1年間に、私用やリフレッシュ、冠婚葬祭等で子どもを家族以外に一時的に預けたことが「ある」と回答した人の子どもを預けた理由別の日数をみると、就学前児童の保護者では私用、リフレッシュ目的で「1～4日」が最も多く41.7%、次いで「5～9日」が15.4%、「10～14日」が8.8%となっている。冠婚葬祭、子どもの親の病気では「1～4日」が最も多く21.7%、次いで「0日」が6.3%となっている。就労では「1～4日」が9.2%、次いで「0日」が6.3%となっている。

就学児童の保護者では私用、リフレッシュ目的で「1～4日」が最も多く29.2%、次いで「5～9日」が13.5%、「10～14日」が8.6%となっている。冠婚葬祭、子どもの親の病気では「1～4日」が最も多く21.6%、次いで「0日」が4.9%となっている。就労では「1～4日」が16.2%、次いで「10～14日」が7.0%、「20日以上」が6.5%、「5～9日」が5.4%となっている。

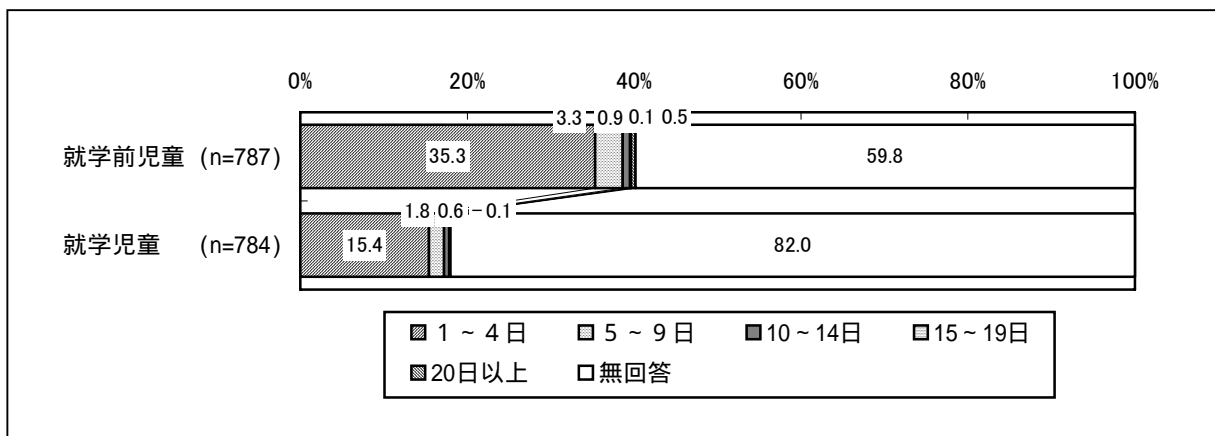
子どもを預けた理由別の日数



利用希望日数

今後の利用希望日数をみると、就学前児童の保護者・就学児童の保護者とも「1～4日」が最も多くそれぞれ35.3%、15.4%となっている。

利用希望日数

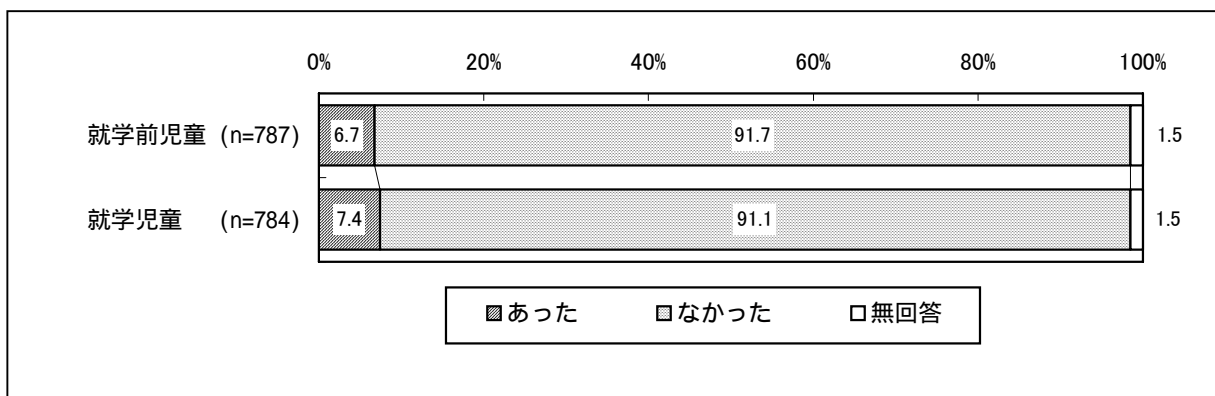


(4) ショートステイの利用状況

子どもを泊りがけで預けなければならなかったことの有無

この1年間に、子どもを泊りがけで預けなければならなかったことの有無をみると、就学前児童の保護者、就学児童の保護者とも「なかった」が9割以上を占めており、「あった」は就学前児童の保護者が6.7%、就学児童の保護者が7.4%となっている。

子どもを泊りがけで預けなければならなかったことの有無

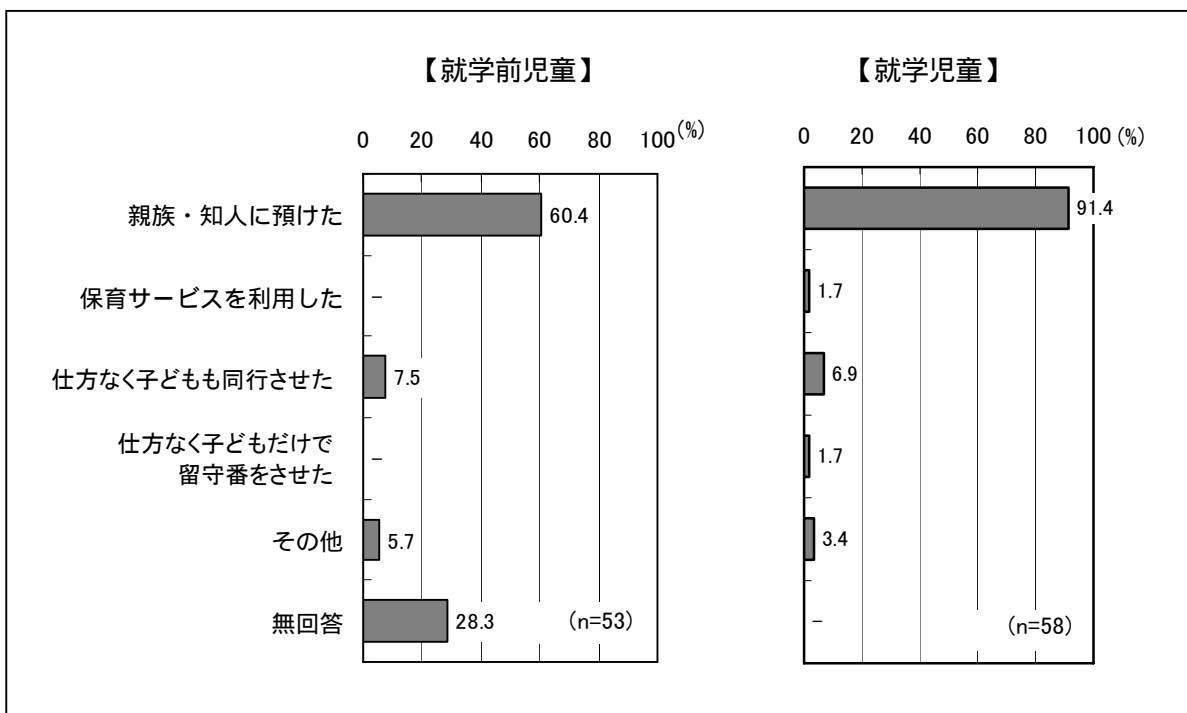


対処方法と対処日数

ア．対処方法

この1年間に、子どもを泊りがけで預けなければならなかったことが「あった」と回答した人の対処方法をみると、就学前児童の保護者・就学児童の保護者とも「親族・知人に預けた」が最も多くそれぞれ60.4%、91.4%となっている。

対処方法（複数回答）



イ．対処日数

この1年間に、子どもを泊りがけで預けなければならなかったことが「あった」と回答した人の対処日数をみると、就学前児童の保護者・就学児童の保護者とも親族・知人に預けた人で「1～4泊」が多くそれぞれ65.6%、67.9%となっている。

対処日数（複数回答）

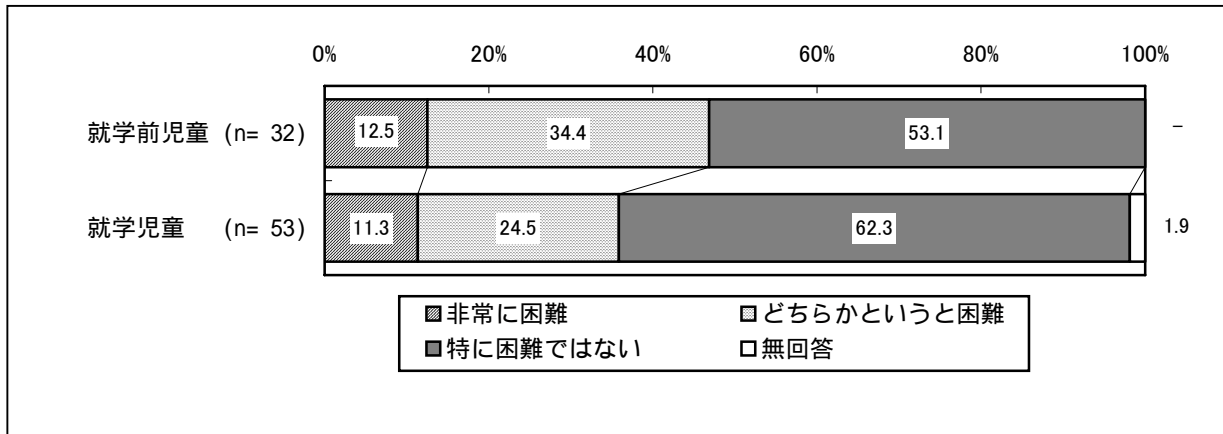
(単位:人、%)

区 分		件 数	1～4泊	5～9泊	10～14泊	15～19泊	20泊以上	無回答
就学前児童	親族・知人に預けた	32	65.6	9.4	15.6	3.1	6.3	-
	保育サービスを利用した	-	-	-	-	-	-	-
	仕方なく子どもも同行させた	4	75.0	25.0	-	-	-	-
	仕方なく子どもだけで留守番をさせた	-	-	-	-	-	-	-
	その他	3	66.7	-	-	-	33.3	-
	就学児童	親族・知人に預けた	53	67.9	11.3	7.5	-	9.4
保育サービスを利用した		1	-	-	100.0	-	-	-
仕方なく子どもも同行させた		4	75.0	-	-	-	-	25.0
仕方なく子どもだけで留守番をさせた		1	100.0	-	-	-	-	-
その他		2	50.0	-	-	-	50.0	-

親族・知人に預けるときにの困難度

対処方法で「親族・知人に預けた」と回答した人の子どもを預けるときにの困難度をみると、“困難”（「非常に困難」+「どちらかという困難」）は就学前児童の保護者が46.9%（12.5%+34.4%）、就学児童の保護者が35.8%（11.3%+24.5%）、「特に困難ではない」は就学前児童の保護者が53.1%、就学児童の保護者が62.3%となっている。

親族・知人に預けるときにの困難度



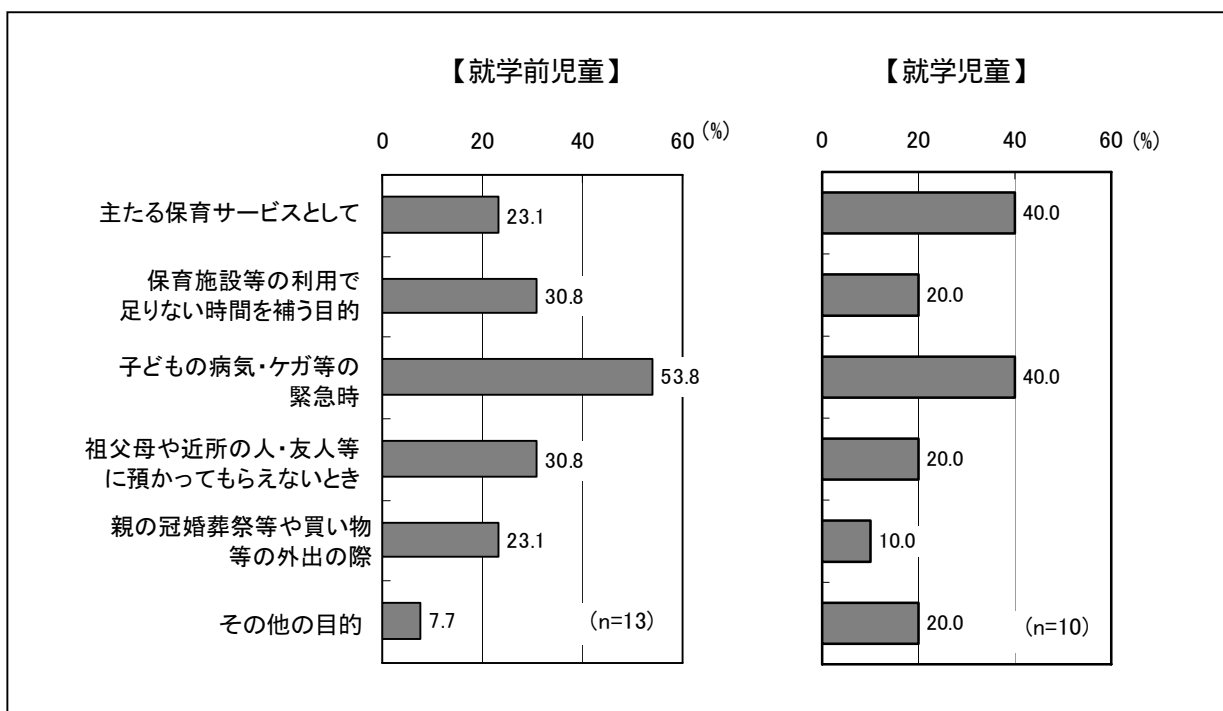
(5) ベビーシッターの利用状況

ベビーシッター利用の目的

ベビーシッターを利用している人の目的をみると、就学前児童の保護者では「子どもの病気・ケガ等の緊急時」が最も多く53.8%、次いで「保育施設等の利用で足りない時間を補う目的」「祖父母や近所の人・友人等に預かってもらえないとき」がともに30.8%となっている。

就学児童の保護者では「主たる保育サービスとして」「子どもの病気・ケガ等の緊急時」が最も多くともに40.0%となっている。

ベビーシッター利用の目的（複数回答）

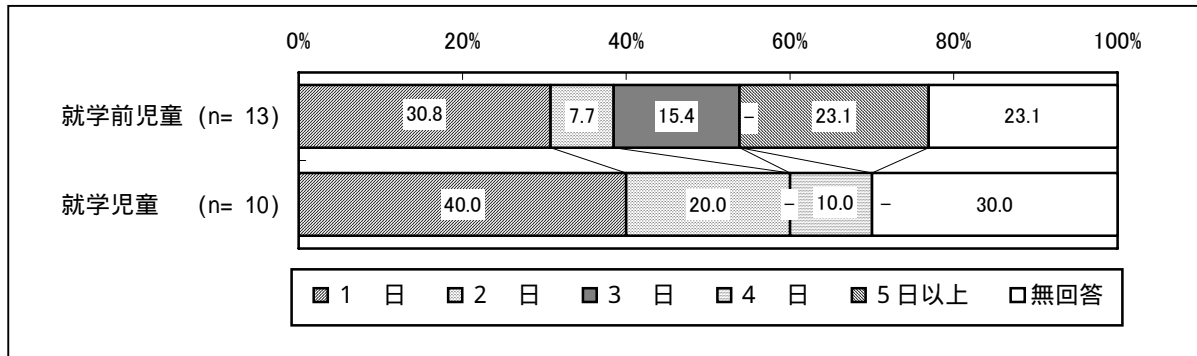


利用頻度

ア．1カ月あたりの利用日数

ベビーシッターを利用している人の1カ月あたりの利用日数をみると、就学前児童の保護者、就学児童の保護者とも「1日」が最も多く、就学前児童の保護者が30.8%、就学児童の保護者が40.0%となっている。

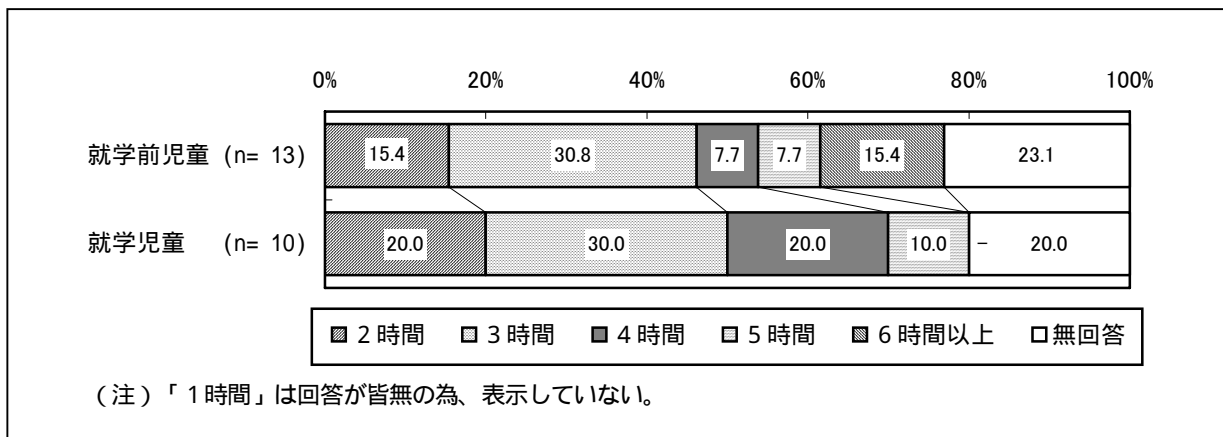
1カ月あたりの利用日数



イ．1回あたりの利用時間

ベビーシッターを利用している人の1回あたりの利用時間をみると、就学前児童の保護者、就学児童の保護者とも「3時間」が最も多く、就学前児童の保護者が30.8%、就学児童の保護者が30.0%となっている。

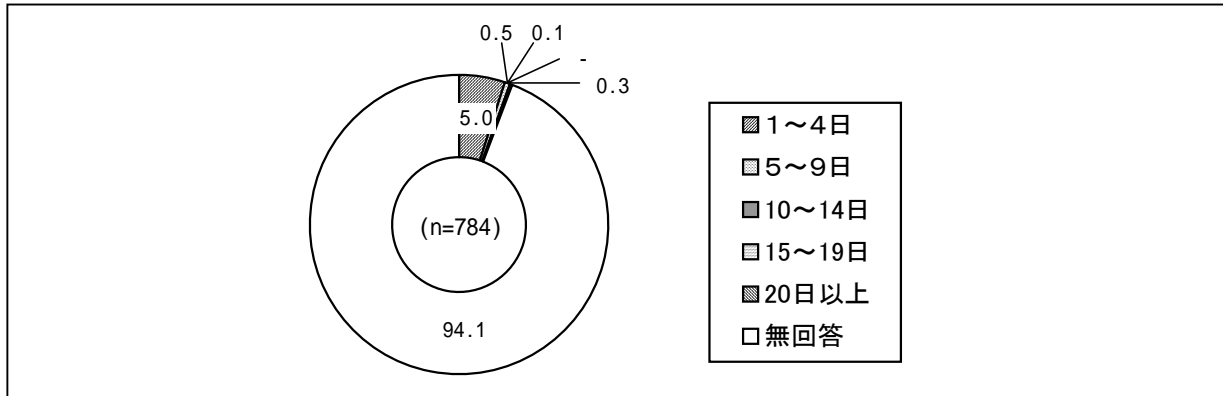
1回あたりの利用時間



1 カ月あたりの利用希望日数（就学児童が対象）

ベビーシッターを、今は利用していないができれば利用したい人、あるいは利用頻度を増やしたいと思っている人の1カ月あたりの利用希望日数をみると、就学児童の保護者では「1～4日」が最も多く5.0%となっている。

1 カ月あたりの利用希望日数

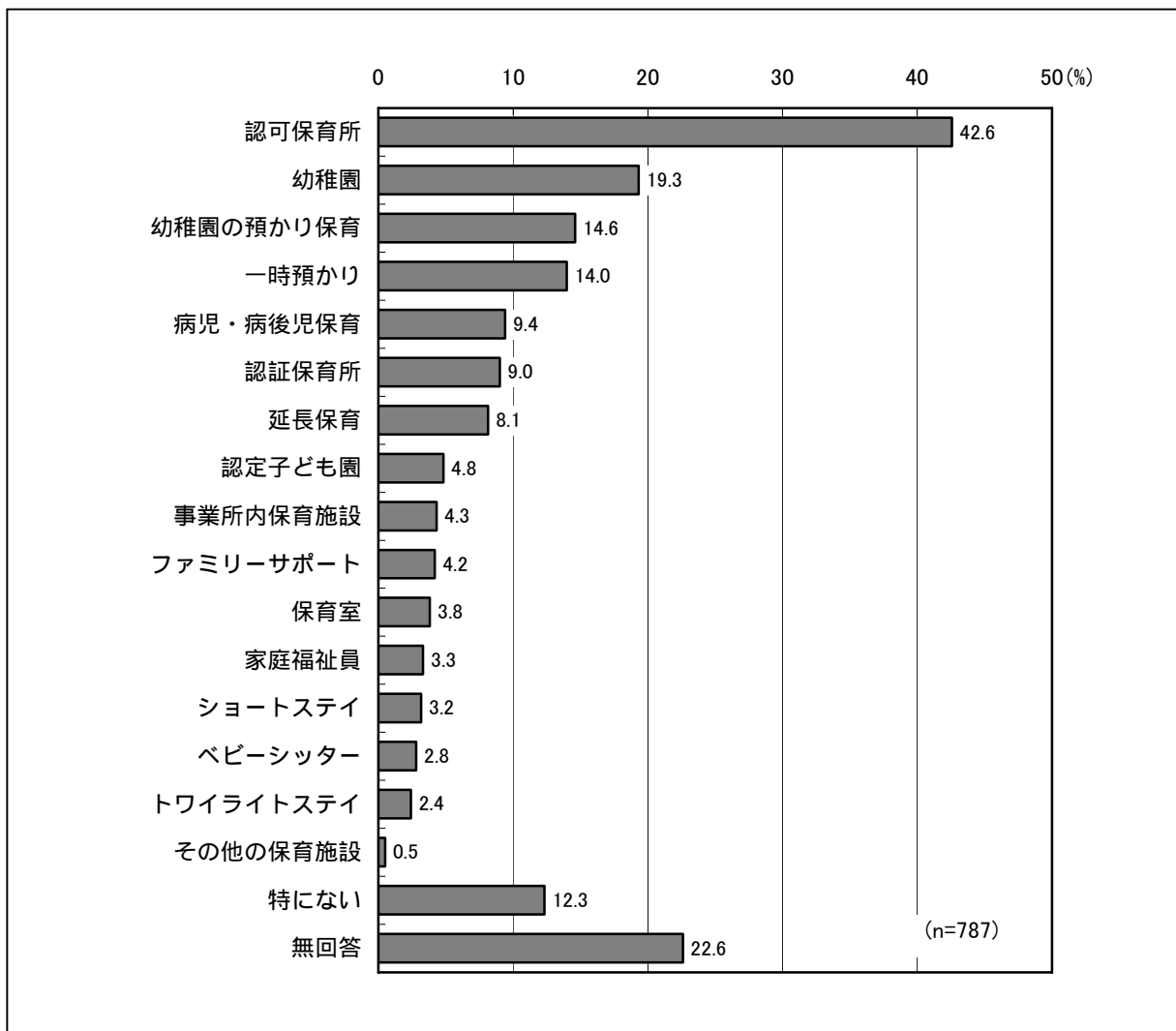


(6) 保育サービス等の利用意向(就学前児童が対象)

保育サービス等の利用意向

保育サービス等を利用していないができれば利用したい、あるいは、足りていないと思う保育サービス等について、保育サービス等の利用意向をみると、「認可保育所」が最も多く42.6%、次いで「幼稚園」が19.3%、「幼稚園の預かり保育」が14.6%、「一時預かり」が14.0%、「病時・病後児保育」が9.4%、「認証保育所」が9.0%、「延長保育」が8.1%と続いている。

保育サービス等の利用意向(複数回答)



【子どもの年齢別】

子どもの年齢別にみると、0～2歳児の保護者では「認可保育所」が最も多くそれぞれ62.1%、44.3%、34.0%、次いで「幼稚園」がそれぞれ22.7%、23.6%、20.6%、「一時預かり」がそれぞれ20.8%、15.7%、13.4%と続いており、このうち、0歳児の保護者では「認証保育所」(17.0%)、「幼稚園の預かり保育」14.4%、「事業所内保育施設」(10.6%)、「延長保育」(11.4%)も多い。3歳児の保護者では「認可保育所」が最も多く28.6%、次いで「幼稚園の預かり保育」が18.4%となっている。4歳児の保護者では「認可保育所」が最も多く25.0%、次いで「幼稚園」が13.1%となっている。5歳児の保護者では「認可保育所」が最も多く25.8%、次いで「幼稚園」「幼稚園の預かり保育」がともに15.5%と続いている。また、4歳児・5歳児の保護者では「特になし」が多くそれぞれ19.0%、19.6%となっている。

保育サービス等の利用意向(複数回答)

就学前児童

(単位:人、%)

	件数	認可保育所	認証保育所	保育室	家庭福祉員(保育ママ)	事業所内保育施設	幼稚園	幼稚園の預かり保育	ベビーシッター	ファミリーサポート
全体	787	42.6	9.0	3.8	3.3	4.3	19.3	14.6	2.8	4.2
0歳	264	62.1	17.0	8.0	6.8	10.6	22.7	14.4	4.2	6.8
1歳	140	44.3	10.0	3.6	2.9	2.9	23.6	17.1	2.9	5.0
2歳	97	34.0	4.1	1.0	1.0	1.0	20.6	12.4	2.1	5.2
3歳	98	28.6	2.0	1.0	3.1	-	13.3	18.4	2.0	1.0
4歳	84	25.0	2.4	1.2	-	-	13.1	9.5	2.4	1.2
5歳	97	25.8	4.1	1.0	-	1.0	15.5	15.5	1.0	1.0
	件数	認定子ども園	延長保育	トワイライトステイ	ショートステイ	その他の保育施設	一時預かり	病児・病後児保育	特になし	無回答
全体	787	4.8	8.1	2.4	3.2	0.5	14.0	9.4	12.3	22.6
0歳	264	7.2	11.4	4.2	5.7	0.4	20.8	11.4	6.8	14.4
1歳	140	7.1	7.1	2.9	3.6	2.1	15.7	11.4	10.7	20.0
2歳	97	5.2	6.2	1.0	2.1	-	13.4	6.2	13.4	28.9
3歳	98	-	8.2	1.0	1.0	-	7.1	8.2	15.3	29.6
4歳	84	4.8	4.8	-	1.2	-	3.6	3.6	19.0	29.8
5歳	97	-	5.2	2.1	1.0	-	9.3	10.3	19.6	28.9

利用希望日数と利用希望時間

ア．1週あたりの利用希望日数

今後、保育サービス等を利用したいと回答した人の1週あたりの利用希望日数をみると、認可保育所、認証保育所、保育室、事業所内保育施設、幼稚園、認定こども園、延長保育では「5日」が最も多くそれぞれ5割～約9割を占めており、幼稚園の預かり保育も「5日」が38.3%で最も多い。家庭福祉員では「1日」「5日」が最も多くともに34.6%となっている。これに対し、ベビーシッター、ファミリーサポート、ショートステイ、一時預かりでは「1日」が多く3割～約6割を占めており、トワイライトステイ、病児・病後児保育では「1日」「5日」が多い。

1週あたりの利用希望日数（複数回答）

（単位：人、％）

区 分	件 数	1 日	2 日	3 日	4 日	5 日	6 日	7 日	無回答
認可保育所	335	4.5	1.2	10.4	4.8	65.4	11.6	0.9	1.2
認証保育所	71	5.6	2.8	5.6	5.6	54.9	14.1	1.4	9.9
保育室	30	10.0	-	6.7	10.0	53.3	10.0	-	10.0
家庭福祉員	26	34.6	-	7.7	3.8	34.6	7.7	-	11.5
事業所内保育施設	34	-	-	2.9	2.9	79.4	5.9	-	8.8
幼稚園	152	0.7	-	0.7	1.3	85.5	5.9	-	5.9
幼稚園の預かり保育	115	16.5	9.6	14.8	4.3	38.3	7.0	0.9	8.7
ベビーシッター	22	40.9	13.6	9.1	4.5	27.3	-	-	4.5
ファミリーサポート	33	42.4	6.1	15.2	-	21.2	-	-	15.2
認定子ども園	38	2.6	5.3	-	2.6	60.5	15.8	-	13.2
延長保育	64	3.1	14.1	10.9	4.7	51.6	9.4	-	6.3
トワイライトステイ	19	26.3	5.3	15.8	5.3	26.3	-	-	21.1
ショートステイ	25	32.0	12.0	12.0	-	4.0	-	12.0	28.0
その他の保育施設	4	25.0	-	25.0	-	25.0	-	25.0	-
一時預かり	110	55.5	7.3	4.5	-	5.5	-	2.7	24.5
病児・病後児保育	74	18.9	8.1	6.8	2.7	21.6	4.1	2.7	35.1

イ．1日あたりの利用希望時間

今後、保育サービス等を利用したいと回答した人の1日あたりの利用希望時間をみると、認可保育所、認証保育所、保育室、認定こども園、病児・病後児保育では「10～12時間未満」が最も多くそれぞれ約3割～4割を占めている。幼稚園では「4～6時間未満」（39.5%）、「6～8時間未満」（38.2%）が多く、幼稚園の預かり保育では「2～4時間未満」（46.1%）、「4～6時間未満」（22.6%）がそれぞれ多い。延長保育では「2～4時間未満」（50.0%）、一時預かりでは「4～6時間未満」（30.9%）、ベビーシッターでは「2～4時間未満」（50.0%）がそれぞれ最も多い。

1日あたりの利用希望時間（複数回答）

（単位：人、%）

区 分	件 数	2時間 未満	2～4時 間未満	4～6時 間未満	6～8時 間未満	8～10時 間未満	10～12 時間未満	12時間 以上	無回答
認可保育所	335	-	2.1	7.2	14.9	29.9	31.6	13.1	1.2
認証保育所	71	-	5.6	2.8	18.3	19.7	29.6	14.1	9.9
保育室	30	-	3.3	6.7	13.3	20.0	36.7	13.3	6.7
家庭福祉員	26	-	15.4	11.5	15.4	23.1	19.2	11.5	3.8
事業所内保育施設	34	-	-	2.9	8.8	50.0	23.5	5.9	8.8
幼稚園	152	-	-	39.5	38.2	12.5	2.0	-	7.9
幼稚園の預かり保育	115	2.6	46.1	22.6	7.0	5.2	6.1	0.9	9.6
ベビーシッター	22	-	50.0	9.1	18.2	13.6	-	4.5	4.5
ファミリーサポート	33	15.2	27.3	18.2	9.1	18.2	-	-	12.1
認定子ども園	38	2.6	2.6	2.6	7.9	18.4	42.1	13.2	10.5
延長保育	64	21.9	50.0	10.9	1.6	1.6	3.1	4.7	6.3
トワイライトステイ	19	-	-	21.1	21.1	15.8	5.3	15.8	21.1
ショートステイ	25	-	-	-	4.0	8.0	8.0	56.0	24.0
その他の保育施設	4	-	-	-	-	25.0	25.0	50.0	-
一時預かり	110	-	10.9	30.9	15.5	14.5	10.0	2.7	15.5
病児・病後児保育	74	-	2.7	1.4	9.5	20.3	33.8	12.2	20.3

ウ．利用希望開始時間と利用希望終了時間

ア．利用希望開始時間

今後、保育サービス等を利用したいと回答した人の利用希望開始時間をみると、認可保育所、認証保育所では「8時」「9時」が多くそれぞれ3割～約4割を占めている。保育室、認定こども園では「8時」が最も多く、それぞれ4割～5割を占めている。幼稚園では「9時」、幼稚園の預かり保育、延長保育では「14時以降」が最も多くそれぞれ約7割～約8割を占めている。一時預かりでは「9時」「10時」が最も多くともに24.5%となっており、病児・病後児保育では「8時」「9時」が多くそれぞれ35.1%、23.0%となっている。

利用希望開始時間

(単位:人、%)

区分	件数	7時以前	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時以降	無回答
認可保育所	335	12.8	36.1	39.1	8.4	0.3	-	0.6	1.5	1.2
認証保育所	71	12.7	32.4	33.8	9.9	-	-	-	-	11.3
保育室	30	6.7	50.0	16.7	13.3	-	-	3.3	-	10.0
家庭福祉員	26	3.8	23.1	30.8	11.5	3.8	-	11.5	7.7	7.7
事業所内保育施設	34	5.9	32.4	47.1	5.9	-	-	-	-	8.8
幼稚園	152	-	14.5	71.1	5.9	-	-	-	0.7	7.9
幼稚園の預かり保育	115	1.7	3.5	10.4	2.6	-	-	3.5	67.0	11.3
ベビーシッター	22	-	-	18.2	13.6	9.1	4.5	13.6	31.8	9.1
ファミリーサポート	33	-	-	21.2	15.2	3.0	6.1	9.1	24.2	21.2
認定子ども園	38	18.4	42.1	23.7	2.6	-	-	-	2.6	10.5
延長保育	64	3.1	3.1	3.1	-	-	-	-	78.1	12.5
トワイライトステイ	19	5.3	-	10.5	5.3	5.3	5.3	26.3	21.1	21.1
ショートステイ	25	24.0	4.0	8.0	-	-	4.0	4.0	16.0	40.0
その他の保育施設	4	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-
一時預かり	110	2.7	10.9	24.5	24.5	5.5	1.8	4.5	3.6	21.8
病児・病後児保育	74	12.2	35.1	23.0	4.1	1.4	1.4	-	-	23.0

イ．利用希望終了時間

今後、保育サービス等を利用したいと回答した人の利用希望終了時間をみると、認可保育所、認証保育所、保育室では「18時」が最も多くそれぞれ3割～4割を占めている。幼稚園では「14時」(43.4%)、「15時」(24.3%)が多く、幼稚園の預かり保育では「17時」(27.0%)、「18時」(24.3%)が多い。延長保育では「20時以降」(57.8%)が最も多く、「19時」(21.9%)も含めると、「19時以降」が約8割を占めている。一時預かりでは「15時」(17.3%)、「17時」(16.4%)が多く、病児・病後児保育では「18時」(24.3%)、「19時」(21.6%)が多い。

利用希望終了時間

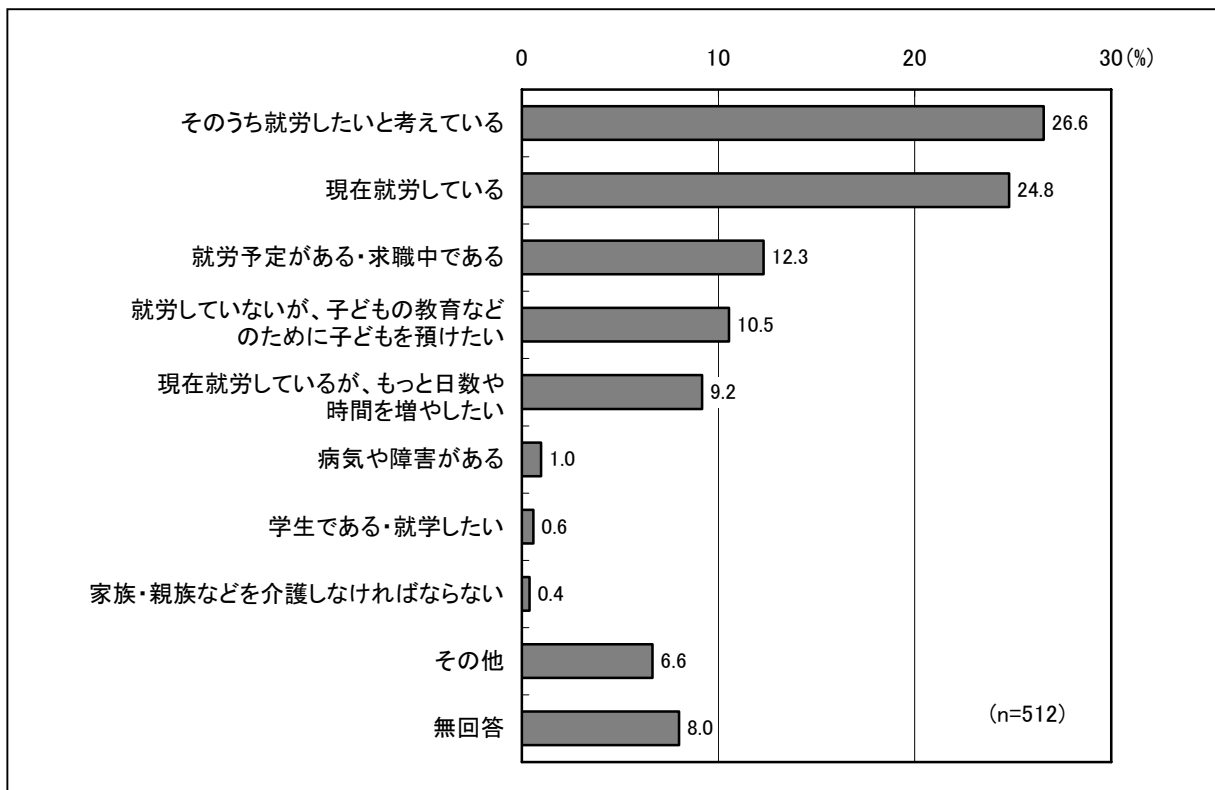
(単位:人、%)

区分	件数	13時以前	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時以降	無回答
認可保育所	335	1.8	3.3	8.1	10.4	19.1	30.4	17.9	7.8	1.2
認証保育所	71	5.6	-	7.0	14.1	8.5	32.4	12.7	8.5	11.3
保育室	30	-	3.3	3.3	13.3	6.7	46.7	6.7	10.0	10.0
家庭福祉員	26	3.8	3.8	3.8	11.5	26.9	26.9	3.8	11.5	7.7
事業所内保育施設	34	-	2.9	-	8.8	29.4	38.2	8.8	2.9	8.8
幼稚園	152	1.3	43.4	24.3	7.9	10.5	3.3	1.3	-	7.9
幼稚園の預かり保育	115	-	0.9	3.5	15.7	27.0	24.3	11.3	7.0	10.4
ベビーシッター	22	4.5	4.5	4.5	18.2	27.3	9.1	4.5	18.2	9.1
ファミリーサポート	33	6.1	6.1	3.0	9.1	21.2	18.2	6.1	9.1	21.2
認定子ども園	38	2.6	2.6	5.3	5.3	15.8	34.2	18.4	5.3	10.5
延長保育	64	-	-	-	3.1	1.6	3.1	21.9	57.8	12.5
トワイライトステイ	19	-	-	5.3	-	5.3	-	-	68.4	21.1
ショートステイ	25	32.0	-	4.0	-	-	4.0	4.0	16.0	40.0
その他の保育施設	4	-	-	-	-	25.0	25.0	-	50.0	-
一時預かり	110	5.5	11.8	17.3	6.4	16.4	10.0	3.6	7.3	21.8
病児・病後児保育	74	2.7	-	4.1	5.4	14.9	24.3	21.6	4.1	23.0

保育サービス等を利用したい主な理由

今後、保育サービス等を利用したいと回答した人の保育サービス等を利用したい理由をみると、「そのうち就労したいと考えている」が最も多く26.6%、「現在就労している」（24.8%）もほぼ同じ割合を示している。次いで「就労予定がある・求職中である」が12.3%、「就労していないが、子どもの教育などのために子どもを預けたい」が10.5%と続いている。

保育サービス等を利用したい主な理由



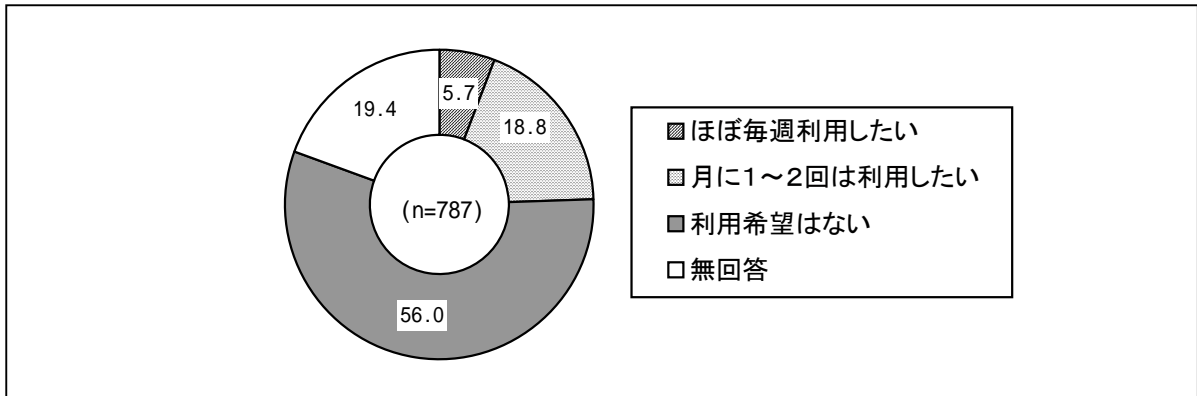
土曜日と日曜日・祝日の保育サービス等の利用意向

ア．土曜日

a．土曜日の保育サービス等の利用意向

土曜日の保育サービス等の利用意向をみると、「利用希望はある」が24.5%（「ほぼ毎週利用したい」5.7%+「月に1～2回は利用したい」18.8%）、「利用希望はない」が56.0%となっている。

土曜日の保育サービス等の利用意向

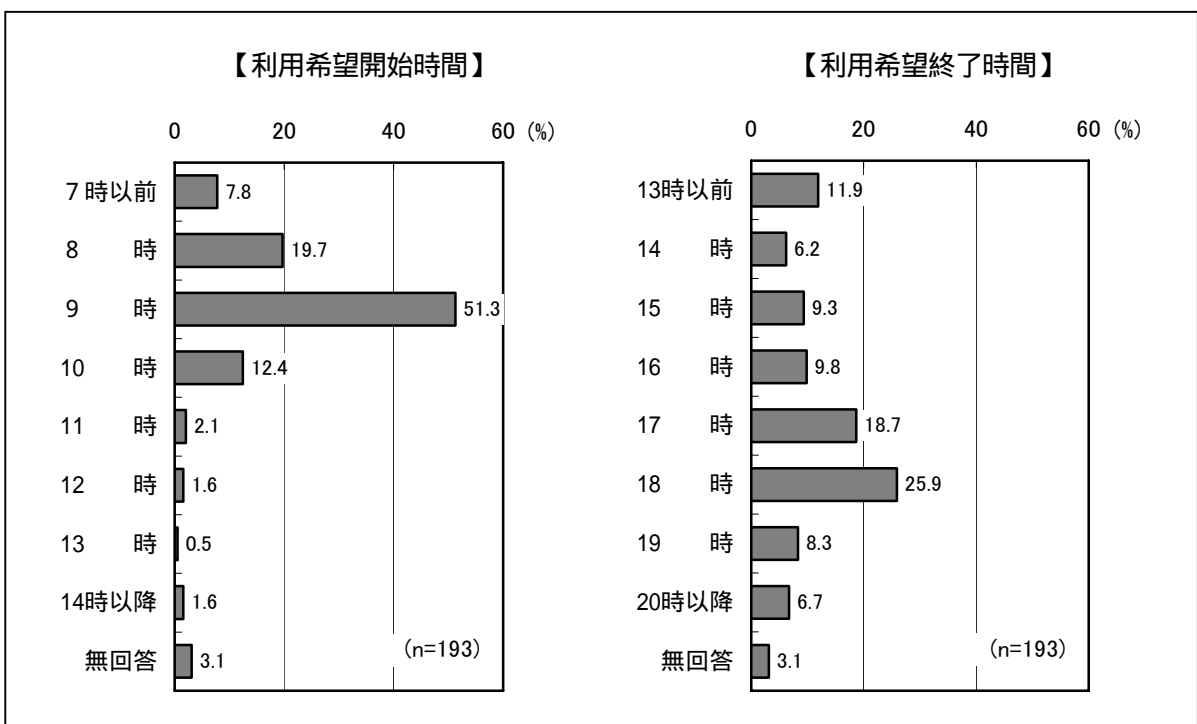


b．土曜日の利用希望開始時間と利用希望終了時間

土曜日に保育サービス等を「ほぼ毎週利用したい」「月に1～2回は利用したい」と回答した人の利用希望開始時間については、「9時」が最も多く51.3%、次いで「8時」が19.7%、「10時」が12.4%、「7時以前」が7.8%となっている。

利用希望終了時間については、「18時」が最も多く25.9%、次いで「17時」が18.7%、「13時以前」が11.9%となっている。

土曜日の利用希望開始時間と利用希望終了時間

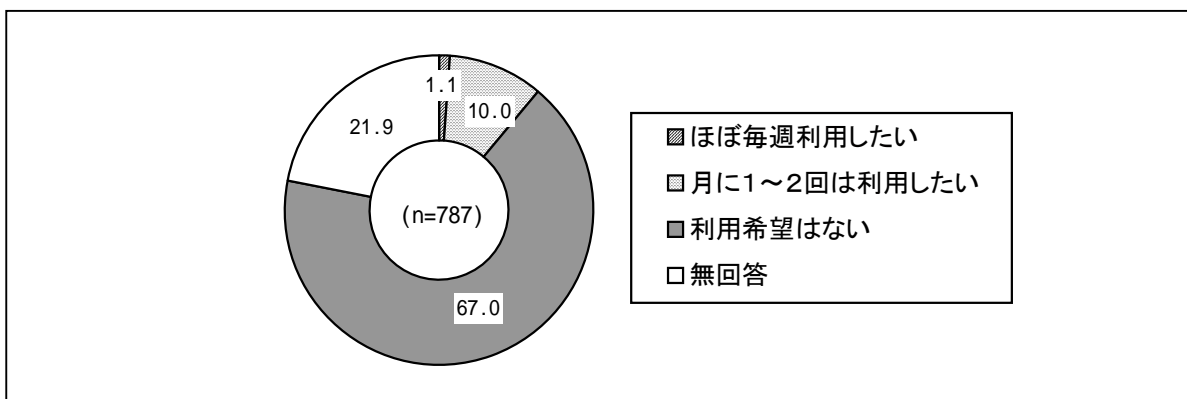


イ．日曜日・祝日

a．日曜日・祝日の保育サービス等の利用意向

日曜日・祝日の保育サービス等の利用意向をみると、「利用希望はある」が11.1%（「ほぼ毎週利用したい」1.1%+「月に1～2回は利用したい」10.0%）、「利用希望はない」が67.0%となっている。

日曜日・祝日の保育サービス等の利用意向

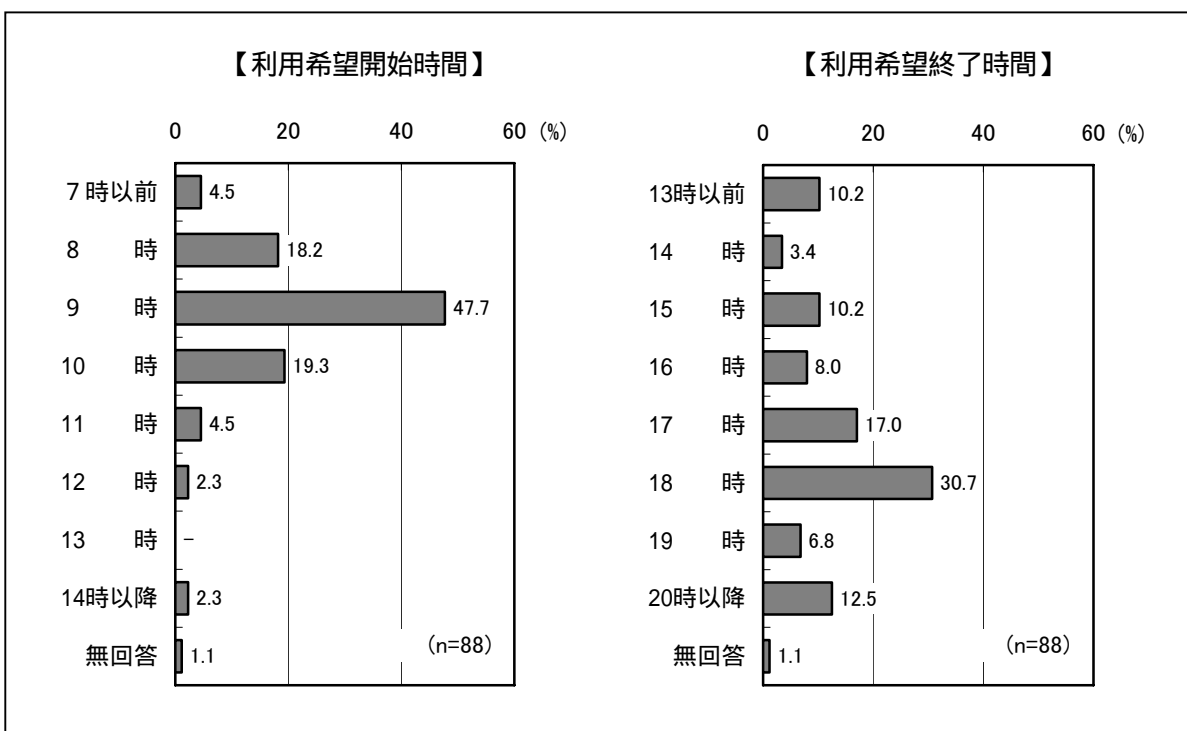


b．日曜日・祝日の利用希望開始時間と利用希望終了時間

日曜日・祝日に保育サービス等を「ほぼ毎週利用したい」「月に1～2回は利用したい」と回答した人の利用希望開始時間については、「9時」が最も多く47.7%、次いで「10時」が19.3%、「8時」が18.2%となっている。

利用希望終了時間については、「18時」が最も多く30.7%、次いで「17時」が17.0%、「20時以降」が12.5%となっている。

日曜日・祝日の利用希望開始時間と利用希望終了時間



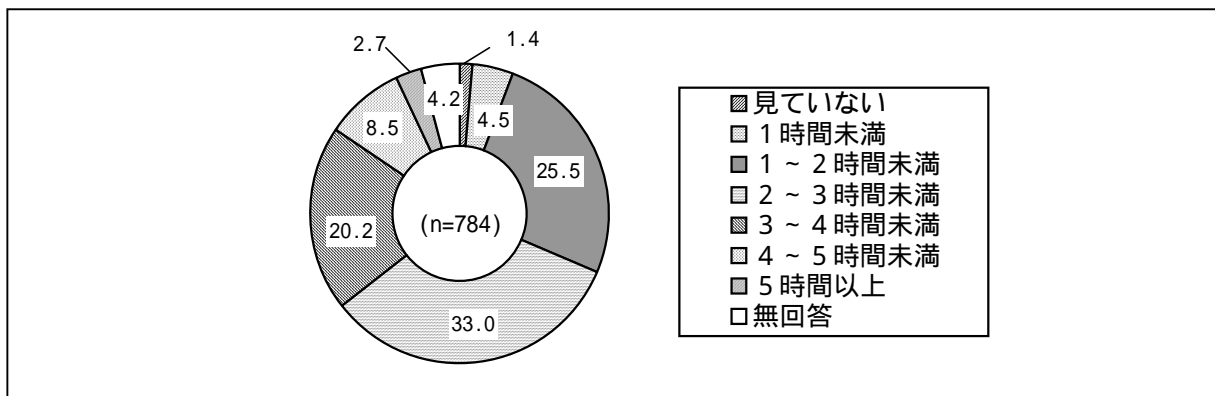
12. 就学児童の日常生活について

(1) テレビやビデオを見たり、テレビゲームやコンピュータゲームをする時間

テレビやビデオを見ている時間

1日にテレビやビデオを見ている時間をみると、「2～3時間未満」が最も多く33.0%、「3～4時間未満」(20.2%)も含めると、1日に“2～4時間”見ている子どもが過半数を占めている。次いで「1～2時間未満」が25.5%、「4～5時間未満」が8.5%と続いている。

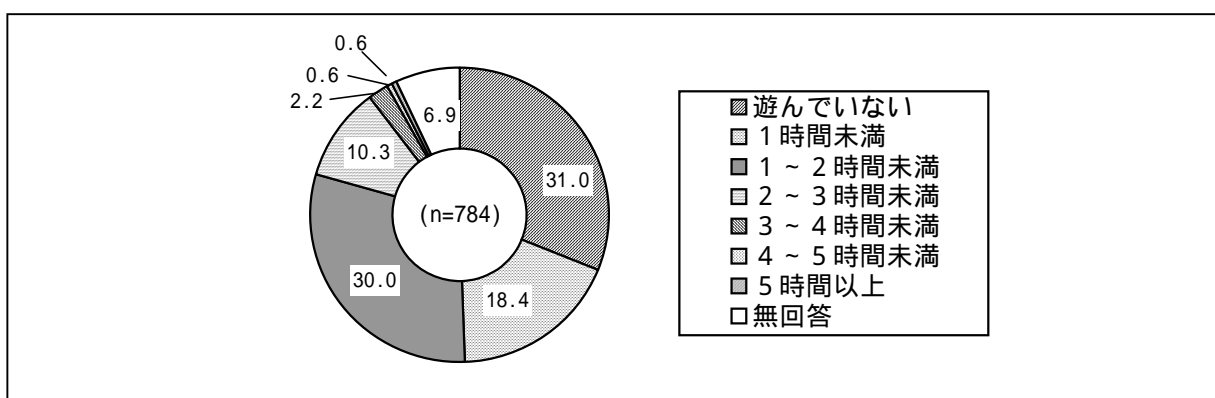
テレビやビデオを見ている時間



テレビゲームやコンピュータゲームをする時間

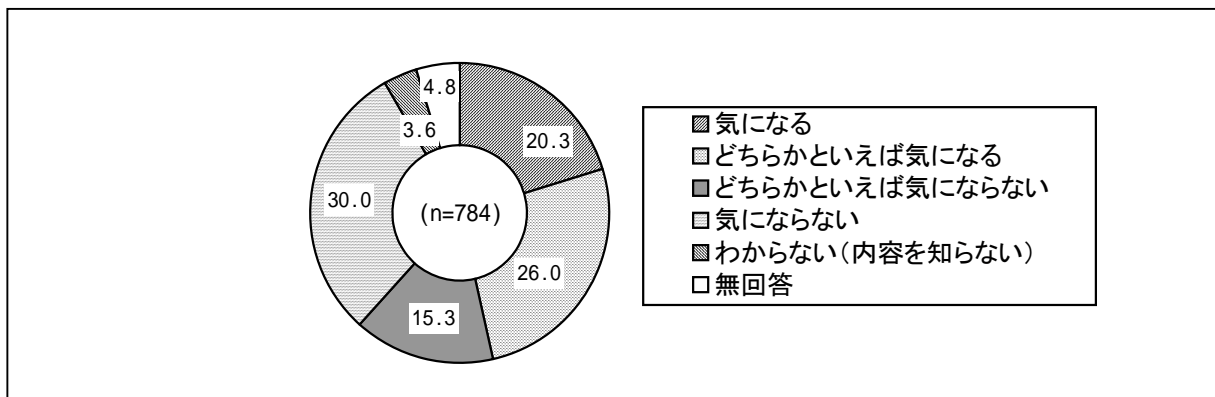
1日にテレビゲームやコンピュータゲームをする時間をみると、「遊んでいない」が最も多く31.0%となっている。次いで「1～2時間未満」(30.0%)、「1時間未満」(18.4%)となっており、テレビゲームやコンピュータゲームをする時間が1日に“2時間未満”が約5割を占めている。さらに「2～3時間未満」(10.3%)、「3～4時間未満」(2.2%)と続き、「4～5時間未満」「5時間以上」(ともに0.6%)も少ないがみられる。

テレビゲームやコンピュータゲームをする時間



テレビやビデオ、テレビゲームやコンピュータゲームなどで残虐性や暴力描写など気になること
 テレビやビデオ、テレビゲームやコンピュータゲームなどで残虐性や暴力描写など気になること
 をみると、“気になる”は46.3%（「気になる」(20.3%) + 「どちらかといえば気になる」(26.0%)）、
 “気にならない”は45.3%（「どちらかといえば気にならない」(15.3%) + 「気にならない」
 (30.0%)）。「わからない」は3.6%となっている。

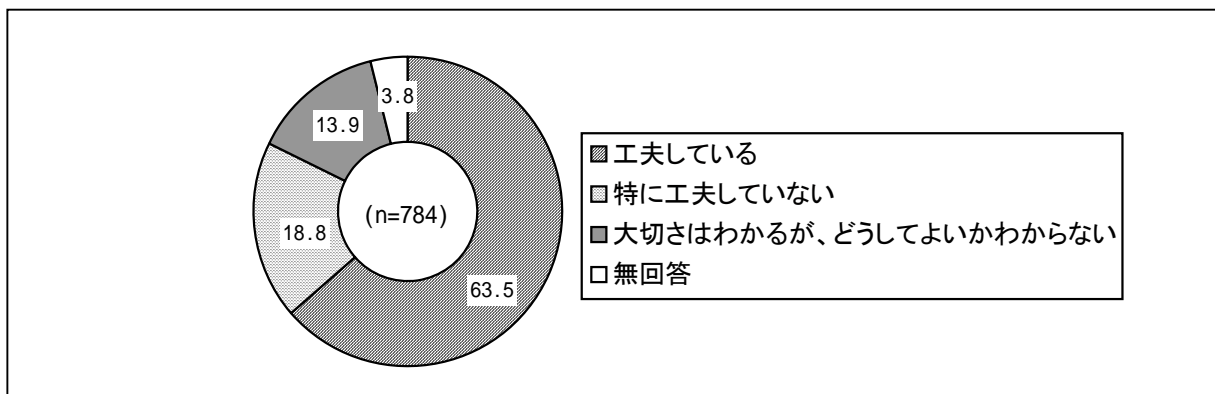
テレビやビデオ、テレビゲームやコンピュータゲームなどで残虐性や暴力描写など気になること



生命の大切さを教える工夫の有無

生命の大切さを教える工夫の有無をみると、「工夫している」は63.5%、「特に工夫していない」
 は18.8%、「大切さはわかるが、どうしてよいかわからない」は13.9%となっている。

生命の大切さを教える工夫の有無



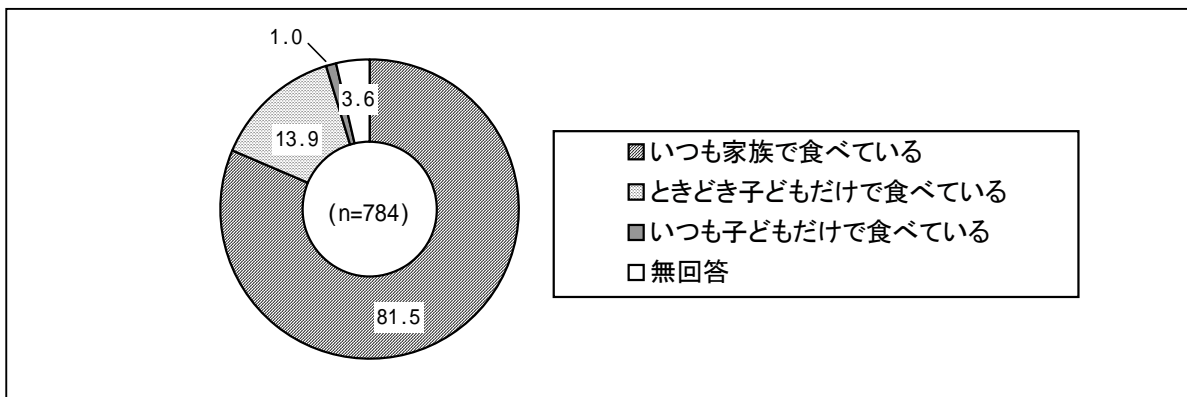
(2) 食生活習慣

孤食の有無

ア. 孤食の有無

孤食の有無をみると、夕食を「いつも家族で食べている」が81.5%、「ときどき子どもだけで食べている」が13.9%、「いつも子どもだけで食べている」が1.0%となっている。

孤食の有無



イ. 1 カ月あたりの回数

夕食を「いつも子どもだけで食べている」と回答した人の1 カ月あたりの回数をみると、「20 日」が最も多く 37.5%、「22 日」「23 日」「24 日」（いずれも 12.5%）も含めると、「20 日以上」が約 8 割を占めている。

1 カ月あたりの回数

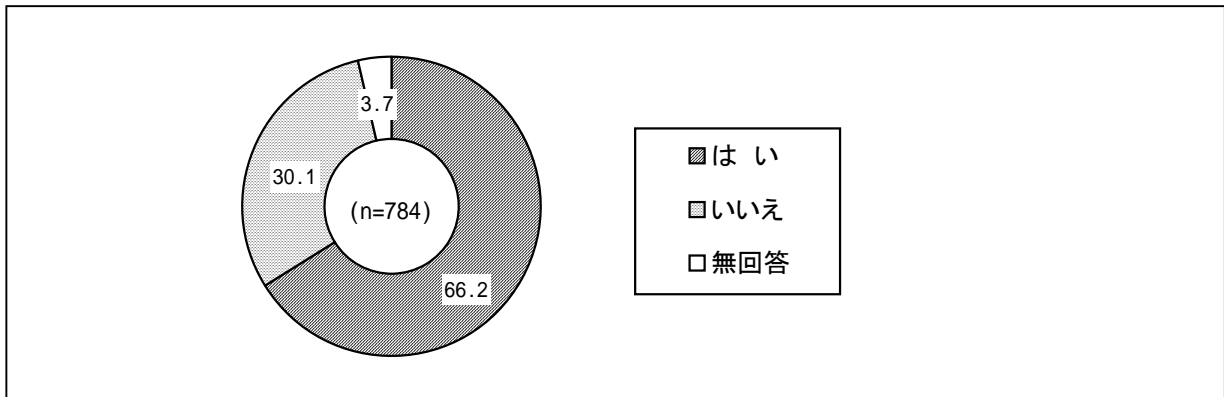
(単位: 人、%)

区 分	件 数	4 日	15 日	20 日	22 日	23 日	24 日
全 体	8	12.5	12.5	37.5	12.5	12.5	12.5

子どもと一緒に調理することの有無

子どもと一緒に調理することの有無をみると、「はい」は66.2%、「いいえ」は30.1%となっている。

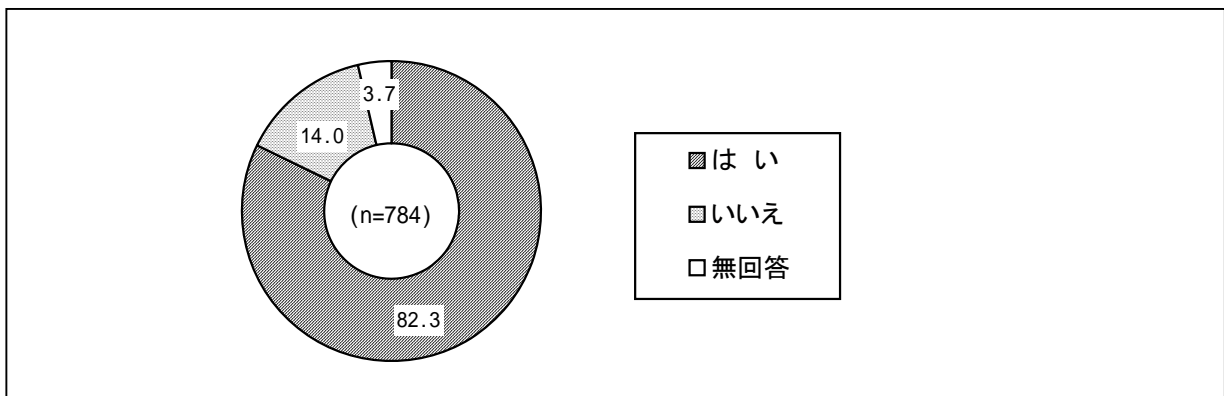
子どもと一緒に調理することの有無



食事の準備や後片付けの手伝いの有無

子どもの食事の準備や後片付けの手伝いの有無をみると、「はい」は82.3%、「いいえ」は14.0%となっている。

食事の準備や後片付けの手伝いの有無



13. 放課後や休日の居場所と過ごし方について（就学児童が対象、一部就学前児童も含む）

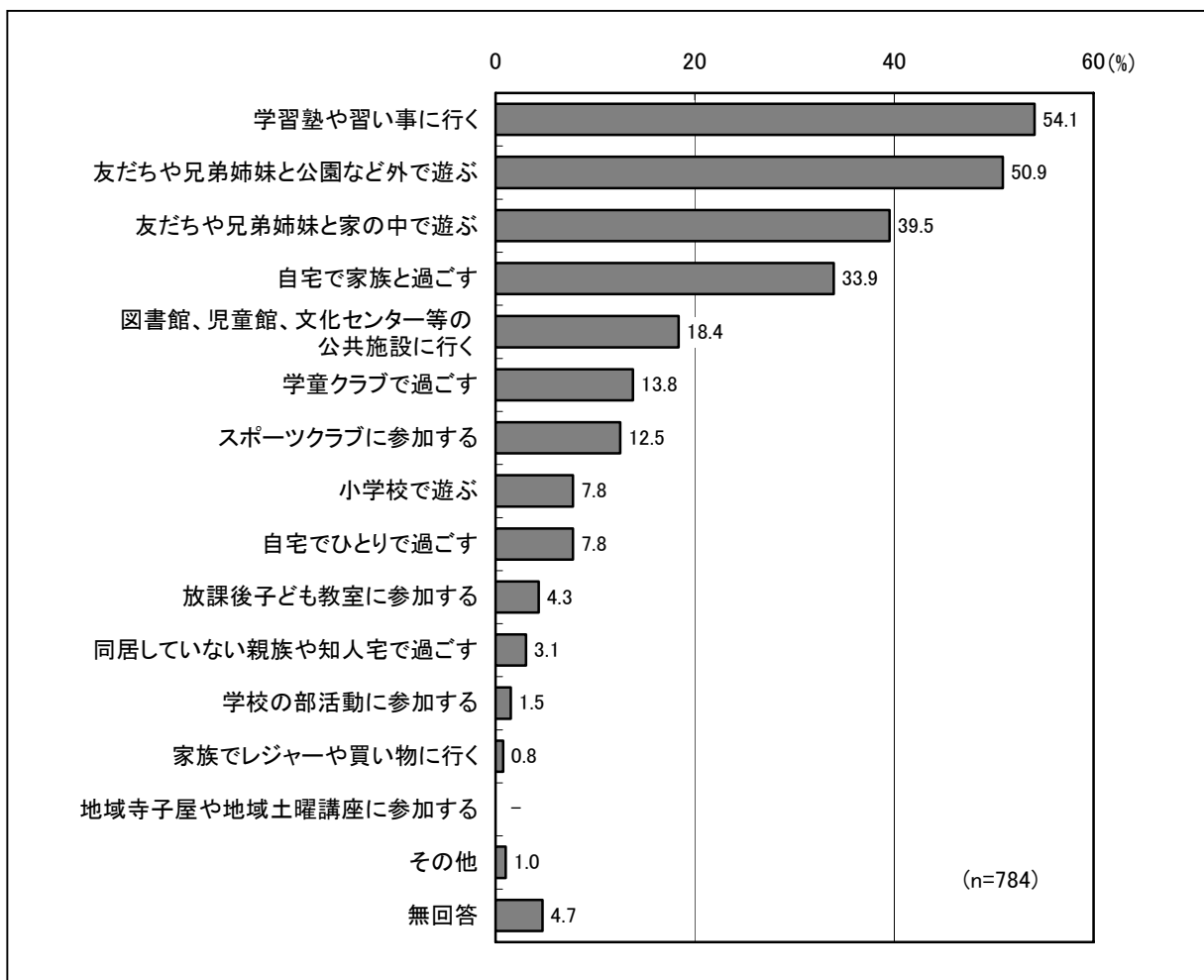
表示がないものについては就学児童のみ

(1) 平日の放課後、土曜日、日曜日・祝日の居場所

平日の放課後の居場所

平日の放課後の居場所をみると、「学習塾や習い事に行く」が最も多く54.1%、「友だちや兄弟姉妹と公園など外で遊ぶ」（50.9%）もほぼ同じ割合を示している。次いで「友だちや兄弟姉妹と家の中で遊ぶ」が39.5%、「自宅で家族と過ごす」が33.9%と続いている。

平日の放課後の居場所（複数回答）



【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、1年生では「学習塾や習い事に行く」が最も多く54.5%、次いで「自宅で家族と過ごす」が40.2%、「友だちや兄弟姉妹と家の中で遊ぶ」が38.4%と続いている。2～3年生では「学習塾や習い事に行く」が最も多くそれぞれ51.1%、53.4%、次いで「友だちや兄弟姉妹と公園などで遊ぶ」がそれぞれ49.6%、48.3%、「友だちや兄弟姉妹と家の中で遊ぶ」がそれぞれ39.4%、36.2%と続いている。4～5年生では「友だちや兄弟姉妹と公園などで遊ぶ」が最も多くそれぞれ61.3%、60.1%、次いで「学習塾や習い事に行く」がそれぞれ57.1%、49.7%、「友だちや兄弟姉妹と家の中で遊ぶ」がそれぞれ43.7%、37.8と続いている。6年生では「学習塾や習い事に行く」が最も多く59.9%、次いで「友だちや兄弟姉妹と公園などで遊ぶ」が49.0%、「友だちや兄弟姉妹と家の中で遊ぶ」が40.8%と続いている。

平日の放課後の居場所（複数回答）

就学児童

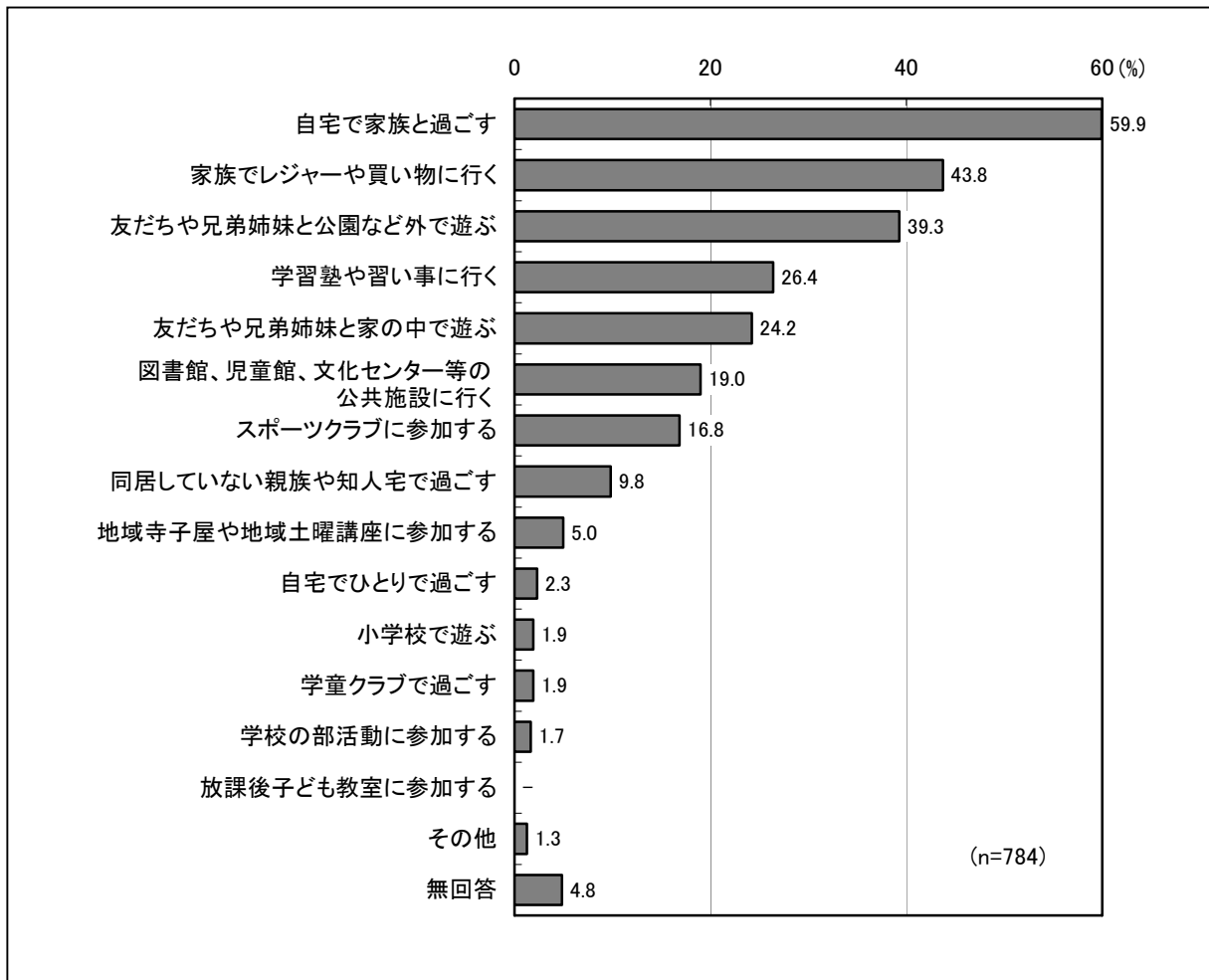
（単位：人、％）

	件数	自宅で家族と過ごす	友だちや兄弟姉妹と公園などで遊ぶ	友だちや兄弟姉妹と家の中で遊ぶ	小学校で遊ぶ	同居していない親族や知人宅で過ごす	児童クラブで過ごす	学習塾や習い事に行く	スポーツクラブに参加する
全体	784	33.9	50.9	39.5	7.8	3.1	13.8	54.1	12.5
1年生	112	40.2	34.8	38.4	7.1	4.5	27.7	54.5	11.6
2年生	137	37.2	49.6	39.4	2.9	2.2	26.3	51.1	8.8
3年生	116	33.6	48.3	36.2	8.6	4.3	28.4	53.4	12.1
4年生	119	32.8	61.3	43.7	8.4	5.0	2.5	57.1	10.9
5年生	143	27.3	60.1	37.8	7.7	0.7	0.7	49.7	17.5
6年生	147	33.3	49.0	40.8	12.2	2.7	0.7	59.9	12.9
	件数	図書館、児童館、文化センター等の公共施設に行く	放課後子ども教室に参加する	地域寺子屋や地域土曜講座に参加する	家族でレジャーや買い物に行く	自宅でひとりで過ごす	学校の部活動に参加する	その他	無回答
全体	784	18.4	4.3	-	0.8	7.8	1.5	1.0	4.7
1年生	112	15.2	6.3	-	0.9	1.8	-	0.9	2.7
2年生	137	11.7	3.6	-	1.5	3.6	-	0.7	3.6
3年生	116	15.5	2.6	-	0.9	4.3	-	-	5.2
4年生	119	20.2	5.0	-	-	10.9	3.4	1.7	5.0
5年生	143	28.0	5.6	-	0.7	9.8	2.8	1.4	7.7
6年生	147	19.0	2.0	-	0.7	15.0	2.7	1.4	4.1

土曜日の居場所

土曜日の居場所をみると、「自宅で家族と過ごす」が最も多く59.9%、次いで「家族でレジャーや買い物に行く」が43.8%、「友だちや兄弟姉妹と公園など外で遊ぶ」が39.3%、「学習塾や習い事に行く」が26.4%、「友だちや兄弟姉妹と家の中で遊ぶ」が24.2%と続いている。

土曜日の居場所（複数回答）



【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、1～3年生では「自宅で家族と過ごす」が最も多くそれぞれ67.9%、60.6%、65.5%、次いで「家族でレジャーや買い物に行く」がそれぞれ61.6%、51.1%、44.8%、「友だちや兄弟姉妹と公園など外で遊ぶ」がそれぞれ33.9%、37.2%、35.3%と続いている。4～5年生では「自宅で家族と過ごす」が最も多くそれぞれ56.3%、58.0%、次いで「友だちや兄弟姉妹と公園など外で遊ぶ」がそれぞれ52.1%、42.7%、「家族でレジャーや買い物に行く」がそれぞれ42.0%、36.4%と続いている。6年生では「自宅で家族と過ごす」が最も多く53.1%、次いで「学習塾や習い事に行く」が38.8%、「友だちや兄弟姉妹と公園など外で遊ぶ」が36.1%と続いている。

土曜日の居場所（複数回答）

就学児童

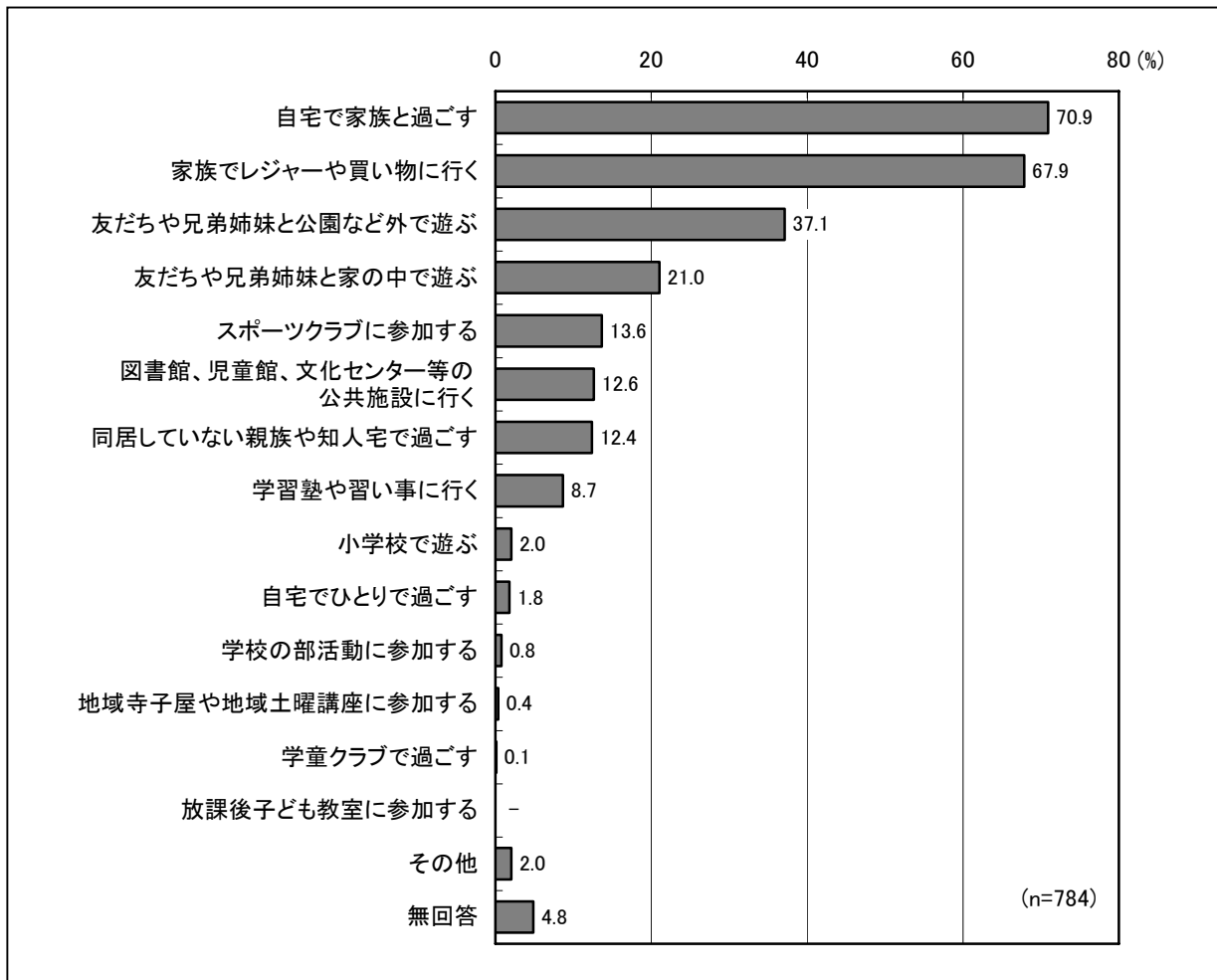
（単位：人、％）

	件数	自宅で家族と過ごす	友だちや兄弟姉妹と公園など外で遊ぶ	友だちや兄弟姉妹と家の中で遊ぶ	小学校で遊ぶ	同居していない親族や知人宅で過ごす	学習塾や習い事に行く	スポーツクラブに参加する	
全体	784	59.9	39.3	24.2	1.9	9.8	1.9	26.4	16.8
1年生	112	67.9	33.9	20.5	-	22.3	5.4	16.1	11.6
2年生	137	60.6	37.2	19.0	2.9	8.0	1.5	29.9	11.7
3年生	116	65.5	35.3	25.9	2.6	10.3	2.6	23.3	17.2
4年生	119	56.3	52.1	27.7	0.8	8.4	0.8	25.2	16.8
5年生	143	58.0	42.7	23.8	2.1	3.5	1.4	23.1	24.5
6年生	147	53.1	36.1	27.2	0.7	9.5	0.7	38.8	17.7
	件数	図書館、児童館、文化センター等の公共施設に行く	放課後子ども教室に参加する	地域寺子屋や地域土曜講座に参加する	家族でレジャーや買い物に行く	自宅でひとりで過ごす	学校の部活動に参加する	その他	無回答
全体	784	19.0	-	5.0	43.8	2.3	1.7	1.3	4.8
1年生	112	17.0	-	1.8	61.6	0.9	-	0.9	2.7
2年生	137	19.0	-	8.0	51.1	2.9	1.5	0.7	3.6
3年生	116	20.7	-	6.9	44.8	0.9	1.7	-	5.2
4年生	119	21.8	-	5.9	42.0	1.7	4.2	1.7	5.0
5年生	143	18.9	-	4.9	36.4	2.8	2.1	2.1	7.7
6年生	147	16.3	-	2.7	32.0	4.1	0.7	2.0	4.1

日曜日・祝日の居場所

日曜日・祝日の居場所をみると、「自宅で家族と過ごす」が最も多く70.9%、「家族でレジャーや買い物に行く」(67.9%)もほぼ同じ割合を示している。次いで「友だちや兄弟姉妹と公園など外で遊ぶ」が37.1%、「友だちや兄弟姉妹と家の中で遊ぶ」が21.0%と続いている。

日曜日・祝日の居場所（複数回答）



【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、1年生では「自宅で家族と過ごす」が最も多く80.4%、次いで「家族とレジャーや買い物に行く」が78.6%と続いている。2年生では「家族でレジャーや買い物に行く」が最も多く78.1%、次いで「自宅で家族と過ごす」が70.1%と続いている。3～6年生では「自宅で家族と過ごす」が最も多くそれぞれ75.0%、70.6%、67.1%、66.7%、次いで「家族とレジャーや買い物に行く」がそれぞれ69.8%、65.5%、64.3%、54.4%と続いている。

日曜日・祝日の居場所（複数回答）

就学児童

（単位：人、％）

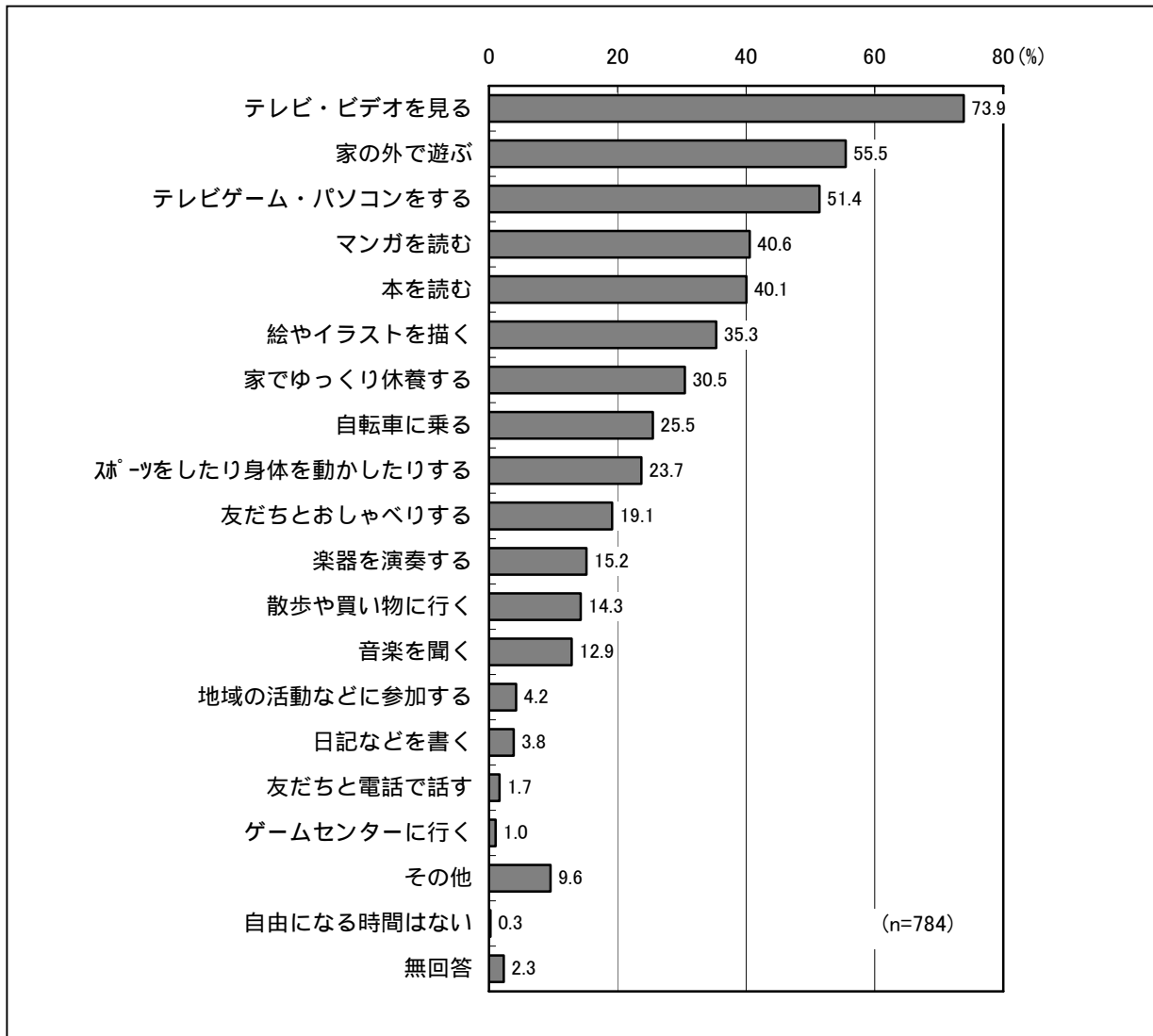
	件数	自宅で家族と過ごす	友だちや兄弟姉妹と公園などで遊ぶ	友だちや兄弟姉妹と家で遊ぶ	小学校で遊ぶ	同居していない親族や知人宅で過ごす	学童クラブで過ごす	学習塾や習い事に行く	スポーツクラブに参加する
全体	784	70.9	37.1	21.0	2.0	12.4	0.1	8.7	13.6
1年生	112	80.4	34.8	20.5	0.9	25.9	-	3.6	6.3
2年生	137	70.1	38.7	19.0	2.9	10.2	-	4.4	10.2
3年生	116	75.0	37.1	19.8	0.9	14.7	-	6.0	12.1
4年生	119	70.6	37.8	19.3	1.7	12.6	-	10.1	15.1
5年生	143	67.1	39.2	22.4	2.1	7.0	0.7	6.3	18.2
6年生	147	66.7	36.1	22.4	2.0	8.2	-	20.4	17.7
	件数	図書館、児童館、文化センター等の公共施設に行く	放課後子ども教室に参加する	地域寺子屋や地域土曜講座に参加する	家族でレジャーや買い物に行く	自宅でひとりで過ごす	学校の部活動に参加する	その他	無回答
全体	784	12.6	-	0.4	67.9	1.8	0.8	2.0	4.8
1年生	112	11.6	-	-	78.6	0.9	-	1.8	2.7
2年生	137	13.1	-	0.7	78.1	0.7	1.5	2.2	3.6
3年生	116	12.1	-	-	69.8	2.6	-	2.6	5.2
4年生	119	19.3	-	-	65.5	0.8	1.7	2.5	5.0
5年生	143	9.1	-	1.4	64.3	2.1	1.4	0.7	7.7
6年生	147	10.9	-	-	54.4	3.4	-	2.7	4.1

(2) 平日の放課後、土曜日、休日の居場所

平日の放課後の過ごし方

平日の放課後の過ごし方をみると、「テレビ・ビデオを見る」が最も多く73.9%、次いで「家の外で遊ぶ」が55.5%、「テレビゲーム・パソコンをする」が51.4%、「マンガを読む」が40.6%、「本を読む」が40.1%、「絵やイラストを描く」が35.3%、「家でゆっくり休養する」が30.5%と続いている。

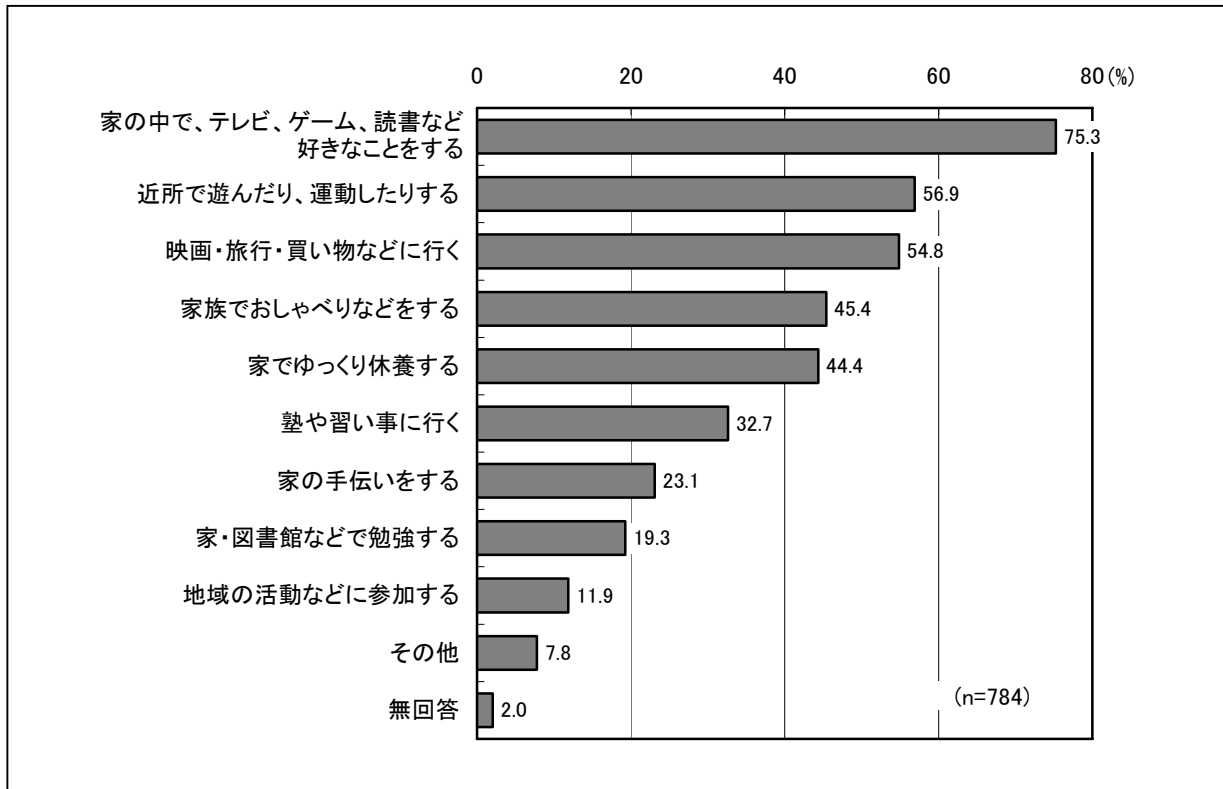
平日の放課後の過ごし方（複数回答）



土曜日・休日の過ごし方

土曜日・休日の過ごし方をみると、「家の中でテレビ、ゲーム、読書など好きなことをする」が最も多く75.3%、「近所で遊んだり、運動したりする」が56.9%、「映画・旅行・買い物などに行く」が54.8%、「家族でおしゃべりなどをする」が45.4%、「家でゆっくり休養する」が44.4%、「塾や習い事に行く」が32.7%と続いている。

土曜日・休日の過ごし方（複数回答）

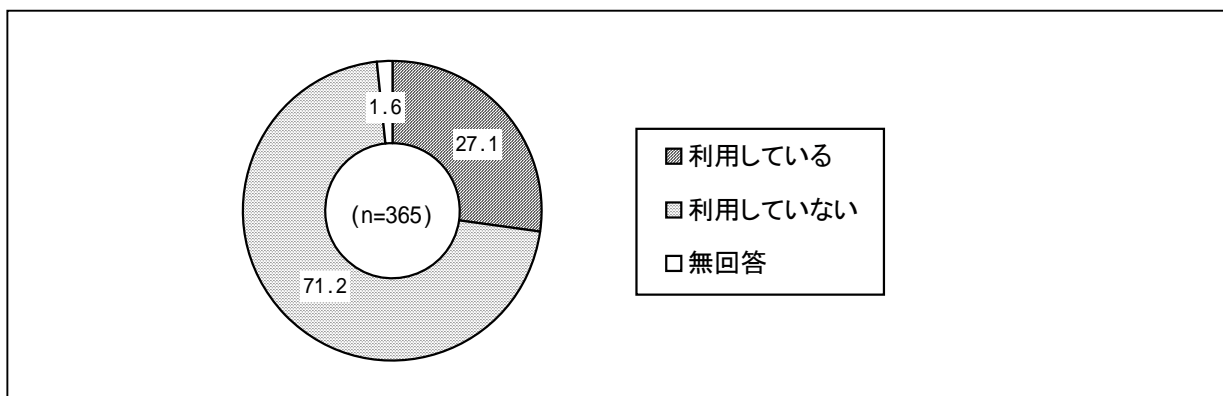


(3) 学童クラブの利用状況

学童クラブの利用状況（小学1～3年生が対象）

学童クラブの利用状況をみると、「利用している」が27.1%、「利用していない」が71.2%となっている。

学童クラブの利用状況

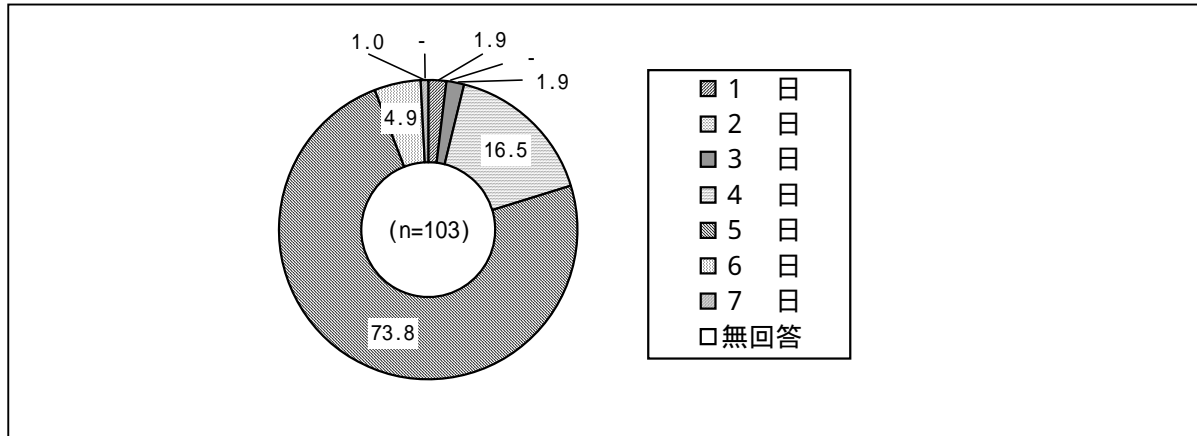


利用日数と土曜日の利用状況

ア．1週あたりの利用日数

学童クラブを「利用している」と回答した人の1週あたりの利用日数をみると、「5日」が最も多く73.8%、「4日」(16.5%)も含めると、「週に4～5日」が9割以上を占めている。

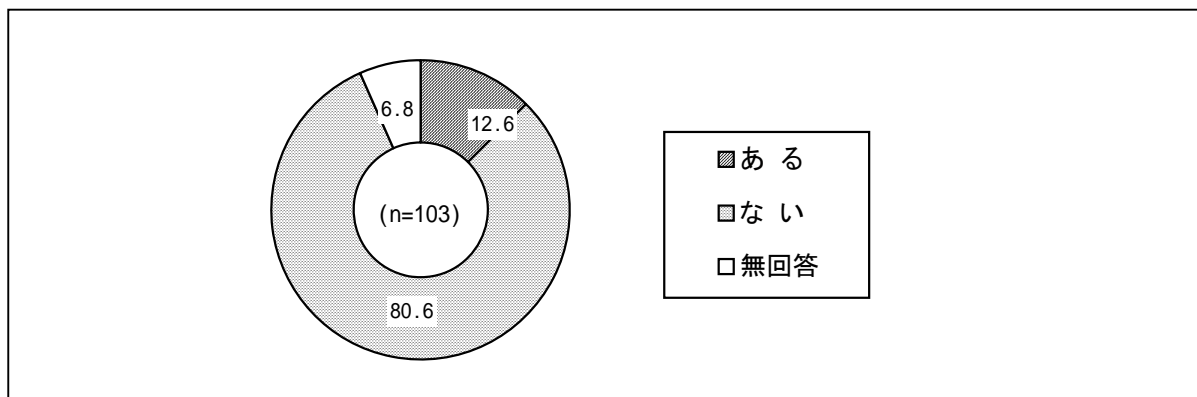
1週あたりの利用日数



イ．土曜日の利用状況

学童クラブを「利用している」と回答した人の土曜日の利用状況をみると、「ある」が12.6%、「ない」が80.6%となっている。

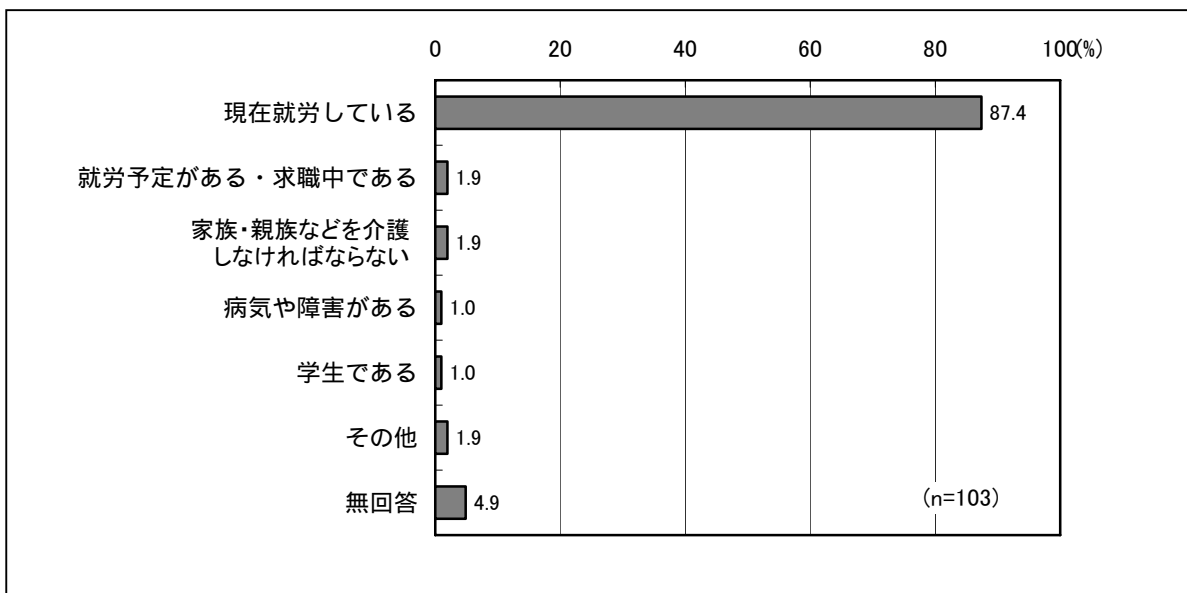
土曜日の利用状況



ウ．利用している理由

学童クラブを「利用している」と回答した人の利用している理由をみると、「現在就労している」が最も多く 87.4%となっている。

利用している理由

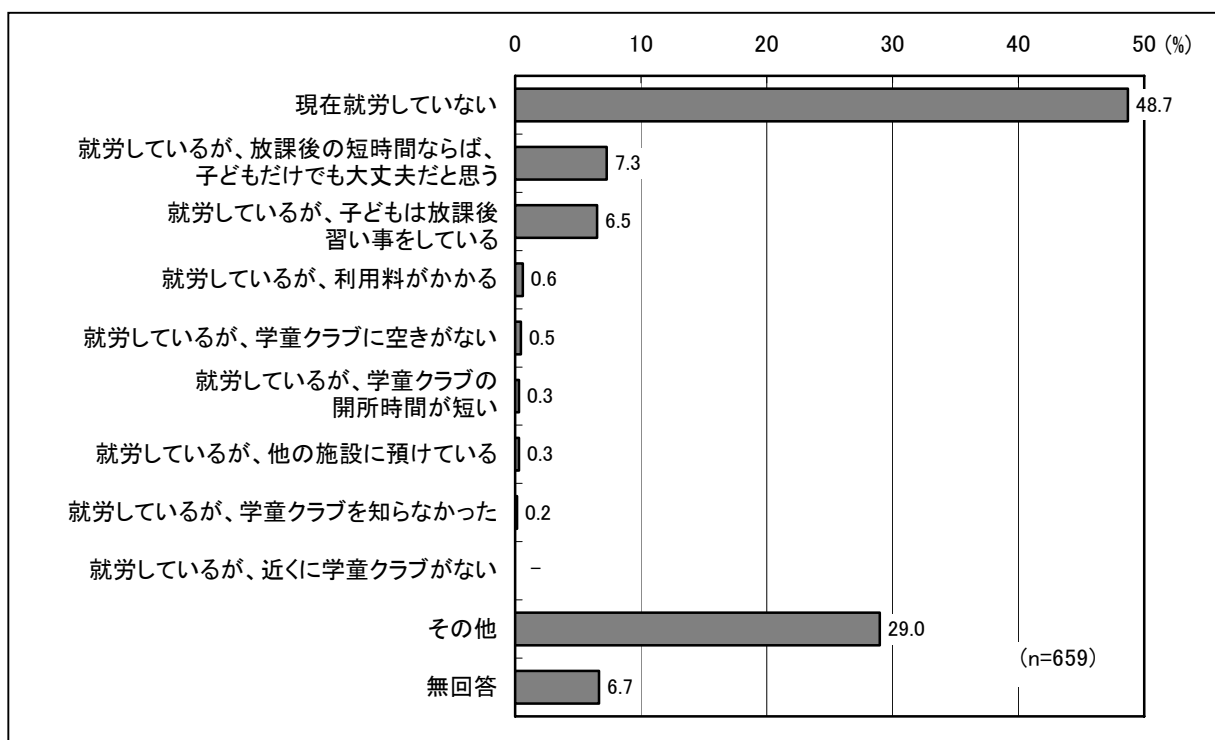


利用していない理由

学童クラブを「利用していない」と回答した人の利用していない理由をみると、「現在就労していない」が最も多く 48.7%となっている。

「その他」の内容として、“子どもが対象年齢ではないから” “仕事が自営業だから” “子どもの下校時刻には仕事から家に戻っているから” “祖父母等に預かってもらえるから” “子どもが嫌がるから” などの意見が寄せられている。

利用していない理由



学童クラブの利用意向

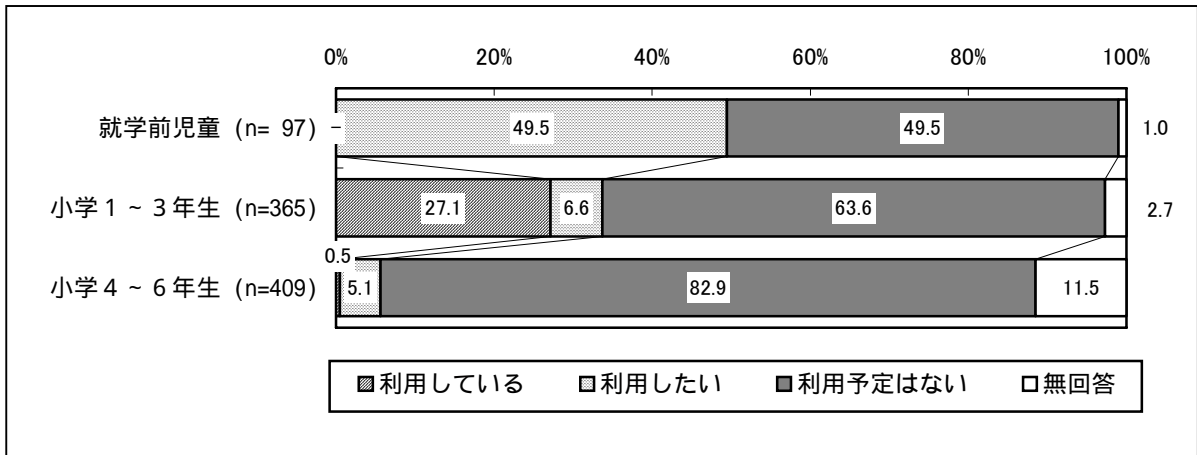
ア．学童クラブの利用意向

学童クラブの利用意向をみると、就学前児童の保護者（5歳児が対象）では「利用したい」が49.5%、「利用予定はない」が49.5%となっている。

現在学童クラブを利用していない1～3年生の就学児童の保護者では「利用したい」が6.6%、「利用予定はない」が63.6%となっている。現在の利用者と合わせると、1～3年生の保護者では“利用したい”が33.7%（「利用している」27.1%+「利用したい」6.6%）となっている。

また、現在利用対象でない4～6年生の利用希望も5.1%となっている。

学童クラブの利用意向



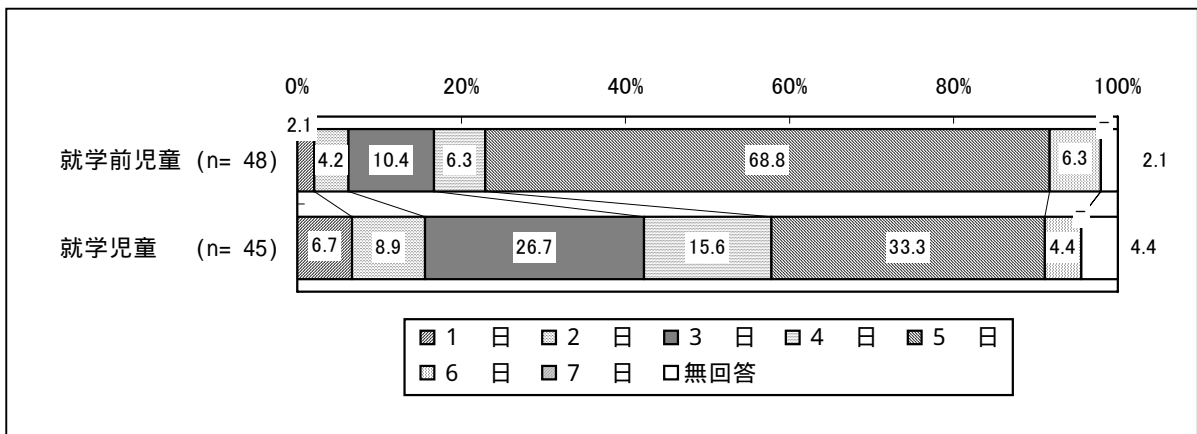
イ．利用希望日数と土曜日・日曜日の利用希望

ア．利用希望日数

現在学童クラブを利用していない就学児童の保護者のうち学童クラブを「利用したい」と回答した人の1週あたりの利用希望日数をみると、就学前児童の保護者では「5日」が最も多く68.8%、「3日」（10.4%）、「4日」（6.3%）も含めると、“週3～5日”が約9割を占めている。

就学児童の保護者では「5日」が最も多く33.3%、「3日」（26.7%）、「4日」（15.6%）も含めると、“週3～5日”が約8割を占めている。

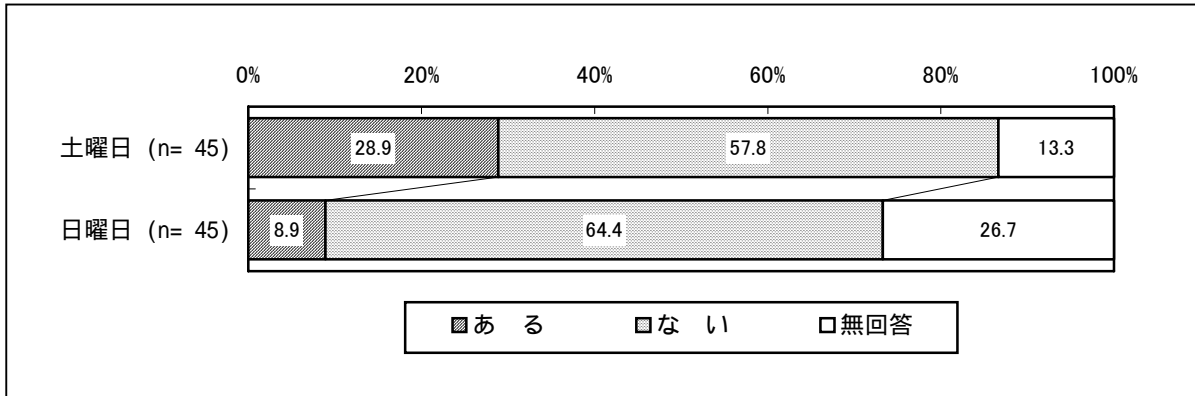
利用希望日数



b. 土曜日・日曜日の利用希望

現在学童クラブを利用していない就学児童の保護者のうち学童クラブを「利用したい」と回答した人の土曜日の利用希望をみると、「ある」は28.9%、「ない」は57.8%となっている。日曜日の利用希望については、「ある」は8.9%、「ない」は64.4%となっている。

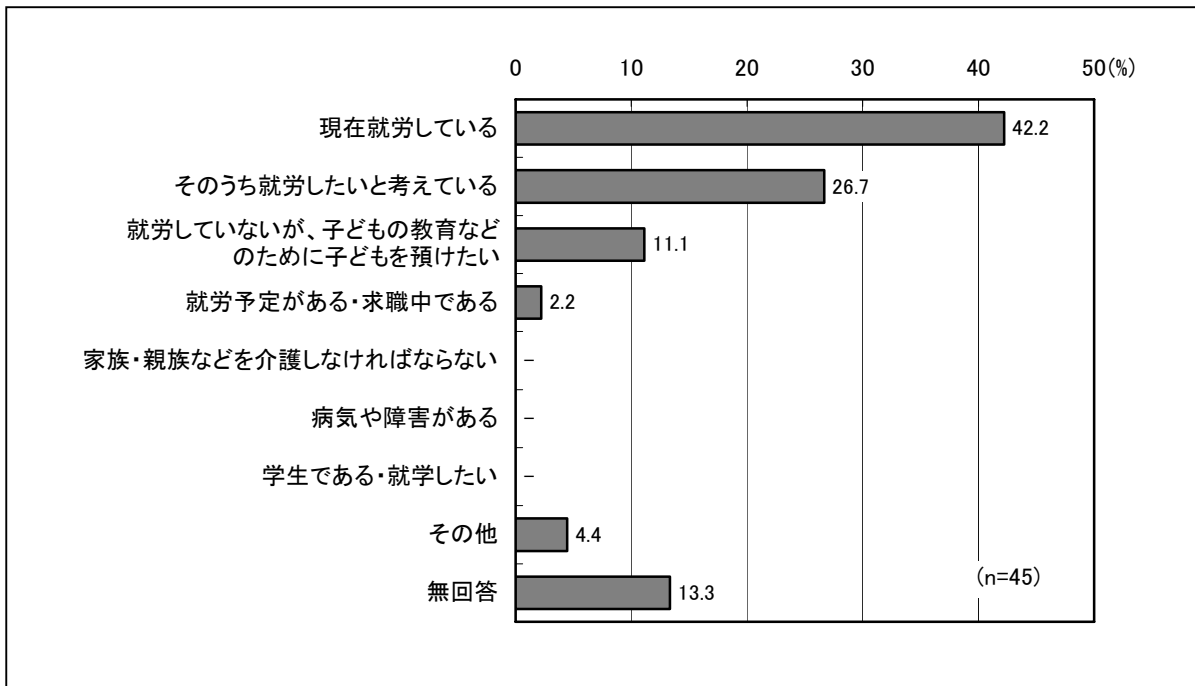
土曜日・日曜日の利用希望（就学児童が対象）



ウ. 利用したい理由

現在学童クラブを利用していない就学児童の保護者のうち学童クラブを「利用したい」と回答した人の利用したい理由をみると、「現在就労している」が最も多く42.2%、次いで「そのうち就労したいと考えている」が26.7%、「就労していないが、子どもの教育などのために子どもを預けたい」が11.1%となっている。

利用したい理由

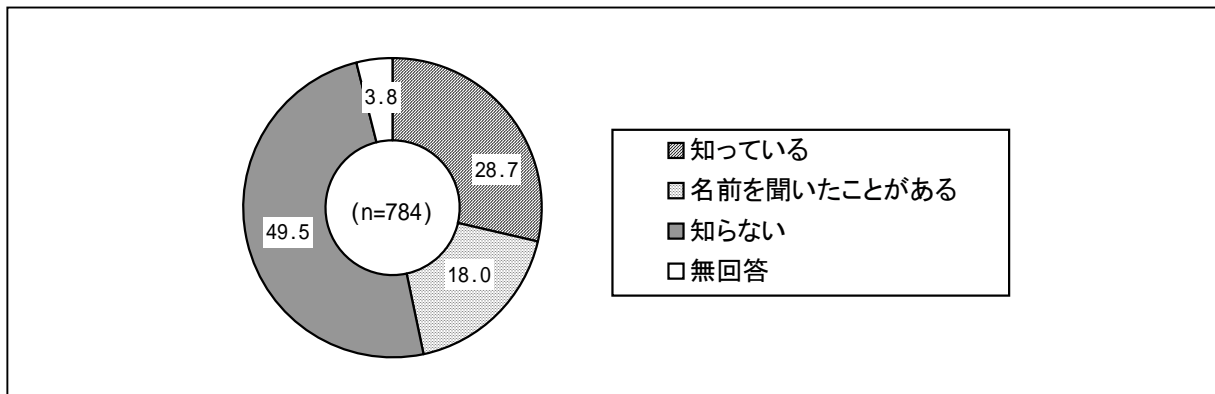


(4) 放課後子ども教室

放課後子ども教室の認知状況

放課後子ども教室の認知状況をみると、「知っている」が28.7%、「名前を聞いたことがある」が18.0%、「知らない」が49.5%となっている。

放課後子ども教室の認知状況

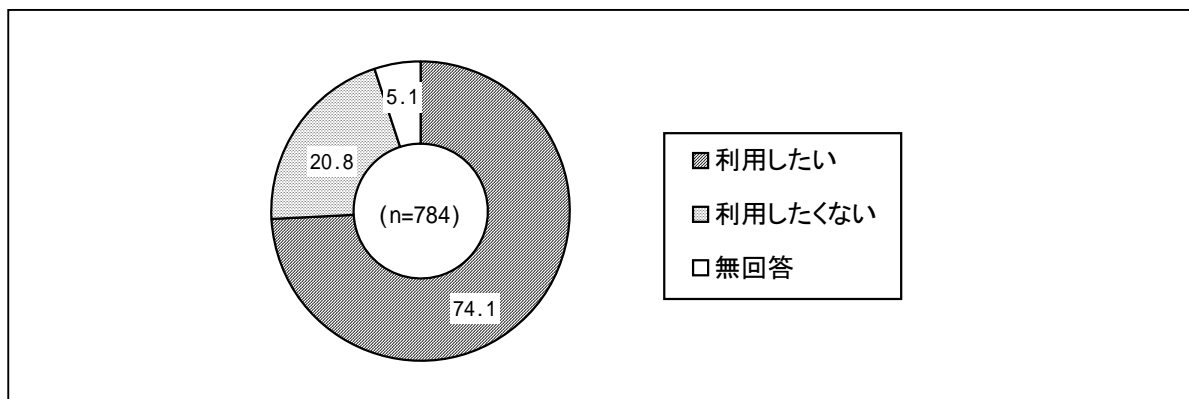


放課後子ども教室の利用意向と利用希望日数

ア．放課後子ども教室の利用意向

放課後子ども教室の利用意向をみると、「利用したい」が74.1%、「利用したくない」が20.8%となっている。

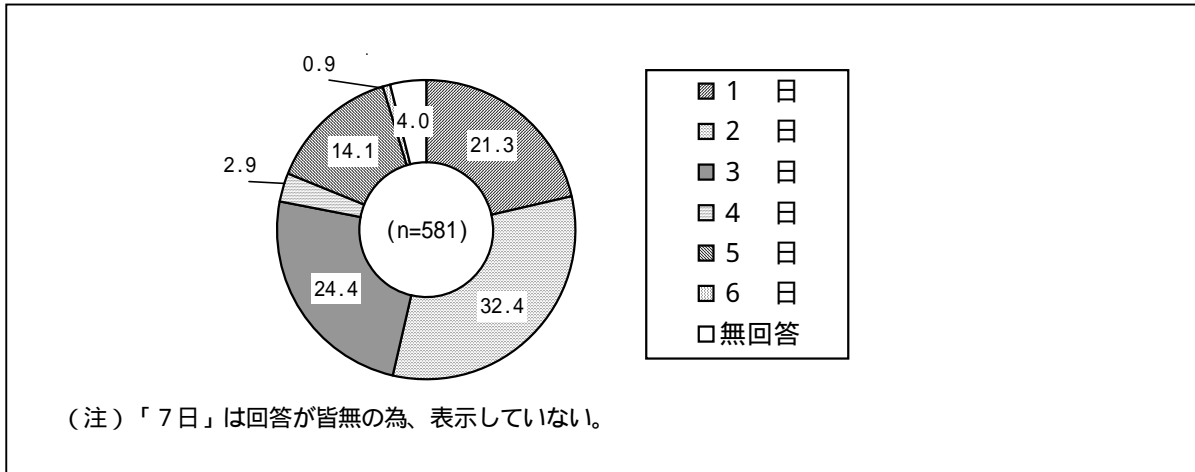
放課後子ども教室の利用意向



イ．利用希望日数

放課後子ども教室を「利用したい」と回答した人の1週あたりの利用希望日数をみると、「2日」が最も多く32.4%、次いで「3日」(24.4%)「1日」(21.3%)となっており、“週に1～3日”が約8割を占めている。

利用希望日数



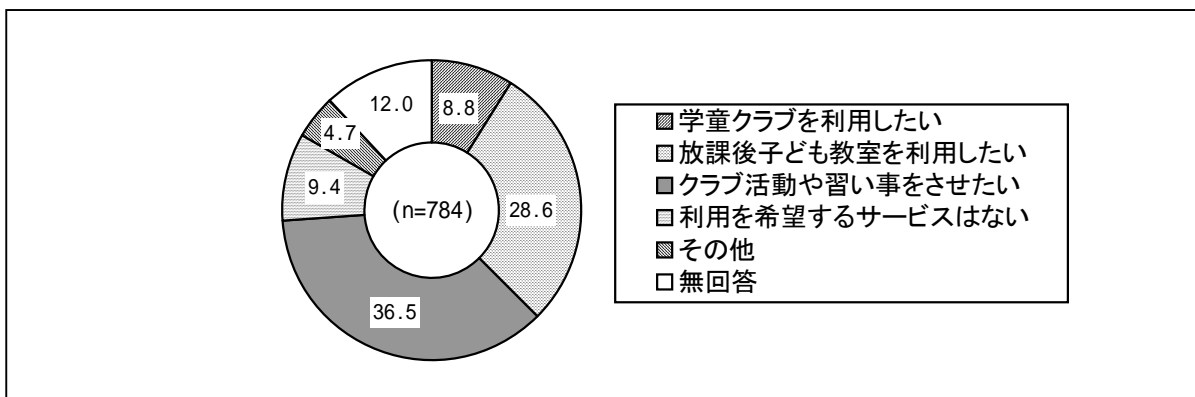
(5) 希望する放課後の過ごし方

小学4～6年生の間の希望する放課後の過ごし方

ア．小学4～6年生の間の希望する放課後の過ごし方

小学4～6年生の間の希望する放課後の過ごし方をみると、「クラブ活動や習い事をさせたい」が最も多く36.5%、次いで「放課後子ども教室を利用したい」が28.6%、「利用を希望するサービスはない」が9.4%、「学童クラブを利用したい」が8.8%となっている。

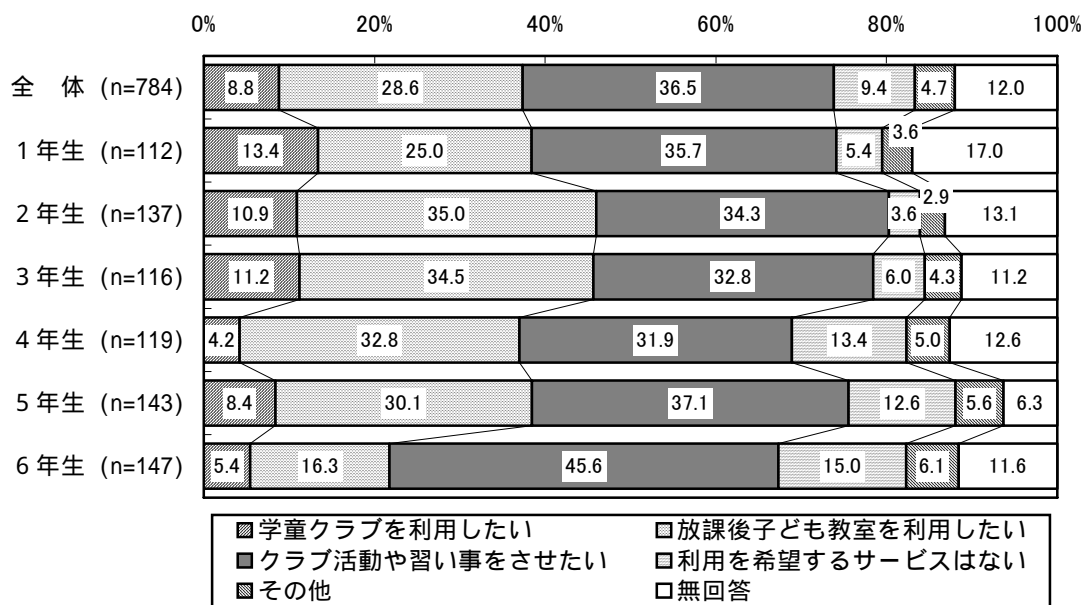
小学4～6年生の間の希望する放課後の過ごし方



【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、2年生・3年生の保護者では「放課後子ども教室を利用したい」（それぞれ35.0%、34.5%）が多く、6年生の保護者では「クラブ活動や習い事をさせたい」（45.6%）、「利用を希望するサービスはない」（15.0%）が多い。

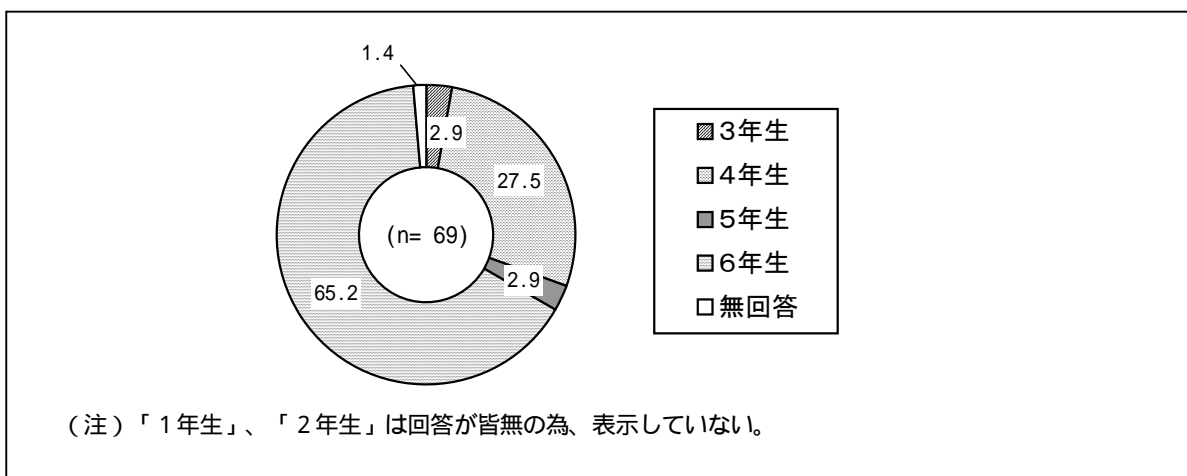
小学4～6年生の間の希望する放課後の過ごし方



イ．学童クラブの利用希望の最終学年

小学4～6年生の間の希望する放課後の過ごし方で「学童クラブを利用したい」と回答した人の学童クラブの利用希望の最終学年をみると、「6年生」が最も多く65.2%、次いで「4年生」が27.5%、「3年生」「5年生」がともに2.9%となっている。

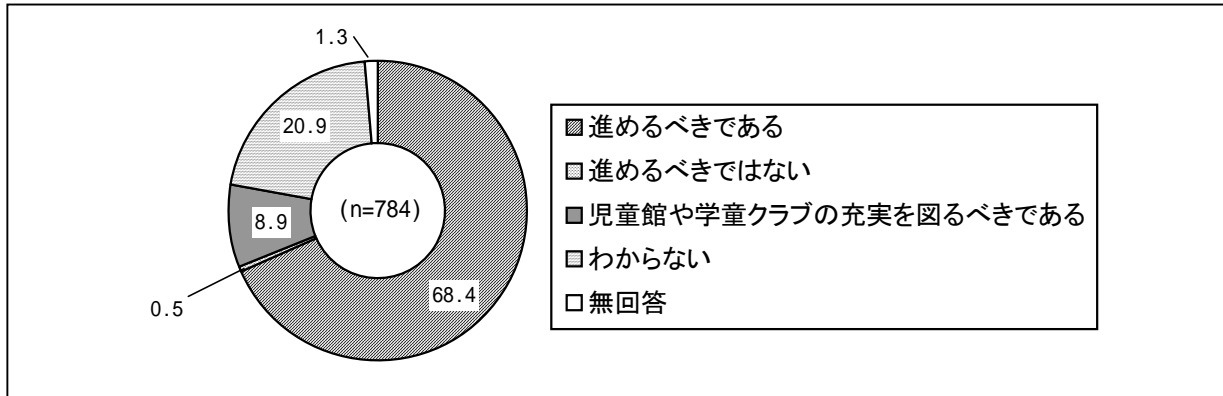
学童クラブの利用希望の最終学年



放課後子ども教室推進の必要性

放課後子ども教室推進の必要性をみると、「進めるべきである」が68.4%、「進めるべきではない」が0.5%、「放課後子ども教室よりも児童館や学童クラブの充実を図るべきである」が8.9%、「わからない」が20.9%となっている。

放課後子ども教室推進の必要性



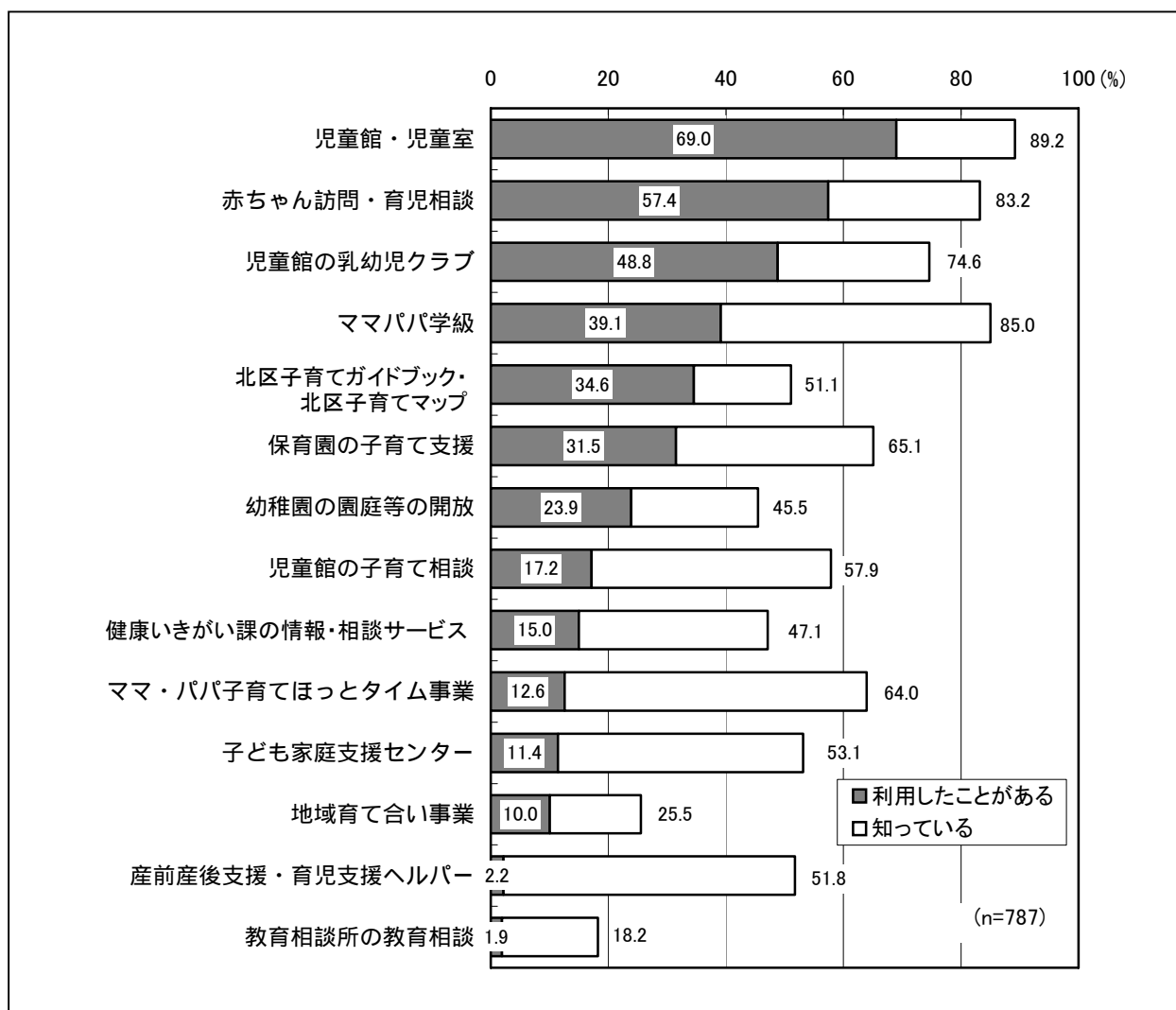
14. 子育て支援サービスの利用状況と利用意向について（就学前児童が対象）

(1) 子育て支援サービスの認知状況と利用状況

子育て支援サービスの中で認知状況が最も高いものは、「児童館・児童室」（89.2%）であり、以下「ママパパ学級」（85.0%）、「赤ちゃん訪問・育児相談」（83.2%）、「児童館の乳幼児クラブ」（74.6%）、「保育園の子育て支援」（65.1%）、「ママ・パパ子育てほっとタイム事業」（64.0%）となっている。

子育て支援サービスの利用状況をみると、利用状況が高い子育て支援サービスは、「児童館・児童室」（69.0%）であり、以下「赤ちゃん訪問・育児相談」（57.4%）、「児童館の乳幼児クラブ」（48.8%）、「ママパパ学級」（39.1%）、「北区子育てガイドブック・北区子育てマップ」（34.6%）、「保育園の子育て支援」（31.5%）となっている。

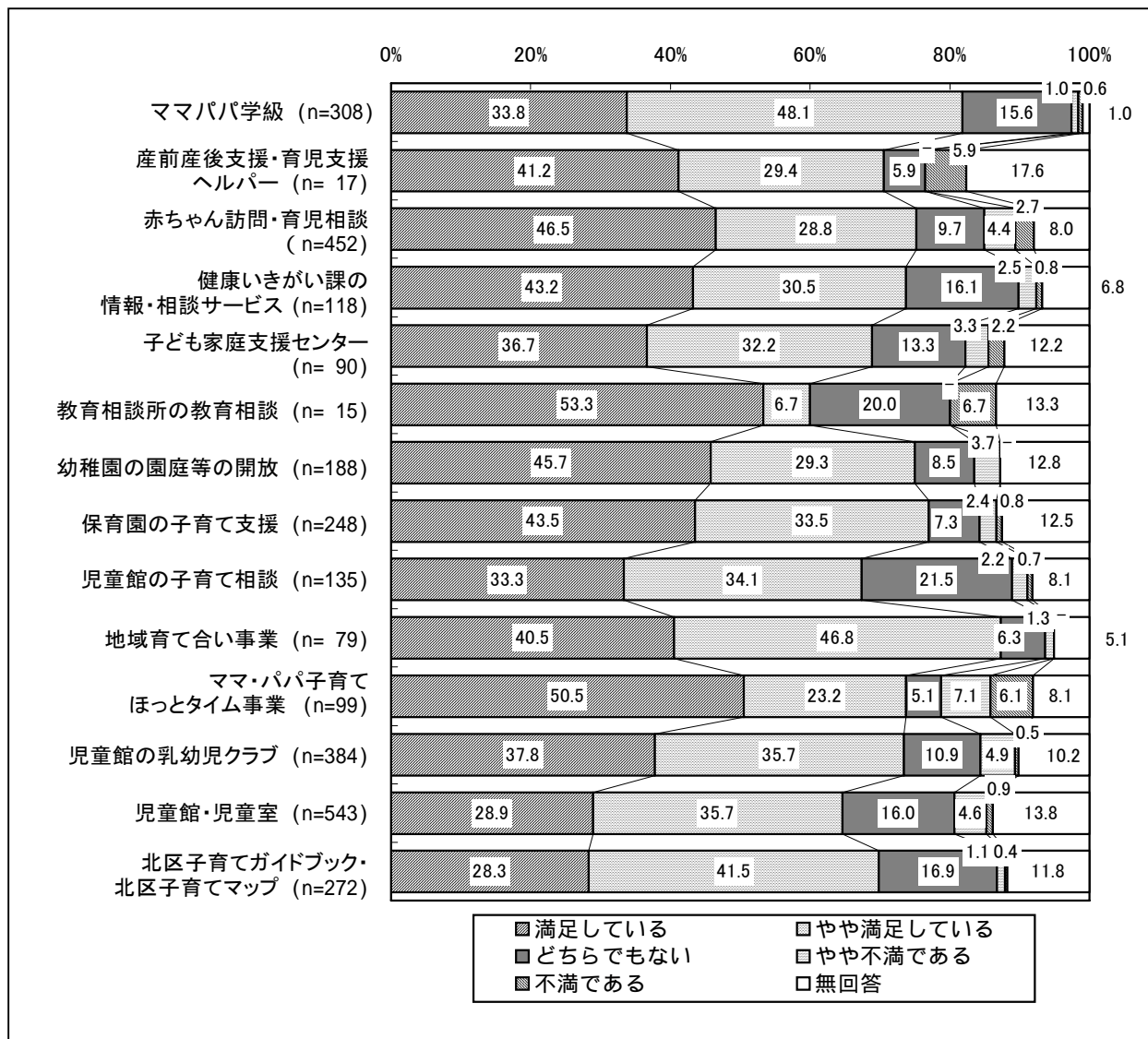
子育て支援サービスの認知状況と利用状況（複数回答）



(2) 子育て支援サービス利用の満足度

子育て支援サービスを「利用したことがある」と回答した人のサービス利用の満足度をみると、“満足”（「満足している」+「やや満足している」）度の最も高い子育て支援サービスは、「地域育て合い事業」（87.3%（40.5%+46.8%））であり、以下「ママパパ学級」（81.9%（33.8%+48.1%））、「保育園の子育て支援」（77.0%（43.5%+33.5%））、「赤ちゃん訪問・育児相談」（75.3%（46.5%+28.8%））、「幼稚園の園庭等の開放」（75.0%（45.7%+29.3%））と続いている。

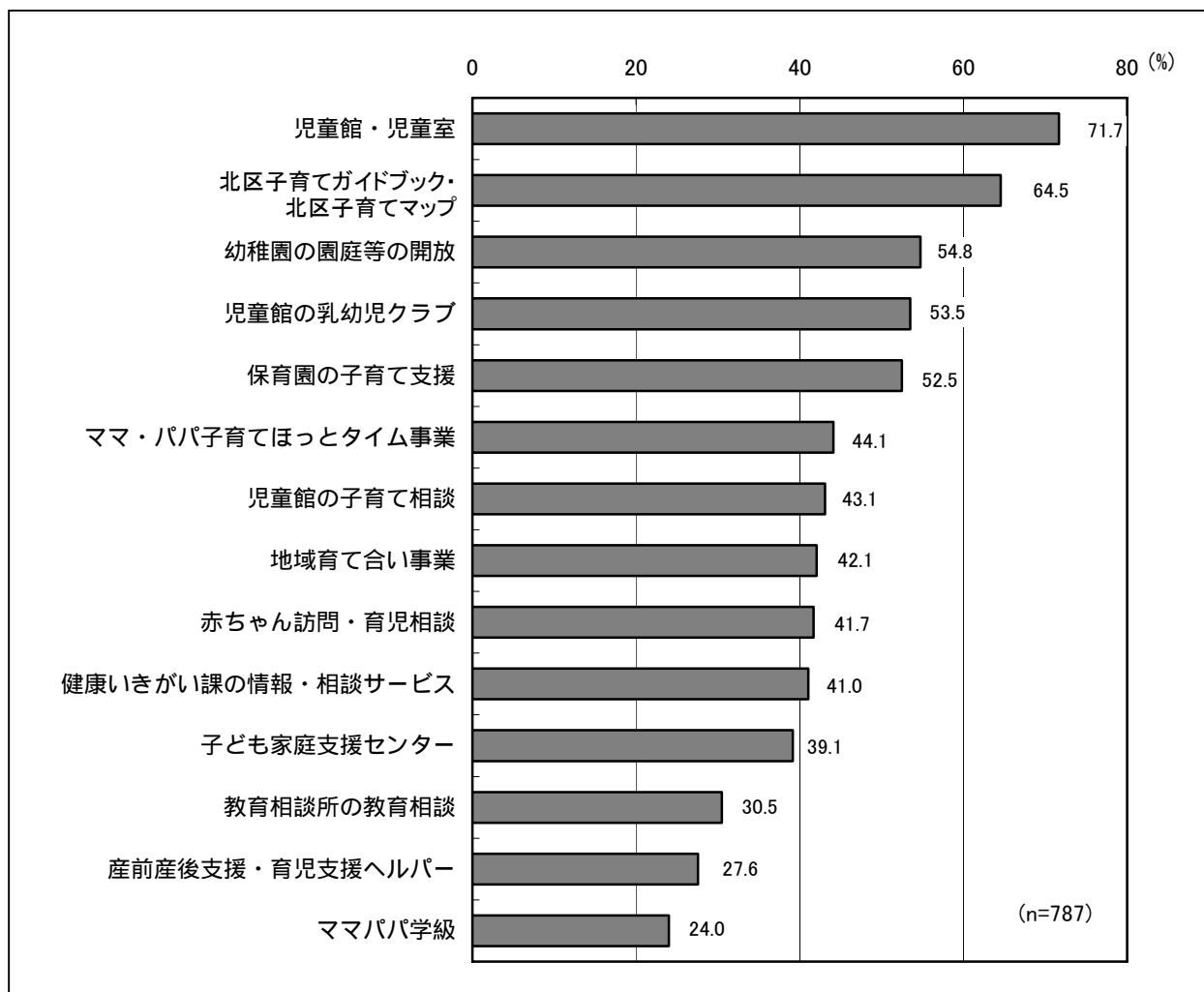
子育て支援サービス利用の満足度



(3) 子育て支援サービスの利用意向

今後利用したい子育て支援サービスとして最も多くあげられたものは、「児童館・児童室」(71.7%)であり、以下「北区子育てガイドブック・北区子育てマップ」(64.5%)、「幼稚園の園庭等の開放」(54.8%)、「児童館の乳幼児クラブ」(53.5%)、「保育園の子育て支援」(52.5%)と続いている。

子育て支援サービスの利用意向(複数回答)



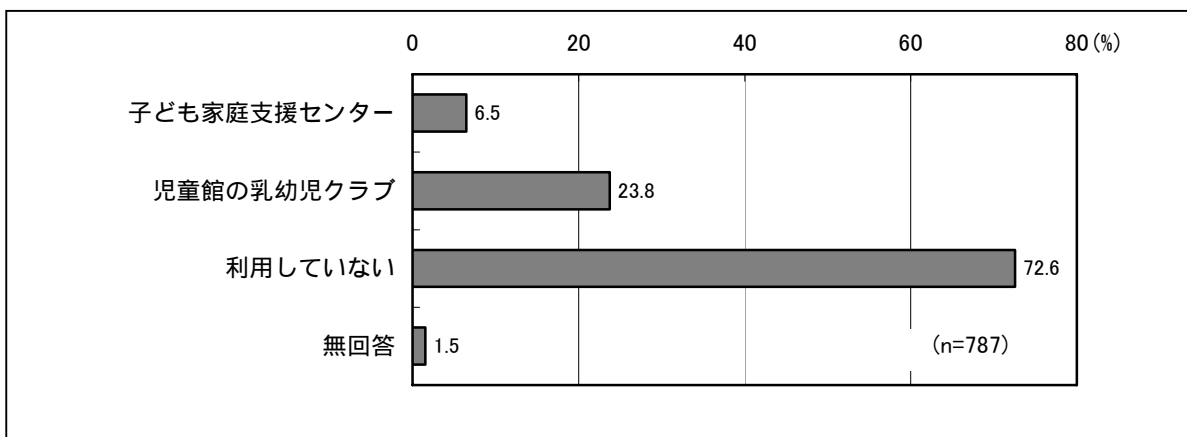
(4) 地域子育て支援拠点事業

地域子育て支援拠点事業の利用状況と利用頻度

ア. 地域子育て支援拠点事業の利用状況

地域子育て支援拠点事業の利用状況を見ると、「子ども家庭支援センター(育ち愛ほっと館)」が6.5%、「児童館の乳幼児クラブ」が23.8%、「利用していない」が72.6%となっている。

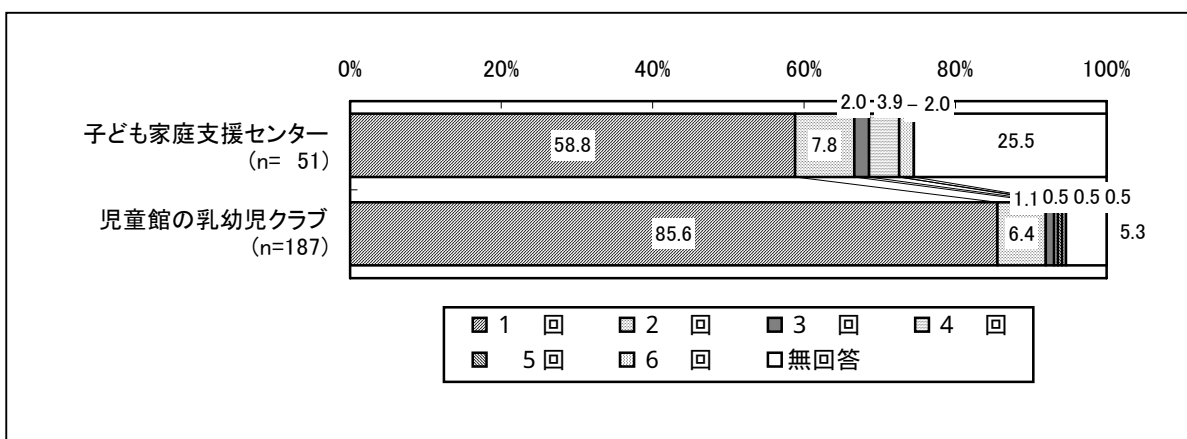
地域子育て支援拠点事業の利用状況(複数回答)



イ. 利用回数

地域子育て支援拠点事業で「子ども家庭支援センター(育ち愛ほっと館)」「児童館の乳幼児クラブ」を「利用している」と回答した人の1週あたりの利用回数をみると、子ども家庭支援センター(育ち愛ほっと館)、児童館の乳幼児クラブとも「1回」が最も多くそれぞれ58.8%、85.6%となっている。

利用回数

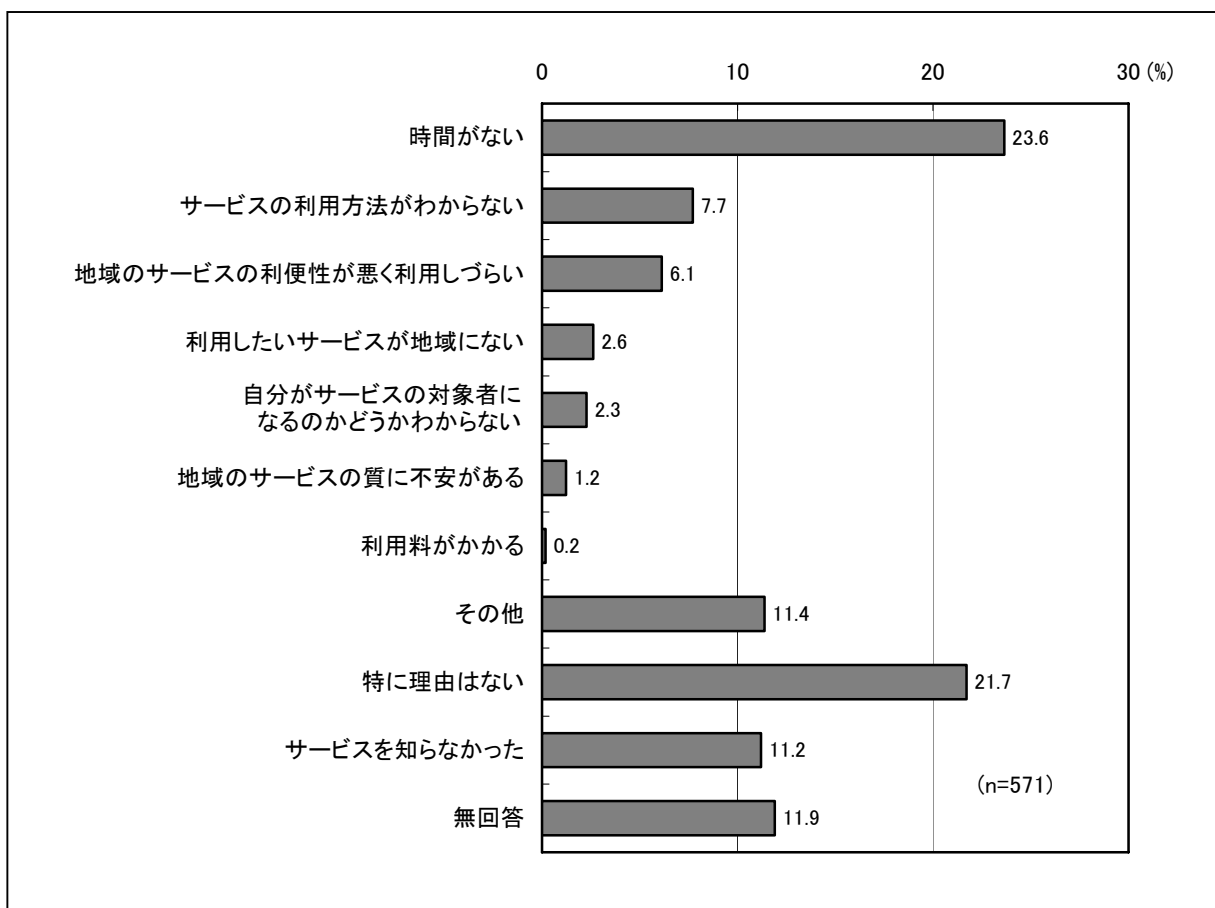


利用していない理由

地域子育て支援拠点事業を「利用していない」と回答した人の利用していない理由をみると、「時間がない」が最も多く23.6%、「特に理由はない」(21.7%)もほぼ同じ割合を示している。次いで「サービスの利用方法がわからない」が7.7%、「地域のサービスの利便性が悪く利用しづらい」が6.1%と続き、「サービスを知らなかった」(11.2%)も1割以上を占めている。

「その他」の内容として、“幼稚園又は保育園に通っているから” “子どもが利用対象年齢に達していないから” “子どもの面倒は家庭内でみられる” “利用する必要性を感じないから” などの意見が寄せられている。

利用していない理由

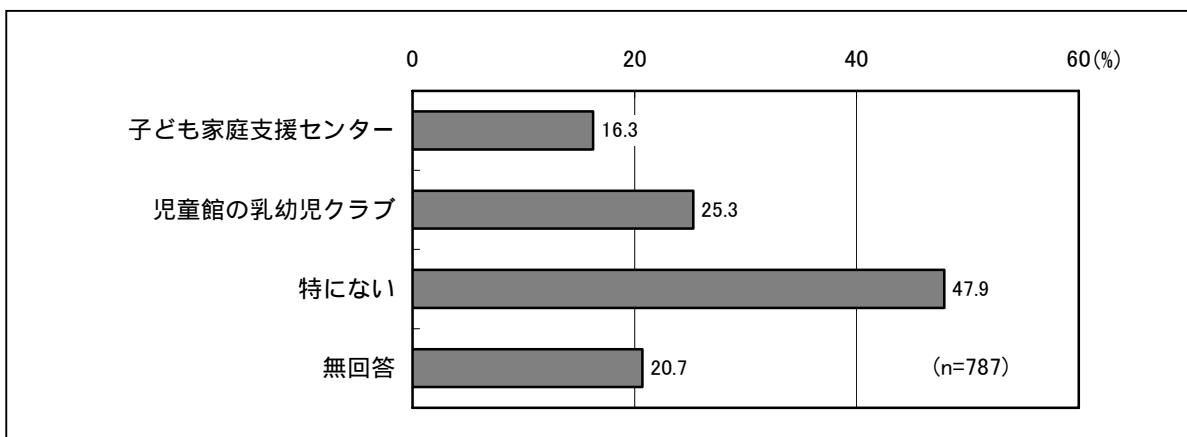


今後の利用意向

ア．地域子育て支援拠点事業の利用意向

地域子育て支援拠点事業を現在利用していない人、及び、利用日数を増やしたいと思っている人の利用意向をみると、「子ども家庭支援センター（育ち愛ほっと館）」が16.3%、「児童館の乳幼児クラブ」が25.3%、「特にない」が47.9%となっている。

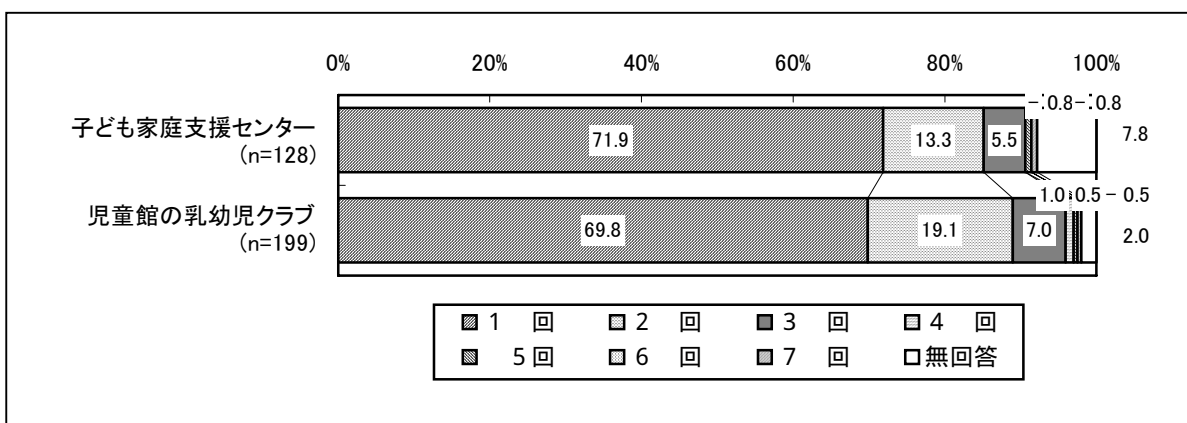
地域子育て支援拠点事業の利用意向（複数回答）



イ．利用回数

「子ども家庭支援センター（育ち愛ほっと館）を利用したい」「児童館の乳幼児クラブを利用したい」と回答した人の1週あたりの利用回数をみると、子ども家庭支援センター（育ち愛ほっと館）、児童館の乳幼児クラブとも「1回」が最も多くそれぞれ71.9%、69.8%となっているが、利用状況と比べて「2回」（それぞれ13.3%、19.1%）の割合が高くなっている。

利用回数



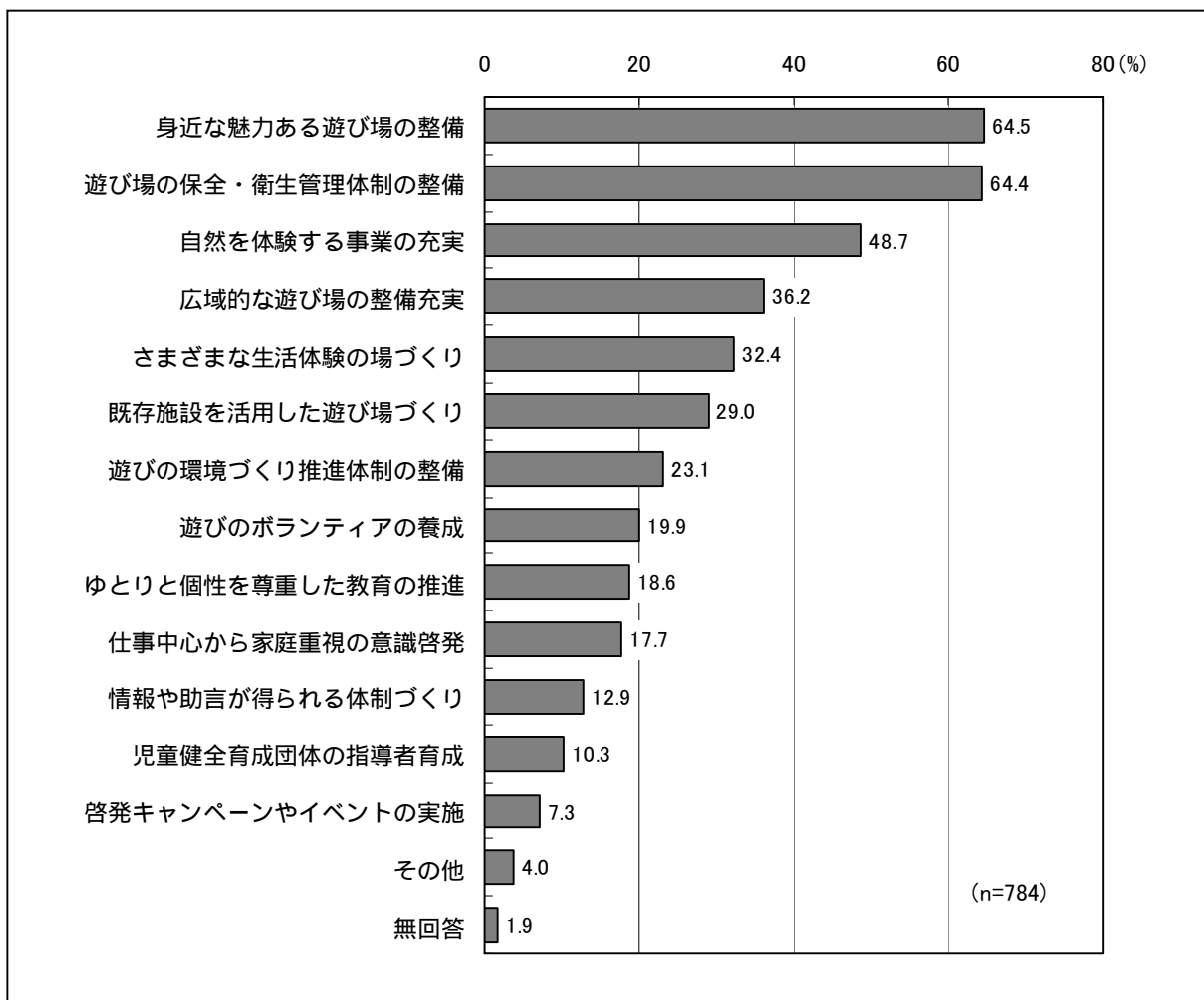
15. まちづくりや今後の子育て支援策について

(1) 子どもの遊びと体験(就学児童が対象)

子どもの遊ぶ環境をよくするために必要なこと

子どもの遊ぶ環境をよくするために必要なことをみると、「身近な魅力ある遊び場の整備」が最も多く 64.5%、「遊び場の保全・衛生管理体制の整備」(64.4%)もほぼ同じ割合を示している。次いで「自然を体験する事業の充実」が 48.7%、「広域的な遊び場の整備充実」が 36.2%、「さまざまな生活体験の場づくり」が 32.4%と続いている。

子どもの遊ぶ環境をよくするために必要なこと(複数回答)



【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、1年生・4年生・5年生の保護者では「身近な魅力ある遊び場の整備」が最も多くそれぞれ71.4%、66.4%、65.7%、次いで「遊び場の保全・衛生管理体制の整備」がそれぞれ62.5%、63.0%、63.6%、「自然を体験する事業の充実」がそれぞれ48.2%、58.8%、48.3%と続いている。2年生・3年生・6年生の保護者では「遊び場の保全・衛生管理体制の整備」が最も多くそれぞれ64.2%、66.4%、66.0%、次いで「身近な魅力ある遊び場の整備」が60.6%、63.8%、61.2%、「自然を体験する事業の充実」がそれぞれ46.7%、52.6%、39.5%と続いている。

子どもの遊ぶ環境をよくするために必要なこと（複数回答）

就学児童

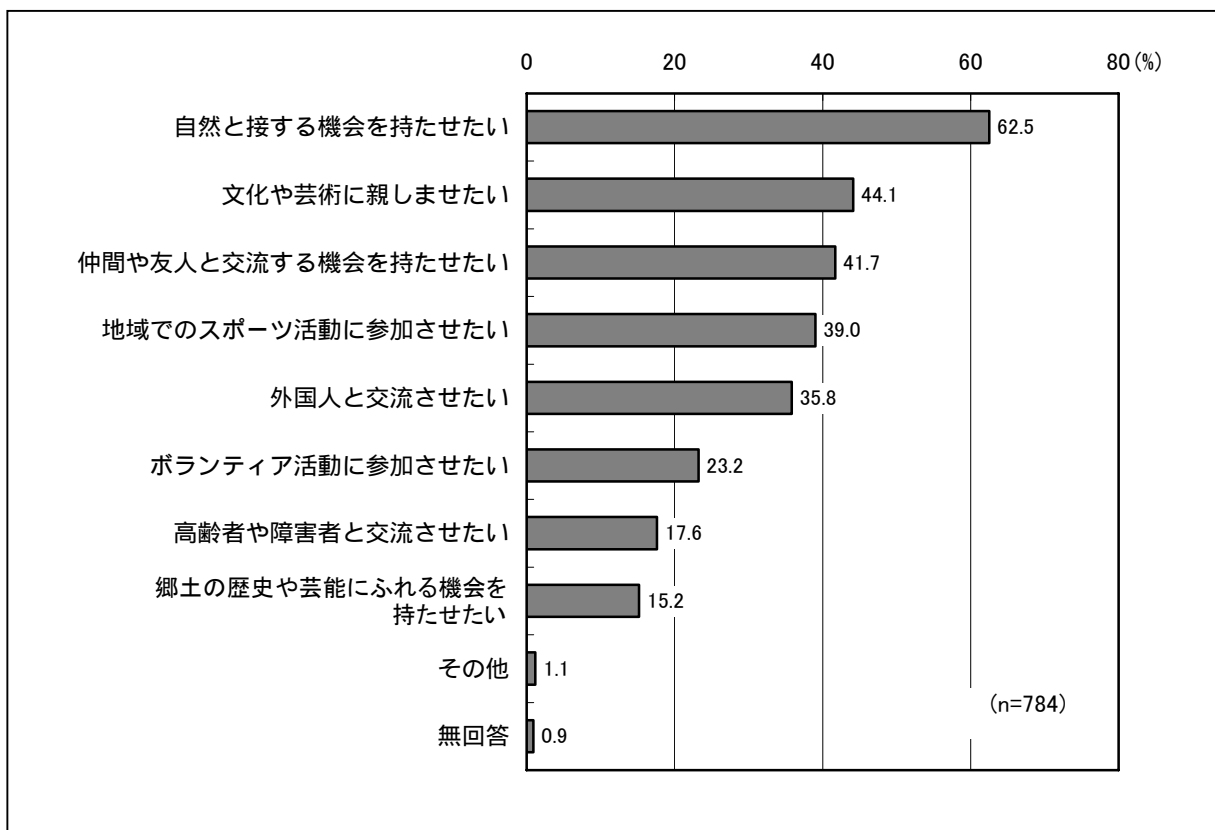
（単位：人、％）

	件数	自然を体験する事業の充実	身近な魅力ある遊び場の整備	自然を体験する事業の充実	家庭重視の意識啓発	仕事中心から家庭重視の意識啓発	広域的な遊び場の整備充実	既存施設を活用した遊び場づくり	情報や助言が得られる体制づくり	啓発キャンペーンやイベントの実施
全体	784	18.6	64.5	48.7	17.7	36.2	29.0	12.9	7.3	
1年生	112	23.2	71.4	48.2	23.2	37.5	26.8	11.6	8.0	
2年生	137	16.8	60.6	46.7	15.3	35.8	28.5	9.5	5.8	
3年生	116	19.0	63.8	52.6	22.4	42.2	28.4	17.2	11.2	
4年生	119	17.6	66.4	58.8	16.8	36.1	31.9	19.3	8.4	
5年生	143	25.2	65.7	48.3	20.3	33.6	37.1	16.1	6.3	
6年生	147	11.6	61.2	39.5	10.9	31.3	21.8	4.8	5.4	
	件数	遊び場の保全・衛生管理体制の整備	遊びのボランティアの養成	さまざまな生活体験の場づくり	遊びの環境づくり推進体制の整備	児童健全育成団体の指導者育成	その他	無回答		
全体	784	64.4	19.9	32.4	23.1	10.3	4.0	1.9		
1年生	112	62.5	21.4	33.0	25.0	8.0	7.1	1.8		
2年生	137	64.2	18.2	28.5	23.4	5.1	2.9	0.7		
3年生	116	66.4	25.9	37.1	28.4	16.4	3.4	2.6		
4年生	119	63.0	26.9	36.1	26.9	10.1	3.4	2.5		
5年生	143	63.6	14.0	35.7	25.9	12.6	3.5	1.4		
6年生	147	66.0	15.6	25.2	12.2	9.5	4.1	2.7		

今後子どもにさせたい体験

今後子どもにさせたい体験をみると、「自然と接する機会を持たせたい」が最も多く62.5%、次いで「文化や芸術に親しませたい」が44.1%、「仲間や友人と交流する機会を持たせたい」が41.7%、「地域でのスポーツ活動に参加させたい」が39.0%、「外国人と交流させたい」が35.8%と続いている。

今後子どもにさせたい体験（複数回答）



【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、1年生・3年生の保護者では「自然と接する機会を持たせたい」が最も多くそれぞれ75.0%、59.5%、次いで「仲間や友人と交流する機会を持たせたい」がそれぞれ48.2%、49.1%、「地域でのスポーツ活動に参加させたい」がそれぞれ41.1%、44.8%と続いている。2年生の保護者では「自然と接する機会を持たせたい」が最も多く67.2%、次いで「文化や芸術に親しませたい」が47.4%、「地域でのスポーツ活動に参加させたい」が43.8%と続いている。4年生の保護者では「自然と接する機会を持たせたい」が最も多く67.2%、次いで「文化や芸術に親しませたい」が50.4%、「外国人と交流させたい」が42.0%と続いている。5年生の保護者では「自然と接する機会を持たせたい」が最も多くそれぞれ52.4%、次いで「文化や芸術に親しませたい」が44.1%、「仲間や友人と交流する機会を持たせたい」「外国人と交流させたい」がともに39.2%と続いている。6年生の保護者では「自然と接する機会を持たせたい」が最も多く58.5%、次いで「文化や芸術に親しませたい」が43.5%、「仲間や友人と交流する機会を持たせたい」が42.2%と続いている。

今後子どもにさせたい体験（複数回答）

就学児童

（単位：人、％）

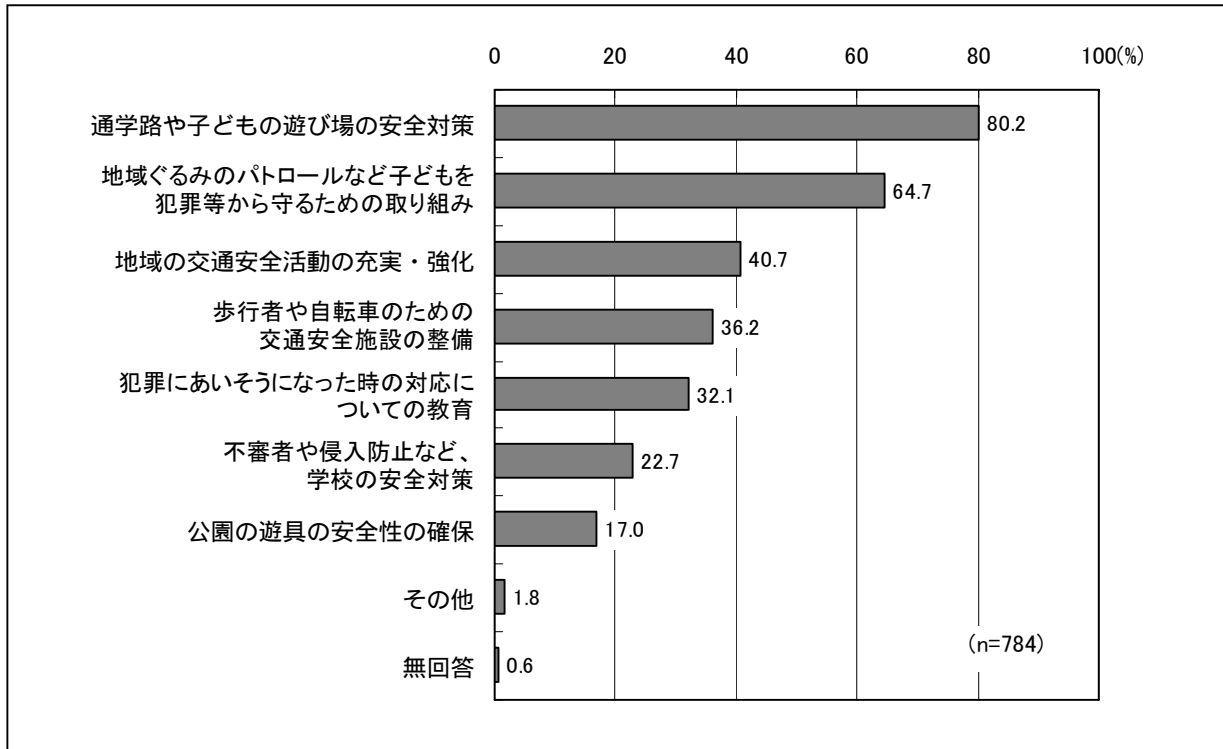
	件数	地域でのスポーツ活動に参加させたい	文化や芸術に親しませたい	仲間や友人と交流する機会を持たせたい	高齢者や障害者と交流させたい	郷土の歴史や芸能にふれる機会を持たせたい	外国人と交流させたい	自然と接する機会を持たせたい	ボランティア活動に参加させたい	その他	無回答
全体	784	39.0	44.1	41.7	17.6	15.2	35.8	62.5	23.2	1.1	0.9
1年生	112	41.1	36.6	48.2	16.1	8.9	32.1	75.0	21.4	3.6	-
2年生	137	43.8	47.4	39.4	10.2	14.6	32.1	67.2	17.5	-	0.7
3年生	116	44.8	42.2	49.1	17.2	11.2	34.5	59.5	23.3	-	0.9
4年生	119	31.1	50.4	32.8	15.1	17.6	42.0	67.2	27.7	2.5	0.8
5年生	143	38.5	44.1	39.2	29.4	18.9	39.2	52.4	27.3	0.7	1.4
6年生	147	34.0	43.5	42.2	17.0	19.0	36.1	58.5	22.4	0.7	1.4

(2) 子どもの安全確保(就学児童が対象)

子どもの安全を守るために重要なこと

子どもの安全を守るために重要なことをみると、「通学路や子どもの遊び場の安全対策」が最も多く 80.2%、次いで「地域ぐるみのパトロールなど子どもを犯罪等から守るための取り組み」が 64.7%、「地域の交通安全活動の充実・強化」が 40.7%、「歩行者や自転車のための交通安全施設の整備」が 36.2%、「犯罪にあいそうになった時の対応についての教育」が 32.1%と続いている。

子どもの安全を守るために重要なこと(複数回答)



【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、1年生の保護者では「通学路や子どもの遊び場の安全対策」が最も多く75.0%、次いで「地域ぐるみのパトロールなど子どもを犯罪等から守るための取り組み」が65.2%、「歩行者や自転車のための交通安全施設の設置」が40.2%と続いている。2～6年生の保護者では「通学路や子どもの遊び場の安全対策」が最も多くそれぞれ約8割～約9割を占めており、次いで「地域ぐるみのパトロールなど子どもを犯罪等から守るための取り組み」が6割～約7割を占めている。「地域の交通安全活動の充実・強化」が4割前後となっている。

子どもの安全を守るために重要なこと（複数回答）

就学児童

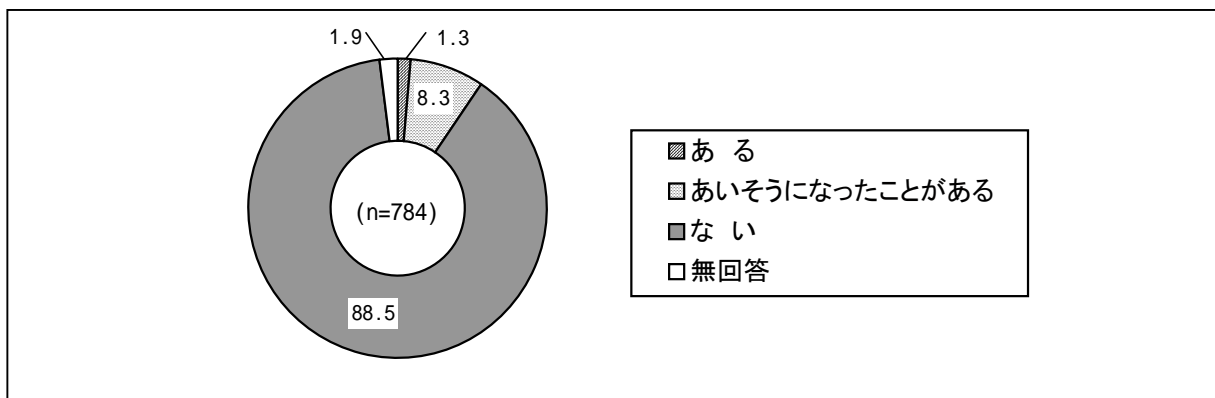
（単位：人、％）

	件数	地域の交通安全活動の充実・強化	歩行者や自転車のための交通安全施設の整備	地域ぐるみのパトロールなど子どもを犯罪等から守るための取り組み	犯罪にあいそうになった時の対応についての教育	不審者や侵入防止など、学校の安全対策	通学路や子どもの遊び場の安全対策	公園の遊具の安全性の確保	その他	無回答
全体	784	40.7	36.2	64.7	32.1	22.7	80.2	17.0	1.8	0.6
1年生	112	35.7	40.2	65.2	35.7	18.8	75.0	18.8	1.8	-
2年生	137	43.1	37.2	64.2	30.7	18.2	86.1	21.9	0.7	-
3年生	116	39.7	34.5	69.0	25.0	25.0	79.3	18.1	2.6	1.7
4年生	119	42.0	30.3	62.2	36.1	27.7	76.5	23.5	2.5	0.8
5年生	143	37.8	30.8	61.5	32.9	27.3	77.6	13.3	2.8	1.4
6年生	147	44.2	43.5	66.0	33.3	20.4	85.7	8.8	0.7	-

子どもが犯罪の被害にあったことの有無

子どもが犯罪の被害にあったことの有無をみると、「ない」が最も多く88.5%、「あいそうになったことがある」が8.3%、「ある」が1.3%となっている。

子どもが犯罪の被害にあったことの有無

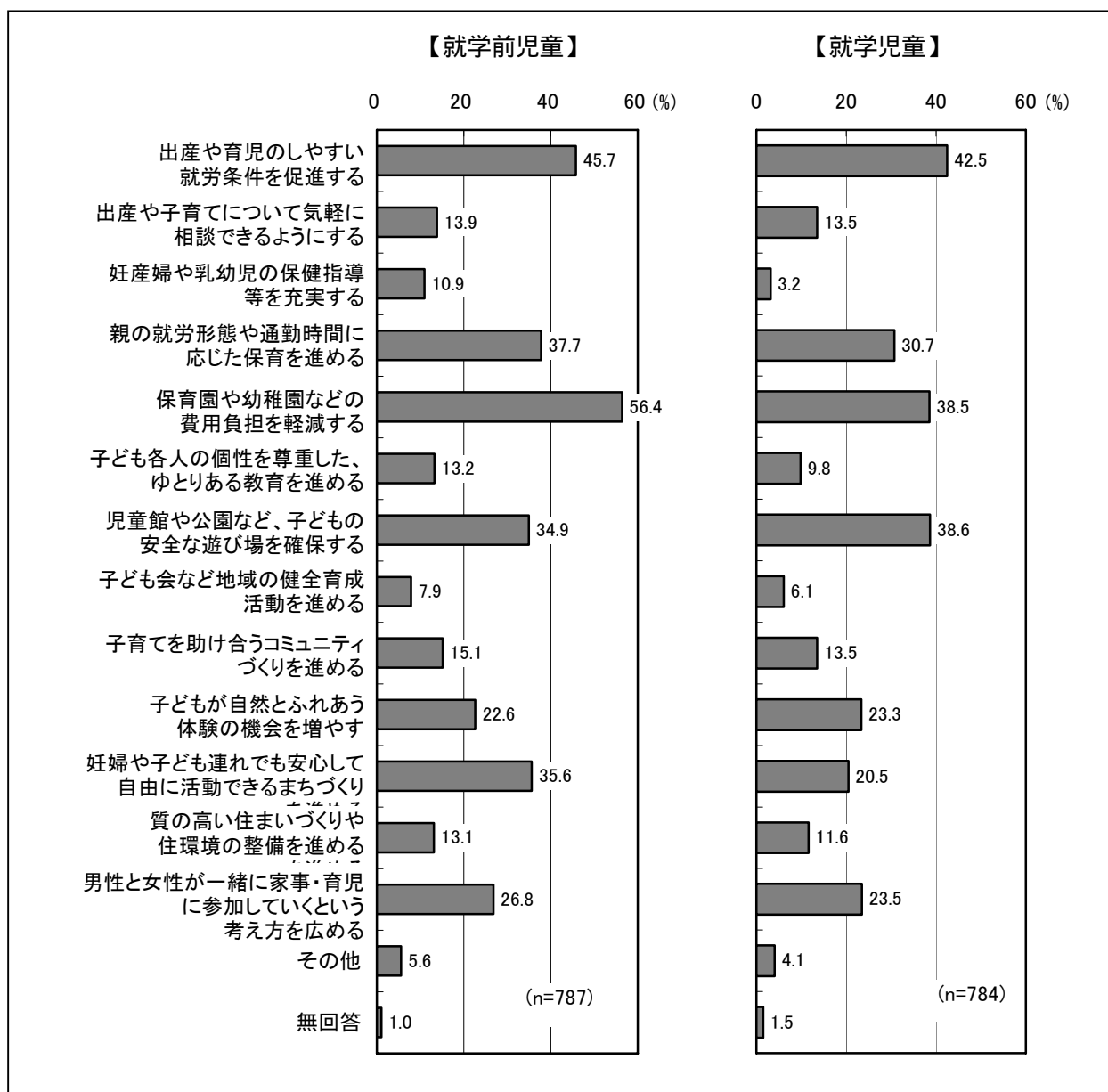


(3) 子どもを健やかに産み育てるために必要なこと

子どもを健やかに産み育てるために必要なことをみると、就学前児童の保護者では「保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する」が最も多く56.4%、次いで「出産や育児のしやすい就労条件を促進する」が45.7%、「親の就労形態や通勤に応じた保育を進める」が37.7%、「妊婦や子ども連れでも安心して自由に活動できるまちづくりを進める」が35.6%、「児童館や身近な公園など、子どもの安全な遊び場を確保する」が34.9%と続いている。

就学児童の保護者では「出産や育児のしやすい就労条件を促進する」が最も多く42.5%、次いで「児童館や身近な公園など、子どもの安全な遊び場を確保する」が38.6%、「保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する」が38.5%、「親の就労形態や通勤時間に応じた保育を進める」が30.7%と続いている。

子どもを健やかに産み育てるために必要なこと（複数回答）



【子どもの年齢別】

子どもの年齢別にみると、0歳児の保護者では「保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する」が最も多く58.3%、次いで「出産や育児のしやすい就労条件を促進する」が48.1%、「妊婦や子ども連れでも安心して自由に活動できるまちづくりを進める」が43.6%と続いている。1歳児の保護者では「保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する」が最も多く57.1%、次いで「出産や育児のしやすい就労条件を促進する」が51.4%、「親の就労形態や通勤時間に応じた保育を進める」が41.4%と続いている。2歳児の保護者では「保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する」が最も多く58.8%、次いで「妊婦や子ども連れでも安心して自由に活動できるまちづくりを進める」が41.2%、「出産や育児のしやすい就労条件を促進する」が40.2%と続いている。3歳児の保護者では「保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する」が最も多く60.2%、次いで「出産や育児のしやすい就労条件を促進する」が44.9%、「親の就労形態や通勤時間に応じた保育を進める」「児童館（児童室）や身近な公園など、子どもの安全な遊び場を確保する」がともに36.7%と続いている。4歳児の保護者では「保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する」が最も多く59.5%、次いで「出産や育児のしやすい就労条件を促進する」が39.3%、「児童館（児童室）や身近な公園など、子どもの安全な遊び場を確保する」が34.5%と続いている。5歳児の保護者では「出産や育児のしやすい就労条件を促進する」が最も多く45.4%、次いで「親の就労形態や通勤時間に応じた保育を進める」が43.3%、「保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する」が41.2%と続いている。

子どもを健やかに産み育てるために必要なこと（複数回答）

就学前児童

（単位：人、％）

	件数	出産や育児のしやすい就労条件を促進する	出産や子育てについて気軽に相談できるようにする	妊産婦や乳幼児の保健指導等を充実する	親の就労形態や通勤時間に応じた保育を進める	保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する	子ども各人の個性を尊重した、ゆとりある教育を進める	児童館（児童室）や身近な公園など、子どもの安全な遊び場を確保する	子ども会など地域の健全育成活動を進める
全体	787	45.7	13.9	10.9	37.7	56.4	13.2	34.9	7.9
0歳	264	48.1	15.2	16.3	39.0	58.3	12.1	32.2	7.6
1歳	140	51.4	20.0	11.4	41.4	57.1	12.9	35.0	6.4
2歳	97	40.2	14.4	11.3	30.9	58.8	15.5	37.1	5.2
3歳	98	44.9	9.2	8.2	36.7	60.2	15.3	36.7	8.2
4歳	84	39.3	10.7	3.6	31.0	59.5	7.1	34.5	9.5
5歳	97	45.4	9.3	5.2	43.3	41.2	15.5	37.1	11.3
	件数	子育てを助け合うコミュニティづくりを進める	自然環境を保護し、子どもが自然とふれあう体験の機会を増やす	妊婦や子ども連れでも安心して自由に活動できるまちづくりを進める	質の高い住まいづくりや住環境の整備を進める	男性と女性が一緒に家事・育児に参加していくという考え方を広める	その他	無回答	
全体	787	15.1	22.6	35.6	13.1	26.8	5.6	1.0	
0歳	264	15.9	20.1	43.6	13.3	29.5	4.9	-	
1歳	140	17.9	21.4	37.9	13.6	30.7	4.3	0.7	
2歳	97	18.6	19.6	41.2	11.3	23.7	5.2	2.1	
3歳	98	8.2	25.5	31.6	15.3	20.4	6.1	2.0	
4歳	84	15.5	25.0	22.6	9.5	26.2	4.8	-	
5歳	97	11.3	28.9	21.6	14.4	25.8	8.2	3.1	

【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、1年生の保護者では「保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する」が最も多く42.9%、次いで「児童館(児童室)や身近な公園など、子どもの安全な遊び場を確保する」が38.4%、「出産や育児のしやすい就労条件を促進する」が37.5%と続いている。2年生の保護者では「児童館や身近な公園など、子どもの安全な遊び場を確保する」が最も多く44.5%、次いで「出産や育児のしやすい就労条件を促進する」が43.1%、「保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する」が40.9%と続いている。3年生・5年生の保護者では「出産や育児のしやすい就労条件を促進する」が最も多くそれぞれ45.7%、40.6%、次いで「児童館(児童室)や身近な公園など、子どもの安全な遊び場を確保する」がそれぞれ39.7%、38.5%、「保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する」がそれぞれ38.8%、36.4%と続いている。4年生の保護者では「出産や育児のしやすい就労条件を促進する」が最も多く40.3%、次いで「児童館(児童室)や身近な公園など、子どもの安全な遊び場を確保する」が37.0%、「親の就労形態や通勤時間に応じた保育を進める」「保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する」「自然環境を保護し、子どもが自然とふれあう体験の機会を増やす」がともに31.9%と続いている。6年生の保護者では「出産や育児のしやすい就労条件を促進する」が最も多く47.6%、次いで「保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する」が40.8%、「児童館(児童室)や身近な公園など、子どもの安全な遊び場を確保する」が33.3%と続いている。

子どもを健やかに産み育てるために必要なこと(複数回答)

就学児童

(単位:人、%)

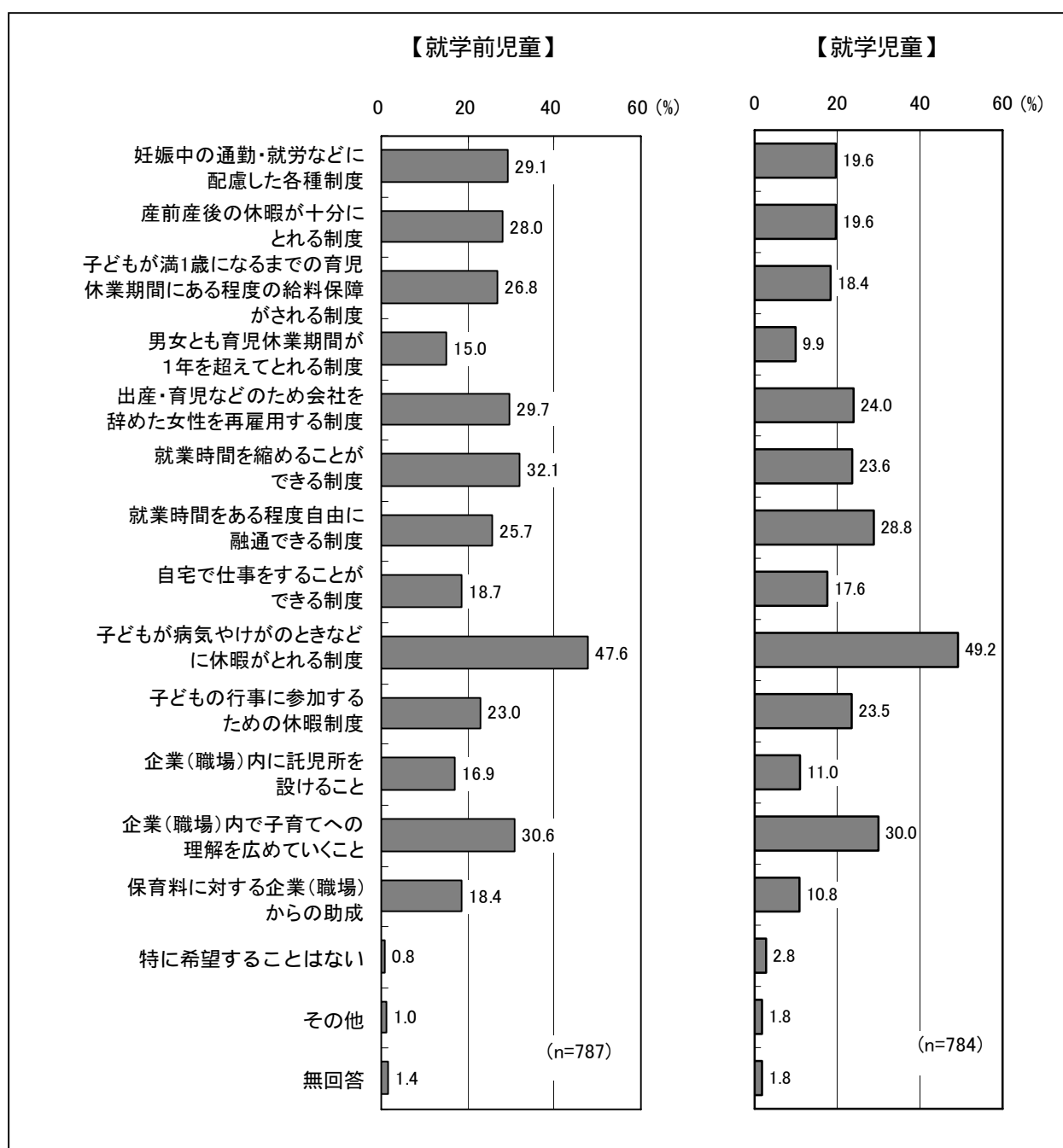
	件数	出産や育児のしやすい就労条件を促進する	出産や子育てについて気軽に相談できるようにする	妊産婦や乳幼児の保健指導等を充実する	親の就労形態や通勤時間に応じた保育を進める	保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する	子ども各人の個性を尊重した、ゆとりある教育を進める	児童館(児童室)や身近な公園など、子どもの安全な遊び場を確保する	子ども会など地域の健全育成活動を進める
全体	784	42.5	13.5	3.2	30.7	38.5	9.8	38.6	6.1
1年生	112	37.5	10.7	3.6	29.5	42.9	9.8	38.4	8.0
2年生	137	43.1	11.7	3.6	26.3	40.9	8.8	44.5	7.3
3年生	116	45.7	11.2	1.7	32.8	38.8	12.1	39.7	2.6
4年生	119	40.3	9.2	2.5	31.9	31.9	5.0	37.0	1.7
5年生	143	40.6	14.0	4.2	33.6	36.4	12.6	38.5	8.4
6年生	147	47.6	21.8	2.7	32.0	40.8	10.9	33.3	8.2
	件数	子育てを助け合うコミュニティづくりを進める	自然環境を保護し、子どもが自然とふれあう体験の機会を増やす	妊婦や子ども連れでも安心して自由に活動できるまちづくりを進める	質の高い住まいづくりや住環境の整備を進める	男性と女性が一緒に家事・育児に参加していくという考え方を広める	その他	無回答	
全体	784	13.5	23.3	20.5	11.6	23.5	4.1	1.5	
1年生	112	13.4	23.2	23.2	8.9	21.4	7.1	1.8	
2年生	137	12.4	24.1	26.3	11.7	24.8	2.9	-	
3年生	116	9.5	20.7	22.4	18.1	20.7	1.7	2.6	
4年生	119	21.8	31.9	19.3	13.4	21.8	2.5	2.5	
5年生	143	11.2	21.7	18.2	10.5	23.8	4.9	2.1	
6年生	147	13.6	18.4	15.6	8.8	27.2	4.1	0.7	

(4) 企業などにおける職場環境の整備で必要なこと

企業などにおける職場環境の整備で必要なことをみると、就学前児童の保護者では「子どもが病気やけがのときなどに休暇がとれる制度」が最も多く47.6%、次いで「育児のために必要な場合に、就業時間を縮めることができる制度」が32.1%、「男女ともに子育てと仕事が両立しやすいように、企業（職場）内で子育てへの理解を広めていくこと」が30.6%、「出産・育児などのため会社を辞めた女性を再雇用する制度」が29.7%、「妊娠中の通勤・就労などに配慮した各種制度」が29.1%と続いている。

就学児童の保護者でも「子どもが病気やけがのときなどに休暇がとれる制度」が最も多く49.2%、次いで「男女ともに子育てと仕事が両立しやすいように、企業（職場）内で子育てへの理解を広めていくこと」が30.0%、「就業時間のある程度自由に融通できる制度」が28.8%、「出産・育児などのため会社を辞めた女性を再雇用する制度」が24.0%、「育児のために必要な場合に、就業時間を縮めることができる制度」が23.6%、「子どもの行事に参加するための休暇制度」が23.5%と続いている。

企業などにおける職場環境の整備で必要なこと（複数回答）

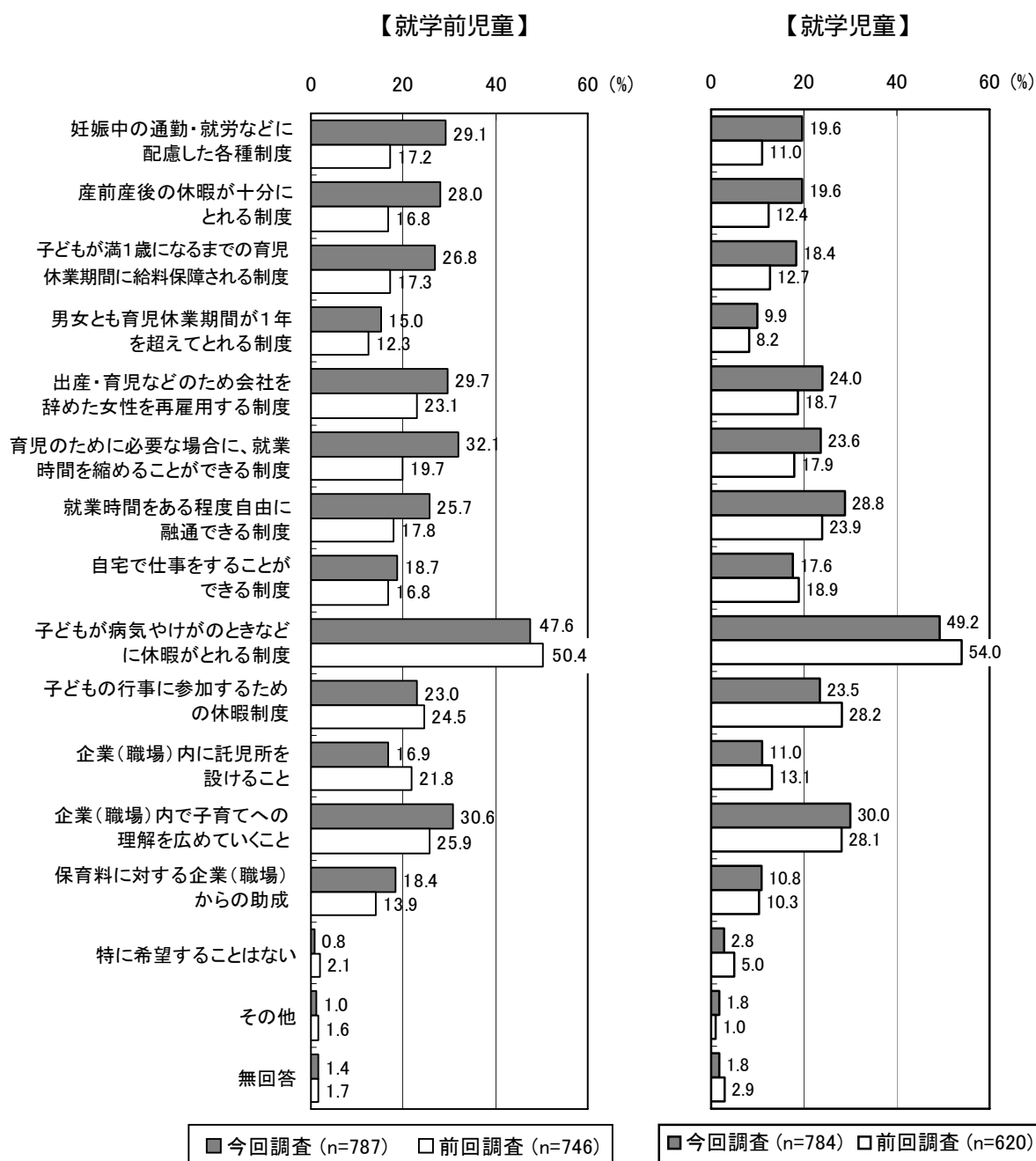


【前回調査との比較】

前回調査と比較してみると、就学前児童の保護者では「育児のために必要な場合に、就業時間を縮めることができる制度」が12.4ポイント、「妊娠中の通勤・就労などに配慮した各種制度」が11.9ポイント、「産前産後の休暇が十分にとれる制度」が11.2ポイント、「子どもが満1歳になるまでの育児休業期間にある程度の給料保障がされる制度」が9.5ポイント、「就業時間をある程度自由に融通できる制度」が7.9ポイント、「出産・育児などのため会社を辞めた女性を再雇用する制度」が6.6ポイントそれぞれ増加している。

就学児童の保護者でも「妊娠中の通勤・就労などに配慮した各種制度」が8.6ポイント、「産前産後の休暇が十分にとれる制度」が7.2ポイント、「子どもが満1歳になるまでの育児休業期間にある程度の給料保障がされる制度」「育児のために必要な場合に、就業時間を縮めることができる制度」がともに5.7ポイント、「出産・育児などのため会社を辞めた女性を再雇用する制度」が5.3ポイントそれぞれ増加している。

企業などにおける職場環境の整備に必要なこと（複数回答）



【世帯の就労パターン別】

世帯の就労パターン別にみると、就学前児童の保護者では母親が無職・父親がフルタイムの世帯で「子どもが病気やけがのときなどに休暇がとれる制度」が最も多く47.8%、次いで「出産・育児などのため会社を辞めた女性を再雇用する制度」が34.1%、「産前産後の休暇が十分にとれる制度」が29.1%と続いている。母親がパートタイム・父親がフルタイムの世帯では「子どもが病気やけがのときなどに休暇がとれる制度」が最も多く49.2%、次いで「男女ともに子育てと仕事が両立しやすいように、企業(職場)内で子育てへの理解を広めていくこと」が35.4%、「育児のために必要な場合に、就業時間を縮めることができる制度」が31.5%と続いている。両親ともフルタイムの世帯では「子どもが病気やけがのときなどに休暇がとれる制度」が最も多く46.2%、次いで「育児のために必要な場合に、就業時間を縮めることができる制度」が43.1%、「男女ともに子育てと仕事が両立しやすいように、企業(職場)内で子育てへの理解を広めていくこと」が36.4%と続いている。ひとり親家庭では「子どもが病気やけがのときなどに休暇がとれる制度」が最も多く52.9%、次いで「子どもが満1歳になるまでの育児休業期間にある程度の給料保障がされる制度」「育児のために必要な場合に、就業時間を縮めることができる制度」がともに38.2%、「妊娠中の通勤・就労などに配慮した各種制度」が32.4%と続いている。その他の世帯では「産前産後の休暇が十分にとれる制度」が最も多く46.2%、次いで「子どもが病気やけがのときなどに休暇がとれる制度」が42.3%、「子どもが満1歳になるまでの育児休業期間にある程度の給料保障がされる制度」が38.5%と続いている。

企業などにおける職場環境の整備で必要なこと(複数回答)

就学前児童

(単位:人、%)

	件数	妊娠中の通勤・就労などに配慮した各種制度	産前産後の休暇が十分にとれる制度	子どもが満1歳になるまでの育児休業期間にある程度の給料保障がされる制度	子どもが満1歳になるまでの育児休業期間が1年を超えてとれる制度	男女とも育児休業期間雇用する制度	出産・育児などのため会社を辞めた女性を再雇用する制度	育児のために必要な場合に、就業時間を縮めることができる制度	就業時間のある程度自由に融通できる制度	自宅で仕事をする事ができる制度
全体	787	29.1	28.0	26.8	15.0	29.7	32.1	25.7	18.7	
母親が無職・父親がフルタイム	402	28.6	29.1	23.9	12.9	34.1	26.6	23.9	17.9	
母親がパートタイム・父親がフルタイム	130	24.6	29.2	29.2	13.1	26.9	31.5	26.9	22.3	
両親ともフルタイム	195	33.3	22.1	27.7	21.5	25.1	43.1	29.7	17.4	
ひとり親家庭	34	32.4	29.4	38.2	8.8	20.6	38.2	29.4	20.6	
その他	26	23.1	46.2	38.5	15.4	23.1	30.8	11.5	19.2	
	件数	子どもが病気やけがのときなどに休暇がとれる制度	子どもの行事に参加するための休暇制度	企業内に託児所を設けること	男女ともに子育てと仕事が両立しやすいように企業内で子育てへの理解を広めていくこと	保育料に対する企業からの助成	特に希望することはない	その他	無回答	
全体	787	47.6	23.0	16.9	30.6	18.4	0.8	1.0	1.4	
母親が無職・父親がフルタイム	402	47.8	25.1	17.9	26.6	15.9	1.2	0.5	0.7	
母親がパートタイム・父親がフルタイム	130	49.2	21.5	13.1	35.4	22.3	-	1.5	1.5	
両親ともフルタイム	195	46.2	21.5	19.0	36.4	21.0	-	2.1	2.1	
ひとり親家庭	34	52.9	20.6	5.9	29.4	20.6	2.9	-	-	
その他	26	42.3	11.5	19.2	26.9	15.4	-	-	7.7	

就学児童の保護者では母親が無職・父親がフルタイムの世帯で「子どもが病気やけがのときなどに休暇がとれる制度」が最も多く52.0%、次いで「男女ともに子育てと仕事が両立しやすいように、企業（職場）内で子育てへの理解を広めていくこと」が31.4%、「就業時間のある程度自由に融通できる制度」が30.1%と続いている。母親がパートタイム・父親がフルタイムの世帯では「子どもが病気やけがのときなどに休暇がとれる制度」が最も多く52.5%、次いで「子どもの行事に参加するための休暇制度」が29.6%、「就業時間のある程度自由に融通できる制度」が26.0%と続いている。両親ともフルタイムの世帯では「子どもが病気やけがのときなどに休暇がとれる制度」が最も多く43.3%、次いで「男女ともに子育てと仕事が両立しやすいように、企業（職場）内で子育てへの理解を広めていくこと」が33.3%、「就業時間のある程度自由に融通できる制度」が28.4%と続いている。ひとり親家庭では「子どもが病気やけがのときなどに休暇がとれる制度」が最も多く46.0%、次いで「就業時間のある程度自由に融通できる制度」が34.9%、「男女ともに子育てと仕事が両立しやすいように、企業（職場）内で子育てへの理解を広めていくこと」が30.2%と続いている。その他の世帯では「子どもが病気やけがのときなどに休暇がとれる制度」が最も多く39.2%、次いで「子どもが満1歳になるまでの育児休業期間にある程度の給料保障がされる制度」「男女ともに子育てと仕事が両立しやすいように、企業（職場）内で子育てへの理解を広めていくこと」がともに31.4%、「妊娠中の通勤・就労などに配慮した各種制度」「就業時間のある程度自由に融通できる制度」がともに27.5%と続いている。

企業などにおける職場環境の整備で必要なこと（複数回答）

就学児童

（単位：人、％）

	件数	妊娠中の通勤・就労などに配慮した各種制度	産前産後の休暇が十分にとれる制度	子どもが満1歳になるまでの育児休業期間にある程度の給料保障がされる制度	子どもが満1歳になるまでの育児休業期間が1年を超えてとれる制度	男女とも育児休業期間雇用する制度	出産・育児などのため会社を辞めた女性を再雇用する制度	育児のために必要な場合に、就業時間を縮めることができる制度	就業時間のある程度自由に融通できる制度	自宅で仕事をする事ができる制度
全体	784	19.6	19.6	18.4	9.9	24.0	23.6	28.8	17.6	
母親が無職・父親がフルタイム	306	19.0	19.6	15.7	8.2	23.2	23.2	30.1	19.6	
母親がパートタイム・父親がフルタイム	223	17.9	21.5	16.6	12.6	23.3	21.5	26.0	17.5	
両親ともフルタイム	141	20.6	16.3	19.9	9.9	27.0	27.0	28.4	13.5	
ひとり親家庭	63	20.6	19.0	23.8	9.5	25.4	28.6	34.9	20.6	
その他	51	27.5	21.6	31.4	9.8	21.6	19.6	27.5	13.7	
	件数	子どもが病気やけがのときなどに休暇がとれる制度	子どもの行事に参加するための休暇制度	企業内に託児所を設けること	男女ともに子育てと仕事が両立しやすいように、企業内で子育てへの理解を広めていくこと	保育料に対する企業からの助成	特に希望することはない	その他	無回答	
全体	784	49.2	23.5	11.0	30.0	10.8	2.8	1.8	1.8	
母親が無職・父親がフルタイム	306	52.0	21.6	10.1	31.4	7.8	2.0	1.0	1.6	
母親がパートタイム・父親がフルタイム	223	52.5	29.6	13.9	25.6	14.8	2.7	1.8	1.3	
両親ともフルタイム	141	43.3	17.7	7.1	33.3	7.1	4.3	2.8	-	
ひとり親家庭	63	46.0	27.0	7.9	30.2	14.3	3.2	-	3.2	
その他	51	39.2	19.6	17.6	31.4	17.6	3.9	5.9	7.8	

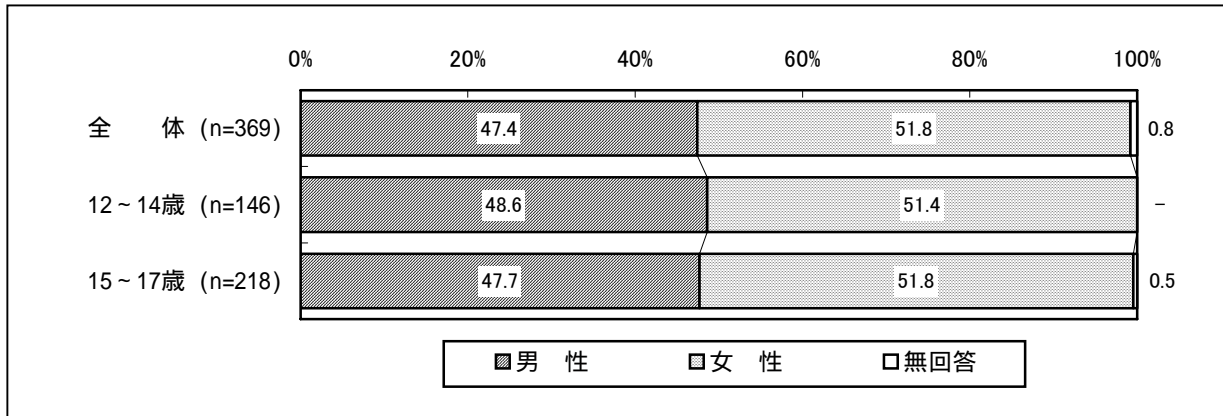
12歳～18歳の区民

1. 回答者の基本属性

(1) 性別

性別は、12～14歳、15～17歳とも「女性」が多くそれぞれ51.4%、51.8%となっている。

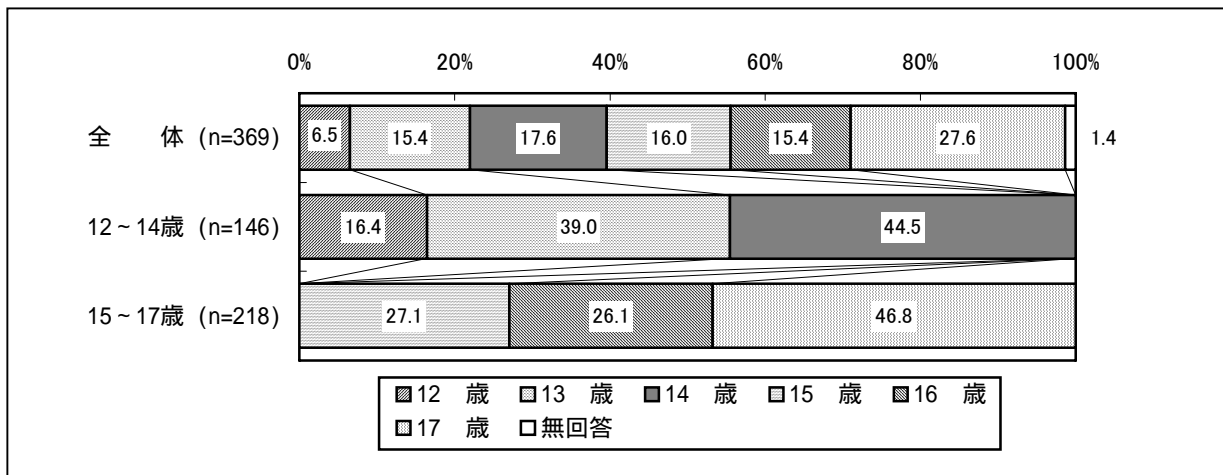
性別



(2) 年齢 (平成20年4月1日現在)

年齢は、12～14歳では「14歳」が最も多く44.5%、15～17歳では「17歳」が最も多く46.8%となっている。

年齢

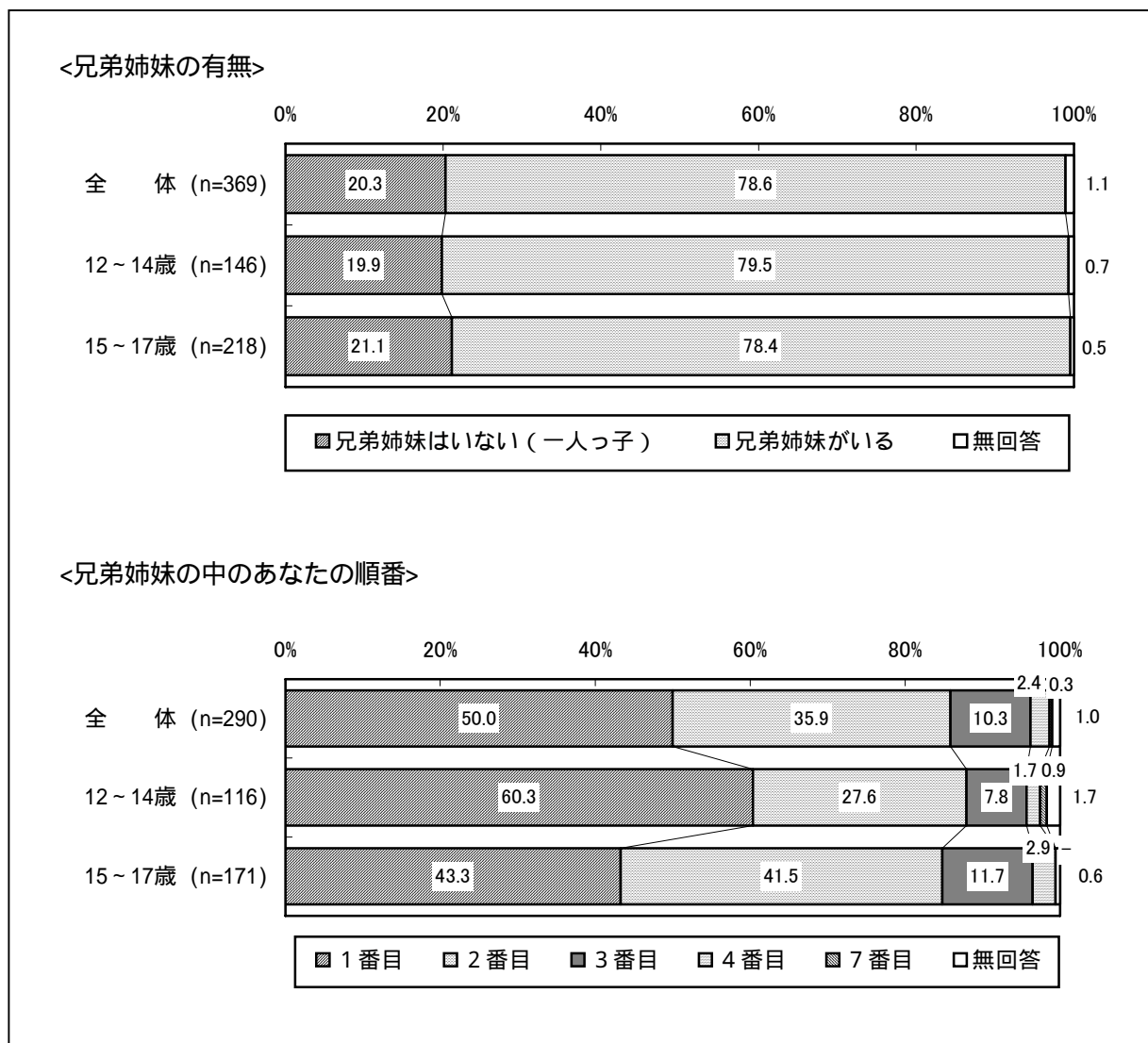


(3) 兄弟姉妹

兄弟姉妹の有無については、12～14歳、15～17歳とも「兄弟姉妹がいる」が多くそれぞれ79.5%、78.4%となっている。

また、順番は12～14歳、15～17歳とも「1番目」が最も多くそれぞれ60.3%、43.3%となっている。なお、15～17歳では、「2番目」(41.5%)もほぼ同じ割合を示している。

兄弟姉妹の有無と順番

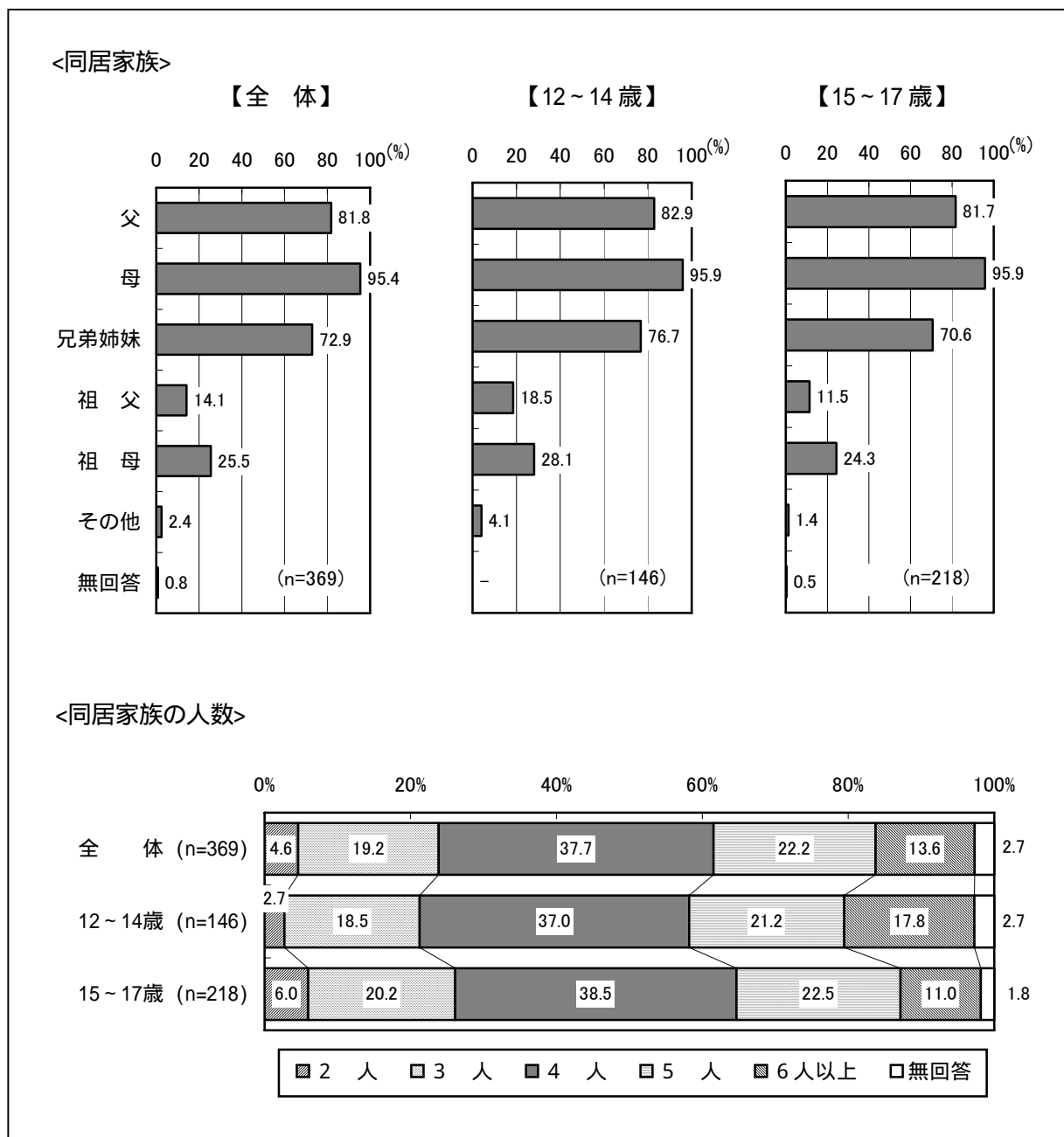


(4) 同居家族

同居家族は、12～14歳、15～17歳とも「母」が最も多く95.9%、次いで「父」がそれぞれ82.9%、81.7%、「兄弟姉妹」がそれぞれ76.7%、70.6%と続いている。

同居家族の人数は、12～14歳、15～17歳とも「4人」が最も多くそれぞれ37.0%、38.5%、次いで「5人」がそれぞれ21.2%、22.5%、「3人」がそれぞれ18.5%、20.2%と続いている。

同居家族（複数回答）

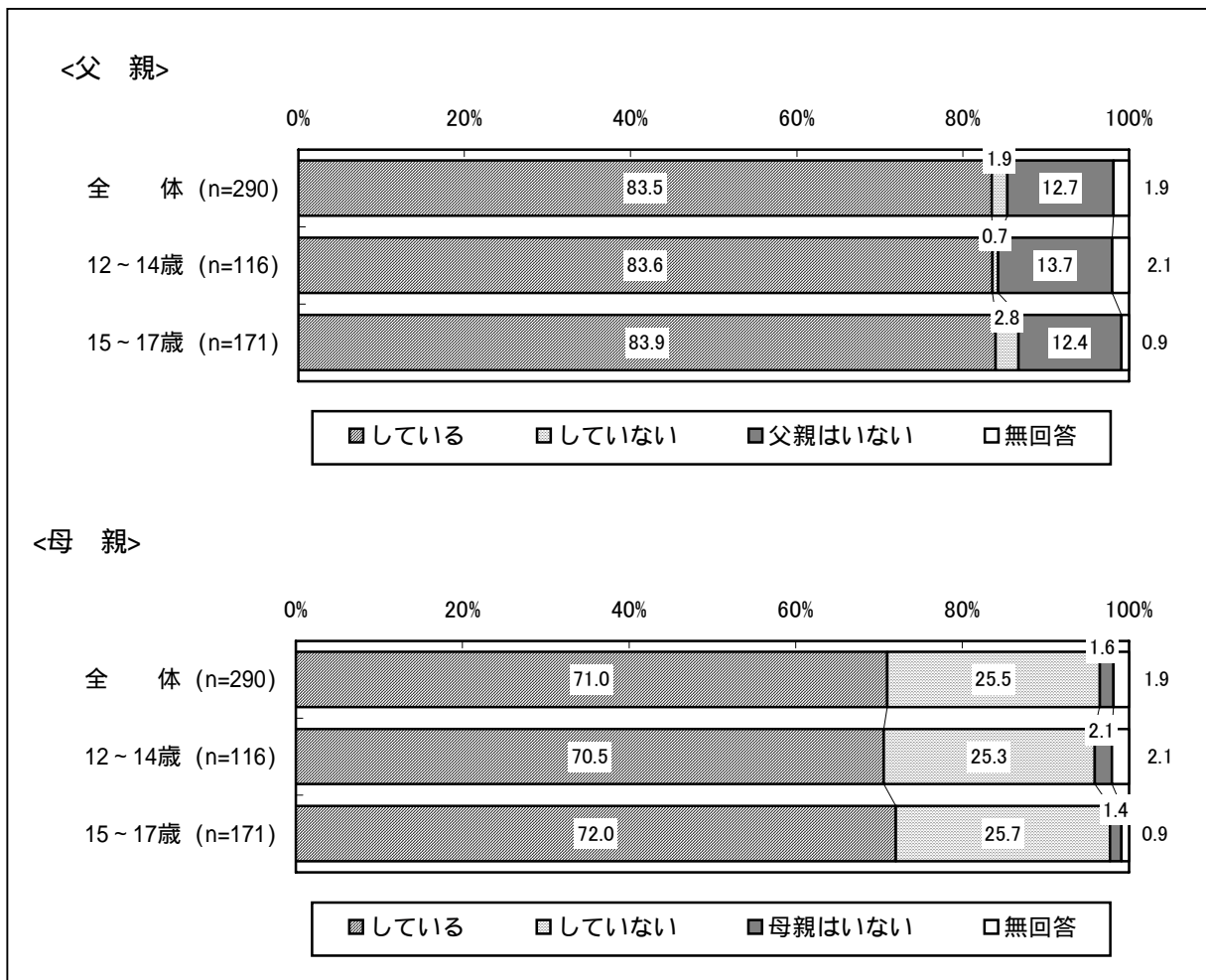


(5) 両親の就労状況

父親の就労状況を見ると、12～14歳、15～17歳とも「している」がそれぞれ83.6%、83.9%、「していない」がそれぞれ0.7%、2.8%となっている。

母親の就労状況を見ると、12～14歳、15～17歳とも「している」がそれぞれ70.5%、72.0%、「していない」がそれぞれ25.3%、25.7%となっている。

両親の就労状況

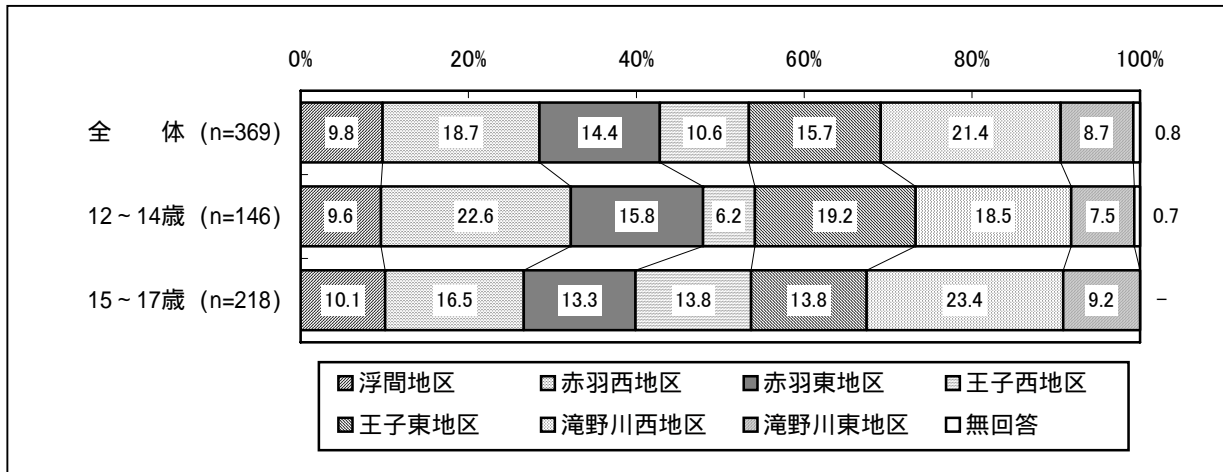


(6) 居住地区

居住地区をみると、12～14歳では「赤羽西地区」が最も多く22.6%、次いで「王子東地区」が19.2%、「滝野川西地区」が18.5%、「赤羽東地区」が15.8%と続いている。

15～17歳では「滝野川西地区」が最も多く23.4%、次いで「赤羽西地区」が16.5%、「王子西地区」「王子東地区」がともに13.8%、「赤羽東地区」が13.3%と続いている。

居住地区

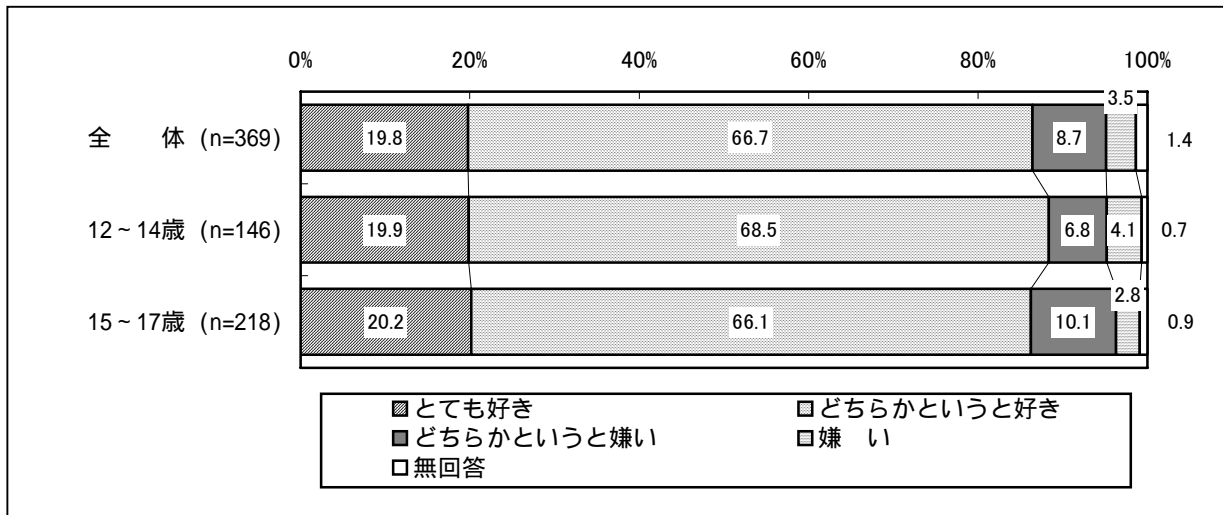


2. 北区について

(1) 北区の好感度

北区の好感度をみると、12～14歳、15～17歳では“好き”（「とても好き」+「どちらかという好き」）がそれぞれ88.4%（19.9%+68.5%）、86.3%（20.2%+66.1%）、“嫌い”（「どちらかという嫌い」+「嫌い」）がそれぞれ10.9%（6.8%+4.1%）、12.9%（10.1%+2.8%）となっている。

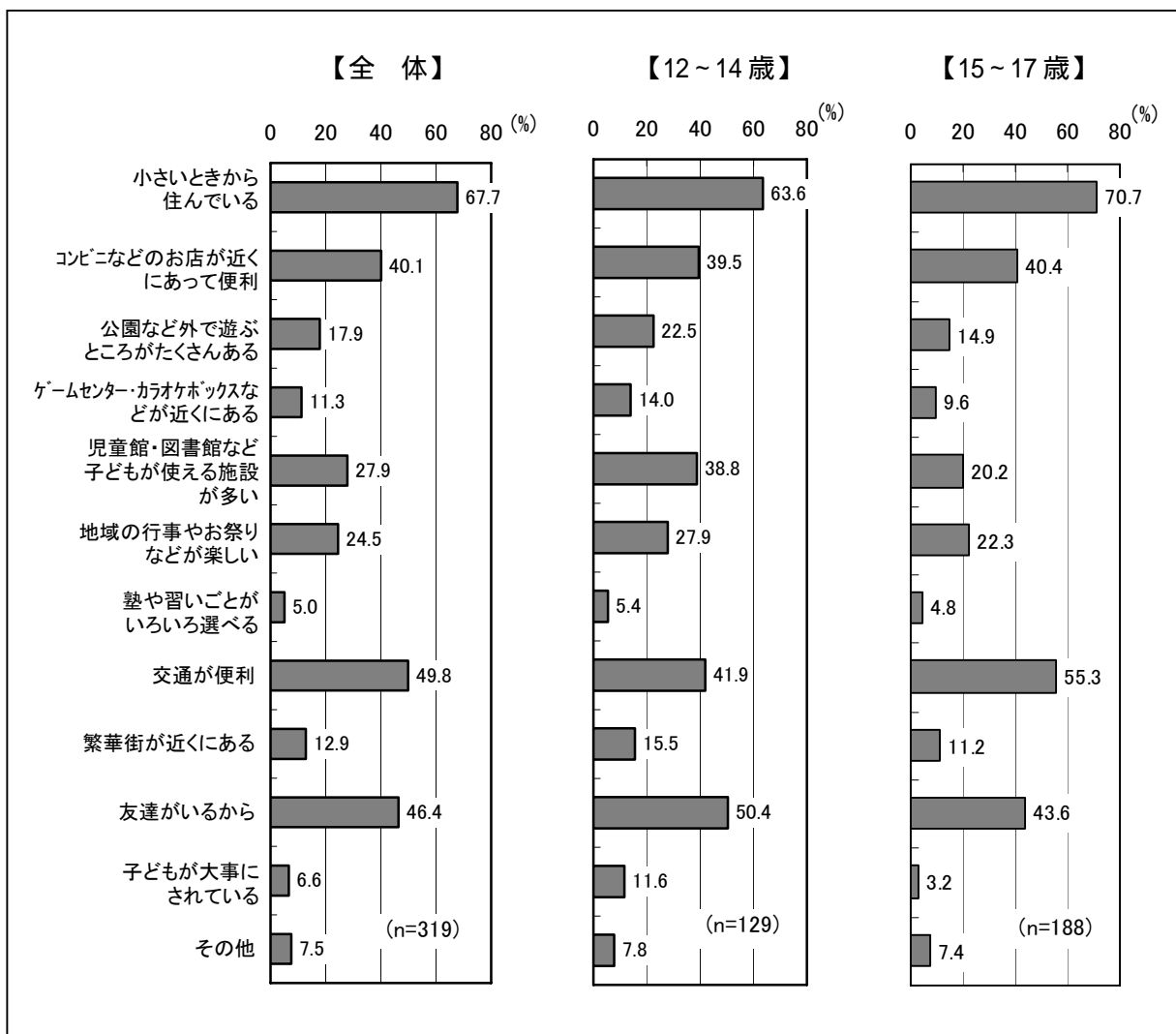
北区の好感度



(2) 北区が好きな理由

北区が「好き」と回答した人の好きな理由をみると、12～14歳では「小さいときから住んでいる」が最も多く63.6%、次いで「友達がいるから」が50.4%、「交通が便利」が41.9%と続いている。
 15～17歳でも「小さいときから住んでいる」が最も多く70.7%、次いで「交通が便利」が55.3%、「友達がいるから」が43.6%と続いている。

北区が好きな理由（複数回答）

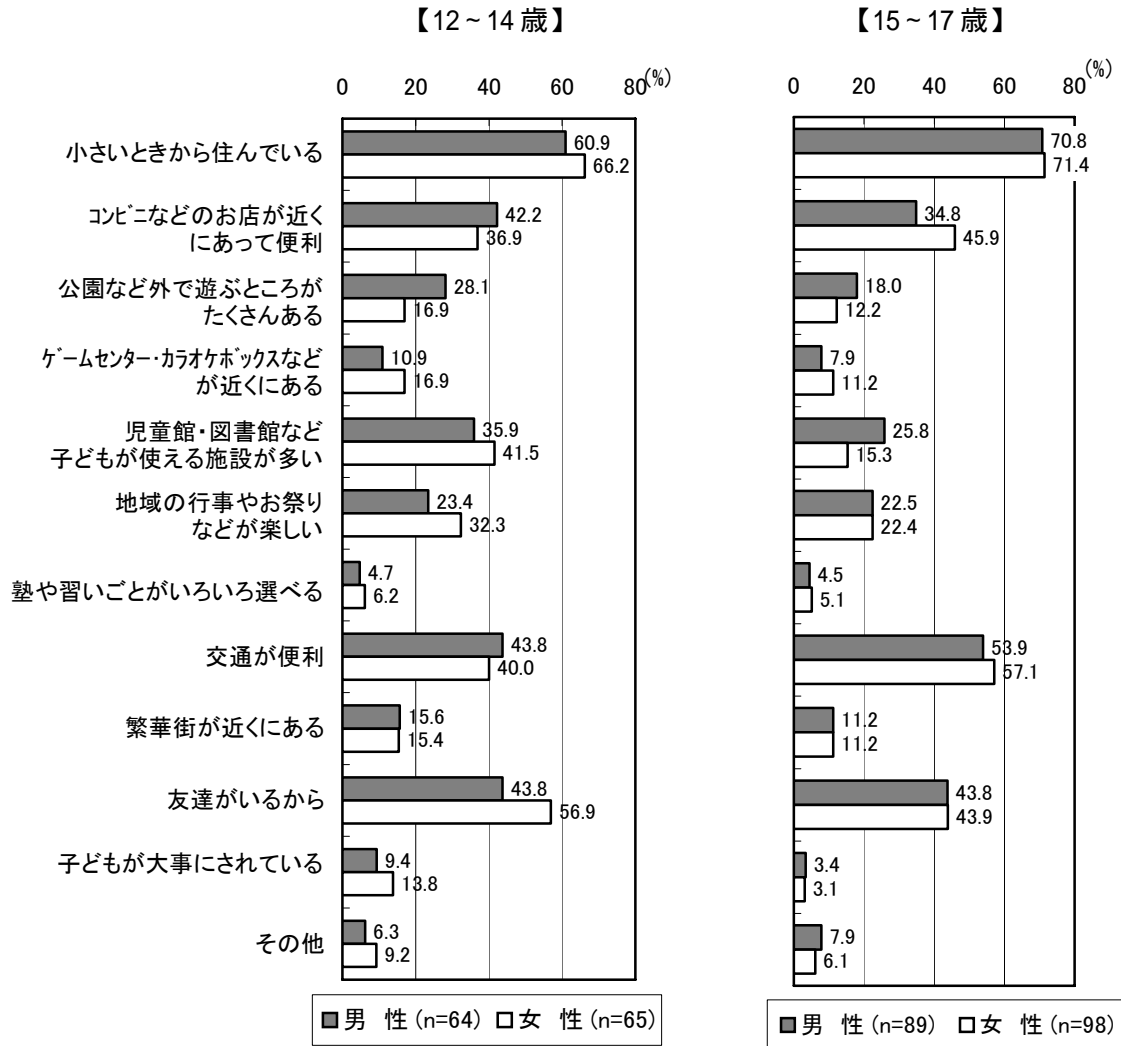


【性別】

北区が好きな理由を性別で見ると、12～14歳では「公園など外で遊ぶところがたくさんある」は男性が多く、「地域の行事やお祭りなどが楽しい」「友達がいるから」は女性が多くなっている。

15～17歳では、「児童館・図書館など子どもが使える施設が多い」は男性が多く、「コンビニなどのお店が近くにある」「交通が便利」は女性が多くなっている。

北区が好きな理由（複数回答）



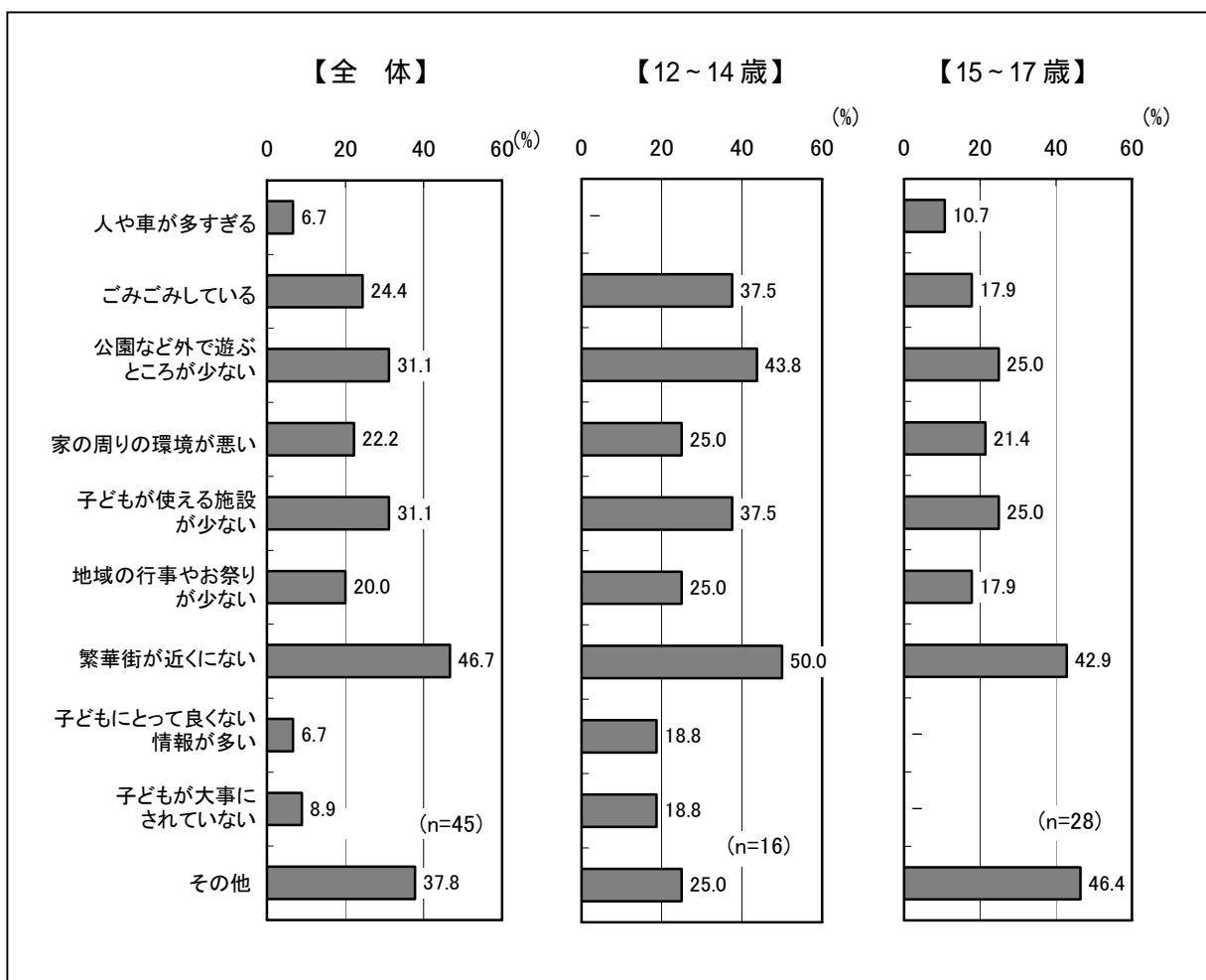
(3) 北区が嫌いな理由

北区が「嫌い」と回答した人の理由をみると、12～14歳では「繁華街が近くにない」が最も多く50.0%、次いで「公園など外で遊ぶところが少ない」が43.8%、「ごみごみしている」「子どもが使える施設が少ない」がともに37.5%と続いている。

15～17歳でも「繁華街が近くにない」が最も多く42.9%、次いで「公園など外で遊ぶところが少ない」「子どもが使える施設が少ない」がともに25.0%、「家の周りの環境が悪い」が21.4%、「ごみごみしている」「地域の行事やお祭りが少ない」がともに17.9%と続いている。

「その他」の内容として、12～14歳では“大きいスポーツ施設が少ない”“子どもの教育が悪い”、15～17歳では“団地ばかりでつまらない”“自然と触れ合う場所が少ない”“ゴミが多かったり、川が汚い”“空気が悪い、歩きタバコの人が多い”などの意見が寄せられている。

北区が嫌いな理由（複数回答）

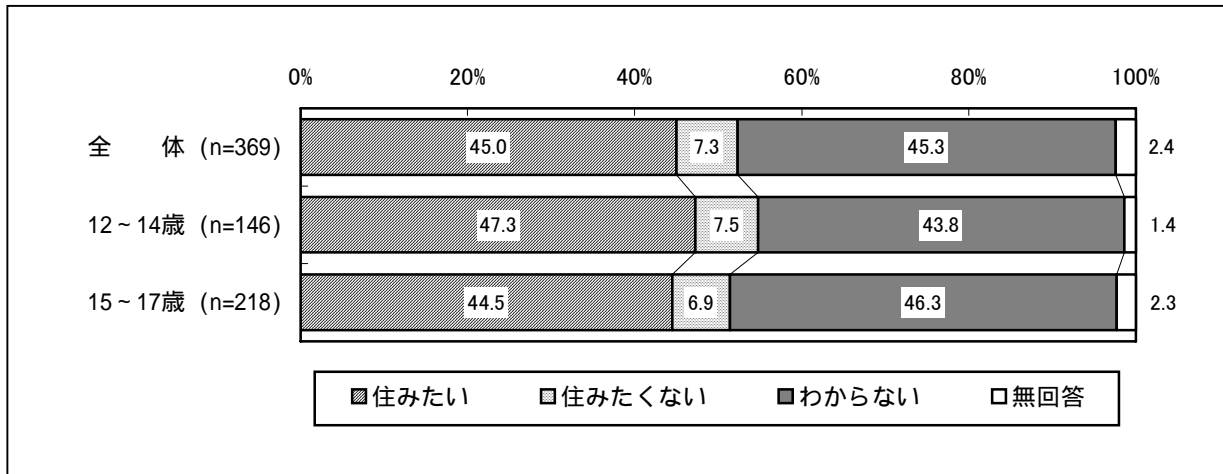


(4) 北区への居住意向

北区へのこれからの居住意向をみると、12～14歳では「住みたい」が最も多く47.3%、次いで「わからない」が43.8%、「住みたくない」が7.5%となっている。

15～17歳では「わからない」が最も多く46.3%、次いで「住みたい」が44.5%、「住みたくない」が6.9%となっている。

北区への居住意向



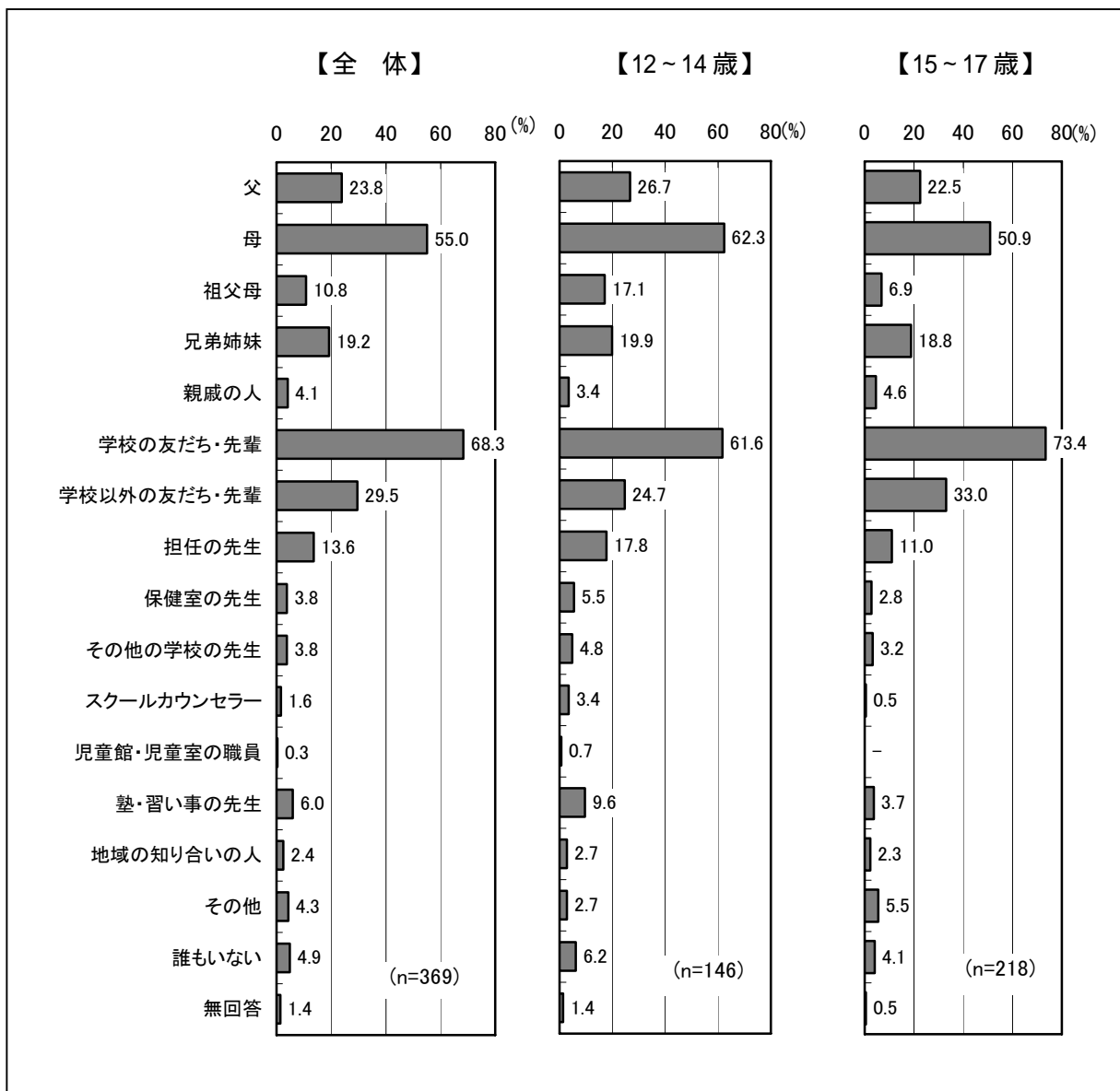
3. 普段の生活や考え方について

(1) 気軽な相談相手先

気軽な相談相手先をみると、12～14歳では「母」が最も多く62.3%、「学校の友達・先輩」(61.6%)もほぼ同じ割合を示している。次いで「父」が26.7%、「学校以外の友達・先輩」が24.7%と続いている。

15～17歳では「学校の友達・先輩」が最も多く73.4%、次いで「母」が50.9%、「学校以外の友達・先輩」が33.0%、「父」が22.5%と続いている。

気軽な相談相手先(複数回答)

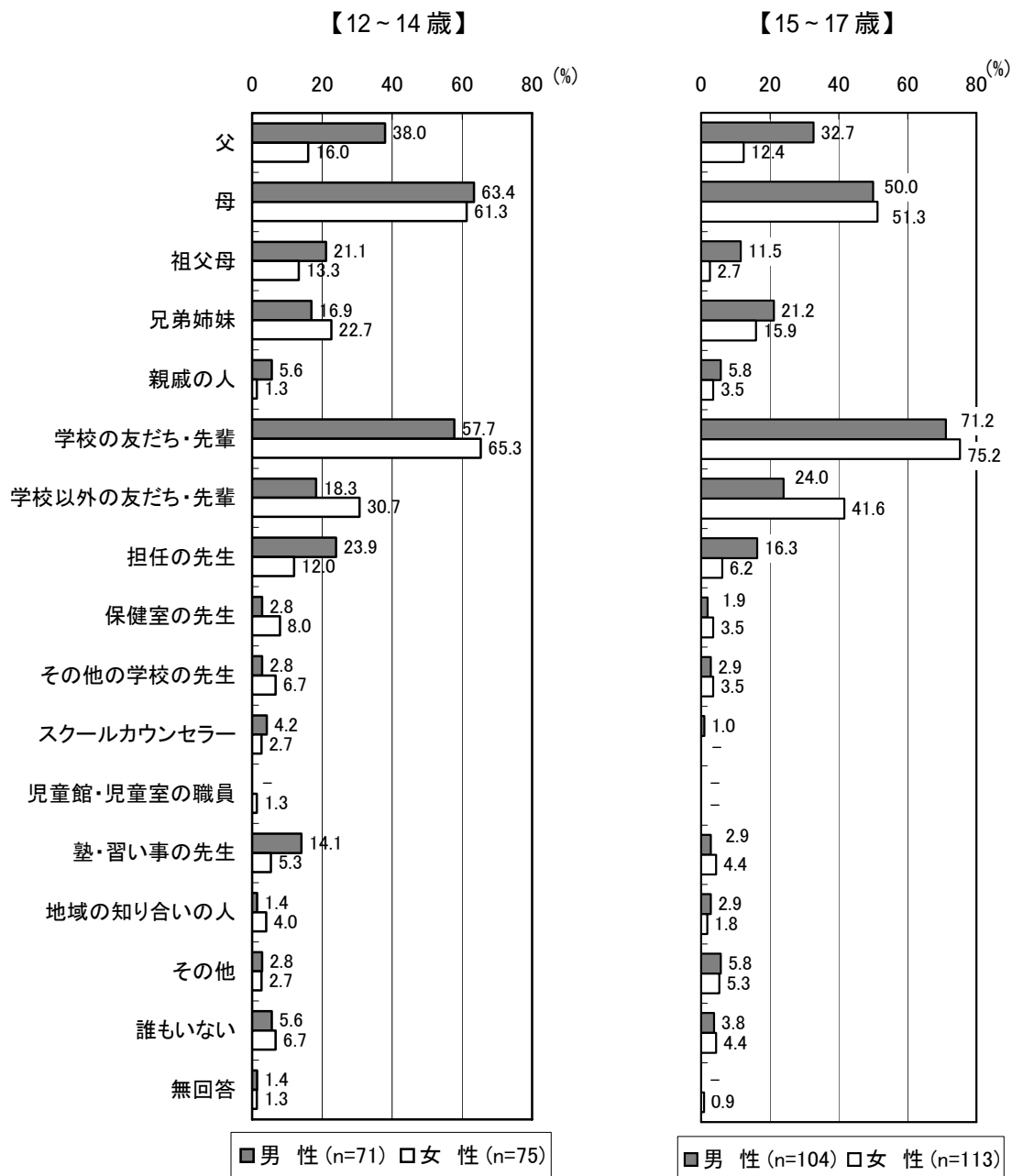


【性別】

気軽な相談相手先を性別で見ると、12～14歳では「父」「祖父母」「担任の先生」「塾・習い事の先生」については男性が多く、「学校の友だち・先輩」「学校以外の友だち・先輩」は女性が多くなっている。

15～17歳では「父」「祖父母」「担任の先生」については男性が多く、「学校以外の友だち・先輩」は女性が多くなっている。

気軽な相談相手先（複数回答）

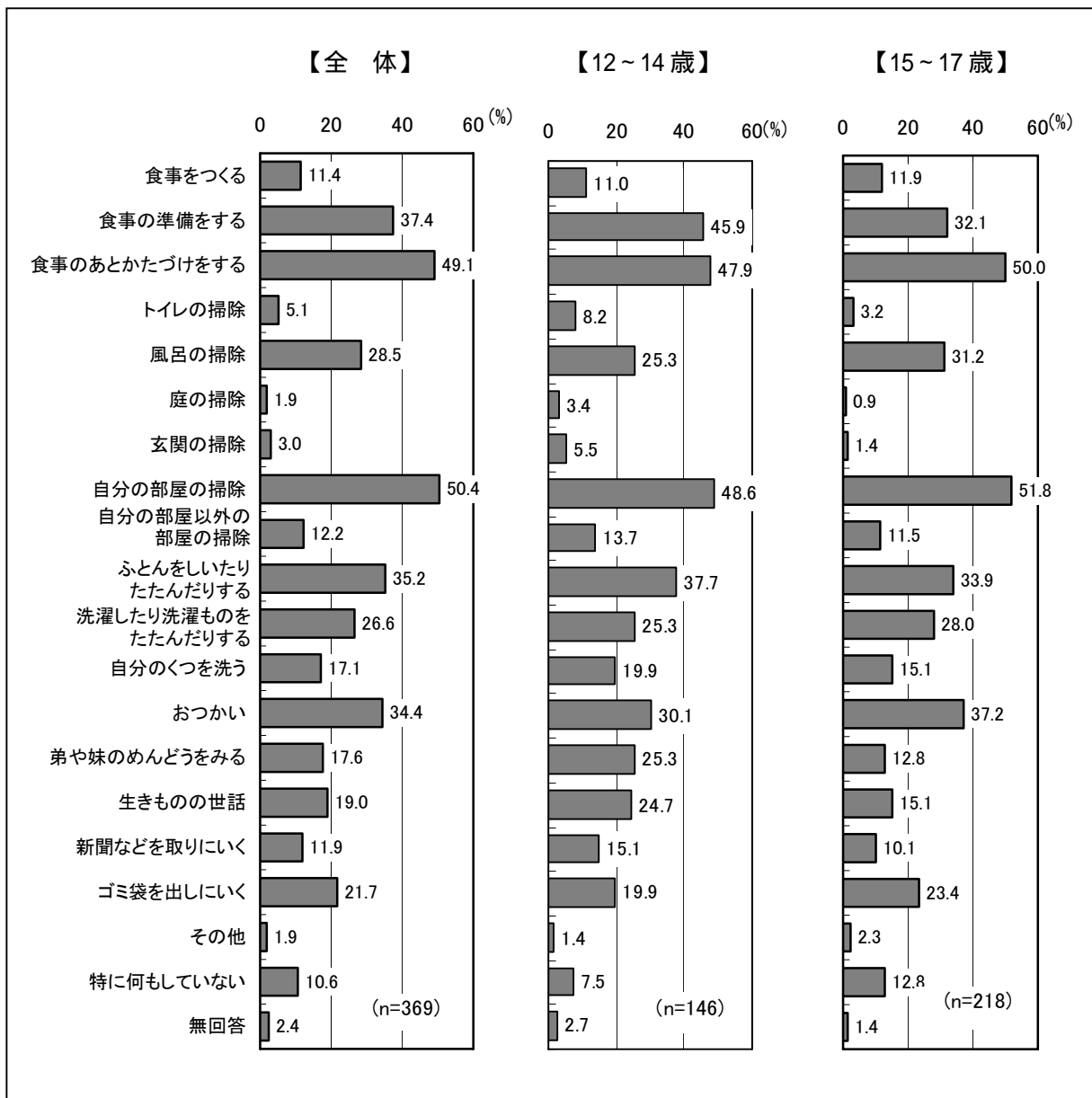


(2) 日常、自分自身で行っていること

日常、自分自身で行っていることをみると、12～14歳では「自分の部屋の掃除」が最も多く48.6%、次いで「食事のあとかたづけをする」が47.9%、「食事の準備をする」が45.9%、「ふとんをしいたりたたんだりする」が37.7%と続いている。

15～17歳でも「自分の部屋の掃除」が最も多く51.8%、次いで「食事のあとかたづけ」が50.0%、「おつかい」が37.2%、「ふとんをしいたりたたんだりする」が33.9%と続いている。

日常、自分自身で行っていること（複数回答）

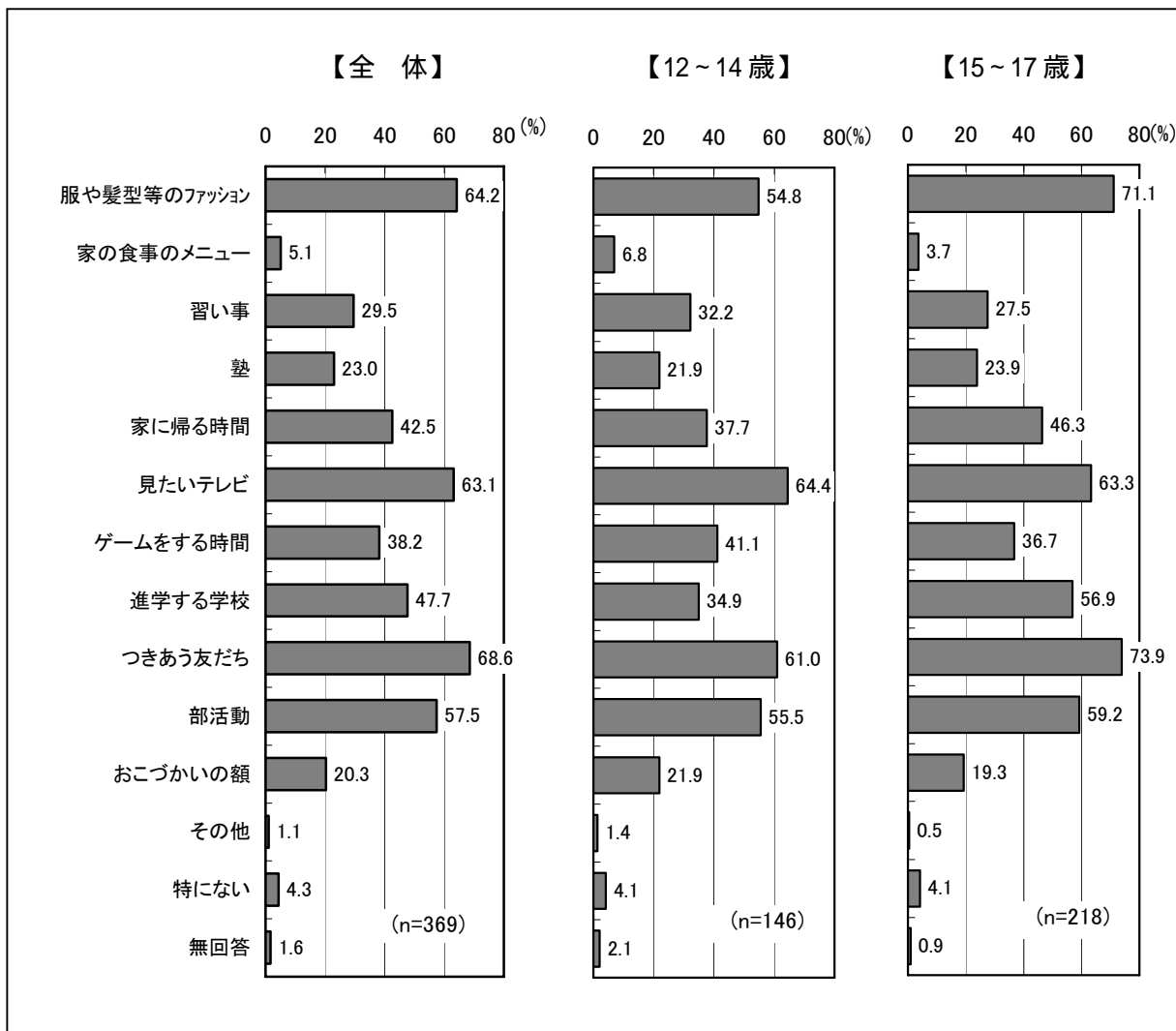


(3) 親や周囲の意見でなく、自分で決めたいこと

親や周囲の意見でなく、自分で決めたいことは、12～14歳では「見たいテレビ」が最も多く64.4%、次いで「つきあう友だち」が61.0%、「部活動」が55.5%、「服や髪型等のファッション」が54.8%と続いている。

15～17歳では「つきあう友だち」が最も多く73.9%、次いで「服や髪型等のファッション」が71.1%、「見たいテレビ」が63.3%、「部活動」が59.2%と続いている。

親や周囲の意見でなく、自分で決めたいこと（複数回答）

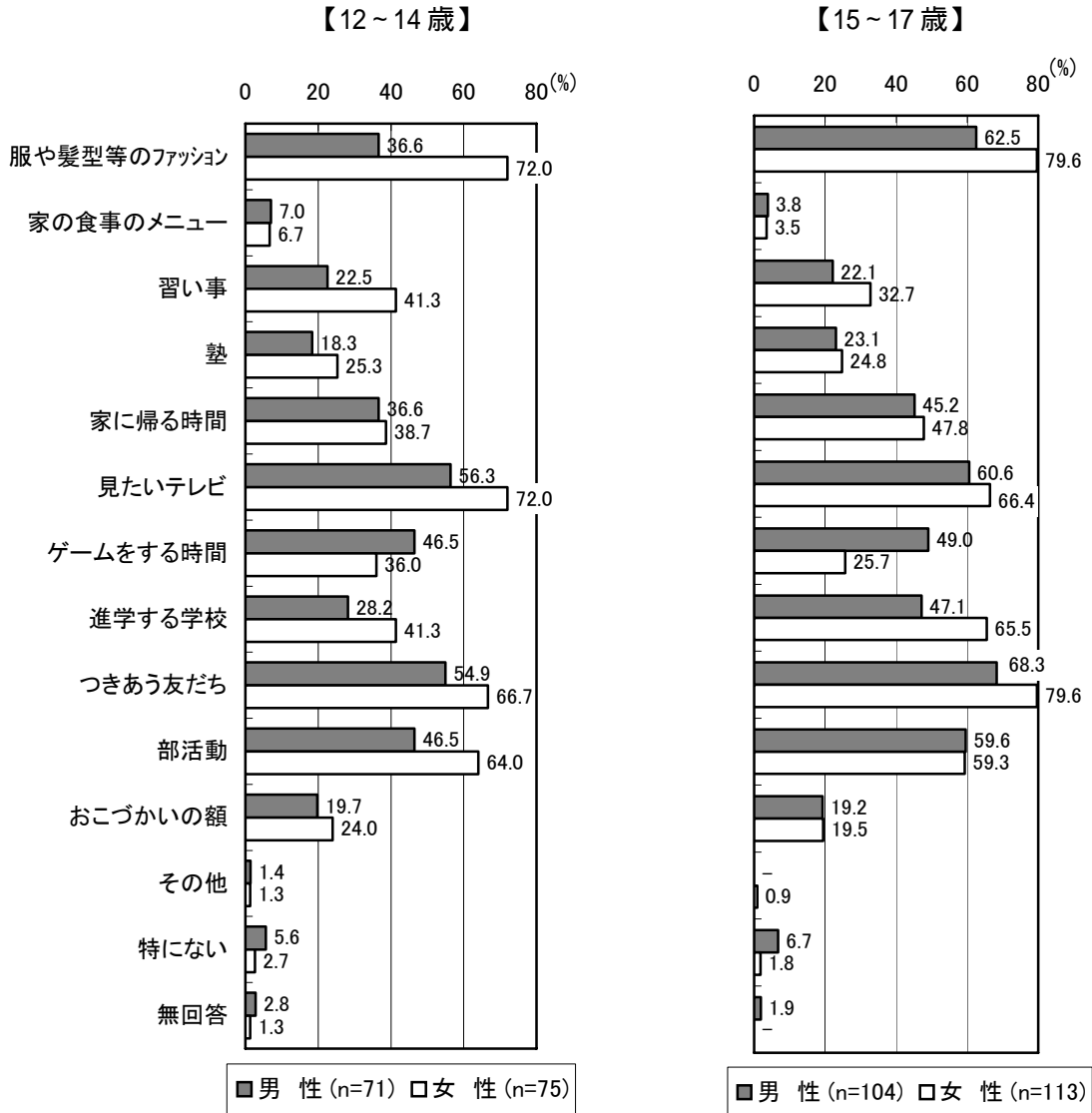


【性別】

自分で決めたいことを性別で見ると、12～14歳では「ゲームをする時間」は男性が多く、「服や髪型等のファッション」「習い事」「見たいテレビ」「進学する学校」「つきあう友だち」「部活動」は女性が多くなっている。特に「服や髪型等のファッション」「習い事」は女性が男性の約2倍となっている。

15～17歳でも「ゲームをする時間」は男性が多く、「服や髪型等のファッション」「習い事」「見たいテレビ」「進学する学校」「つきあう友だち」は女性が多くなっている。特に「ゲームをする時間」は男性が女性の約2倍となっている。

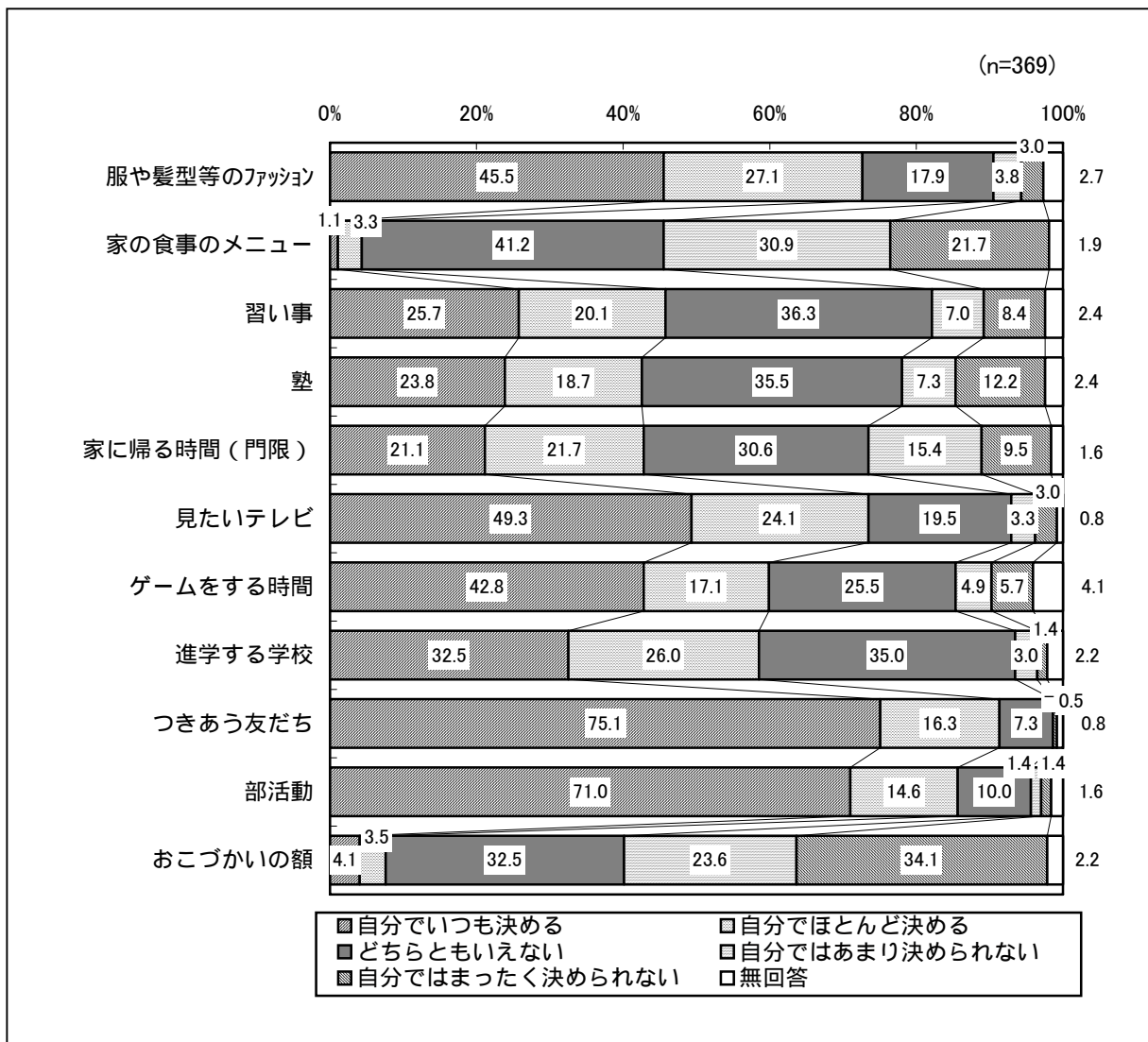
親や周囲の意見でなく、自分で決めたいこと（複数回答）



(4) 親や周囲の意見でなく自分で決めたいことのうち、実際に自分自身で決めていること
 親や周囲の意見でなく自分で決めたいことのうち、実際に“自分でいつも決める”ことは、「つきあう友だち」が最も多く75.1%、次いで「部活動」が71.0%、「見たいテレビ」が49.3%と続いている。

一方、“自分ではまったく決められない”ことは、「おこづかいの額」が最も多く34.1%、次いで「家の食事のメニュー」が21.7%、「塾」が12.2%と続いている。

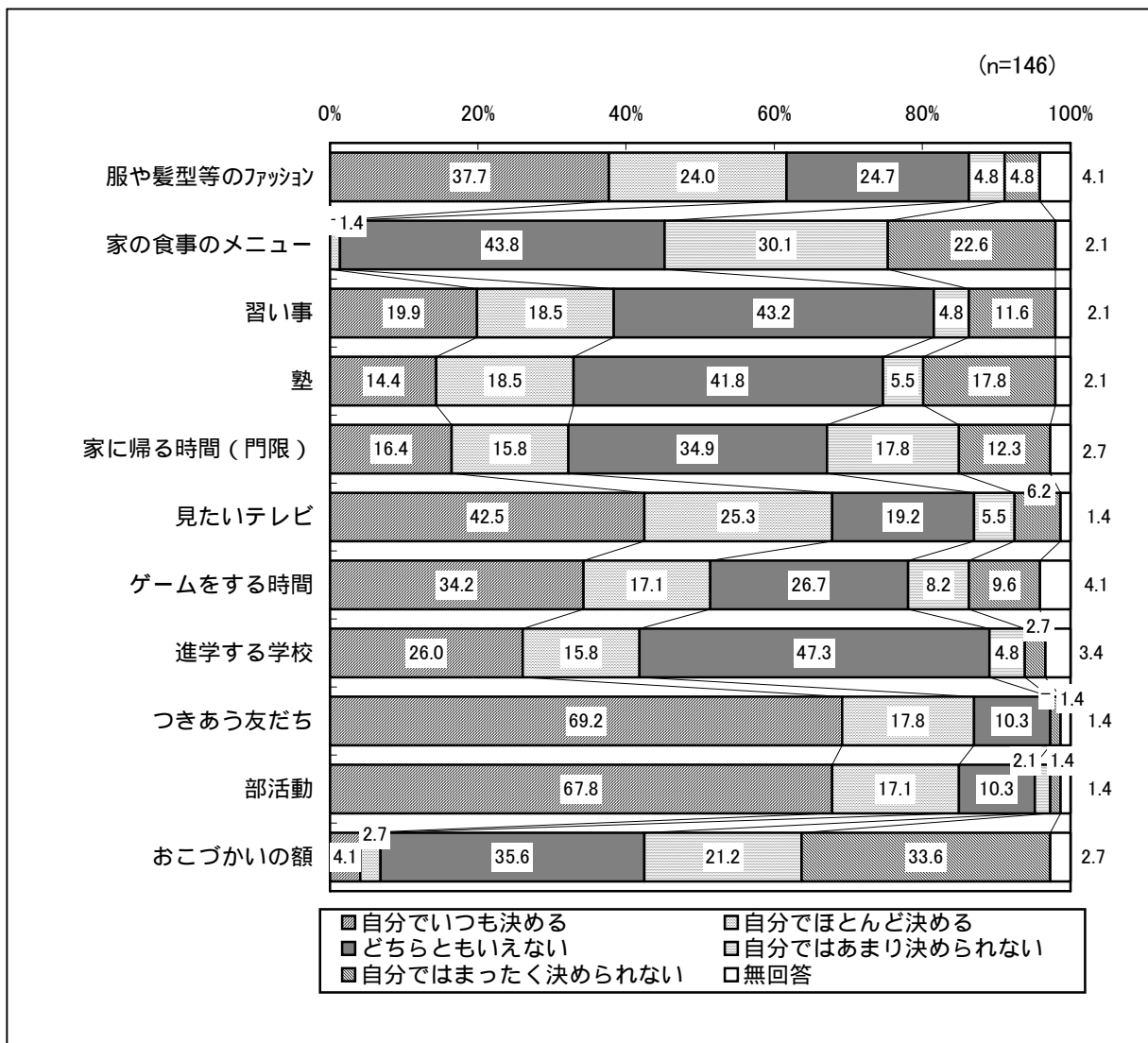
自分自身で決めていること(全体)



12～14歳でも実際に“自分でいつも決める”ことは、「つきあう友だち」が最も多く69.2%、次いで「部活動」が67.8%、「見たいテレビ」が42.5%と続いている。

一方、“自分ではまったく決められない”ことも、「おこづかいの額」が最も多く33.6%、次いで「家の食事のメニュー」が22.6%、「塾」が17.8%と続いている。

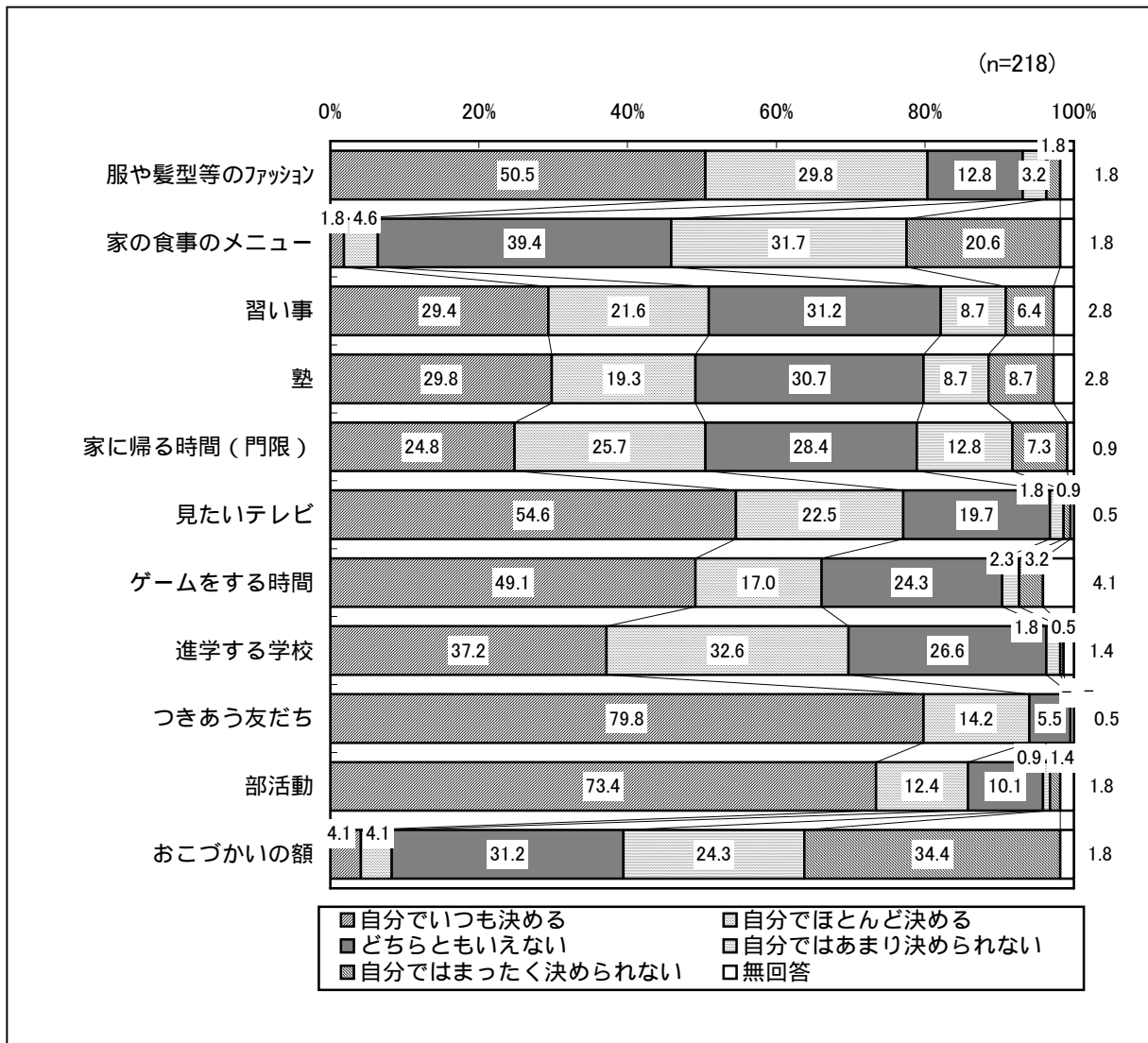
自分自身で決めていること（12～14歳）



15～17歳でも実際に“自分でいつも決める”ことは、「つきあう友だち」が最も多く79.8%、次いで「部活動」が73.4%、「見たいテレビ」が54.6%と続いている。

一方、“自分ではまったく決められない”ことも、「おこづかいの額」が最も多く34.4%、次いで「家の食事のメニュー」が20.6%、「塾」が8.7%と続いている。

自分自身で決めていること（15～17歳）

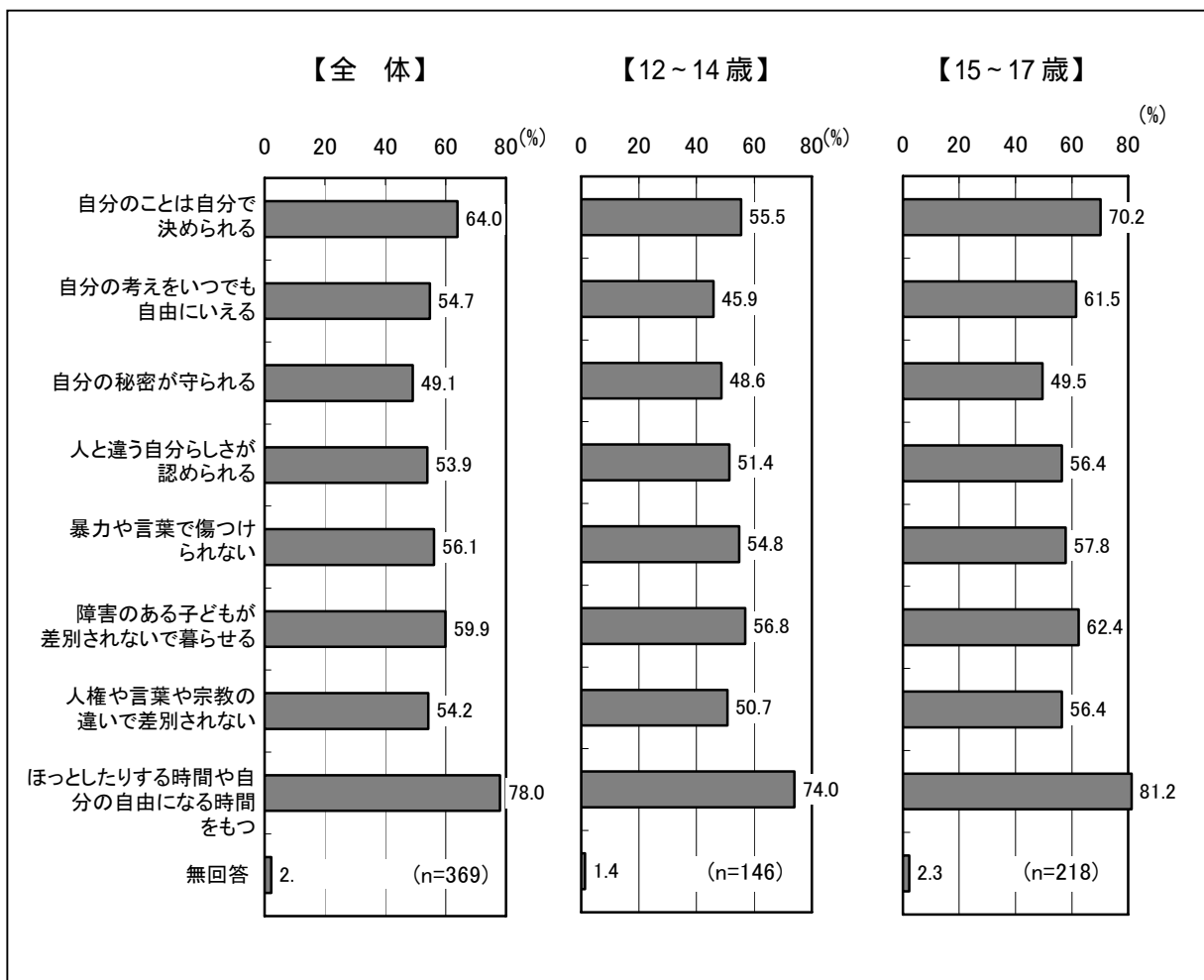


(5) 大切だと思うこと

大切だと思うことをみると、12～14歳では「ほっとしたりする時間や自分の自由になる時間をもつ」が最も多く74.0%、次いで「障害のある子どもが差別されないで暮らせる」が56.8%、「自分のことは自分で決められる」が55.5%、「暴力や言葉で傷つけられない」が54.8%と続いている。

15～17歳でも「ほっとしたりする時間や自分の自由になる時間をもつ」が最も多く81.2%、次いで「自分のことは自分で決められる」が70.2%、「障害のある子どもが差別されないで暮らせる」が62.4%、「自分の考えをいつでも自由にいえる」が61.5%と続いている。

大切だと思うこと（複数回答）

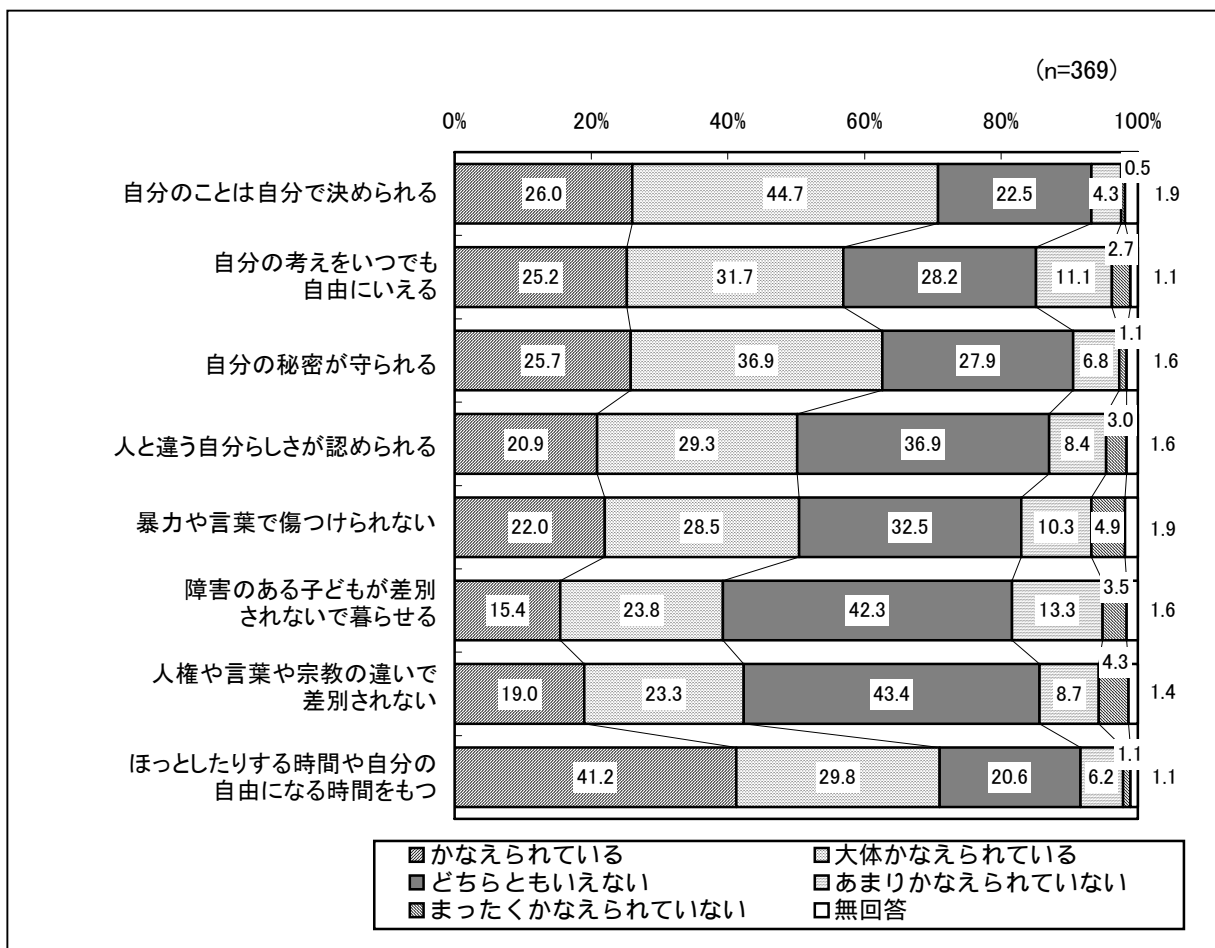


(6) 大切だと思うことのうち、実際にはかなえられていること

大切だと思うことのうち、実際に“かなえられている”ことは、「ほっとしたりする時間や自分の自由になる時間をもつ」が最も多く41.2%、次いで「自分のことは自分で決められる」が26.0%、「自分の秘密が守られる」が25.7%と続いている。

一方、“まったくかなえられていない”ことは、「暴力や言葉で傷つけられない」が最も多く4.9%、次いで「人権や言葉や宗教の違いで差別されない」が4.3%、「障害のある子どもが差別されないで暮らせる」が3.5%と続いている。

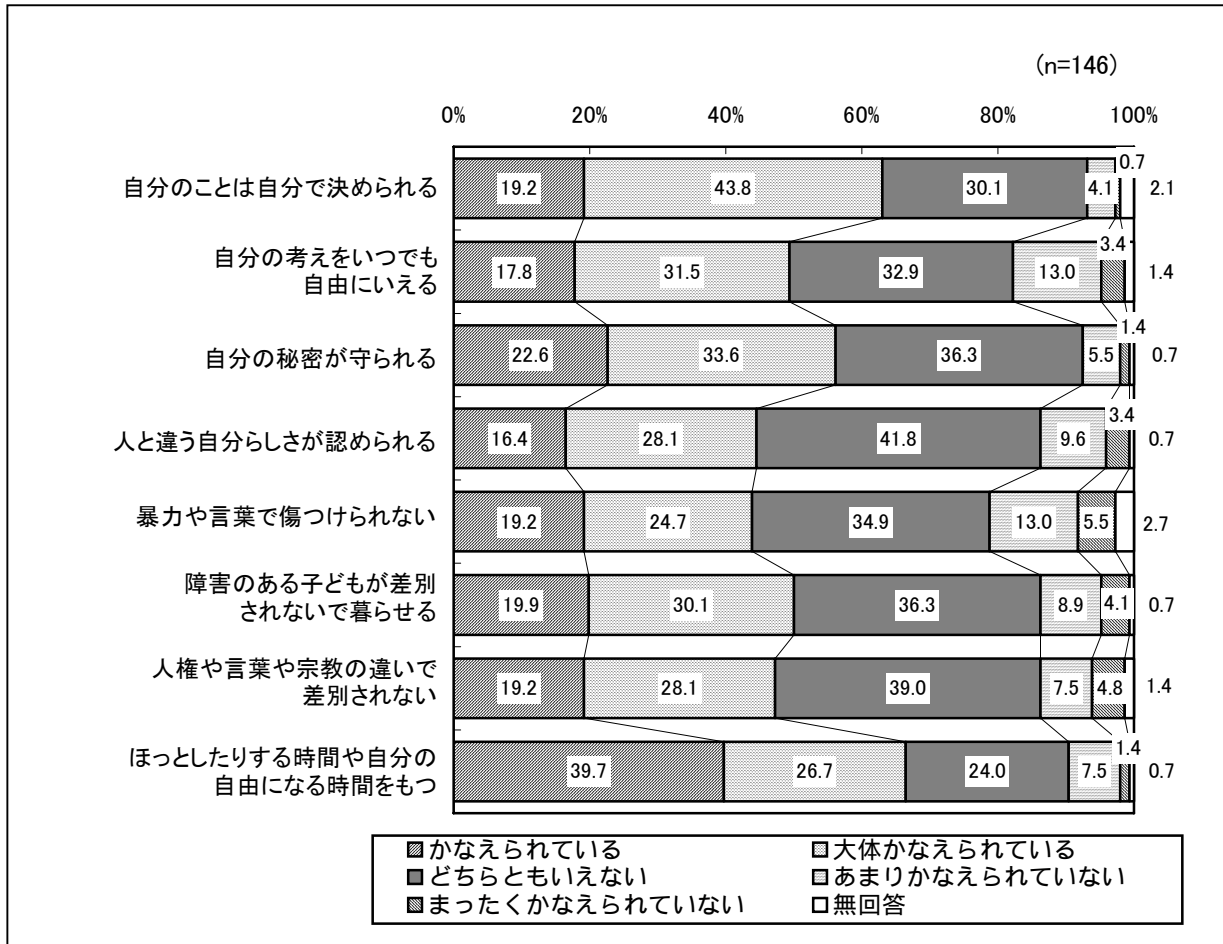
実際にはかなえられていること(全体)



12～14歳でも大切だと思うことのうち、実際に「かなえられている」ことは、「ほっとしたりする時間や自分の自由になる時間をもつ」が最も多く39.7%、次いで「自分の秘密が守られる」が22.6%、「障害のある子どもが差別されないで暮らせる」が19.9%と続いている。

一方、「まったくかなえられていない」ことも、「暴力や言葉で傷つけられない」が最も多く5.5%、次いで「人権や言葉や宗教の違いで差別されない」が4.8%、「障害のある子どもが差別されないで暮らせる」が4.1%と続いている。

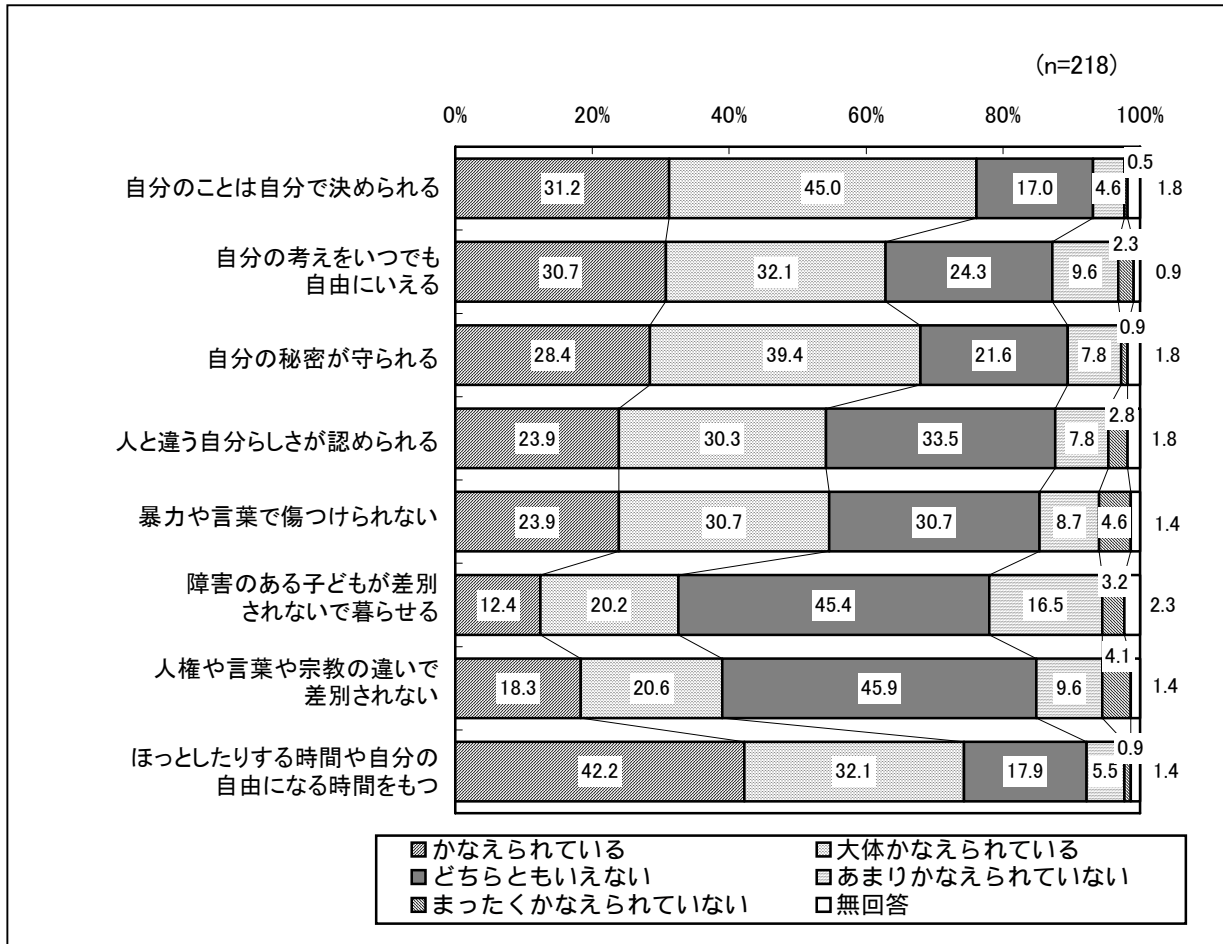
実際にかなえられていること（12～14歳）



15～17歳でも大切だと思うことのうち、実際に「かなえられている」ことは、「ほっとしたりする時間や自分の自由になる時間をもつ」が最も多く42.2%、次いで「自分のことは自分で決められる」が31.2%、「自分の考えをいつでも自由にいえる」が30.7%と続いている。

一方、「まったくかなえられていない」ことも、「暴力や言葉で傷つけられない」が最も多く4.6%、次いで「人権や言葉や宗教の違いで差別されない」が4.1%、「障害のある子どもが差別されないで暮らせる」が3.2%と続いている。

実際にかなえられていること（15～17歳）

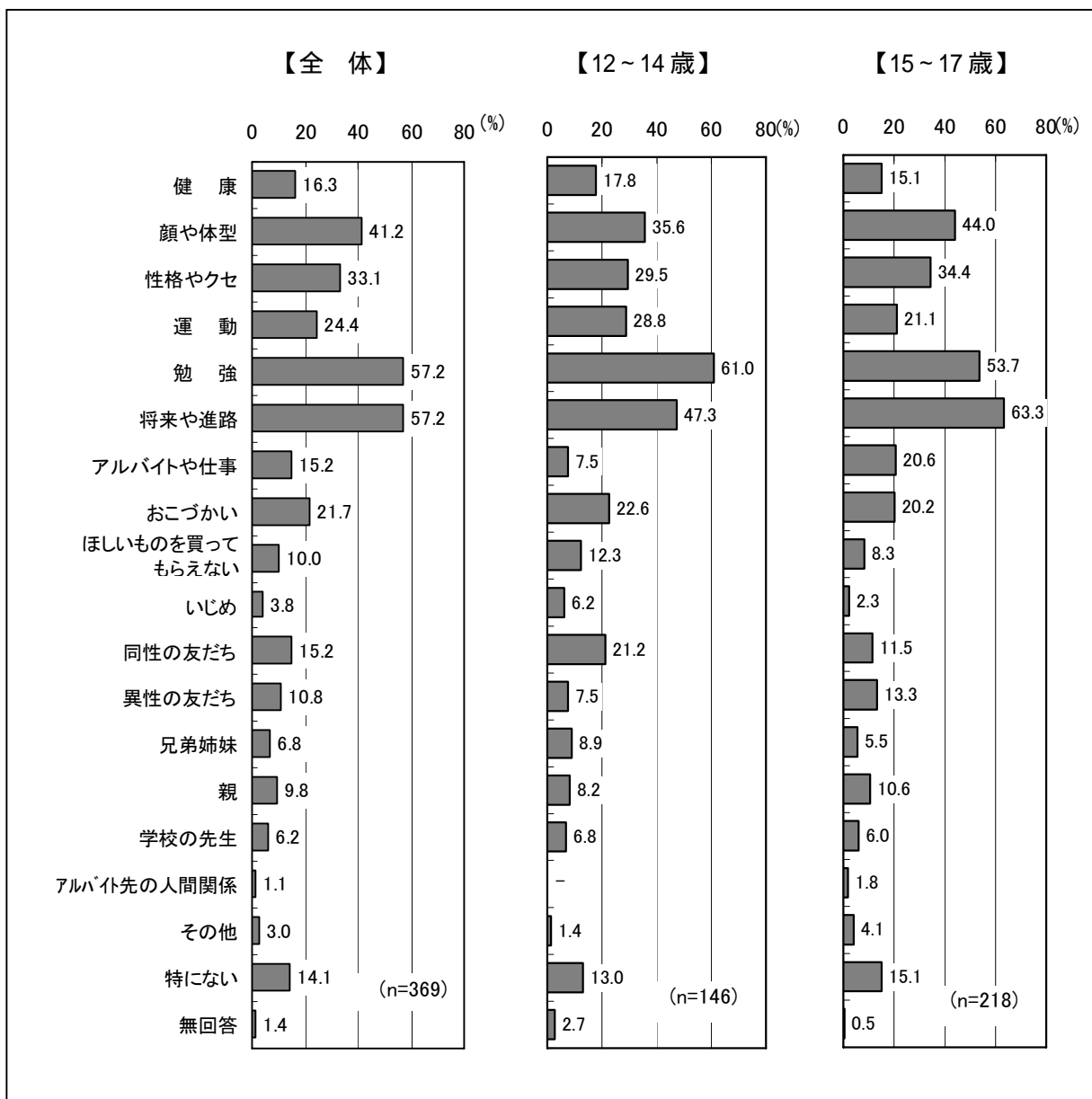


(7) 悩んでいること

悩んでいることをみると、12～14歳では「勉強」が最も多く61.0%、次いで「将来や進路」が47.3%、「顔や体型」が35.6%、「性格やクセ」が29.5%と続いている。

15～17歳では「将来や進路」が最も多く63.3%、次いで「勉強」が53.7%、「顔や体型」が44.0%、「性格やクセ」が34.4%と続いている。

悩んでいること（複数回答）

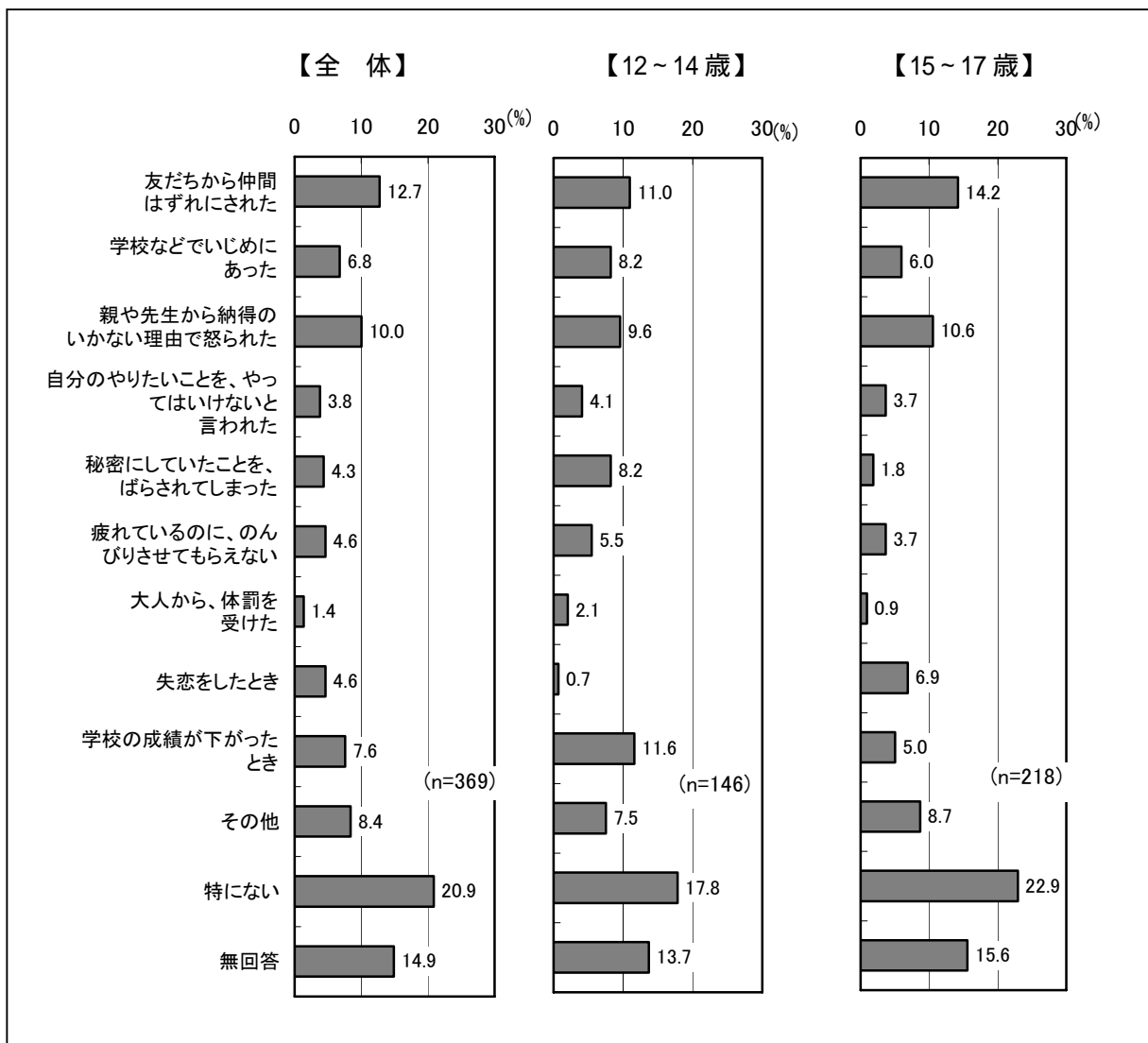


(8) 一番つらいと思ったとき

一番つらいと思ったときをみると、12～14歳では「特にない」が最も多く17.8%、次いで「学校の成績が下がったとき」が11.6%、「友だちから仲間はずれにされた」が11.0%、「親や先生から納得のいかない理由で怒られた」が9.6%、「学校などでいじめにあった」「秘密にしていたことを、ばらされてしまった」がともに8.2%と続いている。

15～17歳でも「特にない」が最も多く22.9%、次いで「友だちから仲間はずれにされた」が14.2%、「親や先生から納得のいかない理由で怒られた」が10.6%、「失恋をしたとき」が6.9%と続いている。

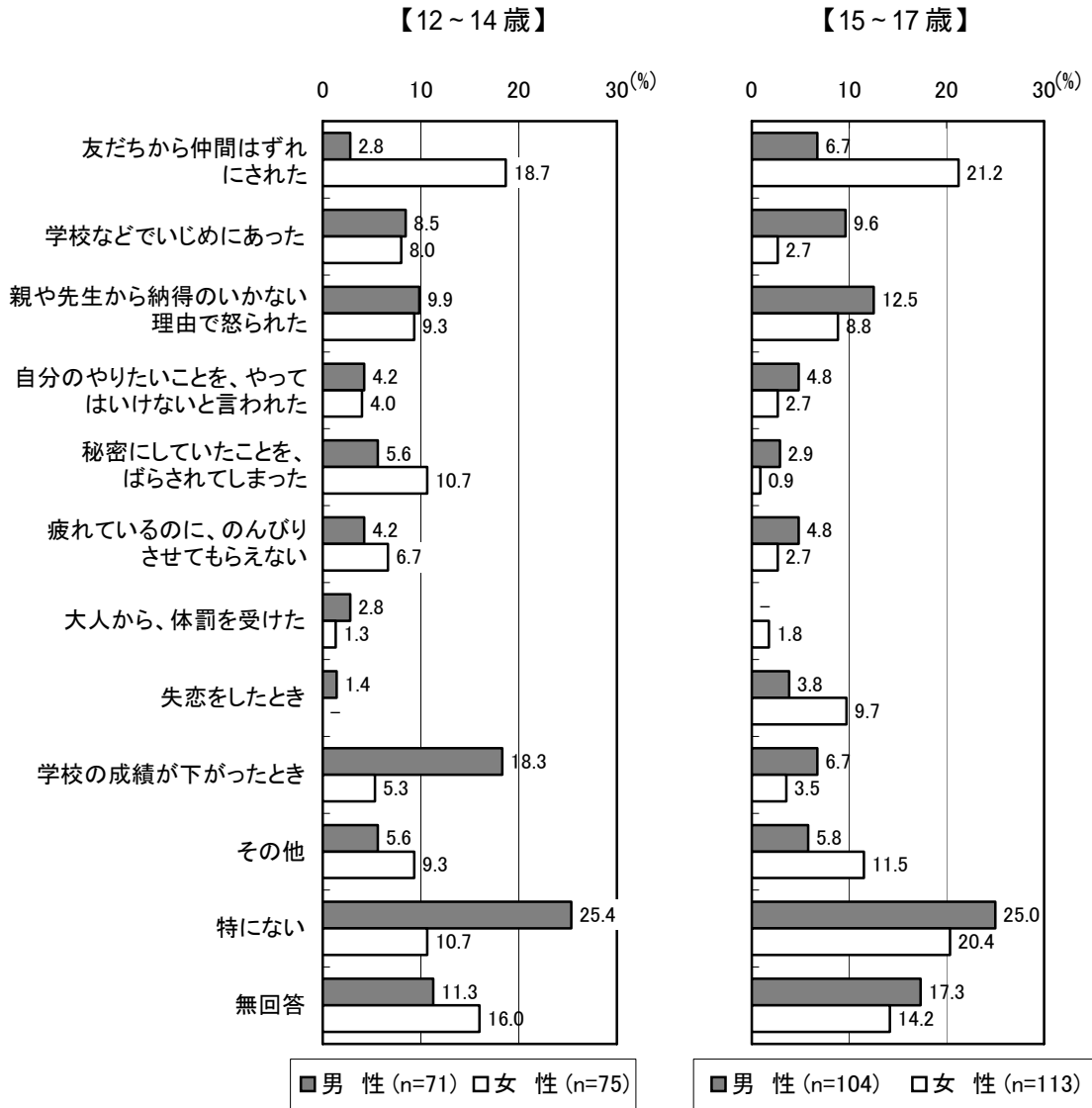
一番つらいと思ったとき



【性別】

一番つらいと思ったときを性別で見ると、12～14歳では「学校の成績が下がったとき」「特にない」は男性が多く、「友だちから仲間はずれにされた」は女性が多くなっている。
 15～17歳でも「友だちから仲間はずれにされた」は女性が多くなっている。

一番つらいと思ったとき



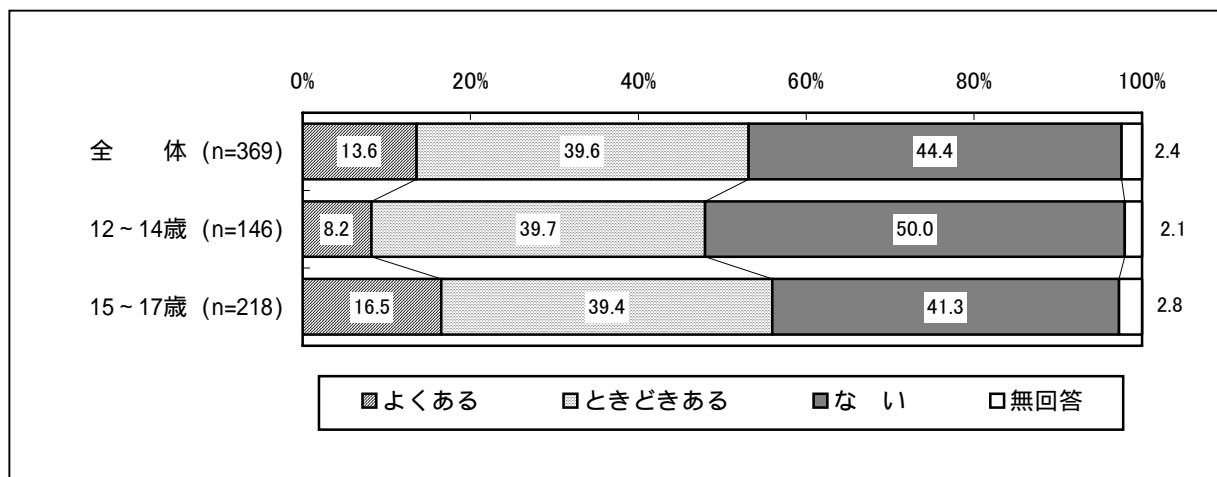
4. 学校生活について

(1) 学校へ行きたくないときの有無（学校へ通学している人が対象）

学校へ行きたくないときの有無をみると、12～14歳では“ある”が47.9%（「よくある」8.2% + 「ときどきある」39.7%）、「ない」が50.0%となっている。

15～17歳では“ある”が55.9%（「よくある」16.5% + 「ときどきある」39.4%）、「ない」が41.3%となっている。

学校へ行きたくないときの有無



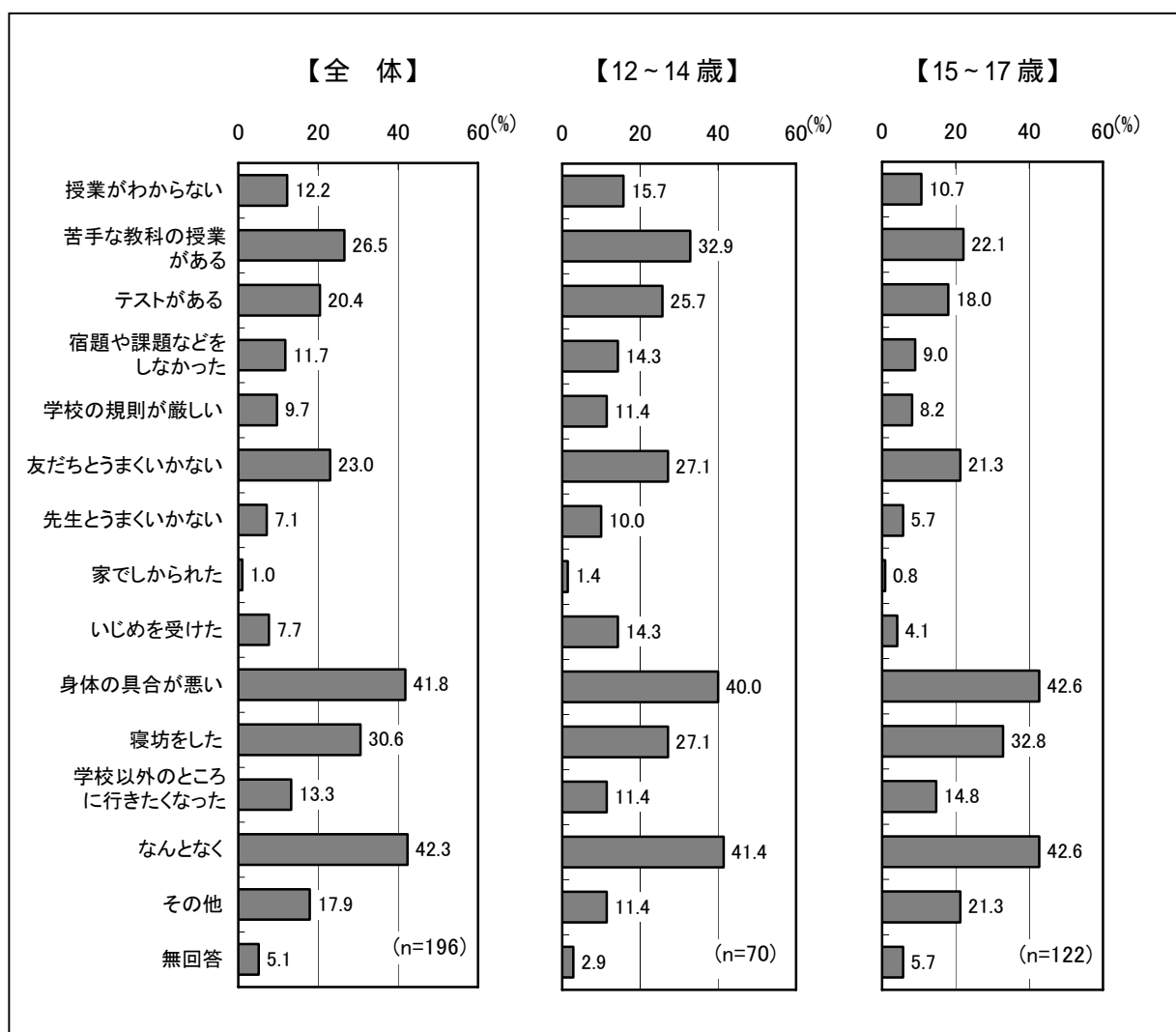
(2) 学校へ行きたくない理由(学校へ通学している人が対象)

学校へ行きたくないときに“ある”と回答した人の学校へ行きたくない理由をみると、12~14歳では「なんとなく」が最も多く41.4%、「身体の具合が悪い」(40.0%)もほぼ同じ割合となっている。次いで「苦手な教科の授業がある」が32.9%、「友だちとうまくいかない」「寝坊をした」がともに27.1%と続いている。

15~17歳では「身体の具合が悪い」「なんとなく」が最も多くともに42.6%、次いで「寝坊をした」が32.8%、「苦手な教科の授業がある」が22.1%、「友だちとうまくいかない」が21.3%と続いている。

「その他」の内容として、12~14歳では“発表があるとき”“部活”“眠い”、15~17歳では“眠い”“天気が悪い”“受験勉強が間に合わない”“好きなことができない”などの意見が寄せられている。

学校へ行きたくない理由(複数回答)

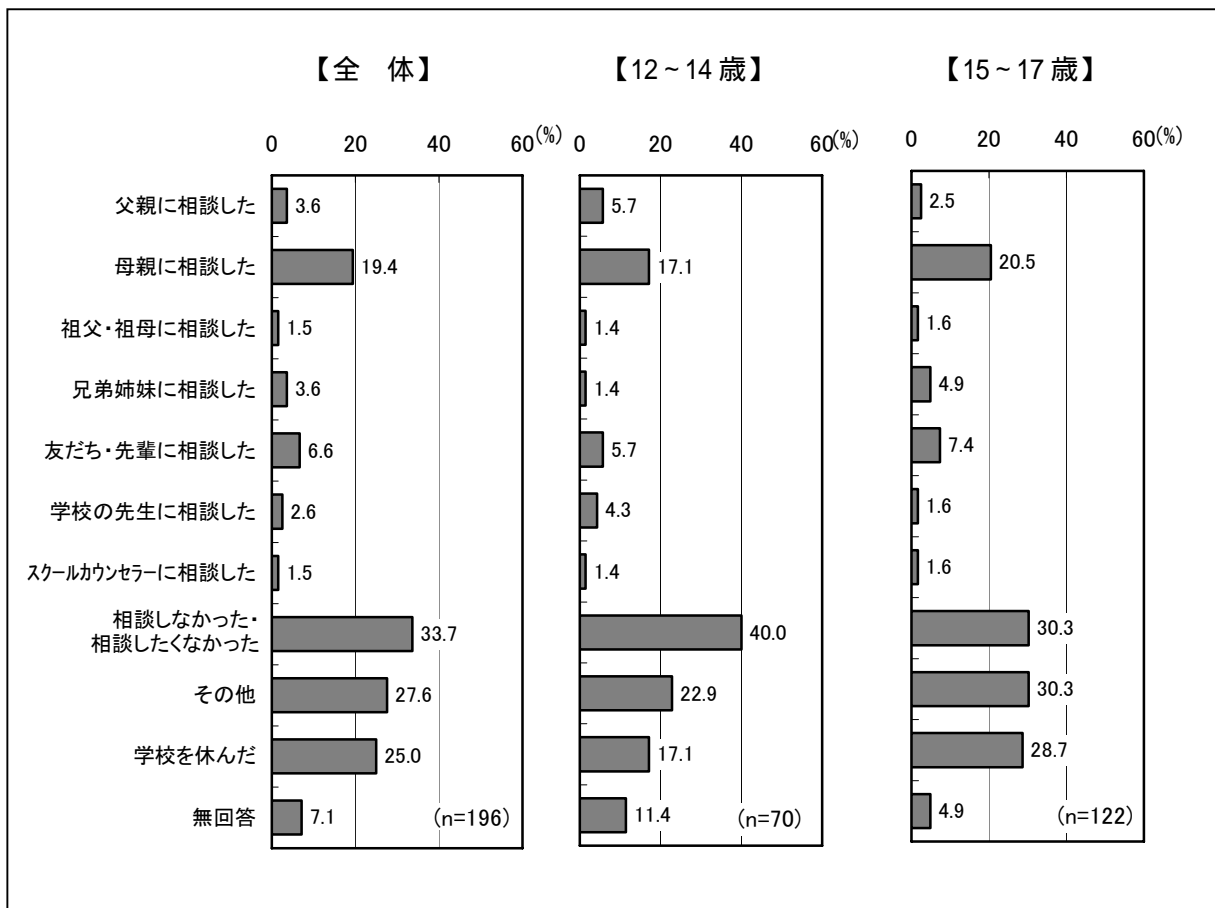


(3) 学校へ行きたくないときの対処法 (学校へ通学している人が対象)

学校へ行きたくないときが“ある”と回答した人の学校へ行きたくないときの対処法をみると、12~14歳では「相談しなかった・相談しなくなかった」が最も多く40.0%、次いで「母親に相談した」「学校を休んだ」がともに17.1%と続いている。

15~17歳では「相談しなかった・相談しなくなかった」が最も多く30.3%、次いで「学校を休んだ」が28.7%、「母親に相談した」が20.5%と続いている。

学校へ行きたくないときの対処法 (複数回答)

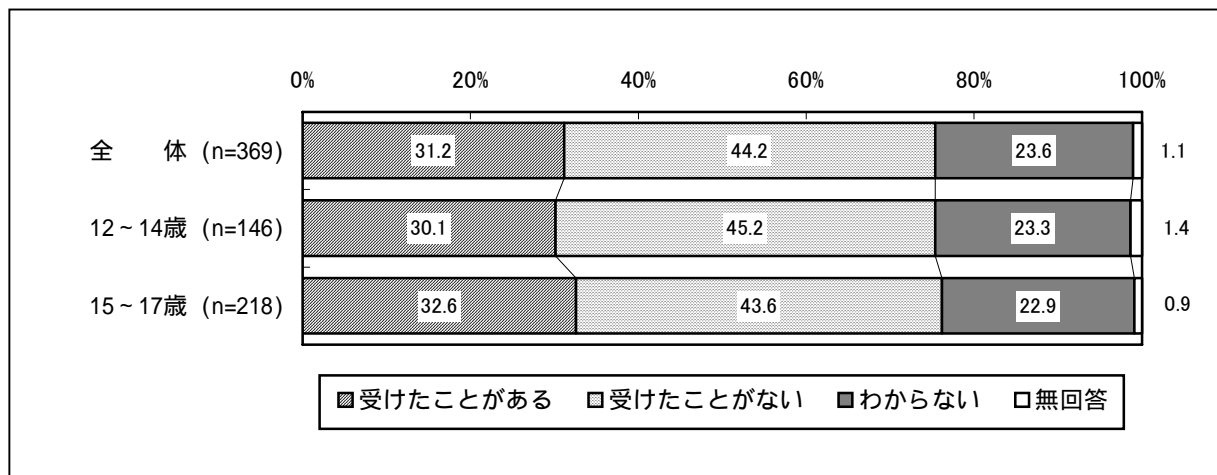


(4) いじめを受けたことの有無

いじめを受けたことの有無をみると、12～14歳では「受けたことがある」が30.1%、「受けたことがない」が45.2%となっている。

15～17歳では「受けたことがある」が32.6%、「受けたことがない」が43.6%となっている。

いじめを受けたことの有無

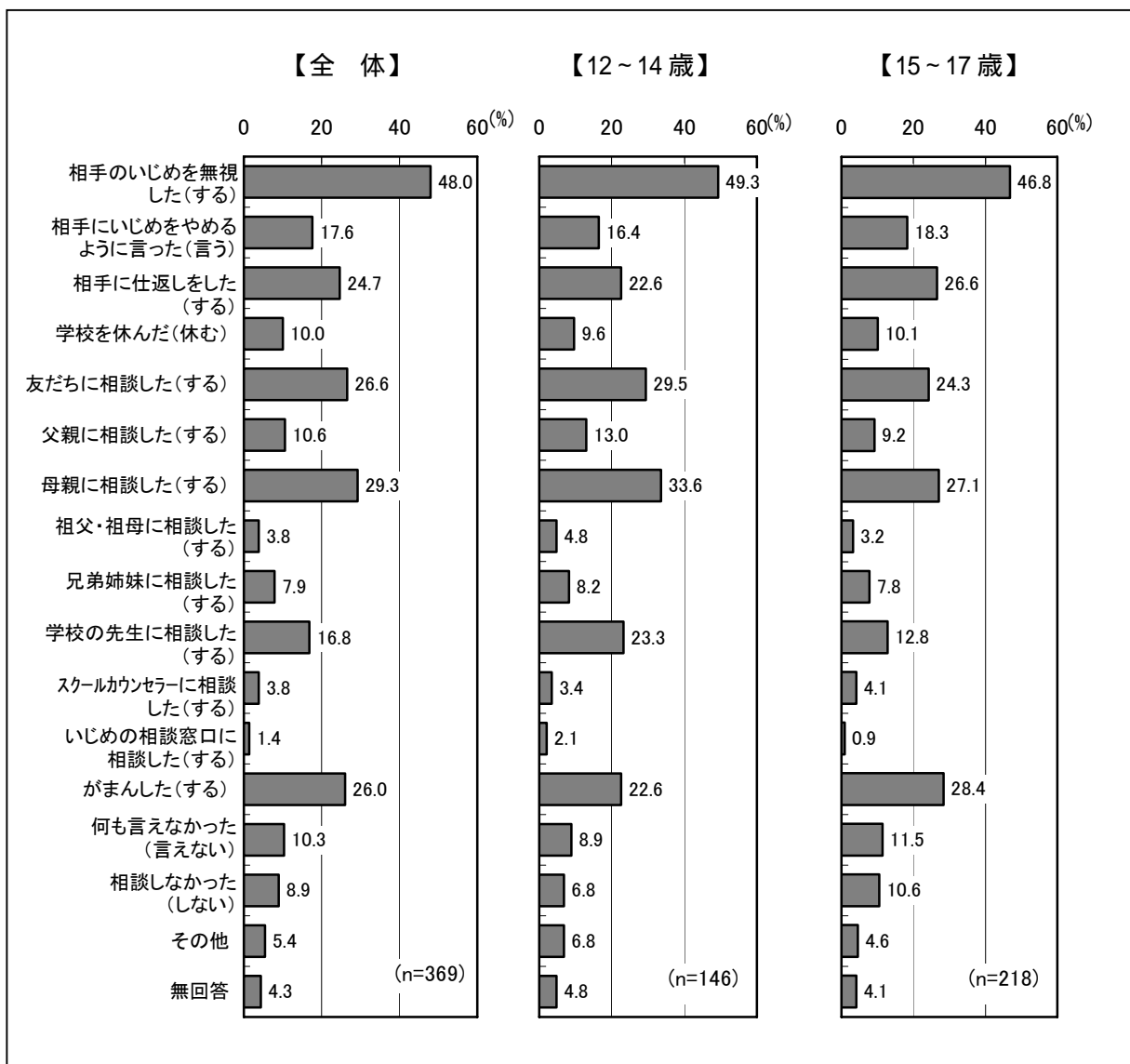


(5) いじめを受けたときの対処法

いじめを受けたときの対処法は、12～14歳では「相手のいじめを無視した(する)」が最も多く49.3%、次いで「母親に相談した(する)」が33.6%、「友だちに相談した(する)」が29.5%と続いている。

15～17歳でも「相手のいじめを無視した(する)」が最も多く46.8%、次いで「がまんした(する)」が28.4%、「母親に相談した(する)」が27.1%と続いている。

いじめを受けたときの対処法(複数回答)

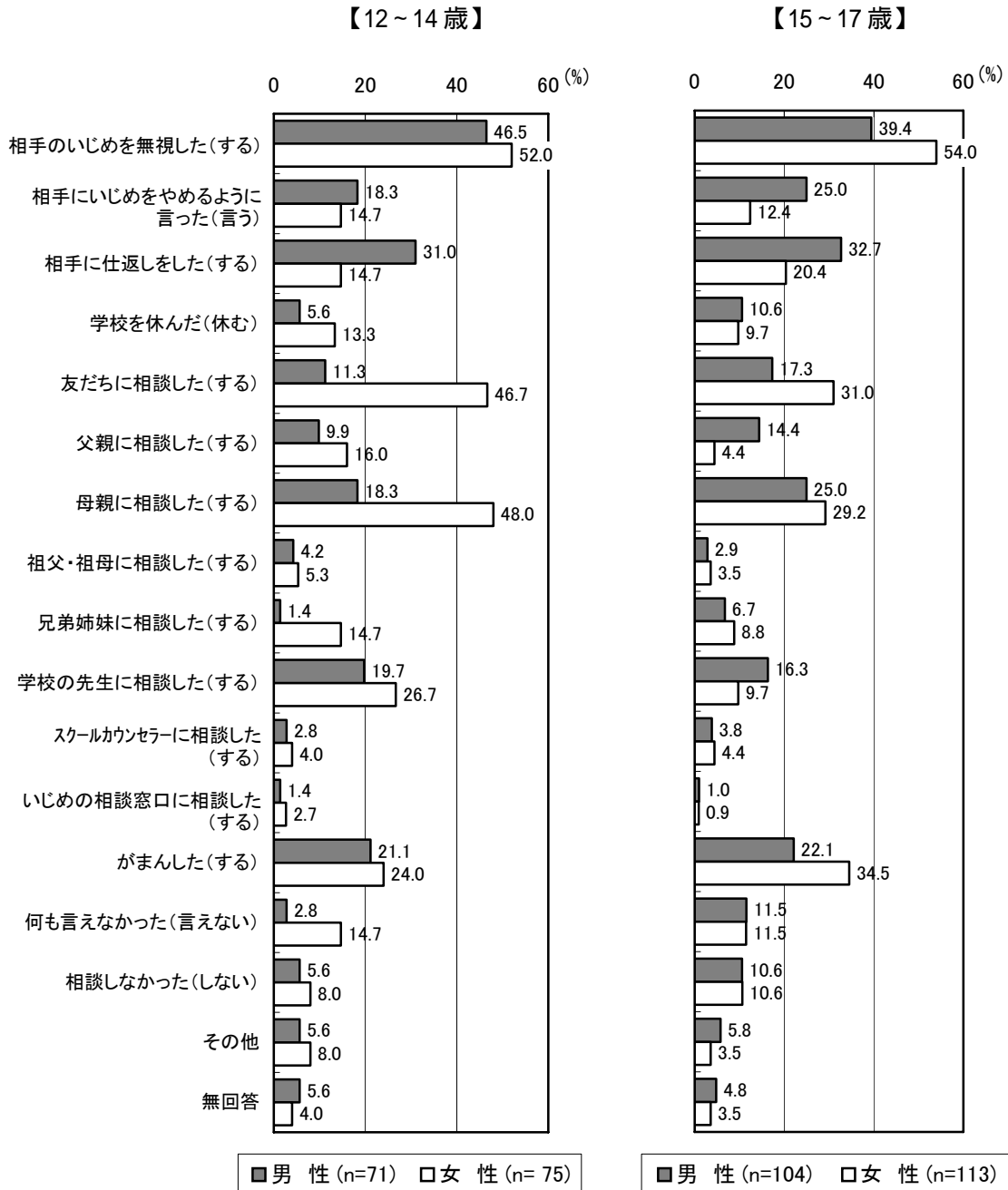


【性別】

いじめを受けたときの対処法を性別でみると、12～14歳では「相手に仕返しをした(する)」は男性が多く、「友だちに相談した(する)」「母親に相談した(する)」「兄弟姉妹に相談した(する)」「何も言えなかった(言えない)」は女性が多くなっている。

15～17歳では、「相手にいじめをやめるように言った(言う)」「相手に仕返しをした(する)」「父親に相談した(する)」は男性が多く、「相手のいじめを無視した(する)」「友だちに相談した(する)」「がまんした(する)」は女性が多くなっている。

いじめを受けたときの対処法(複数回答)

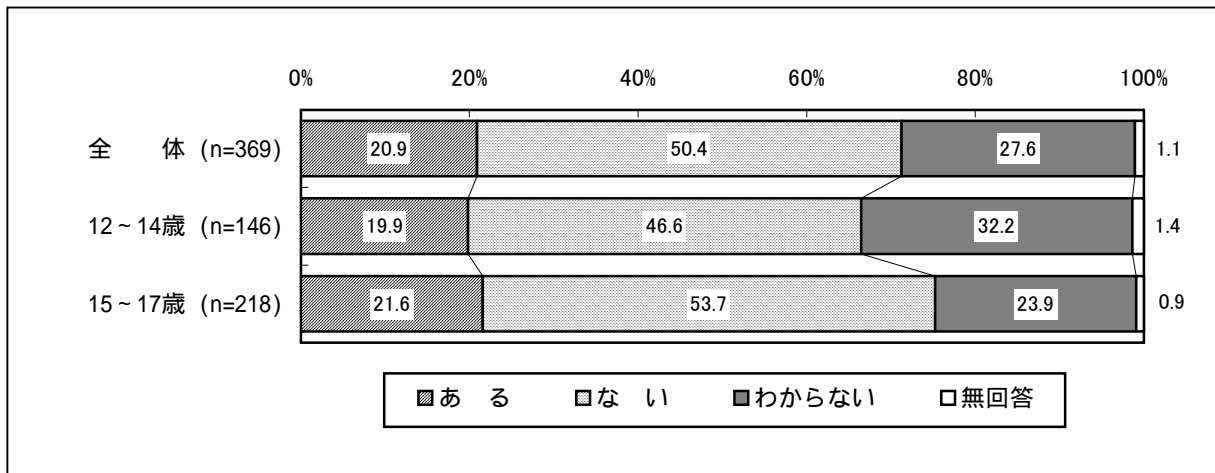


(6) いじめをしたことの有無

いじめをしたことの有無をみると、12～14歳では「ある」が19.9%、「ない」が46.6%となっている。

15～17歳では「ある」が21.6%、「ない」が53.7%となっている。

いじめをしたことの有無

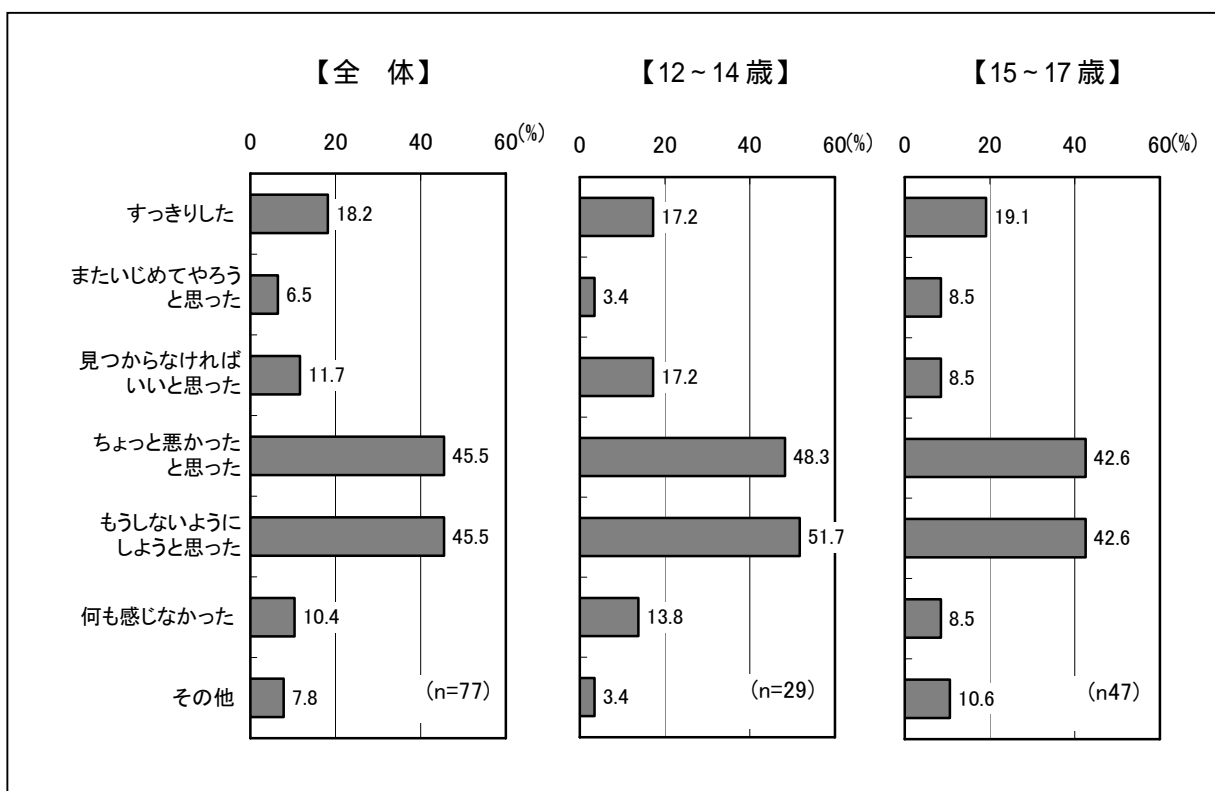


(7) いじめをしたときの気持ち

いじめをしたことが「ある」と回答した人のいじめをしたときの気持ちをみると、12～14歳では「もうしないようにしようと思った」が最も多く51.7%、次いで「ちょっと悪かったと思った」が48.3%、「すっきりした」「見つからなければいいと思った」がともに17.2%と続いている。

15～17歳では「ちょっと悪かったと思った」「もうしないようにしようと思った」が最も多くともに42.6%、次いで「すっきりした」が19.1%と続いている。

いじめをしたときの気持ち (複数回答)



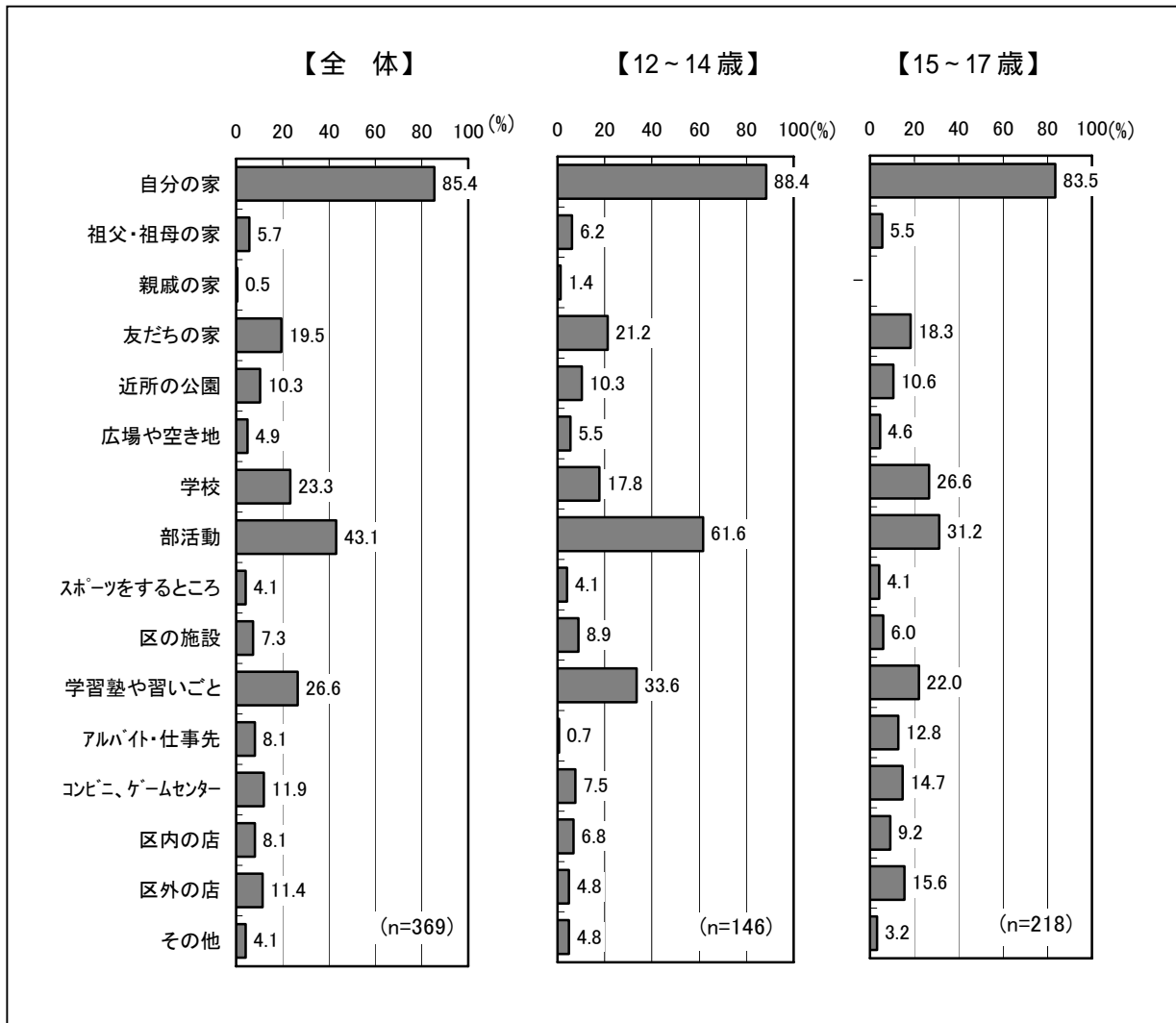
5. 放課後や休日の過ごし方について

(1) 平日の放課後の居場所

平日の放課後の居場所をみると、12~14歳では「自分の家」が最も多く88.4%、次いで「部活動」が61.6%、「学習塾や習いごと」が33.6%、「友だちの家」が21.2%と続いている。

15~17歳でも「自分の家」が最も多く83.5%、次いで「部活動」が31.2%、「学校」が26.6%、「学習塾や習いごと」が22.0%と続いている。

平日の放課後の居場所（複数回答）

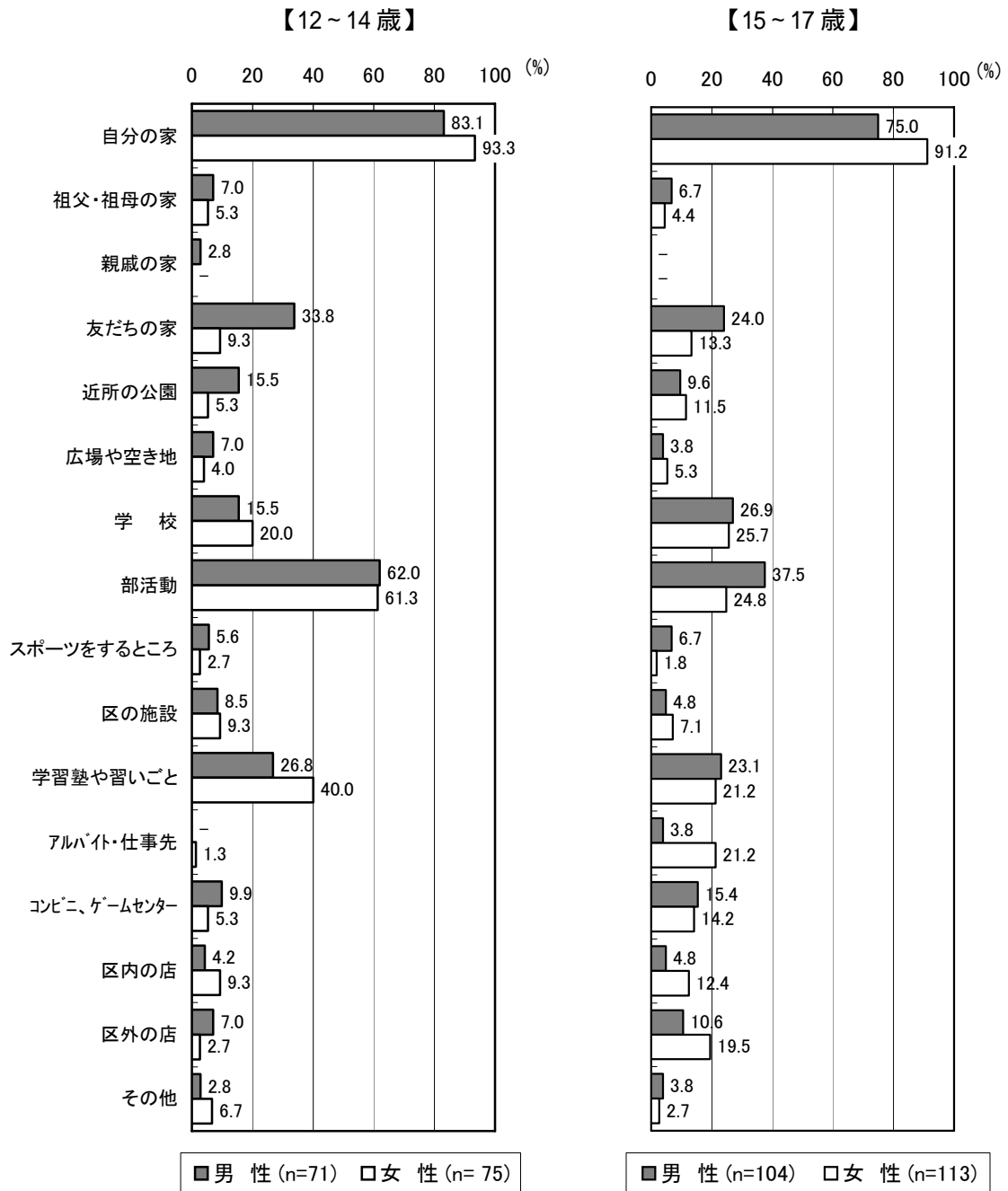


【性別】

平日の放課後の居場所を性別でみると、12～14歳では「友だちの家」「近所の公園」は男性が多く、「自分の家」「学習塾や習い事」は女性が多くなっている。

15～17歳では、「友だちの家」「部活動」は男性が多く、「自分の家」「アルバイト・仕事先」は女性が多くなっている。

平日の放課後の居場所（複数回答）

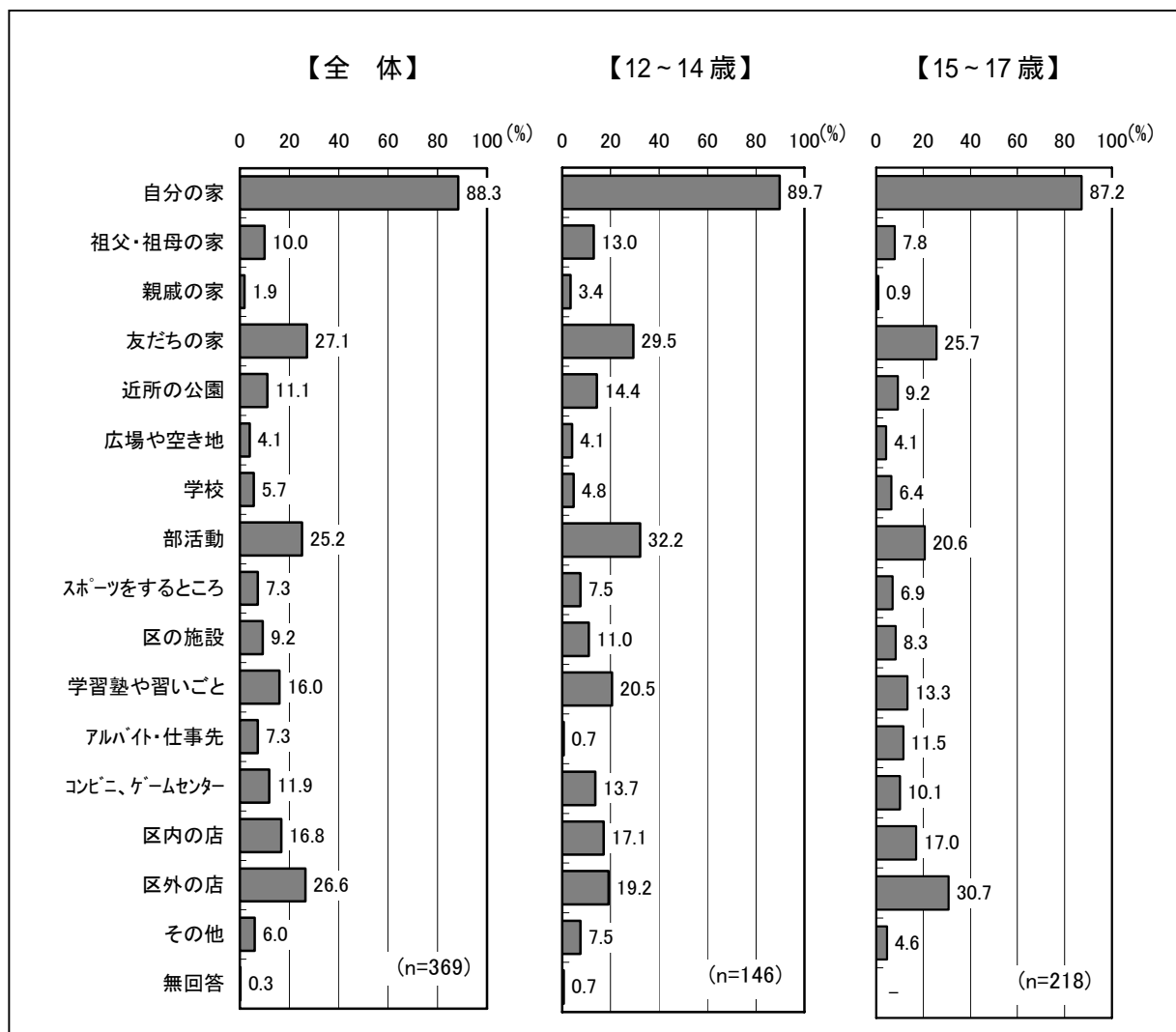


(2) 休・祝日の居場所

休・祝日の居場所をみると、12～14歳では「自分の家」が最も多く89.7%、次いで「部活動」が32.2%、「友だちの家」が29.5%、「学習塾や習いごと」が20.5%と続いている。

15～17歳でも「自分の家」が最も多く87.2%、次いで「区外の店」が30.7%、「友だちの家」が25.7%、「部活動」が20.6%と続いている。

休・祝日の居場所（複数回答）

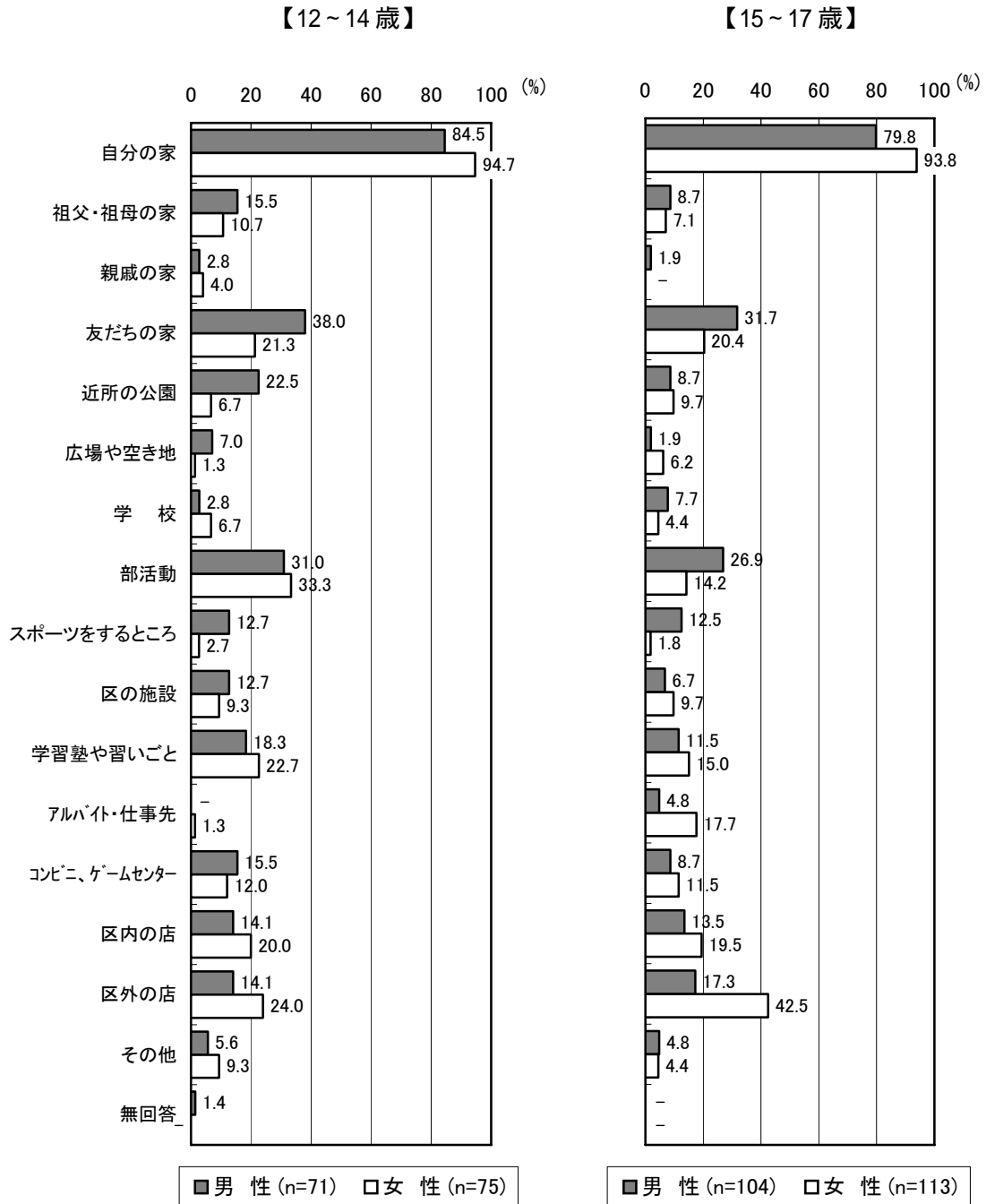


【性別】

休・祝日の居場所を性別で見ると、12～14歳では「友だちの家」「近所の公園」「スポーツをするところ」は男性が多く、「自分の家」「区外の店」は女性が多くなっている。

15～17歳では、「友だちの家」「部活動」「スポーツをするところ」は男性が多く、「自分の家」「アルバイト・仕事先」「区外の店」は女性が多くなっている。

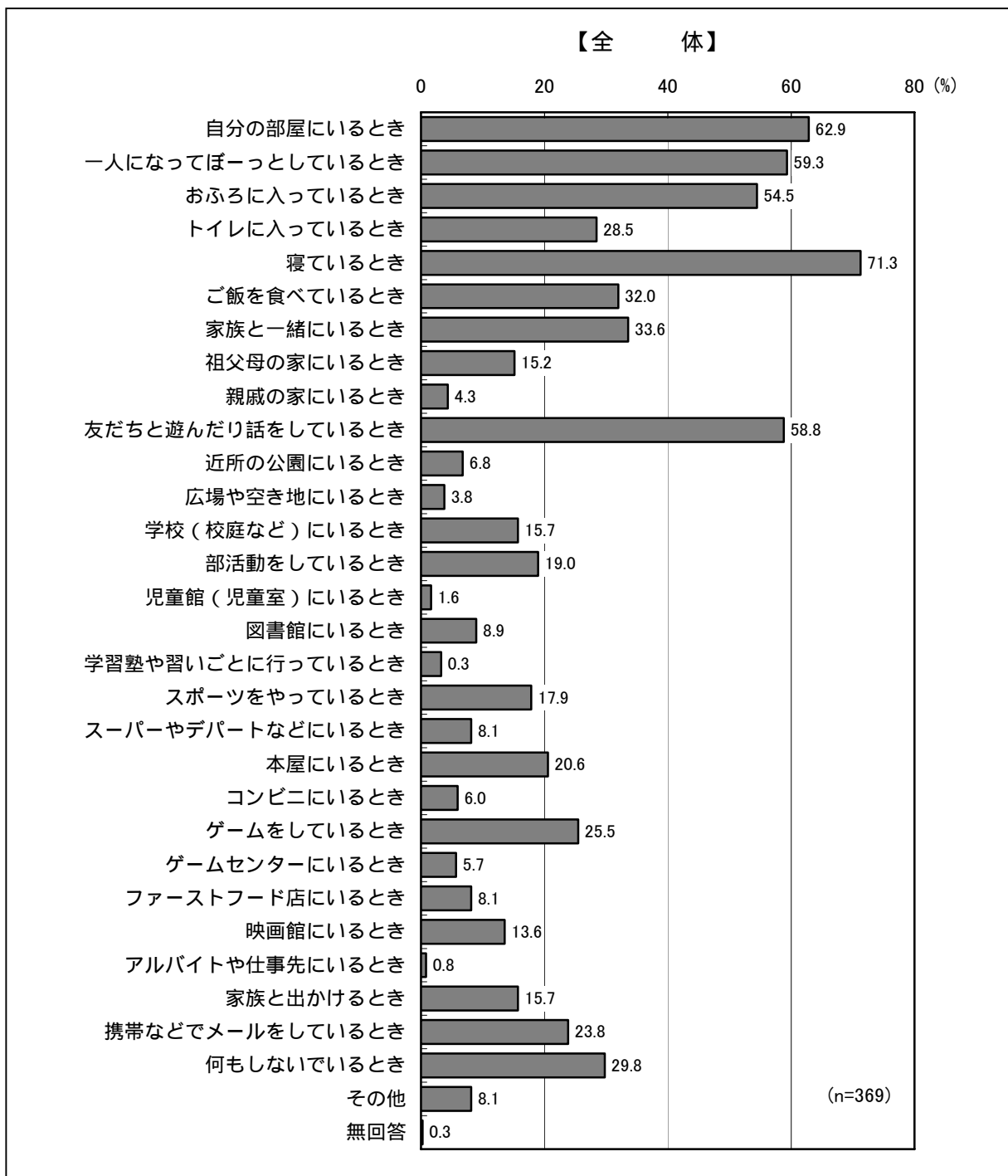
休・祝日の居場所（複数回答）



(3) ほっとできるとき

ほっとできるときは、「寝ているとき」が最も多く71.3%、次いで「自分の部屋にいるとき」が62.9%、「一人になってぼーっとしているとき」が59.3%と続いている。

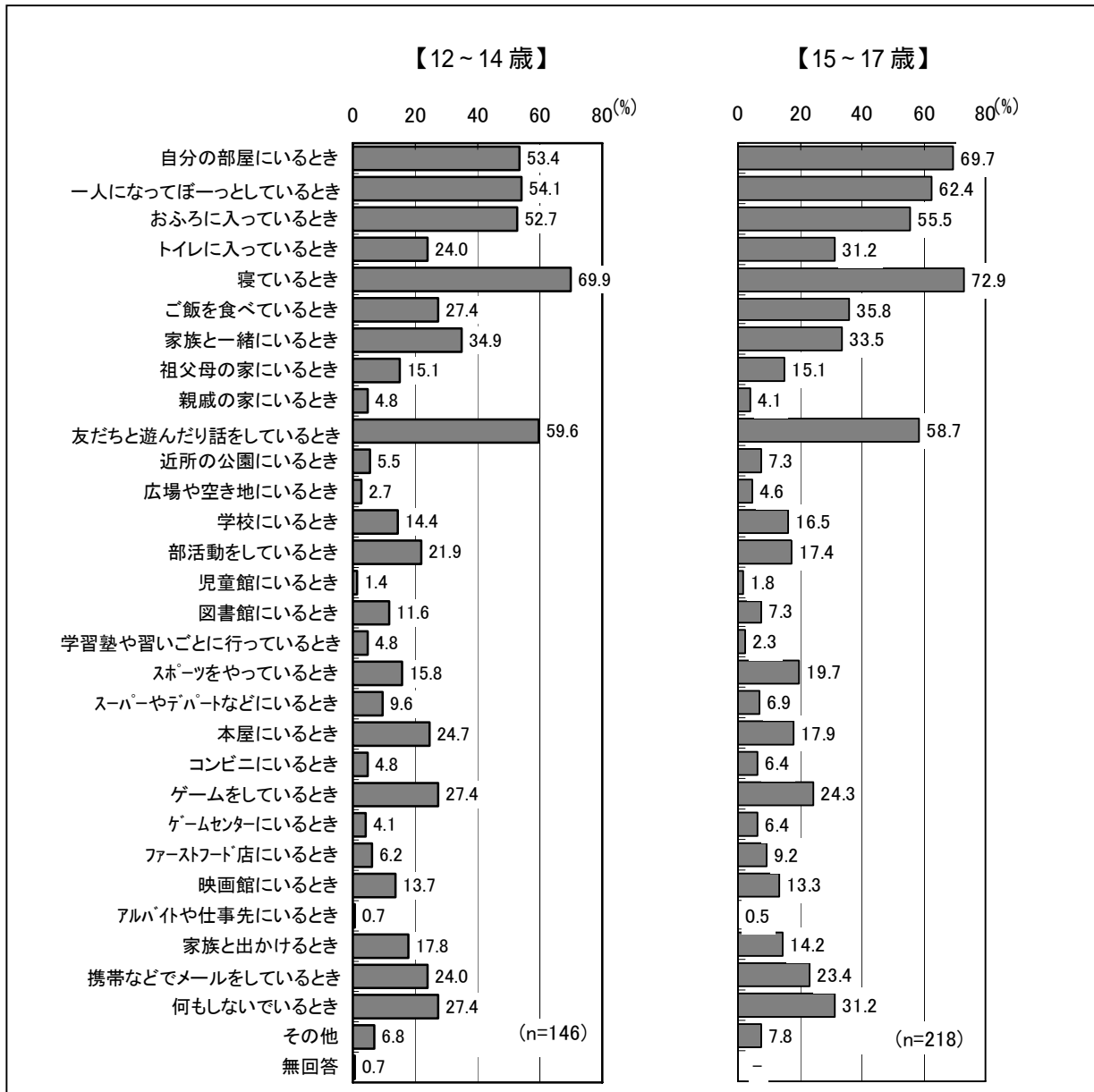
ほっとできるとき（複数回答）



12～14歳のほっとできるときでは「寝ているとき」が最も多く69.9%、次いで「友だちと遊んだり話をしているとき」が59.6%、「一人になってぼーっとしているとき」が54.1%と続いている。

15～17歳でも「寝ているとき」が最も多く72.9%、次いで「自分の部屋にいるとき」が69.7%、「一人になってぼーっとしているとき」が62.4%と続いている。

ほっとできるとき（複数回答）

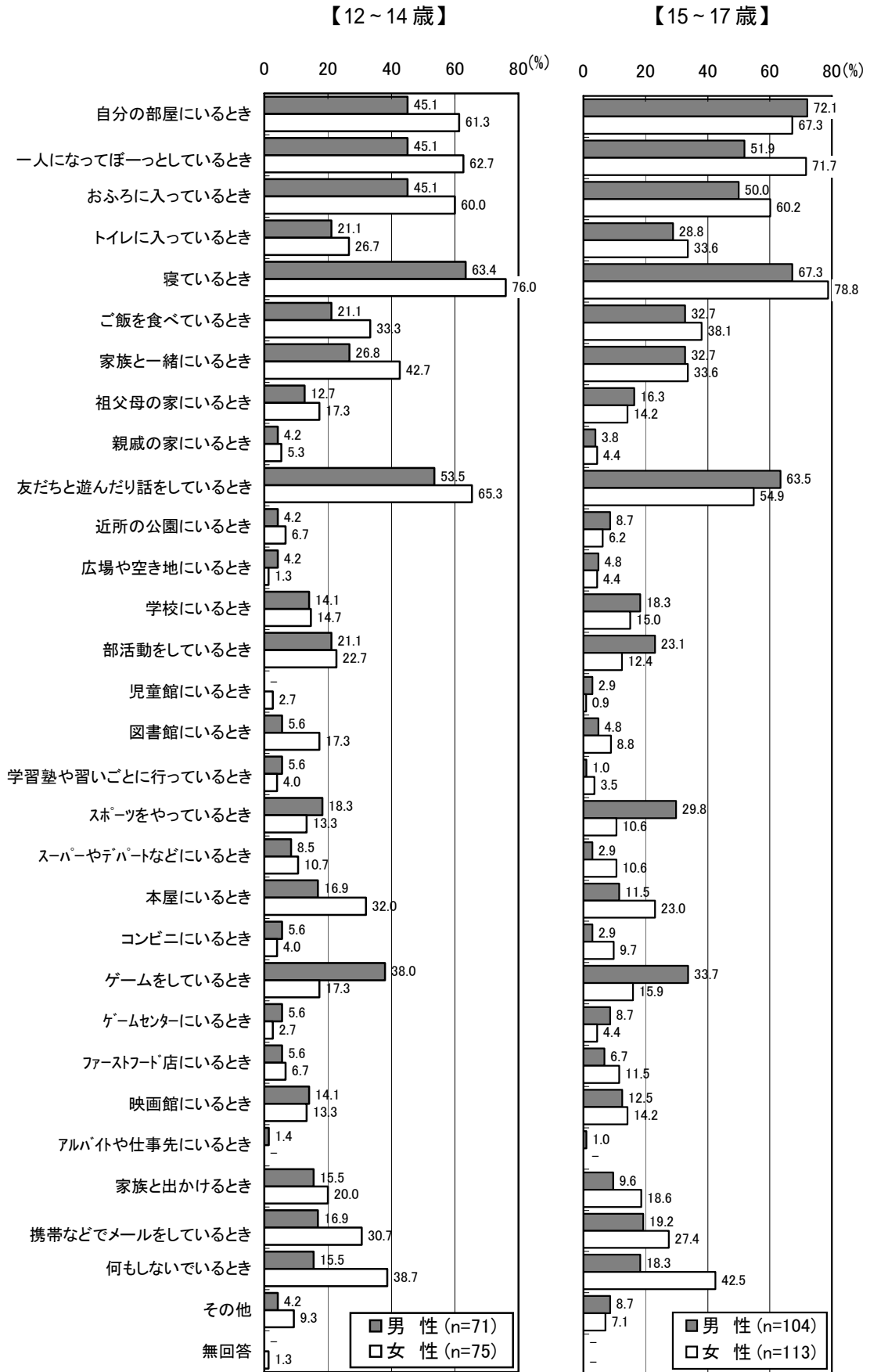


【性別】

ほっとできるときを性別でみると、12～14歳では「ゲームをしているとき」は、男性が多く、「自分の部屋にいるとき」「一人になってぼーっとしているとき」「お風呂に入っているとき」「寝ているとき」「ご飯を食べているとき」「家族と一緒にいるとき」「友だちと遊んだり話をしているとき」「図書館にいるとき」「本屋にいるとき」「携帯などでメールをしているとき」「何もしないでいるとき」は、女性が多くなっている。

15～17歳では、「友だちと遊んだり話をしているとき」「部活動をしているとき」「スポーツをやっているとき」「ゲームをしているとき」は、男性が多く、「一人になってぼーっとしているとき」「お風呂に入っているとき」「寝ているとき」「本屋にいるとき」「家族と出かけるとき」「携帯などでメールをしているとき」「何もしないでいるとき」は、女性が多くなっている。

ほっとできるとき（複数回答）

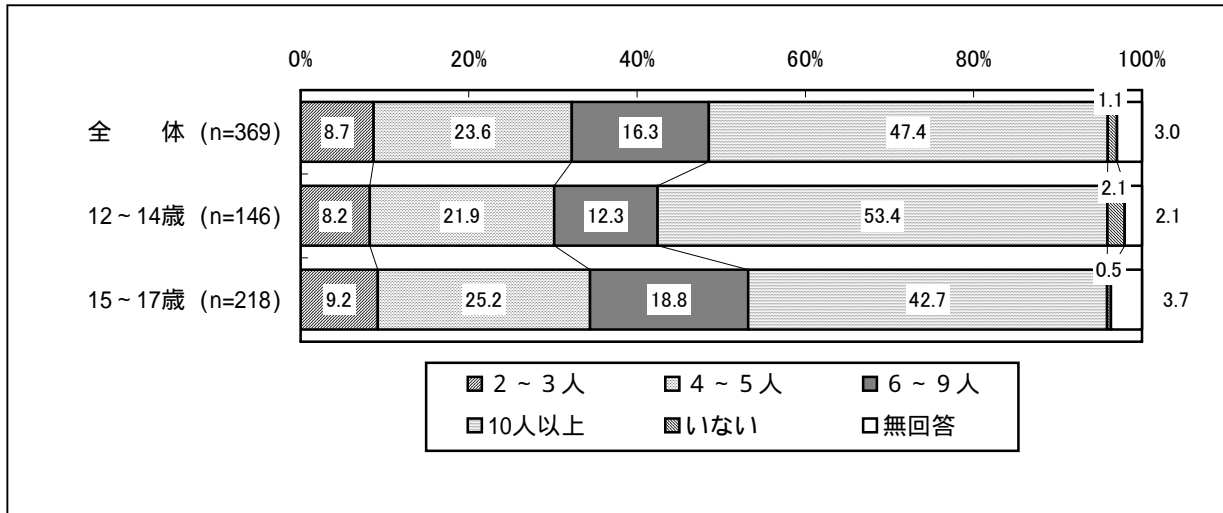


(4) 一緒に遊んだり、話したりする友達

一緒に遊んだり、話したりする友達の人数をみると、12～14歳では「10人以上」が最も多く53.4%、次いで「4～5人」が21.9%、「6～9人」が12.3%、「2～3人」が8.2%、「いない」が2.1%となっている。

15～17歳でも「10人以上」が最も多く42.7%、次いで「4～5人」が25.2%、「6～9人」が18.8%、「2～3人」が9.2%、「いない」が0.5%となっている。

一緒に遊んだり、話したりする友達



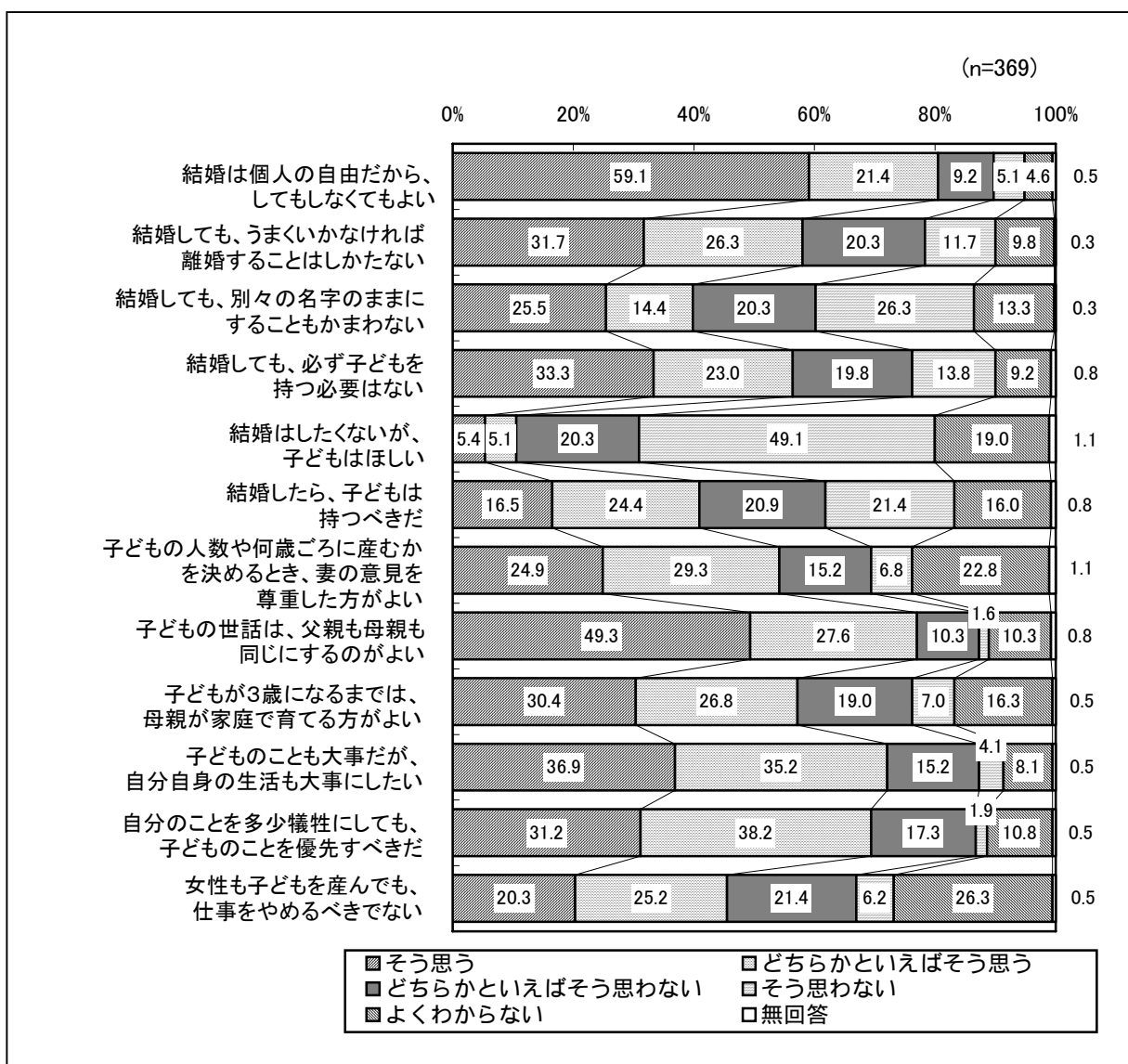
6. 将来の仕事や結婚、子育てについて

(1) 将来の仕事や結婚、子育てについての考え方

将来の仕事や結婚、子育てについての考え方について、“そう思う”は、「結婚は個人の自由だから、しなくてもよい」が最も多く59.1%、次いで「子どもの世話は、父親も母親も同じにするのがよい」が49.3%、「子どものことも大事だが自分自身の生活も大事にしたい」が36.9%と続いている。

一方、“そう思わない”は、「結婚はしたくないが、子どもはほしい」が最も多く49.1%、次いで「結婚しても、別々の名字のままにすることもかまわない」が26.3%、「結婚したら、子どもは持つべきだ」が21.4%と続いている。

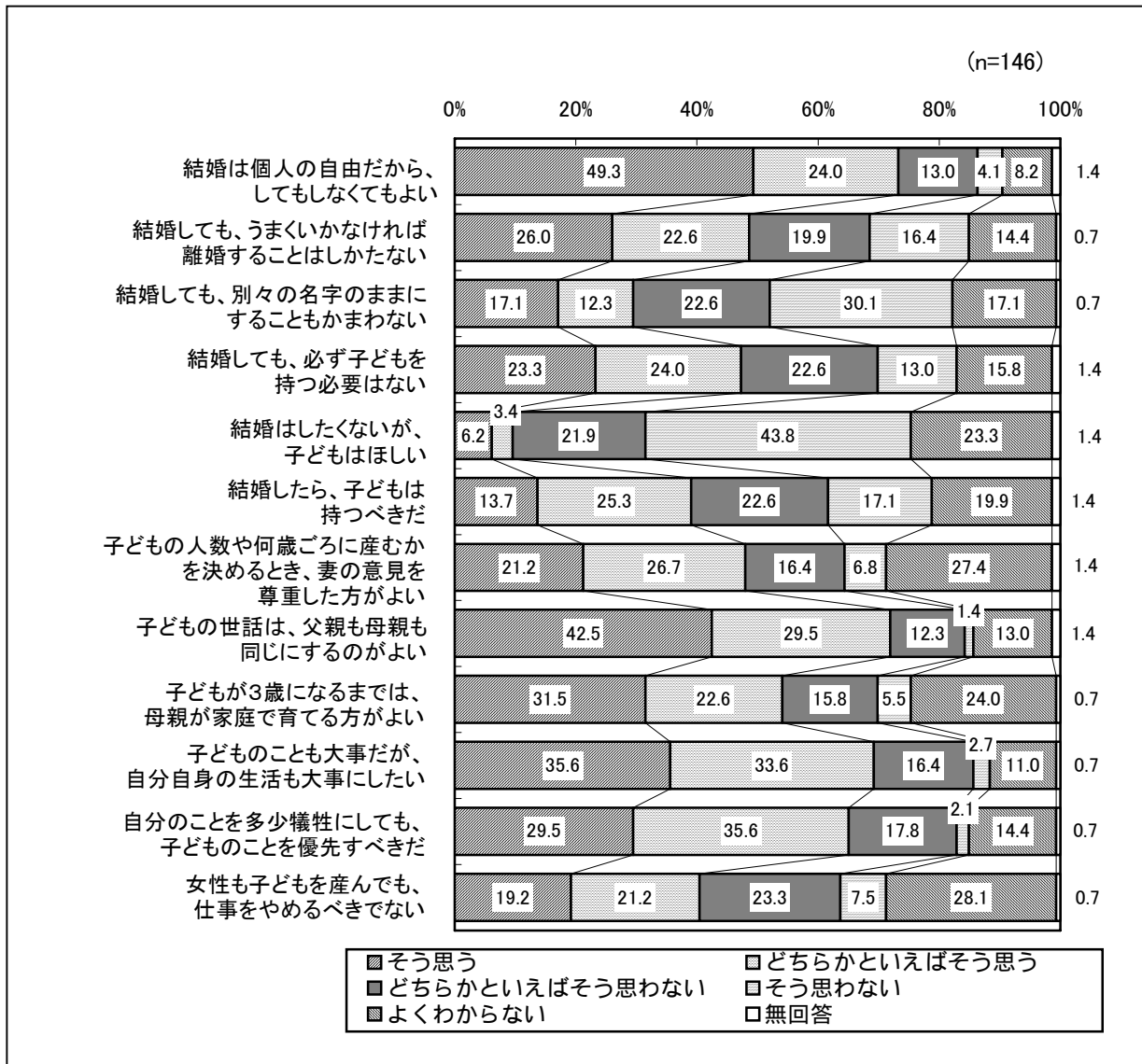
将来の仕事や結婚、子育てについての考え方（全 体）



12～14歳の将来の仕事や結婚、子育てについての考え方をみると、“そう思う”は、「結婚は個人の自由だから、しなくてもよい」が最も多く49.3%、次いで「子どもの世話は、父親も母親も同じにするのがよい」が42.5%、「子どものことも大事だが自分自身の生活も大事にしたい」が35.6%と続いている。

一方、“そう思わない”は、「結婚はしたくないが、子どもはほしい」が最も多く43.8%、次いで「結婚しても、別々の名字のままにすることもかまわない」が30.1%、「結婚したら、子どもは持つべきだ」が17.1%と続いている。

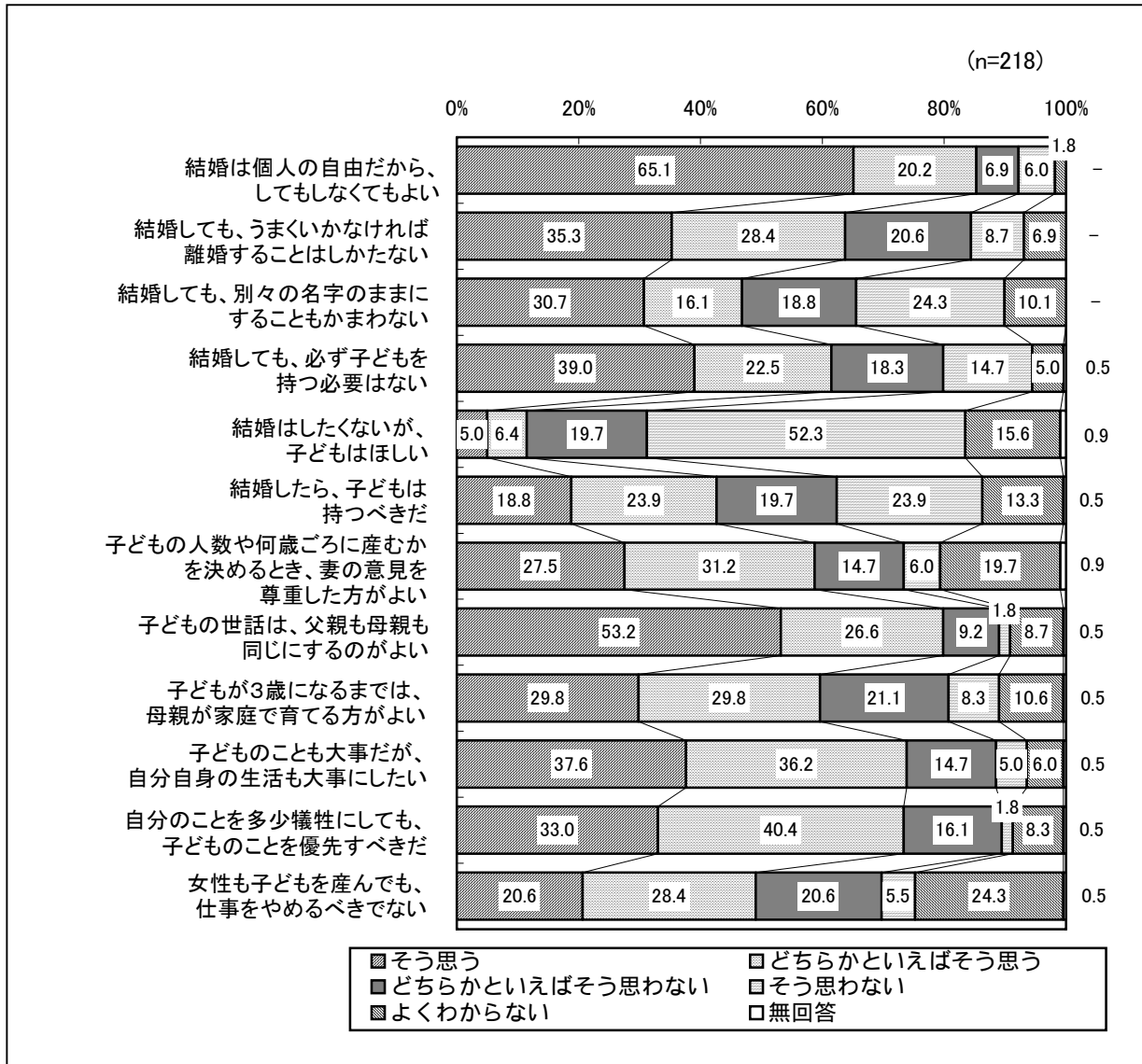
将来の仕事や結婚、子育てについての考え方（12～14歳）



15～17歳の将来の仕事や結婚、子育てについての考え方も、「そう思う」は、「結婚は個人の自由だから、しなくてもよい」が最も多く65.1%、次いで「子どもの世話は、父親も母親も同じにするのがよい」が53.2%、「結婚しても、必ず子どもを持つ必要はない」が39.0%と続いている。

一方、「そう思わない」も、「結婚はしたくないが、子どもはほしい」が最も多く52.3%、次いで「結婚しても、別々の名字のままにすることもかまわない」が24.3%、「結婚したら、子どもは持つべきだ」が23.9%と続いている。

将来の仕事や結婚、子育てについての考え方（15～17歳）

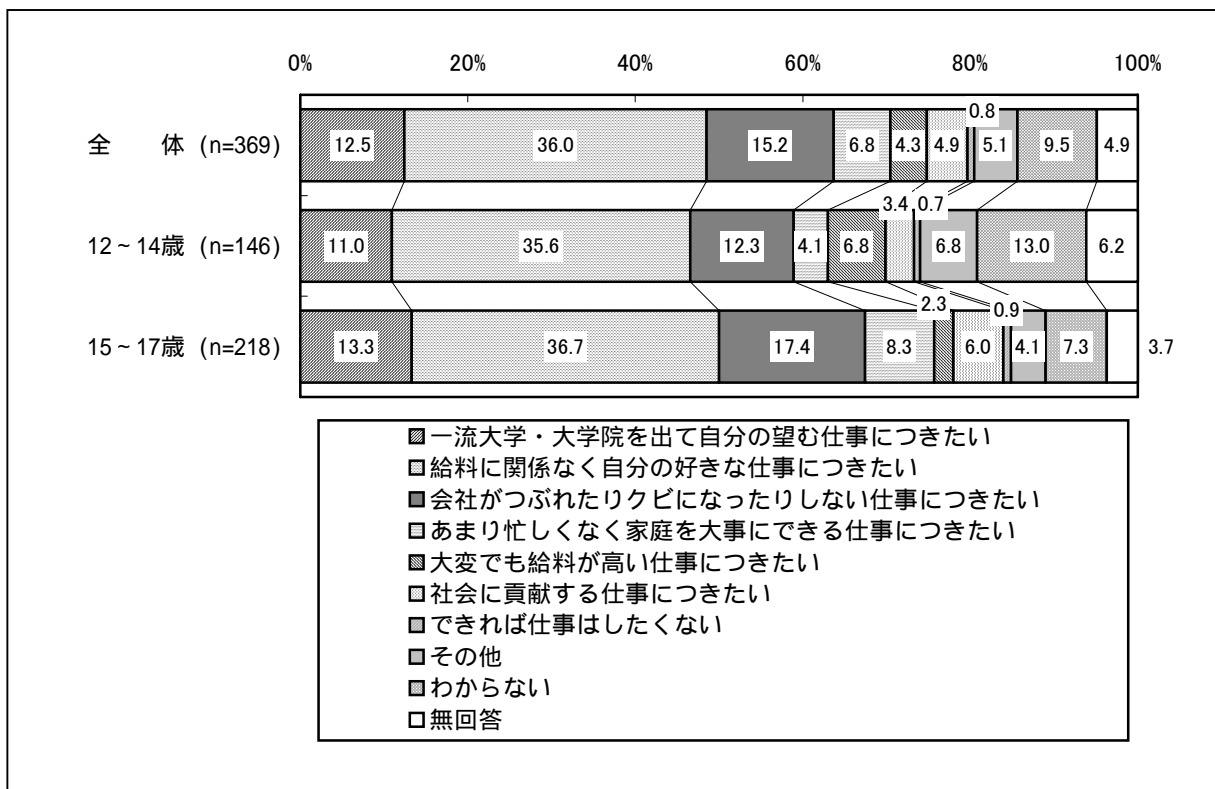


(2) 将来就きたい仕事

将来就きたい仕事をみると、12～14歳では「給料に関係なく自分の好きな仕事につきたい」が最も多く35.6%、次いで「わからない」が13.0%、「会社がつぶれたりクビになったりしない仕事につきたい」が12.3%、「一流大学・大学院を出て自分の望む仕事につきたい」が11.0%と続いている。

15～17歳でも「給料に関係なく自分の好きな仕事につきたい」が最も多く36.7%、次いで「会社がつぶれたりクビになったりしない仕事につきたい」が17.4%、「一流大学・大学院を出て自分の望む仕事につきたい」が13.3%、「あまり忙しくなく家庭を大事にできる仕事につきたい」が8.3%と続いている。

将来就きたい仕事

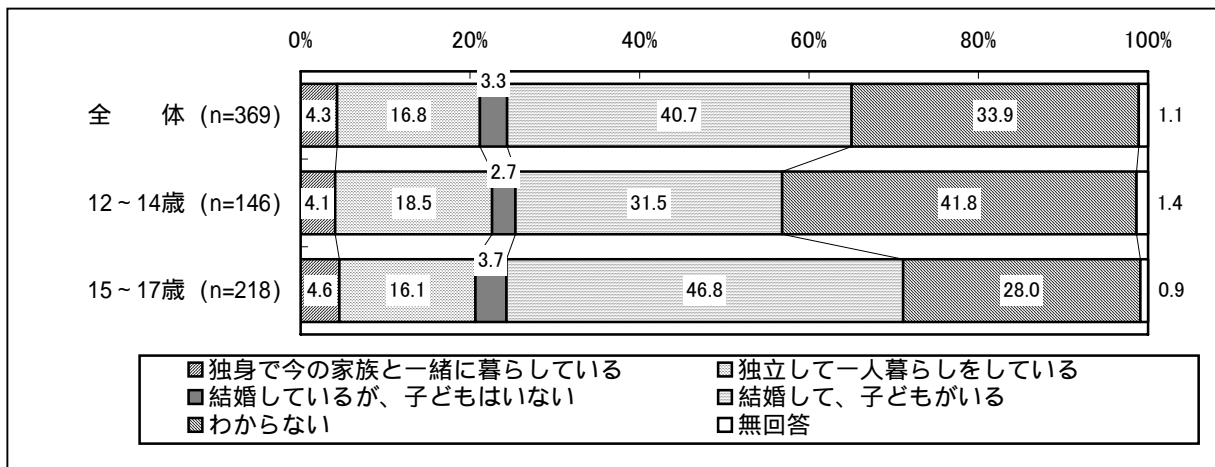


(3) 10～20年後の家庭

10～20年後の家庭をみると、12～14歳では「わからない」が最も多く41.8%、次いで「結婚して子どもがいる」が31.5%、「独立して一人暮らしをしている」が18.5%と続いている。

15～17歳では「結婚して子どもがいる」が最も多く46.8%、次いで「わからない」が28.0%、「独立して一人暮らしをしている」が16.1%と続いている。

10～20年後の家庭

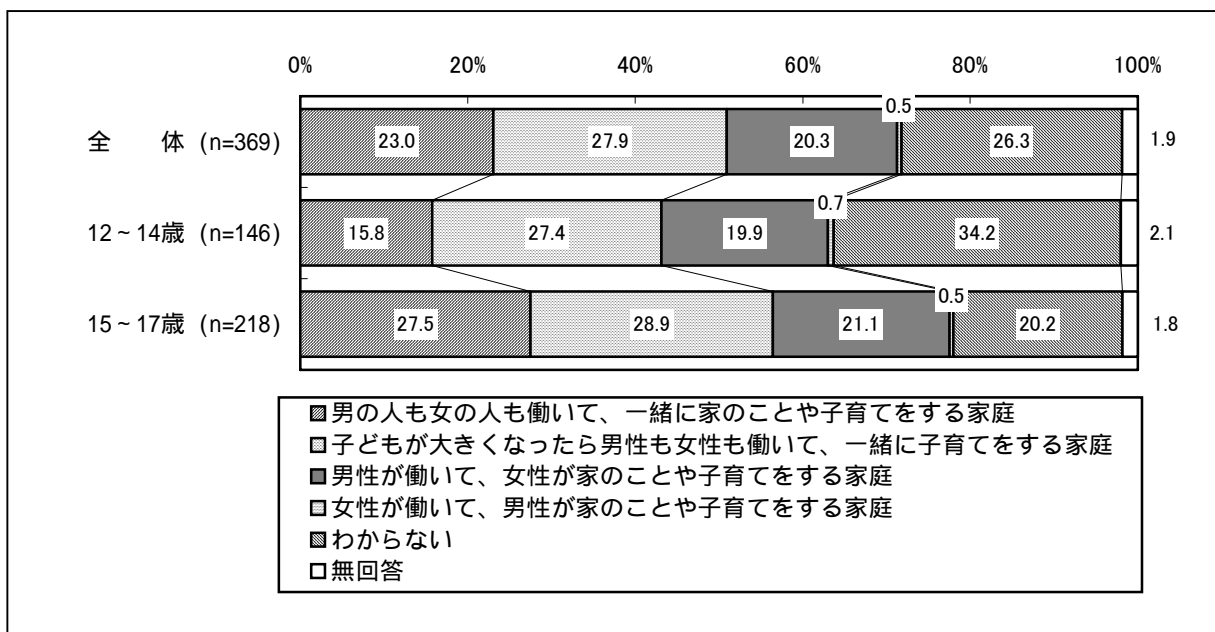


(4) 理想の将来家庭像

将来の理想とする家庭像は、12～14歳では「わからない」が最も多く34.2%、次いで「子どもが小さいときだけ女性が家にいて、子どもが大きくなったら男性も女性も働いて、一緒に家のことや子育てをする家庭」が27.4%、「男性が働いて、女性が家のことや子育てをする家庭」が19.9%と続いている。

15～17歳では「子どもが小さいときだけ女性が家にいて、子どもが大きくなったら男性も女性も働いて、一緒に家のことや子育てをする家庭」が最も多く28.9%、次いで「男の人も女の人も働いて、一緒に家のことや子育てをする家庭」が27.5%、「男性が働いて、女性が家のことや子育てをする家庭」が21.1%と続いている。

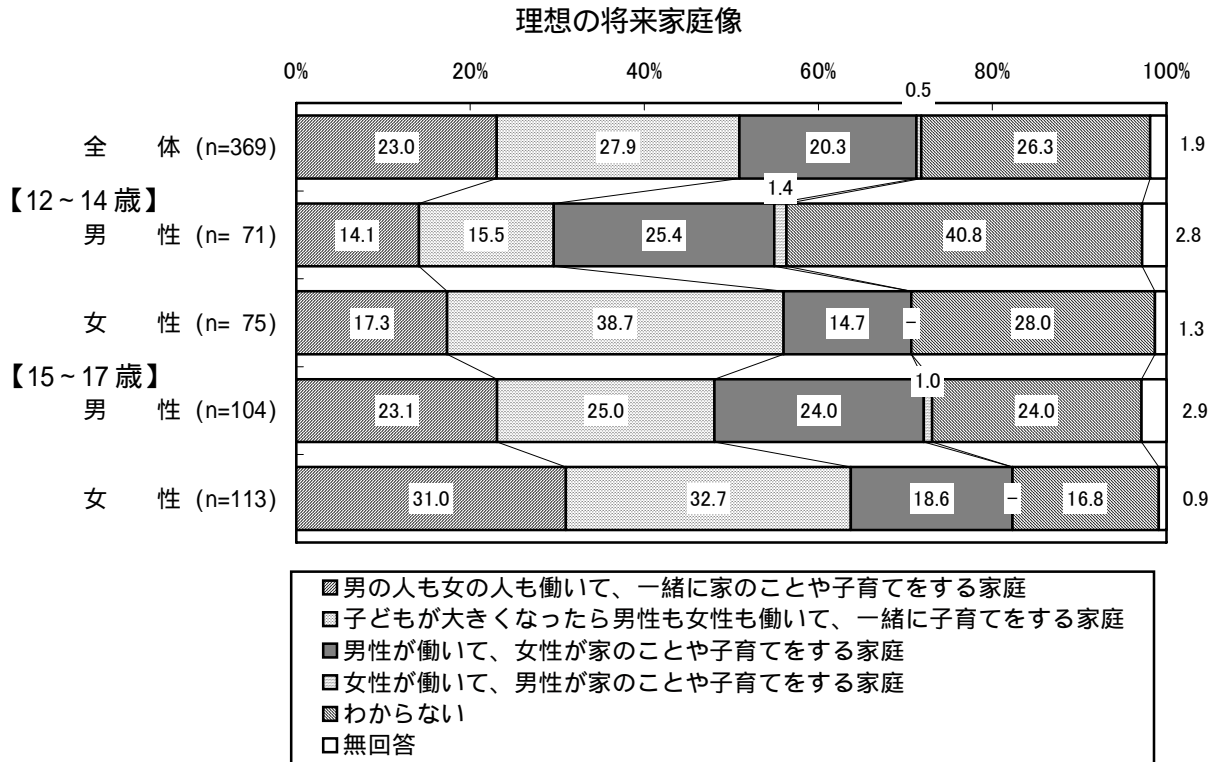
理想の将来家庭像



【性別】

将来の理想とする家庭像を性別で見ると、12～14歳では「男性が働いて、女性が家のことや子育てをする家庭」は男性が多く、「子どもが小さいときだけ女性が家にいて、子どもが大きくなったら男性も女性も働いて、一緒に家のことや子育てをする家庭」は女性が多くなっている。

15～17歳でも「男性が働いて、女性が家のことや子育てをする家庭」は男性が多く、「男の人も女の人も働いて、一緒に家のことや子育てをする家庭」「子どもが小さいときだけ女性が家にいて、子どもが大きくなったら男性も女性も働いて、一緒に家のことや子育てをする家庭」は女性が多くなっている。

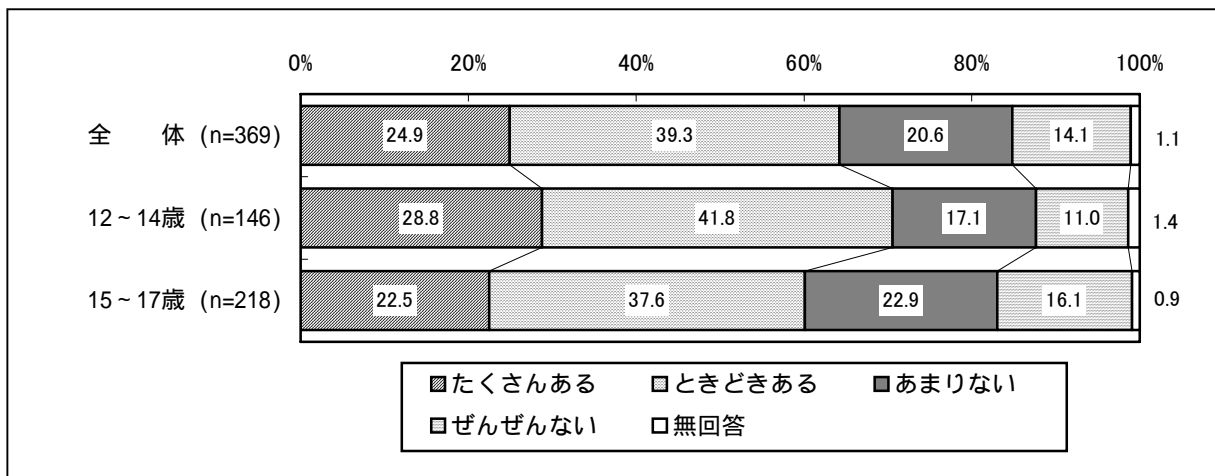


(5) 弟や妹以外の、赤ちゃんや幼児と遊んだ経験

弟や妹以外の、赤ちゃんや幼児と遊んだ経験をみると、12～14歳では“ある”が70.6%（「たくさんある」28.8%+「ときどきある」41.8%），“ない”が28.1%（「あまりない」17.1%+「ぜんぜんない」11.0%）となっている。

15～17歳では“ある”が60.1%（「たくさんある」22.5%+「ときどきある」37.6%），“ない”が39.0%（「あまりない」22.9%+「ぜんぜんない」16.1%）となっている。

弟や妹以外の、赤ちゃんや幼児と遊んだ経験



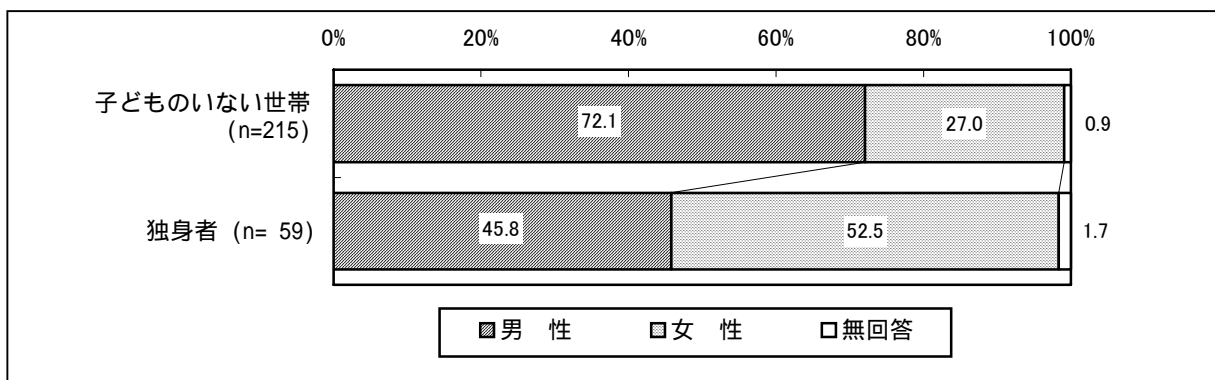
30歳以上40歳未満の、世帯主と夫又は妻のみの世帯(子どものいない世帯) 世帯主のみの世帯(独身者)

1. 回答者の基本属性

(1) 性別

性別は、子どものいない世帯では「男性」が72.1%、「女性」が27.0%となっている。
独身者では「男性」が45.8%、「女性」が52.5%となっている。

性別

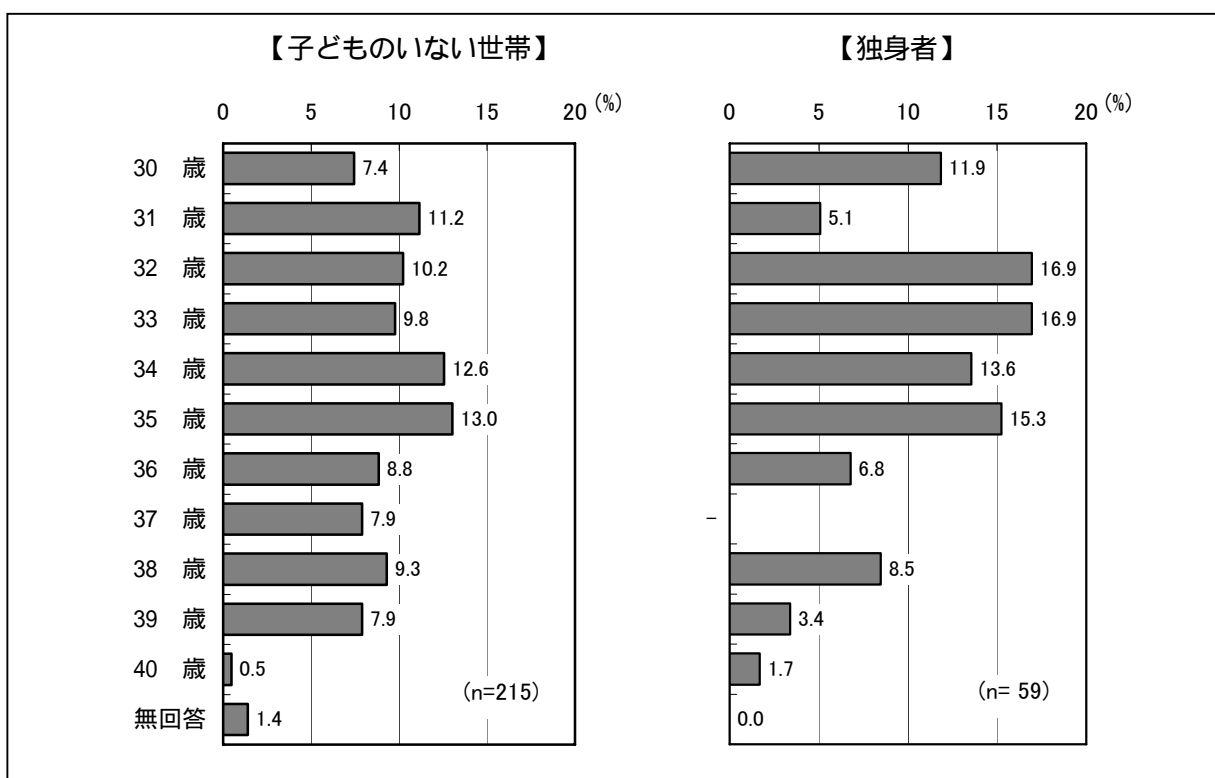


(2) 年齢

年齢は、子どものいない世帯では「35歳」が最も多く13.0%、次いで「34歳」が12.6%、「31歳」が11.2%、「32歳」が10.2%と続いている。

独身者では「32歳」「33歳」が最も多くともに16.9%、次いで「35歳」が15.3%、「34歳」が13.6%と続いている。

年齢

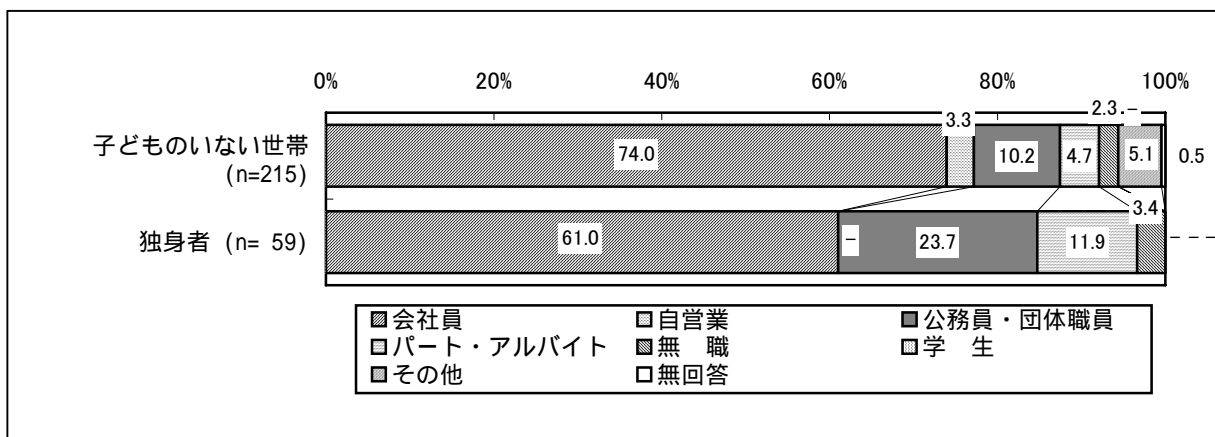


(3) 職業

職業は、子どものいない世帯では「会社員」が最も多く74.0%、次いで「公務員・団体職員」が10.2%、「パート・アルバイト」が4.7%と続いている。

独身者でも「会社員」が最も多く61.0%、ついで「公務員・団体職員」が23.7%、「パート・アルバイト」が11.9%と続いている。

職業

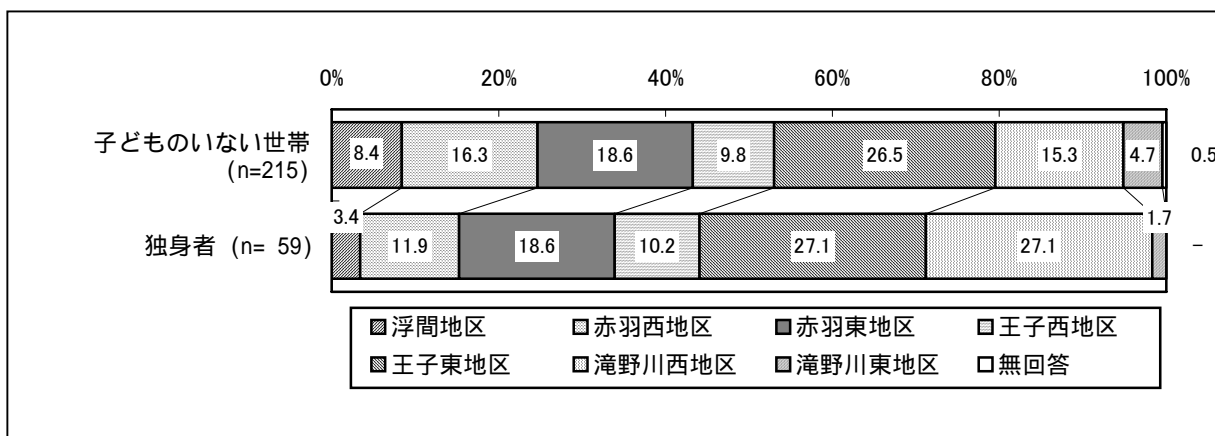


(4) 居住地区

居住地区をみると、子どものいない世帯では「王子東地区」が最も多く26.5%、次いで「赤羽東地区」が18.6%、「赤羽西地区」が16.3%、「滝野川西地区」が15.3%と続いている。

独身者では「王子東地区」「滝野川西地区」が最も多くともに27.1%、次いで「赤羽東地区」が18.6%、「赤羽西地区」が11.9%と続いている。

居住地区

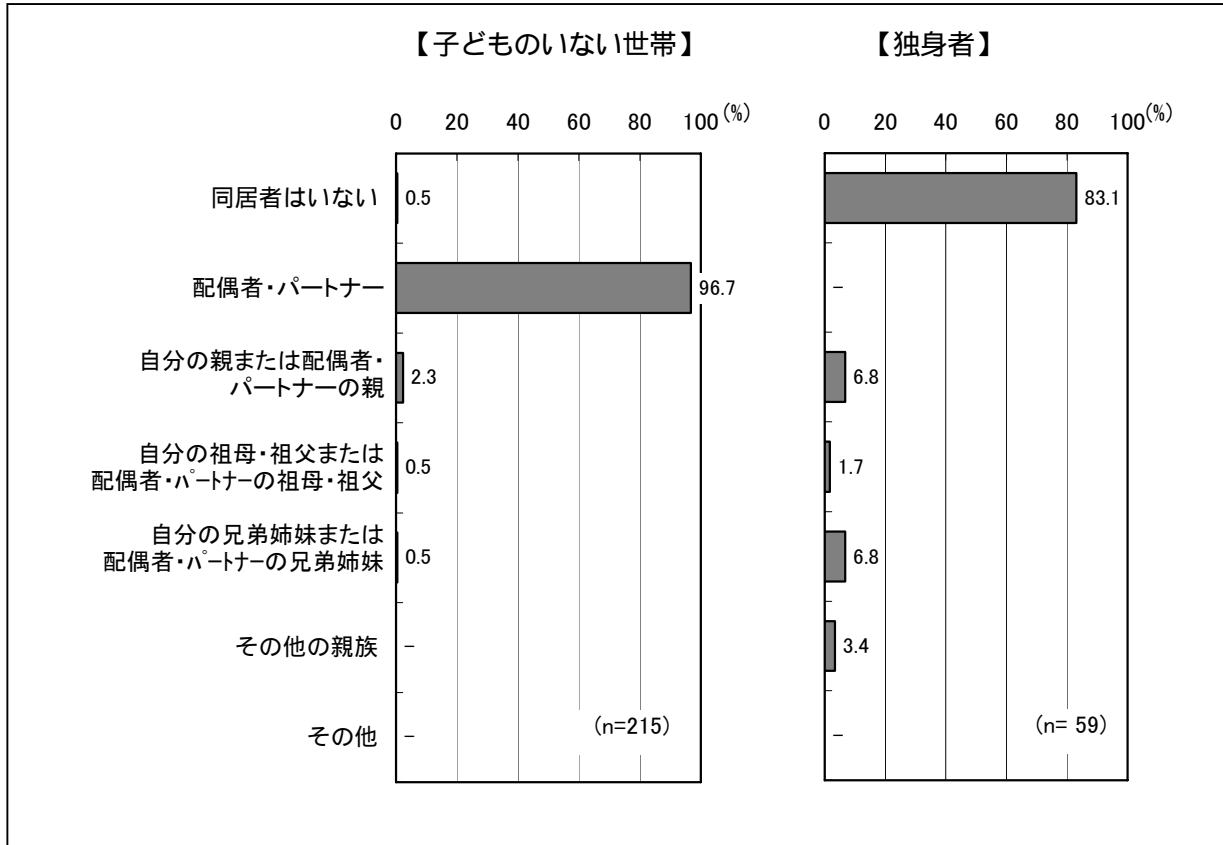


2. 家族および生活全般について

(1) 同居家族

同居家族をみると、子どものいない世帯では「配偶者・パートナー（単身赴任などで別居も含む）」が最も多く96.7%、独身者では「同居者はいない」が最も多く83.1%となっている。

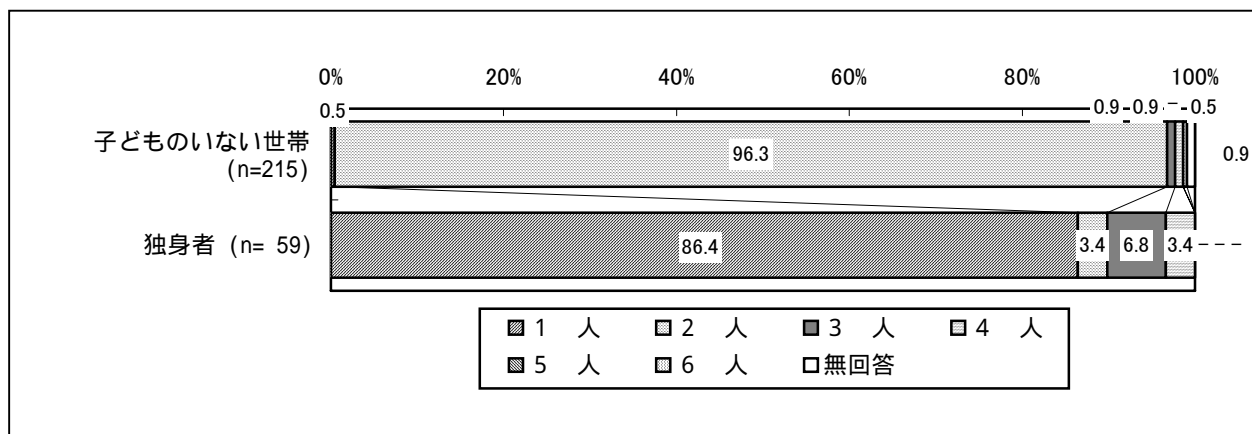
同居家族（複数回答）



(2) 家族人数

家族人数をみると、子どものいない世帯では「2人」が最も多く96.3%、独身者では「1人」が最も多く86.4%となっている。

家族人数

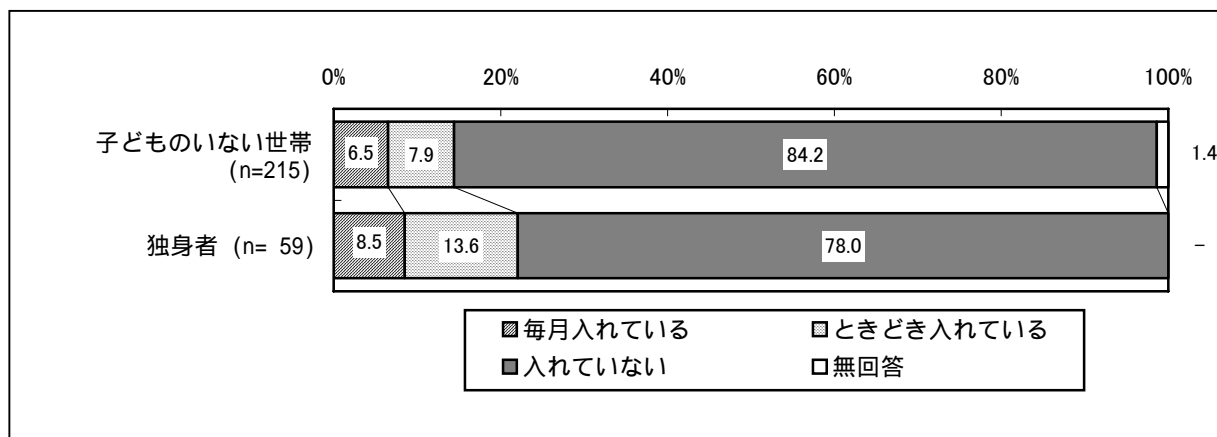


(4) 親への生活費援助(仕送り等)

親への生活費援助(仕送り等)をみると、子どものいない世帯では「入れていない」が最も多く84.2%、次いで「ときどき入れている」が7.9%、「毎月入れている」が6.5%となっている。

独身者でも「入れていない」が最も多く78.0%、次いで「ときどき入れている」が13.6%、「毎月入れている」が8.5%となっている。

親への生活費援助(仕送り等)

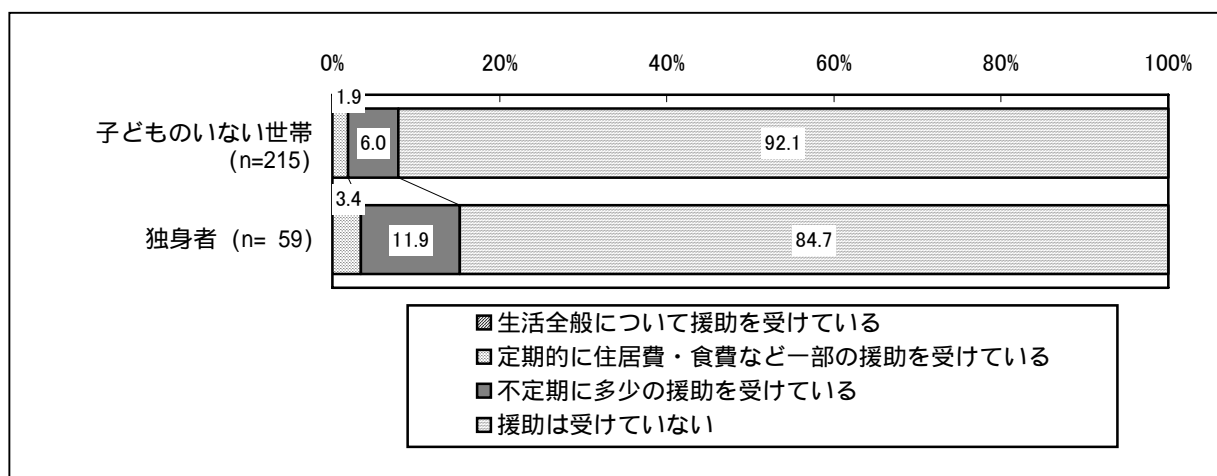


(5) 親からの生活費援助(仕送り等)

親からの生活費援助(仕送り等)をみると、子どものいない世帯では「援助は受けていない」が最も多く92.1%、次いで「不定期に多少の援助を受けている」が6.0%、「定期的に住居費・食費など一部の援助を受けている」が1.9%となっている。

独身者でも「援助は受けていない」が最も多く84.7%、次いで「不定期に多少の援助を受けている」が11.9%、「定期的に住居費・食費など一部の援助を受けている」が3.4%となっている。

親からの生活費援助(仕送り等)

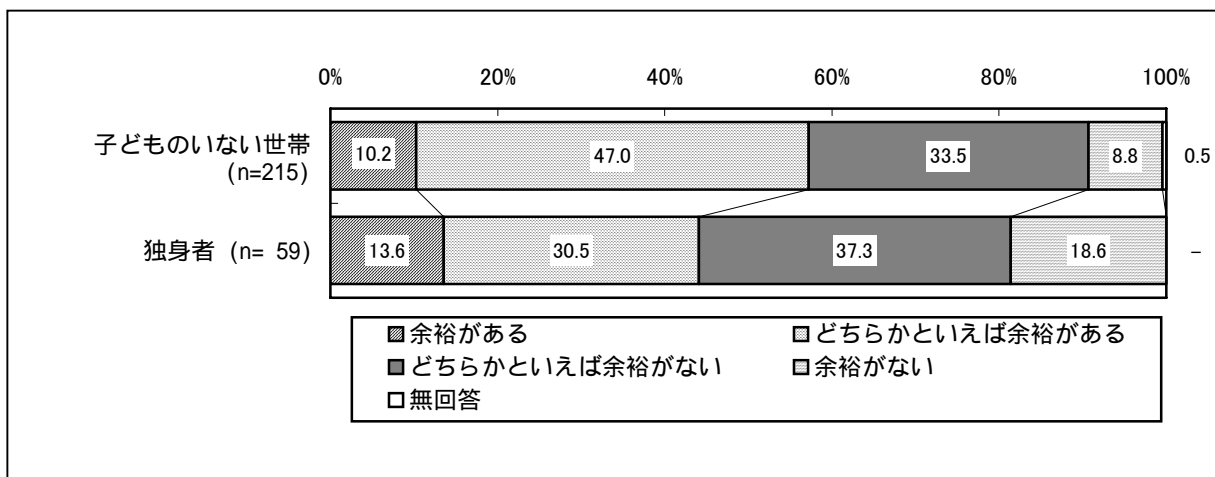


(6) 経済的な余裕

経済的な余裕をみると、子どものいない世帯では“余裕がある”が57.2%（「余裕がある」10.2% + 「どちらかといえば余裕がある」47.0%），“余裕がない”が42.3%（「どちらかといえば余裕がない」33.5% + 「余裕がない」8.8%）となっている。

独身者では“余裕がある”が44.1%（「余裕がある」13.6% + 「どちらかといえば余裕がある」30.5%），“余裕がない”が55.9%（「どちらかといえば余裕がない」37.3% + 「余裕がない」18.6%）となっている。

経済的な余裕



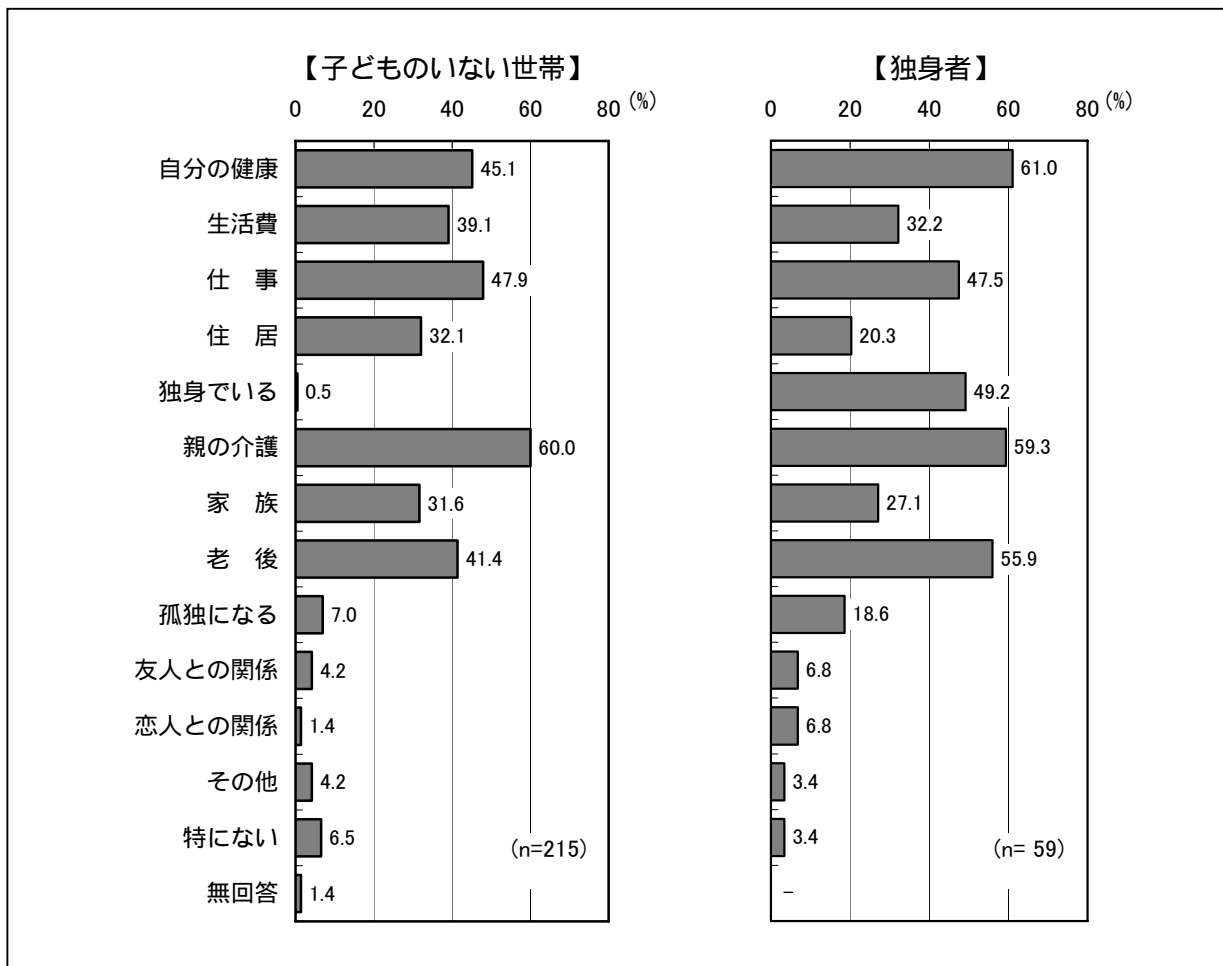
3. 将来への不安、結婚、子育てについて

(1) 将来の不安

将来の不安をみると、子どものいない世帯では「親の介護」が最も多く60.0%、次いで「仕事」が47.9%、「自分の健康」が45.1%、「老後」が41.4%と続いている。

独身者では「自分の健康」が最も多く61.0%、次いで「親の介護」が59.3%、「老後」が55.9%、「独身である」が49.2%と続いている。

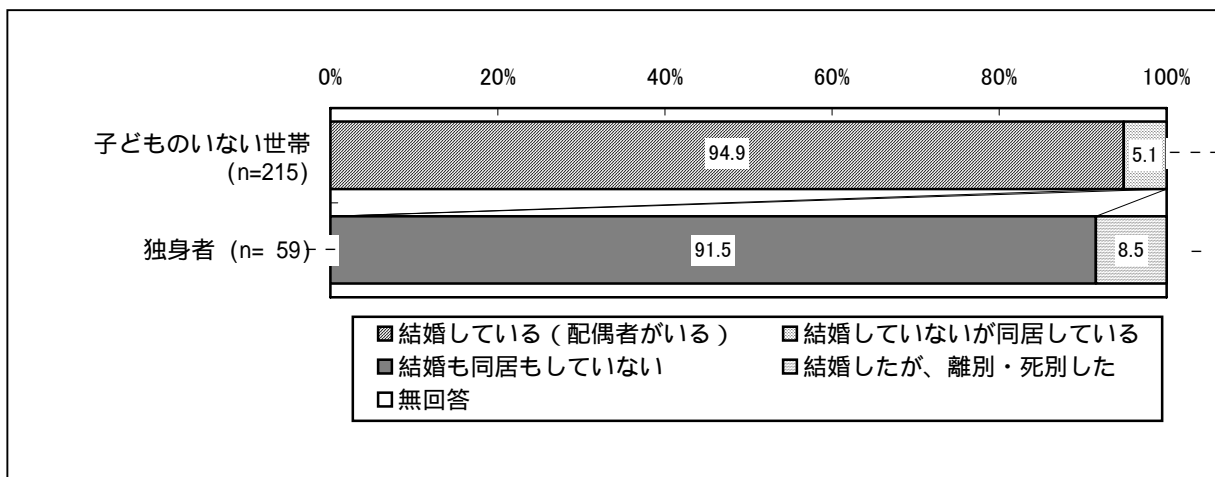
将来の不安（複数回答）



(2) 結婚の有無

結婚の有無をみると、子どものいない世帯では「結婚している(配偶者がいる)」が最も多く94.9%、独身者では、「結婚も同居もしていない」が最も多く91.5%となっている。

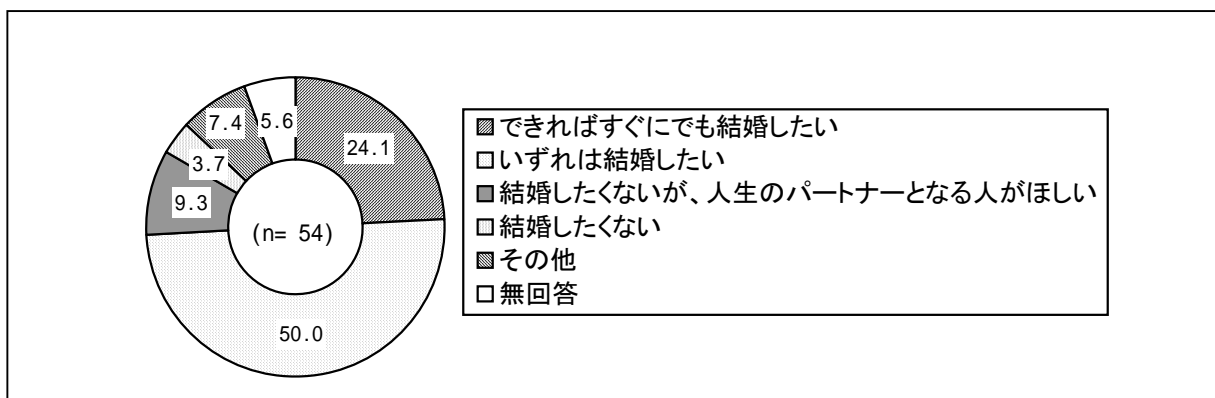
結婚の有無



(3) 結婚についての考え方(独身者が対象)

「結婚も同居もしていない」と回答した人の結婚についての考え方をみると、「いずれは結婚したい」が最も多く50.0%、次いで「できればすぐにでも結婚したい」が24.1%、「結婚したくないが、人生のパートナーとなる人がほしい」が9.3%、「結婚したくない」が3.7%となっている。

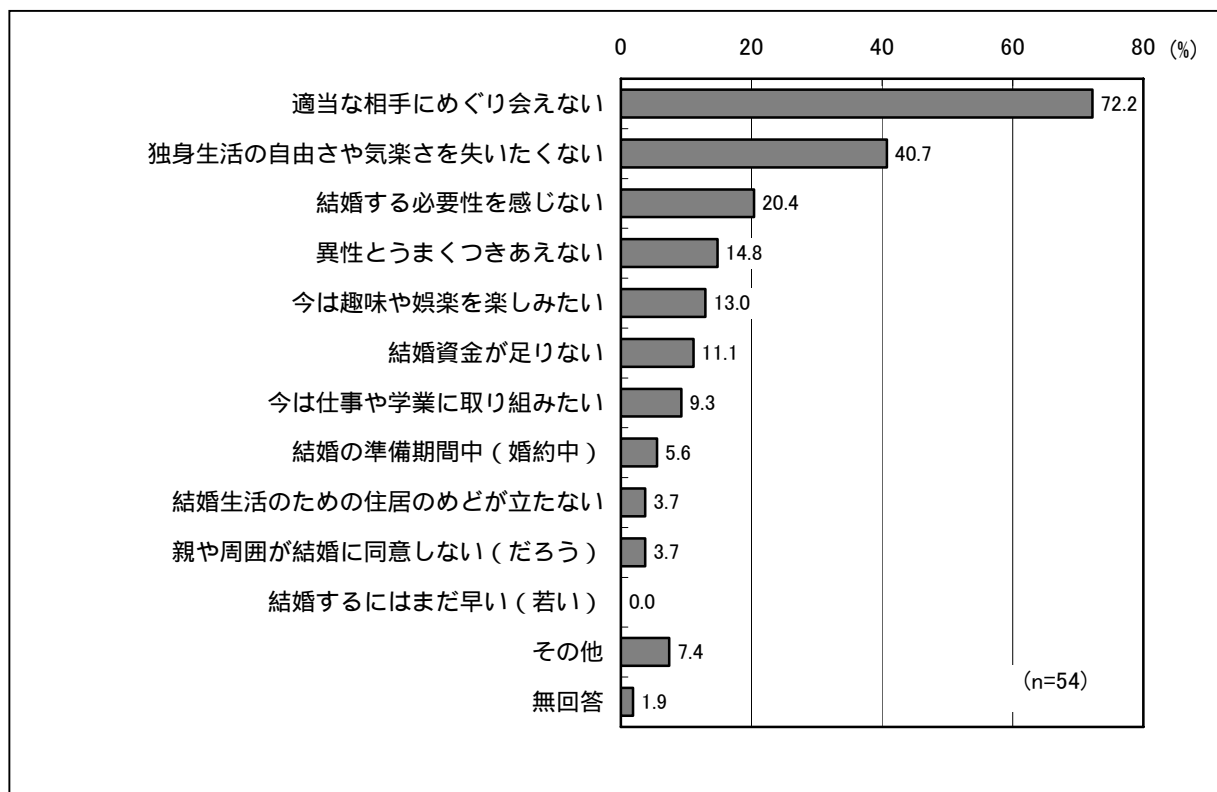
結婚についての考え方



(4) 結婚も同居もしていない理由(独身者が対象)

「結婚も同居もしていない」と回答した人のその理由をみると、「適当な相手にめぐり会えない」が最も多く72.2%、次いで「独身生活の自由さや気楽さを失いたくない」が40.7%、「結婚する必要性を感じない」が20.4%、「異性とうまくつきあえない」が14.8%、「今は趣味や娯楽を楽しみたい」が13.0%と続いている。

結婚も同居もしていない理由(複数回答)

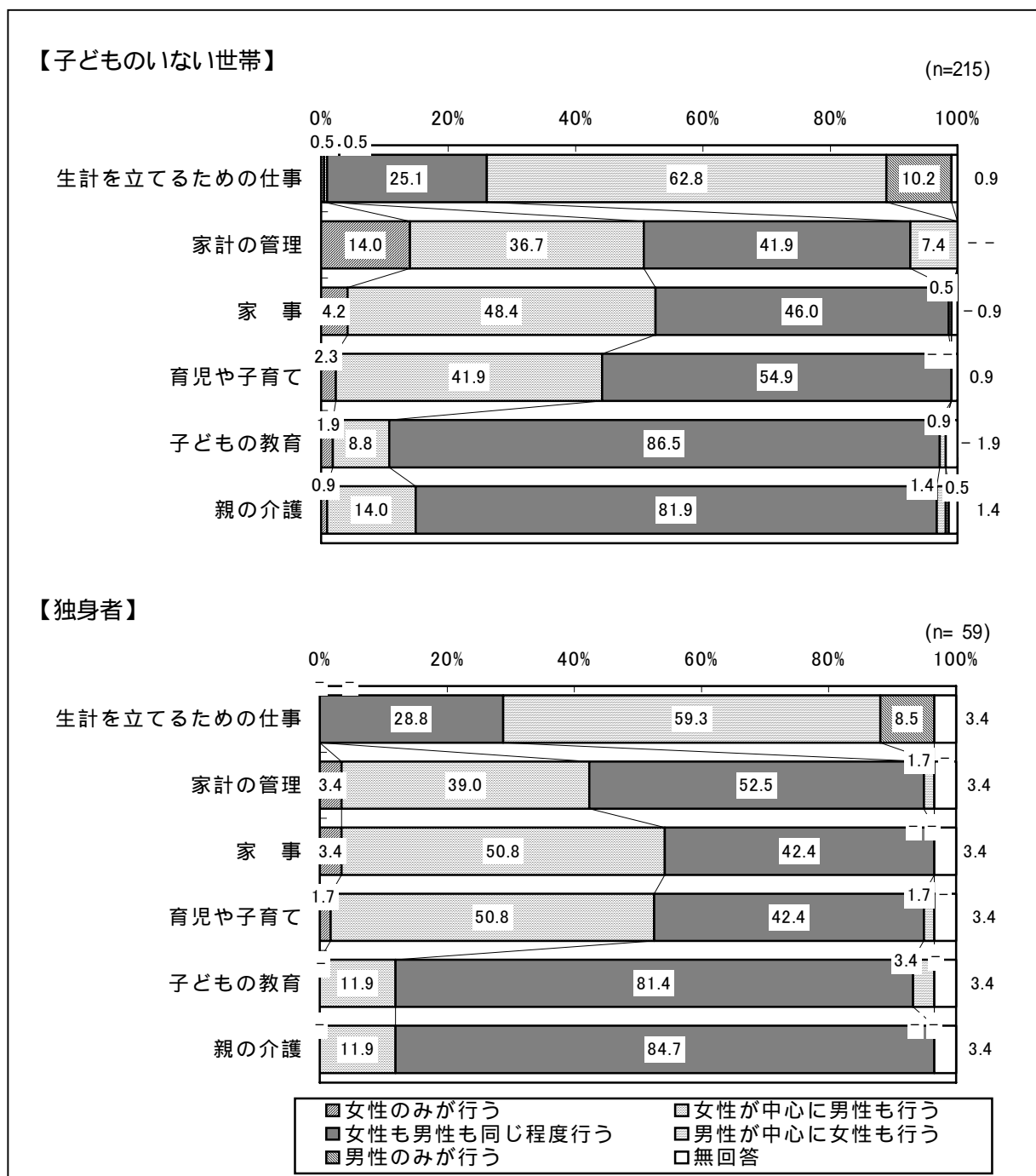


(5) 配偶者・パートナーとの役割分担

配偶者・パートナーとの役割分担をみると、子どものいない世帯では“生計を立てるための仕事”は「男性が中心に女性も行う」が最も多く62.8%となっている。“家計の管理”“育児や子育て”“子どもの教育”“親の介護”は、「女性も男性も同じ程度行う」が最も多くそれぞれ41.9%、54.9%、86.5%、81.9%となっており、特に“子どもの教育”“親の介護”は割合が高くなっている。“家事”は「女性が中心に男性も行う」が最も多く48.4%、「女性も男性も同じ程度行う」(46.0%)もほぼ同じ割合を示している。

独身者でも“生計を立てるための仕事”は「男性が中心に女性も行う」が最も多く59.3%となっている。“家計の管理”“子どもの教育”“親の介護”は、「女性も男性も同じ程度行う」が最も多くそれぞれ52.5%、81.4%、84.7%となっており、特に“子どもの教育”“親の介護”は割合が高くなっている。“家事”“育児や子育て”は「女性が中心に男性も行う」が最も多くともに50.8%となっている。

配偶者・パートナーとの役割分担

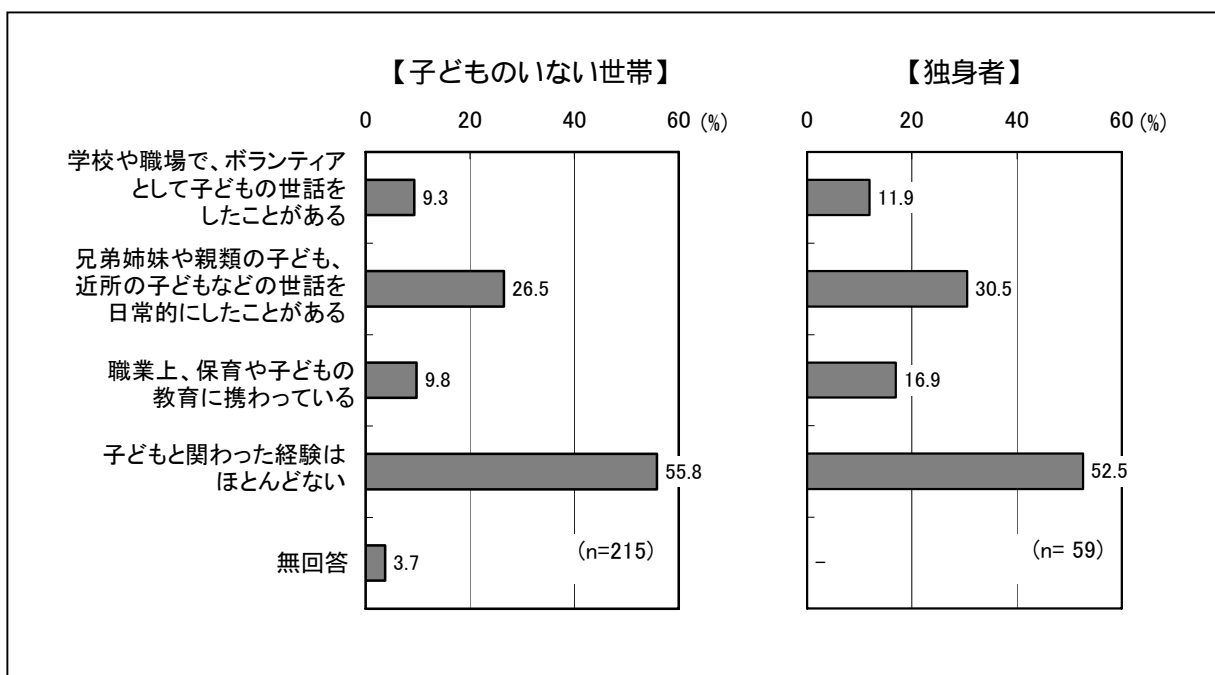


(6) 子どもと関わったことの有無

子どもと関わったことの有無をみると、子どものいない世帯では「子どもと関わった経験はほとんどない」が最も多く55.8%、次いで「兄弟姉妹や親類の子ども、近所の子どもなどの世話を日常的にしたことがある」が26.5%、「職業上、保育や子どもの教育に携わっている(携わったことがある)」が9.8%、「学校や職場で、ボランティアとして子どもの世話をしたことがある」が9.3%となっている。

独身者でも「子どもと関わった経験はほとんどない」が最も多く52.5%、次いで「兄弟姉妹や親類の子ども、近所の子どもなどの世話を日常的にしたことがある」が30.5%、「職業上、保育や子どもの教育に携わっている(携わったことがある)」が16.9%、「学校や職場で、ボランティアとして子どもの世話をしたことがある」が11.9%となっている。

子どもと関わったことの有無(複数回答)

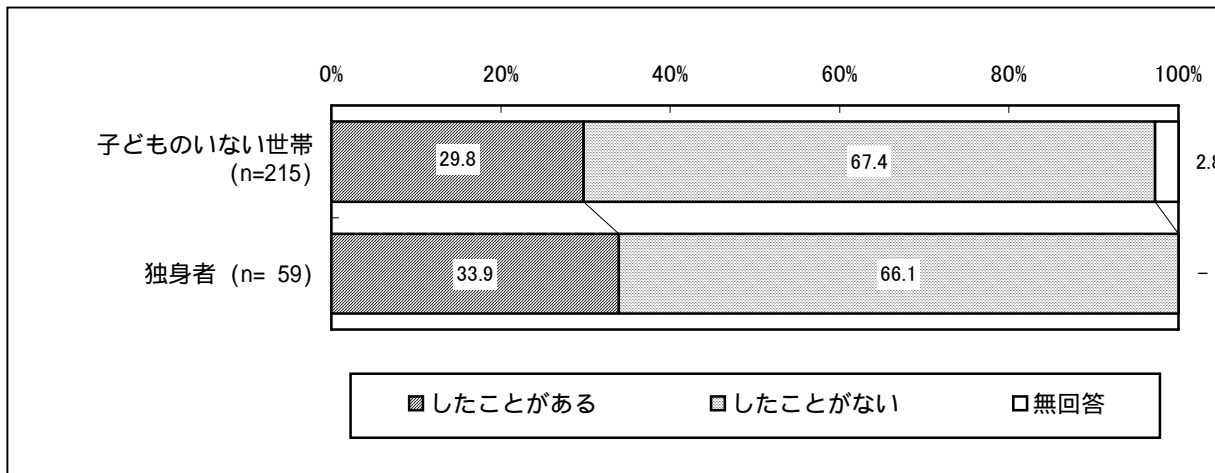


(7) 赤ちゃんにミルクを飲ませたり、オムツを変えたりしたことの有無

赤ちゃんにミルクを飲ませたり、オムツを変えたりしたことの有無をみると、子どものいない世帯では「したことがない」が67.4%、「したことがある」が29.8%となっている。

独身者では「したことがない」が66.1%、「したことがある」が33.9%となっている。

赤ちゃんにミルクを飲ませたり、オムツを変えたりしたことの有無

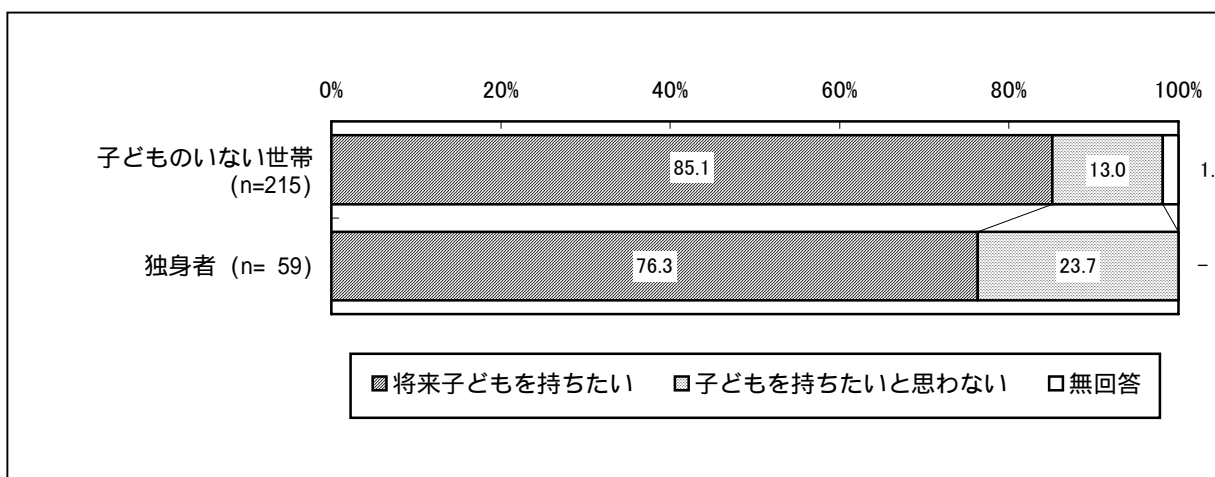


(8) 将来子どもをもうける希望

将来子どもを持ちたいかどうかをみると、子どものいない世帯では「将来子どもを持ちたい」が85.1%、「子どもを持ちたいと思わない」が13.0%となっている。

独身者では「将来子どもを持ちたい」が76.3%、「子どもを持ちたいと思わない」が23.7%となっている。

将来子どもをもうける希望

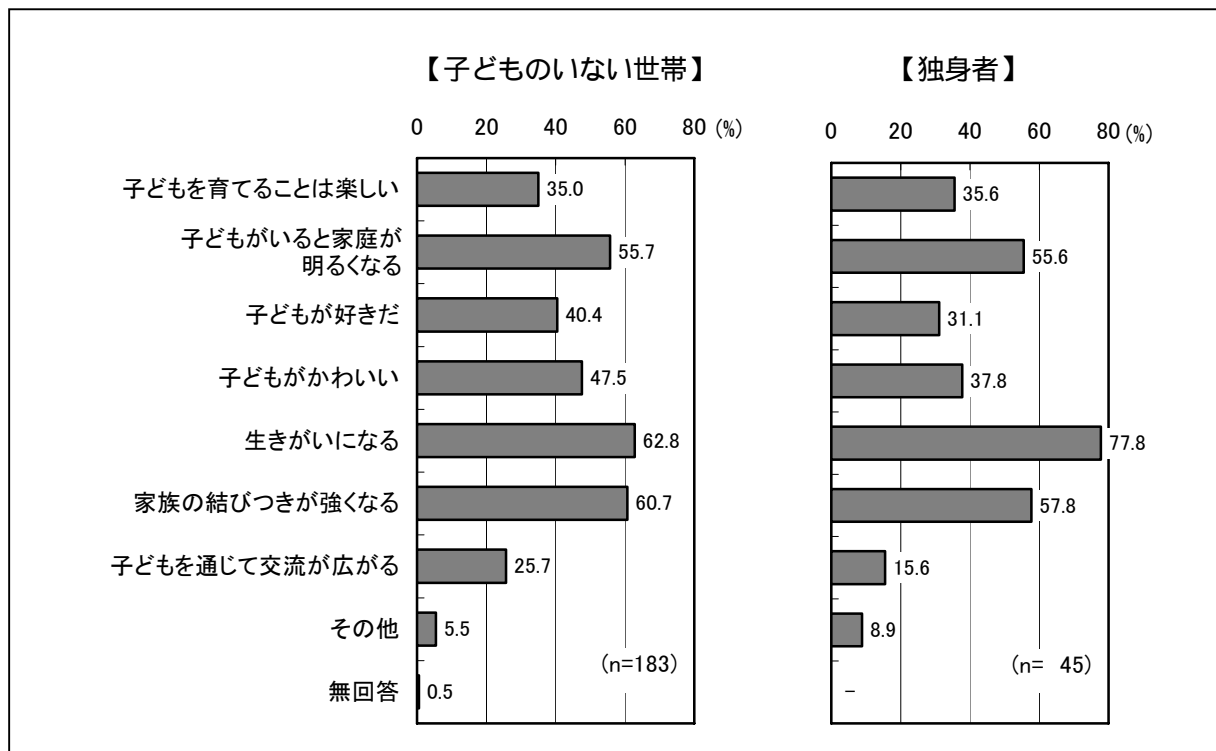


(9) 将来子どもをもうけたい理由

「将来子どもを持ちたい」と回答した人の理由をみると、子どものいない世帯では「生きがいになる」が最も多く62.8%、次いで「家族の結びつきが強くなる」が60.7%、「子どもがいると家庭が明るくなる」が55.7%、「子どもがかわいい」が47.5%と続いている。

独身者でも「生きがいになる」が最も多く77.8%、次いで「家族の結びつきが強くなる」が57.8%、「子どもがいると家庭が明るくなる」が55.6%、「子どもがかわいい」が37.8%と続いている。

将来子どもをもうけたい理由（複数回答）

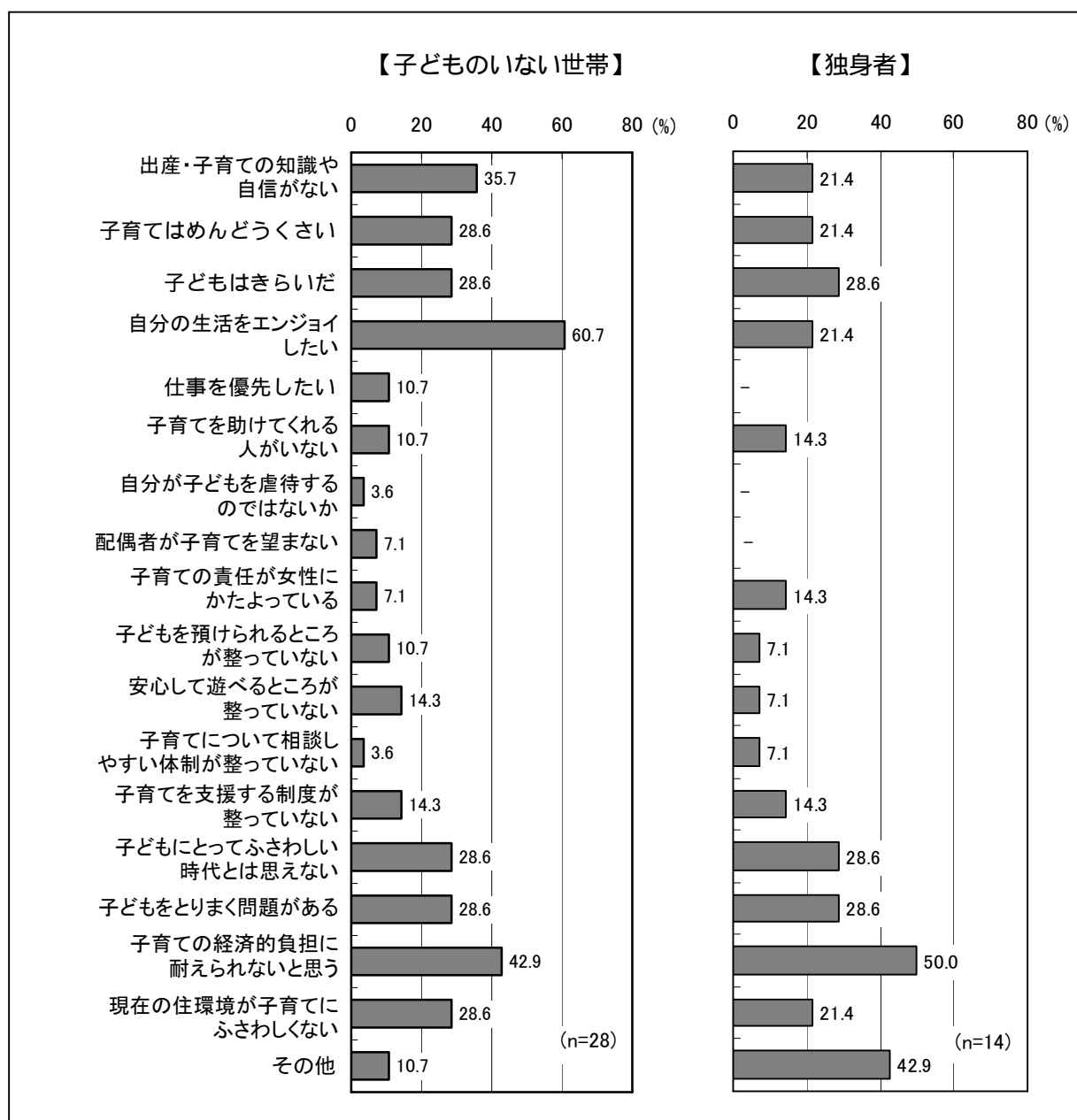


(10) 将来子どもをもうけたいと思わない理由

「子どもを持ちたいと思わない」と回答した人の理由をみると、子どものいない世帯では「自分の生活をエンジョイしたい」が最も多く60.7%、次いで「子育ての経済的負担に耐えられないと思う」が42.9%、「出産・子育ての知識や自信がない」が35.7%と続いている。

独身者では「子育ての経済的負担に耐えられないと思う」が最も多く50.0%、次いで「子どもはきれいだ」「受験競争や企業社会など、今の世の中は子どもにとってふさわしい時代とは思えない」「いじめや差別・不登校など、子どもをとりまく問題がある」がともに28.6%と続いている。

将来子どもをもうけたいと思わない理由（複数回答）

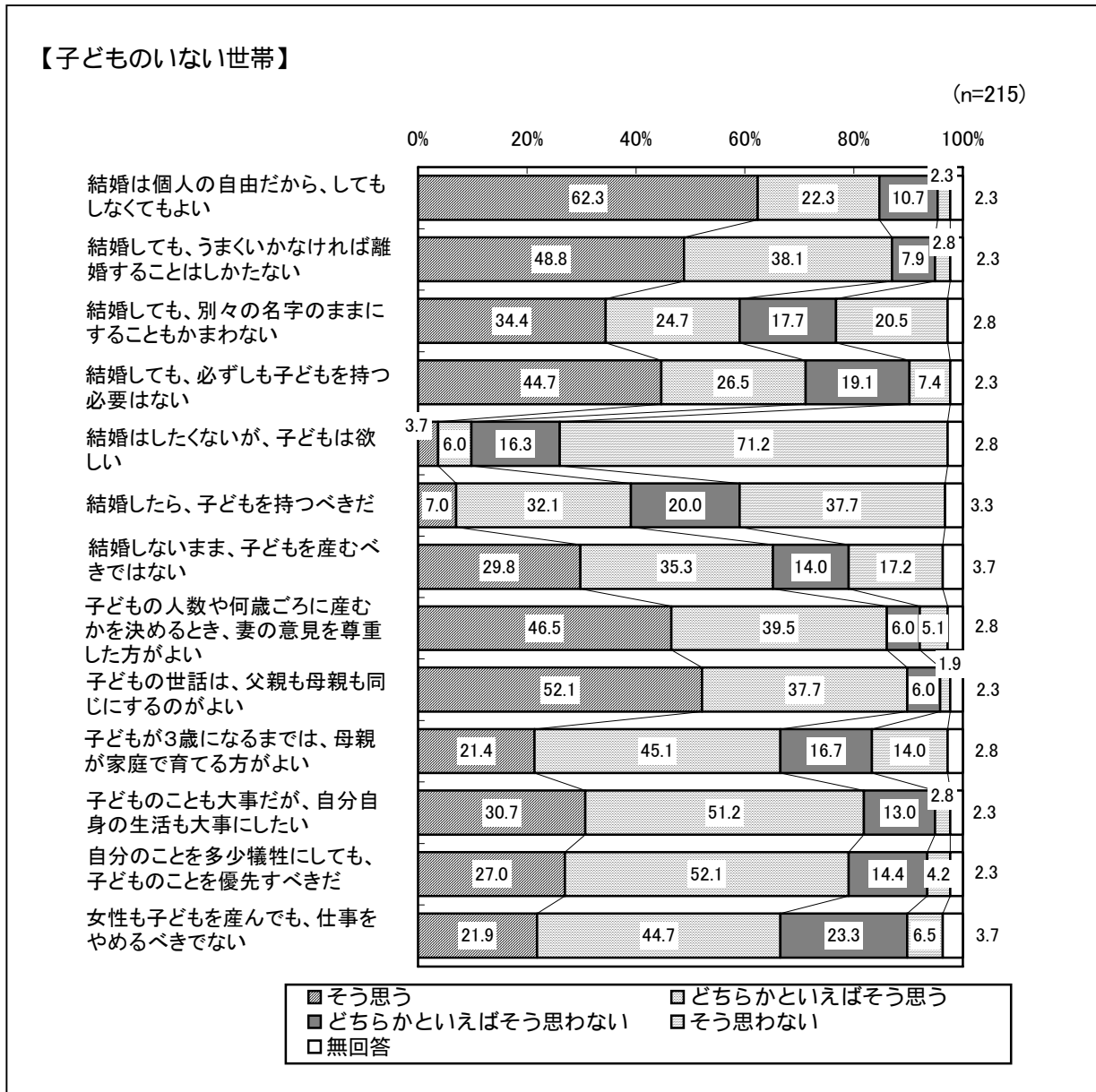


(11) 結婚や子育てについての考え方

結婚や子育てについての考え方について、子どものいない世帯をみると、「そう思う」という回答は「結婚は個人の自由だから、してもしなくてもよい」が最も多く 62.3%、次いで「子どもの世話は、父親も母親も同じにするのがよい」が 52.1%、「結婚しても、うまくいかなければ離婚することはしかならない」が 48.8%と続いている。

一方、「そう思わない」という回答は「結婚はしたくないが、子どもは欲しい」が最も多く 71.2%、次いで「結婚したら子どもを持つべきだ」が 37.7%、「結婚しても、別々の名字のままにすることもかまわない」が 20.5%と続いている。

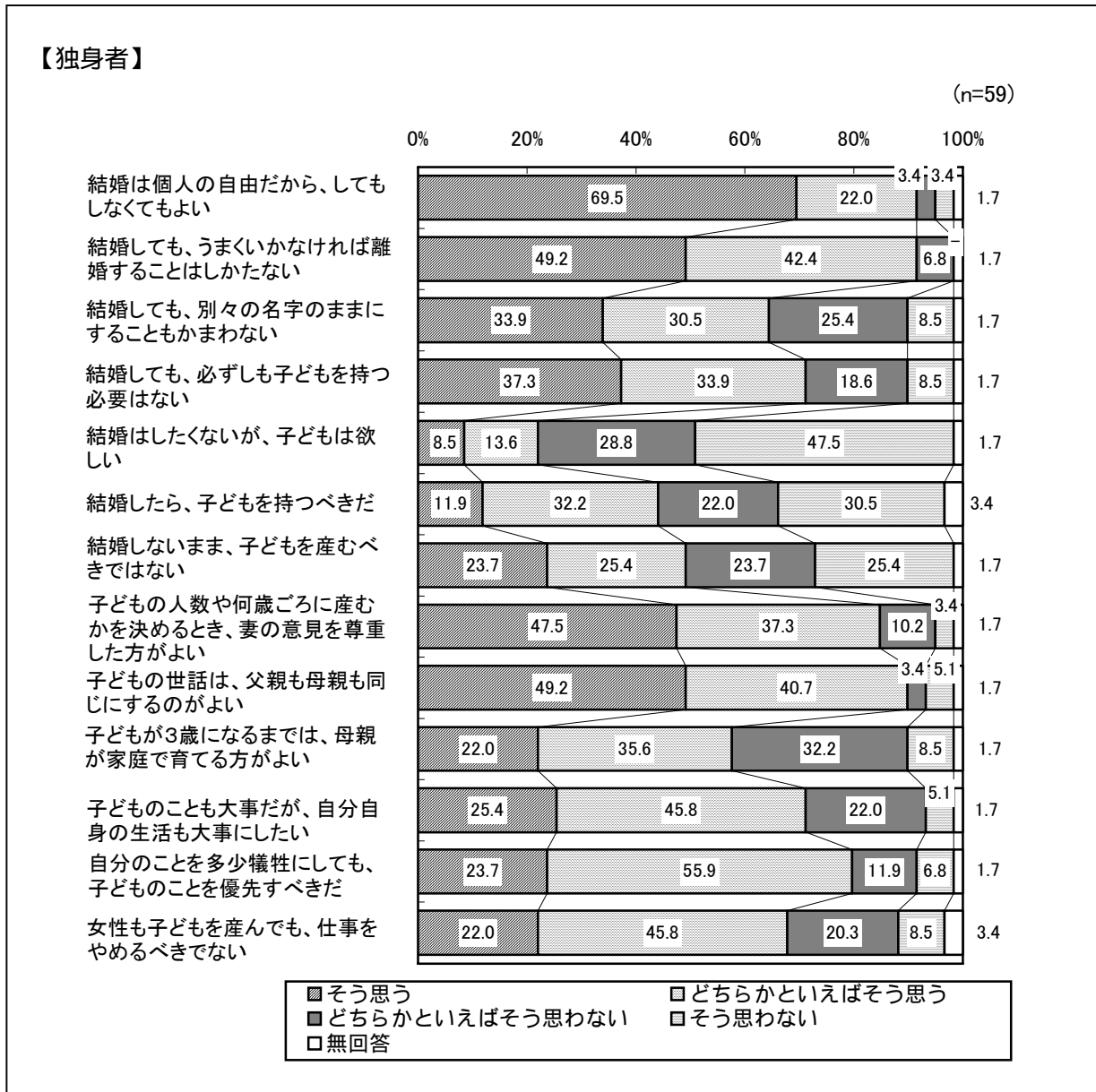
結婚や子育てについての考え方



結婚や子育てについての考え方について、独身者をみると、「そう思う」という回答は「結婚は個人の自由だから、してもしなくてもよい」が最も多く69.5%、次いで「結婚しても、うまくいかなければ離婚することはしかたない」「子どもの世話は、父親も母親も同じにするのがよい」がともに49.2%、「子どもの人数や何歳ごろに産むかを決めるとき、妻の意見を尊重したほうがよい」が47.5%と続いている。

一方、「そう思わない」という回答は「結婚はしたくないが、子どもは欲しい」が最も多く47.5%、次いで「結婚したら子どもを持つべきだ」が30.5%、「結婚しないまま、子どもを産むべきではない」が25.4%と続いている。

結婚や子育てについての考え方

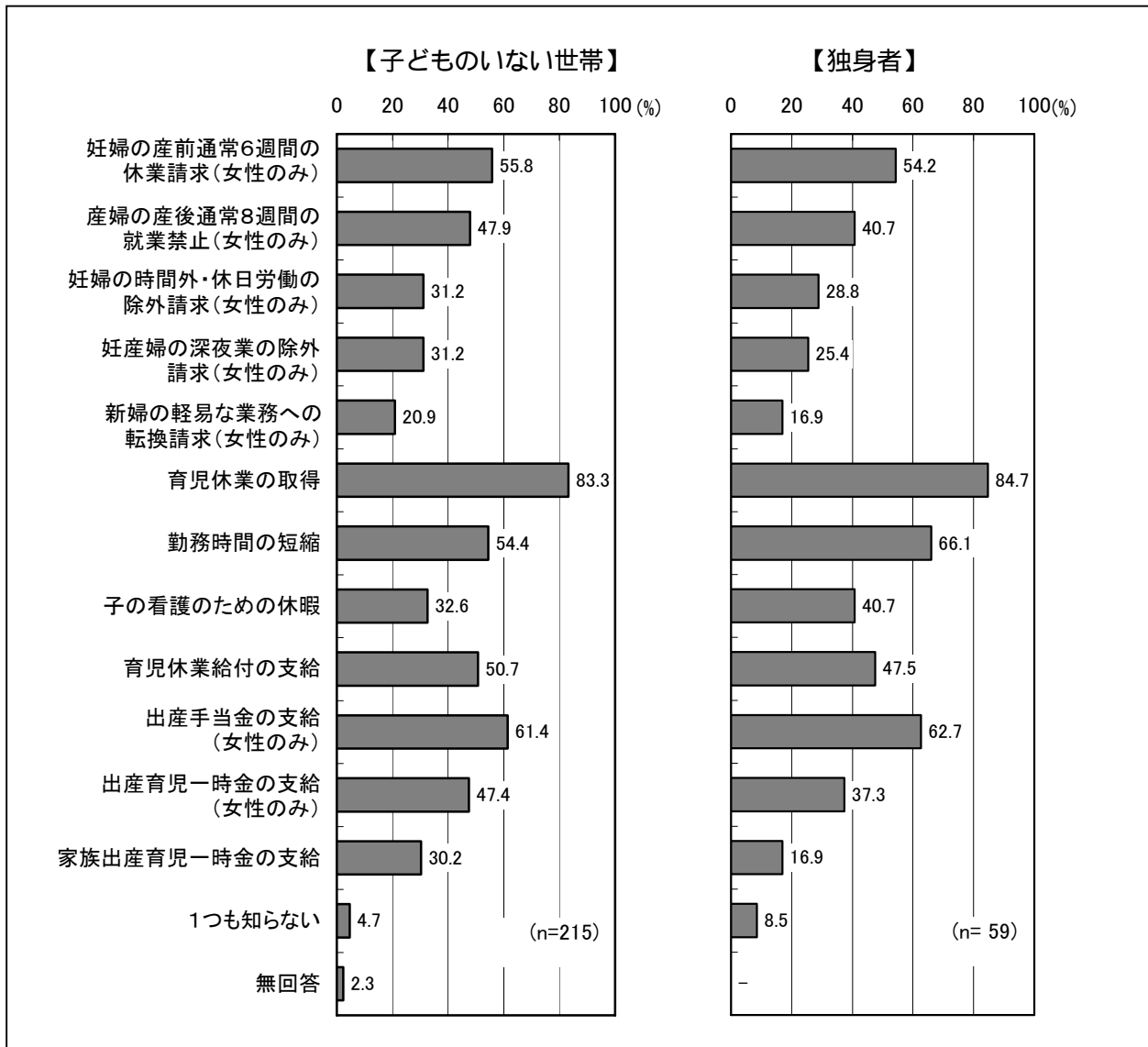


4. 労働基準法・社会保険等支援の認知状況について

労働基準法・社会保険等支援の認知状況をみると、子どものいない世帯では「育児休業の取得」が最も多く83.3%、次いで「出産手当金の支給（女性のみ）」が61.4%、「妊婦の産前通常6週間の休業請求（女性のみ）」が55.8%、「勤務時間の短縮」が54.4%と続いている。

独身者でも「育児休業の取得」が最も多く84.7%、次いで「勤務時間の短縮」が66.1%、「出産手当金の支給（女性のみ）」が62.7%、「妊婦の産前通常6週間の休業請求（女性のみ）」が54.2%と続いている。

労働基準法・社会保険等支援の認知状況（複数回答）



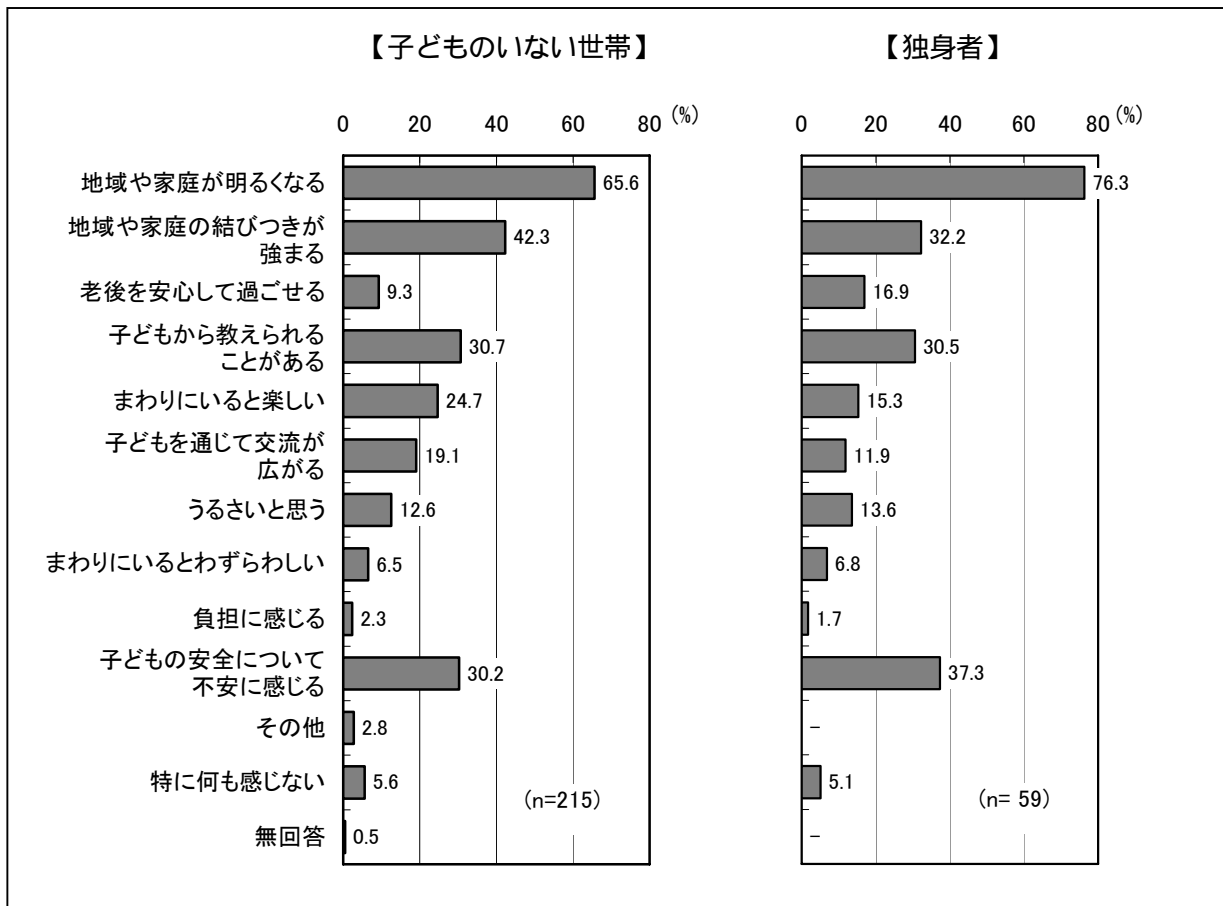
5. 地域交流について

(1) 自分のまわりに子どもがいることについて

自分のまわりに子どもがいることについては、子どものいない世帯では「地域や家庭が明るくなる」が最も多く65.6%、次いで「地域や家庭の結びつきが強まる」が42.3%、「子どもから教えられることがある」が30.7%、「子どもの安全について不安を感じる」が30.2%と続いている。

独身者でも「地域や家庭が明るくなる」が最も多く76.3%、次いで「子どもの安全について不安を感じる」が37.3%、「地域や家庭の結びつきが強まる」が32.2%、「子どもから教えられることがある」が30.5%と続いている。

自分のまわりに子どもがいることについて（複数回答）

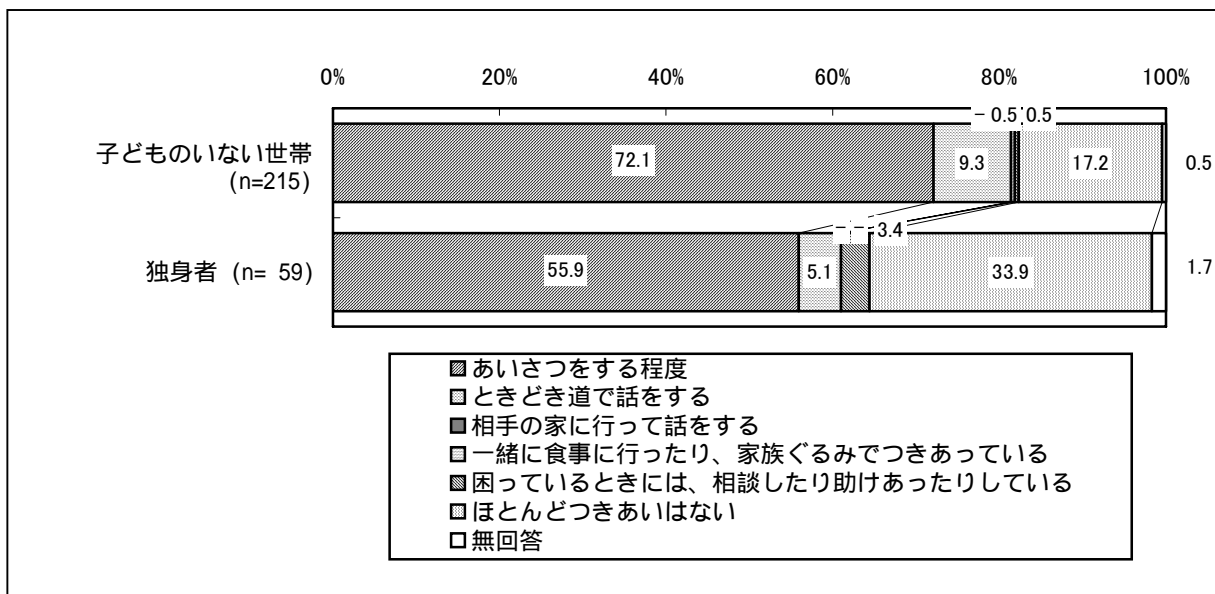


(2) 近所との付き合い

近所との付き合いをみると、子どものいない世帯では「あいさつをする程度」が最も多く 72.1%、次いで「ほとんどつきあいはない」が 17.2%、「ときどき道で話しをする」が 9.3%、「一緒に食事に行ったり、家族ぐるみでつきあっている」「困っているときには、相談したり助け合ったりしている」がともに 0.5%となっている。

独身者でも「あいさつをする程度」が最も多く 55.9%、次いで「ほとんどつきあいはない」が 33.9%、「ときどき道で話しをする」が 5.1%、「困っているときには、相談したり助け合ったりしている」が 3.4%となっている。

近所との付き合い

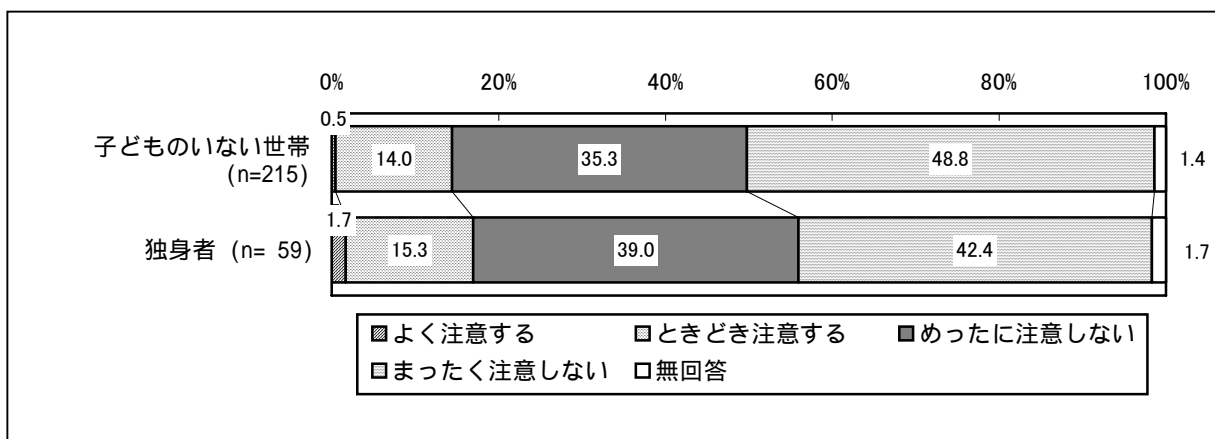


(3) よその子どもへの注意

よその子どもへの注意をみると、子どものいない世帯では「まったく注意しない」が最も多く 48.8%、次いで「めったに注意しない」が 35.3%、「ときどき注意する」が 14.0%、「よく注意する」が 0.5%となっている。

独身者でも「まったく注意しない」が最も多く 42.4%、次いで「めったに注意しない」が 39.0%、「ときどき注意する」が 15.3%、「よく注意する」が 1.7%となっている。

よその子どもへの注意

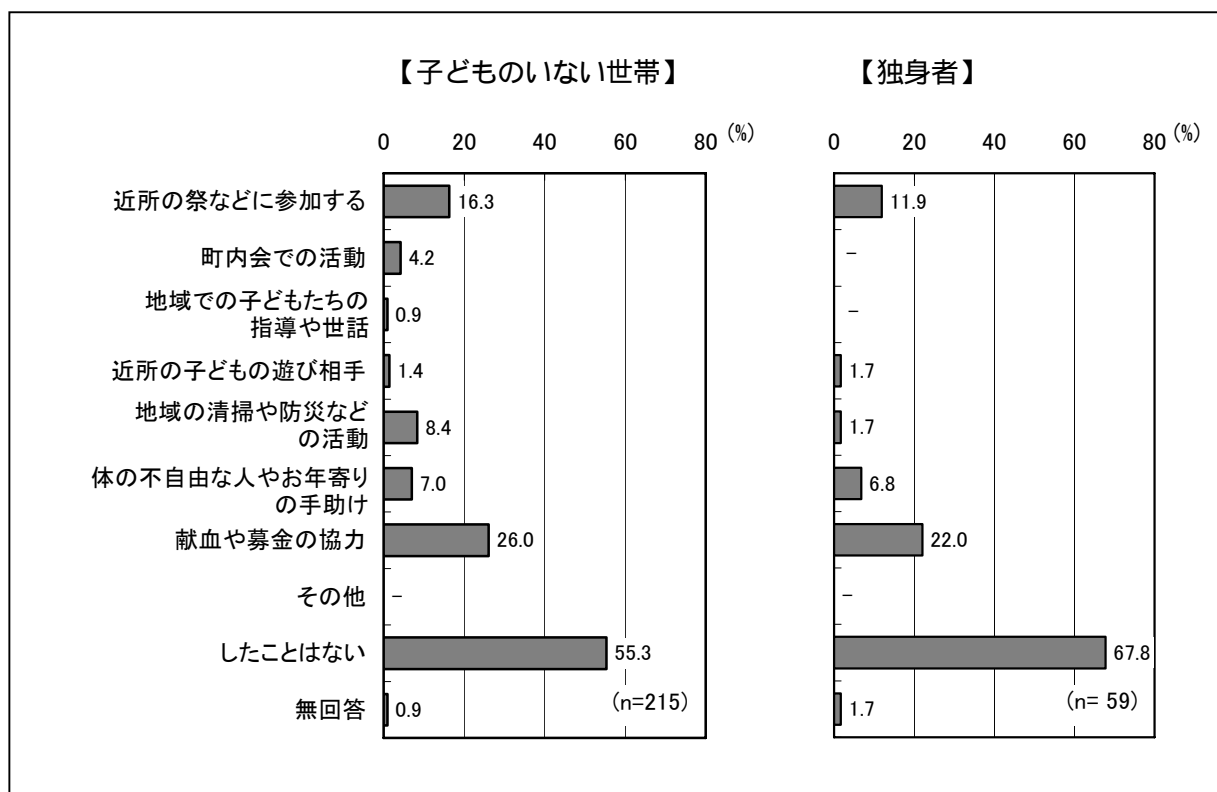


(4) この1年間で地域活動をしたことの有無

この1年間で地域活動をしたことの有無をみると、子どものいない世帯では「したことはない」が最も多く55.3%、次いで「献血や募金の協力」が26.0%、「近所の祭りなどに参加する」が16.3%、「地域の清掃や防災などの活動」が8.4%と続いている。

独身者でも「したことはない」が最も多く67.8%、次いで「献血や募金の協力」が22.0%、「近所の祭りなどに参加する」が11.9%、「体の不自由な人やお年寄りの手助け」が6.8%と続いている。

この1年間で地域活動をしたことの有無（複数回答）

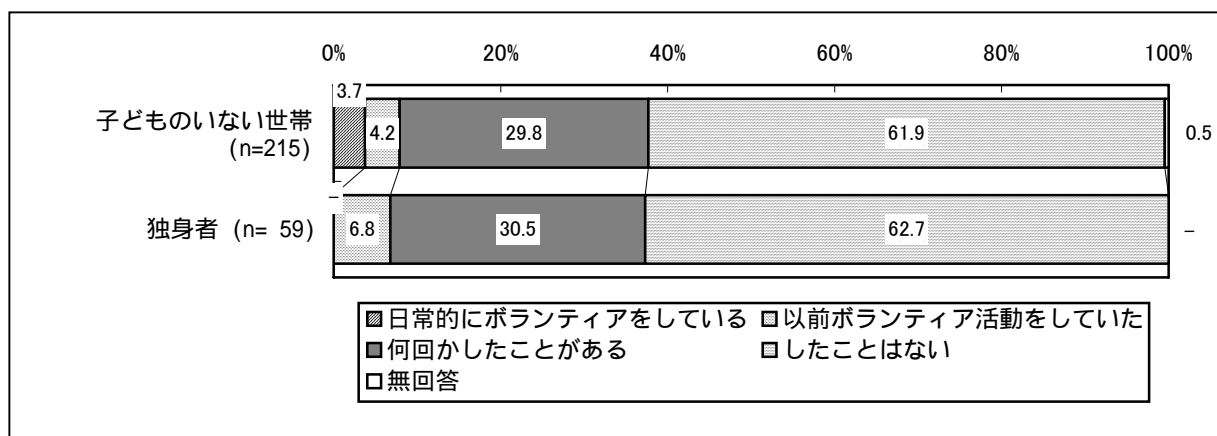


(5) ボランティア活動の有無

ボランティア活動の有無をみると、子どものいない世帯では「したことはない」が最も多く61.9%、次いで「何回かしたことがある」が29.8%、「以前ボランティア活動をしていた」が4.2%、「日常的にボランティアをしている」が3.7%となっている。

独身者でも「したことはない」が最も多く62.7%、次いで「何回かしたことがある」が30.5%、「以前ボランティア活動をしていた」が6.8%となっている。

ボランティア活動の有無

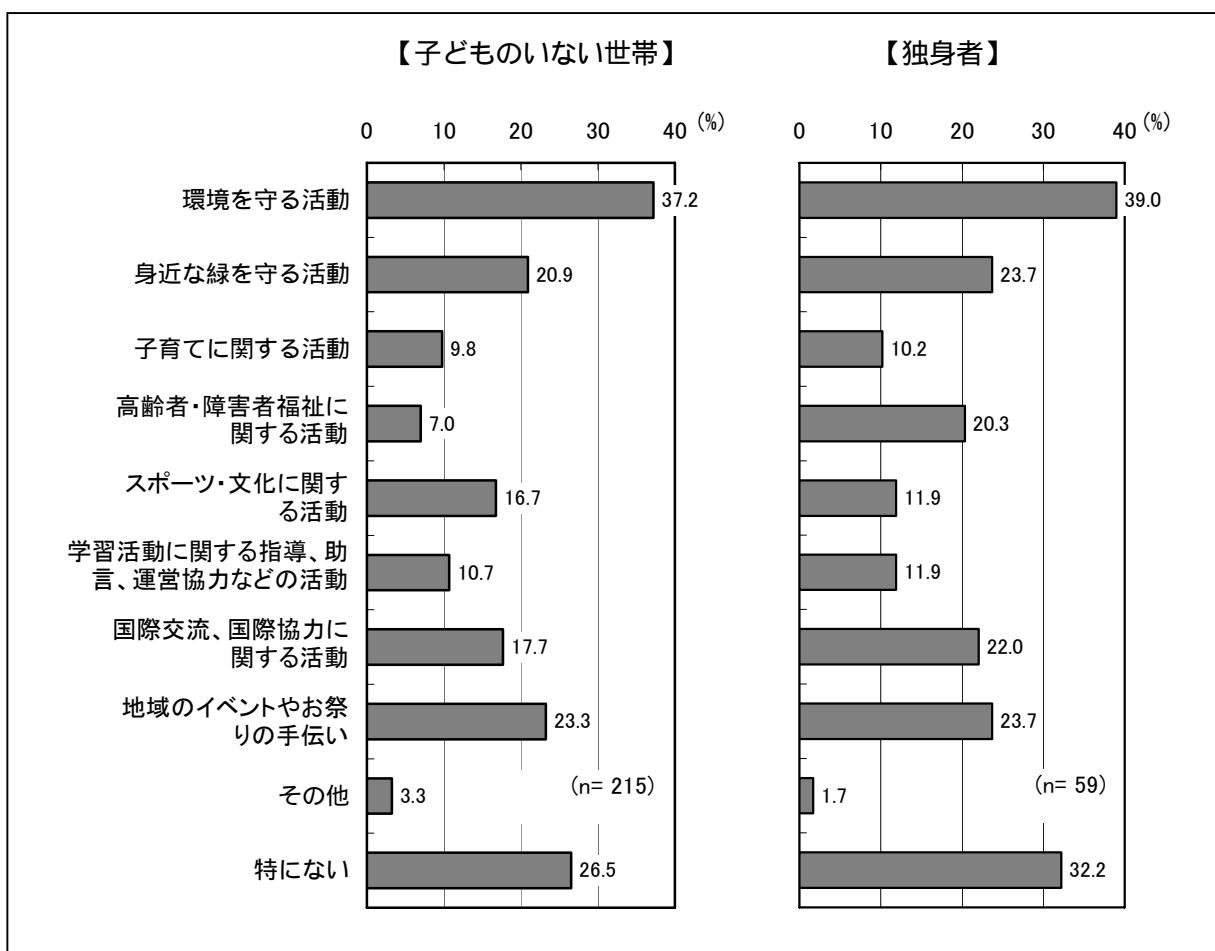


(6) 参加したいボランティア活動

参加したいボランティア活動をみると、子どものいない世帯では「環境を守る活動(清掃美化活動、リサイクル活動など)」が最も多く37.2%、次いで「特にない」が26.5%、「地域のイベントやお祭りの手伝い」が23.3%、「身近な緑を守る活動(花壇づくりなど)」が20.9%、「国際交流、国際協力に関する活動(通訳、外国人を助けるなど)」が17.7%と続いている。

独身者でも「環境を守る活動(清掃美化活動、リサイクル活動など)」が最も多く39.0%、次いで「特にない」が32.2%、「身近な緑を守る活動(花壇づくりなど)」「地域のイベントやお祭りの手伝い」がともに23.7%、「国際交流、国際協力に関する活動(通訳、外国人を助けるなど)」が22.0%と続いている。

参加したいボランティア活動(複数回答)



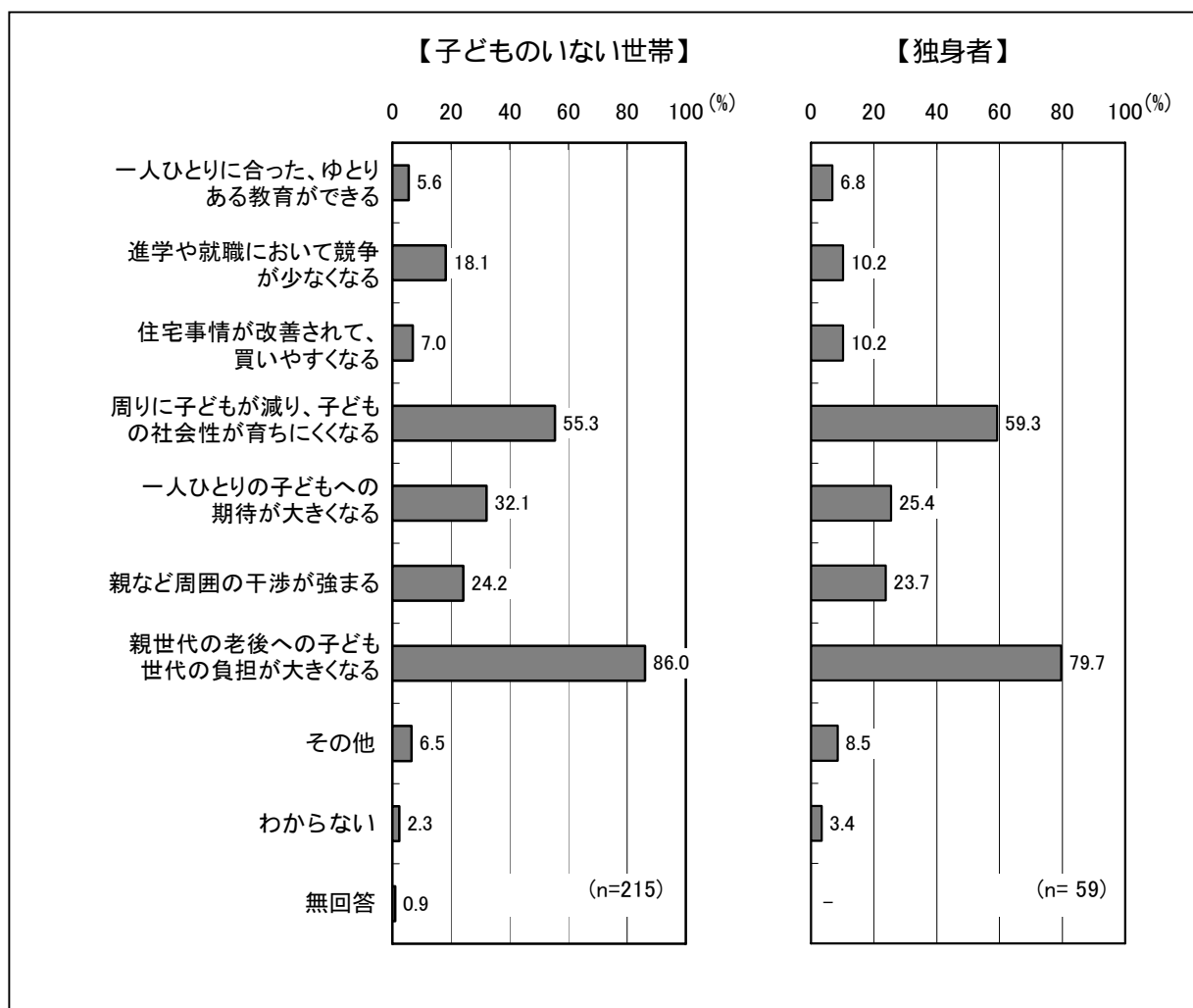
6. 少子社会に対する考え方について

(1) 少子社会が個人の生活に与える影響

少子社会が個人の生活に与える影響をみると、子どものいない世帯では「親世代の老後への子ども世代の負担が大きくなる」が最も多く 86.0%、次いで「周りに子どもが減り、子どもの社会性が育ちにくくなる」が 55.3%、「一人ひとりの子どもへの期待が大きくなる」が 32.1%、「親など周囲の干渉が強まる」が 24.2%と続いている。

独身者でも「親世代の老後への子ども世代の負担が大きくなる」が最も多く 79.7%、次いで「周りに子どもが減り、子どもの社会性が育ちにくくなる」が 59.3%、「一人ひとりの子どもへの期待が大きくなる」が 25.4%、「親など周囲の干渉が強まる」が 23.7%と続いている。

少子社会が個人の生活に与える影響（複数回答）

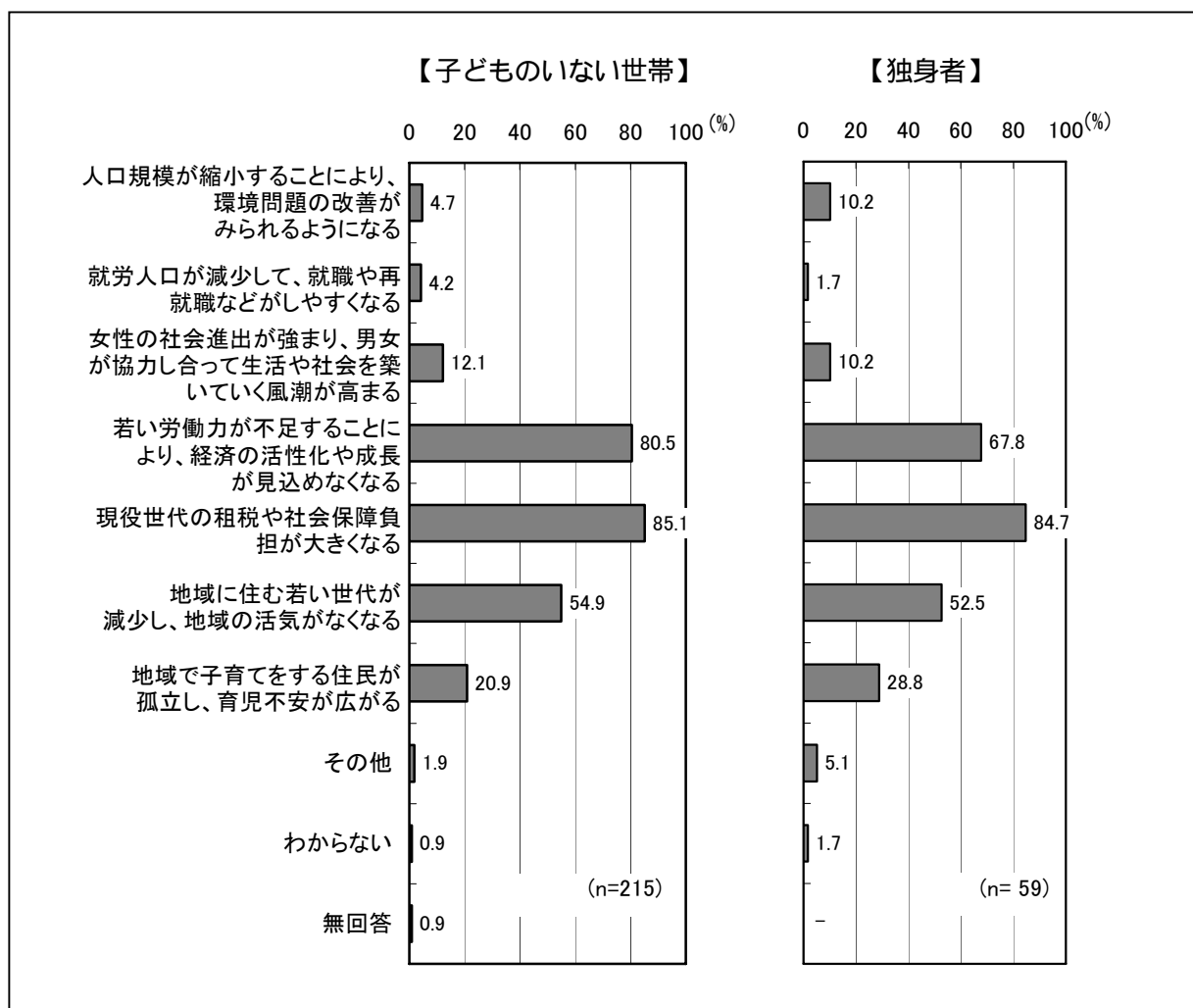


(2) 少子社会が国や地域社会に与える影響

少子社会が国や地域社会に与える影響をみると、子どものいない世帯では「現役世代の租税や社会保障負担(年金や医療費など)が大きくなる」が最も多く85.1%、次いで「若い労働力が不足することにより、経済の活性化や成長が見込めなくなる」が80.5%、「地域に住む若い世代が減少し、地域の活気がなくなる」が54.9%、「地域で子育てをする住民が孤立し、育児不安が広がる」が20.9%と続いている。

独身者でも「現役世代の租税や社会保障負担(年金や医療費など)が大きくなる」が最も多く84.7%、次いで「若い労働力が不足することにより、経済の活性化や成長が見込めなくなる」が67.8%、「地域に住む若い世代が減少し、地域の活気がなくなる」が52.5%、「地域で子育てをする住民が孤立し、育児不安が広がる」が28.8%と続いている。

少子社会が国や地域社会に与える影響(複数回答)



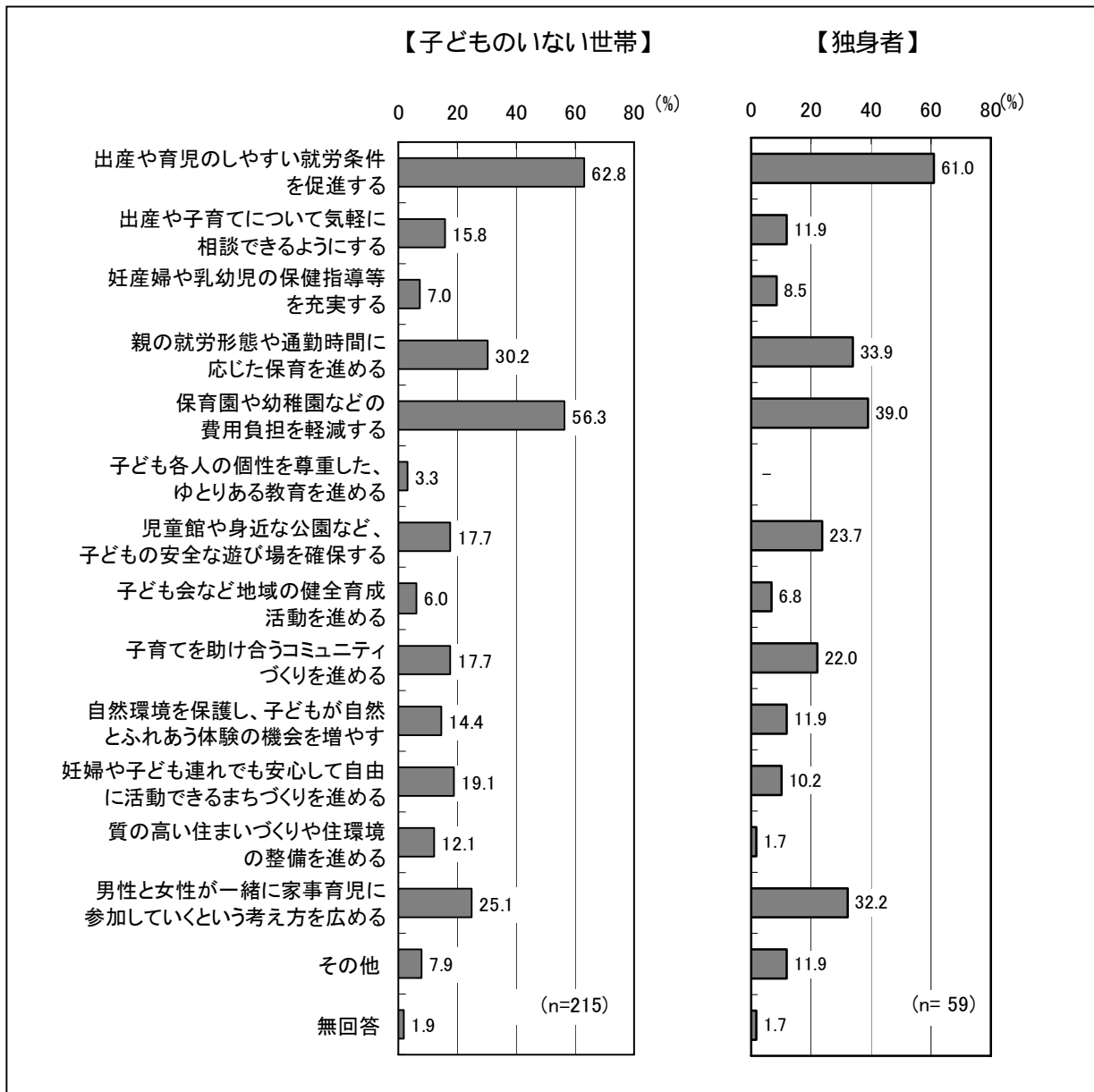
7. 子育てしやすい環境整備について

(1) 子どもを健やかに産み育てるために必要なこと

子どもを健やかに産み育てるために必要なことをみると、子どものいない世帯では「出産や育児のしやすい就労条件を促進する」が最も多く62.8%、次いで「保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する」が56.3%、「親の就労形態や通勤時間に応じた保育を進める」が30.2%、「男性と女性が一緒に家事育児に参加していくという考え方を広める」が25.1%と続いている。

独身者でも「出産や育児のしやすい就労条件を促進する」が最も多く61.0%、次いで「保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する」が39.0%、「親の就労形態や通勤時間に応じた保育を進める」が33.9%、「男性と女性が一緒に家事育児に参加していくという考え方を広める」が32.2%と続いている。

子どもを健やかに産み育てるために必要なこと（複数回答）

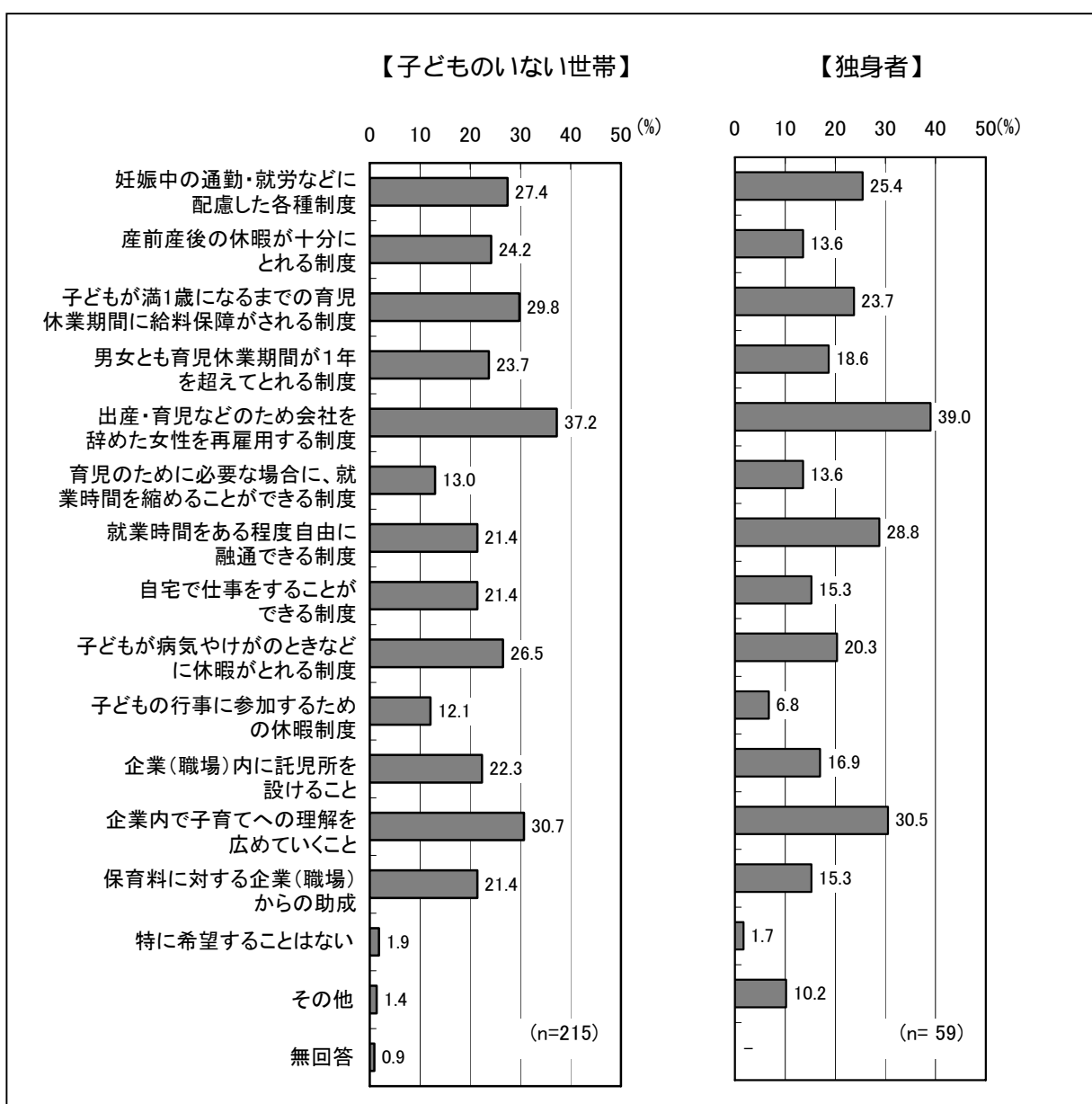


(2) 子育てと仕事の両立のために、企業に望むこと

子育てと仕事の両立のために、企業に望むことをみると、子どものいない世帯では「出産・育児などのため会社を辞めた女性を再雇用する制度（再雇用制度）」が最も多く37.2%、次いで「男女ともに子育てと仕事が両立しやすいように、企業（職場）内で子育てへの理解を広めていくこと」が30.7%、「子どもが満1歳になるまでの育児休業期間にある程度の給料保障がされる制度を広めていくこと」が29.8%、「妊娠中の通勤・就労などに配慮した各種制度（時差出勤制度など）」が27.4%と続いている。

独身者でも「出産・育児などのため会社を辞めた女性を再雇用する制度（再雇用制度）」が最も多く39.0%、次いで「男女ともに子育てと仕事が両立しやすいように、企業（職場）内で子育てへの理解を広めていくこと」が30.5%、「就業時間をある程度自由に融通できる制度（フレックスタイム制度）」が28.8%、「妊娠中の通勤・就労などに配慮した各種制度（時差出勤制度など）」が25.4%と続いている。

子育てと仕事の両立のために、企業に望むこと（複数回答）



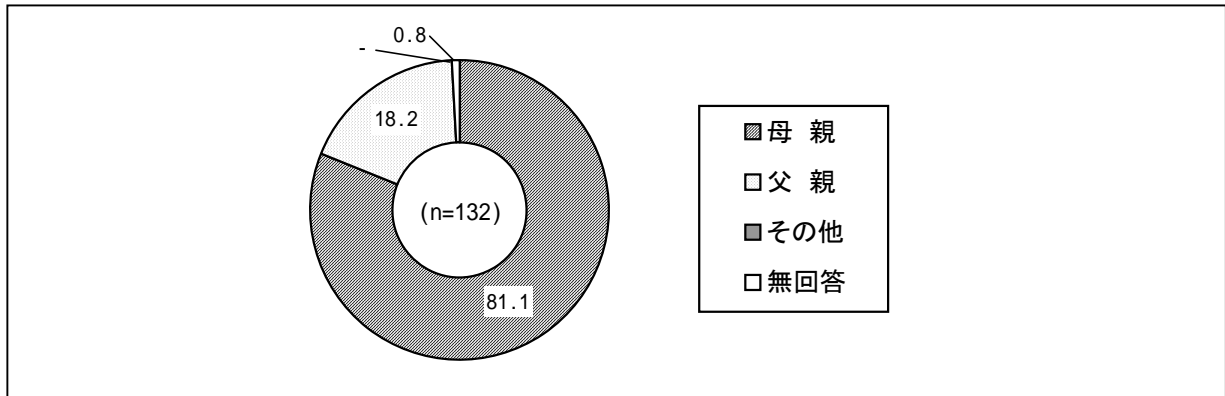
・世帯主と子のみで構成されている世帯の18歳以下の子どもの保護者

1. 回答者の基本属性

(1) 調査票の記入者

調査票の記入者は、「母親」が81.1%、「父親」が18.2%となっている。

調査票の記入者

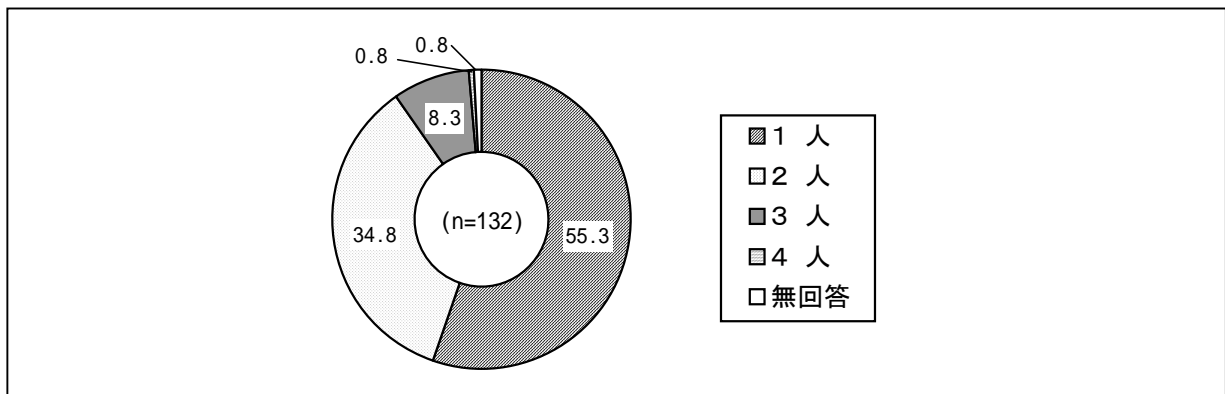


(2) 子ども数と末子の年齢

子ども数

子ども数は、「1人」が最も多く55.3%、次いで「2人」が34.8%、「3人」が8.3%、「4人」が0.8%となっている。

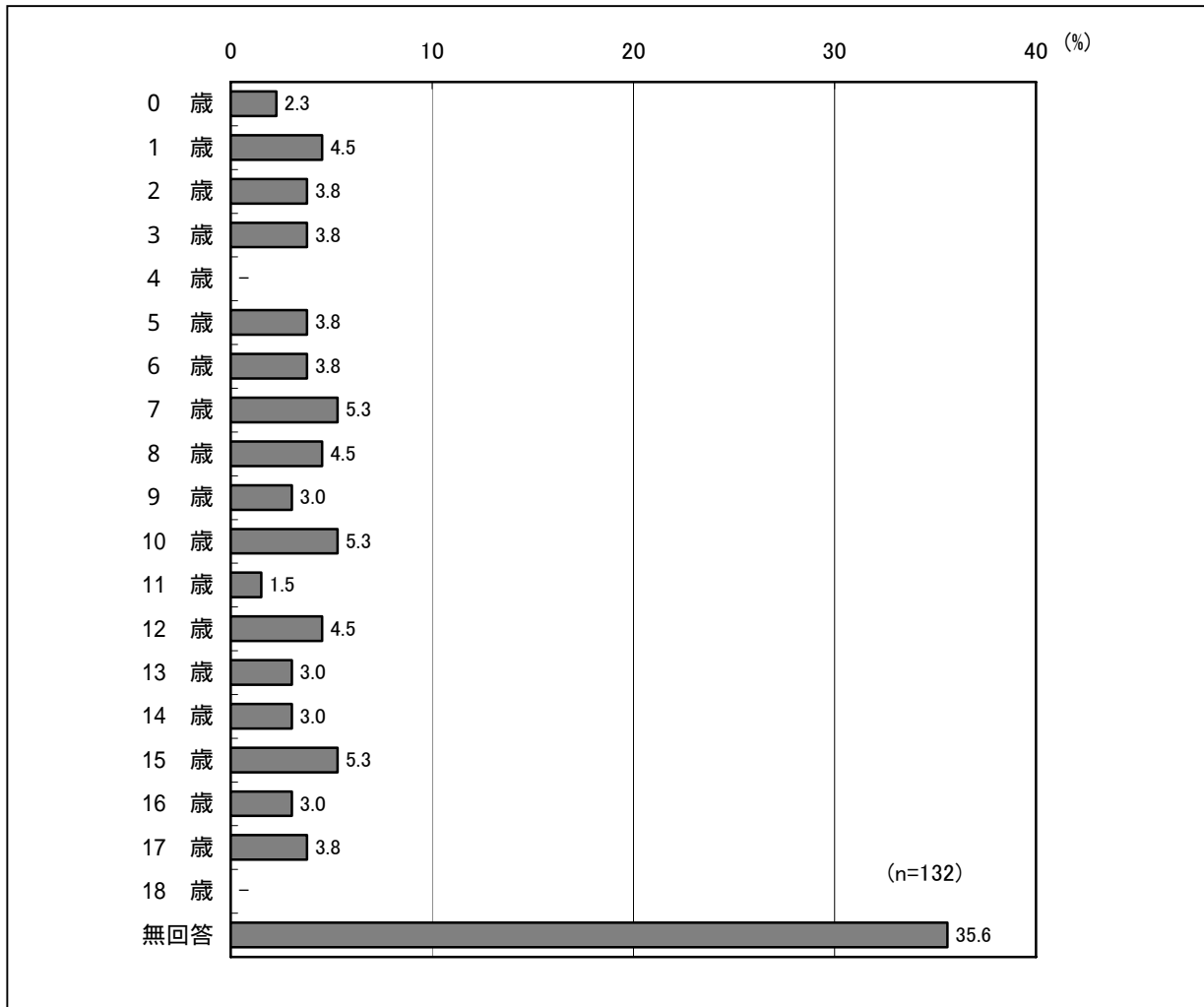
子ども数



末子の年齢

子どもが2人以上いる人の末子の年齢は、「7歳」「10歳」「15歳」が最も多く5.3%、次いで「1歳」「8歳」「12歳」がともに4.5%と続いている。

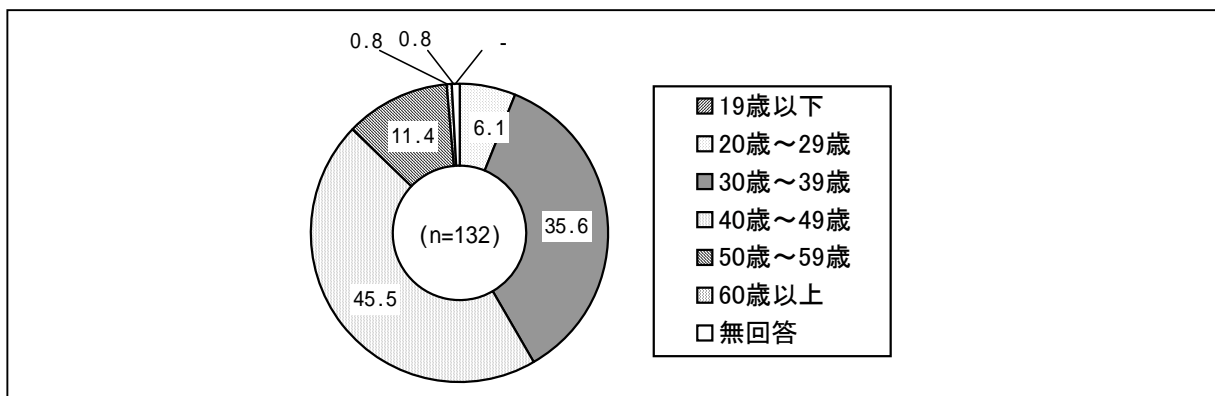
末子の年齢（平成20年4月1日現在の年齢）



(3) 調査票の記入者の年齢

調査票の記入者の年齢は、「40～49歳」が最も多く45.5%、次いで「30～39歳」が35.6%、「50～59歳」が11.4%と続いている。

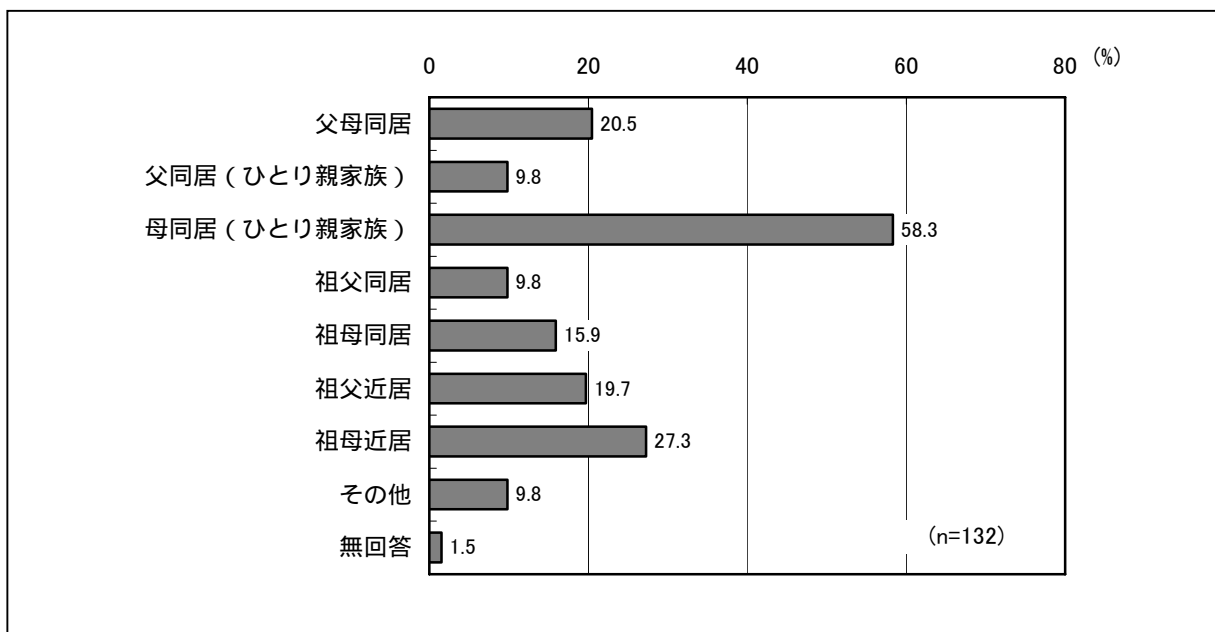
調査票の記入者の年齢



(4) 同居家族

同居家族は、「母同居（ひとり親家族）」が最も多く58.3%、次いで「祖母近居」が27.3%、「父母同居」が20.5%と続き、「祖母同居」や「祖父同居」の3世代世帯もそれぞれ15.9%、9.8%となっている。

同居家族（複数回答）

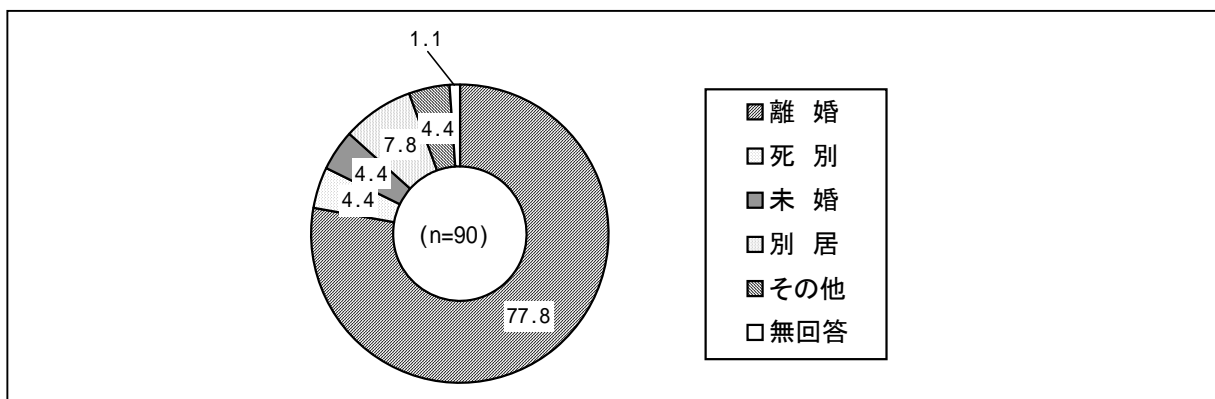


(5) ひとり親になった理由及び時期

理由

同居家族について、「父同居（ひとり親家族）」、「母同居（ひとり親家族）」と回答した人のひとり親になった理由をみると、「離婚」が最も多く77.8%、次いで「別居」が7.8%、「死別」「未婚」が4.4%となっている。

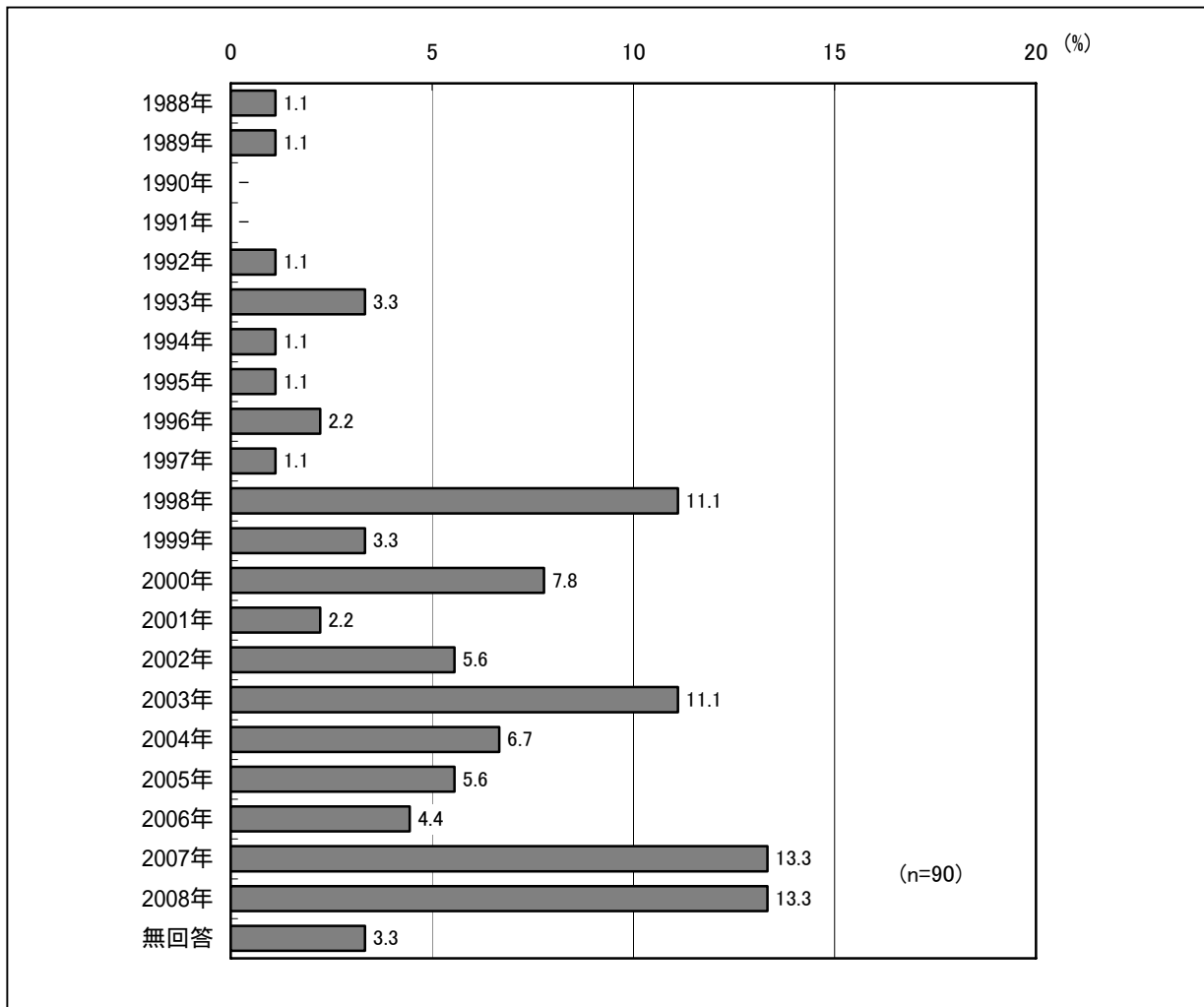
ひとり親になった理由



時期

同居家族について、「父同居（ひとり親家族）」、「母同居（ひとり親家族）」と回答した人のひとり親になった時期をみると、「2007年」「2008年」が最も多く13.3%、次いで「1998年」「2003年」が11.1%と続いている。

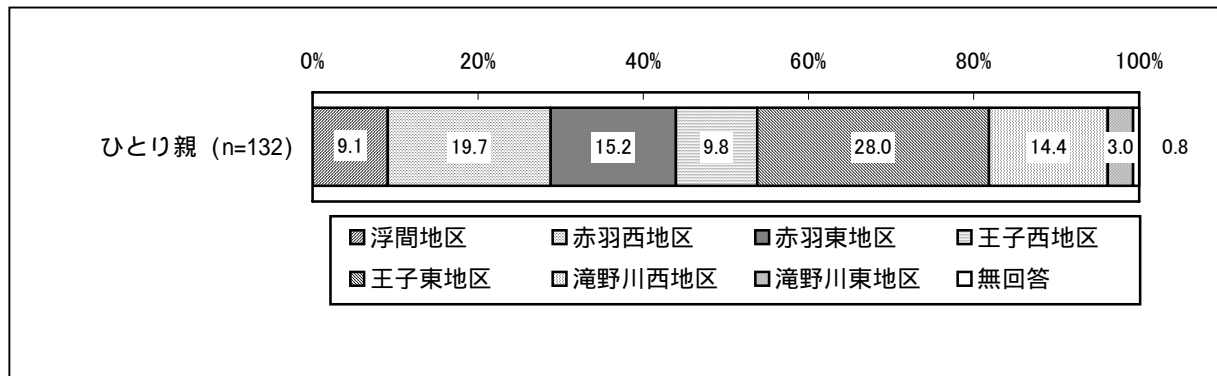
ひとり親になった時期



(6) 居住地区

居住地区は、「王子東地区」が最も多く28.0%、次いで「赤羽西地区」が19.7%、「赤羽東地区」が15.2%、「滝野川西地区」が14.4%、「王子西地区」が9.8%、「浮間地区」が9.1%、「滝野川東地区」が3.0%となっている。

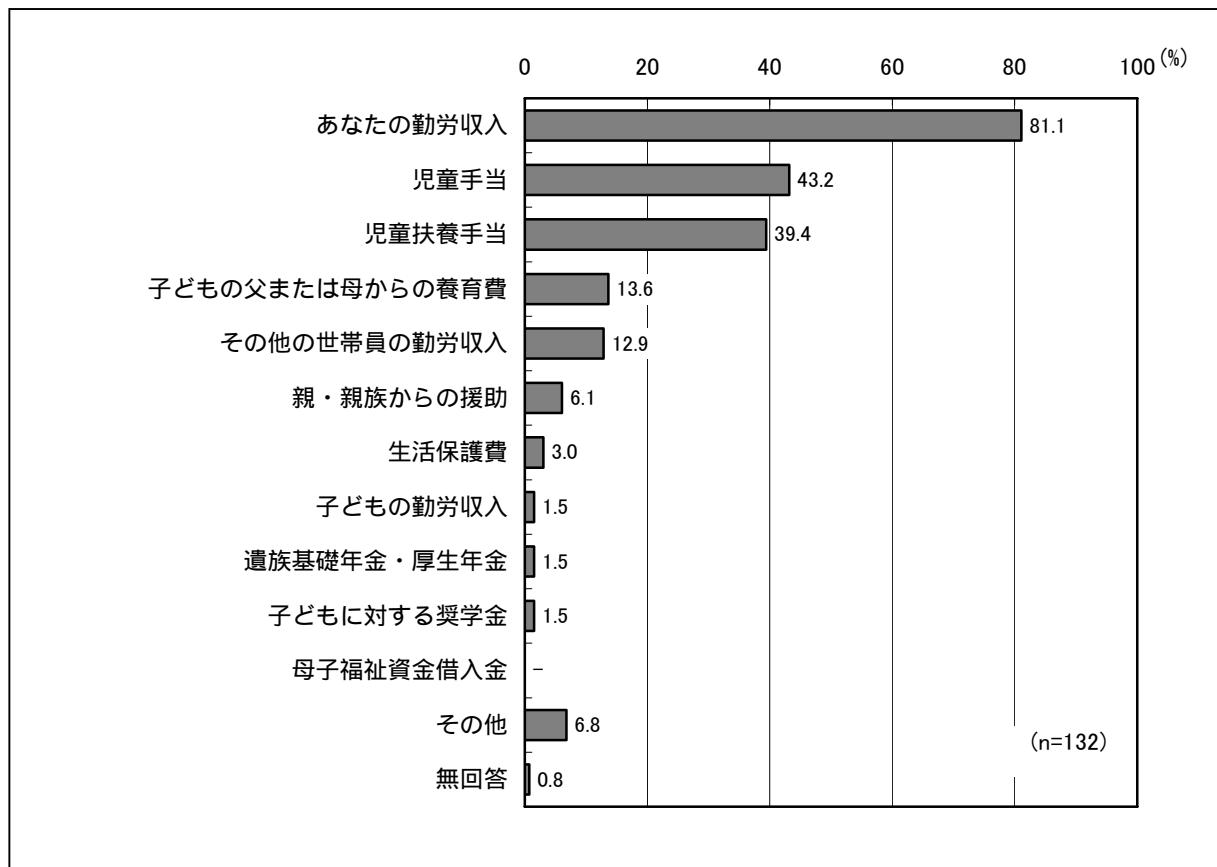
居住地区



(7) 世帯全体の収入内訳

世帯全体の収入内訳は、「あなたの勤労収入」が最も多く81.1%、次いで「児童手当」が43.2%、「児童扶養手当」が39.4%と続いている。

世帯全体の収入内訳 (複数回答)

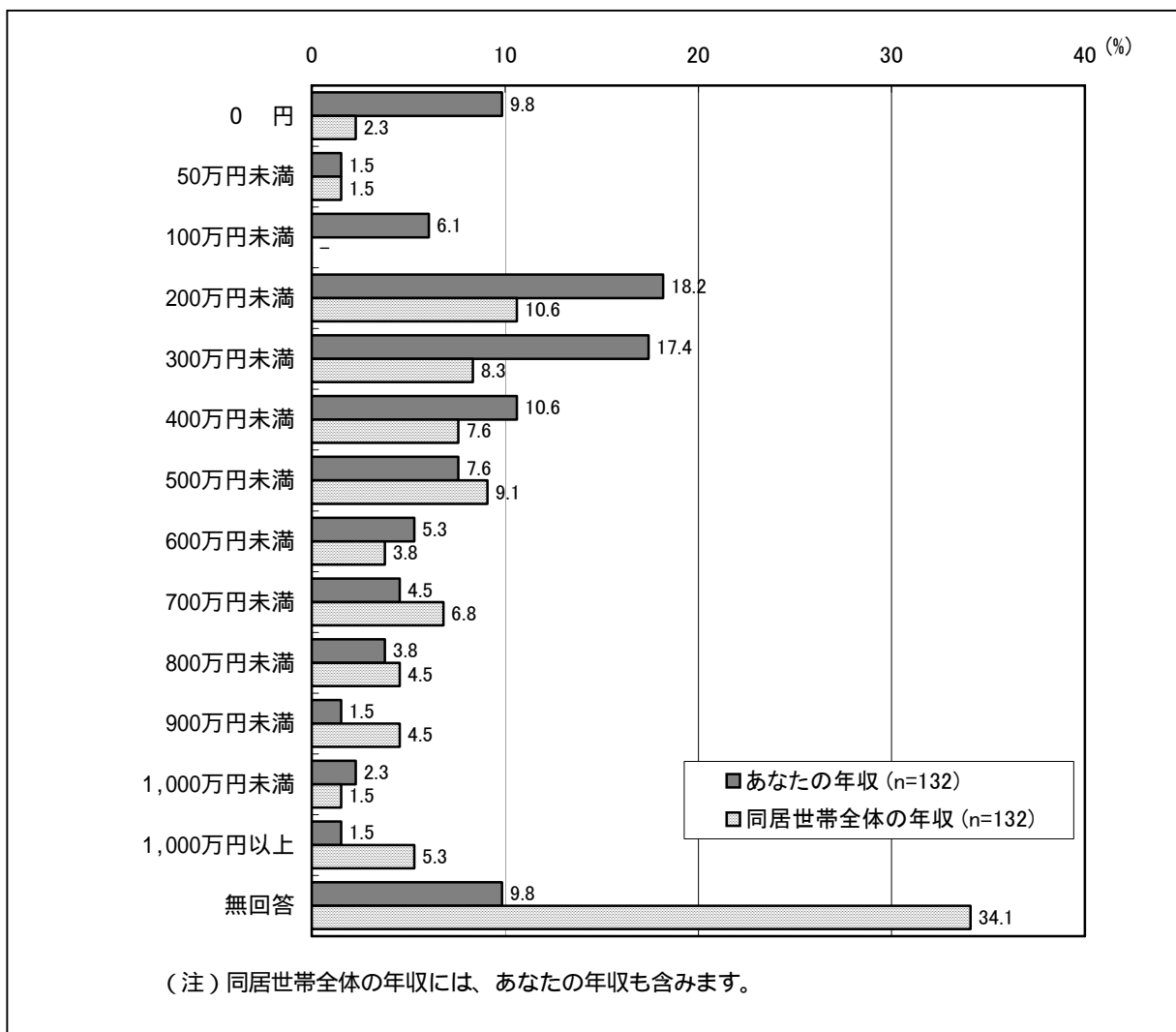


(8) 回答者の年収と同居世帯全体の年収

回答者の年収は、「200万円未満」が最も多く18.2%、次いで「300万円未満」が17.4%、「400万円未満」が10.6%と続いている。

同居世帯全体の年収は、「200万円未満」が最も多く10.6%、次いで「500万円未満」が9.1%、「300万円未満」が8.3%と続いている。

回答者の年収と同居世帯全体の年収



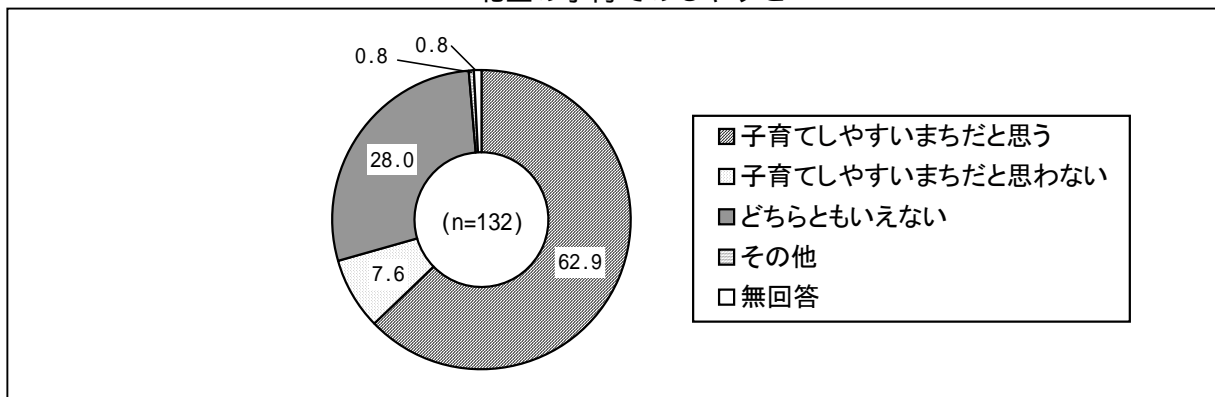
2. 北区の子育て環境について

(1) 北区の子育てのしやすさ

北区の子育てのしやすさ

北区の子育てのしやすさをみると、「子育てしやすいまちだと思う」が最も多く62.9%、次いで「どちらともいえない」が28.0%、「子育てしやすいまちだと思わない」が7.6%となっている。

北区の子育てのしやすさ



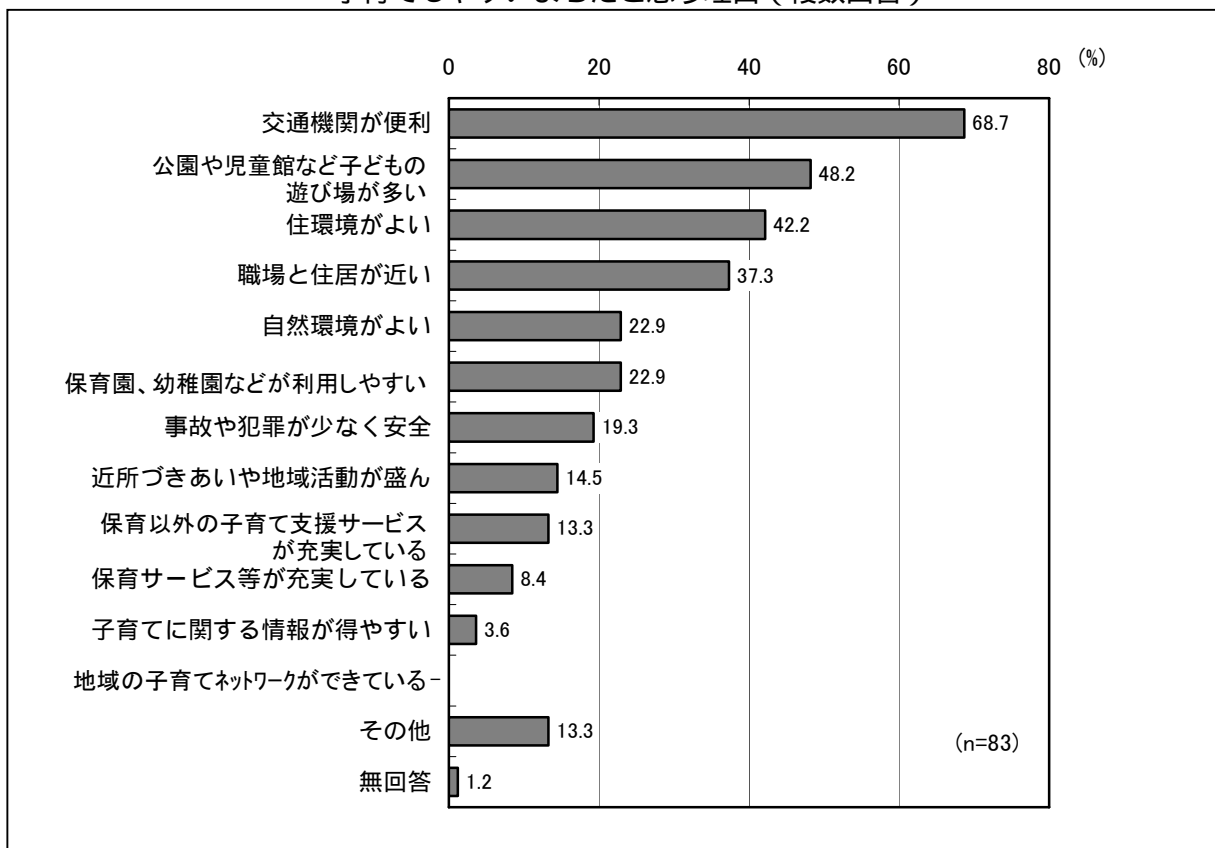
子育てしやすいまちだと思う理由と思わない理由

ア. 子育てしやすいまちだと思う理由

北区が「子育てしやすいまちだと思う」と回答した人の理由をみると、「交通機関が便利」が最も多く68.7%、次いで「公園や児童館など子どもの遊び場が多い」が48.2%、「住環境がよい」が42.2%と続いている。

「その他」の内容として、「中学3年まで医療費が無料」「学童保育が良い」「教育に熱心」などの意見が寄せられている。

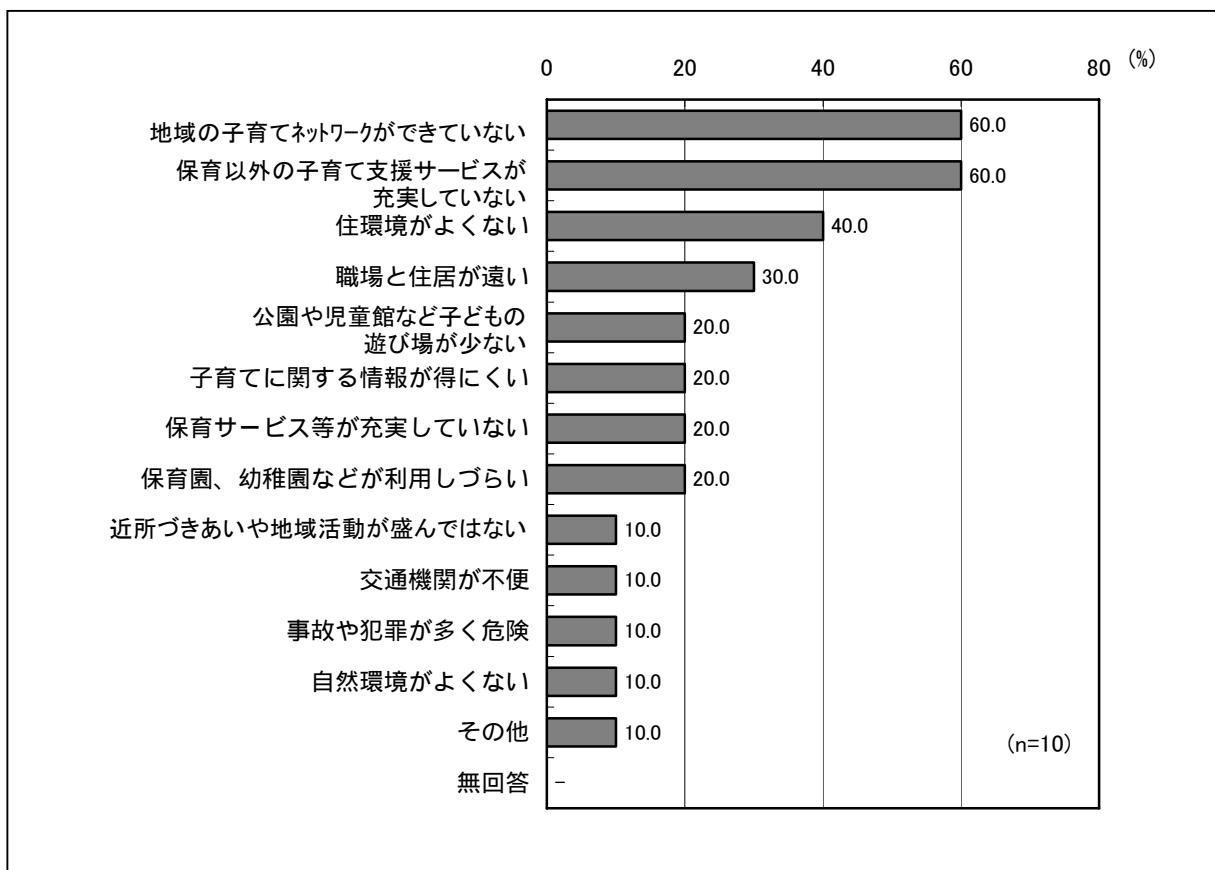
子育てしやすいまちだと思う理由（複数回答）



イ．子育てしやすいまちだと思わない理由

北区が「子育てしやすいまちだと思わない」と回答した人の理由をみると、「地域の子育てネットワークができていない」「保育以外の子育て支援サービスが充実していない」がともに最も多く60.0%、次いで「住環境がよくない」が40.0%、「職場と住居が遠い」が30.0%と続いている。

子育てしやすいまちだと思わない理由（複数回答）

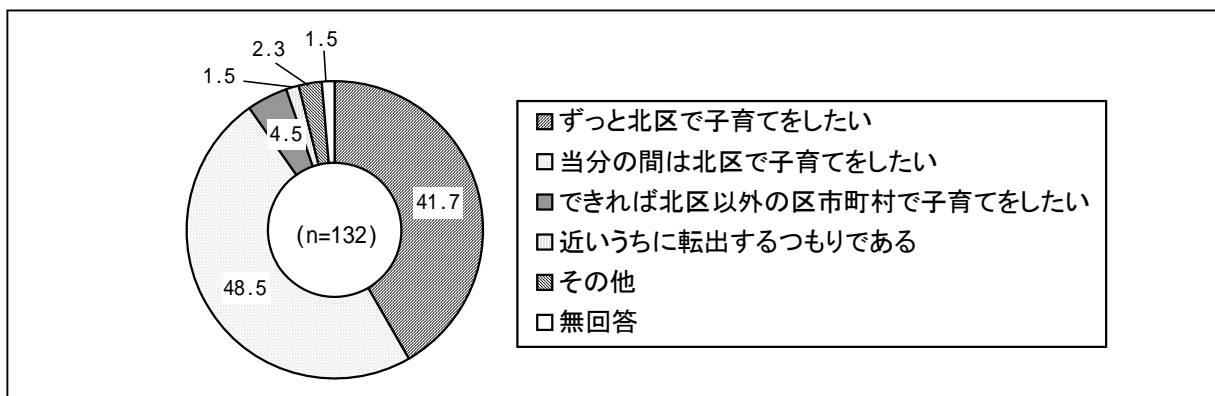


(2) 北区での子育ての継続意向

今後の北区での子育ての意向をみると、「今後も北区で子育てをしたい」が90.2%（「ずっと北区で子育てをしたい」41.7% + 「当分の間は北区で子育てをしたい」48.5%）となっている。

一方、「できれば北区以外の区市町村で子育てをしたい」は4.5%、「近いうちに転出するつもりである」は1.5%となっている。

今後の北区での子育ての意向

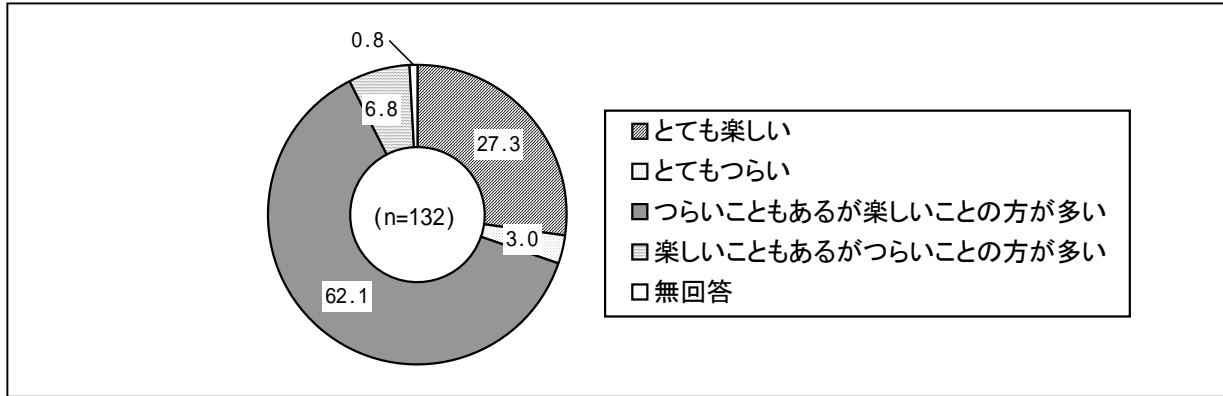


3. あて名の子どもの子育て全般について

(1) 子育ての楽しさ

子育ての楽しさをみると、“子育てが楽しい”が89.4%（「とても楽しい」27.3%+「つらいこともあるが楽しいことの方が多い」62.1%），“子育てが辛い”が9.8%（「とても辛い」3.0%+「楽しいこともあるが辛いことの方が多い」6.8%）となっている。

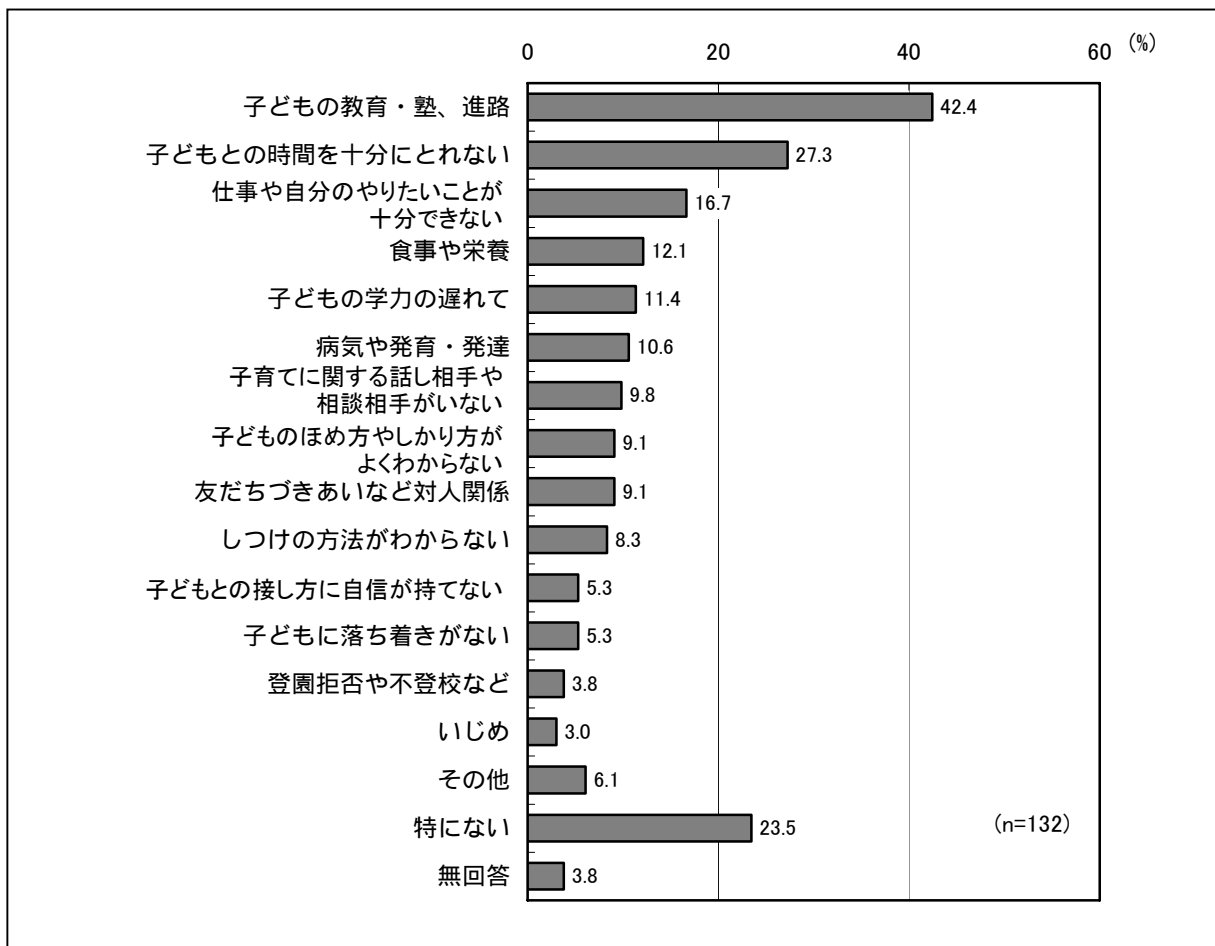
子育ての楽しさ



(2) 子育てに関して悩んでいること

子育てに関して悩んでいることをみると、「子どもの教育・塾、進路」が最も多く42.4%、次いで「子どもとの時間を十分にとれない」が27.3%、「特にない」が23.5%、「仕事や自分のやりたいことが十分できない」が16.7%と続いている。

子育てに関して悩んでいること（複数回答）

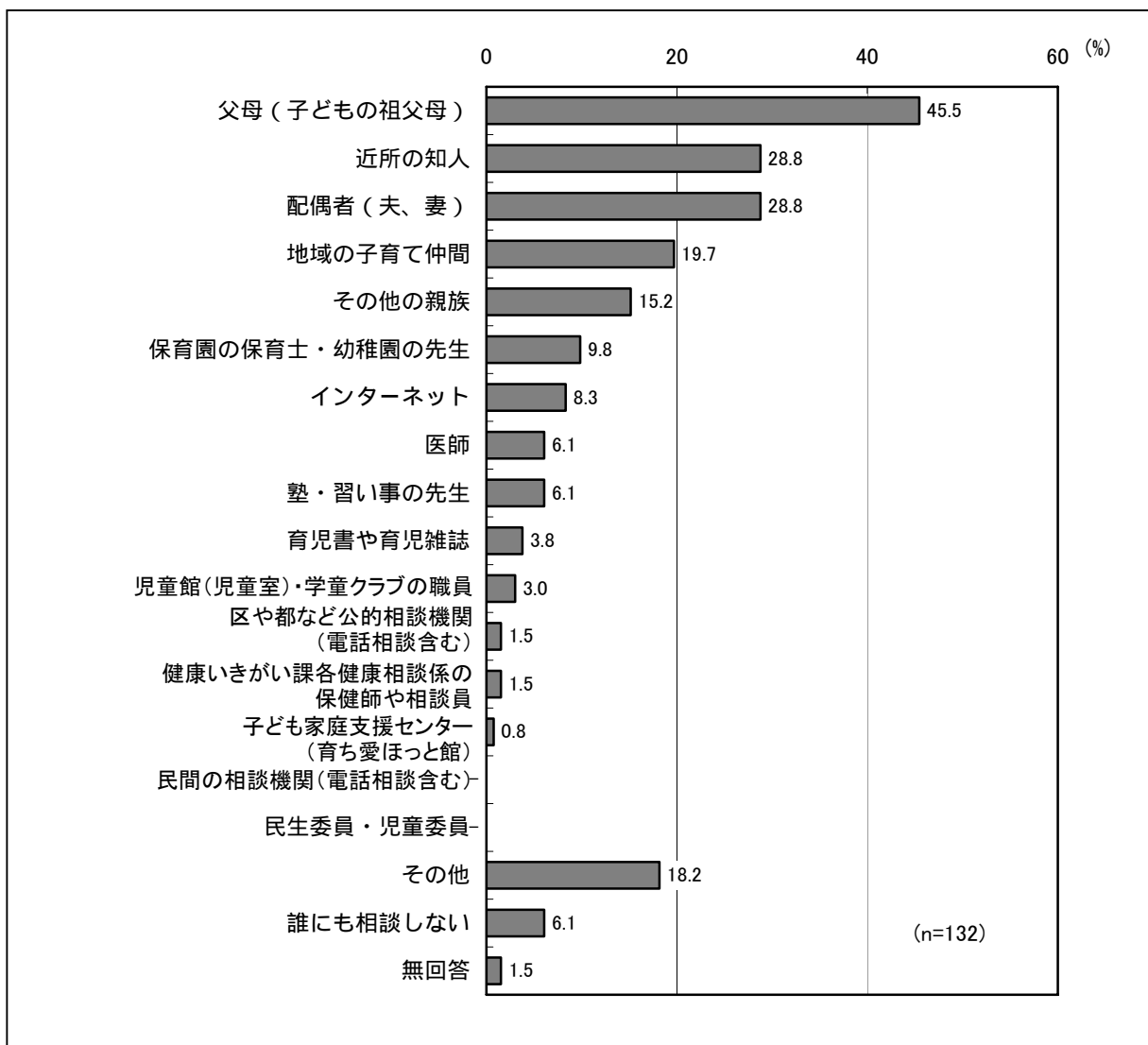


(3) 子育ての相談先

子育てについて困ったこと、悩みごとの相談先をみると、「父母(子どもの祖父母)」が最も多く45.5%、次いで「近所の知人」「配偶者(夫、妻)」がともに28.8%、「地域の子育て仲間」が19.7%と続いている。

「その他」の内容として、「学校の先生」「職場の仲間」などの意見が寄せられている。

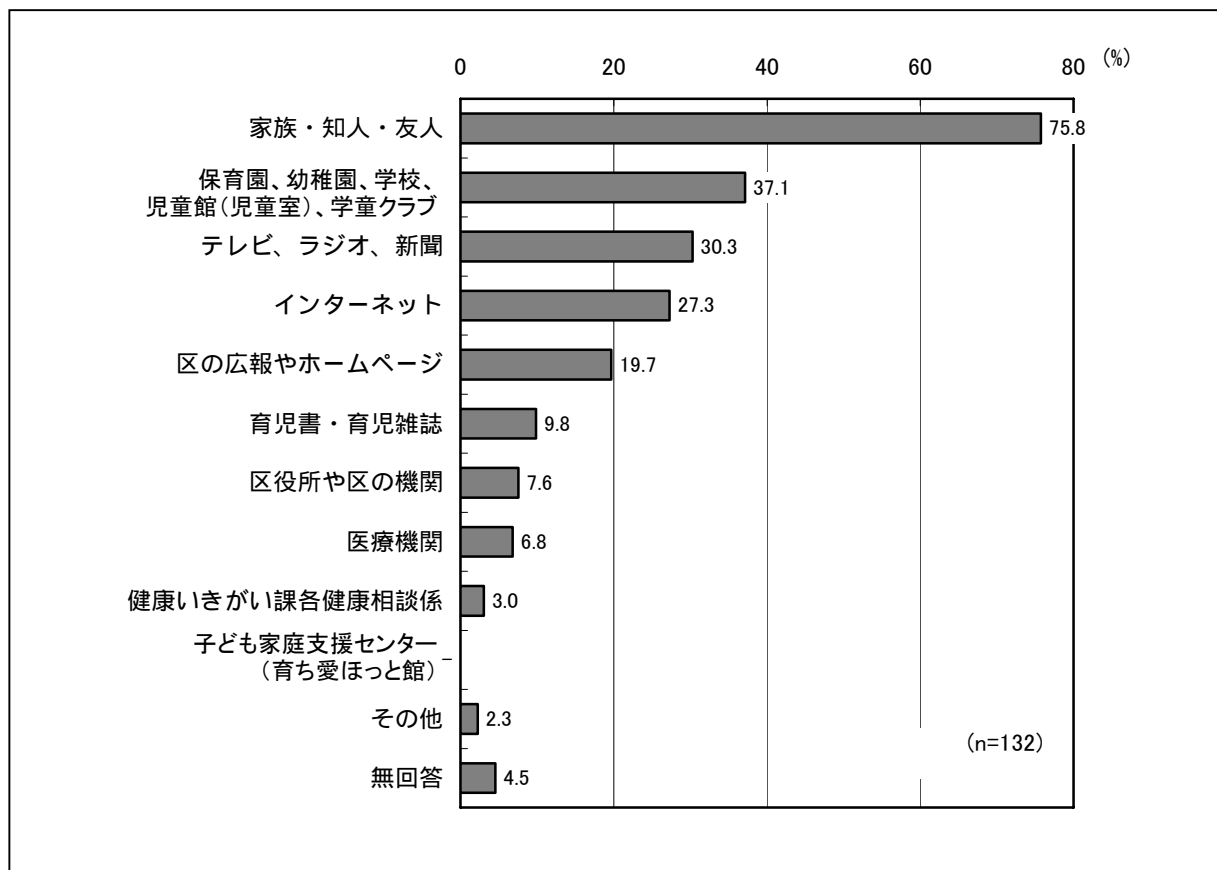
子育ての相談先(複数回答)



(4) 子育て情報の入手先

子育て情報の入手先をみると、「家族・知人・友人」が最も多く75.8%、次いで「保育園、幼稚園、学校、児童館(児童室)、学童クラブ」が37.1%、「テレビ、ラジオ、新聞」が30.3%と続いている。

子育て情報の入手先(複数回答)



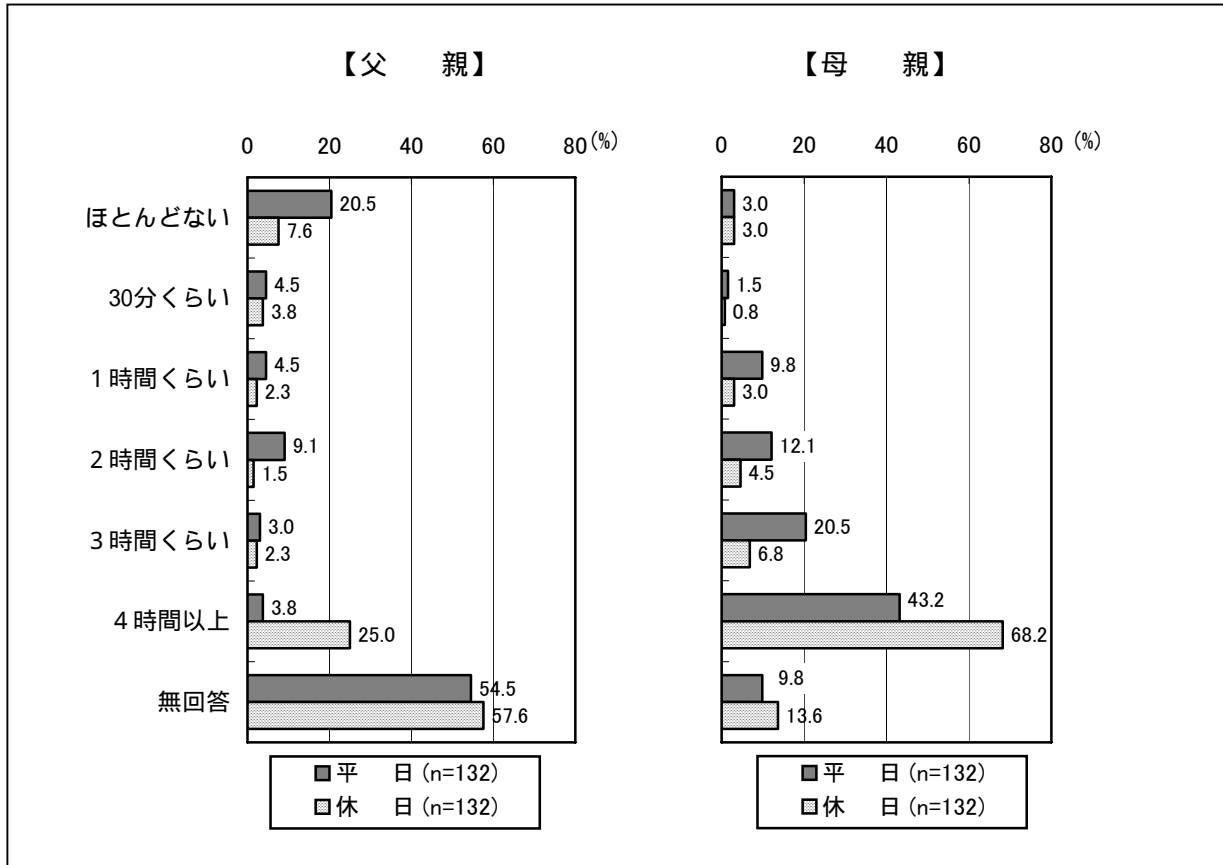
4. 仕事と生活の調和について

(1) 平日と休日の子どもと接する時間

平日の子どもと接する時間を見ると、父親の場合「ほとんどない」が最も多く20.5%、次いで「2時間くらい」が9.1%となっている。一方、母親の場合「4時間以上」が最も多く43.2%、次いで「3時間くらい」が20.5%となっていることから、父親は仕事に出ていることが多く、母親は家庭にいたることが多い状況がうかがえる。

また、休日の子どもと接する時間を見ると、母親は平日と同様の傾向であるが、父親は「4時間以上」が25.0%と最も多くなっており、休日は家庭で子どもと接していることがうかがえる。

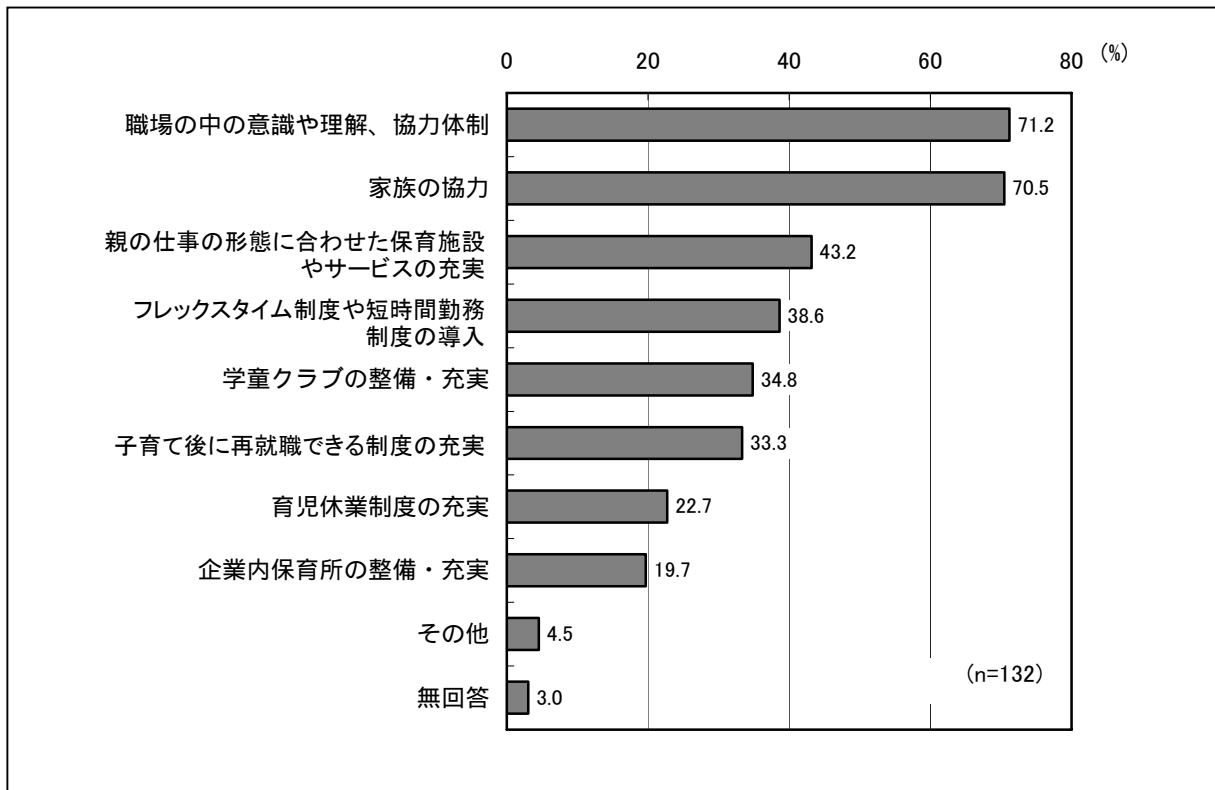
平日と休日の子どもと接する時間



(2) 仕事と子育てを両立させるために必要なこと

仕事と子育てを両立させるために必要なことをみると、「職場の中の意識や理解、協力体制」が最も多く71.2%、次いで「家族の協力」が70.5%、「親の仕事の形態に合わせた保育施設やサービスの充実」が43.2%続いている。

仕事と子育てを両立させるために必要なこと（複数回答）

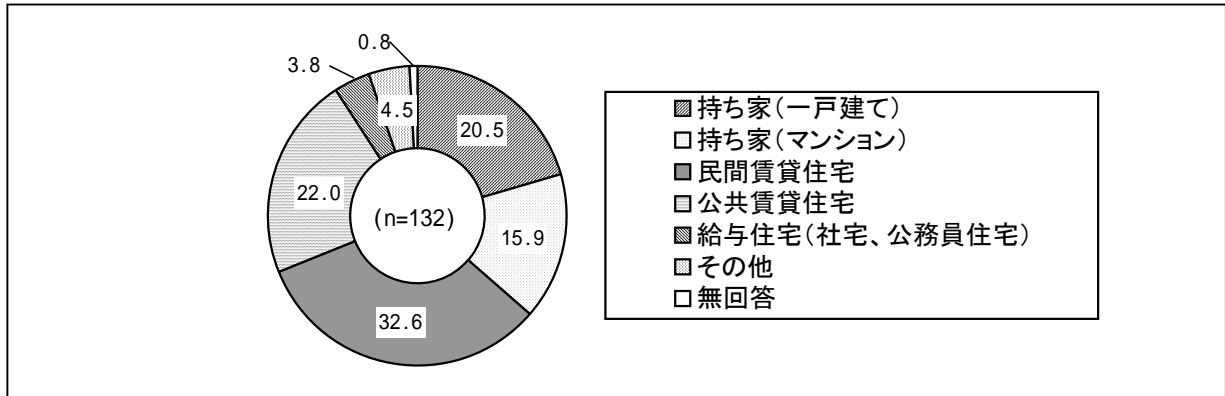


5. 住宅環境について

(1) 住居形態

住居形態は、「民間賃貸住宅」が最も多く32.6%、次いで「公共賃貸住宅」が22.0%、「持ち家(一戸建て)」が20.5%、「持ち家(マンション)」が15.9%と続いている。

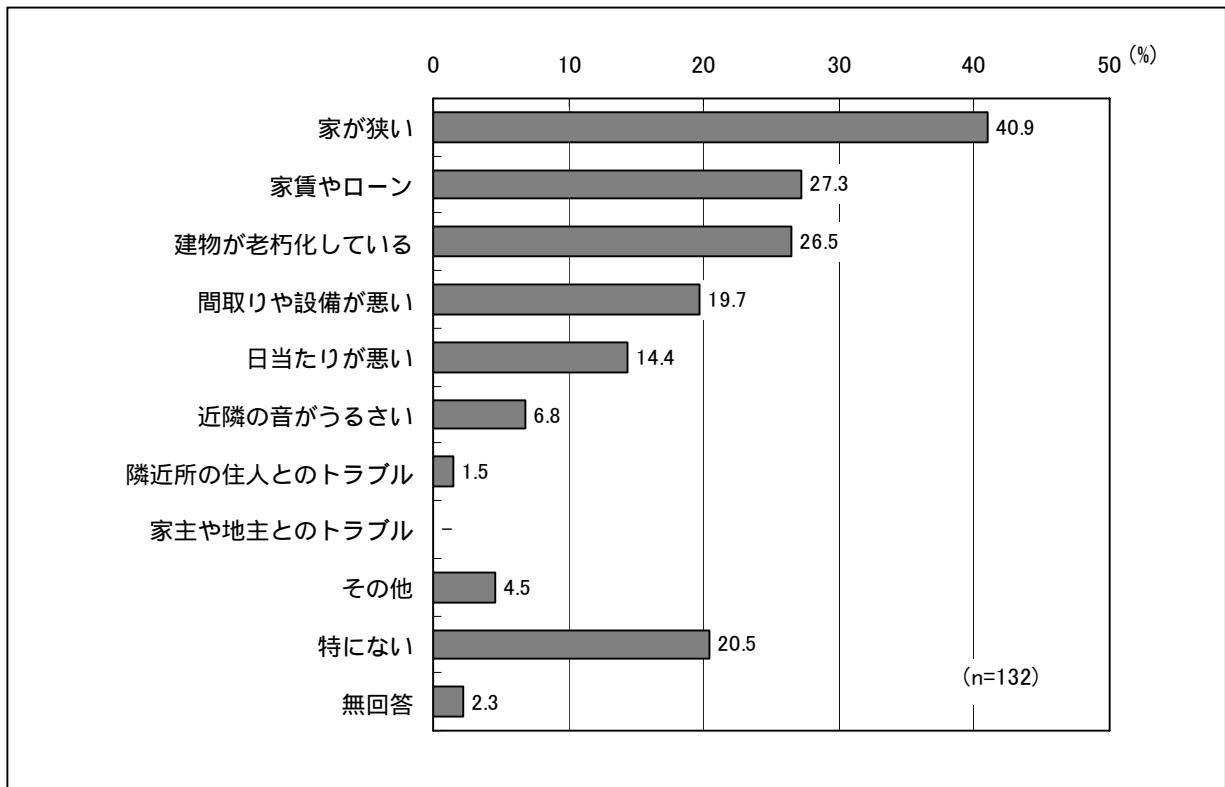
住居形態



(2) 住宅で困っていること

住宅で困っていることをみると、「家が狭い」が最も多く40.9%、次いで「家賃やローン」が27.3%、「建物が老朽化している」が26.5%と続いている。

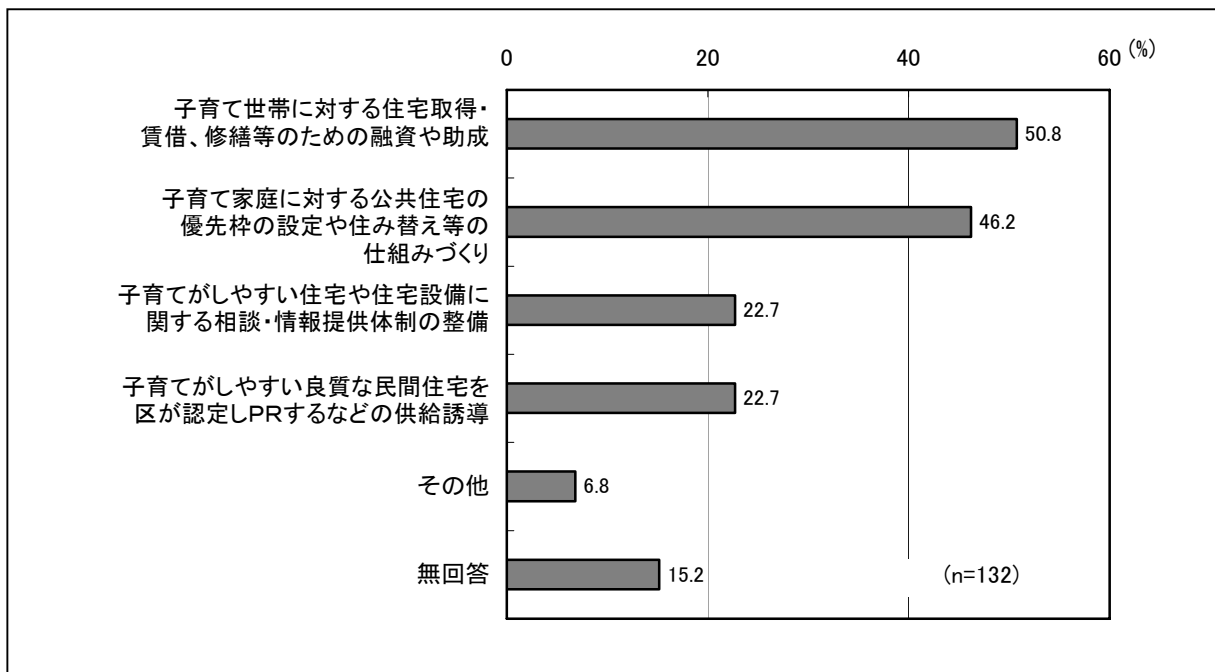
住宅で困っていること(複数回答)



(3) 子育て世帯に必要な住宅施策

子育て世帯に必要な住宅施策をみると、「子育て世帯に対する住宅取得・賃借、修繕等のための融資や助成」が最も多く50.8%、次いで「子育て家庭に対する公共住宅の優先枠の設定や住み替え等の仕組みづくり」が46.2%、「子育てがしやすい住宅や住宅設備に関する相談・情報提供体制の整備」「子育てがしやすい良質な民間住宅を区が認定しPRするなどの供給誘導」がともに22.7%と続いている。

子育て世帯に必要な住宅施策（複数回答）

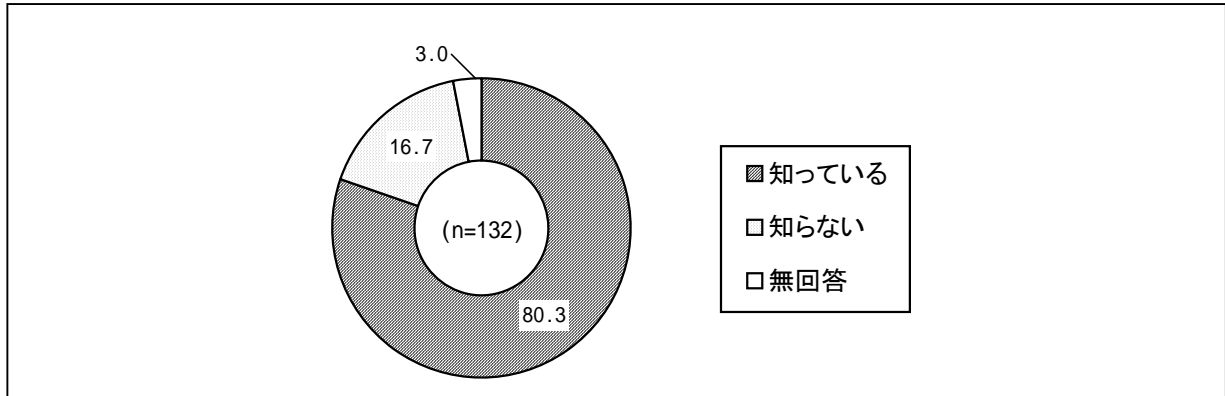


6. あて名の子どもの日常生活について

(1) 休日や夜間に受診できる医療機関の認知状況

休日や夜間に受診できる医療機関の認知状況をみると、「知っている」が80.3%、「知らない」が16.7%となっている。

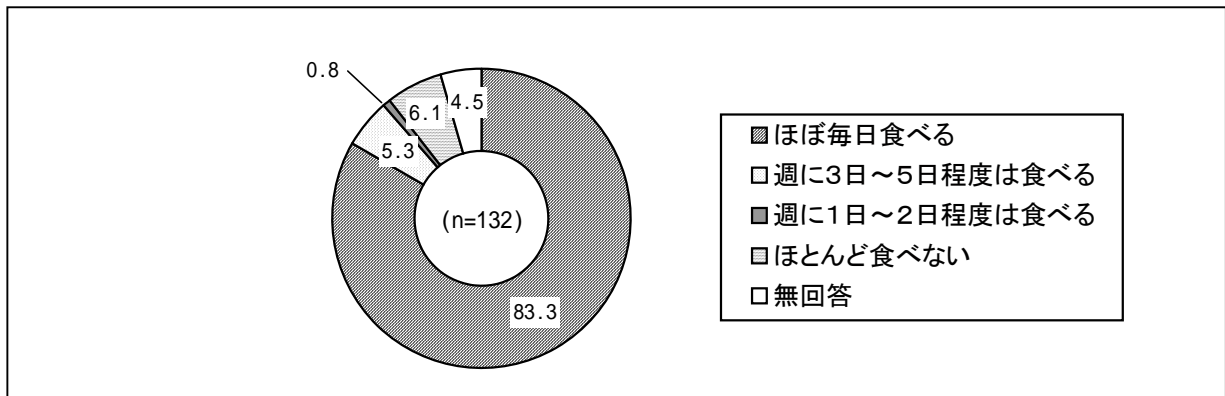
休日や夜間に受診できる医療機関の認知状況



(2) 朝食の摂取状況

朝食の摂取状況をみると、「ほぼ毎日食べる」が最も多く83.3%、「ほとんど食べない」が6.1%、「週に3日～5日程度は食べる」が5.3%となっている。

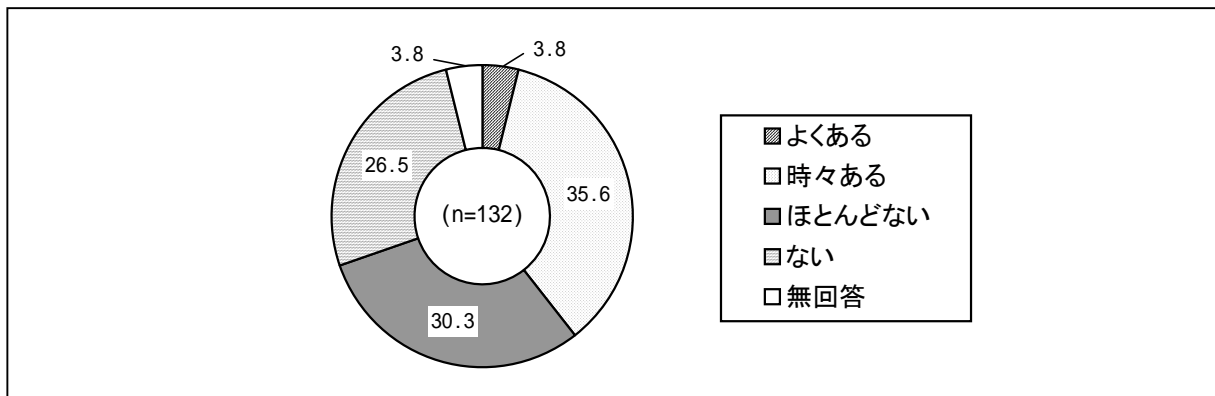
朝食の摂取状況



(3) 子どもの世話をしたくないときの有無

子どもの世話をしたくないときの有無をみると、“ある”が39.4%（「よくある」3.8%+「時々ある」35.6%），“ない”が56.8%（「ほとんどない」30.3%+「ない」26.5%）となっている。

子どもの世話をしたくないときの有無

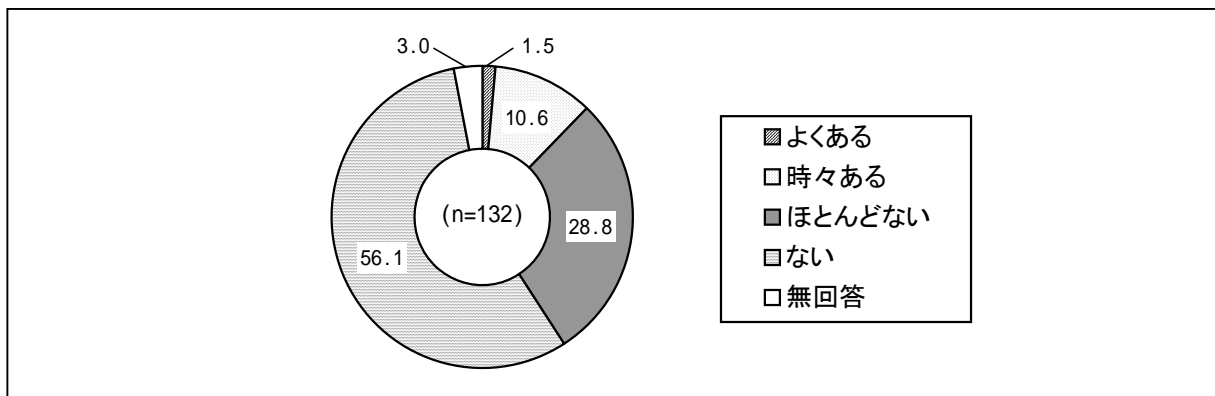


(4) 児童虐待

子どもを虐待していると思うことの有無

子どもを虐待していると思うことの有無をみると、“ある”が12.1%（「よくある」1.5%+「時々ある」10.6%），“ない”が84.9%（「ほとんどない」28.8%+「ない」56.1%）となっている。

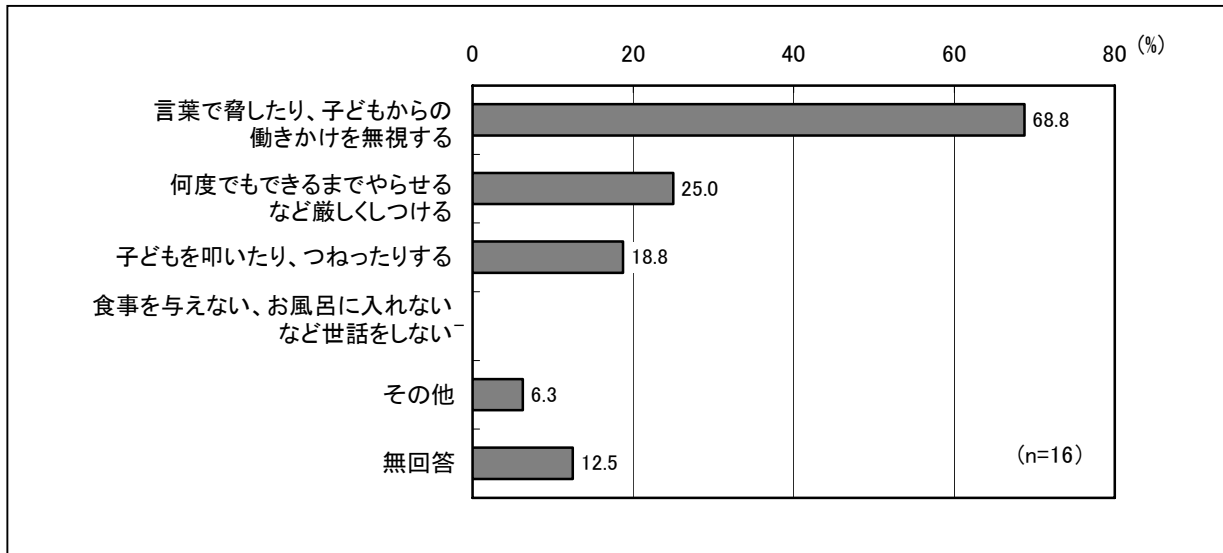
子どもを虐待していると思うことの有無



子どもを虐待していると思うとき

子どもを虐待していると思うことが“ある”と回答した人の子どもを虐待していると思うときをみると、「言葉で脅したり、子どもからの働きかけを無視する」が最も多く68.8%、次いで「何度でもできるまでやらせるなど厳しくしつける」が25.0%、「子どもを叩いたり、つねったりする」が18.8%となっている。

子どもを虐待していると思うとき（複数回答）

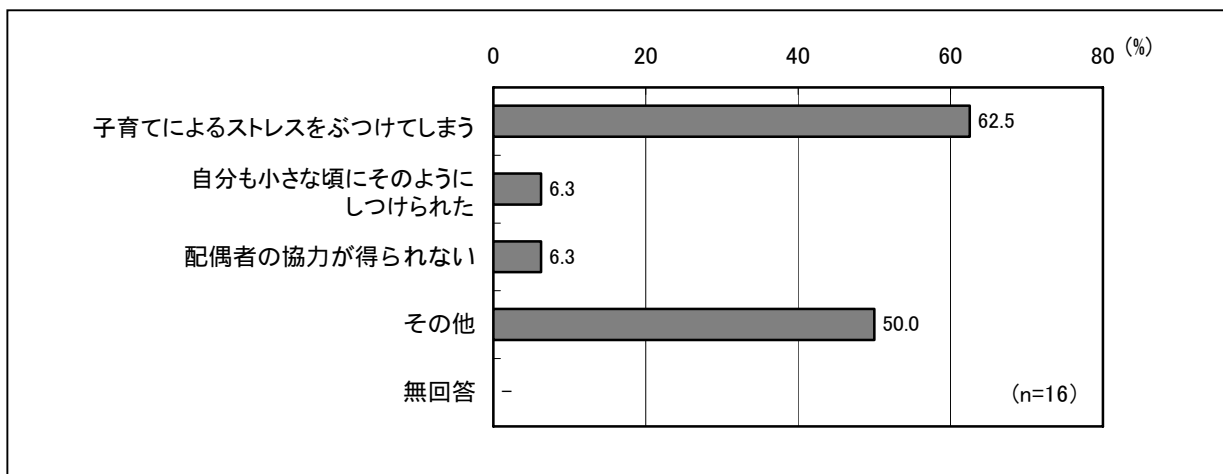


児童虐待の理由

子どもを虐待していると思うことが“ある”と回答した人の児童虐待の理由をみると、「子育てによるストレスをぶつけてしまう」が最も多く62.5%、次いで「自分も小さな頃にそのようにしつけられた」「配偶者の協力が得られない」がともに6.3%となっている。

「その他」の内容として、“自分自身の仕事などの疲れ、ストレス” “言うことを聞かないから” “仕事が忙しく、子どもの勉強や準備をしたいにもかかわらず、時間がない時”などの意見が寄せられている。

児童虐待の理由（複数回答）

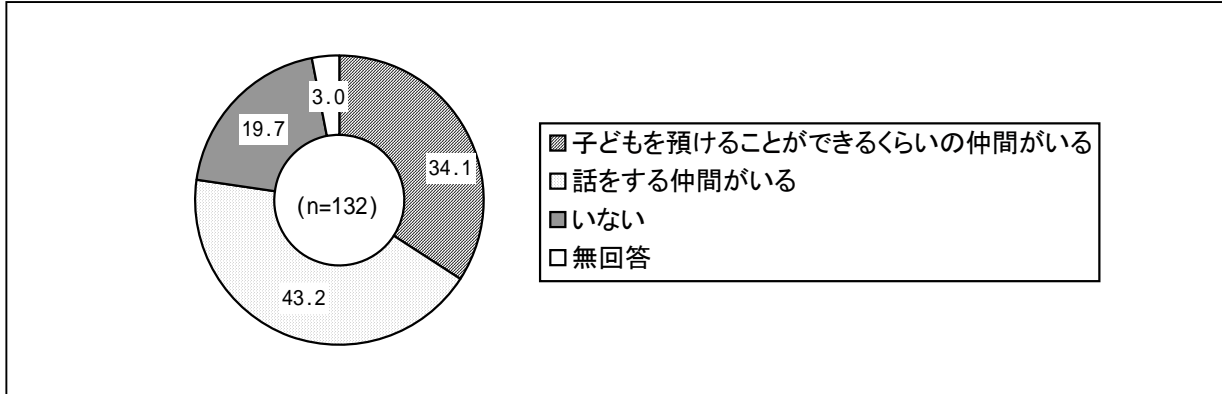


7. 地域での子育て支援について

(1) 子育て仲間の有無

子育て仲間の有無をみると、「話をする仲間がいる」が最も多く43.2%、次いで「子どもを預けることができるくらいの仲間がいる」が34.1%、「いない」が19.7%となっている。

子育て仲間の有無

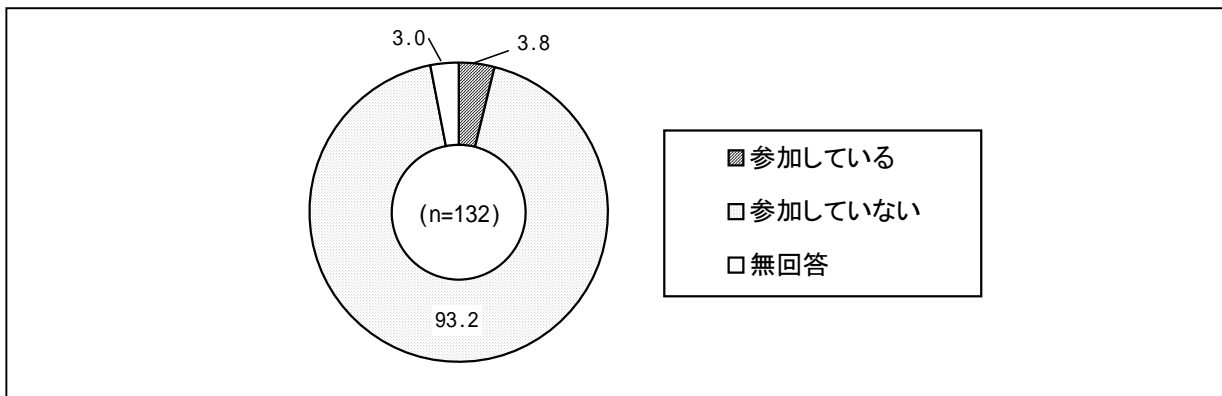


(2) 子育てサークルへの参加状況

子育てサークルへの参加状況

子育てサークルへの参加状況をみると、「参加していない」が93.2%、「参加している」が3.8%となっている。

子育てサークルへの参加状況

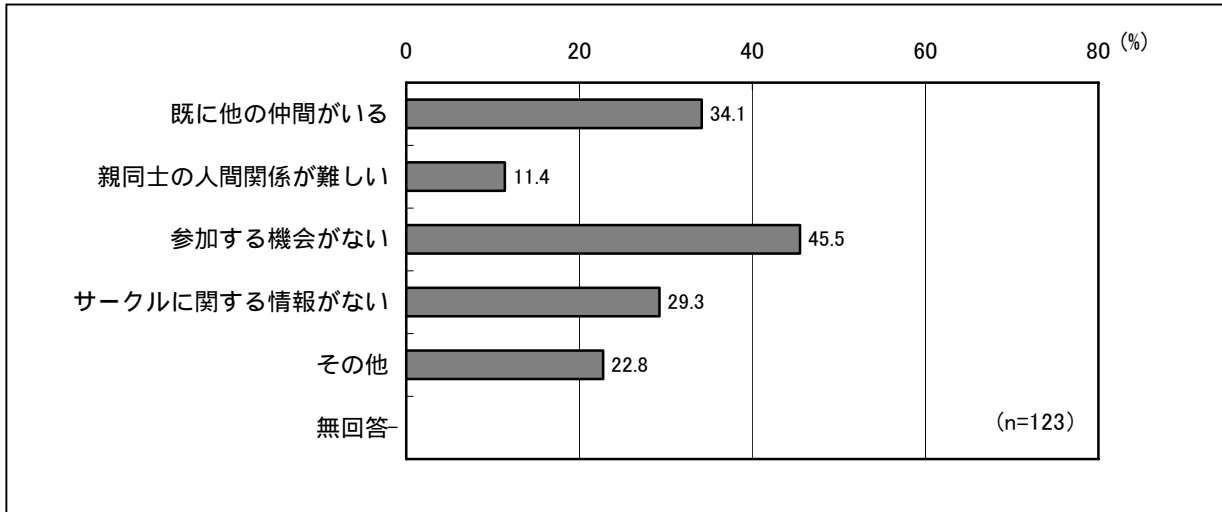


子育てサークルに参加していない理由

子育てサークルに「参加していない」と回答した人の理由をみると、「参加する機会がない」が最も多く 45.5%、次いで「既に他の仲間がいる」が 34.1%、「サークルに関する情報がない」が 29.3%となっている。

「その他」の内容として、“仕事が忙しい” “時間がない” “必要がない” などの意見が寄せられている。

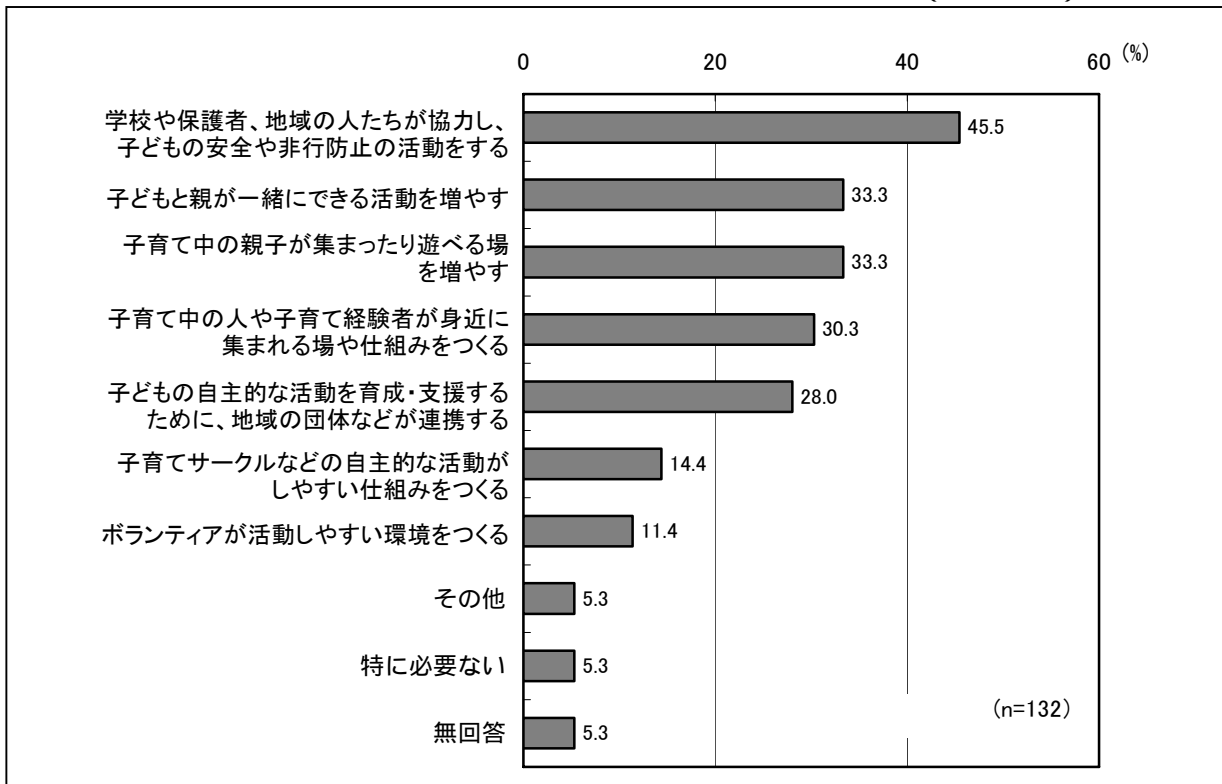
子育てサークルに参加していない理由（複数回答）



(3) 安心して子育てをするために地域の取り組みで必要なこと

安心して子育てをするために地域の取り組みで必要なことをみると、「学校や保護者、地域の人たちが協力し、子どもの安全や非行防止の活動をする」が最も多く 45.5%、次いで「子どもと親と一緒にできる活動を増やす」「子育て中の親子が集まったり遊べる場を増やす」がともに 33.3%、「子育て中の人や子育て経験者が身近に集まれる場や仕組みをつくる」が 30.3%と続いている。

安心して子育てをするために地域の取り組みで必要なこと（複数回答）

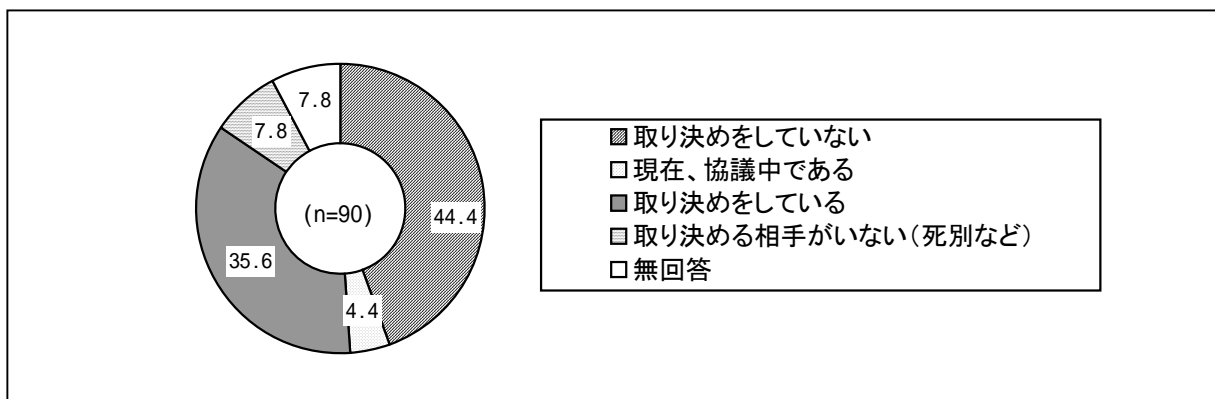


8. 母子家庭、父子家庭について（母子家庭、父子家庭が対象）

(1) 子どもの養育費の取り決めの有無

子どもの養育費の取り決めの有無をみると、「取り決めでしていない」が最も多く44.4%、次いで「取り決めている」が35.6%、「取り決める相手がいない（死別など）」が7.8%、「現在、協議中である」が4.4%となっている。

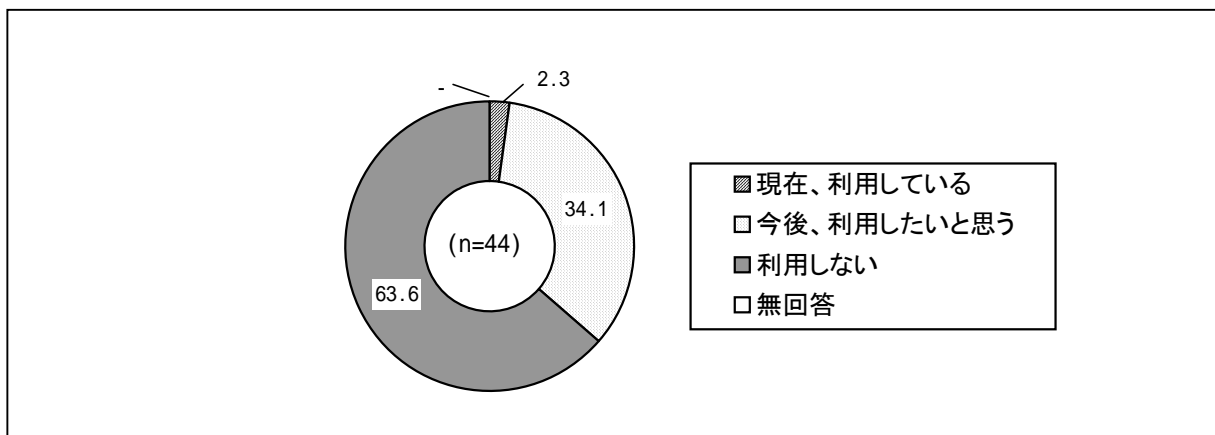
子どもの養育費の取り決めの有無



(2) 養育費等に関する法律相談の利用意向

子どもの養育費の取り決めについて、「取り決めでしていない」「現在、協議中である」と回答した人の養育費等に関する法律相談の利用意向をみると、「利用しない」が最も多く63.6%、次いで「今後、利用したいと思う」が34.1%、「現在、利用している」が2.3%となっている。

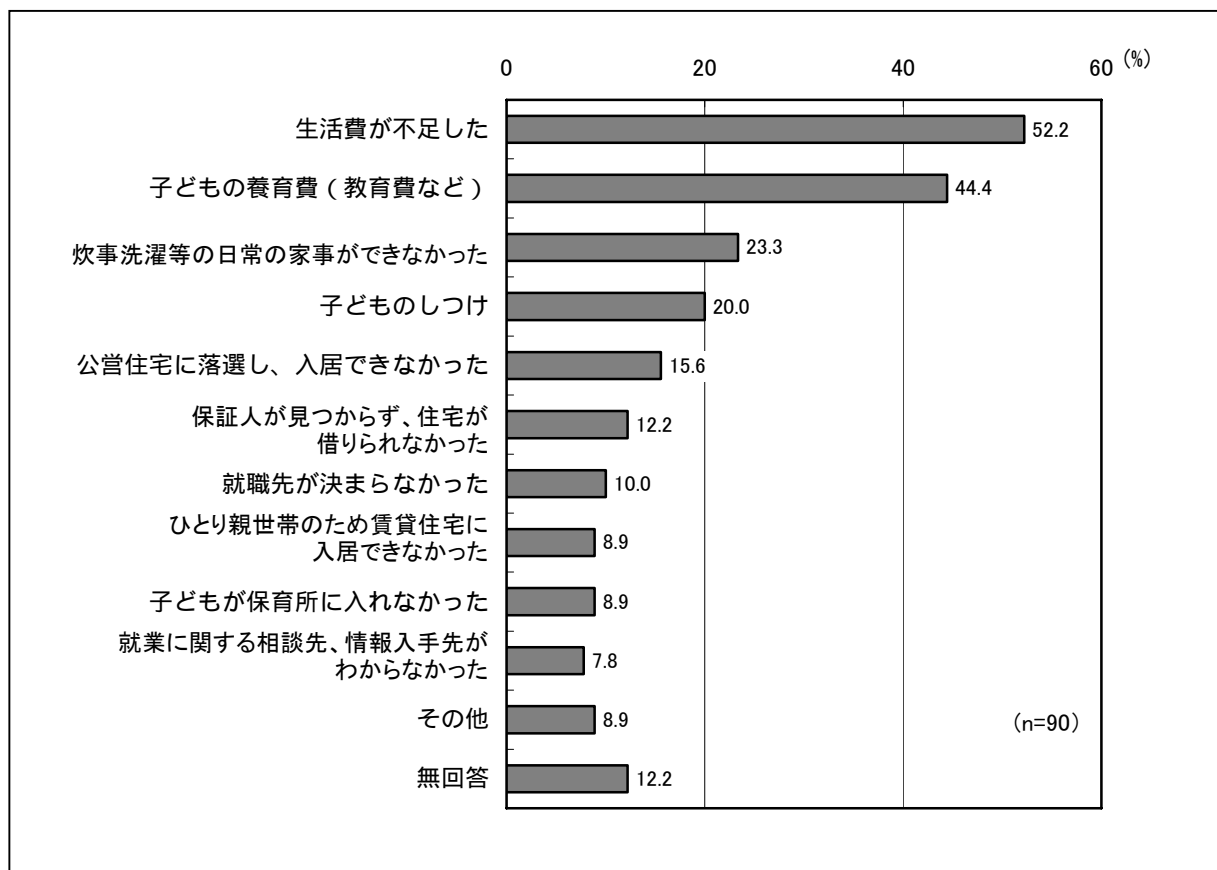
養育費等に関する法律相談の利用意向



(3) ひとり親になったときに、困ったこと、悩んだこと

ひとり親になったときに、困ったこと、悩んだことをみると、「生活費が不足した」が最も多く52.2%、次いで「子どもの養育費（教育費など）」が44.4%、「炊事洗濯等の日常の家事ができなかった」が23.3%、「子どものしつけ」が20.0%、「公営住宅に落選し、入居できなかった」が15.6%と続いている。

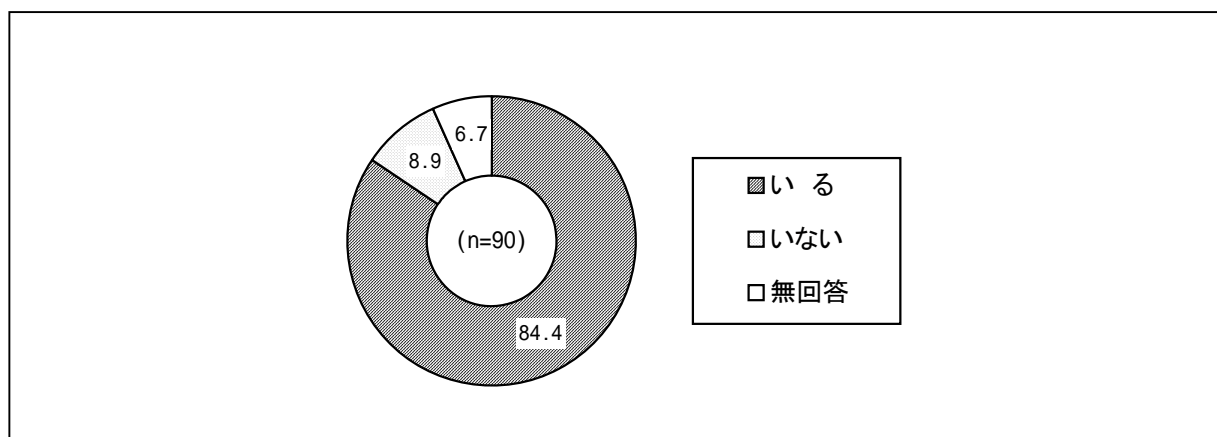
ひとり親になったときに、困ったこと、悩んだこと（複数回答）



(4) 困ったことや悩みごとを相談できる相手の有無

困ったことや悩みごとを相談できる相手の有無をみると、「いる」が84.4%、「いない」が8.9%となっている。

困ったことや悩みごとを相談できる相手の有無

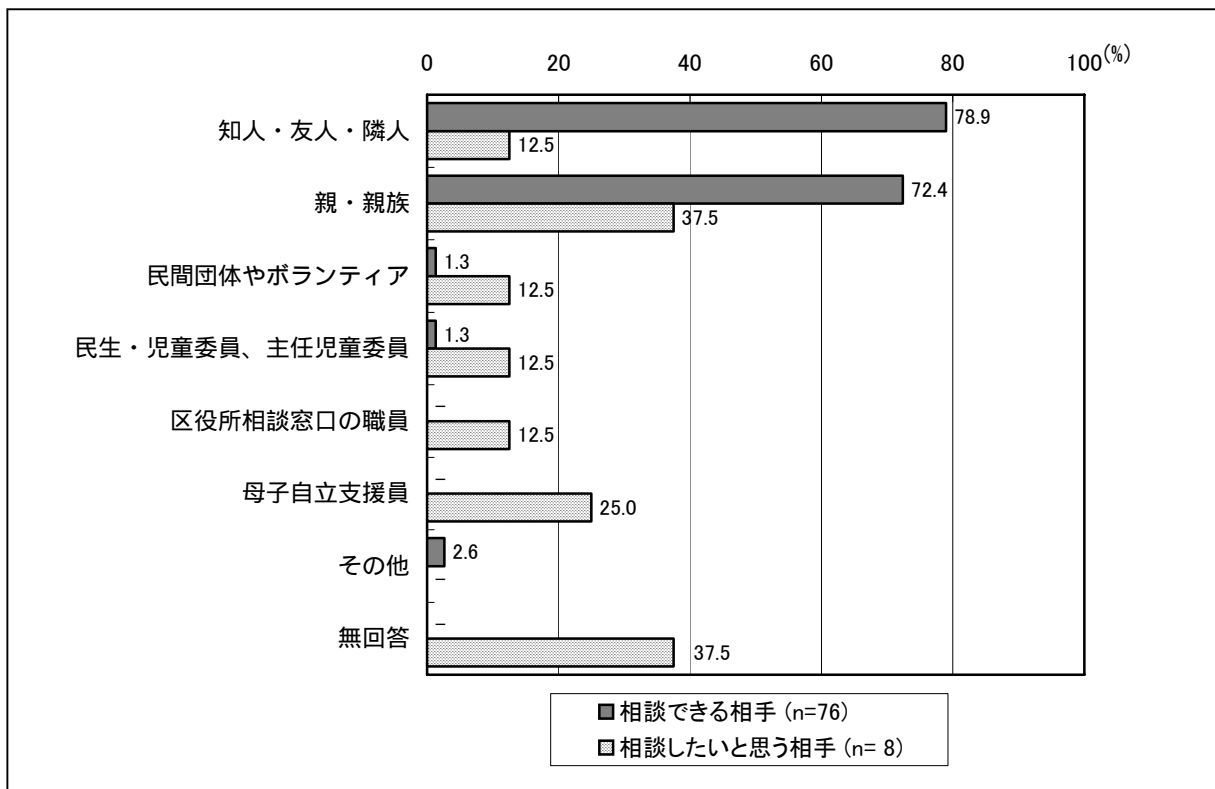


(5) 相談相手先

相談できる人が「いる」と回答した人の“相談できる相手”をみると、「知人・友人・隣人」が最も多く78.9%、次いで「親・親類」が72.4%、「民間団体やボランティア」と「民生・児童委員、主任児童委員」が1.3%となっている。

一方、相談できる人が「いない」と回答した人の“相談したいと思う相手”をみると、「親・親類」が最も多く37.5%、次いで「母子自立支援員」が25.0%と続いている。

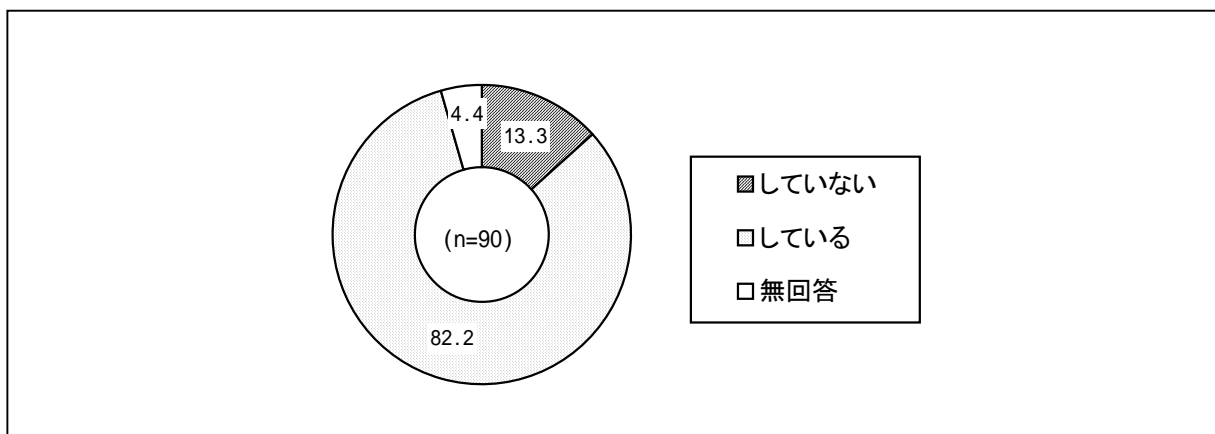
相談相手先（複数回答）



(6) 収入を伴う仕事の有無

収入を伴う仕事の有無をみると、「している」が82.2%、「していない」が13.3%となっている。

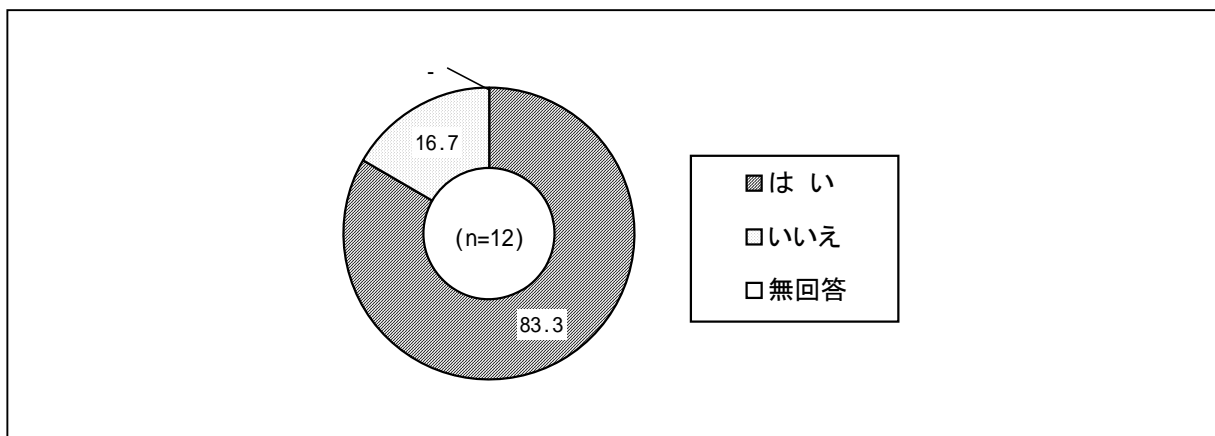
収入を伴う仕事の有無



(7) 働く意向

収入が伴う仕事の有無について「していない」と回答した人の働く意向をみると「はい」が83.3%、「いいえ」が16.7%となっている。

働く意向

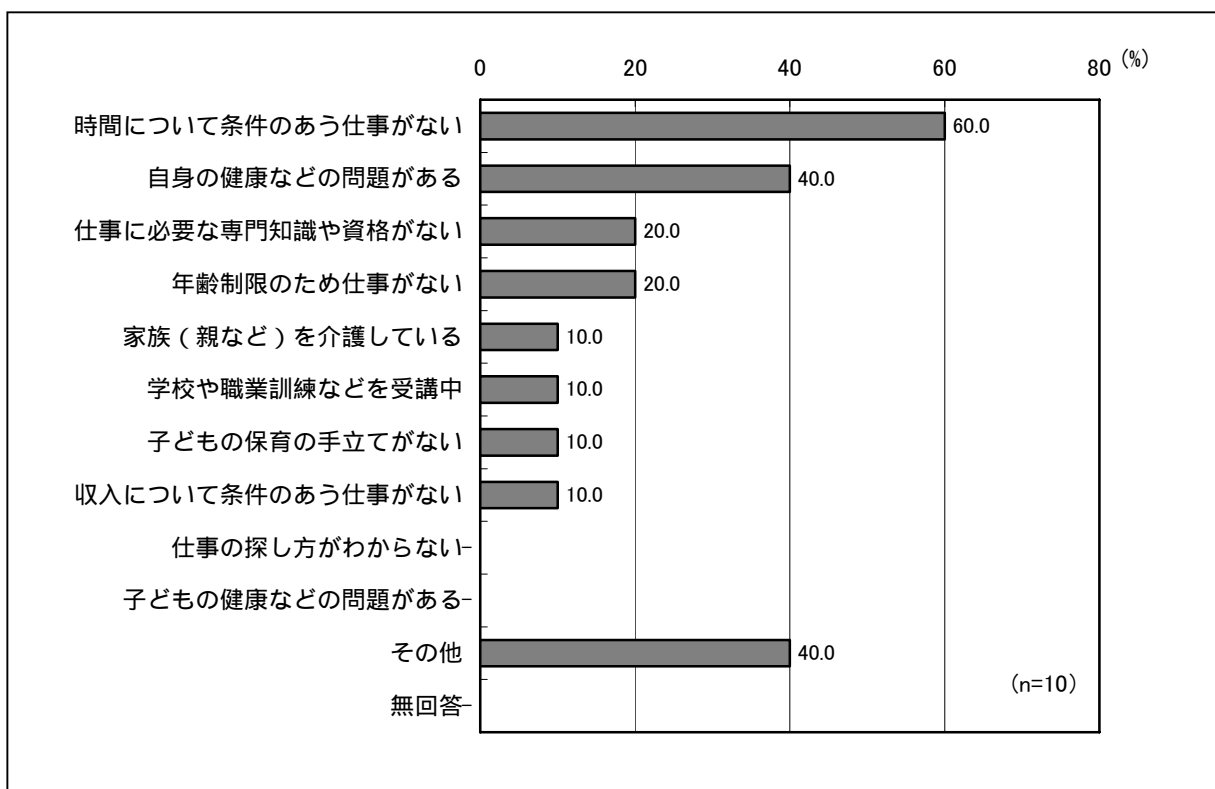


(8) 働いていない理由

働く意向について、「はい」と回答した人の働いていない理由をみると、「時間について条件のあう仕事がない」が最も多く60.0%、次いで「自身の健康などの問題がある」が40.0%、「仕事に必要な専門知識や資格がない」「年齢制限のために仕事がない」がともに20.0%と続いている。

「その他」の内容として、“病気だから” “子どもにアレルギーがあり、給食を作り持っていってからの” “学校の行事日程とあわないから” などの意見が寄せられている。

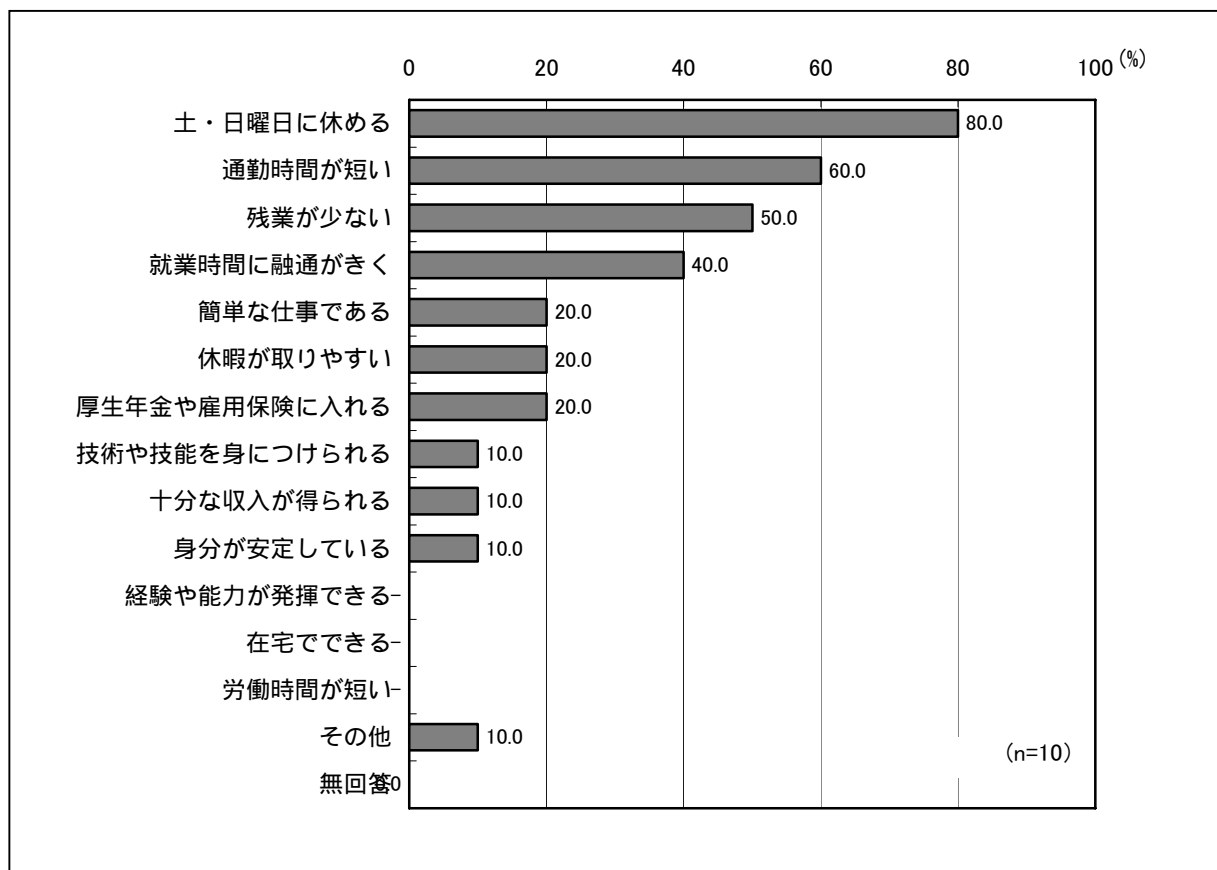
働いていない理由 (複数回答)



(9) 就業する際に重視すること

働く意向について、「はい」と回答した人の就業する際に重視することをみると、「土・日曜日に休める」が最も多く80.0%、次いで「通勤時間が短い」が60.0%、「残業が少ない」が50.0%、「就業時間に融通がきく」が40.0%、「簡単な仕事である」「休暇が取りやすい」「厚生年金や雇用保険に入れる」がともに20.0%と続いている。

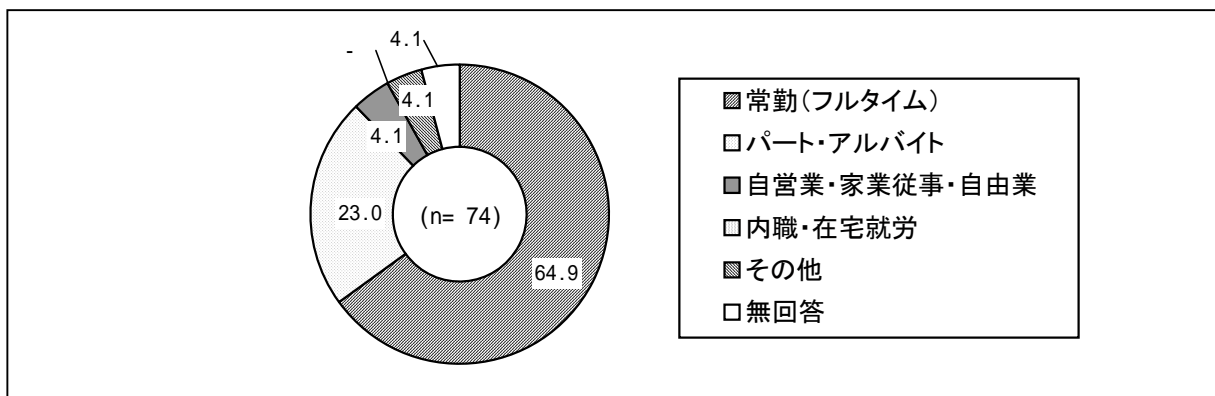
就業する際に重視すること（複数回答）



(10) 現在の仕事の形態

現在の仕事の形態をみると、「常勤(フルタイム)」が最も多く64.9%、次いで「パート・アルバイト」が23.0%、「自営業・家業従事・自由業」が4.1%となっている。

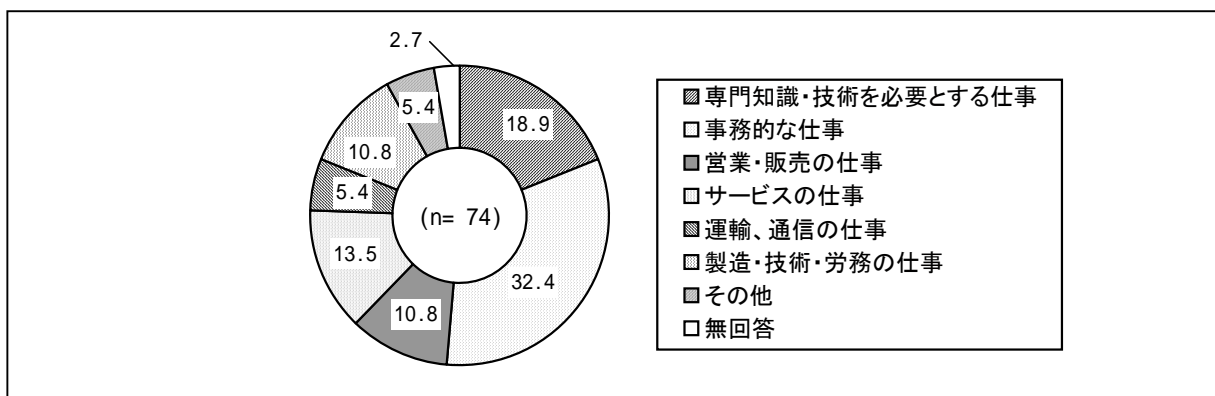
現在の仕事の形態



(11) 現在の仕事の職種

現在の仕事の職種をみると、「事務的な仕事」が最も多く32.4%、次いで「専門知識・技術を必要とする仕事」が18.9%、「サービスの仕事」が13.5%、「営業・販売の仕事」「製造・技術・労務の仕事」がともに10.8%、「運輸、通信の仕事」が5.4%となっている。

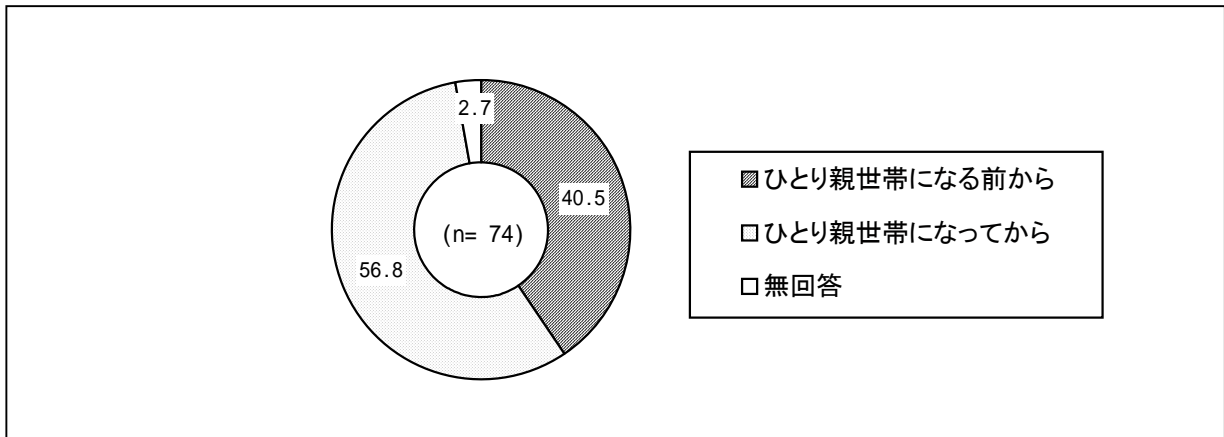
現在の仕事の職種



(12) 現在の仕事を始めた時期

現在の仕事を始めた時期をみると、「ひとり親世帯になってから」が56.8%、「ひとり親世帯になる前から」が40.5%となっている。

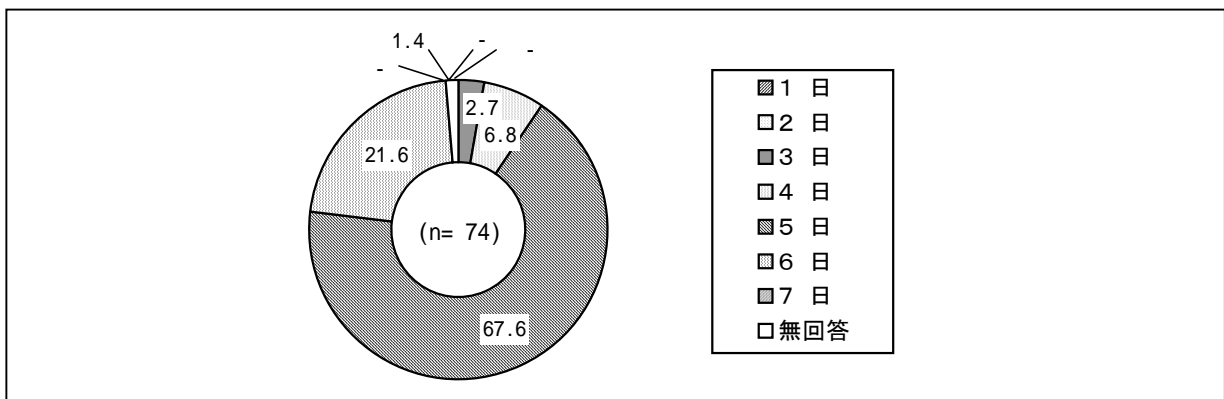
現在の仕事を始めた時期



(13) 1週あたりの勤務日数

1週あたりの勤務日数をみると、「5日」が最も多く67.6%、次いで「6日」が21.6%、「4日」が6.8%、「3日」が2.7%となっている。

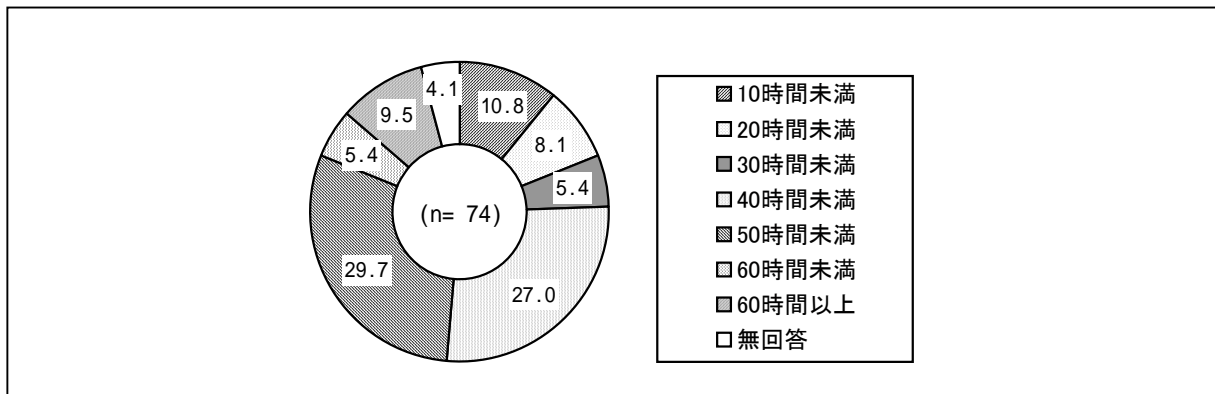
1週あたりの勤務日数



(14) 1週あたりの平均就業時間

1週あたりの平均就業時間をみると、「50時間未満」が最も多く29.7%、次いで「40時間未満」が27.0%、「10時間未満」が10.8%、「60時間以上」が9.5%、「20時間未満」が8.1%と続いている。

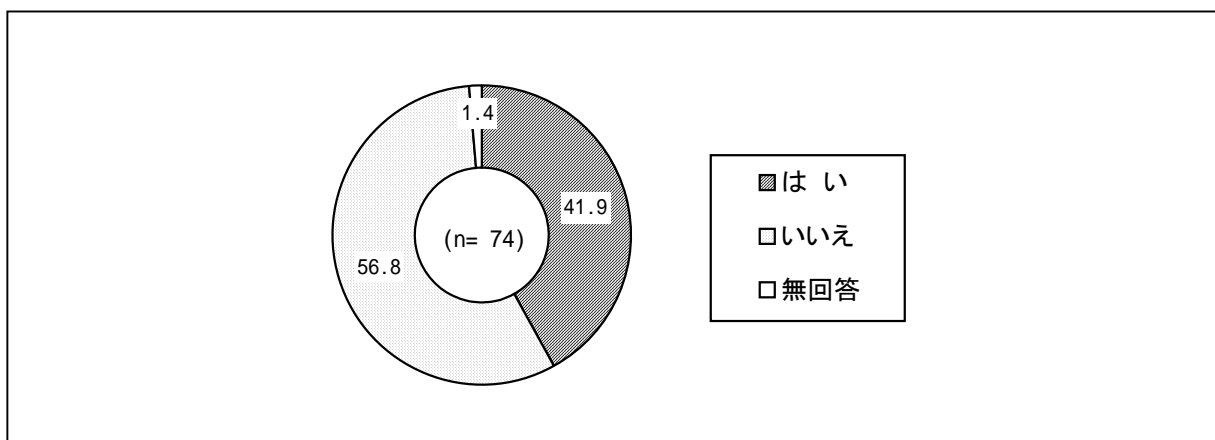
1週あたりの平均就業時間



(15) 転職する希望の有無

転職する希望の有無をみると、「いいえ」が56.8%、「はい」が41.9%となっている。

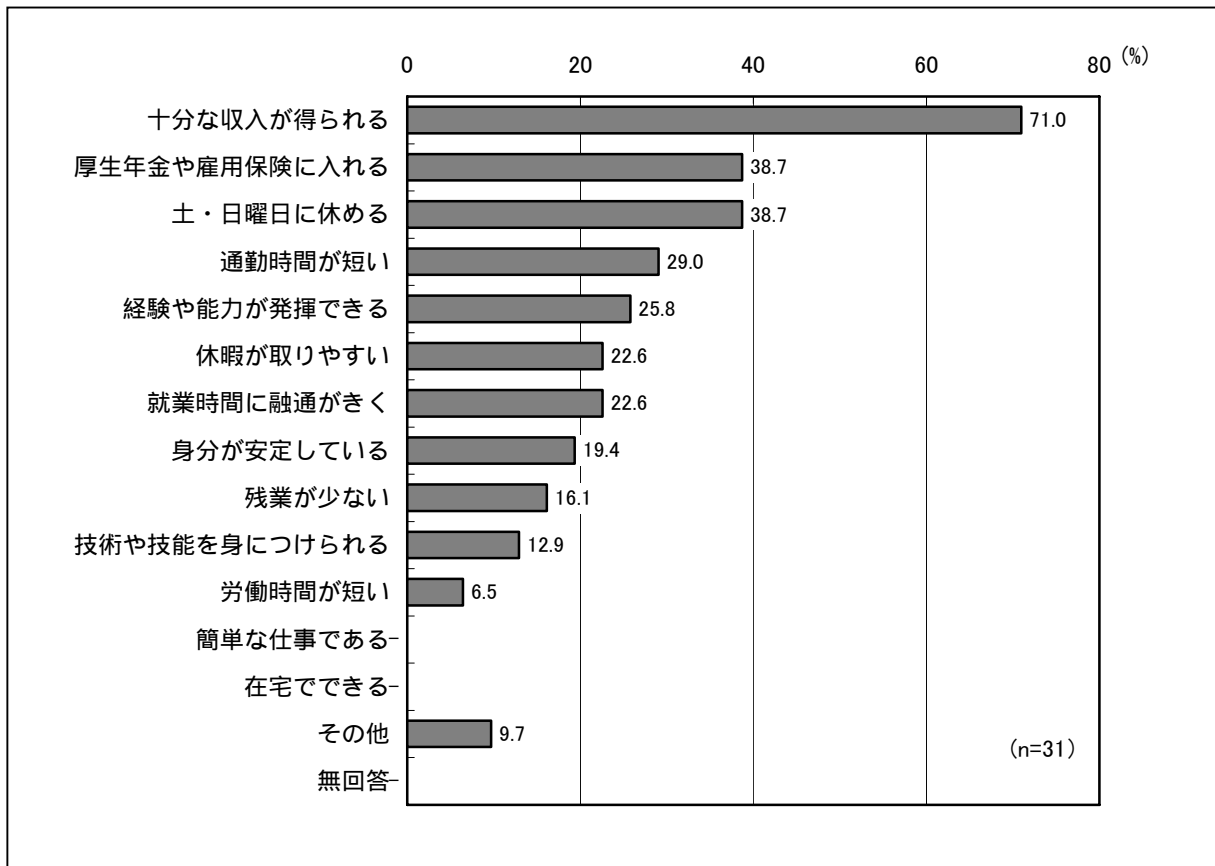
転職する希望の有無



(16) 転職先を選ぶ際に重視すること

転職先を選ぶ際に重視することをみると、「十分な収入が得られる」が最も多く71.0%、次いで「厚生年金や雇用保険に入れる」「土・日曜日に休める」がともに38.7%、「通勤時間が短い」が29.0%、「経験や能力が発揮できる」が25.8%と続いている。

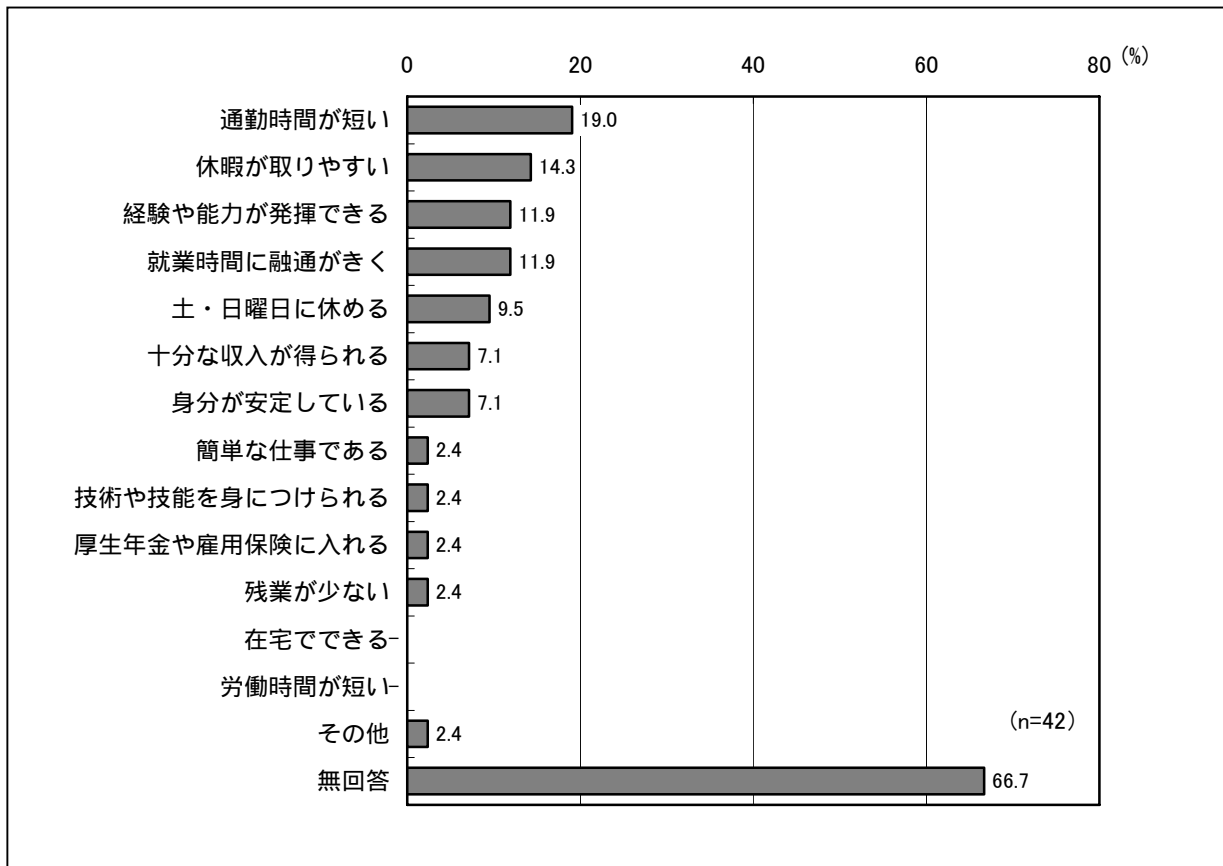
転職先を選ぶ際に重視すること（複数回答）



(17) 現在の仕事・職場のよいところ

現在の仕事・職場のよいところをみると、「通勤時間が短い」が最も多く19.0%、次いで「休暇が取りやすい」が14.3%、「経験や能力が発揮できる」「就業時間に融通がきく」がともに11.9%、「土・日曜日に休める」が9.5%と続いている。

現在の仕事・職場のよいところ（複数回答）

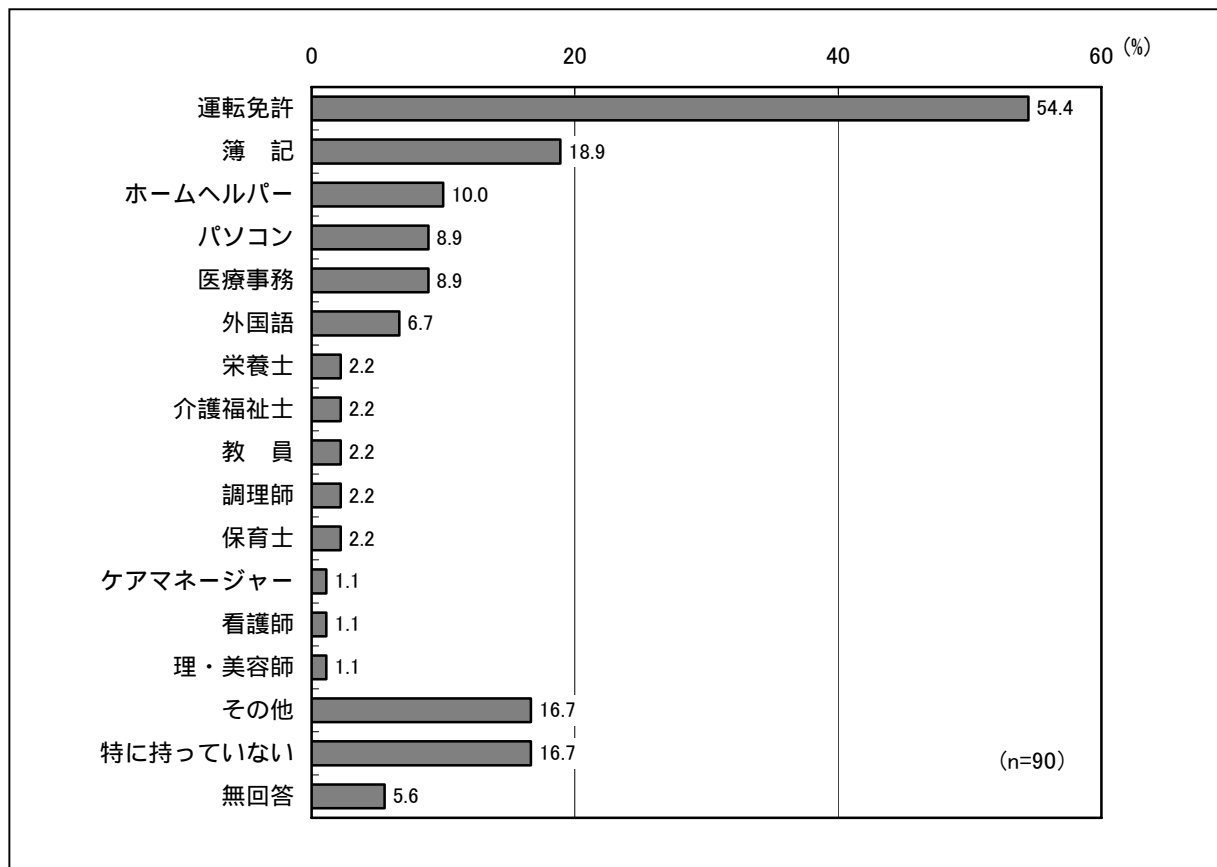


(18) 現在持っている資格・技能

現在持っている資格・技能をみると、「運転免許」が最も多く54.4%、次いで「簿記」が18.9%、「特に持っていない」が16.7%、「ホームヘルパー」が10.0%、「パソコン」「医療事務」がともに8.9%と続いている。

「その他」の内容として、“社会福祉士”“通関士”“鍼灸師”“宅地建物取引主任者”“薬剤師”などの回答が寄せられている。

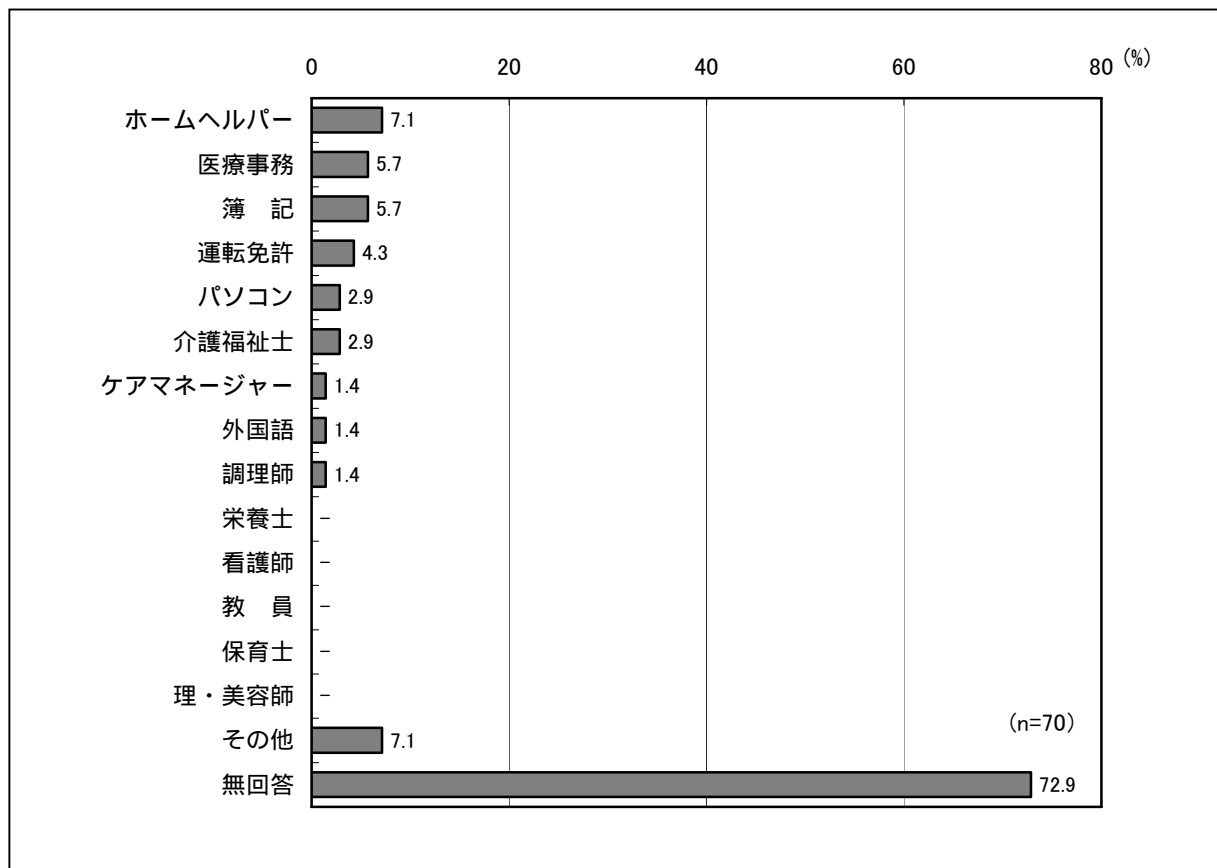
現在持っている資格・技能（複数回答）



(19) ひとり親になってから取得した資格・技能

資格・技能を持っていると回答した人について、ひとり親になってから取得した資格・技能をみると、「ホームヘルパー」が最も多く7.1%、次いで「医療事務」「簿記」がともに5.7%、「運転免許」が4.3%、「パソコン」「介護福祉士」がともに2.9%と続いている。

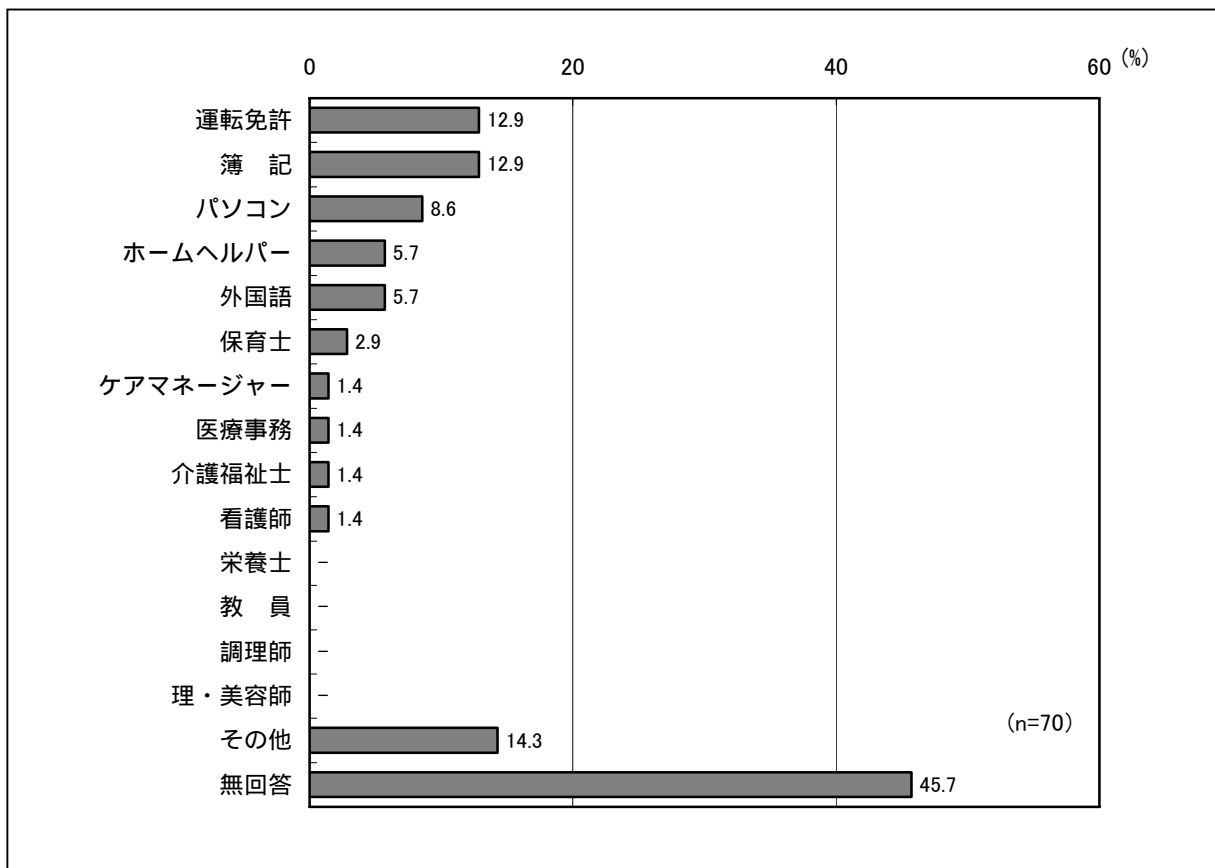
ひとり親になってから取得した資格・技能（複数回答）



(20) 実際に役立っている資格・技能

資格・技能を持っていると回答した人について、実際に役立っている資格・技能をみると、「運転免許」「簿記」が最も多くともに12.9%、次いで「パソコン」が8.6%、「ホームヘルパー」「外国語」がともに5.7%と続いている。

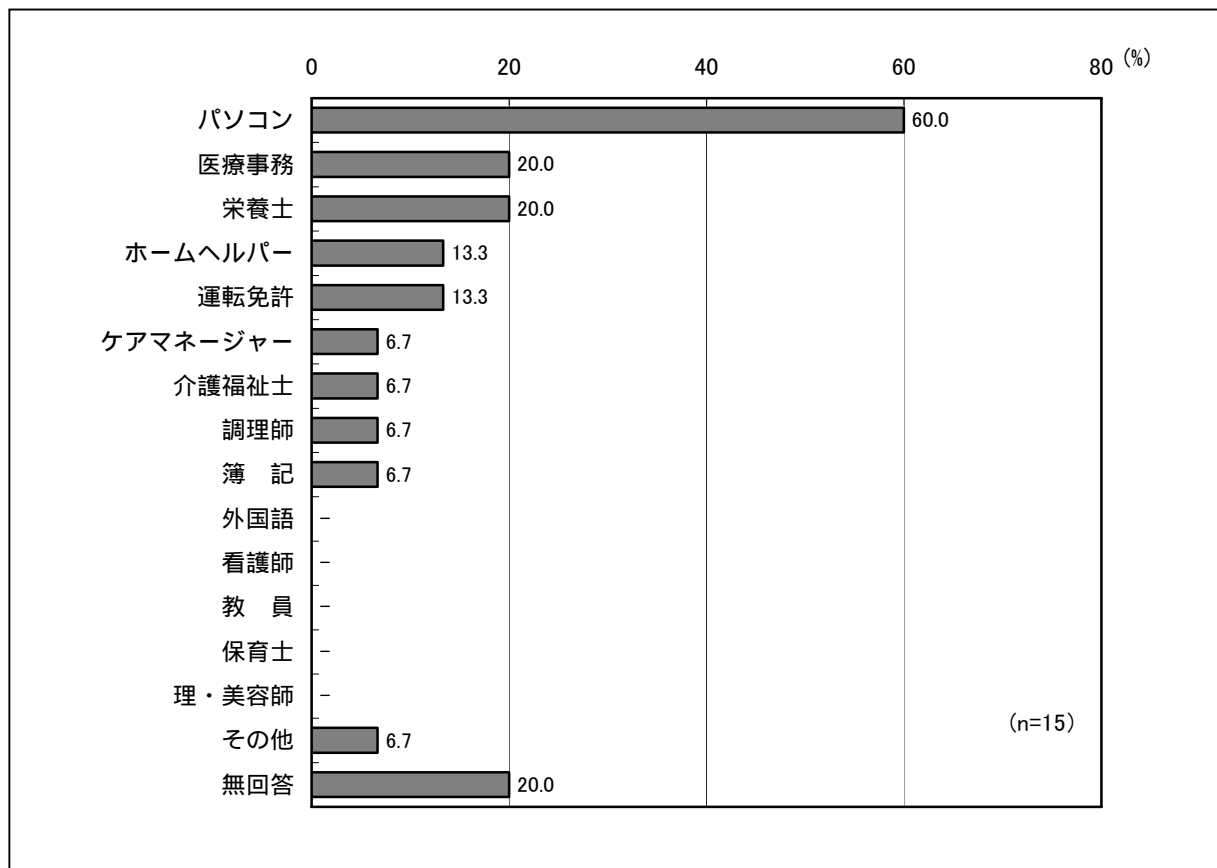
実際に役立っている資格・技能（複数回答）



(21) 今後、身につけたい資格・技能

現在、資格・技能について「特に持っていない」と回答した人の今後、身につけたい資格・技能をみると、「パソコン」が最も多く60.0%、次いで「医療事務」「栄養士」がともに20.0%、「ホームヘルパー」「運転免許」がともに13.3%と続いている。

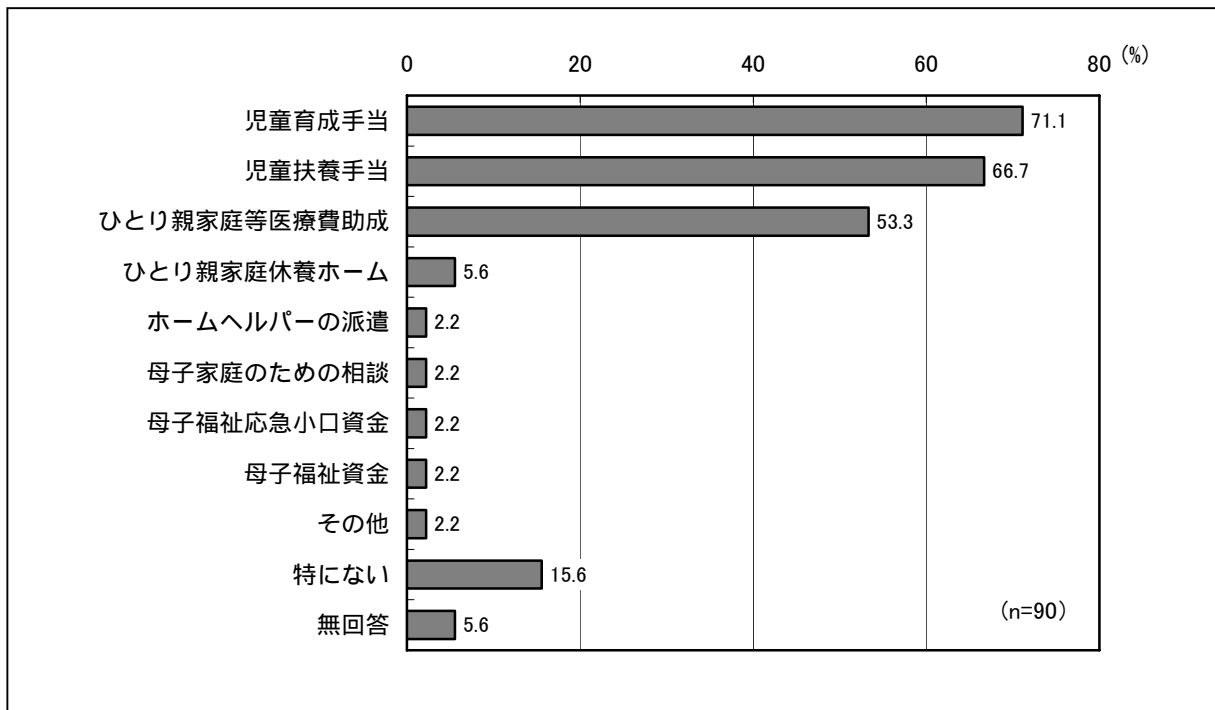
今後、身につけたい資格・技能（複数回答）



(22) 北区が実施している制度の利用状況

北区が実施している制度の利用状況を見ると、「児童育成手当」が最も多く71.1%、次いで「児童扶養手当」が66.7%、「ひとり親家庭等医療費助成」が53.3%と続いている。

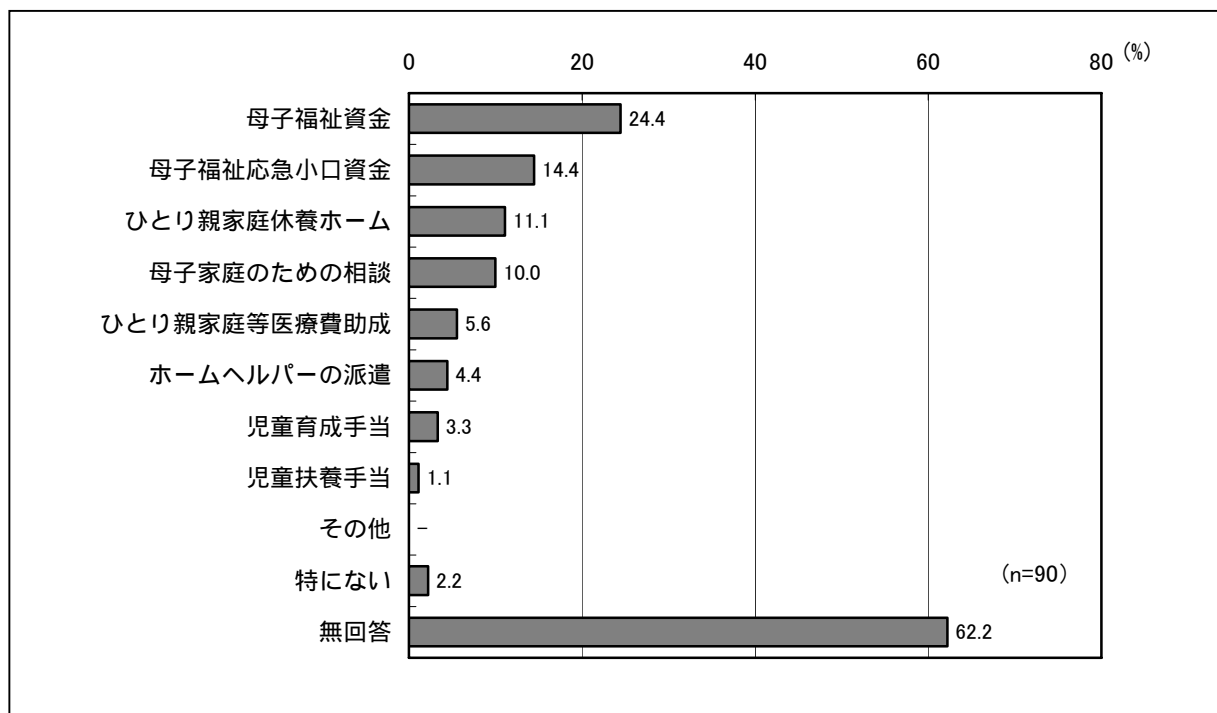
北区が実施している制度の利用状況（複数回答）



(23) 内容を知りたい、もっと詳しく聞きたい制度

北区が実施している制度について、内容を知りたい、もっと詳しく聞きたい制度をみると、「母子福祉資金」が最も多く24.4%、次いで「母子福祉応急小口資金」が14.4%、「ひとり親家庭休養ホーム」が11.1%、「母子家庭のための相談」が10.0%、「ひとり親家庭等医療費助成」が5.6%と続いている。

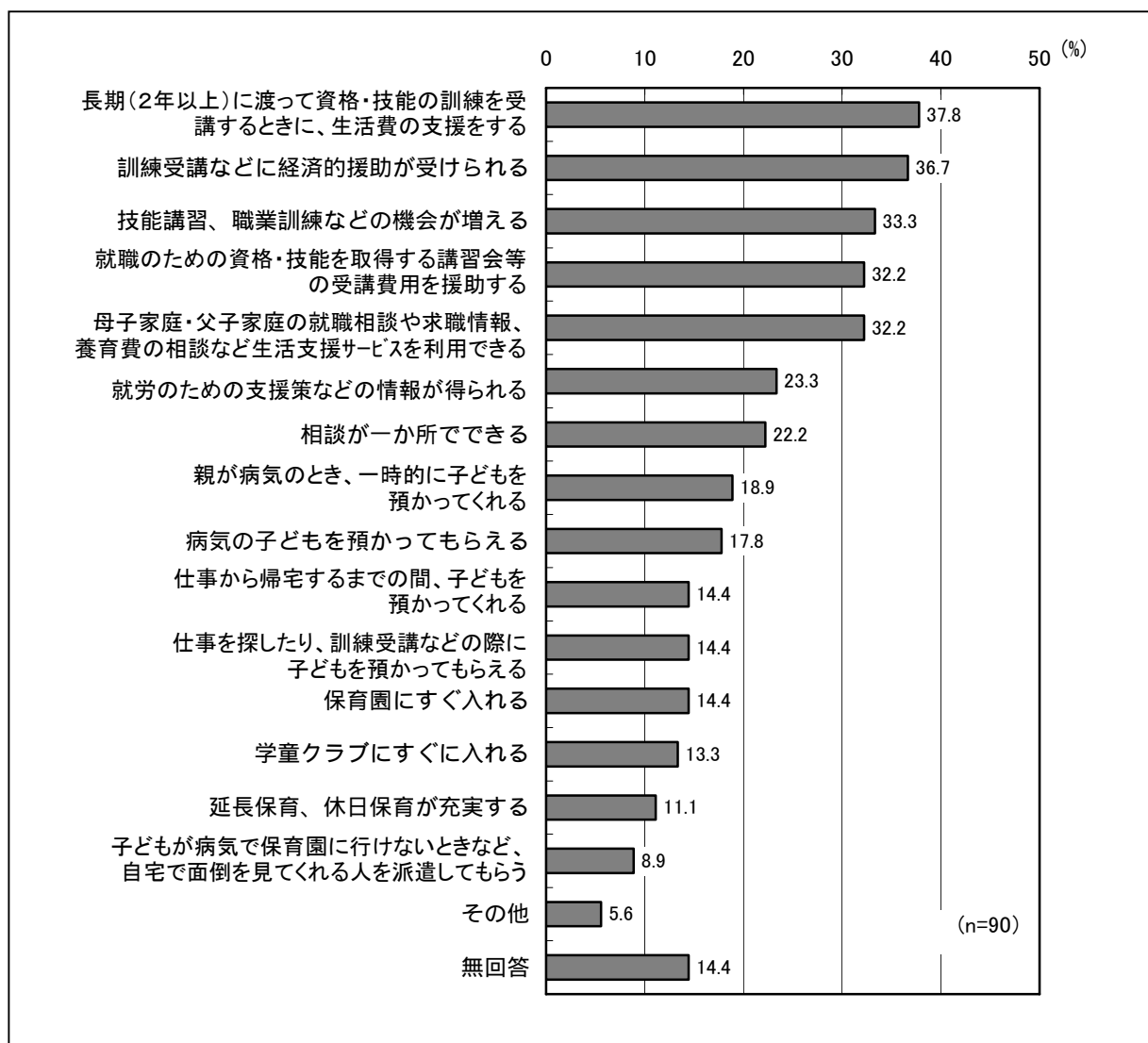
内容を知りたい、もっと詳しく聞きたい制度（複数回答）



(24) 就職や仕事のために、区に望む支援

就職や仕事のために、区に望む支援をみると、「長期（2年以上）に渡って資格・技能の訓練を受講するときに、生活費の支援をする」が最も多く37.8%、次いで「訓練受講などに経済的援助が受けられる」が36.7%、「技能講習、職業訓練などの機会が増える」が33.3%、「就職のための資格・技能を取得する講習会等の受講費用を援助する」「母子家庭・父子家庭の就職相談や求職情報、養育費の相談など生活支援サービスを利用できる」がともに32.2%と続いている。

就職や仕事のために、区に望む支援（複数回答）

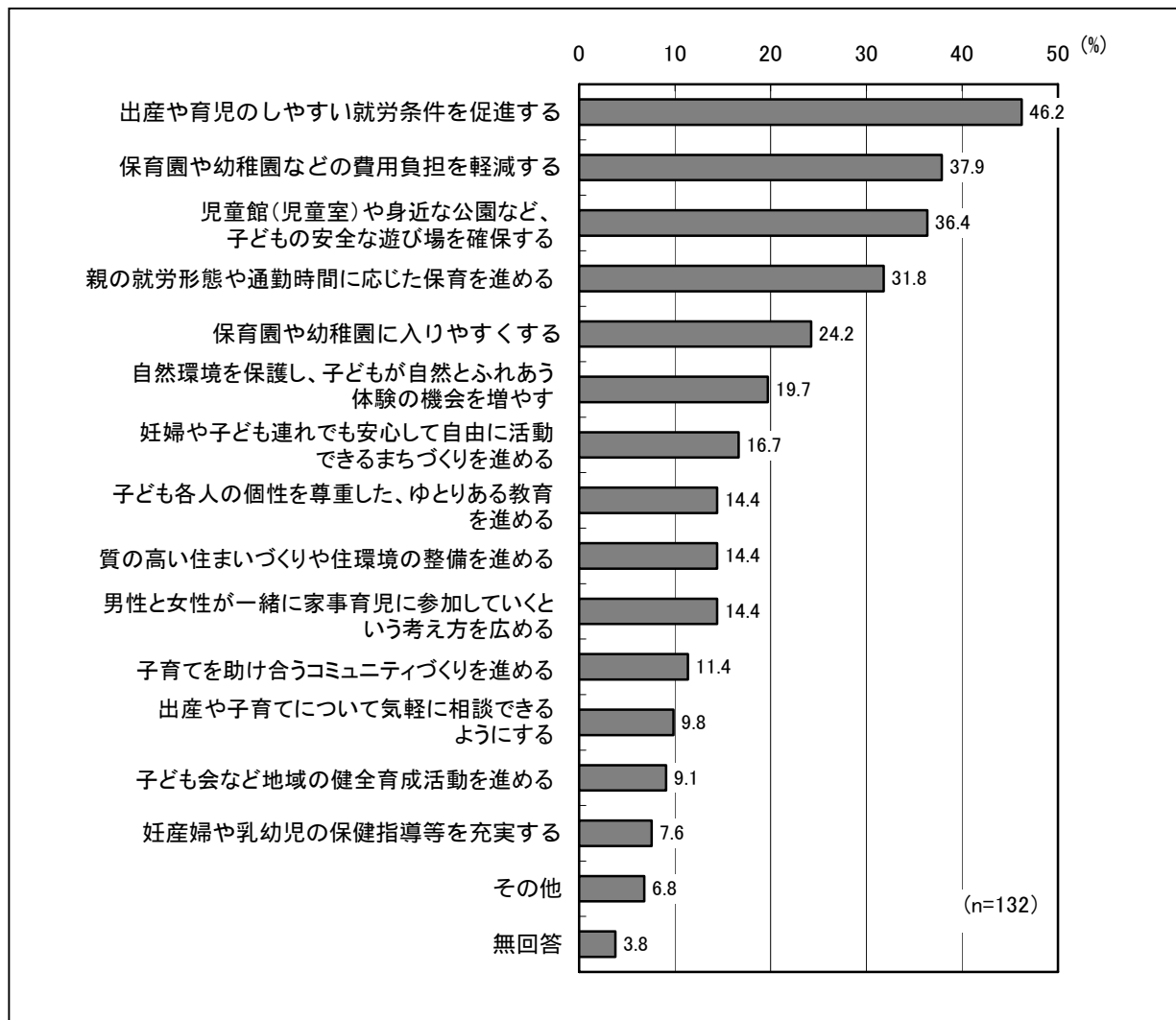


9. まちづくりや子育て支援のあり方について

(1) 子どもを健やかに産み育てるために必要なこと

子どもを健やかに産み育てるために必要なことは、「出産や育児のしやすい就労条件を促進する」が最も多く46.2%、次いで「保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する」が37.9%、「児童館(児童室)や身近な公園など、子どもの安全な遊び場を確保する」が36.4%、「親の就労形態や通勤時間に応じた保育を進める」が31.8%、「保育園や幼稚園に入りやすくする」が24.2%と続いている。

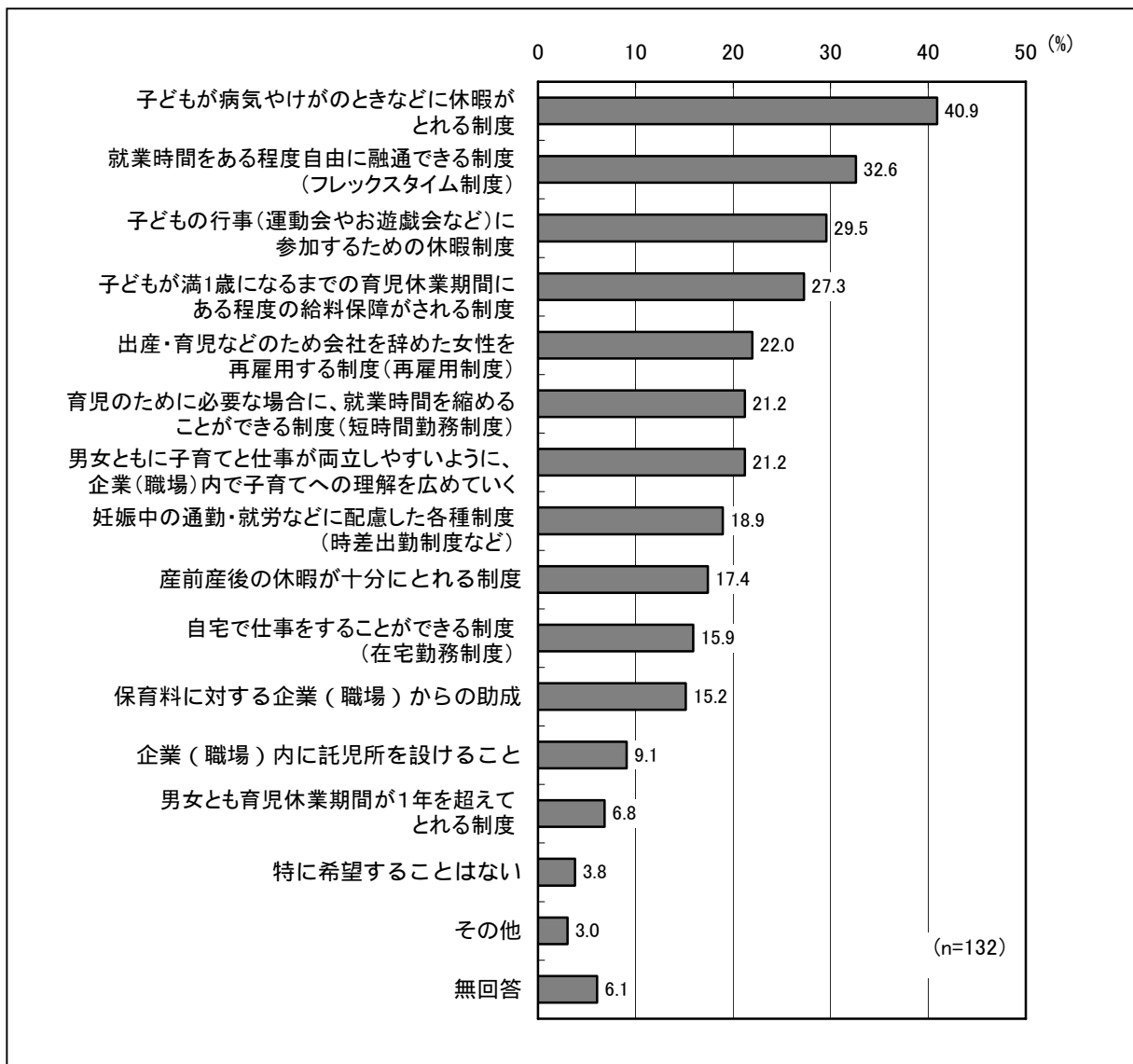
子どもを健やかに産み育てるために必要なこと(複数回答)



(2) 子育てと仕事を両立させるために、企業に望むこと

子育てと仕事の両立のために、企業に望むことは、「子どもが病気やけがのときなどに休暇がとれる制度」が最も多く40.9%、次いで「就業時間をある程度自由に融通できる制度(フレックスタイム制度)」が32.6%、「子どもの行事(運動会やお遊戯会など)に参加するための休暇制度」が29.5%、「子どもが満1歳になるまでの育児休業期間にある程度の給料保障がされる制度」が27.3%、「出産・育児などのため会社を辞めた女性を再雇用する制度(再雇用制度)」が22.0%と続いている。

子育てと仕事を両立させるために、企業に望むこと(複数回答)



事業所

1. 事業所の概要について

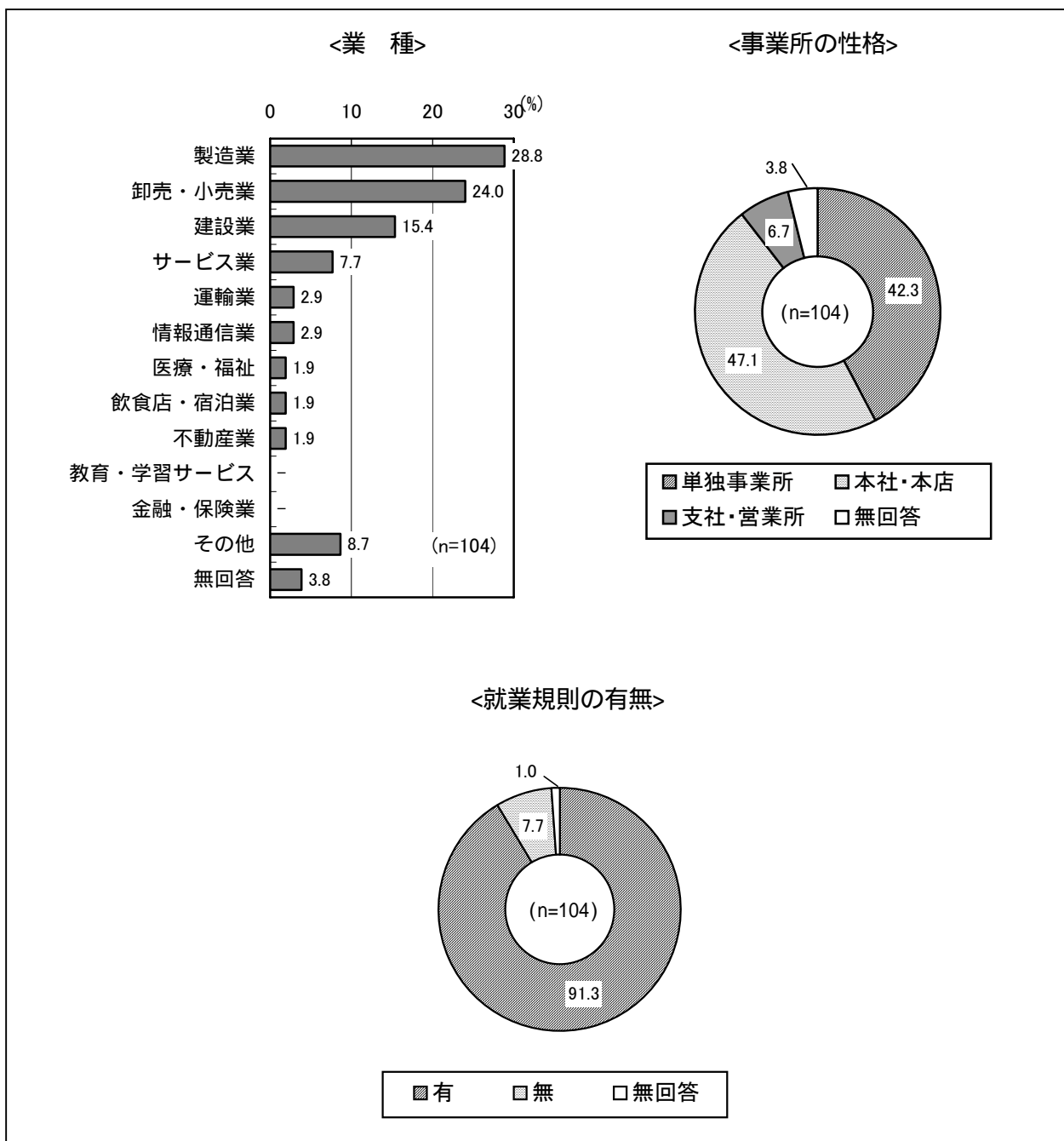
(1) 業種、事業所の性格、就業規則の有無

回答のあった事業所の業種については、「製造業」が最も多く28.8%、次いで「卸売・小売業」が24.0%、「建設業」が15.4%、「サービス業」が7.7%と続く。

事業所の性格については、「本社・本店」が最も多く47.1%、次いで「単独事業所」が42.3%、「支社・営業所」が6.7%となっている。

就業規則の有無については、「有」が91.3%、「無」が7.7%となっている。

業種、事業所の性格、就業規則の有無

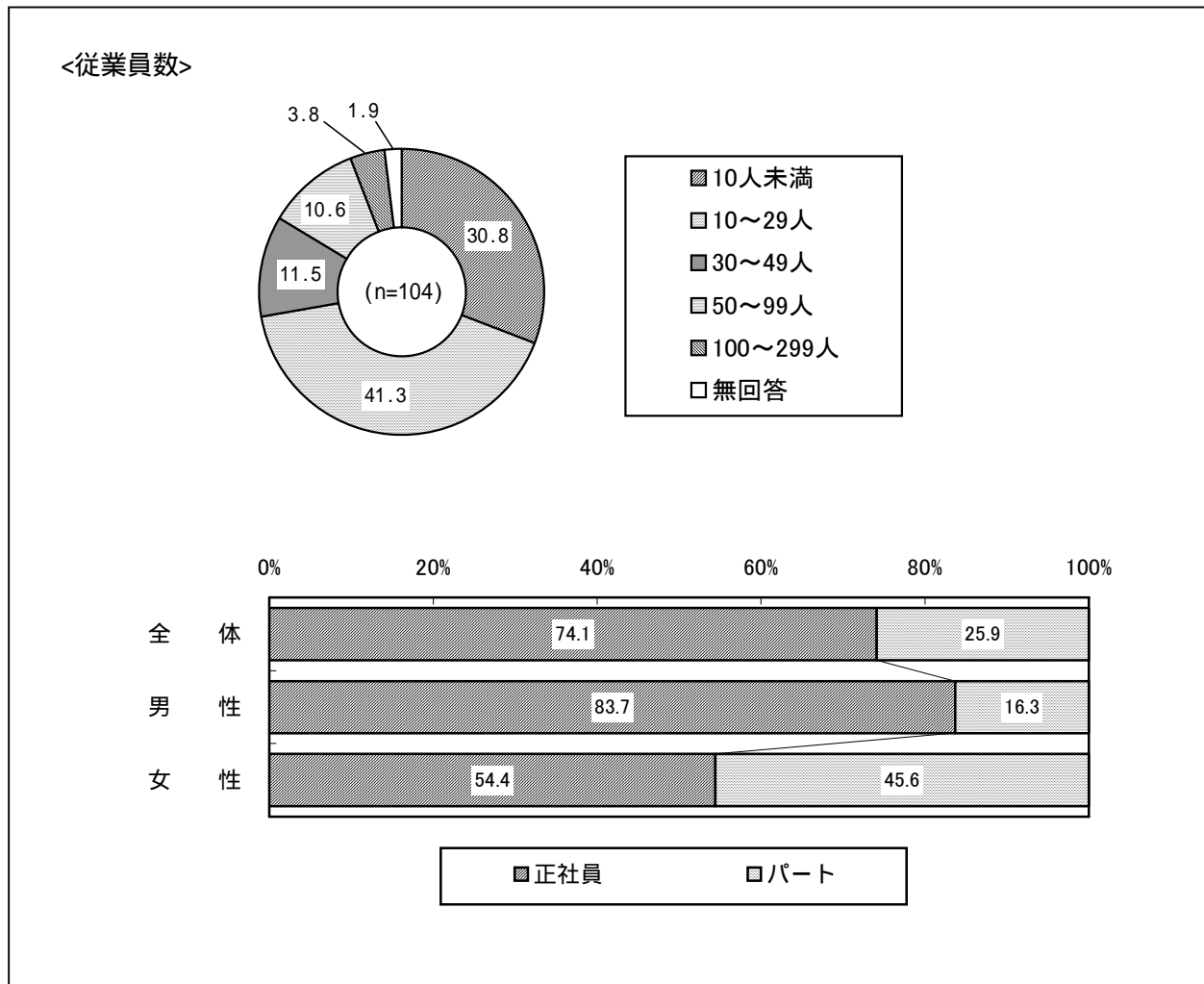


(2) 従業員数

従業員数をみると、「10～29人」が最も多く41.3%、次いで「10人未満」が30.8%、「30～49人」が11.5%、「50～99人」が10.6%、「100～299人」が3.8%となっている。

性別・就業形態別にみると、男性は正社員が83.7%、女性は正社員が54.4%となっている。

従業員数



(3) 役職者の状況

役職者がいる事業所の中で、女性役職者のいる事業所は58.1%、人数で見ると11.7%となっており、男性役職者のいる事業所は94.6%、人数で見ると88.3%となっている。

役員を含む管理職の状況を見ると、役員、部長相当職、課長相当職の男性がいる事業所は9割以上、係長相当職でも7割以上を占めているのに対し、女性の役員がいる事業所は43.9%、部長相当職で7.1%、課長相当職で21.8%、係長相当職で23.6%となっている。

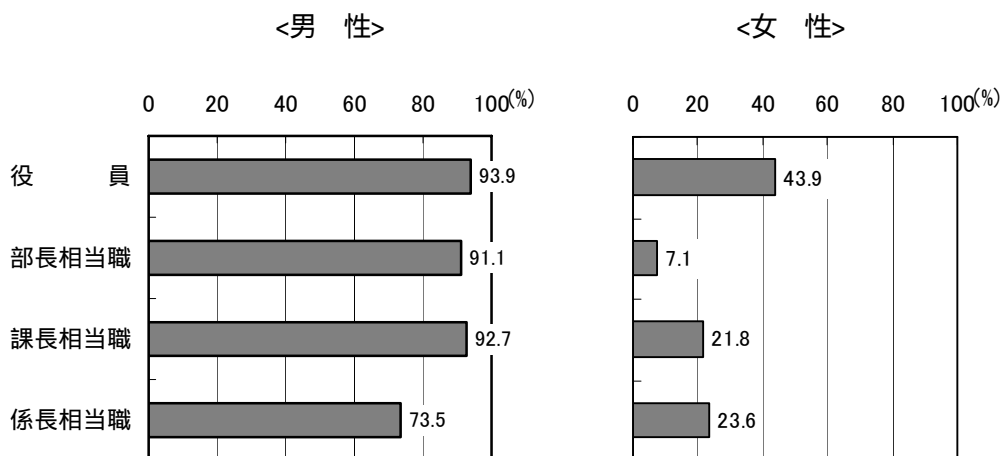
役職者の状況

管理職者全体に占める役職者数の割合

区 分	件 数	係長相当職以上の役職者のいる事業所	うち、男性役職者のいる事業所		うち、女性役職者のいる事業所	
				割合		割合
事業所数	104	93	88	94.6%	54	58.1%
		(837)	(739)	(88.3%)	(98)	(11.7%)

(注) 上段は事業所数、下段は管理職の人数である。

役職者を有する事業所の割合 (n=104)



(注) 上記の数値は、「無回答」を除いた割合である。

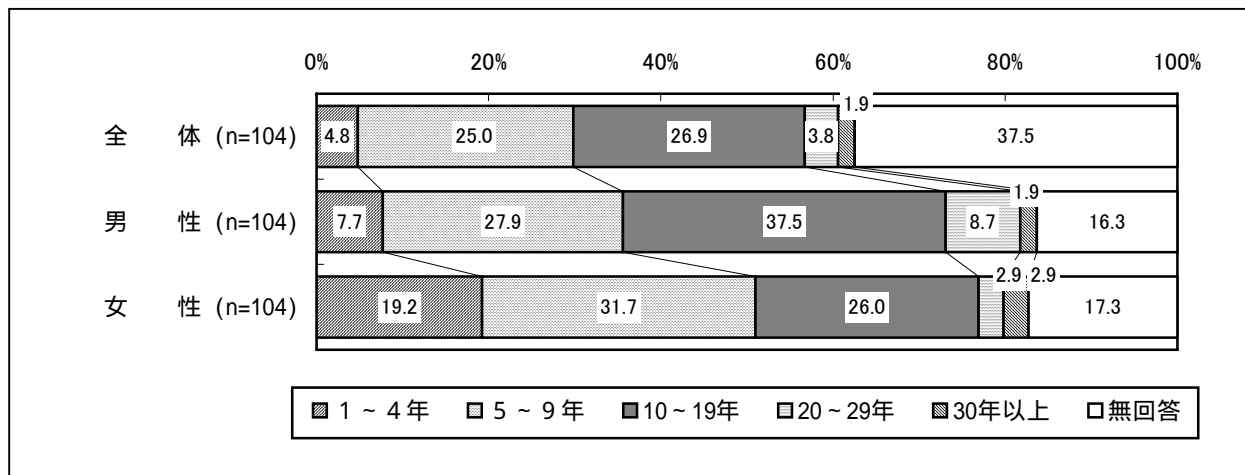
区 分	件 数	い る	い ない	無回答	
男 性	役 員	104	77	5	22
	部 長 相 当 職		51	5	48
	課 長 相 当 職		51	4	49
	係 長 相 当 職		36	13	55
女 性	役 員	104	36	46	22
	部 長 相 当 職		4	52	48
	課 長 相 当 職		12	43	49
	係 長 相 当 職		13	36	55

(4) 正社員の平均勤続年数

正社員の平均勤続年数をみると、全体では「10～19年」が最も多く26.9%、次いで「5～9年」が25.0%となっている。

性別にみると、男性では「10～19年」が最も多く37.5%、「5～9年」が27.9%であり、女性では「5～9年」が最も多く31.7%、「10～19年」が26.0%となっている。

正社員の平均勤務年数

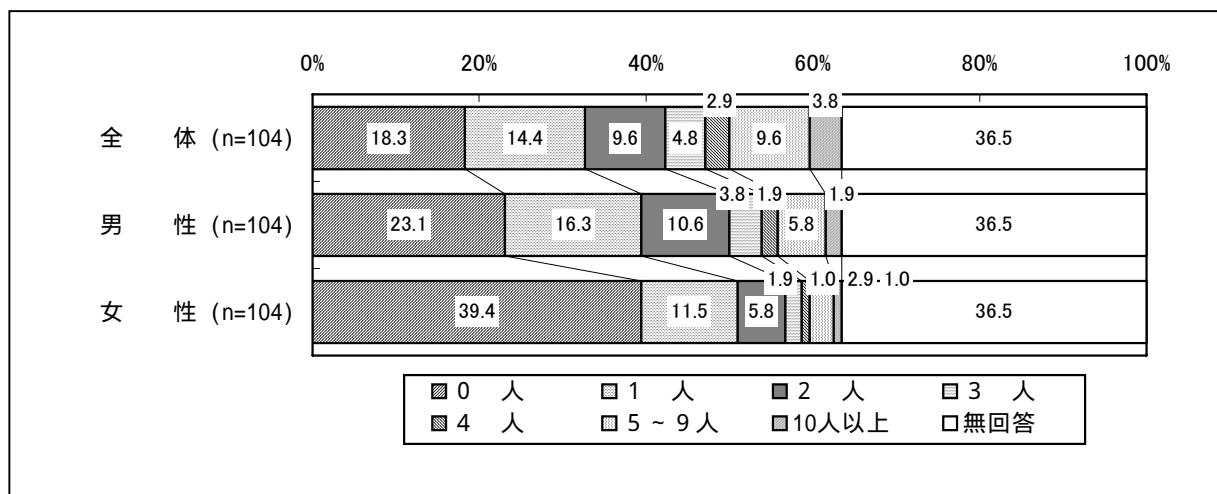


(5) 平成19年度の正社員新規採用数

平成19年度の正社員新規採用数をみると、全体では「0人」が最も多く18.3%、次いで「1人」が14.4%、「2人」「5～9人」がともに9.6%となっている。

性別にみると、男性、女性とも「0人」(それぞれ23.1%、39.4%)が多い。

平成19年度の正社員新規採用数

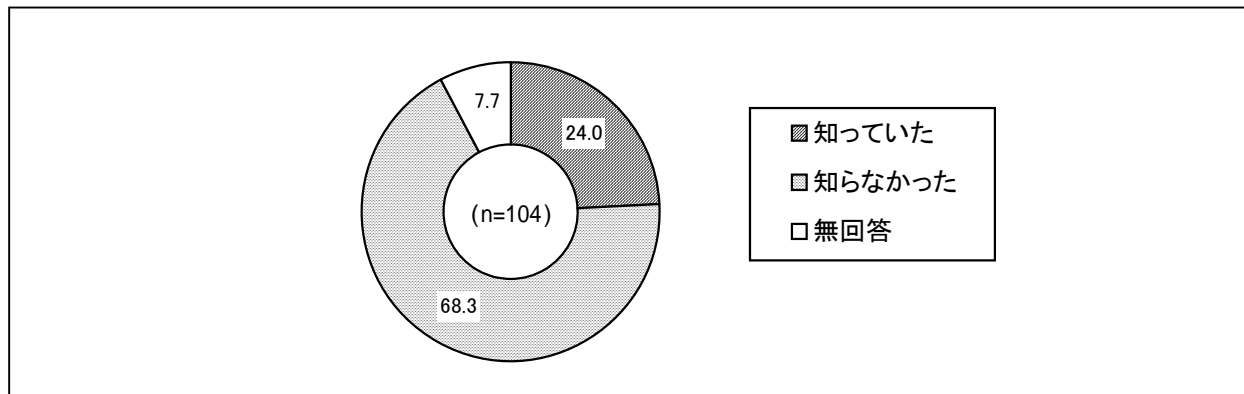


2. 一般事業主行動計画について

(1) 一般事業主行動計画策定の認知状況

一般事業主行動計画策定の認知状況をみると、「知っていた」は24.0%、「知らなかった」は68.3%となっている。

一般事業主行動計画策定の認知状況

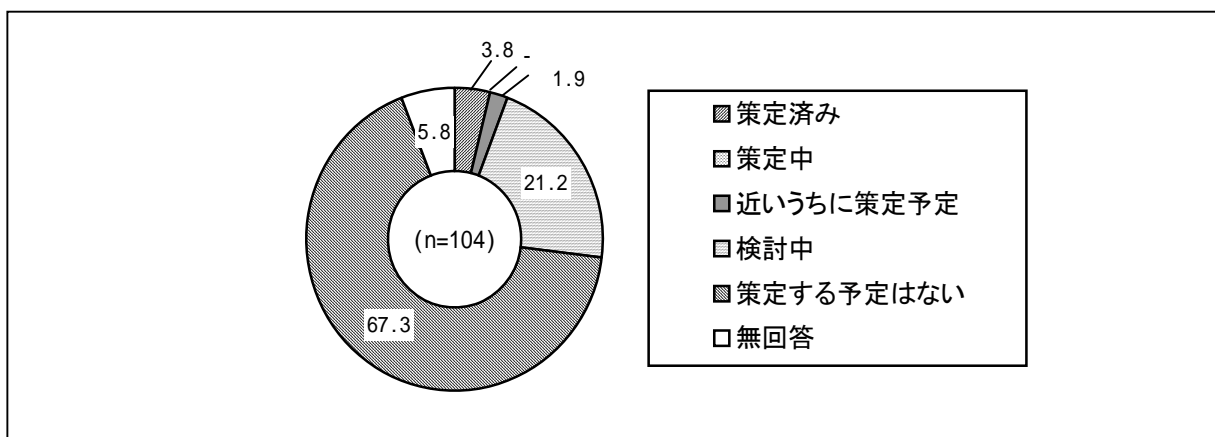


(2) 一般事業主行動計画の策定状況

一般事業主行動計画の策定状況

一般事業主行動計画の策定状況をみると、「策定済み」が3.8%、「近いうちに策定予定」が1.9%、「検討中」が21.2%、「策定する予定はない」が67.3%となっている。

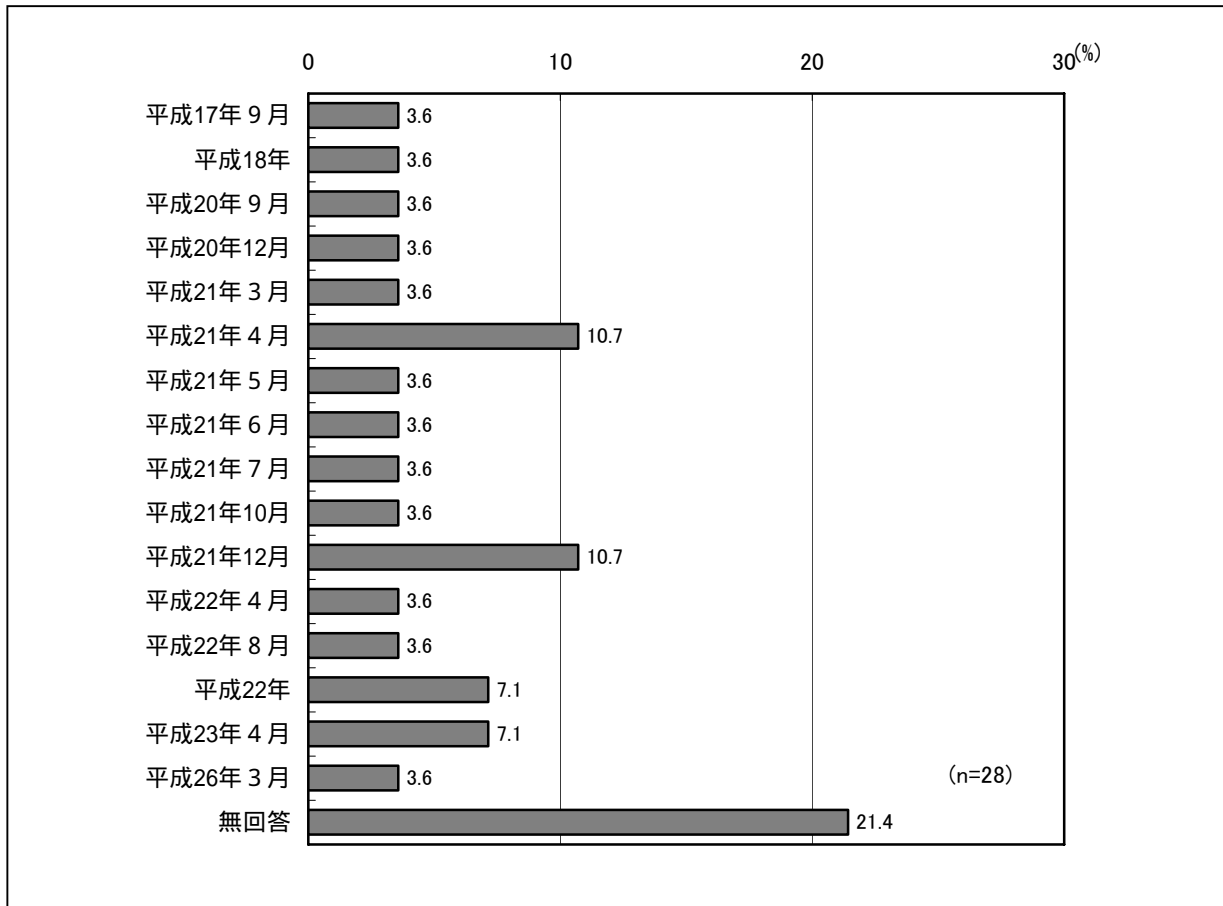
一般事業主行動計画の策定状況



一般事業主行動計画の策定（予定）時期

一般事業主行動計画を「策定済み」「近いうちに策定予定」「検討中」と回答した事業所の一般事業主行動計画の策定（予定）時期をみると、次のような回答が得られた。

一般事業主行動計画の策定（予定）時期



次世代認証マークの取得状況

一般事業主行動計画を「策定済み」と回答した事業所の次世代認証マークの取得状況をみると、全社が「取得する予定がない」であった。

次世代認証マークの取得状況

(単位: 人、%)

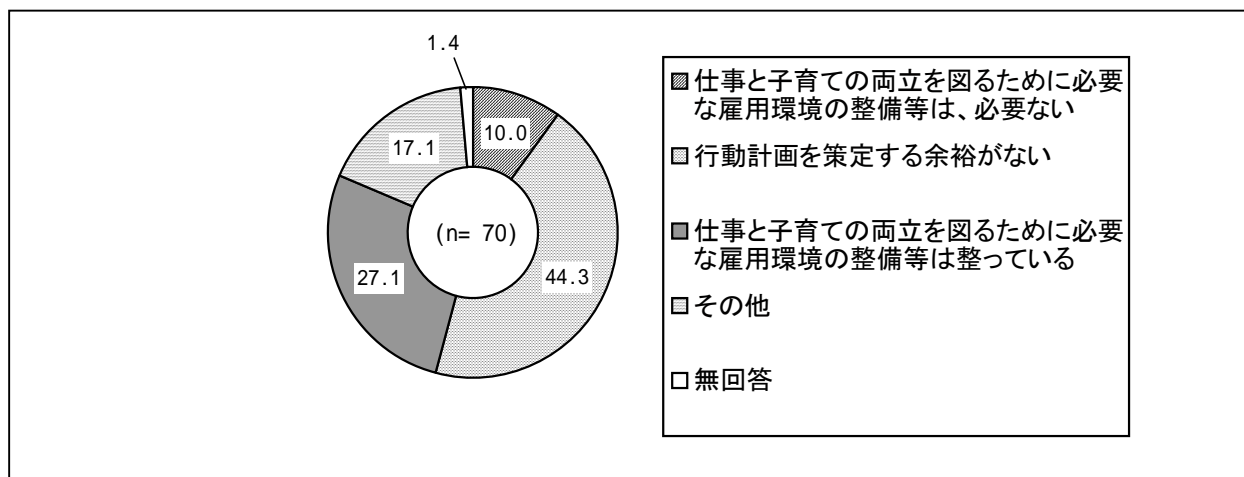
区分	件数	取得した	取得する 予定である	取得する 予定がない	無回答
全体	4	-	-	100.0	-

(3) 一般事業主行動計画を策定する予定がない理由

一般事業主行動計画を「策定する予定がない」と回答した事業所の一般事業主行動計画を策定する予定がない理由をみると、「行動計画を策定する余裕がない」が最も多く44.3%、次いで「仕事と子育ての両立を図るために必要な雇用環境の整備等は整っている」が27.1%、「仕事と子育ての両立を図るために必要な雇用環境の整備等は必要ない」が10.0%となっている。

「その他」の内容として、“子育ての終わった人しかいない” “該当する社員がいない” “女性の社員が少ない” “努力義務を知らなかった”などの意見が寄せられている。

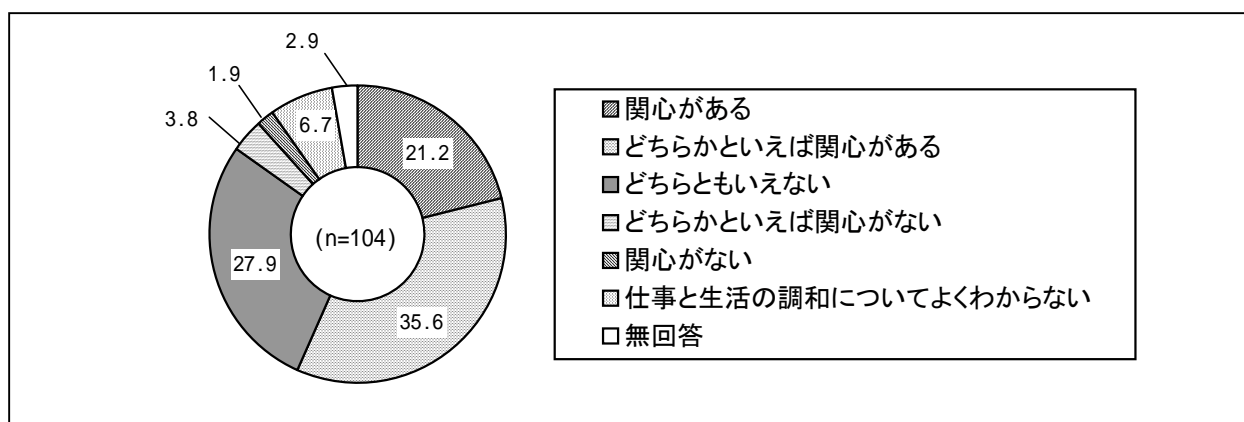
一般事業主行動計画を策定する予定がない理由



(4) 仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス) の関心度

仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス) の関心度をみると、“関心がある”が56.8% (「関心がある」21.2% + 「どちらかといえば関心がある」35.6%)、「どちらともいえない」が27.9%、「関心がない」は5.7% (「どちらかといえば関心がない」3.8% + 「関心がない」1.9%)、「仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス) についてよくわからない」が6.7%となっている。

仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス) の関心度

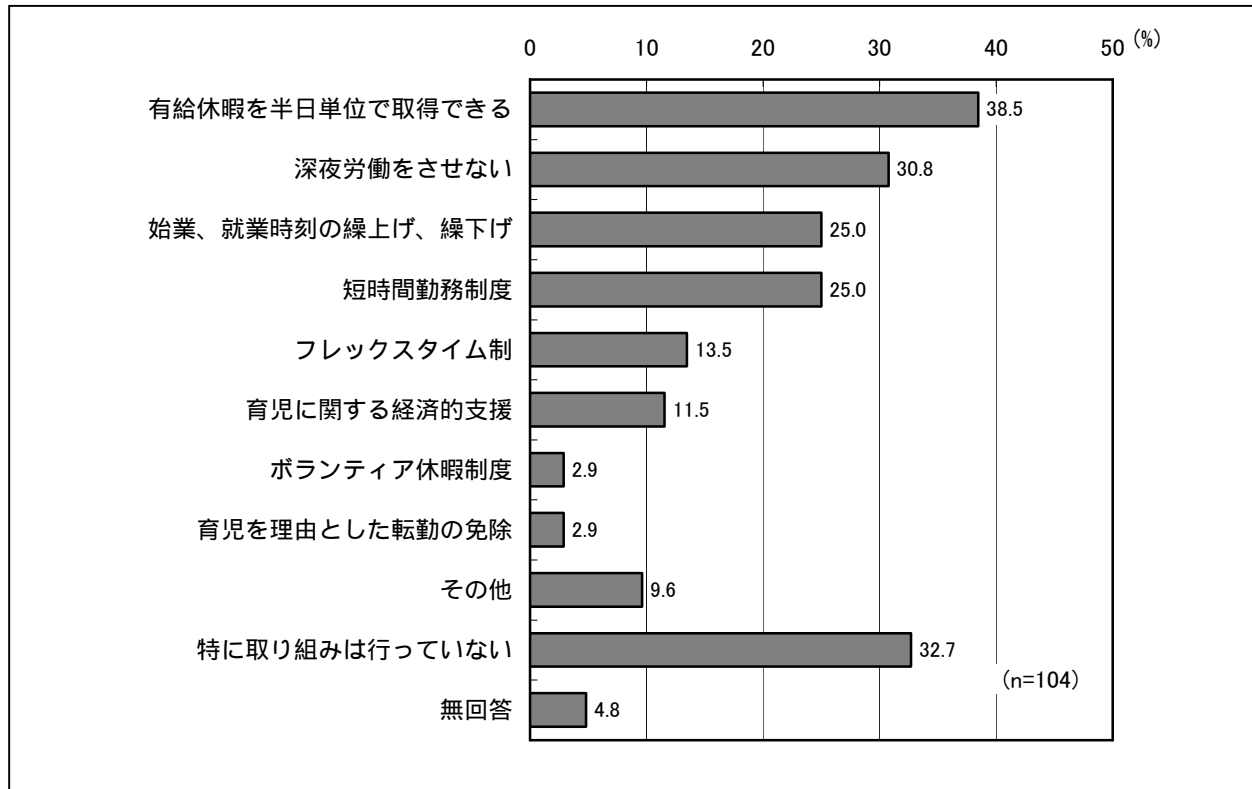


3. 仕事と子育て（生活）の両立支援に関する取り組みについて

(1) 仕事と子育て（生活）の両立支援策の取り組み状況

仕事と子育て（生活）の両立支援策の取り組み状況をみると、「有給休暇を半日単位で取得できる」が最も多く 38.5%、次いで「特に取り組みは行っていない」は 32.7%、「深夜労働をさせない」が 30.8%、「始業、終業時刻の繰上げ、繰下げ」「短時間勤務制度」がともに 25.0%と続いている。

仕事と子育て（生活）の両立支援策の取り組み状況（複数回答）

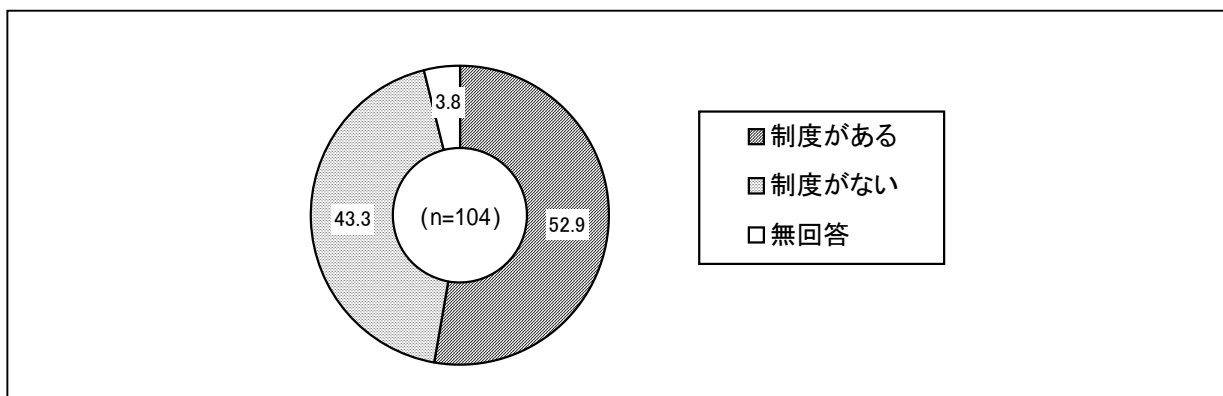


(2) 配偶者出産休暇制度の有無と利用状況

配偶者出産休暇制度の有無

配偶者出産休暇制度の有無をみると、「制度がある」が 52.9%、「制度がない」が 43.3%となっている。

配偶者出産休暇制度の有無

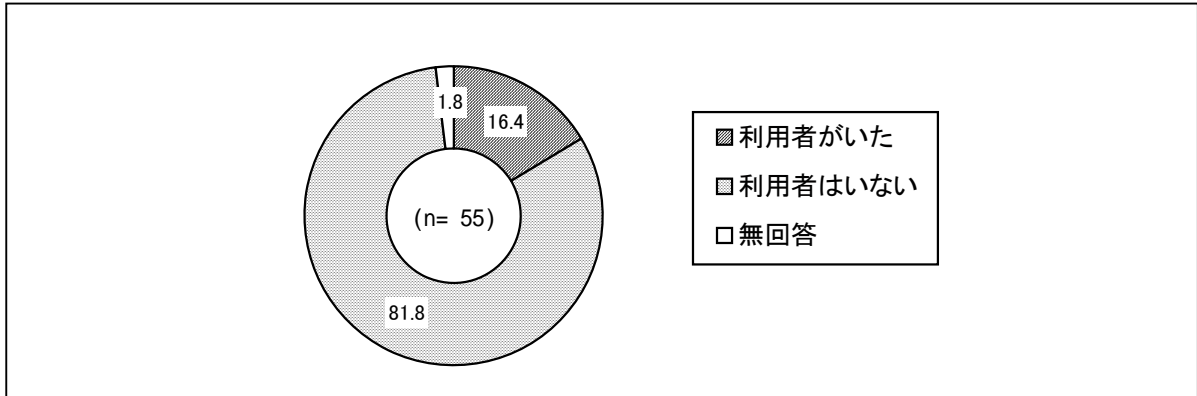


配偶者出産休暇制度の利用状況

ア．配偶者出産休暇制度の利用状況

配偶者出産休暇制度が“ある”と回答した事業所の平成19年度における従業員の利用状況を見ると、「利用者がいた」が16.4%、「利用者はいない」が81.8%となっている。

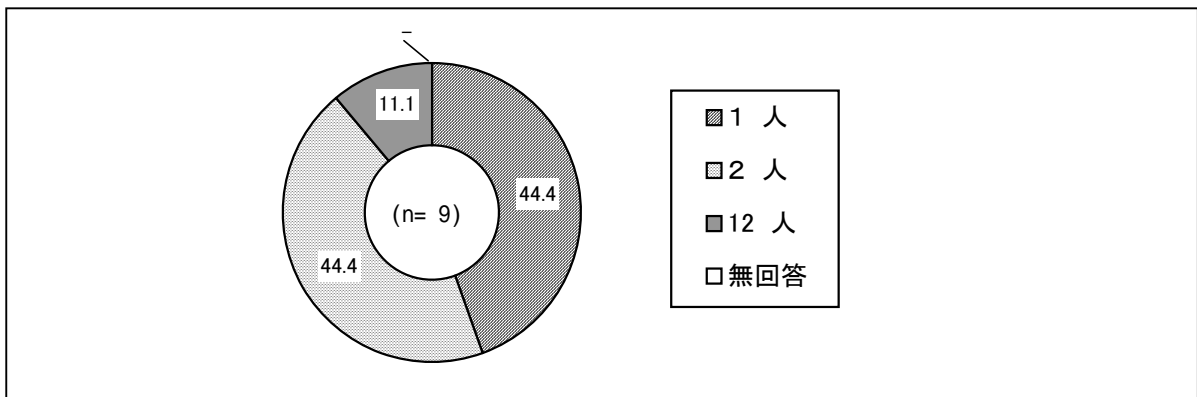
配偶者出産休暇制度の利用状況



イ．配偶者出産休暇制度の利用者数

配偶者出産休暇制度を利用した従業員が“いた”と回答した事業所の利用者数をみると、「1人」「2人」がともに44.4%、「12人」が11.1%となっている。

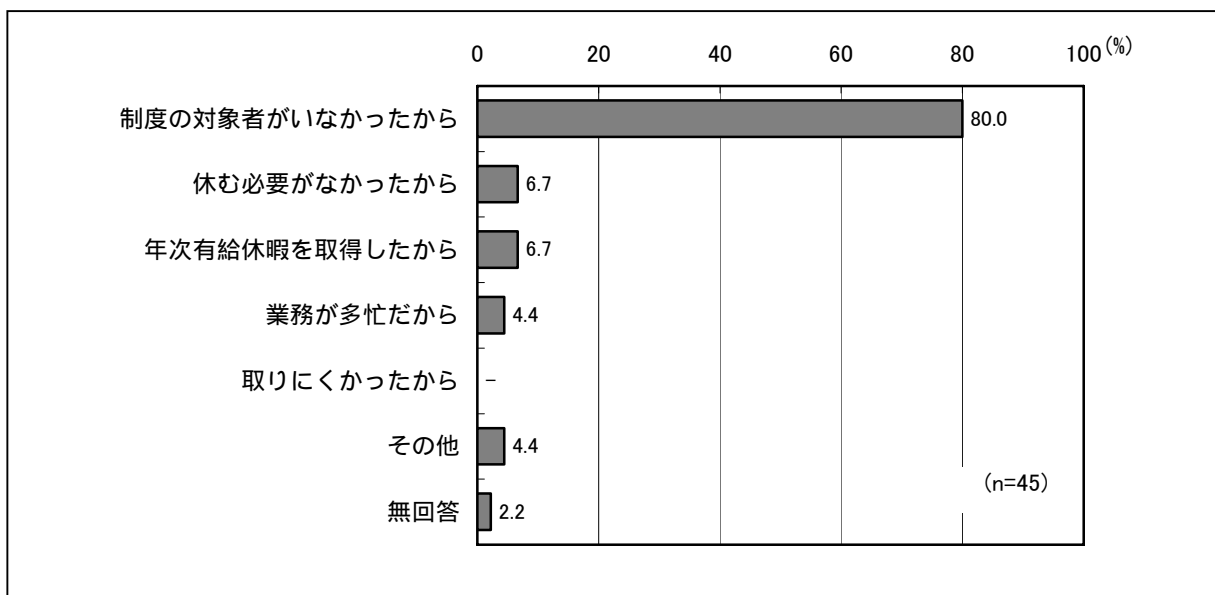
配偶者出産休暇制度の利用者数



利用者がいない理由

配偶者出産休暇制度を利用した従業員が“いない”と回答した事業所の利用者がいない理由をみると、「制度の対象者がいなかったから」が最も多く80.0%となっている。

利用者がいない理由（複数回答）



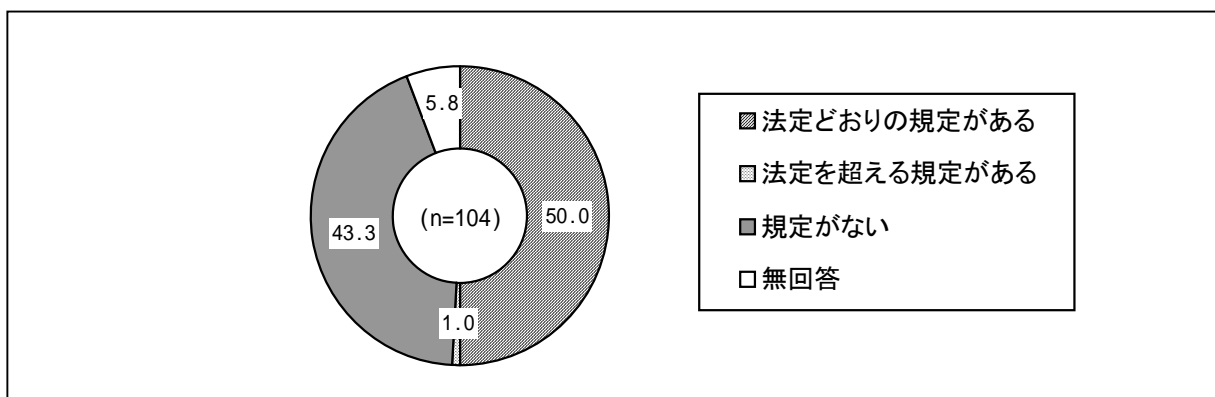
(3) 育児休業制度の利用状況

就業規則等における育児休業制度規定の有無

就業規則等における育児休業制度規定の有無をみると、「規定がある」が51.0%（「法定どおりの規定がある」50.0% + 「法定を超える規定がある」1.0%）、「規定がない」が43.3%となっている。

また、「法定を超える規定がある」と回答した事業所の子どもの年齢は無回答であった。

就業規則等における育児休業制度規定の有無

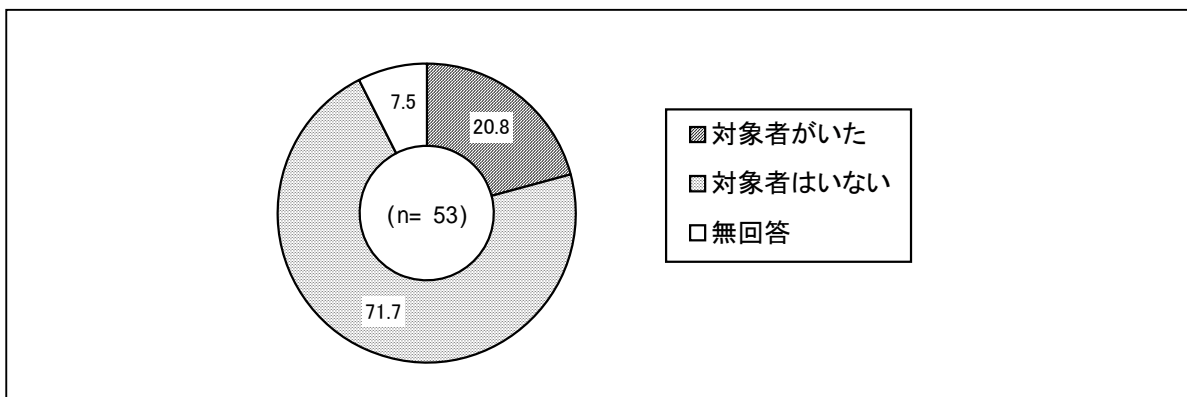


育児休業制度対象者の有無と対象者数

ア．育児休業制度対象者の有無

就業規則等に育児休業制度が“規定がある”と回答した事業所の平成19年度における育児休業制度対象者の有無をみると、「対象者がいた」が20.8%、「対象者がいない」が71.7%となっている。

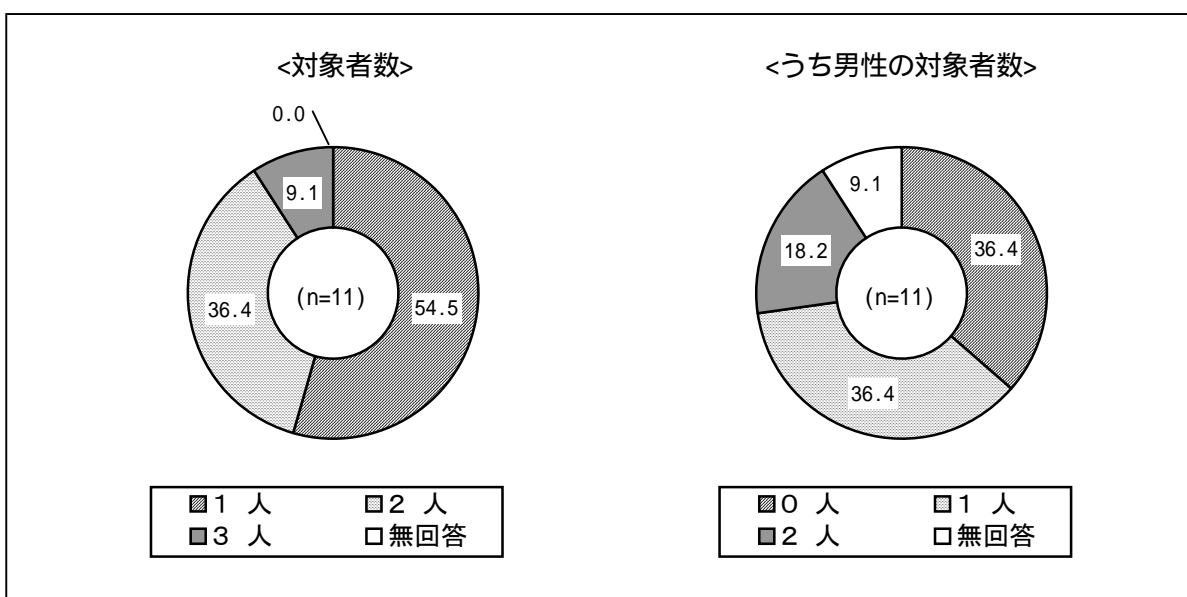
育児休業制度対象者の有無



イ．育児休業制度の対象者数

育児休業制度の「対象者がいた」と回答した事業所の対象者数をみると、「1人」が54.5%、「2人」が36.4%、「3人」が9.1%となっている。そのうち、男性の対象者数は「0人」「1人」がともに36.4%、「2人」が18.2%となっている。

育児休業制度の対象者数

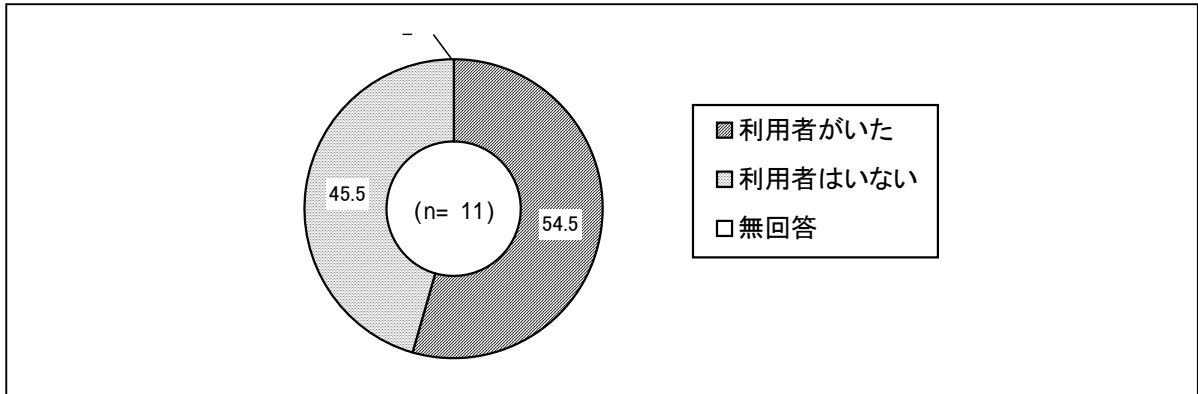


育児休業制度の利用状況と利用者数

ア．育児休業制度の利用状況

育児休業制度の「対象者がいた」と回答した事業所の育児休業制度の利用状況をみると、「利用者がいた」が54.5%、「利用者はいない」が45.5%となっている。

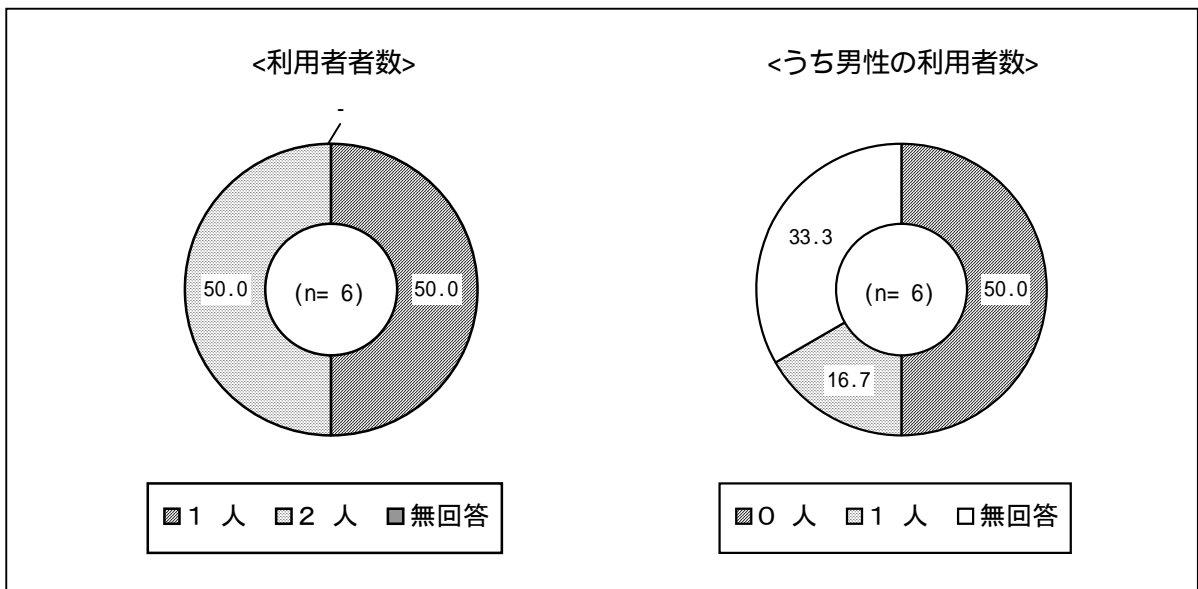
育児休業制度の利用状況



イ．育児休業制度の利用者数

育児休業制度を利用した従業員がいたと回答した事業所の利用者数をみると、「1人」「2人」がともに50.0%となっている。このうち、男性の利用者数は「0人」が50.0%、「1人」が16.7%となっている。

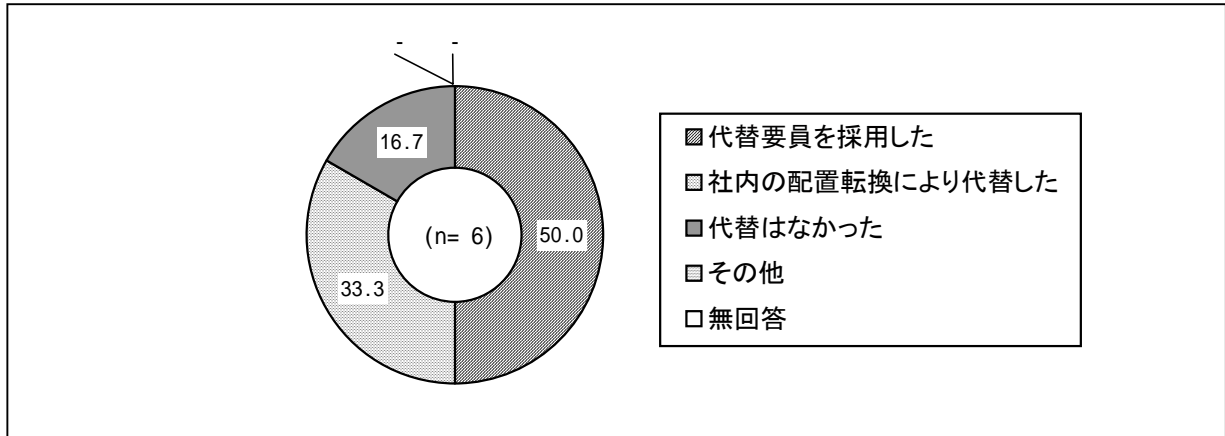
育児休業制度の利用者数



代替要員の確保の状況

育児休業制度を利用した従業員がいたと回答した事業所の代替要員の確保の状況をみると、「代替要員を採用した」が最も多く 50.0%、「社内の配置転換により代替した」(33.3%)も含めると、「代替した」が8割以上を占めており、「代替はなかった」は16.7%となっている。

代替要員の確保の状況

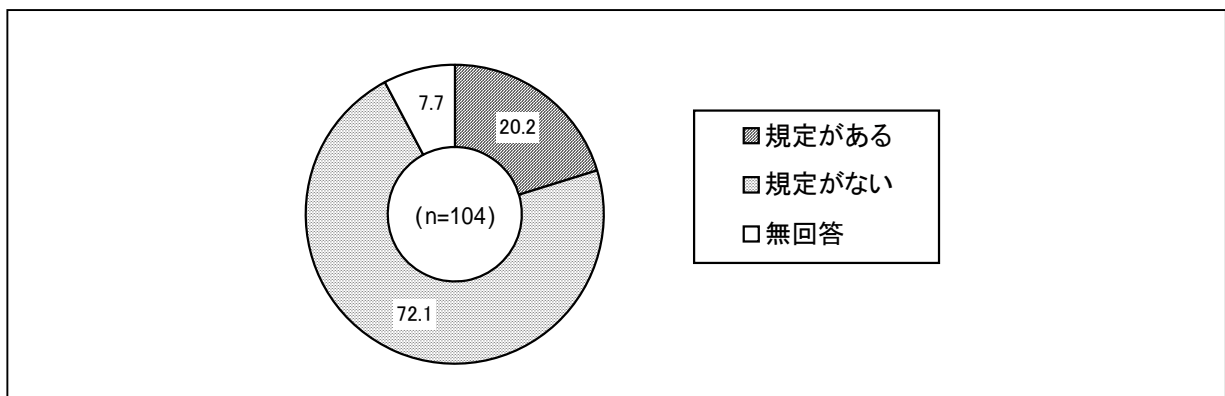


(4) 子の看護休暇制度の利用状況

就業規則等における子の看護休暇制度規定の有無

就業規則等における子の看護休暇制度規定の有無をみると、「規定がある」が20.2%、「規定がない」が72.1%となっている。

就業規則等における子の看護休暇制度規定の有無

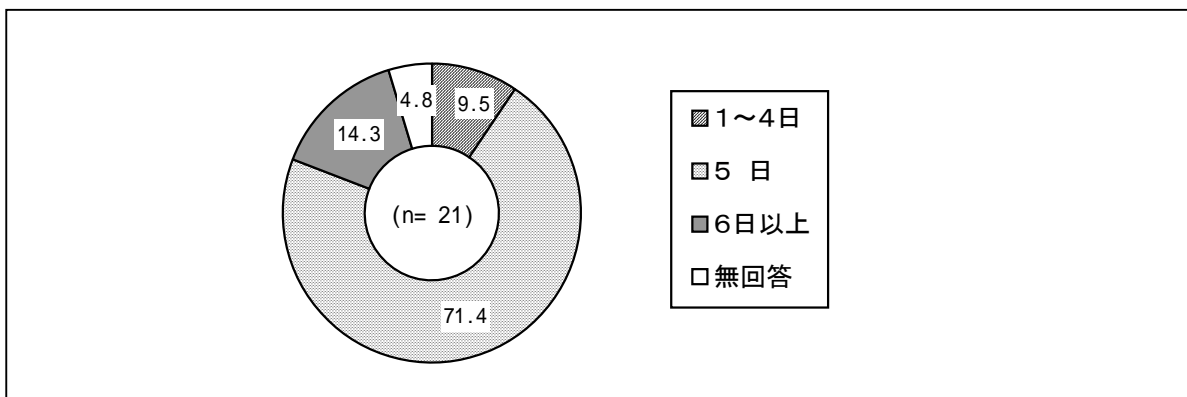


子の看護休暇制度の規定内容

ア．子の看護休暇制度の年間取得可能日数

就業規則等に子の看護休暇制度の「規定がある」と回答した事業所の子の看護休暇制度の年間取得可能日数をみると、「5日」が最も多く71.4%、次いで「6日以上」が14.3%、「1～4日」が9.5%、「1～4日」が4.8%となっている。

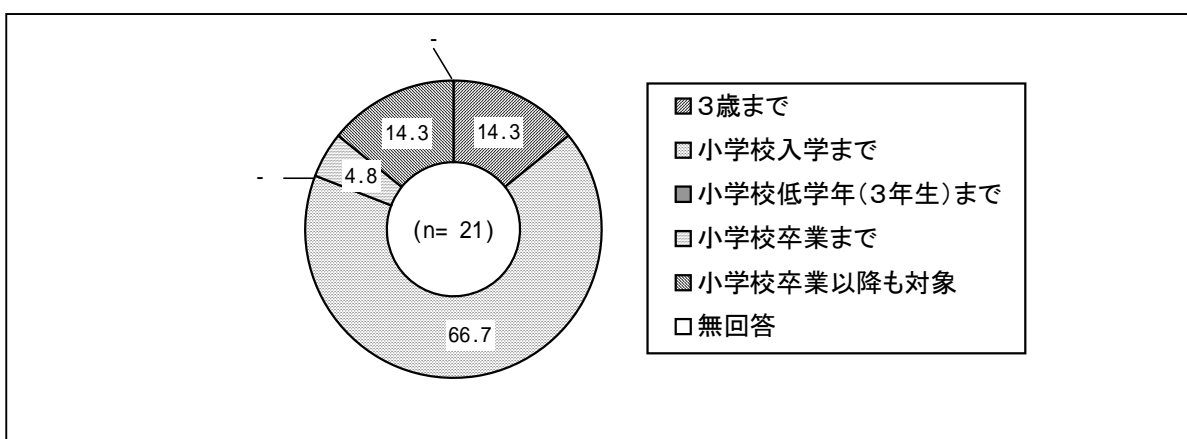
子の看護休暇制度の年間取得日数



イ．子の看護休暇制度を取得できる子どもの年齢

就業規則等に子の看護休暇制度の「規定がある」と回答した事業所の子の看護休暇制度を取得できる子どもの年齢をみると、「小学校入学まで」が最も多く66.7%、次いで「3歳まで」「小学校卒業以降も対象」がともに14.3%となっている。

子の看護休暇制度取得の子どもの年齢

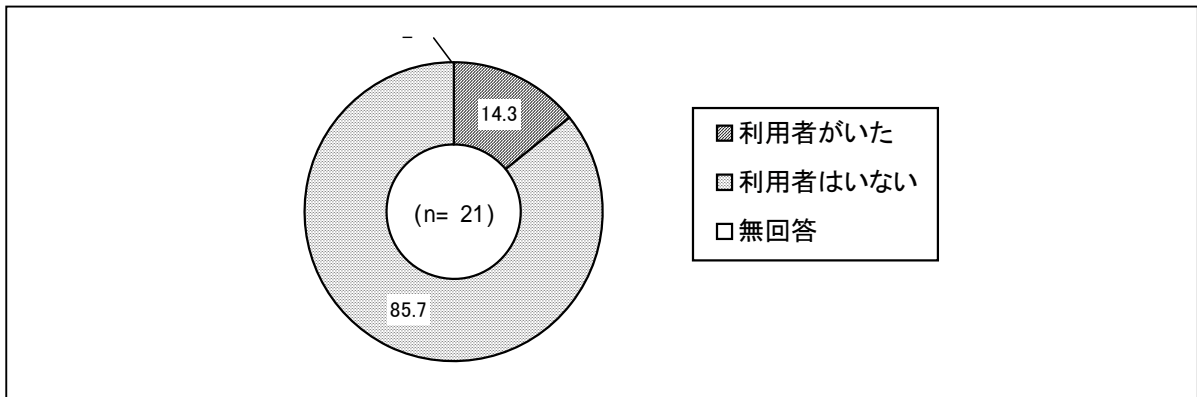


子の看護休暇制度の利用状況と利用者数

ア．子の看護休暇制度の利用状況

就業規則等に子の看護休暇制度の「規定がある」と回答した事業所の平成 19 年度における制度の利用状況をみると、「利用者がいた」が 14.3%、「利用者はいない」が 85.7%となっている。

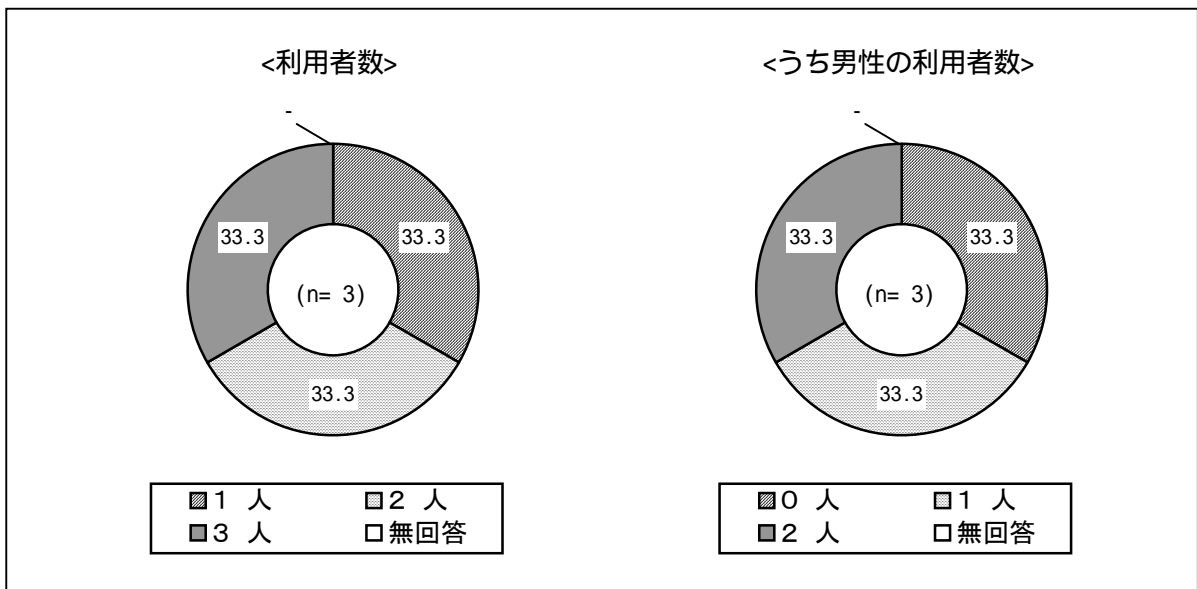
子の看護休暇制度の利用状況



イ．子の看護休暇制度の利用者数

子の看護休暇制度を利用した従業員がいたと回答した事業所の利用者数をみると、「1人」「2人」「3人」がともに 33.3%となっている。そのうち、男性の利用者数は「0人」「1人」「2人」がともに 33.3%となっている。

子の看護休暇制度の利用者数

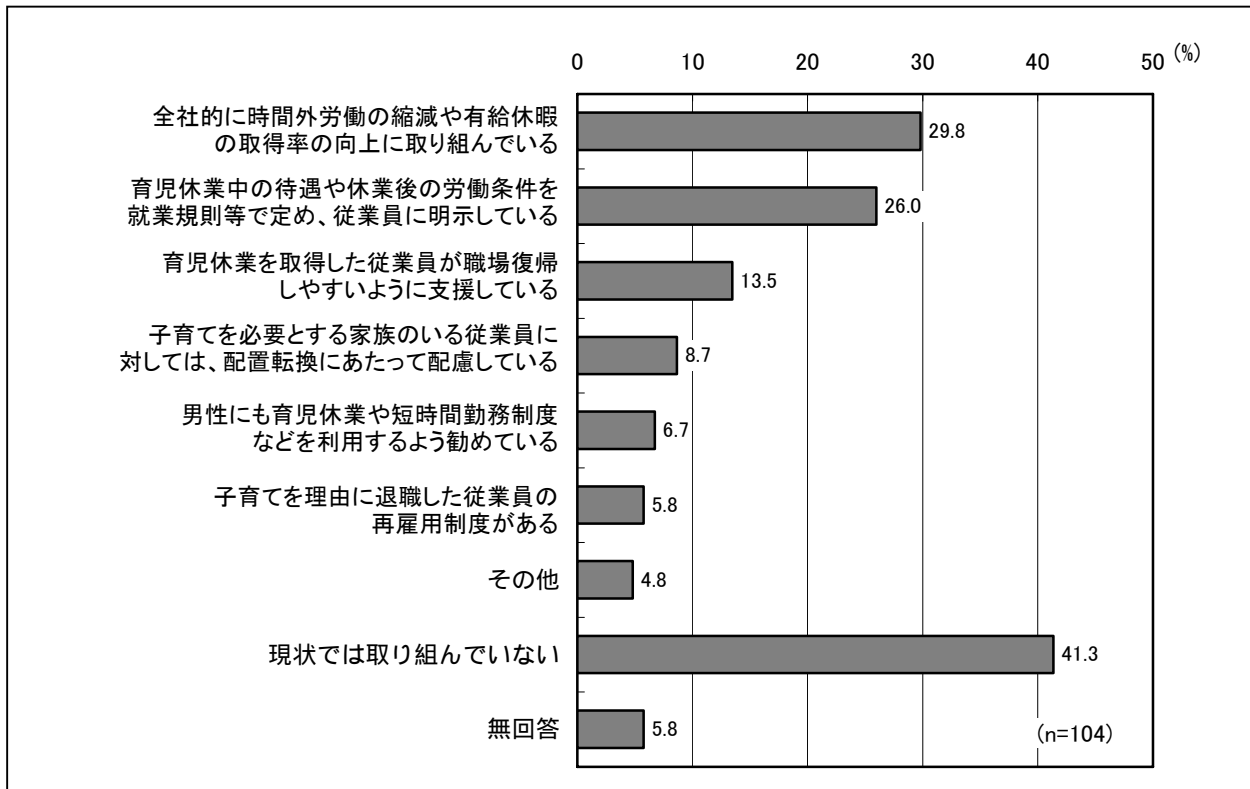


4. 子育て支援制度の利用促進に関する取り組みについて

(1) 子育て支援制度の利用を促進するために行っていること

子育て支援制度の利用を促進するために行っていることをみると、「現状では取り組んでいない」が4割以上を占めているが、取組の中では「全社的に時間外労働の縮減や有給休暇の取得率の向上に取り組んでいる」が最も多く29.8%、次いで「育児休業中の待遇や休業後の労働条件を就業規則等で定め、従業員に明示している」が26.0%、「育児休業を取得した従業員が職場復帰しやすいように支援している」が13.5%と続いている。

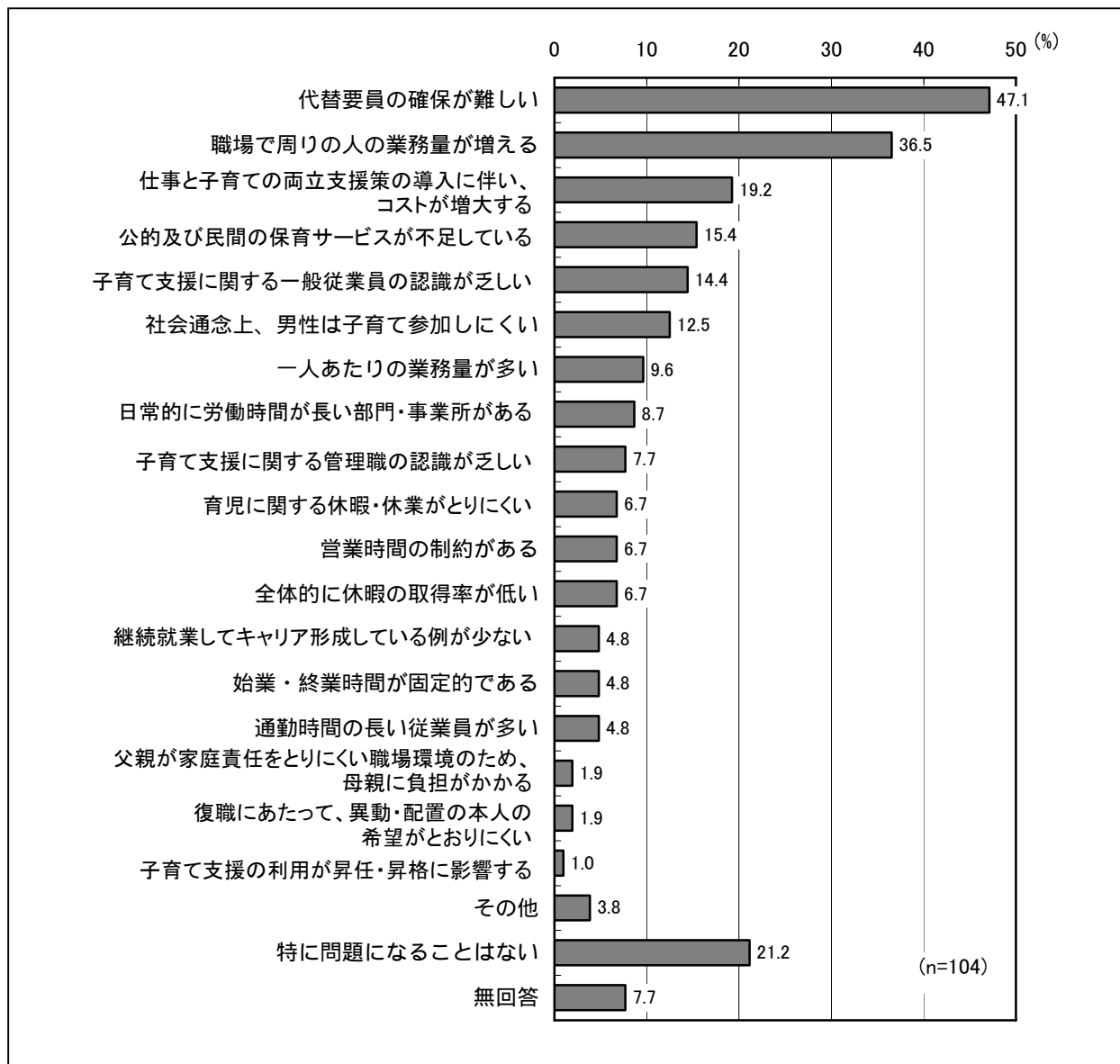
子育て支援制度の利用促進のために行っていること（複数回答）



(2) 子育て支援制度の利用を促進する上での問題点

子育て支援制度の利用を促進する上での問題点をみると、「代替要員の確保が難しい」が最も多く47.1%、次いで「職場で周りの人の業務量が増える」が36.5%、「特に問題になることはない」が21.2%、「仕事と子育ての両立支援策の導入に伴い、コストが増大する」が19.2%、「公的及び民間の保育サービスが不足している」が15.4%、「子育て支援に関する一般従業員の認識が乏しい」が14.4%、「社会通念上、男性は子育て参加しにくい」が12.5%と続いている。

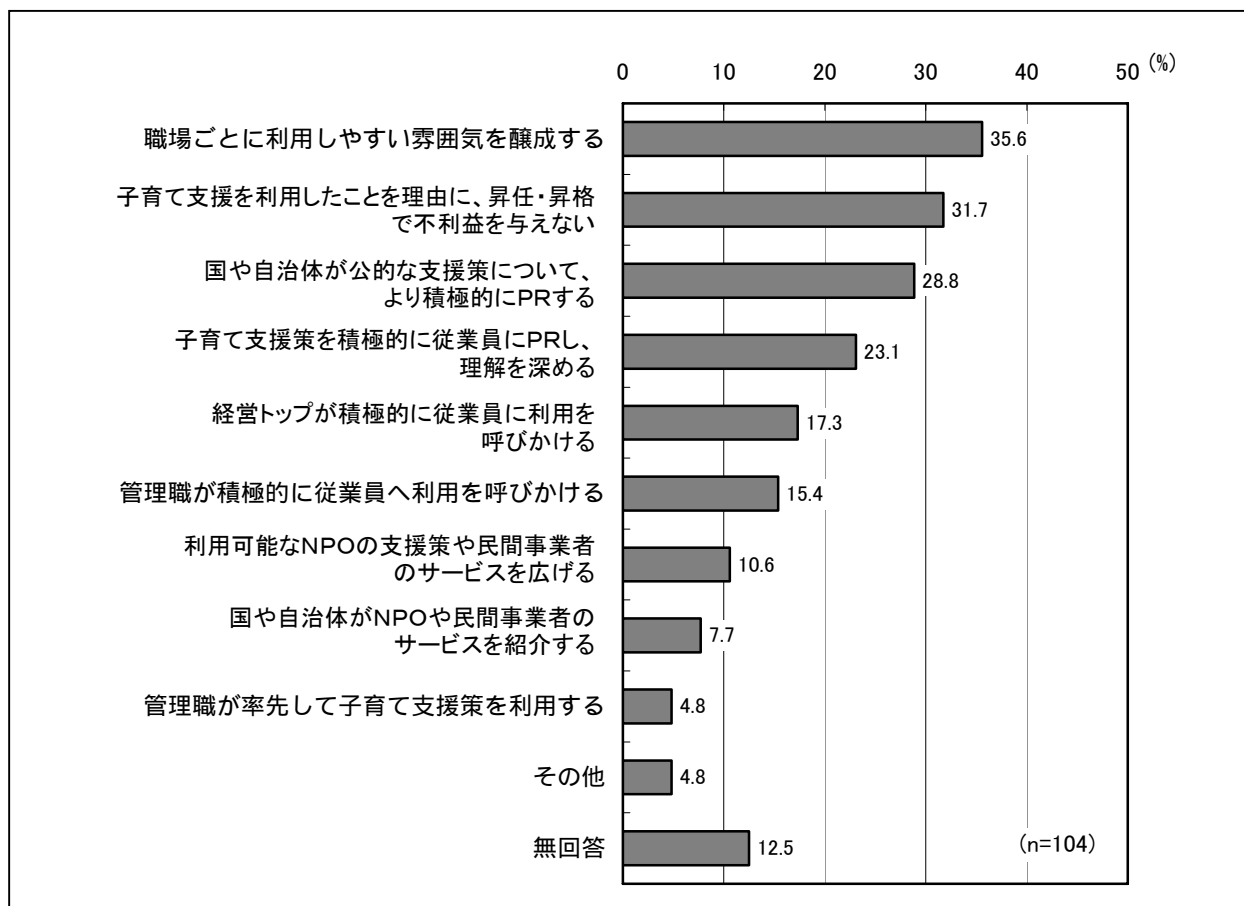
子育て支援制度の利用を促進する上での問題点（複数回答）



(3) 子育て支援制度を利用しやすい職場環境づくりのために必要なこと

子育て支援制度を利用しやすい職場環境づくりのために必要なことをみると、「職場ごとに利用しやすい雰囲気醸成する」が最も多く35.6%、次いで「子育て支援を利用したことを理由に、昇任・昇格で不利益を与えない」が31.7%、「国や自治体が公的な支援策について、より積極的にPRする」が28.8%、「子育て支援策を積極的に従業員にPRし、理解を深める」が23.1%と続いている。

子育て支援制度を利用しやすい職場環境づくりのために必要なこと（複数回答）

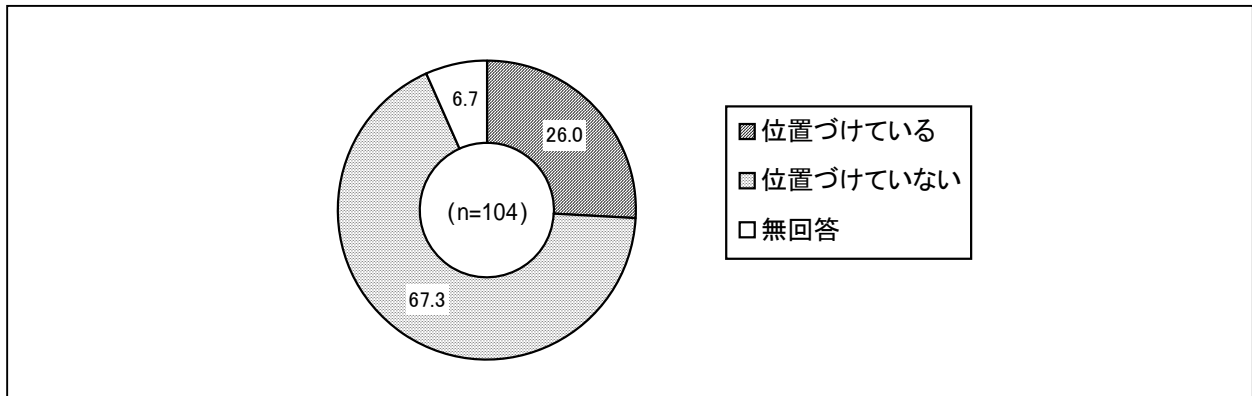


5. 経営方針における子育て支援の位置づけについて

(1) 経営方針における仕事と子育ての両立支援位置づけの有無

経営方針における仕事と子育ての両立支援位置づけの有無をみると、「仕事と子育ての両立支援の促進を経営方針に位置づけている」が26.0%、「仕事と子育ての両立支援の促進を経営方針に位置づけていない」が67.3%となっている。

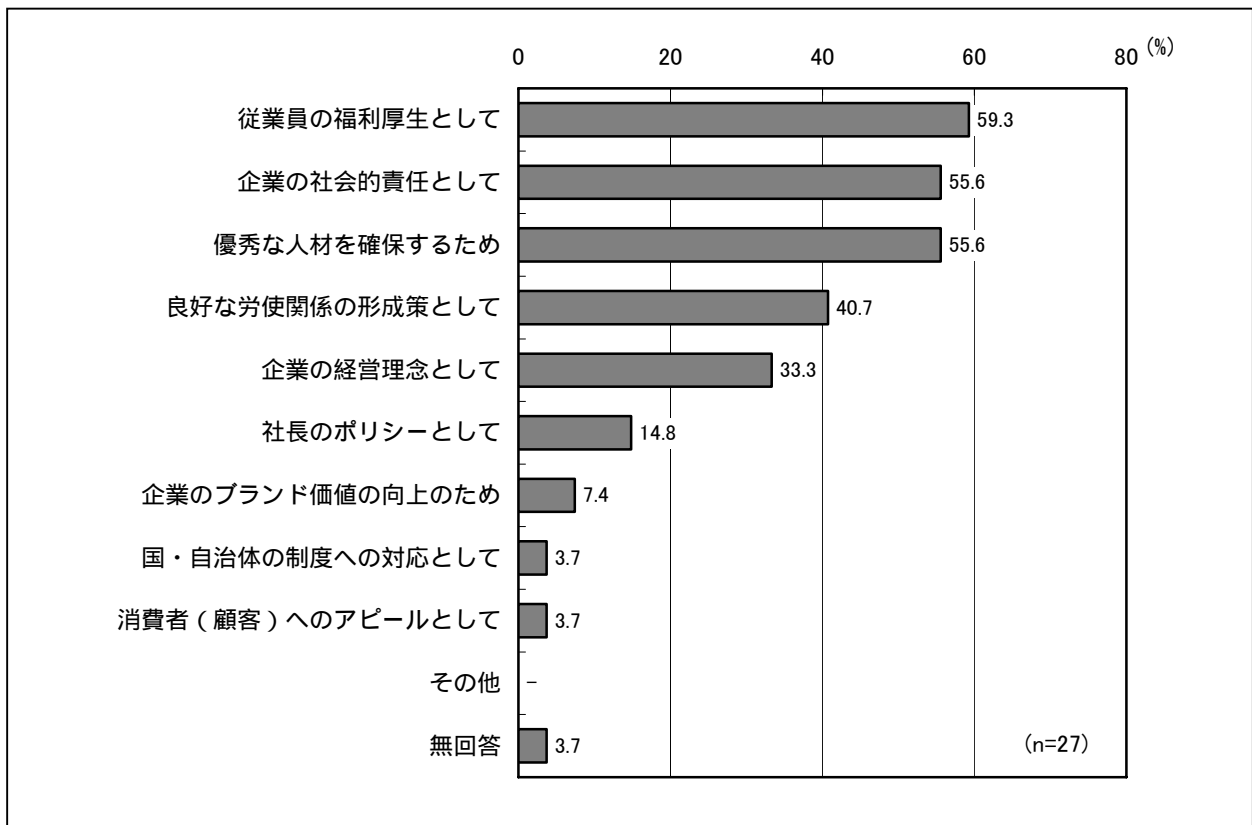
経営方針における仕事と子育ての両立支援位置づけの有無



(2) 仕事と子育ての両立支援の促進を経営方針に位置づけている理由

経営方針に「仕事と子育ての両立支援の促進を位置づけている」と回答した事業所の経営方針に仕事と子育ての両立支援の促進を位置づけている理由をみると、「従業員の福利厚生として」が最も多く59.3%、次いで「企業の社会的責任として」「優秀な人材を確保するため」がともに55.6%、「良好な労使関係の形成策として」が40.7%、「企業の経営理念として」が33.3%と続いている。

仕事と子育ての両立支援の促進を経営方針に位置づけている理由（複数回答）



6. 子育て支援策の効果について

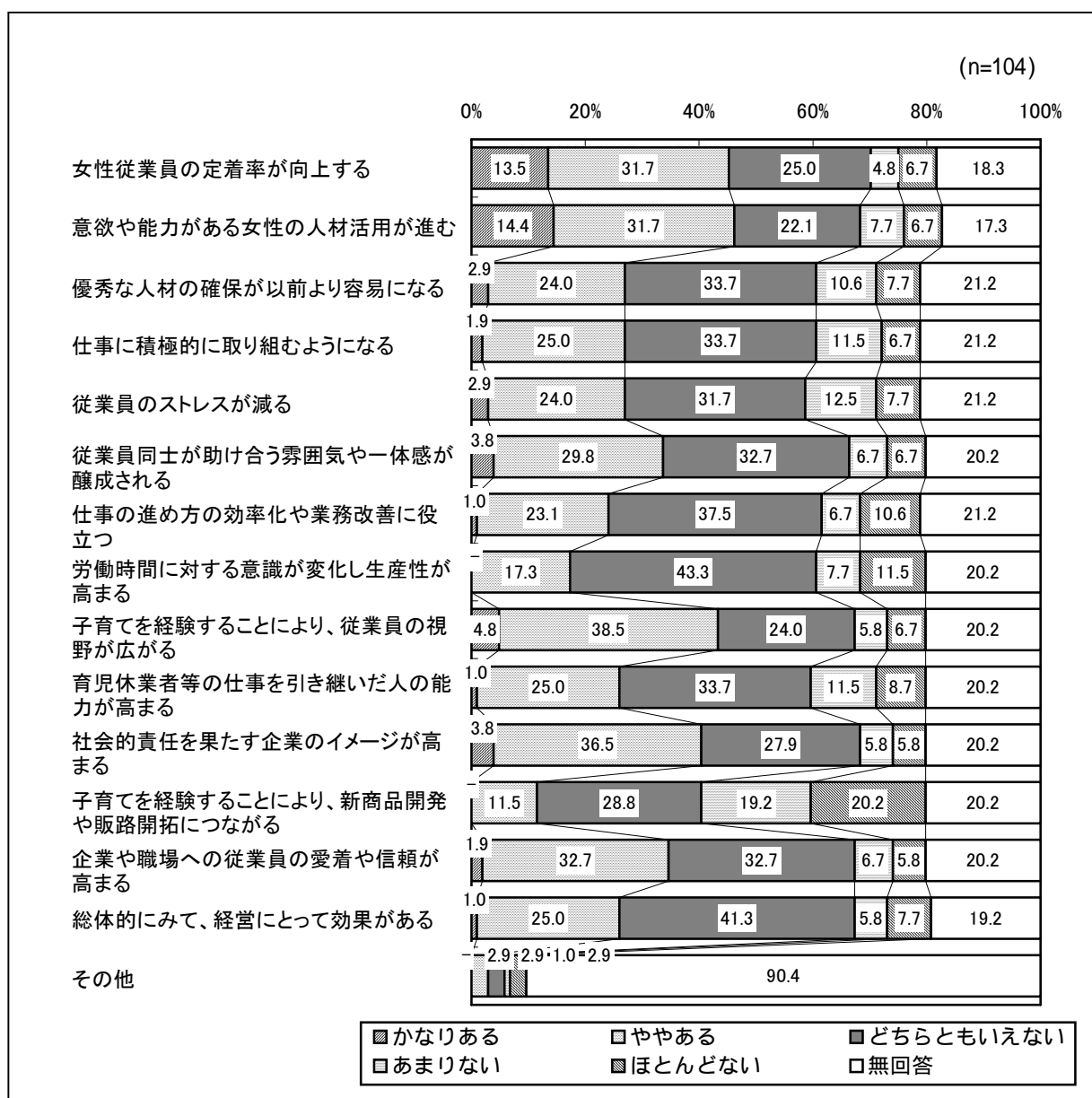
(1) 子育て支援策のメリット・デメリット

子育て支援策導入のメリット

子育て支援策導入のメリットをみると、「メリットがある」（「かなりある」＋「ややある」）が最も高いものは、「意欲や能力がある女性の人材活用が進む」の46.1%（14.4%＋31.7%）、次いで「女性従業員の定着率が向上する」が45.2%（13.5%＋31.7%）、「子育てを経験することにより、従業員の視野が広がる」が43.3%（4.8%＋38.5%）、「社会的責任を果たす企業のイメージが高まる」が40.3%（3.8%＋36.5%）、「企業や職場への従業員の愛着や信頼が高まる」が34.6%（1.9%＋32.7%）、「従業員同士が助け合う雰囲気や一体感が醸成される」が33.6%（3.8%＋29.8%）と続いている。

一方、「メリットがない」（「あまりない」＋「ほとんどない」）が最も高いものは、「子育てを経験することにより、新商品開発や販路開拓につながる」の39.4%（19.2%＋20.2%）であり、次いで「従業員のストレスが減る」「育児休業者等の仕事を引き継いだ人の能力が高まる」がともに20.2%（11.5%＋8.7%）と続いている。

子育て支援策導入のメリット

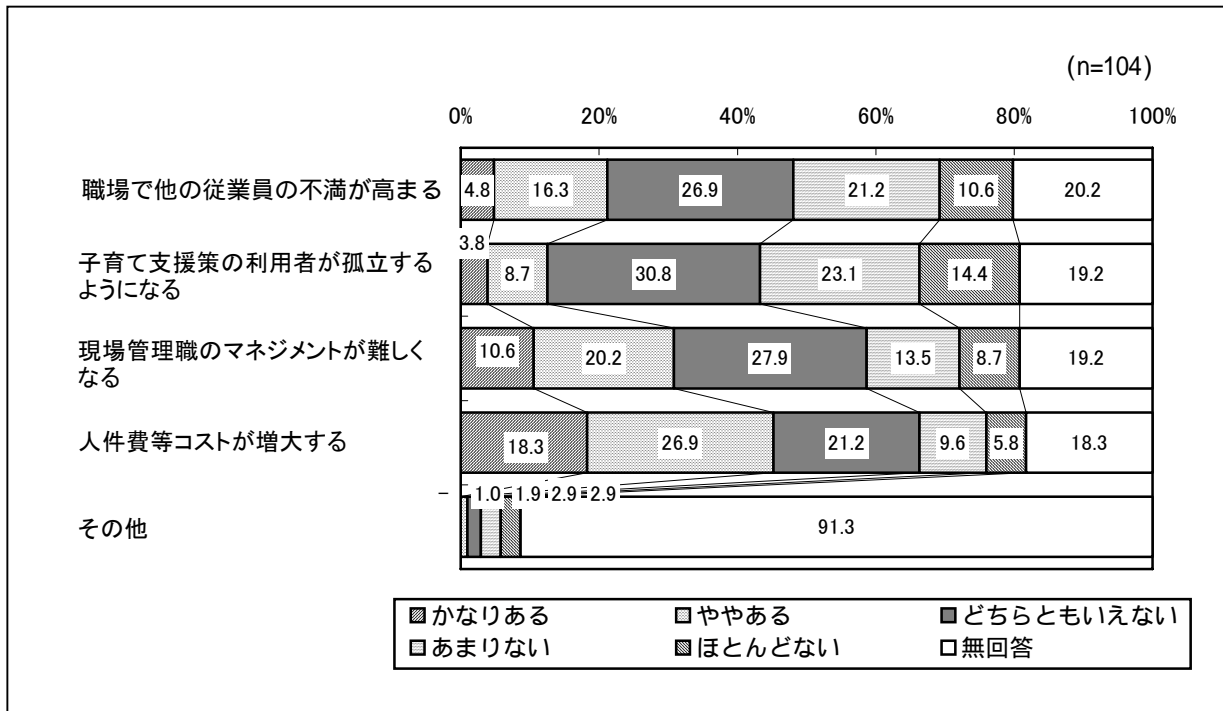


子育て支援策導入のデメリット

子育て支援策導入のデメリットをみると、“デメリットがある”（「かなりある」+「ややある」）が最も高いものは「人件費等コストが増大する」の45.2%（18.3%+26.9%）であり、次いで「現場管理職のマネジメントが難しくなる」が30.8%（10.6%+20.2%）と続いている。

一方、“デメリットがない”（「あまりない」+「ほとんどない」）が最も高いものは「子育て支援策の利用者が孤立するようになる」の37.5%（23.1%+14.4%）であり、次いで「職場で他の従業員の不満が高まる」が31.8%（21.2%+10.6%）と続いている。

子育て支援策導入のデメリット

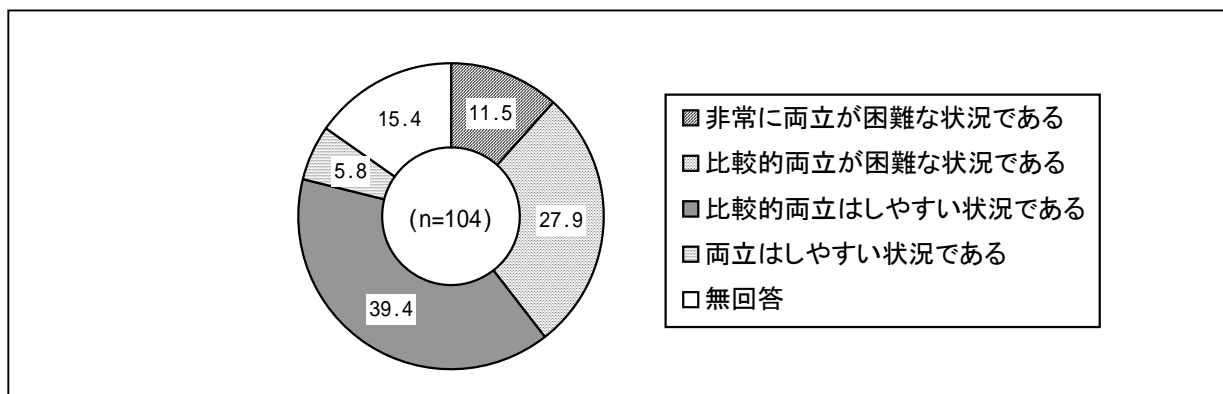


(2) 仕事と子育ての両立のしやすさ

仕事と子育ての両立のしやすさに対する考え方

仕事と子育ての両立のしやすさに対する考え方をみると、“両立はしやすい”が45.2%（「比較的両立はしやすい状況である」39.4%+「両立はしやすい状況である」5.8%）、“両立が困難である”が39.4%（「非常に両立が困難な状況である」11.5%+「比較的両立が困難な状況である」27.9%）となっている。

仕事と子育ての両立のしやすさに対する考え方



仕事と子育ての両立が困難な理由（自由回答）

仕事と子育ての両立のしやすさで“両立が困難である”と回答した事業所の仕事と子育ての両立が困難な理由をみると、“人的に余裕がなく、代替要員の確保が難しい”“代替要員がなく、採用するにも教育するにもコストがかかる”などの理由があげられている。

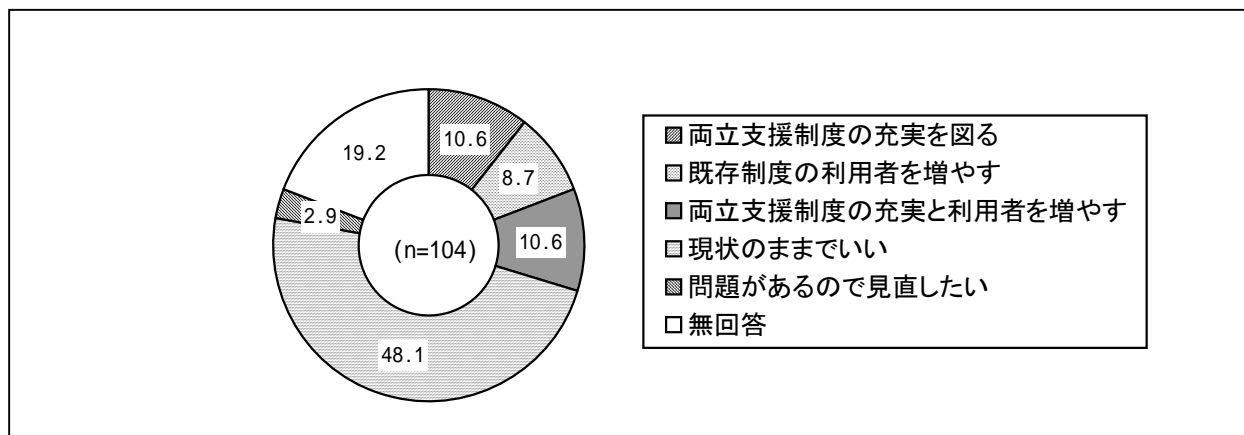
仕事と子育ての両立が困難な理由

仕事と子育ての両立が困難な理由	件数
人的に余裕がなく、代替要員の確保が難しい	7
代替要員がなく、採用するにも教育するにもコストがかかる	2
重労働なので身体が続かない	1
定年間近の男性社員がほとんど	1
納期を厳守するために育児休業を取れない	1
日中仕事から離れることが困難	1
女性社員が少ない	1
少人数の現場のうえ、専門的な技術が必要な業務が多いため、代替要員の確保が難しい	1
会社分割の予定がある	1
業務が多忙で個人の負担が大きい	1
人件費等のコストの増大	1
本人の意識による	1
時間に待たなしの状況である	1
従業員を増やさない限り現状では厳しい	1
従業員を増やすスペースがない	1
製造現場のスタッフが抜けることは生産性の低下を招く	1
該当する社員がいない	1
各個人の仕事量にバラ付きがありすべてを平等にということは難しい。仕事の少ない人は可能であるのが現状	1
女性社員はともかく、男性が子育てのために仕事を休むことは、長期的には難しいと思う。当えられた仕事を消化できなければ、自分に振りかかり、休みは取りたくないのが実情	1
社会通念上、男性が子育てに参加、会社を休んだり時間を希望することが、当然とは至っていない	1
営業は、一時的に担当者の代替が難しい。又、業務職も、少人数でギリギリである上に、担当の熟練度が必要。休暇中の人員補充などコスト面のロスを覚悟しないと踏み切れない	1
個人の職務責任が重くなっている	1
零細企業では無理だと思う	1
男性のベテラン社員が多く、会社内の理解に欠けている	1
現在までに休業を取得した人がいない	1
一人のかかえる仕事量が多い	1
納期に追われ、時間を作りにくい	1
年中無休で、交代で休日をとっている状況である	1
育児休業した場合の代替要員がすぐに確保できない	1
人員募集のコストや臨時のアルバイトでは従業員の代りができない	1
3人程度で構成される事業所が全国に散らばるため、代替要員等を配置しづらい	1
人員の多い事業所との不公平がないようにすることも難しい	1
現場は、ほとんど8時から就業することから、朝、子どもを保育園に預けるのも大変。24時間の保育園又、その料金の値段等の問題もある	1

(3) 両立支援制度の今後の方向

両立支援制度の今後の方向をみると、「現状のままでいい」が最も多く48.1%となっているのに対し、「両立支援制度を充実する」が29.9%（「両立支援制度の充実を図る」10.6% + 「既存制度の利用者を増やす」8.7% + 「両立支援制度の充実と利用者を増やす」10.6%）となっている。また、「問題があるので見直したい」はわずかに2.9%となっている。

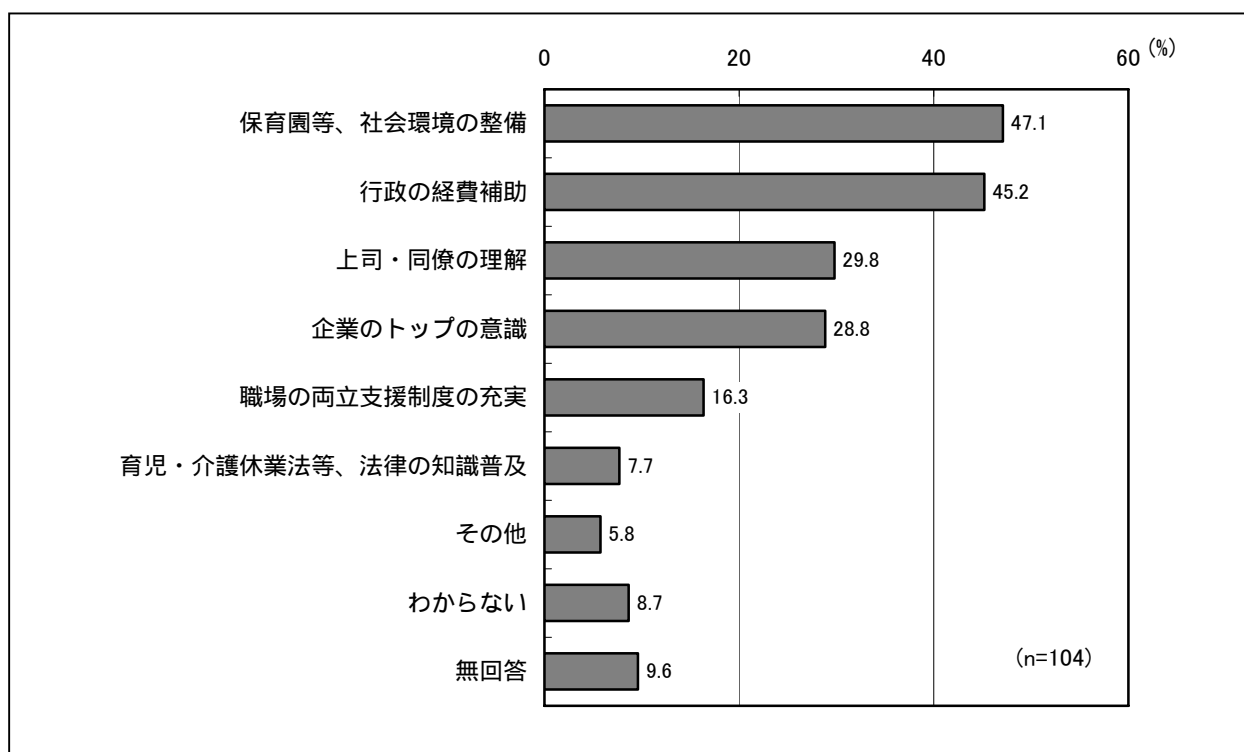
両立支援制度の今後の方向



(4) 両立支援制度を推進する上で一番重要なこと

両立支援制度を推進する上で一番重要なことをみると、「保育園等、社会環境の整備」が最も多く47.1%、「行政の経費補助」(45.2%)もほぼ同じ割合を示している。次いで「上司・同僚の理解」が29.8%、「企業のトップの意識」が28.8%、「職場の両立支援制度の充実」が16.3%と続く。

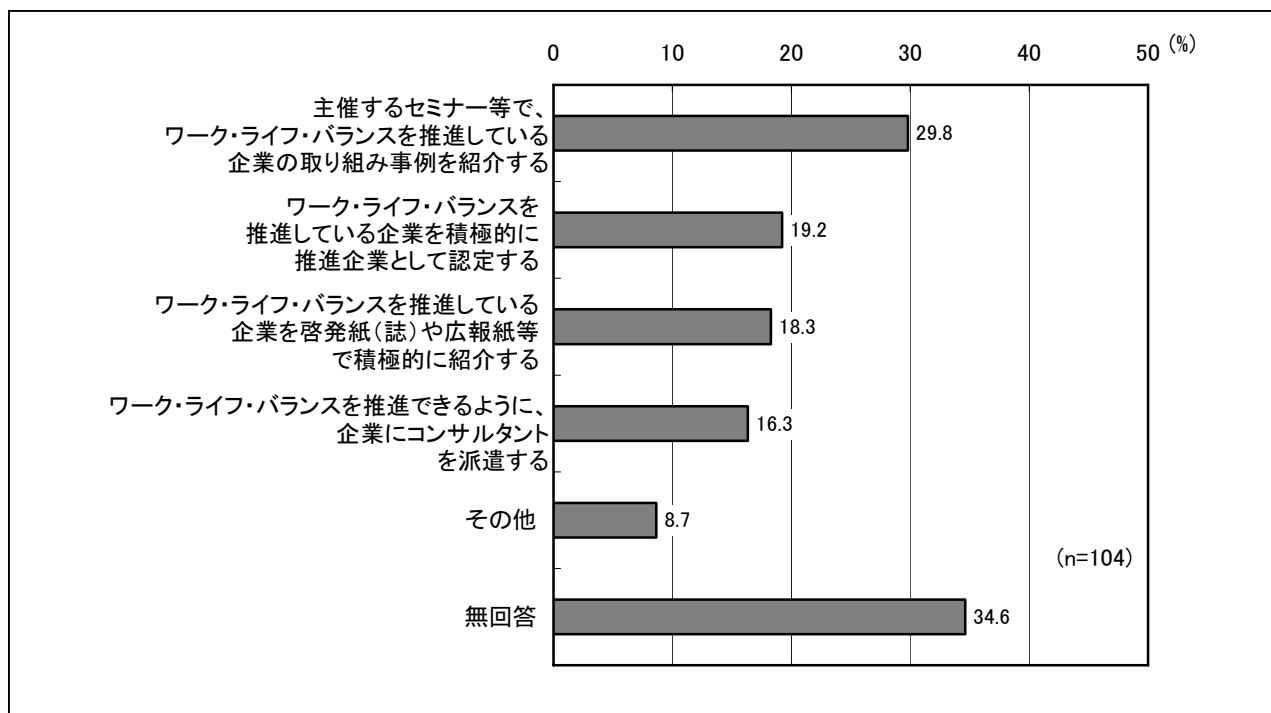
両立支援制度を推進する上で一番重要なこと（複数回答）



7. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を推進するための北区への要望

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を推進するための北区への要望をみると、「主催するセミナー等で、ワーク・ライフ・バランスを推進している企業の取り組み事例を紹介する」が最も多く29.8%、次いで「ワーク・ライフ・バランスを推進している企業を積極的に推進企業として認定する」が19.2%、「ワーク・ライフ・バランスを推進している企業を啓発紙（誌）や広報紙等で積極的に紹介する」が18.3%、「ワーク・ライフ・バランスを推進できるように、企業にコンサルタントを派遣する」が16.3%となっている。

仕事と生活の調和を推進するための北区への要望（複数回答）



第3章

自由回答のまとめ

自由回答のまとめ

本調査では、安心して子どもを産み、健やかに育てていくための施策や社会の制度、子育て支援のあり方などについて、さまざまな意見を自由記述形式でうかがった。

アンケート調査に回答があった2,455人・事業所のうち、904人・事業所が回答し、内容によって複数に分けた意見もあるため、全体の意見総数は1,398件となった。

また、それらの意見について調査対象ごとに次頁のとおり分類整理を行った。主な意見は以下のとおりである。

就学前児童（就学前の子どもの保護者）

保育園に空きがない、利用したいときにサービスが利用できないという意見が多くあげられている。

就学児童（小学1年生から6年生までの子どもの保護者）

学力という教育だけではなく道徳やしつけなどの教育があげられている。また、学童保育の時間延長や安全・安心な居場所・遊び場づくりを求める意見があげられている。

12歳～18歳の区民

（12～14歳）

公園や広場、野球場、買い物できる場所等の整備を求める意見があげられている。

（15～17歳）

12～14歳と同じく公園や広場、野球場、買い物できる場所等の整備を求める意見があげられている。また、教育や環境についての意見もあげられている。

30歳以上40歳未満の、世帯主と夫又は妻のみの世帯（子どものいない世帯）、

世帯主のみの世帯（独身者）

（子どものいない世帯）

特に、不妊（治療）に対する意見が多くなっており、費用面での支援や授かることの出来ない人への精神的なサポートなど子どもを持ちたいが持つことができない人への支援を求める意見があげられている。

（独身者）

子どもを育てるにあたって、金銭面や教育面、制度面などで不安があるという声もあげられている。

世帯主と子のみで構成されている世帯の18歳以下の子どもの保護者

父親と母親両方がいる子育て家庭よりも、母子家庭や父子家庭に対しては、生活費や就業をはじめとする子育て支援策について、きめ細やかな支援を求める意見があげられている。

事業所（従業員数が10人以上300人未満）

中小企業には子育て支援は困難とする回答が多く、制度面からの支援や意識啓発を求める意見があげられている。

自由意見総数

調査種別		アンケート回答者・事業所数	自由意見記入者・事業所数	自由意見総数
就学前児童（就学前の子どもの保護者）		787	366	641
就学児童 （小学1年生から6年生までの子どもの保護者）		784	271	418
12歳～18歳の区民	全体	369	89	129
	）12歳～14歳	146	33	50
	）15歳～17歳	218	56	79
30歳以上40歳未満の、世帯主と夫又は妻のみの世帯（子どものいない世帯）、世帯主のみの世帯（独身者）	全体	279	111	132
	）子どものいない世帯	215	87	99
	）独身者	59	22	31
世帯主と子のみで構成されている世帯の18歳以下の子どもの保護者		132	45	56
事業所（従業員数が10人以上300人未満）		104	22	22
合計		2,455	904	1,398

調査種別の自由意見記入者欄、自由意見総数欄について、）子どものいない世帯（各87、99）、又は）独身者（各22、31）と属性を回答していないものがあるため、全体（各111、132）との合計は、一致しない。

自由意見分類整理表

分類	調査種別							
			）	）	）	）		
ア）保育サービス等について	117	35	1		11	12	6	3
イ）学童クラブ、放課後子ども教室等について	16	29						
ウ）児童館・児童室等について	12			1				
エ）子育ての費用について	35	32			8	3	4	
オ）ひとり親家庭への支援について	3	7	1				4	
カ）子育て支援策について	72	58	2		20	5	14	
キ）医療について	65	37	3	4	11	2	3	
ク）不妊について	3	2			16		1	
ケ）教育について	28	43	5	19	5	6	3	1
コ）交流について	8	3						
サ）地域の子育て力について	7	2			1		2	
シ）安全・安心について	30	21						
ス）居場所・遊び場について	29	36	5	8				
セ）住宅環境について	11	8	1					
ソ）環境（施設）整備について	60	21	16	23	5	3	6	
タ）子育てしやすい社会づくり	31	27						
チ）ワーク・ライフ・バランスについて （就労・雇用等含む）	60	22			7	2	4	
ツ）情報提供・PRについて	17	9		1		1	2	
テ）図書館について	1	1	2	2				
ト）区政について	6	4	2	1	3	4	2	
ナ）本計画について（アンケート調査含む）	6	1	1	6	1		1	
ニ）中小企業には困難な子育て支援								6
ヌ）子育て支援策の推進について								5
ネ）その他	24	20	11	14	11	3	4	7

資料

使用した調査票

北区次世代育成支援行動計画策定のための 区民アンケート調査

調査ご協力をお願い

このアンケート調査は、次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、育成されるよう支援するための計画である『北区次世代育成支援行動計画（後期）』（平成22年度～平成26年度）の策定に向けて実施するもので、区民の皆様の子育て支援に関するニーズや意識・意向を把握するために行うものです。

この調査は、幅広い区民の方を対象とするため、

- ①就学前のお子さんの保護者
- ②小学1年生から6年生までのお子さんの保護者
- ③12歳～18歳の方
- ④30歳以上40歳未満の、世帯主のみの世帯、世帯主と夫又は妻のみの世帯
- ⑤世帯主と子のみで構成されている世帯の18歳以下のお子さんの保護者
- ⑥従業員数が10人以上300人未満の事業所

を対象とし、①～⑤については平成20年11月1日現在、住民基本台帳に登録のある方の中から、無作為に選ばせていただきました。

なお、この調査票は「調査の①」の方（1,500人）を対象としております。

調査結果は、統計的に処理するもので、この調査の目的以外に使用することはありません。また、個々のご回答やプライバシーに関わる内容が公表されることは一切ありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成20年11月

北区子ども家庭部子育て支援課

《ご記入にあたってのお願い》

1. 特にことわりのある場合以外は、**封筒のあて名のお子さん**についてご記入ください。
2. アンケートには、**お子さんの保護者の方**がご記入ください。また、無記名ですので、氏名・住所の記入の必要はありません。
3. ご回答は、**最初から順番にお答え**ください。
4. ご回答は、**選択肢の番号**に をつけていただく場合と、 に**数字など**をご記入いただく場合があります。数字については、右詰めでご記入ください。
5. 質問によって、 をつける選択肢の番号を「2つまで」などと指定している場合は、**指定の範囲内**で をつけてください。また、「**その他**」をお選びいただいた場合、その後にある()内に、**具体的な内容**をご記入ください。
6. 数字で時間(時刻)をご記入いただく場合は、**24時間制(例：午後6:00時 18:00時)**でご記入ください。
7. 質問によっては、ご回答いただく方が限られる場合がありますので、矢印()やことわり書きなど、次にご回答いただく質問番号への案内にご注意ください。

ご記入が済みましたら、誠に恐縮ですが、同封の返信用封筒に入れて、**12月11日(木)まで**にご投函ください。

ご回答いただく上でご不明な点、調査に関するお問い合わせは、下記までお願い致します。

連絡先：子ども家庭部子育て支援課 担当 浅香・田口
電話：03(3908)8143(直通)

[問 6 以降は、すべての方がお答えください]

問 6 あて名のお子さんの身の回りの世話などを主にしている方はどなたですか。続柄は、あて名のお子さんからみた関係です。(1つに○)

1 . 主に父親	2 . 主に母親	3 . 主に祖父母	4 . その他 ()
----------	----------	-----------	-------------

問 7 お住まいの地区はどこですか。(1つに○)

1 . 浮間地区	浮間 1~5 丁目
2 . 赤羽西地区	赤羽北 1~3 丁目・桐ヶ丘 1~2 丁目・赤羽台 1~4 丁目・赤羽西 1~6 丁目・西が丘 1~3 丁目・上十条 5 丁目・十条仲原 3~4 丁目・中十条 4 丁目
3 . 赤羽東地区	赤羽 1~3 丁目・岩淵町・志茂 1~5 丁目・赤羽南 1~2 丁目・神谷 2~3 丁目・東十条 5~6 丁目
4 . 王子西地区	上十条 1~4 丁目・十条仲原 1~2 丁目・中十条 1~3 丁目・岸町 1~2 丁目・十条台 1~2 丁目・王子本町 1~3 丁目・滝野川 4 丁目
5 . 王子東地区	東十条 1~4 丁目・神谷 1 丁目・王子 1~6 丁目・豊島 1~8 丁目
6 . 滝野川西地区	滝野川 1~3 丁目・滝野川 5~7 丁目・西ヶ原 1~4 丁目・上中里 1 丁目・中里 1~3 丁目・田端 1~6 丁目
7 . 滝野川東地区	堀船 1~4 丁目・栄町・上中里 2~3 丁目・昭和町 1~3 丁目・東田端 1~2 丁目・田端新町 1~3 丁目

問 8 世帯の年収は、次のうちどれにあたりますか。(1つに○)

1 . 200 万円未満	6 . 600 万円以上 ~ 700 万円未満
2 . 200 万円以上 ~ 300 万円未満	7 . 700 万円以上 ~ 800 万円未満
3 . 300 万円以上 ~ 400 万円未満	8 . 800 万円以上 ~ 900 万円未満
4 . 400 万円以上 ~ 500 万円未満	9 . 900 万円以上 ~ 1,000 万円未満
5 . 500 万円以上 ~ 600 万円未満	10 . 1,000 万円以上

【あて名のお子さんの保護者の就労状況についておたずねします】

問 9 父親は就労していますか(自営業、家族従事者を含む)。(1つに○)

(注) 母子家庭の方は記入不要

1 . 就労している(フルタイム:育休・介護休業中は含みません)	} (問 10 へ進む)
2 . 就労している(フルタイムだが育休・介護休業中)	
3 . 就労している(パートタイム・アルバイト等)	
4 . 以前は就労していたが、現在は就労していない	
5 . これまで就労したことがない	

▶《問 9 で「1」とお答えの方におたずねします》

問 9-1 1 週あたりの平均的な就労時間と、働いている日の平均的な帰宅時間を記入してください。

1 週あたり	<input type="text"/> : <input type="text"/>	時間	帰宅時間	<input type="text"/> : <input type="text"/>	時頃
--------	---	----	------	---	----

【次は問 10 へ進んでください】

▶《問 9 で「3」とお答えの方におたずねします》

問 9-2 1 週あたりの平均的な就労日数と、1 日あたりの平均的な勤務時間を記入してください。

1 週あたり	<input type="text"/>	日	1 日あたり	<input type="text"/> : <input type="text"/>	時間
--------	----------------------	---	--------	---	----

《問9で「3」とお答えの方におたずねします》

問9-3 あなたは、フルタイムへの転換希望がありますか。(1つに○)

1. 希望がある 2. 希望があるが予定はない 3. 希望はない

問10 母親は就労していますか(自営業、家族従事者を含む)。(1つに○)

(注) 父子家庭の方は記入不要

1. 就労している(フルタイム:育休・介護休業中は含みません)
2. 就労している(フルタイムだが育休・介護休業中)(問11へ進む)
3. 就労している(パートタイム・アルバイト等)
4. 以前は就労していたが、現在は就労していない } (問10-4へ進む)
5. これまで就労したことがない

→《問10で「1」とお答えの方におたずねします》

問10-1 1週あたりの平均的な就労時間と、働いている日の平均的な帰宅時間を記入してください。

1週あたり : 時間 帰宅時間 : 時頃

【次は問11へ進んでください】

→《問10で「3」とお答えの方におたずねします》

問10-2 1週あたりの平均的な就労日数と、1日あたりの平均的な勤務時間を記入してください。

1週あたり 日 1日あたり : 時間

→問10-3 あなたは、フルタイムへの転換希望がありますか。(1つに○)

1. 希望がある 2. 希望があるが予定はない 3. 希望はない

【次は問11へ進んでください】

《問10で「4」又は「5」とお答えの方におたずねします》

問10-4 就労希望はありますか。(1つに○)

1. 有(すぐにでも若しくは1年以内に希望がある)
2. 有(1年より先で、子どもがある程度大きくなったら就労したい)
3. 無(問11へ進む)

→《問10-4で「1」又は「2」とお答えの方におたずねします》

問10-5 希望する就労形態は次のどれですか。(1つに○)(※パート、アルバイトを希望されている方は、1週あたりの日数及び1日あたり勤務時間も記入してください)

1. フルタイムによる就労
2. パートタイム、アルバイト等による就労
1週あたり 日 1日あたり : 時間

→問10-6 就労希望がありながら、現在働いていない理由は何ですか。(1つに○)

1. 幼児教育・保育サービス(次頁の注参照)が利用できれば就労したい
2. 働きながら子育てできる適当な仕事がない
3. 自分の知識、能力にあう仕事がない
4. 家族の考え方(親族の理解が得られない)等就労する環境が整っていない
5. その他 ()

(注) この調査において「幼児教育・保育サービス」とは
 幼稚園(通常の就園時間)、幼稚園(通常の就園時間を延長して預かるサービス)、認可保育園、認証保育所、保育室、家庭福祉員(いわゆる保育ママ)、事業所内保育施設、ベビーシッター、ファミリーサポートで、定期的に受けているサービスとします。
 サービスの説明については、問 37-1 を参照してください。

《問 10-4 で「2. 有(1年より先で、子どもがある程度大きくなったら就労したい)」とお答えの方におたずねします》

問 10-7 あて名のお子さんも含めて一番小さい子どもが何歳になったら就労を希望されますか。

歳

【問 11 以降はすべての方がお答えください】

問 11 あて名のお子さんの出産前後(それぞれ1年以内)に離職しましたか。(1つに○)

1. 離職した
 2. 継続的に働いていた(転職も含む)
 3. 出産1年前は働いていなかった } (問 12 へ進む)

《問 11 で「1」とお答えの方におたずねします》

問 11-1 仕事と家庭の両立を支援する保育サービス等や環境が整っていたら、就労を継続しましたか。(1つに○)

- | | |
|--|--|
| 1. 保育サービス等が確実に利用できる見込みがあれば、継続して就労していた | 3. 保育サービス等と職場の両立支援環境がどちらも整っていれば、継続して就労していた |
| 2. 職場において育児休業制度等の仕事と家庭の両立支援制度が整い、働き続けやすい環境が整っていれば、継続して就労していた | 4. 家族の考え方(親族の理解が得られない)等就労する環境が整っていない |
| | 5. いずれにしてもやめていた |
| | 6. その他() |

【北区の子育ての環境についておたずねします】

問 12 北区は、子育てがしやすいまちだと思いますか。(1つに○)

1. 子育てしやすいまちだと思う
 2. 子育てしやすいまちだと思わない(問 12-2 へ進む)
 3. どちらともいえない
 4. その他() } (問 13 へ進む)

《問 12 で「1」とお答えの方におたずねします》

問 12-1 子育てしやすいまちだと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1. 住環境がよい | 7. 職場と住居が近い |
| 2. 自然環境がよい | 8. 公園や児童館など子どもの遊び場が多い |
| 3. 交通機関が便利 | 9. 近所づきあいや地域活動が盛ん |
| 4. 保育サービス等が充実している | 10. 地域の子育てネットワークができている |
| 5. 保育園、幼稚園などが利用しやすい | 11. 子育てに関する情報が得やすい |
| 6. 保育以外の子育て支援サービスが充実している | 12. 事故や犯罪が少なく安全 |
| | 13. その他() |

《問12で「2」とお答えの方におたずねします》

問12-2 子育てしやすいまちだと思わない理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1. 住環境がよくない | 7. 職場と住居が遠い |
| 2. 自然環境がよくない | 8. 公園や児童館など子どもの遊び場が少ない |
| 3. 交通機関が不便 | 9. 近所づきあいや地域活動が盛んではない |
| 4. 保育サービス等が充実していない | 10. 地域の子育てネットワークができていない |
| 5. 保育園、幼稚園などが利用しづらい | 11. 子育てに関する情報が得にくい |
| 6. 保育以外の子育て支援サービスが充実していない | 12. 事故や犯罪が多く危険 |
| | 13. その他() |

問13 今後も、北区で子育てをしたいと思えますか。(1つに○)

- | |
|--------------------------|
| 1. ずっと北区で子育てをしたい |
| 2. 当分の間は北区で子育てをしたい |
| 3. できれば北区以外の区市町村で子育てをしたい |
| 4. 近いうちに転出するつもりである |
| 5. その他() |

【あて名のお子さんの子育て全般についておたずねします】

問14 あなたは、子育てが楽しいですか。(1つに○)

- | | |
|-----------|------------------------|
| 1. とても楽しい | 3. つらいこともあるが楽しいことの方が多い |
| 2. とてもつらい | 4. 楽しいこともあるがつらいことの方が多い |

問15 子育てに関して悩んでいること、又は気になることがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 病気や発育・発達 | 7. 仕事や自分のやりたいことが十分でない |
| 2. 食事や栄養 | 8. 子どもの教育 |
| 3. 子どものしつけの方法がよくわからない | 9. 友だちづきあい(いじめなどを含む) |
| 4. 子どもとの接し方に自信が持てない | 10. 登園拒否など |
| 5. 子どもとの時間を十分にとれない | 11. その他() |
| 6. 話し相手や相談相手がいない | 12. 特にない |

問16 お子さんのことで何かわからないことや困ったこと、悩みごとがあるとき、誰に相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 1. 配偶者(夫、妻) | 10. 医師 |
| 2. 父母(子どもの祖父母) | 11. 健康いきがい課各健康相談係の保健師や相談員 |
| 3. その他の親族 | 12. 民生委員・児童委員 |
| 4. 近所の知人 | 13. 区や都など公的相談機関(電話相談含む) |
| 5. 地域の子育て仲間 | 14. 民間の相談機関(電話相談含む) |
| 6. 子ども家庭支援センター(育ち愛ほっと館) | 15. 育児書や育児雑誌 |
| 7. 児童館(児童室)・学童クラブの職員 | 16. インターネット |
| 8. 保育園の保育士・幼稚園の先生 | 17. その他() |
| 9. 塾・習い事の先生 | 18. 誰にも相談しない |

問17 子育てに関する情報をどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------------------|---------------|
| 1. 家族・知人・友人 | 7. テレビ、ラジオ、新聞 |
| 2. 保育園、幼稚園、学校、児童館
(児童室)・学童クラブ | 8. 医療機関 |
| 3. 健康いきがい課各健康相談係 | 9. 育児書・育児雑誌 |
| 4. 区役所や区の機関 | 10. インターネット |
| 5. 区の広報やホームページ | 11. その他() |
| 6. 子ども家庭支援センター(育ち愛ほっと館) | |

【仕事と生活の調和についておたずねします】

問18 あて名のお子さんを出産するとき、育児休業を取得しましたか。(1つに○)

- | |
|--------------------|
| 1. 母親が取得した |
| 2. 父親が取得した |
| 3. 母親と父親の両方が取得した |
| 4. 取得しなかった(問19へ進む) |

→《問18で「1」～「3」のいずれかをお答えの方におたずねします》

問18-1 育児休業から復帰されたとき、お子さんの月齢は何カ月でしたか。お子さんが1歳以上の場合も月に換算して(例:1歳6カ月→18カ月)お答えください。
なお、問18で「3」とお答えになった方は、最後の育児休業利用者が復帰されたときについてお答えください。

子どもは 月 日 カ月だった

問18-2 育児休業明けに、希望する保育サービス等をすぐ利用できましたか。

(1つに○)

- | |
|------------------------------|
| 1. 育児休業期間を調整せずに利用できた(問19へ進む) |
| 2. 育児休業期間を調整したので利用できた |
| 3. 利用できなかった |
| 4. 希望しなかった(問19へ進む) |

→《問18-2で「2」とお答えの方におたずねします》

問18-3 育児休業明けに希望する保育サービス等が確実に利用できたとしたら、育児休業は実際に取得した期間と変わりましたか。(1つに○をつけ、「2」「3」とお答えの方は、 内に数字をご記入ください。)

1. 変わらない 2. 長くした カ月 3. 短くした カ月

→《問18-2で「3」とお答えの方におたずねします。》

問18-4 そのとき、どのように対応されましたか。(1に○)

- | |
|------------------------------|
| 1. 希望とは違う認可保育所を利用した |
| 2. 事業所内の保育サービスを利用した |
| 3. 上記(選択肢1・2)以外の保育サービス等を利用した |
| 4. 家族等にみてもらうことで対応した |
| 5. 仕事を辞めた |

問19 あて名のお子さんとかかわる時間（会話、食事、一緒にテレビを見る、一緒に遊ぶ、風呂に入る、身の回りの世話、勉強をみるなどの合計の時間）はだいたいどのくらいありますか。（父親、母親とも平日と休日に分けてそれぞれ1つに○）

（父親）

平 日（1つに ）	休 日（1つに ）
1 . ほとんどない	1 . ほとんどない
2 . 30分くらい	2 . 30分くらい
3 . 1時間くらい	3 . 1時間くらい
4 . 2時間くらい	4 . 2時間くらい
5 . 3時間くらい	5 . 3時間くらい
6 . 4時間以上	6 . 4時間以上

（母親）

平 日（1つに ）	休 日（1つに ）
1 . ほとんどない	1 . ほとんどない
2 . 30分くらい	2 . 30分くらい
3 . 1時間くらい	3 . 1時間くらい
4 . 2時間くらい	4 . 2時間くらい
5 . 3時間くらい	5 . 3時間くらい
6 . 4時間以上	6 . 4時間以上

問20 仕事と子育てを両立させるためには何が必要と思われますか。

（あてはまるものすべてに○）

1 . 家族の協力	6 . 職場の中の意識や理解、協力体制
2 . 育児休業制度の充実	7 . 親の仕事の形態に合わせた保育施設やサービスの充実
3 . 子育て後に再就職できる制度の充実	8 . 学童クラブの整備・充実
4 . フレックスタイム制度や短時間勤務制度の導入	9 . その他（ ）
5 . 企業内保育所の整備・充実	

【妊娠・出産・育児についておたずねします】

問21 お子さん（あて名のお子さんに限りません）を妊娠中、母親が精神的に不安定になったことはありますか。（1つに○）

1 . よくあった 2 . 時々あった 3 . ほとんどなかった 4 . なかった

問22 お子さん（あて名のお子さんに限りません）の出産後1カ月くらいの間、母親が精神的に不安定になったことがありますか。（1つに○）

1 . よくあった 2 . 時々あった 3 . ほとんどなかった 4 . なかった

問23 あて名のお子さんは、毎日朝食を食べていますか。（1つに○）

1 . ほぼ毎日食べる 4 . ほとんど食べない
2 . 週に3日～5日程度は食べる 5 . 離乳前
3 . 週に1日～2日程度は食べる

問24 休日や夜間にお子さん（あて名のお子さんに限りません）が病気になったとき、受診できる医療機関を知っていますか。（1つに○）

1 . 知っている 2 . 知らない

問30 あなたは、ファミリーサポート（問37-1の定義参照）を利用していますか。
(1つに○)

1. 利用している	2. 利用していない (問30-4へ進む)
-----------	-----------------------

→《問30で「1」とお答えの方におたずねします》

問30-1 どのような目的でファミリーサポートを利用していますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 主たる保育サービスとして利用している
2. 保育施設等の利用で足りない時間を補う目的で利用している (朝・夕等)
3. 子どもの病気・ケガ等の緊急時に利用している
4. 祖父母や近所の人・友人等に預かってもらえないときに利用している
5. 親の冠婚葬祭等や買い物等の外出の際に利用している
6. 保育施設等の送り迎えに利用している
7. その他の目的で利用している

→問30-2 どのくらいの頻度で利用していますか。利用頻度を 内にご記入ください。

月に <input type="text"/> 日ぐらい	1回あたり <input type="text"/> 時間程度
------------------------------	---------------------------------

→問30-3 利用日数・利用回数を増やしたいと思いますか。希望がある場合は、 内にご記入ください。

月に <input type="text"/> 日ぐらい	1回あたり <input type="text"/> 時間程度
------------------------------	---------------------------------

《問30で「2」とお答えの方におたずねします》

問30-4 今は利用していないが、できれば利用したい方は、 内にご記入ください。

月に <input type="text"/> 日ぐらい	1回あたり <input type="text"/> 時間程度
------------------------------	---------------------------------

【住宅環境についておたずねします】

問31 お住まいは、次のどれですか。(1つに○)

1. 持ち家 (一戸建て)	3. 民間賃貸住宅	5. 給与住宅 (社宅、公務員住宅)
2. 持ち家 (マンション)	4. 公共賃貸住宅	6. その他 ()

問32 現在のお住まいで困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家が狭い	6. 家主や地主とのトラブル
2. 間取りや設備が悪い	7. 隣近所の住人とのトラブル
3. 近隣の音がうるさい	8. 家賃やローン
4. 日当たりが悪い	9. その他 ()
5. 建物が老朽化している	10. 特にない

問33 子育て中のファミリー世帯等の住みやすい環境を、住宅施策の面から整えるために、北区はどのような施策を進めていくべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 子育て家庭に対する公共住宅の優先枠の設定や住み替え等の仕組みづくり
2. 子育てがしやすい良質な民間住宅を区が認定しPRするなどの供給誘導
3. 子育てがしやすい住宅や住宅設備に関する相談・情報提供体制の整備
4. 子育て世帯に対する住宅取得・賃借、修繕等のための融資や助成
5. その他 ()

【子どもの遊び場や外出環境についておたずねします】

問34 子どもの遊び場について、日頃感じていることがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------|--------------------------------|
| 1. 近くに遊び場がない | 8. 緑などの自然が少ない |
| 2. 雨の日に遊べる場所がない | 9. 遊び場やその周辺の環境が悪くて、安心して遊べない |
| 3. 思い切り遊ぶために十分な広さがない | 10. 遊び場周辺の道路が危険である |
| 4. 遊具などの種類が充実していない | 11. 遊び場に行っても子どもと同じ歳くらいの遊び仲間がない |
| 5. 不衛生である | 12. その他() |
| 6. いつも閑散としていて寂しい感じがする | 13. 特に感じることはない |
| 7. 遊具などの設備が古くて危険である | |

問35 子どもや、親子の遊び場の1つとして、北区には児童館や児童室がありますが、児童館・児童室に望むことはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---------------------------|
| 1. 子どもの体験を豊かにする行事や取り組み |
| 2. 年齢を超えた子ども同士の交流 |
| 3. 施設や活動内容のPR |
| 4. 遊具などの設備の充実や施設の改善 |
| 5. 子どもが相談したり、遊びなどの情報が得られる |
| 6. 親同士の交流や自主グループの活動 |
| 7. 子育てについて気軽に相談できる |
| 8. 専門家による子育て相談ができる |
| 9. その他() |

問36 子どもと外出するときに、困ること・困ったことは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--|
| 1. 歩道や信号がない通りが多く、安全に心配がある |
| 2. 歩道の段差などがベビーカーや自転車の通行の妨げになっている |
| 3. 交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていない |
| 4. トイレがオムツ替えや親子での利用に配慮されていない |
| 5. 授乳する場所や必要な設備がない |
| 6. 小さな子どもとの食事に配慮された場所がない |
| 7. 買い物や用事の合間の気分転換に、子どもを遊ばせる場所がない |
| 8. 暗い通りや見通しのきかないところが多く、子どもが犯罪の被害にあわないか心配 |
| 9. 周囲の人が子ども連れを迷惑そうにみる |
| 10. 荷物や子どもに手をとられて困っているときに手を貸してくれる人が少ない |
| 11. その他() |
| 12. 特に困ること・困ったことはない |

[問 37-4 は、すべての方がお答えください]

問 37-4 認可保育所でより充実する必要があると思う内容を以下の中からお選びください。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------|----------------------------------|
| 1 . 保育所数の増加、保育定員の拡大 | 5 . 延長(6時15分以降)保育定員の拡大 |
| 2 . 産休明け(生後58日以降)保育実施園の増加 | 6 . 保護者・家族の傷病や介護のための緊急保育施設の増加・拡大 |
| 3 . 産休明け(生後58日以降)保育定員の拡大 | 7 . 保護者の冠婚葬祭等や休養のための一時保育施設の増加・拡大 |
| 4 . 延長(6時15分以降)保育実施保育所の増加 | 8 . 病児・病後児施設の増加 |
| | 9 . その他() |

【あて名のお子さんの病児・病後児保育についておたずねします】

[問 38～問 38-2 は、保育サービス等を利用している方がお答えください。保育サービス等を利用していない方は問 39 へ進んでください]

問38 この1年間に、あて名のお子さんが病気やケガで通常の保育サービス等(問37-1の定義参照)を利用できなかったことはありますか。(1つに○)

- | | |
|---------|----------------------|
| 1 . あった | 2 . なかった(問 39 へ進む) |
|---------|----------------------|

→《問 38 で「1」とお答えの方におたずねします》

問38-1 この1年間の対処方法とそれぞれの日数は概ね何日くらいですか。(あてはまる番号すべてに○をつけ、それぞれの日数を□内に記入してください。半日程度についても1日としてカウントしてください。)

- | | | | |
|---|-----|---|----------------|
| 1 . 父親が休んだ | □ □ | 日 | |
| 2 . 母親が休んだ | □ □ | 日 | |
| 3 . (同居者を含む)親族・知人に預けた | □ □ | 日 | |
| 4 . 就労していない保護者がみた | □ □ | 日 | } (問 39 へ進む) |
| 5 . 病児・病後児の保育サービスを利用した
(保育所で実施しているサービスを含む) | □ □ | 日 | |
| 6 . ベビーシッターを頼んだ | □ □ | 日 | |
| 7 . ファミリーサポートを利用した | □ □ | 日 | |
| 8 . 仕方なく子どもだけで留守番をさせた | □ □ | 日 | |
| 9 . その他() | □ □ | 日 | |

→《問38-1で「1」～「3」のいずれかをお答えの方におたずねします》

問38-2 その際、できれば施設等に預けたいと思われた日数はどれくらいありましたか。□内に日数を記入してください。

- | | | |
|------------------|-----|---|
| できれば施設等に預けたかった日数 | □ □ | 日 |
|------------------|-----|---|

【あて名のお子さんの一時預かりについておたずねします】

問39 この1年間に、私用（買物、習い事、スポーツ、会合、美容院など）やリフレッシュ目的、冠婚葬祭や子どもの親の病気、あるいは就労のため、あて名のお子さんを家族以外の誰かに一時的に預けたことはありましたか。半日程度についても1日としてカウントしてください。（1つに○）

1. ある

2. ない（問40へ進む）

《問39で「1」とお答えの方におたずねします》

問39-1 この1年間に、あて名のお子さんを家族以外の方に預けた日数と理由別の日数を□内に記入してください。

		（理由別）			
年間	□□	日	私用（買物、習い事等）	リフレッシュ目的	□□
			冠婚葬祭、子どもの親の病気		□□
			就 労		□□

問40 現在子どもの一時預かりは利用していないが、できれば利用したい、あるいは利用日数・利用回数を増やしたいと思いませんか。希望がある方は□内に記入してください。

月に □□ 日くらい

【あて名のお子さんの宿泊を伴う一時預かりについておたずねします】

問41 この1年間に、保護者の用事などにより、あて名のお子さんを泊まりがけで家族以外に預けなければならなかったことはありましたか。（1つに○）

1. あった（預け先が見つからなかった場合を含む）

2. なかった（問42へ進む）

《問41で「1」とお答えの方におたずねします》

問41-1 この1年間の対処方法とそれぞれの泊数は概ね何日くらいですか。（あてはまる番号すべてに○をつけ、それぞれの日数を□内に記入してください。）

1.（同居者を含む）親族・知人に預けた □□ 泊

2. 保育サービス（注）を利用した □□ 泊

3. 仕方なく子どもも同行させた □□ 泊

4. 仕方なく子どもだけで留守番をさせた □□ 泊

5. その他（ ） □□ 泊

（注）子どもショートステイ事業を実施している施設、認可外保育施設、ベビーシッターなど

《問41-1で「1」とお答えの方におたずねします》

問41-2 その場合の困難度はどの程度でしたか。（1つに○）

1. 非常に困難

2. どちらかという困難

3. 特に困難ではない

【来年度就学予定の子どもがいる保護者の方におたずねします】

問42 あて名のお子さんの小学校入学以降の放課後の過ごし方について、学童クラブを利用したいと思いませんか。（1つに○）

（注）学童クラブは、保護者が就労等により昼間家庭にいない場合などに、指導員のもとで子ども（おおむね10歳未満）の生活の場を提供するものです。

1. 利用したい 週 日くらい
2. 利用予定はない（問43へ進む）

【ベビーシッターの利用状況についておたずねします】

[問43及び問44は、ベビーシッターを利用している方がお答えください。

ベビーシッターを利用していない方は問45へ進んでください]

問43 どのような目的でベビーシッターを利用していますか。

（あてはまるものすべてに○）

1. 主たる保育サービスとして
2. 保育施設等の利用で足りない時間を補う目的（朝・夕等）
3. 子どもの病気・ケガ等の緊急時
4. 祖父母や近所の人・友人等に預かってもらえないとき
5. 親の冠婚葬祭等や買い物等の外出の際
6. その他の目的で利用している

問44 どのくらいの頻度で利用していますか。利用頻度を 内にご記入ください。

月に 日くらい 1回あたり 時間程度

【今後の保育サービス等の利用意向についておたずねします】

問45 現在あて名のお子さんは、保育サービス等を利用していないが、できれば利用したい、あるいは（利用日数・利用回数や利用時間が）足りていないと思う保育サービス等の番号に○をつけてください。現在就労していないが、今後就労希望のある方は、就労した場合を想定してお答えください。（あてはまるものすべてに○）

また、今後の保育サービス等の利用希望について、1週あたり何日、1日あたり何時間（何時から何時まで）保育サービス等（延長保育なども含めます）の利用を希望しますか。 内に具体的な数字をお書きください。

時間は24時間制（例：9：00時～18：00時）でご記入ください。

【日中の定期的保育】

1. 認可保育所

国が認める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの

1週あたり 日

1日あたり 時間（ 時～ 時）

2. 認証保育所 認可保育所ではないが、東京都が 認証した施設	→	1 週あたり <input type="text"/> 日 1 日あたり <input type="text"/> 時間 (<input type="text"/> 時 ~ <input type="text"/> 時)
3. 保育室 保育室設置基準を満たし、北区と保育室利 用契約を結んでいる施設	→	1 週あたり <input type="text"/> 日 1 日あたり <input type="text"/> 時間 (<input type="text"/> 時 ~ <input type="text"/> 時)
4. 家庭福祉員 (保育ママ) 保育者の自宅等で子どもを預かる サービス	→	1 週あたり <input type="text"/> 日 1 日あたり <input type="text"/> 時間 (<input type="text"/> 時 ~ <input type="text"/> 時)
5. 事業所内保育施設 企業が従業員用に運営する施設	→	1 週あたり <input type="text"/> 日 1 日あたり <input type="text"/> 時間 (<input type="text"/> 時 ~ <input type="text"/> 時)
6. 幼稚園 通常の就園時間	→	1 週あたり <input type="text"/> 日 1 日あたり <input type="text"/> 時間 (<input type="text"/> 時 ~ <input type="text"/> 時)
7. 幼稚園の預かり保育 通常の就園時間を延長して預かる サービス	→	1 週あたり <input type="text"/> 日 1 日あたり <input type="text"/> 時間 (<input type="text"/> 時 ~ <input type="text"/> 時)
8. ベビーシッター	→	1 週あたり <input type="text"/> 日 1 日あたり <input type="text"/> 時間 (<input type="text"/> 時 ~ <input type="text"/> 時)
9. ファミリーサポート 地域住民による子どもの預かりサ ービス	→	1 週あたり <input type="text"/> 日 1 日あたり <input type="text"/> 時間 (<input type="text"/> 時 ~ <input type="text"/> 時)
10. 認定子ども園 保育施設と幼稚園が一体化した施設	→	1 週あたり <input type="text"/> 日 1 日あたり <input type="text"/> 時間 (<input type="text"/> 時 ~ <input type="text"/> 時)
11. 延長保育	→	1 週あたり <input type="text"/> 日 1 日あたり <input type="text"/> 時間 (<input type="text"/> 時 ~ <input type="text"/> 時)
12. トワイライトステイ 保護者の方が、一時的にお子さんを養育す ることが困難になった時に、お子さんを施 設にて午後1時から午後10時までの間一時 お預かりします。	→	1 週あたり <input type="text"/> 日 1 日あたり <input type="text"/> 時間 (<input type="text"/> 時 ~ <input type="text"/> 時)
13. ショートステイ 保護者の方が、一時的にお子さんを養育す ることが困難になった時に、お子さんを施 設にて全日または宿泊で一時お預かりし ます。	→	1 週あたり <input type="text"/> 日 1 日あたり <input type="text"/> 時間 (<input type="text"/> 時 ~ <input type="text"/> 時)
14. その他の保育施設	→	1 週あたり <input type="text"/> 日 1 日あたり <input type="text"/> 時間 (<input type="text"/> 時 ~ <input type="text"/> 時)

【その他の保育】

<p>15. 一時預かり 私用など理由を問わずに保育所などで一時的に子どもを預かるサービス</p>	<p>1 週あたり <input type="text"/> 日 1 日あたり <input type="text"/> 時間 (<input type="text"/> 時 ~ <input type="text"/> 時)</p>
<p>16. 病児・病後児保育 子どもの病気時の保育</p>	<p>1 週あたり <input type="text"/> 日 1 日あたり <input type="text"/> 時間 (<input type="text"/> 時 ~ <input type="text"/> 時)</p>
<p>17. 特にない (問 46 へ進む)</p>	

[問45で「1」～「16」のいずれかをお答えの方は、以下の問45-1をお答えください。

問45-1 保育サービス等を利用したい理由は何ですか。(1つに○)

<p>お子さんの身の回りの世話を主にしている方が</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現在就労している 2. 現在就労しているが、もっと日数や時間を増やしたい 3. 就労予定がある・求職中である 4. そのうち就労したいと考えている 5. 就労していないが、子どもの教育などのために子どもを預けたい 6. 家族・親族などを介護しなければならない 7. 病気や障害がある 8. 学生である・就学したい 9. その他 (<input type="text"/>)
--

問46 あて名のお子さんは、土曜日と日曜日・祝日の保育サービス等など(一時的な利用は除きます)の利用希望がありますか。 内に具体的な数字をお書きください。時間は24時間制(例:9:00時~18:00時)でご記入ください。
※保育サービス等などは、保育所、幼稚園、認可外保育施設などの事業を指しますが、親族、知人による預かりは含みません。

【土曜日】(1つに○)

<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎週利用したい 2. 月に1~2回は利用したい 3. 利用希望はない 	<p>} → (<input type="text"/> 時から <input type="text"/> 時まで)</p>
---	--

【日曜日・祝日】(1つに○)

<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎週利用したい 2. 月に1~2回は利用したい 3. 利用希望はない 	<p>} → (<input type="text"/> 時から <input type="text"/> 時まで)</p>
---	--

【子育て支援サービスの認知度・利用状況などについておたずねします】

問47 下記の子育て支援サービスを知っていたり、これまで利用したことはありますか。また、今後、利用したいと思いませんか。(ア～セのサービスごとにA～Cそれぞれ「1.はい」「2.いいえ」のどちらかの番号に○、Dについては、該当する番号に○)

サ ー ビ ス 名	A 知っている		B これまで 利用した ことがある		C 今後利用 したい		D 利用満足度 (利用者のみ お答えください)				
	1 は い	2 い い え	1 は い	2 い い え	1 は い	2 い い え	1 満 足 し て い る	2 や や 満 足 し て い る	3 ど ち ら か も な い	4 や や 不 満 で あ る	5 不 満 で あ る
記入例) ママパパ学級		2		2		2		2	3	4	5
ア．ママパパ学級	1	2	1	2	1	2	1	2	3	4	5
イ．産前産後支援・育児支援ヘルパー (産前産後のお母さんが、体調不良のとき家事や育児の補助として有償ボランティアのヘルパーを派遣します)	1	2	1	2	1	2	1	2	3	4	5
ウ．赤ちゃん訪問・育児相談 (「母と子の保健パック」の中の「出生通知表」を区に送ると、ご自宅に保健師又は助産師が訪問し、育児に関する相談やお母さんの産後の相談が受けられます)	1	2	1	2	1	2	1	2	3	4	5
エ．健康いきがい課各種健康相談係の情報・相談サービス	1	2	1	2	1	2	1	2	3	4	5
オ．子ども家庭支援センター(育ち愛ほっと館)の子どもと家庭の総合相談	1	2	1	2	1	2	1	2	3	4	5
カ．教育相談所の教育相談	1	2	1	2	1	2	1	2	3	4	5
キ．幼稚園の園庭等の開放	1	2	1	2	1	2	1	2	3	4	5
ク．保育園の子育て支援 (ふれあい給食・育児相談・プール遊び・園庭開放・行事参加など)	1	2	1	2	1	2	1	2	3	4	5
ケ．児童館の子育て相談	1	2	1	2	1	2	1	2	3	4	5
コ．地域育て合い事業 (児童館と保育園が連携して、地域での子育て支援を行います)	1	2	1	2	1	2	1	2	3	4	5
サ．ママ・パパ子育てほっとタイム事業 (2歳までのお子さんのいる家庭を対象に、一時保育利用券を贈呈し、区内の区立・私立保育園及び保育室でお子さんを預かります)	1	2	1	2	1	2	1	2	3	4	5
シ．児童館の乳幼児クラブ (親子で楽しみながら、体操、工作、リズム遊びなど行います)	1	2	1	2	1	2	1	2	3	4	5
ス．児童館・児童室	1	2	1	2	1	2	1	2	3	4	5
セ．北区子育てガイドブック・北区子育てマップ (区が発行している子育て情報冊子)	1	2	1	2	1	2	1	2	3	4	5

【地域子育て支援拠点事業の利用についておたずねします】

問48 あて名のお子さんは、現在、地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場です）を利用していますか。あてはまる番号すべてに○をつけ、おおよその利用回数（頻度）をご記入ください。

- | | | | | |
|-------------------------|-------|----------------------|---|-------------------|
| 1. 子ども家庭支援センター（育ち愛ほっと館） | 1週あたり | <input type="text"/> | 回 | } (問 49
へ進む) |
| 2. 児童館の乳幼児クラブ | 1週あたり | <input type="text"/> | 回 | |
| 3. 利用していない | | | | |

→《問48で「3」とお答えの方におたずねします》

問48-1 現在利用していない理由は何ですか。（1つに○）

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------------|
| 1. 利用したいサービスが地域にない | 6. 時間がない |
| 2. 地域のサービスの質に不安がある | 7. サービスの利用方法（手続き等）がわからない |
| 3. 地域のサービスの利便性（立地・開催時間・日数等）が悪く利用しづらい | 8. その他（ <input type="text"/> ） |
| 4. 利用料がかかる | 9. 特に理由はない |
| 5. 自分がサービスの対象者になるのかわからない | 10. サービスを知らなかった |

問49 今は利用していないが、できれば利用したい、あるいは利用日数を増やしたいと思いませんか。あてはまる番号すべてに○をつけ、内に利用希望日数をご記入ください。

- | | | | |
|-------------------------|-------|----------------------|---|
| 1. 子ども家庭支援センター（育ち愛ほっと館） | 1週あたり | <input type="text"/> | 回 |
| 2. 児童館の乳幼児クラブ | 1週あたり | <input type="text"/> | 回 |
| 3. 特になし | | | |

【今後の子育て支援策についておたずねします】

問50 子どもを健やかに産み育てるために必要と思われることはどのようなことですか。（3つまでに○）

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 出産や育児のしやすい就労条件を促進する |
| 2. 出産や子育てについて気軽に相談できるようにする |
| 3. 妊産婦や乳幼児の保健指導等を充実する |
| 4. 親の就労形態や通勤時間に応じた保育を進める |
| 5. 保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する |
| 6. 子ども各人の個性を尊重した、ゆとりある教育を進める |
| 7. 児童館（児童室）や身近な公園など、子どもの安全な遊び場を確保する |
| 8. 子ども会など地域の健全育成活動を進める |
| 9. 子育てを助け合うコミュニティづくりを進める |
| 10. 自然環境を保護し、子どもが自然とふれあう体験の機会を増やす |
| 11. 妊婦や子ども連れでも安心して自由に活動できるまちづくりを進める |
| 12. 質の高い住まいづくりや住環境の整備を進める |
| 13. 男性と女性が一緒に家事・育児に参加していくという考え方を広める |
| 14. その他（ <input type="text"/> ） |

北区次世代育成支援行動計画策定のための 区民アンケート調査

調査ご協力をお願い

このアンケート調査は、次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、育成されるよう支援するための計画である『北区次世代育成支援行動計画（後期）』（平成22年度～平成26年度）の策定に向けて実施するもので、区民の皆様の子育て支援に関するニーズや意識・意向を把握するために行うものです。

この調査は、幅広い区民の方を対象とするため、

- ①就学前のお子さんの保護者
- ②小学1年生から6年生までのお子さんの保護者
- ③12歳～18歳の方
- ④30歳以上40歳未満の、世帯主のみの世帯、世帯主と夫又は妻のみの世帯
- ⑤世帯主と子のみで構成されている世帯の18歳以下のお子さんの保護者
- ⑥従業員数が10人以上300人未満の事業所

を対象とし、①～⑤については平成20年11月1日現在、住民基本台帳に登録のある方の中から、無作為に選ばせていただきました。

なお、この調査票は「調査の②」の方（1,500人）を対象としております。

調査結果は、統計的に処理するもので、この調査の目的以外に使用することはありません。また、個々のご回答やプライバシーに関わる内容が公表されることは一切ありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成20年11月

北区子ども家庭部子育て支援課

《ご記入にあたってのお願い》

1. 特にことわりのある場合以外は、封筒のあて名のお子さんについてご記入ください。
2. アンケートには、お子さんの保護者の方がご記入ください。また、無記名ですので、氏名・住所の記入の必要はありません。
3. ご回答は、最初から順番に沿ってお答えください。
4. ご回答は、**選択肢の番号**をつけていただく場合と、に**数字など**をご記入いただく場合があります。数字については、右詰めでご記入ください。
5. 質問によって、をつける番号を「2つまで」などと指定している場合は、**指定の範囲内**でつけてください。また、「その他」をお選びいただいた場合、その後にある（ ）内に、**具体的な内容**をご記入ください。
6. 数字で時間（時刻）をご記入いただく場合は、**24時間制（例：午後6：00時 18：00時）**でご記入ください。
7. 質問によっては、ご回答いただく方が限られる場合がありますので、矢印（ ）やことわり書きなど、次にご回答いただく質問番号への案内にご注意ください。

ご記入が済みましたら、誠に恐縮ですが、同封の返信用封筒に入れて、

12月11日（木）までにご投函ください。

ご回答いただく上でご不明な点、調査に関するお問い合わせは、下記までお願い致します。

連絡先：子ども家庭部 子育て支援課 担当 浅香・田口

電話：03(3908)8143(直通)

[問 6 以降は、すべての方がお答えください]

問 6 あて名のお子さんの身の回りの世話などを主にしている方はどなたですか。続柄は、あて名のお子さんからみた関係です。(1つに○)

1 . 主に父親	2 . 主に母親	3 . 主に祖父母	4 . その他 ()
----------	----------	-----------	-------------

問 7 お住まいの地区はどこですか。(1つに○)

1 . 浮間地区	浮間1~5丁目
2 . 赤羽西地区	赤羽北1~3丁目・桐ヶ丘1~2丁目・赤羽台1~4丁目・赤羽西1~6丁目・西が丘1~3丁目・上十条5丁目・十条仲原3~4丁目・中十条4丁目
3 . 赤羽東地区	赤羽1~3丁目・岩淵町・志茂1~5丁目・赤羽南1~2丁目・神谷2~3丁目・東十条5~6丁目
4 . 王子西地区	上十条1~4丁目・十条仲原1~2丁目・中十条1~3丁目・岸町1~2丁目・十条台1~2丁目・王子本町1~3丁目・滝野川4丁目
5 . 王子東地区	東十条1~4丁目・神谷1丁目・王子1~6丁目・豊島1~8丁目
6 . 滝野川西地区	滝野川1~3丁目・滝野川5~7丁目・西ヶ原1~4丁目・上中里1丁目・中里1~3丁目・田端1~6丁目
7 . 滝野川東地区	堀船1~4丁目・栄町・上中里2~3丁目・昭和町1~3丁目・東田端1~2丁目・田端新町1~3丁目

問 8 世帯の年収は、次のうちどれにあたりますか。(1つに○)

1 . 200万円未満	6 . 600万円以上~700万円未満
2 . 200万円以上~300万円未満	7 . 700万円以上~800万円未満
3 . 300万円以上~400万円未満	8 . 800万円以上~900万円未満
4 . 400万円以上~500万円未満	9 . 900万円以上~1,000万円未満
5 . 500万円以上~600万円未満	10 . 1,000万円以上

【あて名のお子さんの保護者の就労状況についておたずねします】

問 9 父親は就労していますか(自営業、家族従事者を含む)。(1つに○)

(注) 母子家庭の方は記入不要

1 . 就労している(フルタイム:育休・介護休業中は含みません)	} (問 10へ進む)
2 . 就労している(フルタイムだが育休・介護休業中)	
3 . 就労している(パートタイム・アルバイト等)	
4 . 以前は就労していたが、現在は就労していない	
5 . これまでに就労したことがない	

▶《問9で「1」とお答えの方におたずねします》

問 9-1 1週あたりの平均的な就労時間と、働いている日の平均的な帰宅時間を記入してください。

1週あたり	<input type="text"/> : <input type="text"/>	時間	帰宅時間	<input type="text"/> : <input type="text"/>	時頃
-------	---	----	------	---	----

【次は問 10へ進んでください】

▶《問9で「3」とお答えの方におたずねします》

問 9-2 1週あたりの平均的な就労日数と、1日あたりの平均的な勤務時間を記入してください。

1週あたり	<input type="text"/>	日	1日あたり	<input type="text"/> : <input type="text"/>	時間
-------	----------------------	---	-------	---	----

《問9で「3」とお答えの方におたずねします》

問9-3 あなたは、フルタイムへの転換希望がありますか。(1つに○)

1. 希望がある	2. 希望があるが予定はない	3. 希望はない
----------	----------------	----------

問10 母親は就労していますか(自営業、家族従事者を含む)。(1つに○)

(注) 父子家庭の方は記入不要

1. 就労している(フルタイム:育休・介護休業中は含みません)
2. 就労している(フルタイムだが育休・介護休業中)(問11へ進む)
3. 就労している(パートタイム・アルバイト等)
4. 以前は就労していたが、現在は就労していない
5. これまで就労したことがない

} (問10-4へ進む)

→《問10で「1」とお答えの方におたずねします》

問10-1 1週あたりの平均的な就労時間と、働いている日の平均的な帰宅時間を記入してください。

1週あたり	<input type="text"/>	時間	帰宅時間	<input type="text"/>	時頃
-------	----------------------	----	------	----------------------	----

【次は問11へ進んでください】

→《問10で「3」とお答えの方におたずねします》

問10-2 1週あたりの平均的な就労日数と、1日あたりの平均的な勤務時間を記入してください。

1週あたり	<input type="text"/>	日	1日あたり	<input type="text"/>	時間
-------	----------------------	---	-------	----------------------	----

→問10-3 あなたは、フルタイムへの転換希望がありますか。(1つに○)

1. 希望がある	2. 希望があるが予定はない	3. 希望はない
----------	----------------	----------

【次は問11へ進んでください】

《問10で「4」又は「5」とお答えの方におたずねします》

問10-4 就労希望はありますか。(1つに○)

1. 有(すぐにでも若しくは1年以内に希望がある)
2. 有(1年より先で、子どもがある程度大きくなったら就労したい)
3. 無(問11へ進む)

→《問10-4で「1」又は「2」とお答えの方におたずねします》

問10-5 希望する就労形態は次のどれですか。(1つに○)(※パート、アルバイトを希望されている方は、1週あたりの日数及び1日あたり勤務時間も記入してください)

1. フルタイムによる就労
2. パートタイム、アルバイト等による就労
1週あたり <input type="text"/> 日 1日あたり <input type="text"/> 時間

→問10-6 就労希望がありながら、現在働いていない理由は何ですか。(1つに○)

1. 学童クラブなどのサービスが利用できれば就労したい
2. 働きながら子育てできる適当な仕事がない
3. 自分の知識、能力にあう仕事がない
4. 家族の考え方(親族の理解が得られない)等就労する環境が整っていない
5. その他 ()

《問 10-4 で「2. 有（1 年より先で、子どもがある程度大きくなったら就労したい）」とお答えの方におたずねします》

問 10-7 あて名のお子さんも含めて一番小さい子どもが何歳になったら就労を希望されますか。

	歳
--	---

【北区の子育ての環境についておたずねします】

[問 11 以降はすべての方がお答えください]

問 11 北区は、子育てがしやすいまちだと思いますか。（1 つに○）

- | | |
|-----------------------------------|----------------|
| 1. 子育てしやすいまちだと思う | } (問 12 へ進む) |
| 2. 子育てしやすいまちだと思わない (問 11-2 へ進む) | |
| 3. どちらともいえない | |
| 4. その他 () | |

→《問 11 で「1」とお答えの方におたずねします》

問 11-1 子育てしやすいまちだと思う理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1. 住環境がよい | 7. 職場と住居が近い |
| 2. 自然環境がよい | 8. 公園や児童館など子どもの遊び場が多い |
| 3. 交通機関が便利 | 9. 近所づきあいや地域活動が盛ん |
| 4. 保育サービス等が充実している | 10. 地域の子育てネットワークができている |
| 5. 保育園、幼稚園などが利用しやすい | 11. 子育てに関する情報が得やすい |
| 6. 保育以外の子育て支援サービスが充実している | 12. 事故や犯罪が少なく安全 |
| | 13. その他 () |

《問 11 で「2」とお答えの方におたずねします》

問 11-2 子育てしやすいまちだと思わない理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1. 住環境がよくない | 7. 職場と住居が遠い |
| 2. 自然環境がよくない | 8. 公園や児童館など子どもの遊び場が少ない |
| 3. 交通機関が不便 | 9. 近所づきあいや地域活動が盛んではない |
| 4. 保育サービス等が充実していない | 10. 地域の子育てネットワークできていない |
| 5. 保育園、幼稚園などが利用しづらい | 11. 子育てに関する情報が得にくい |
| 6. 保育以外の子育て支援サービスが充実していない | 12. 事故や犯罪が多く危険 |
| | 13. その他 () |

問 12 今後も、北区で子育てをしたいと思いますか。（1 つに○）

- | | |
|--------------------------|-------|
| 1. ずっと北区で子育てをしたい | } () |
| 2. 当分の間は北区で子育てをしたい | |
| 3. できれば北区以外の区市町村で子育てをしたい | |
| 4. 近いうちに転出するつもりである | |
| 5. その他 () | |

【あて名のお子さんの子育て全般についておたずねします】

問13 あなたは、子育てが楽しいですか。(1つに○)

- | | |
|-----------|------------------------|
| 1. とても楽しい | 3. つらいこともあるが楽しいことの方が多い |
| 2. とてもつらい | 4. 楽しいこともあるがつらいことの方が多い |

問14 子育てに関して悩んでいること、又は気になることがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. 病気や発育・発達 | 9. 不登校など |
| 2. 食事や栄養 | 10. 子どもの学力の遅れ |
| 3. 子どものしつけの方法がよくわからない | 11. 子どもの教育・塾、進路 |
| 4. 子どもとの接し方に自信が持てない | 12. 仕事や自分のやりたいことが十分できない |
| 5. 子どもとの時間を十分にとれない | 13. 子どもに落ち着きがない |
| 6. 子どものほめ方やしかり方がよくわからない | 14. 子どものことで話し相手や相談相手がいない |
| 7. いじめに関すること | 15. その他() |
| 8. 友だちづきあいなど対人関係 | 16. 特にない |

問15 お子さんのことで何かわからないことや困ったこと、悩みごとがあるとき、誰に相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 1. 配偶者(夫、妻) | 10. 塾・習い事の先生 |
| 2. 父母(子どもの祖父母) | 11. 医師 |
| 3. その他の親族 | 12. 健康いきがい課各健康相談係の保健師や相談員 |
| 4. 近所の知人 | 13. 民生委員・児童委員 |
| 5. 地域の子育て仲間 | 14. 区や都など公的相談機関(電話相談含む) |
| 6. 子ども家庭支援センター(育ち愛ほっと館) | 15. 民間の相談機関(電話相談含む) |
| 7. 児童館(児童室)・学童クラブの職員 | 16. 育児書や育児雑誌 |
| 8. 学校の先生 | 17. インターネット |
| 9. スクールカウンセラー | 18. その他() |
| | 19. 誰にも相談しない |

問16 子育てに関する情報をどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------------------|---------------|
| 1. 家族・知人・友人 | 7. テレビ、ラジオ、新聞 |
| 2. 保育園、幼稚園、学校、児童館(児童室)・学童クラブ | 8. 医療機関 |
| 3. 健康いきがい課各健康相談係 | 9. 育児書・育児雑誌 |
| 4. 区役所や区の機関 | 10. インターネット |
| 5. 区の広報やホームページ | 11. その他() |
| 6. 子ども家庭支援センター(育ち愛ほっと館) | |

【仕事と生活の調和についておたずねします】

問17 あて名のお子さんを出産するとき、育児休業を取得しましたか。(1つに○)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 母親が取得した | } (問 17-1 へ進む) |
| 2. 父親が取得した | |
| 3. 母親と父親の両方が取得した | |
| 4. 取得しなかった | (問 18 へ進む) |

《問17で「1」～「3」のいずれかをお答えの方におたずねします》

問17-1 育児休業から復帰されたとき、お子さんの月齢は何カ月でしたか。お子さんが1歳以上の場合も月に換算して（例：1歳6カ月→18カ月）お答えください。
 なお、問17で「3」とお答えになった方は、最後の育児休業利用者が復帰されたときについてお答えください。

子どもは カ月だった

問17-2 育児休業明けに、希望する保育サービス等をすぐ利用できましたか。（1つに○）

1 . 育児休業期間を調整せずに利用できた（問18へ進む）
 2 . 育児休業期間を調整したので利用できた
 3 . 利用できなかった
 4 . 希望しなかった（問18へ進む）

→《問17-2で「2」とお答えの方におたずねします》

問17-3 育児休業明けに希望する保育サービス等が確実に利用できたとしたら、育児休業は実際に取得した期間と変わりましたか。（1つに○をつけ、「2」「3」とお答えの方は、内に数字をご記入ください。

1 . 変わらない 2 . 長くした カ月 3 . 短くした カ月

→《問17-2で「3」とお答えの方におたずねします。》

問17-4 そのとき、どのように対応されましたか。（1つに○）

1 . 希望とは違う認可保育所を利用した
 2 . 事業所内の保育サービスを利用した
 3 . 上記（選択肢1・2）以外の保育サービス等を利用した
 4 . 家族等にみてもらうことで対応した
 5 . 仕事を辞めた

問18 あて名のお子さんとかかわる時間（会話、食事、一緒にテレビを見る、一緒に遊ぶ、風呂に入る、身の回りの世話、勉強をみるなど）はだいたいどのくらいありますか。（父親、母親とも平日と休日に分けてそれぞれ1つに○）

（父 親）

平 日（1つに ）	休 日（1つに ）
1 . ほとんどない	1 . ほとんどない
2 . 30分くらい	2 . 30分くらい
3 . 1時間くらい	3 . 1時間くらい
4 . 2時間くらい	4 . 2時間くらい
5 . 3時間くらい	5 . 3時間くらい
6 . 4時間以上	6 . 4時間以上

（母 親）

平 日（1つに ）	休 日（1つに ）
1 . ほとんどない	1 . ほとんどない
2 . 30分くらい	2 . 30分くらい
3 . 1時間くらい	3 . 1時間くらい
4 . 2時間くらい	4 . 2時間くらい
5 . 3時間くらい	5 . 3時間くらい
6 . 4時間以上	6 . 4時間以上

問19 仕事と子育てを両立させるためには何が必要と思われますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1. 家族の協力 | 6. 職場の中の意識や理解、協力体制 |
| 2. 育児休業制度の充実 | 7. 親の仕事の形態に合わせた保育施設やサービスの充実 |
| 3. 子育て後に再就職できる制度の充実 | 8. 学童クラブの整備・充実 |
| 4. フレックスタイム制度や短時間勤務制度の導入 | 9. その他 () |
| 5. 企業内保育所の整備・充実 | |

【住宅環境についておたずねします】

問20 お住まいの形態は、次のどれですか。(1つに○)

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1. 持ち家(一戸建て) | 4. 公共賃貸住宅 |
| 2. 持ち家(マンション) | 5. 給与住宅(社宅、公務員住宅) |
| 3. 民間賃貸住宅 | 6. その他 () |

問21 現在のお住まいで困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. 家が狭い | 6. 家主や地主とのトラブル |
| 2. 間取りや設備が悪い | 7. 隣近所の住人とのトラブル |
| 3. 近隣の音がうるさい | 8. 家賃やローン |
| 4. 日当たりが悪い | 9. その他 () |
| 5. 建物が老朽化している | 10. 特にない |

問22 子育て中のファミリー世帯等の住みやすい環境を、住宅施策の面から整えるためには、北区はどのような施策を進めていくべきだと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--------------------------------------|
| 1. 子育て家庭に対する公共住宅の優先枠の設定や住み替え等の仕組みづくり |
| 2. 子育てがしやすい良質な民間住宅を区が認定しPRするなどの供給誘導 |
| 3. 子育てがしやすい住宅や住宅設備に関する相談・情報提供体制の整備 |
| 4. 子育て世帯に対する住宅取得・賃借、修繕等のための融資や助成 |
| 5. その他 () |

【あて名のお子さんの日常生活についておたずねします】

問23 あて名のお子さんは、1日に何時間くらいテレビやビデオを見ていますか。

約 時間くらい

問24 あて名のお子さんは、1日に何時間くらいテレビゲームやコンピュータゲームなどで遊んでいますか。

約 時間くらい

問25 あて名のお子さんが見ているテレビやビデオ、遊んでいるテレビゲームやコンピュータゲームなどについて、残虐性や暴力描写等が気になることがありますか。(1つに○)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 気になる | 4. 気にならない |
| 2. どちらかといえば気になる | 5. わからない(内容を知らない) |
| 3. どちらかといえば気にならない | |

問26 家庭でお子さん(あて名のお子さんに限りません)に生命の大切さを教える工夫をしていますか。(1つに○)

- | | |
|--------------|--------------------------|
| 1. 工夫している | 3. 大切さはわかるが、どうしてよいかわからない |
| 2. 特に工夫していない | |

問27 休日や夜間にお子さん(あて名のお子さんに限りません)が病気になったとき、受診できる医療機関を知っていますか。(1つに○)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問28 あて名のお子さんは、毎日朝食を食べていますか。(1つに○)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. ほぼ毎日食べる | 3. 週に1日~2日程度は食べる |
| 2. 週に3日~5日程度は食べる | 4. ほとんど食べない |

問29 あて名のお子さんは、家族と一緒に夕食を食べていますか。(1つに○)

- | | |
|-------------------|------------|
| 1. いつも家族で食べている | } (問30へ進む) |
| 2. ととき子どもだけで食べている | |
| 3. いつも子どもだけで食べている | |

→《問29で「3」と答えの方におたずねします》

問29-1 それは月に何回くらいですか。

月 回くらい

問30 あて名のお子さんと一緒に調理することがありますか。(1つに○)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問31 あて名のお子さんに食事の準備や後片付けを手伝わせていますか。(1つに○)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問32 やる気がおこらず、お子さん(あて名のお子さんに限りません)の世話をしたくないときがありますか。(1つに○)

- | | | | |
|---------|---------|-----------|-------|
| 1. よくある | 2. 時々ある | 3. ほとんどない | 4. ない |
|---------|---------|-----------|-------|

問 33 自分は、子どもを虐待していると思うことがありますか。(1つに○)

- 1 . よくある
- 2 . 時々ある

- 3 . ほとんどない
- 4 . な い

(問 34 へ進む)

→《問 33 で「1」又は「2」とお答えの方におたずねします》

問33-1 子どもを虐待していると思うのは、どのようなときですか(2つまでに○)

- 1 . 子どもを叩いたり、つねったりする
- 2 . 食事を与えない、お風呂に入れないなど世話をしない
- 3 . 何度でもできるまでやらせるなど厳しくしつける
- 4 . 言葉で脅したり、子どもからの働きかけを無視する
- 5 . その他 ()

→問33-2 そのような行動をとるのはどうしてですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 . 配偶者の協力が得られない
- 2 . 自分も小さな頃にそのようにしつけられた
- 3 . 子育てによるストレスをぶつけてしまう
- 4 . その他 ()

【地域での子育て支援についておたずねします】

問34 あなたの周りには子育ての仲間がいますか。(1つに○)

- 1 . 子どもを預けることができるくらいの仲間がいる
- 2 . 話をする仲間がいる
- 3 . いない

問35 あなたは子育てサークルに参加していますか。(1つに○)

- 1 . 参加している

- 2 . 参加していない

→《問 35 で「2」とお答えの方におたずねします》

問35-1 参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 . 既に他の仲間がいる
- 2 . 親同士の間関係が難しい
- 3 . 参加する機会がない
- 4 . サークルに関する情報がない
- 5 . その他 ()

問36 安心して子育てをするためには、地域でどのような取り組みが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 . 子育て中の人や子育て経験者が身近に集まれる場や仕組みをつくる
- 2 . 子育て中の親子が集まったり遊べる場を増やす
- 3 . 子育てサークルなどの自主的な活動がしやすい仕組みをつくる
- 4 . ボランティアが活動しやすい環境をつくる
- 5 . 子どもと親と一緒にできる活動を増やす
- 6 . 子どもの自主的な活動を育成・支援するために、地域の団体などが連携する
- 7 . 学校や保護者、地域の人たちが協力し、子どもの安全や非行防止の活動をする
- 8 . その他 ()
- 9 . 特に必要ない

問39 あて名のお子さんは、学校が終わったあとの自由時間（勉強時間は除きます）に、どのように過ごすことが多いですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1. 本を読む | 11. 家の外で遊ぶ |
| 2. マンガを読む | 12. スポーツをしたり身体を動かしたりする |
| 3. テレビ・ビデオを見る | 13. 地域の活動などに参加する |
| 4. 音楽を聞く | 14. 散歩や買い物に行く |
| 5. 日記などを書く | 15. ゲームセンターに行く |
| 6. 絵やイラストを描く | 16. 自転車に乗る |
| 7. 楽器を演奏する | 17. 家でゆっくり休養する |
| 8. テレビゲーム・パソコンをする | 18. その他 |
| 9. 友だちとおしゃべりする | () |
| 10. 友だちと電話で話す | 19. 自由になる時間はない |

問40 ふだん、あて名のお子さんは学校が休みの土曜日・休日（日曜日・祝日）などは、どのように過ごすことが多いですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------------------|--------------------|
| 1. 家でゆっくり休養する | 6. 近所で遊んだり、運動したりする |
| 2. 家の中で、テレビ、ゲーム、読書など好きなことをする | 7. 映画・旅行・買い物などに行く |
| 3. 家の手伝いをする | 8. 塾や習い事に行く |
| 4. 家族でおしゃべりなどをする | 9. 地域の活動などに参加する |
| 5. 家・図書館などで勉強する | 10. その他 () |

問 41 現在、あて名のお子さんは、平日の放課後に学童クラブ（注）を利用していますか。（1つに○）

（注）学童クラブとは、保護者が就労等により昼間家庭にいない場合などに、指導員の下で、子ども（おおむね 10 歳未満）の生活の場を提供するものです。

- | | |
|-----------|-----------------------------|
| 1. 利用している | 2. 利用していない（問 41-2、41-3 へ進む） |
|-----------|-----------------------------|

→《問41で「1」とお答えの方におたずねします》

問 41-1 学童クラブの利用日数はどれくらいですか。また、利用している理由についてお答えください。（1つに○）

- | | | | |
|-----------------------------|----------|-------|-------|
| 週 <input type="text"/> 日くらい | うち土曜日の利用 | 1. ある | 2. ない |
|-----------------------------|----------|-------|-------|

- | | |
|------------------------|--|
| お子さんの身の回りの世話を主にしている方が | |
| 1. 現在就労している | |
| 2. 就労予定がある・求職中である | |
| 3. 家族・親族などを介護しなければならない | |
| 4. 病気や障害がある | |
| 5. 学生である | |
| 6. その他 () | |

【次は問 42 へ進んでください】

《問 41 で「2」とお答えの方におたずねします。》

問 41-2 利用していない理由は何ですか。(1つに○)

お子さんの身の回りの世話を主にしている方が	
1 . 現在就労していない	
2 . 就労しているが、学童クラブを知らなかった	
3 . 就労しているが、近くに学童クラブがない	
4 . 就労しているが、学童クラブに空きがない	
5 . 就労しているが、学童クラブの開所時間が短い	
6 . 就労しているが、利用料がかかる	
7 . 就労しているが、子どもは放課後習い事をしている	
8 . 就労しているが、放課後の短時間ならば、子どもだけでも大丈夫だと思う	
9 . 就労しているが、他の施設に預けている	
10 . その他 ()

問 41-3 今後、学童クラブを利用したいとお考えですか。(1つに○)

1 . 利用したい	2 . 今後も利用しない (問 42 へ進む)
-----------	---------------------------

▶《問41-3で「1」とお答えの方におたずねします》

問 41-4 利用したい日数は何日くらいですか。また、利用したい理由についてお答えください。(1つに○)

週 <input type="text"/> 日くらい	うち土曜日の利用	1 . あり	2 . ない
	うち日曜日の利用	1 . あり	2 . ない

お子さんの身の回りの世話を主にしている方が	
1 . 現在就労している	
2 . 就労予定がある・求職中である	
3 . そのうち就労したいと考えている	
4 . 家族・親族などを介護しなければならない	
5 . 病気や障害がある	
6 . 学生である・就学したい	
7 . 就労していないが、子どもの教育などのために子どもを預けたい	
8 . その他 ()

問 42 北区では東十条小学校など7校で「放課後子ども教室」を実施しています。あなたは、この「放課後子ども教室」をご存知ですか。(1つに○)

1 . 知っている	2 . 名前を聞いたことがある	3 . 知らない
-----------	-----------------	----------

「放課後子ども教室」とは？

「放課後子ども教室」とは、すべての子ども（小学校1～6年生）を対象として、小学校内で放課後や週末等に安心・安全な子どもの居場所を提供し、地域の方々の参画を得て、子どもたちが勉強やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等を行っています。

問 43 「放課後子ども教室」が近くの小学校にあれば、利用したいですか。利用したい場合は日数を、 内にご記入ください。(1つに○)

1 . 利用したい	週 <input type="text"/> 日くらい	2 . 利用したくない
-----------	-----------------------------	-------------

問 44 あて名のお子さんの、小学4年生～6年生の放課後の過ごし方について、どのようなことを望みますか。(1つに○)

1. 学童クラブを利用したい	小学	<input type="text"/>	年生まで利用したい
2. 放課後子ども教室を利用したい			
3. クラブ活動や習い事をさせたい			
4. 利用を希望するサービスはない			
5. その他 ()			

問 45 北区では、「放課後子ども教室」を推進する必要があるとお考えですか。(1つに○)

1. 進めるべきである
2. 進めるべきではない
3. 放課後子ども教室よりも児童館や学童クラブの充実を図るべきである
4. わからない

【あて名のお子さんの病児・病後児保育についておたずねします】

問46 この1年間に、あて名のお子さんが病気やケガで学校を休まなければならなかったことはありますか。(1つに○)

1. あった	2. なかった (問 47 へ進む)
--------	----------------------

→《問 46 で「1」とお答えの方におたずねします》

問46-1 この1年間の対処方法とそれぞれの日数は概ね何日くらいですか。(あてはまる番号すべてに○をつけ、それぞれの日数を 内に記入してください。半日程度についても1日としてカウントしてください。)

1. 父親が休んだ	<input type="text"/>	<input type="text"/>	日
2. 母親が休んだ	<input type="text"/>	<input type="text"/>	日
3. (同居者を含む) 親族・知人に預けた	<input type="text"/>	<input type="text"/>	日
4. 就労していない保護者がみた	<input type="text"/>	<input type="text"/>	日
5. 病児・病後児の保育サービスを利用した (保育所で実施しているサービスを含む)	<input type="text"/>	<input type="text"/>	日
6. ベビーシッターを頼んだ	<input type="text"/>	<input type="text"/>	日
7. ファミリーサポートを利用した	<input type="text"/>	<input type="text"/>	日
8. 仕方なく子どもだけで留守番をさせた	<input type="text"/>	<input type="text"/>	日
9. その他 ()	<input type="text"/>	<input type="text"/>	日

(問 47 へ進む)

→《問46-1で「1」～「3」のいずれかをお答えの方におたずねします》

問46-2 その際、できれば施設等に預けたいと思われた日数はどれくらいありましたか。 内に日数を記入してください。

できれば施設等に預けたかった日数	<input type="text"/>	日
------------------	----------------------	---

【あて名のお子さんの一時預かりについておたずねします】

問47 この1年間に、私用（買物、習い事、スポーツ、会合、美容院など）やリフレッシュ目的、冠婚葬祭や子どもの親の病気、あるいは就労のため、あて名のお子さんを家族以外の誰かに一時的に預けたことはありましたか。半日程度についても1日としてカウントしてください。（1つに○）

1. ある

2. ない（問48へ進む）

《問47で「1」とお答えの方におたずねします》

問47-1 この1年間に、あて名のお子さんを家族以外の方に預けた日数と理由別の日数を□内に記入してください。

年間	□ □	日	(理由別)		□ □	日		
			私用(買物、習い事等)	リフレッシュ目的			□ □	日
			冠婚葬祭、子どもの親の病気	就 労				

問48 現在子どもの一時預かりは利用していないが、できれば利用したい、あるいは利用日数・利用回数を増やしたいと思いませんか。希望がある方は□内に記入してください。

月に □ □ 日くらい

【あて名のお子さんの宿泊を伴う一時預かりについておたずねします】

問49 この1年間に、保護者の用事などにより、あて名のお子さんを泊まりがけで家族以外に預けなければならなかったことはありましたか。（1つに○）

1. あった（預け先が見つからなかった場合を含む）

2. なかった（問50へ進む）

《問49で「1」とお答えの方におたずねします》

問49-1 この1年間の対処方法とそれぞれの泊数は概ね何日くらいですか。（あてはまる番号すべてに○をつけ、それぞれの日数を□内に記入してください。

1. (同居者を含む) 親族・知人に預けた □ □ 泊

2. 保育サービス(注)を利用した □ □ 泊

3. 仕方なく子どもも同行させた □ □ 泊

4. 仕方なく子どもだけで留守番をさせた □ □ 泊

5. その他() □ □ 泊

(注) 子どもショートステイ事業を実施している施設、認可外保育施設、ベビーシッターなど

《問49-1で「1」とお答えの方におたずねします》

問49-2 その場合の困難度はどの程度でしたか。（1つに○）

1. 非常に困難

2. どちらかという困難

3. 特に困難ではない

【ベビーシッターの利用状況についておたずねします】

[問 50 及び問 51 は、ベビーシッターを利用している方がお答えください。
ベビーシッターを利用していない方は問 52 へ進んでください]

問50 どのような目的でベビーシッターを利用していますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---|
| 1. 主たる保育サービスとして
2. 保育施設等の利用で足りない時間を補う目的(朝・夕等)
3. 子どもの病気・ケガ等の緊急時
4. 祖父母や近所の人・友人等に預かってもらえないとき
5. 親の冠婚葬祭等や買い物等の外出の際
6. その他の目的 |
|---|

問51 どのくらいの頻度で利用していますか。利用頻度を 内にご記入ください。

月に 日くらい 1回あたり 時間程度

問52 今は利用していないが、できれば利用したい、あるいは利用日数・利用回数を増やしたいと思いませんか。希望がある方は 内に記入してください。

月に 日くらい

【まちづくりや子育て支援のあり方についておたずねします】

問53 子どもの遊ぶ環境をよくするためには、どうすればよいと思いませんか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. ゆとりと個性を尊重した教育の推進 | 8. 啓発キャンペーンやイベントの実施 |
| 2. 身近な魅力ある遊び場の整備 | 9. 遊び場の保全・衛生管理体制の整備 |
| 3. 自然を体験する事業の充実 | 10. 遊びのボランティアの養成 |
| 4. 仕事中心から家庭重視の意識啓発 | 11. さまざまな生活体験の場づくり |
| 5. 広域的な遊び場の整備充実 | 12. 遊びの環境づくり推進体制の整備 |
| 6. 既存施設を活用した遊び場づくり | 13. 児童健全育成団体の指導者育成 |
| 7. 情報や助言が得られる体制づくり | 14. その他 () |

問54 お子さんに今後、どのような体験をさせたいとお考えですか。(3つまでに○)

- | |
|--|
| 1. 地域でのスポーツ活動に参加させたい
2. 文化や芸術に親しませたい
3. 仲間や友人と交流する機会を持たせたい
4. 高齢者や障害者と交流させたい
5. 郷土の歴史や芸能にふれる機会を持たせたい
6. 外国人と交流させたい
7. 自然と接する機会を持たせたい
8. ボランティア活動に参加させたい
9. その他 () |
|--|

問55 子どもの安全を守るため、特に重要と思われることは次のうちどれですか。

(3つまでに○)

1. 地域の交通安全活動の充実・強化
2. 歩行者や自転車のための交通安全施設(ガードレール等)の整備
3. 地域ぐるみのパトロールなど子どもを犯罪等から守るための取り組み
4. 犯罪にあいそうになった時の対応についての教育
5. 不審者や侵入防止など、学校の安全対策
6. 通学路や子どもの遊び場(公園等)の安全対策(防犯灯や防犯カメラの整備による暗がりや死角の解消等)
7. 公園の遊具の安全性の確保
8. その他()

問56 あて名のお子さんが、犯罪の被害にあったことはありますか。(1つに○)

1. ある
2. あいそうになったことがある
3. ない

問57 子どもを健やかに産み育てるために必要と思われることはどのようなことですか。

(3つまでに○)

1. 出産や育児のしやすい就労条件を促進する
2. 出産や子育てについて気軽に相談できるようにする
3. 妊産婦や乳幼児の保健指導等を充実する
4. 親の就労形態や通勤時間に応じた保育を進める
5. 保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する
6. 子ども各人の個性を尊重した、ゆとりある教育を進める
7. 児童館(児童室)や身近な公園など、子どもの安全な遊び場を確保する
8. 子ども会など地域の健全育成活動を進める
9. 子育てを助け合うコミュニティづくりを進める
10. 自然環境を保護し、子どもが自然とふれあう体験の機会を増やす
11. 妊婦や子ども連れでも安心して自由に活動できるまちづくりを進める
12. 質の高い住まいづくりや住環境の整備を進める
13. 男性と女性が一緒に家事・育児に参加していくという考え方を広める
14. その他()

問58 男女ともに子育てと仕事の両立を図りやすくするために、企業など(職場)における環境整備としてどのようなものを望みますか。(3つまでに○)

1. 妊娠中の通勤・就労などに配慮した各種制度(時差出勤制度など)
2. 産前産後の休暇が十分にとれる制度
3. 子どもが満1歳になるまでの育児休業期間にある程度の給料保障がされる制度
4. 男女とも育児休業期間が1年を超えてとれる制度
5. 出産・育児などのため会社を辞めた女性を再雇用する制度(再雇用制度)
6. 育児のために必要な場合に、就業時間を縮めることができる制度(短時間勤務制度)
7. 就業時間をある程度自由に融通できる制度(フレックスタイム制度)
8. 自宅で仕事をすることができる制度(在宅勤務制度)
9. 子どもが病気やけがのときなどに休暇がとれる制度
10. 子どもの行事(運動会やお遊戯会など)に参加するための休暇制度
11. 企業(職場)内に託児所を設けること
12. 男女ともに子育てと仕事が両立しやすいように、企業(職場)内で子育てへの理解を広めていくこと
13. 保育料に対する企業(職場)からの助成
14. 特に希望することはない
15. その他()

北区次世代育成支援行動計画策定のための 12～18歳の区民アンケート調査

調査ご協力をお願い

このアンケート調査は、次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、育成されるよう支援するための計画である『北区次世代育成支援行動計画（後期）』（平成22年度～平成26年度）の策定に向けて実施するもので、区民の皆様の子育て支援に関するニーズや意識・意向を把握するために行うものです。

この調査は、幅広い区民の方を対象とするため、

- ①就学前のお子さんの保護者
- ②小学1年生から6年生までのお子さんの保護者
- ③12歳～18歳の方
- ④30歳以上40歳未満の、世帯主のみの世帯、世帯主と夫又は妻のみの世帯
- ⑤世帯主と子のみで構成されている世帯の18歳以下のお子さんの保護者
- ⑥従業員数が10人以上300人未満の事業所

を対象とし、①～⑤については平成20年11月1日現在、住民基本台帳に登録のある方の中から、無作為に選ばせていただきました。

なお、この調査票は「調査の③」の方（1,000人）を対象としております。

調査結果は、統計的に処理するもので、この調査の目的以外に使用することはありません。また、個々のご回答やプライバシーに関わる内容が公表されることは一切ありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成20年11月

北区子ども家庭部子育て支援課

《記入にあたってのお願い》

1. 回答は、友だちと相談したりせず、あなたの考えで答えてください。
2. 回答は、あてはまる選択肢の番号を○で囲んでください。「1つに」「あてはまるものすべてに」などの説明にそって答えてください。「その他」に○をつけた場合は、()の中に具体的な内容を記入してください。
3. 質問によっては、回答していただく人が限られる場合がありますので、矢印()など、次に答えていただく質問番号への案内に注意してください。
4. 記入が全部終わったら、もう一度見直してください。また、お手数ですが、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れて、
12月11日（木）までにお近くのポストにご投函ください。
5. このアンケート用紙にも、封筒にも、住所や名前を書く必要はありません。

記入上の不明な点、調査についての質問は下記までお願いいたします。

連絡先：子ども家庭部 子育て支援課 担当 浅香・田口

電話：03(3908)8143(直通)

《問7で「1」又は「2」とお答えの方におたずねします》

問7-1 北区が好きな理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------------|
| 1. 小さいときから住んでいる | 6. 地域の行事やお祭りなどが楽しい |
| 2. コンビニなどのお店が近くにあって便利 | 7. 塾や習いごとがいろいろ選べる |
| 3. 公園など外で遊ぶところがたくさんある | 8. 交通が便利 |
| 4. ゲームセンター・カラオケボックスなどが近くにある | 9. 繁華街(いろいろなお店があつてにぎやかなところ)が近くにある |
| 5. 児童館・図書館など子どもが使える施設が多い | 10. 友達がいるから |
| | 11. 子どもが大事にされている |
| | 12. その他() |

《問7で「3」又は「4」とお答えの方におたずねします》

問7-2 北区の嫌いな理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------|-----------------------------------|
| 1. 人や車が多すぎる | 6. 地域の行事やお祭りが少ない |
| 2. ごみごみしている | 7. 繁華街(いろいろなお店があつてにぎやかなところ)が近くにない |
| 3. 公園など外で遊ぶところが少ない | 8. 子どもにとって良くない情報が多い |
| 4. 家の周りの環境が悪い | 9. 子どもが大事にされていない |
| 5. 子どもが使える施設が少ない | 10. その他() |

問8 あなたは、これからも北区に住みたいですか。(1つに○)

- | | | |
|---------|-----------|----------|
| 1. 住みたい | 2. 住みたくない | 3. わからない |
|---------|-----------|----------|

【ふだんの生活や考え方についておたずねします】

問9 あなたは、何か相談したいことや聞いてほしいことがあったとき、気軽に話せる人がいますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1. 父 | 9. 保健室の先生 |
| 2. 母 | 10. その他の学校の先生 |
| 3. 祖父母 | 11. スクールカウンセラー |
| 4. 兄弟姉妹 | 12. 児童館・児童室の職員 |
| 5. 親戚の人(おじさん・おばさん) | 13. 塾・習い事の先生 |
| 6. 学校の友だち・先輩 | 14. 地域の知り合いの人 |
| 7. 学校以外の友だち・先輩 | 15. その他() |
| 8. 担任の先生 | 16. 誰もいない |

問10 あなたは、次のことを自分でやっていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 食事をつくる | 11. 洗濯したり洗濯ものをたたんだりする |
| 2. 食事の準備をする(食器を並べる) | 12. 自分のくつを洗う |
| 3. 食事のあとかたづけをする | 13. おつかい |
| 4. トイレの掃除 | 14. 弟や妹のめんどうをみる |
| 5. 風呂の掃除 | 15. 生きものの世話 |
| 6. 庭の掃除 | 16. 新聞などを取りにいく |
| 7. 玄関の掃除 | 17. ゴミ袋を出しにいく |
| 8. 自分の部屋の掃除 | 18. その他() |
| 9. 自分の部屋以外の部屋の掃除 | 19. 特に何もしていない |
| 10. ふとんをしいたりたたんだりする | |

問 11 あなたは、どのようなことについて“親や周囲の人の意見でなく、自分で決めたい”と思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 服や髪型等のファッション	6. 見たいテレビ	11. おこづかいの額
2. 家の食事のメニュー	7. ゲームをする時間	12. その他
3. 習い事	8. 進学する学校	()
4. 塾	9. つきあう友だち	13. 特にない
5. 家に帰る時間(門限)	10. 部活動	

問 11-1 実際に自分でどの程度決めていますか。(ア～サそれぞれ1つに○)

	自分で決めています	ほとんど自分で決めています	いもどいちえらなど	いめあ自らま分れりでは	ない決ま自分めつ分らたでは
記入例) 服や髪型等のファッション	①	2	3	4	5
ア. 服や髪型等のファッション	1	2	3	4	5
イ. 家の食事のメニュー	1	2	3	4	5
ウ. 習い事	1	2	3	4	5
エ. 塾	1	2	3	4	5
オ. 家に帰る時間(門限)	1	2	3	4	5
カ. 見たいテレビ	1	2	3	4	5
キ. ゲームをする時間	1	2	3	4	5
ク. 進学する学校	1	2	3	4	5
ケ. つきあう友だち	1	2	3	4	5
コ. 部活動	1	2	3	4	5
サ. おこづかいの額	1	2	3	4	5

問 12 次の中で、あなたが大切だと思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 自分のことは自分で決められる	6. 障害のある子どもが差別されないで暮らせる
2. 自分の考えをいつでも自由にいえる	7. 人権や言葉や宗教の違いで差別されない
3. 自分の秘密が守られる	8. ほっとしたりする時間や自分の自由になる時間をもつ
4. 人と違う自分らしさが認められる	
5. 暴力や言葉で傷つけられない	

問 12-1 これらのことは、どの程度かなえられていると思いますか。

(ア～クそれぞれ1つに○)

	かなえられている	大体かなえられている	どちらともいえない	あまりかなえられていない	まったくかなえられていない
記入例) 自分のことは自分で決められる	①	2	3	4	5
ア. 自分のことは自分で決められる	1	2	3	4	5
イ. 自分の考えをいつでも自由にいえる	1	2	3	4	5
ウ. 自分の秘密が守られる	1	2	3	4	5
エ. 人と違う自分らしさが認められる	1	2	3	4	5
オ. 暴力や言葉で傷つけられない	1	2	3	4	5
カ. 障害のある子どもが差別されないで暮らせる	1	2	3	4	5
キ. 人権や言葉や宗教の違いで差別されない	1	2	3	4	5
ク. ほっとしたりする時間や自分の自由になる時間をもつ	1	2	3	4	5

問 13 あなたが悩んでいることは、どんなことですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 健康 | 10. いじめ |
| 2. 顔や体型 | 11. 同性の友だち |
| 3. 性格やクセ | 12. 異性の友だち |
| 4. 運動 | 13. 兄弟姉妹 |
| 5. 勉強 | 14. 親 |
| 6. 将来や進路 | 15. 学校の先生 |
| 7. アルバイトや仕事 | 16. アルバイト先の人間関係 |
| 8. おこづかい | 17. その他() |
| 9. ほしいものを買ってもらえない | 18. 特にない |

問 14 あなたが今までで“一番つらい”と思ったのはどんなときですか。(1つに○)

- | |
|-----------------------------|
| 1. 友だちから仲間はずれにされた |
| 2. 学校などでいじめにあった |
| 3. 親や先生から納得のいかない理由で怒られた |
| 4. 自分のやりたいことを、やってはいけないと言われた |
| 5. 秘密にしていたことを、ばらされてしまった |
| 6. 疲れているのに、のんびりさせてもらえない |
| 7. 大人から、体罰を受けた |
| 8. 失恋をしたとき |
| 9. 学校の成績が下がったとき |
| 10. その他() |
| 11. 特にない |

【学校生活についておたずねします】

[問 15 は、学校に通っている方がお答えください。学校に通っていない方は問 16 へ進んでください]

問 15 あなたは、学校に行きたないときがありますか。(1つに○)

- | | |
|-----------|---------------------|
| 1. よくある | 3. な い (問 16 へ進む) |
| 2. ときどきある | |

→ 《問 15 で「1」又は「2」とお答えの方におたずねします》

問 15-1 あなたは、どんなときに学校に行きたくないですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1. 授業がわからない | 8. 家でしかられた |
| 2. 苦手な教科の授業がある | 9. いじめを受けた |
| 3. テストがある | 10. 身体の具合が悪い |
| 4. 宿題や課題などをしなかった | 11. 寝坊をした |
| 5. 学校の規則が厳しい | 12. 学校以外のところに行きたくなった |
| 6. 友だちとうまくいかない | 13. なんとなく |
| 7. 先生とうまくいかない | 14. その他() |

→ 問 15-2 あなたは、学校に行きたくないときどうしましたか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------|----------------------|
| 1. 父親に相談した | 6. 学校の先生に相談した |
| 2. 母親に相談した | 7. スクールカウンセラーに相談した |
| 3. 祖父・祖母に相談した | 8. 相談しなかった・相談したくなかった |
| 4. 兄弟姉妹に相談した | 9. その他() |
| 5. 友だち・先輩に相談した | 10. 学校を休んだ |

[問 16 以降は、すべての方がお答えください]

問 16 あなたは、いじめを受けたことがありますか。(1つに○)

- | | | |
|-------------|-------------|----------|
| 1. 受けたことがある | 2. 受けたことがない | 3. わからない |
|-------------|-------------|----------|

問 17 あなたは、いじめを受けたときどうしましたか。又は、いじめを受けたらどうしますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. 相手のいじめを無視した(する) | 9. 兄弟姉妹に相談した(する) |
| 2. 相手にいじめをやめるように言った(言う) | 10. 学校の先生に相談した(する) |
| 3. 相手に返しをした(する) | 11. スクールカウンセラーに相談した(する) |
| 4. 学校を休んだ(休む) | 12. いじめの相談窓口で相談した(する) |
| 5. 友だちに相談した(する) | 13. がまんした(する) |
| 6. 父親に相談した(する) | 14. 何も言えなかった(言えない) |
| 7. 母親に相談した(する) | 15. 相談しなかった(しない) |
| 8. 祖父・祖母に相談した(する) | 16. その他() |

問 18 あなたは、いじめをしたことがありますか(1つに○)

- | | | |
|-------|----------|----------------|
| 1. ある | 2. ない | } (問 19 へ進む) |
| | 3. わからない | |

▶《問 18 で「1」とお答えの方におたずねします》

問 18-1 いじめをしてどんな気分がしましたか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. すっきりした | 5. もうしないようにしようと思った |
| 2. またいじめてやろうと思った | 6. 何も感じなかった |
| 3. 見つからなければいいと思った | 7. その他() |
| 4. ちょっと悪かったと思った | |

【放課後(夕方)や休日の過ごし方についておたずねします】

問 19 あなたは、平日の学校が終わってから(学校にいない人は夕方)どこにすることが多いですか。(5つまでに○)

- | | | |
|--------------------|---------------------|------------------|
| 1. 自分の家 | 7. 学 校 | 12. アルバイト・仕事先 |
| 2. 祖父・祖母の家 | 8. 部活動 | 13. コンビニ、ゲームセンター |
| 3. 親戚(おじさん・おばさん)の家 | 9. スポーツをするところ | 14. 区内の店 |
| 4. 友だちの家 | 10. 区の施設(児童館、図書館など) | 15. 区外の店 |
| 5. 近所の公園 | 11. 学習塾や習いごと | 16. その他() |
| 6. 広場や空き地 | | |

問 20 あなたは、休・祝日、どこにすることが多いですか。(5つまでに○)

- | | | |
|--------------------|---------------------|------------------|
| 1. 自分の家 | 7. 学 校 | 12. アルバイト・仕事先 |
| 2. 祖父・祖母の家 | 8. 部活動 | 13. コンビニ、ゲームセンター |
| 3. 親戚(おじさん・おばさん)の家 | 9. スポーツをするところ | 14. 区内の店 |
| 4. 友だちの家 | 10. 区の施設(児童館、図書館など) | 15. 区外の店 |
| 5. 近所の公園 | 11. 学習塾や習いごと | 16. その他() |
| 6. 広場や空き地 | | |

問 21 あなたが「ほっとできるとき」は、どんなときですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 自分の部屋にいるとき	16. 図書館にいるとき
2. 一人になってぼーっとしているとき	17. 学習塾や習いごとに行っているとき
3. お風呂に入っているとき	18. スポーツをやっているとき
4. トイレに入っているとき	19. スーパーやデパートなどにいるとき
5. 寝ているとき	20. 本屋にいるとき
6. ご飯を食べているとき	21. コンビニにいるとき
7. 家族と一緒にいるとき	22. ゲームをしているとき
8. 祖父母の家にいるとき	23. ゲームセンターにいるとき
9. 親戚(おじさん・おばさん)の家にいるとき	24. ファーストフード店にいるとき
10. 友だちと遊んだり話をしているとき	25. 映画館にいるとき
11. 近所の公園にいるとき	26. アルバイトや仕事先にいるとき
12. 広場や空き地にいるとき	27. 家族と出かけるとき
13. 学校(校庭など)にいるとき	28. 携帯などでメールをしているとき
14. 部活動をしているとき	29. 何もしないでいるとき
15. 児童館(児童室)にいるとき	30. その他()

問 22 あなたは、一緒に遊んだり話したりする友だちが何人くらいいますか。(1つに○)

1. 1人	3. 4～5人	5. 10人以上
2. 2～3人	4. 6～9人	6. いない

【将来の仕事や結婚、子育てについておたずねします】

問 23 あなたは、次のような考え方についてどう思いますか。(ア～シそれぞれ1つに○)

	そう 思う	そう 思う と い え ば	ど ち ら か が よ い	ど ち ら か が よ い と 思 わ ない	ど ち ら か が よ い と 思 わ ない	そ う 思 わ ない	よ く わ か ら ない
記入例) 結婚は個人の自由だから、してもなくてもよい	①	2	3	4	5		
ア. 結婚は個人の自由だから、してもなくてもよい	1	2	3	4	5		
イ. 結婚しても、うまくいかなければ離婚することはしかたない	1	2	3	4	5		
ウ. 結婚しても、別々の名字のままにすることもかまわない	1	2	3	4	5		
エ. 結婚しても、必ず子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5		
オ. 結婚はしたくないが、子どもはほしい	1	2	3	4	5		
カ. 結婚したら、子どもは持つべきだ	1	2	3	4	5		
キ. 子どもの人数や何歳ごろに産むかを決めるとき、妻の意見を尊重した方がよい	1	2	3	4	5		
ク. 子どもの世話は、父親も母親も同じにするのがよい	1	2	3	4	5		
ケ. 子どもが3歳になるまでは、母親が家庭で育てる方がよい	1	2	3	4	5		
コ. 子どものことも大事だが、自分自身の生活も大事にしたい	1	2	3	4	5		
サ. 自分のことを多少犠牲にしても、子どものことを優先すべきだ	1	2	3	4	5		
シ. 女性も子どもを産んでも、仕事をやめるべきでない	1	2	3	4	5		

問 24 あなたは、将来どんな仕事につきたいですか。(1つに○)

1. 一流大学・大学院を出て自分の望む仕事につきたい
2. 給料に関係なく自分の好きな仕事につきたい
3. 会社がつぶれたりクビになったりしない仕事につきたい
4. あまり忙しくなく家庭を大事にできる仕事につきたい
5. 大変でも給料が高い仕事につきたい
6. 社会に貢献する仕事につきたい
7. アルバイトやフリーターをしていきたい
8. できれば仕事はしたくない
9. その他 ()
10. わからない

問 25 10～20年後のあなたの家族を思い浮かべたとき、次のどれに近いと思いますか。
(1つに○)

1. 独身で今の家族と一緒に暮らしている
2. 独立して一人暮らしをしている
3. 結婚しているが、子どもはいない
4. 結婚して、子どもがいる
5. わからない

問 26 あなたは、将来どんな家庭をつくりたいですか。(1つに○)

1. 男の人も女の人も働いて、一緒に家のことや子育てをする家庭
2. 子どもが小さいときだけ女性が家にいて、子どもが大きくなったら男性も女性も働いて、一緒に家のことや子育てをする家庭
3. 男性が働いて、女性が家のことや子育てをする家庭
4. 女性が働いて、男性が家のことや子育てをする家庭
5. わからない

問 27 あなたは、弟や妹以外の近所や親戚の赤ちゃんや幼児と遊んだことがありますか。
(1つに○)

1. たくさんある
2. ときどきある
3. あまりない
4. ぜんぜんない

問 28 最後に、「北区の子どもを対象とした取り組み」や「北区に定住するための条件」について意見・要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----
--

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

記入もれがないかどうかもう一度お確かめのうえ、同封の返信用封筒（切手は不用）に入れて、12月11日（木）までにお近くのポストに投函してください。

北区次世代育成支援行動計画策定のための 区民アンケート調査

調査ご協力をお願い

このアンケート調査は、次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、育成されるよう支援するための計画である『北区次世代育成支援行動計画(後期)』(平成22年度～平成26年度)の策定に向けて実施するもので、区民の皆様の子育て支援に関するニーズや意識・意向を把握するために行うものです。

この調査は、幅広い区民の方を対象とするため、

- ①就学前のお子さんの保護者
- ②小学1年生から6年生までのお子さんの保護者
- ③12歳～18歳の方
- ④30歳以上40歳未満の、世帯主のみの世帯、世帯主と夫又は妻のみの世帯
- ⑤世帯主と子のみで構成されている世帯の18歳以下のお子さんの保護者
- ⑥従業員数が10人以上300人未満の事業所

を対象とし、①～⑤については平成20年11月1日現在、住民基本台帳に登録のある方の中から、無作為に選ばせていただきました。

なお、この調査票は「調査の④」の方(1,000人)を対象としております。

調査結果は、統計的に処理するもので、この調査の目的以外に使用することはありません。また、個々のご回答やプライバシーに関わる内容が公表されることは一切ありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成20年11月

北区子ども家庭部子育て支援課

《ご記入にあたってのお願い》

1. アンケートには、あて名の方がご記入ください。また、無記名ですので、氏名・住所の記入の必要はありません。
2. ご回答は、最初から1問ずつ、最後の質問までお答えください。
3. ご回答は、**選択肢の番号**に をつけていただく場合と、に**数字など**をご記入いただく場合があります。
4. 質問によって、 をつける選択肢の番号を「2つまで」などと指定している場合は、**指定の範囲内**で をつけてください。また、「**その他**」をお選びいただいた場合、その後にある()内に、**具体的な内容**を記入してください。
5. 質問によっては、ご回答いただく方に限られる場合がありますので、矢印()やことわり書きなど、次にご回答いただく質問番号への案内にご注意ください。

ご記入が済みましたら、誠に恐縮ですが、同封の返信用封筒に入れて、**12月11日(木)まで**にご投函ください。

ご回答いただく上でご不明な点、調査に関するお問い合わせは、下記までお願い致します。

連絡先：子ども家庭部 子育て支援課 担当 浅香・田口

電話：03(3908)8143(直通)

【最初に、あなたご自身のことについておたずねします】

問1 あなたの性別をお答えください。(1つに○)

1. 男性	2. 女性
-------	-------

問2 あなたの年齢をお答えください(平成20年11月1日現在)。

□	歳
---	---

問3 あなたの職業をお答えください。(1つに○)

1. 会社員	3. 公務員・団体職員	5. 無職	7. その他
2. 自営業	4. パート・アルバイト	6. 学生	()

問4 あなたのお住まいの地区はどこですか。(1つに○)

1. 浮間地区	浮間1~5丁目
2. 赤羽西地区	赤羽北1~3丁目・桐ヶ丘1~2丁目・赤羽台1~4丁目・赤羽西1~6丁目・西が丘1~3丁目・上十条5丁目・十条仲原3~4丁目・中十条4丁目
3. 赤羽東地区	赤羽1~3丁目・岩淵町・志茂1~5丁目・赤羽南1~2丁目・神谷2~3丁目・東十条5~6丁目
4. 王子西地区	上十条1~4丁目・十条仲原1~2丁目・中十条1~3丁目・岸町1~2丁目・十条台1~2丁目・王子本町1~3丁目・滝野川4丁目
5. 王子東地区	東十条1~4丁目・神谷1丁目・王子1~6丁目・豊島1~8丁目
6. 滝野川西地区	滝野川1~3丁目・滝野川5~7丁目・西ヶ原1~4丁目・上中里1丁目・中里1~3丁目・田端1~6丁目
7. 滝野川東地区	堀船1~4丁目・栄町・上中里2~3丁目・昭和町1~3丁目・東田端1~2丁目・田端新町1~3丁目

【家族および生活全般についておたずねします】

問5 あなたと、同居されている方はどなたですか。あなたを中心にお答えください。あてはまるものすべてに○をし、□の中に数字を記入してください。

1. 同居者はいない(一人暮らし)	家族全員で □ 人
2. 配偶者・パートナー(単身赴任などで別居も含む)	
3. 自分の親または配偶者・パートナーの親	
4. 自分の祖母・祖父または配偶者・パートナーの祖母・祖父	
5. 自分の兄弟姉妹または配偶者・パートナーの兄弟姉妹	
6. 子	
7. その他の親族	
8. その他()	

→《問5で「3」とお答えの方におたずねします》

問5-1 次のようなことについて、家庭内では誰がしていますか。(ア〜クそれぞれ1つに○)

	主に親	主に自分	親と自分の分担	主に配偶者・パートナー	その他
ア. 食事を作る	1	2	3	4	5
イ. 食事の後片付けをする	1	2	3	4	5
ウ. トイレを掃除する	1	2	3	4	5
エ. 風呂を掃除する	1	2	3	4	5
オ. 洗濯をする	1	2	3	4	5
カ. 買物をする	1	2	3	4	5
キ. 自分の部屋を掃除する	1	2	3	4	5
ク. ごみ袋を出しに行く	1	2	3	4	5

問6 あなたは、親に生活費(仕送り)を入れていますか。(1つに○)

1. 毎月入れている	2. とくどき入れている	3. 入っていない
------------	--------------	-----------

問7 あなたは、親から生活費の援助を受けていますか。(1つに○)

- | | |
|----------------------------|--------------------|
| 1. 生活全般について援助を受けている | 3. 不定期に多少の援助を受けている |
| 2. 定期的に住居費・食費など一部の援助を受けている | 4. 援助は受けていない |

問8 今のあなたの生活は、経済的に余裕がありますか。(1つに○)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 余裕がある | 3. どちらかといえば余裕がない |
| 2. どちらかといえば余裕がある | 4. 余裕がない |

【将来への不安、結婚、子育てについておたずねします】

問9 あなたが持っている将来の不安はどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|----------|------------|------------|
| 1. 自分の健康 | 6. 親の介護 | 11. 恋人との関係 |
| 2. 生活費 | 7. 家族 | 12. その他 |
| 3. 仕事 | 8. 老後 | () |
| 4. 住居 | 9. 孤独になる | 13. 特にない |
| 5. 独身でいる | 10. 友人との関係 | |

問10 あなたは、結婚していますか。(1つに○)

- | | |
|-----------------------------|------------|
| 1. 結婚している(配偶者がいる) | } (問11へ進む) |
| 2. 結婚していないが同居している(パートナーがいる) | |
| 3. 結婚も同居もしていない | |
| 4. 結婚したが、離別・死別した | (問11へ進む) |

→《問10で「3」とお答えの方におたずねします》

問10-1 「結婚」については、どのような考えをお持ちですか。(1つに○)

- | | |
|------------------------------|------------|
| 1. できればすぐにでも結婚したい | 4. 結婚したくない |
| 2. いずれは結婚したい | 5. その他 |
| 3. 結婚したくないが、人生のパートナーとなる人がほしい | () |

→問10-2 結婚も同居もしていない理由をお聞かせください。(3つまでに○)

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 結婚するにはまだ早い(若い) | 8. 結婚資金が足りない |
| 2. 結婚する必要性を感じない | 9. 結婚生活のための住居のめどが立たない |
| 3. 適当な相手にめぐり会えない | 10. 親や周囲が結婚に同意しない(だろう) |
| 4. 異性とうまくつきあえない | 11. 結婚の準備期間中(婚約中) |
| 5. 今は仕事や学業に取り組みたい | 12. その他 |
| 6. 今は趣味や娯楽を楽しみたい | () |
| 7. 独身生活の自由さや気楽さを失いたくない | |

問11 あなたは、配偶者・パートナーとどのような役割分担をするのがよいと思いますか。(ア～カそれぞれ1つに○)

	女性が 行う	女性が 中心に 行う	同性 間でも 程度	女性が 中心に 行う	男性が 行う
記入例) 生計を立てるための仕事	①	2	3	4	5
ア. 生計を立てるための仕事	1	2	3	4	5
イ. 家計の管理	1	2	3	4	5
ウ. 家事	1	2	3	4	5
エ. 育児や子育て	1	2	3	4	5
オ. 子どもの教育	1	2	3	4	5
カ. 親の介護	1	2	3	4	5

[お子さんのいる方は、問 15 へお進みください]

問12 あなたは、これまでに子どもと関わったことがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---|
| 1 . 学校や職場で、ボランティアとして子どもの世話をしたことがある |
| 2 . 兄弟姉妹や親類の子ども、近所の子どもなどの世話を日常的にしたことがある |
| 3 . 職業上、保育や子どもの教育に携わっている(携わったことがある) |
| 4 . 子どもと関わった経験はほとんどない |

問13 あなたは、赤ちゃんにミルクを飲ませたり、オムツがえなどをしたことがありますか。(1つに○)

- | | |
|-------------|-------------|
| 1 . したことがある | 2 . したことがない |
|-------------|-------------|

問14 あなたは、将来子どもを持ちたいと思いますか。(1つに○)

- | |
|-------------------------------|
| 1 . 将来子どもを持ちたい |
| 2 . 子どもを持ちたいと思わない(問 14-2 へ進む) |

▶《問 14 で「1」とお答えの方におたずねします》

問14-1 将来子どもを持ちたい理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1 . 子どもを育てることは楽しい | 5 . 生きがいになる |
| 2 . 子どもがいると家庭が明るくなる | 6 . 家族の結びつきが強くなる |
| 3 . 子どもが好きだ | 7 . 子どもを通じて交流が広がる |
| 4 . 子どもがかわいい | 8 . その他() |

《問14で「2」とお答えの方におたずねします》

問14-2 子どもを持ちたいと思わない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---|
| 1 . 出産・子育ての知識や自信がない |
| 2 . 子育てはめんどくさい |
| 3 . 子どもはきらいだ |
| 4 . 自分の生活をエンジョイしたい |
| 5 . 仕事を優先したい |
| 6 . 自分のまわりに子育てを助けてくれる人がいない |
| 7 . 自分が子どもを虐待するのではないか |
| 8 . 配偶者(パートナーなど)が子育てを望まない |
| 9 . 子育ての責任が女性にかたよっている |
| 10 . 地域の中に保育園など子どもを預けられるところが整っていない |
| 11 . 地域の中に子どもが安心して遊べるところが整っていない |
| 12 . 地域の中で育児や子育てについて相談しやすい体制が整っていない |
| 13 . 勤め先の育児休業制度や子育てを支援する制度が整っていない |
| 14 . 受験競争や企業社会など、今の世の中は子どもにとってふさわしい時代とは思えない |
| 15 . いじめや差別・不登校など、子どもをとりまく問題がある |
| 16 . 子育ての経済的負担に耐えられないと思う |
| 17 . 地球環境の悪化や現在の住環境が子育てにふさわしくない |
| 18 . その他() |

問15 あなたは、結婚や子育てに関する次のような考え方についてどう思いますか。

(ア～スそれぞれ1つに○)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえはそう思わない	そう思わない
記入例) 結婚は個人の自由だから、してもしなくてもよい	①	2	3	4
ア．結婚は個人の自由だから、してもしなくてもよい	1	2	3	4
イ．結婚しても、うまくいかなければ離婚することはしかたがない	1	2	3	4
ウ．結婚しても、別々の名字のままにすることもかまわない	1	2	3	4
エ．結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4
オ．結婚はしたくないが、子どもは欲しい	1	2	3	4
カ．結婚したら、子どもを持つべきだ	1	2	3	4
キ．結婚しないまま、子どもを産むべきではない	1	2	3	4
ク．子どもの人数や何歳ごろに産むかを決めるとき、妻の意見を尊重したほうがよい	1	2	3	4
ケ．子どもの世話は、父親も母親も同じにするのがよい	1	2	3	4
コ．子どもが3歳になるまでは、母親が家庭で育てるほうがよい	1	2	3	4
サ．子どものことも大事だが、自分自身の生活も大事にしたい	1	2	3	4
シ．自分のことを多少犠牲にしても、子どものことを優先すべきだ	1	2	3	4
ス．女性も子どもを産んでも、仕事をやめるべきでない	1	2	3	4

【労働基準法・社会保険等による支援の周知状況についておたずねします】

問16 あなたは、妊産婦や子育て中の労働者に対して、労働基準法・社会保険等による次のような支援があることをご存知ですか。(あてはまるものすべてに○)

1．妊婦の産前通常6週間の休業請求(女性のみ)
2．産婦の産後通常8週間の就業禁止(女性のみ)
3．妊婦の時間外・休日労働の除外請求(女性のみ)
4．妊産婦の深夜業の除外請求(女性のみ)
5．新婦の軽易な業務への転換請求(女性のみ)
6．育児休業の取得
7．勤務時間の短縮
8．子の看護のための休暇
9．育児休業給付の支給
10．出産手当金の支給(女性のみ)
11．出産育児一時金の支給(女性のみ)
12．家族(配偶者)出産育児一時金の支給
13．1つも知らない

【地域交流についておたずねします】

問17 あなたは、家族や地域社会など、自分の周りに子どもがいることをどう思いますか。(3つまでに○)

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. 地域や家庭が明るくなる | 7. うるさいと思う |
| 2. 地域や家庭の結びつきが強まる | 8. まわりにいるとわずらわしい |
| 3. 老後を安心して過ごせる | 9. 負担に感じる |
| 4. 子どもから教えられることがある | 10. 子どもの安全について不安を感じる |
| 5. まわりにいると楽しい | 11. その他() |
| 6. 子どもを通じて交流が広がる | 12. 特に何も感じない |

問18 あなたは、ふだんご近所の方とどの程度のつきあいをしていますか。(1つに○)

- | |
|------------------------------|
| 1. あいさつをする程度 |
| 2. ときどき道で話をする |
| 3. 相手の家に行って話をする |
| 4. 一緒に食事に行ったり、家族ぐるみでつきあっている |
| 5. 困っているときには、相談したり助けあったりしている |
| 6. ほとんどつきあいはない |

問19 あなたは、よその子どものいたずらやいじめに対して注意をしますか。(1つに○)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. よく注意する | 3. めったに注意しない |
| 2. ときどき注意する | 4. まったく注意しない |

問20 あなたは、この1年間で次のような地域活動をしたことがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 近所の祭などに参加する | 6. 体の不自由な人やお年寄りの手助け |
| 2. 町内会での活動 | 7. 献血や募金の協力 |
| 3. 地域での子どもたちの指導や世話 | 8. その他() |
| 4. 近所の子ども遊び相手 | 9. したことはない |
| 5. 地域の清掃や防災などの活動 | |

問21 あなたは、ボランティア活動をしたことがありますか。(1つに○)

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1. 日常的にボランティアをしている | 3. 何回かしたことがある |
| 2. 以前ボランティア活動をしていた | 4. したことはない |

問22 あなたが参加したいと思うボランティア活動は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---|
| 1. 環境を守る活動(清掃美化活動、リサイクル活動など) |
| 2. 身近な緑を守る活動(花壇づくりなど) |
| 3. 子育てに関する活動(保育園での乳幼児の世話、児童館での児童や幼児の世話) |
| 4. 高齢者・障害者福祉に関する活動(お年寄りや障害者への介護、給食など) |
| 5. スポーツ・文化に関する活動(小学生にスポーツを教えるなど) |
| 6. 学習活動に関する指導、助言、運営協力などの活動(料理、英語、書道など) |
| 7. 国際交流、国際協力に関する活動(通訳、外国人を助けるなど) |
| 8. 地域のイベントやお祭りの手伝い |
| 9. その他() |
| 10. 特にない |

【少子社会に対する考え方についておたずねします】

問23 あなたは、少子社会（＝出生率が低下し、子どもの数が減ることにより、将来的には人口規模の縮小が考えられる社会）が、個人の生活にどのような影響を与えると思いますか。（3つまでに○）

- 1．一人ひとりに合った、ゆとりある教育ができる
- 2．進学や就職において競争が少なくなる
- 3．住宅事情が改善されて、買いやすくなる
- 4．周りに子どもが減り、子どもの社会性が育ちにくくなる
- 5．一人ひとりの子どもへの期待が大きくなる
- 6．親など周囲の干渉が強まる
- 7．親世代の老後への子ども世代の負担が大きくなる
- 8．その他（)
- 9．わからない

問24 あなたは、少子社会が国や地域社会にどのような影響を与えると思いますか。

（3つまでに○）

- 1．人口規模が縮小することにより、環境問題の改善がみられるようになる
- 2．就労人口が減少して、就職や再就職などがしやすくなる
- 3．女性の社会進出が強まり、男女が協力し合って生活や社会を築いていく風潮が高まる
- 4．若い労働力が不足することにより、経済の活性化や成長が見込めなくなる
- 5．現役世代の租税や社会保障負担（年金や医療費など）が大きくなる
- 6．地域に住む若い世代が減少し、地域の活気がなくなる
- 7．地域で子育てをする住民が孤立し、育児不安が広がる
- 8．その他（)
- 9．わからない

【子育てしやすい環境整備についておたずねします】

問25 子どもを健やかに産み育てるために必要と思われることはどのようなことですか。

（3つまでに○）

- 1．出産や育児のしやすい就労条件を促進する
- 2．出産や子育てについて気軽に相談できるようにする
- 3．妊産婦や乳幼児の保健指導等を充実する
- 4．親の就労形態や通勤時間に応じた保育を進める
- 5．保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する
- 6．子ども各人の個性を尊重した、ゆとりある教育を進める
- 7．児童館（児童室）や身近な公園など、子どもの安全な遊び場を確保する
- 8．子ども会など地域の健全育成活動を進める
- 9．子育てを助け合うコミュニティづくりを進める
- 10．自然環境を保護し、子どもが自然とふれあう体験の機会を増やす
- 11．妊婦や子ども連れでも安心して自由に活動できるまちづくりを進める
- 12．質の高い住まいづくりや住環境の整備を進める
- 13．男性と女性が一緒に家事育児に参加していくという考え方を広める
- 14．その他（)

北区次世代育成支援行動計画策定のための 区民アンケート調査

調査ご協力をお願い

このアンケート調査は、次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、育成されるよう支援するための計画である『北区次世代育成支援行動計画（後期）』（平成22年度～平成26年度）の策定に向けて実施するもので、区民の皆様の子育て支援に関するニーズや意識・意向を把握するために行うものです。

この調査は、幅広い区民の方を対象とするため、

- ①就学前のお子さんの保護者
- ②小学1年生から6年生までのお子さんの保護者
- ③12歳～18歳の方
- ④30歳以上40歳未満の、世帯主のみの世帯、世帯主と夫又は妻のみの世帯
- ⑤世帯主と子のみで構成されている世帯の18歳以下のお子さんの保護者
- ⑥従業員数が10人以上300人未満の事業所

を対象とし、①～⑤については平成20年11月1日現在、住民基本台帳に登録のある方の中から、無作為に選ばせていただきました。

なお、この調査票は「調査の⑤」の方（300人）を対象としております。

調査結果は、統計的に処理するもので、この調査の目的以外に使用することはありません。また、個々のご回答やプライバシーに関わる内容が公表されることは一切ありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成20年11月

北区子ども家庭部子育て支援課

《ご記入にあたってのお願い》

1. 特にことわりのある場合以外は、**封筒のあて名のお子さん**についてご記入ください。
2. アンケートには、**お子さんの保護者の方**がご記入ください。また、無記名ですので、氏名・住所の記入の必要はありません。
3. ご回答は、最初から順番にお答えください。
4. ご回答は、**選択肢の番号**をつけていただく場合と、に**数字など**をご記入いただく場合があります。数字については、右詰めでご記入ください。
5. 質問によって、をつける**選択肢の番号**を「2つまで」などと指定している場合は、**指定の範囲内**でをつけてください。また、「**その他**」をお選びいただいた場合、その後にある（）内に、**具体的な内容**をご記入ください。
6. 数字で時間（時刻）をご記入いただく場合は、**24時間制（例：午後6：00時 18：00時）**でご記入ください。
7. 質問によっては、ご回答いただく方が限られる場合がありますので、矢印（）やことわり書きなど、次にご回答いただく質問番号への案内にご注意ください。

ご記入が済みましたら、誠に恐縮ですが、同封の返信用封筒に入れて、

12月11日（木）までにご投函ください。

ご回答いただく上でご不明な点、調査に関するお問い合わせは、下記までお願い致します。

連絡先：子ども家庭部 子育て支援課 担当 浅香・田口

電話：03（3908）8143（直通）

【最初に、世帯の状況についておたずねします】

問1 このアンケートにお答えいただくのはどなたですか。複数の方が相談してお答えになる場合は、主にお答えになる方一人に○をつけてください。(1つに○)

1. 母親	2. 父親	3. その他()
-------	-------	-----------

問2 あて名のお子さんを含め、お子さんは何人いらっしゃいますか。また、2人以上いらっしゃる場合、末子の年齢(平成20年4月1日現在の年齢)をご記入ください。

<input type="text"/>	人	末子の年齢	<input type="text"/>	歳
----------------------	---	-------	----------------------	---

問3 あなたの年齢は、次のうちどれにあてはまりますか。(1つに○)

1. 19歳以下	3. 30歳～39歳	5. 50歳～59歳
2. 20歳～29歳	4. 40歳～49歳	6. 60歳以上

問4 あて名のお子さんと同居されている方、近居(概ね30分以内程度で行き来できる範囲)の方はどなたですか。続柄は、あて名のお子さんからみた関係です。

(あてはまるものすべてに○)

1. 父母同居	4. 祖父同居	7. 祖母近居
2. 父同居(ひとり親家族)	5. 祖母同居	8. その他()
3. 母同居(ひとり親家族)	6. 祖父近居	

→《問4で「2」又は「3」とお答えの方におたずねします》

問4-1 ひとり親世帯になった理由は何ですか。(1つに○)

1. 離婚	2. 死別	3. 未婚	4. 別居	5. その他()
-------	-------	-------	-------	-----------

→問4-2 ひとり親世帯になった時期を 内に記入してください。

1. 昭和	<input type="text"/>	年
2. 平成		

問5 お住まいの地区はどこですか。(1つに○)

1. 浮間地区	浮間1～5丁目
2. 赤羽西地区	赤羽北1～3丁目・桐ヶ丘1～2丁目・赤羽台1～4丁目・赤羽西1～6丁目・西が丘1～3丁目・上十条5丁目・十条仲原3～4丁目・中十条4丁目
3. 赤羽東地区	赤羽1～3丁目・岩淵町・志茂1～5丁目・赤羽南1～2丁目・神谷2～3丁目・東十条5～6丁目
4. 王子西地区	上十条1～4丁目・十条仲原1～2丁目・中十条1～3丁目・岸町1～2丁目・十条台1～2丁目・王子本町1～3丁目・滝野川4丁目
5. 王子東地区	東十条1～4丁目・神谷1丁目・王子1～6丁目・豊島1～8丁目
6. 滝野川西地区	滝野川1～3丁目・滝野川5～7丁目・西ヶ原1～4丁目・上中里1丁目・中里1～3丁目・田端1～6丁目
7. 滝野川東地区	堀船1～4丁目・栄町・上中里2～3丁目・昭和町1～3丁目・東田端1～2丁目・田端新町1～3丁目

問6 あなたの世帯全体の収入に該当するものはどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. あなたの勤労収入	7. 生活保護費
2. 子どもの勤労収入	8. 児童扶養手当
3. その他の世帯員の勤労収入	9. 児童手当
4. 子どもの父または母からの養育費	10. 母子福祉資金借入金
5. 親・親族からの援助	11. 子どもに対する奨学金
6. 遺族基礎年金・厚生年金	12. その他()

問7 あなたの年収と同居世帯全体の年収はいくらくらいですか。おおよそで結構ですので、それぞれの□内に記入してください

あなたの年収	約	□	万円
同居世帯全体の年収 (あなたの年収を含みます)	約	□	万円

【北区の子育ての環境についておたずねします】

問8 北区は、子育てがしやすいまちだと思いますか。(1つに○)

1. 子育てしやすいまちだと思う	} (問9へ進む)
2. 子育てしやすいまちだと思わない	
3. どちらともいえない	
4. その他()	

→《問8で「1」とお答えの方におたずねします》

問8-1 子育てしやすいまちだと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 住環境がよい	7. 職場と住居が近い
2. 自然環境がよい	8. 公園や児童館など子どもの遊び場が多い
3. 交通機関が便利	9. 近所づきあいや地域活動が盛ん
4. 保育サービス等が充実している	10. 地域の子育てネットワークができている
5. 保育園、幼稚園などが利用しやすい	11. 子育てに関する情報が得やすい
6. 保育以外の子育て支援サービスが充実している	12. 事故や犯罪が少なく安全
	13. その他()

→《問8で「2」とお答えの方におたずねします》

問8-2 子育てしやすいまちだと思わない理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 住環境がよくない	7. 職場と住居が遠い
2. 自然環境がよくない	8. 公園や児童館など子どもの遊び場が少ない
3. 交通機関が不便	9. 近所づきあいや地域活動が盛んではない
4. 保育サービス等が充実していない	10. 地域の子育てネットワークができていない
5. 保育園、幼稚園などが利用しづらい	11. 子育てに関する情報が得にくい
6. 保育以外の子育て支援サービスが充実していない	12. 事故や犯罪が多く危険
	13. その他()

問9 今後も、北区で子育てをしたいと思えますか。(1つに○)

- | |
|--------------------------|
| 1. ずっと北区で子育てをしたい |
| 2. 当分の間は北区で子育てをしたい |
| 3. できれば北区以外の区市町村で子育てをしたい |
| 4. 近いうちに転出するつもりである |
| 5. その他 () |

【あて名のお子さんの子育て全般についておたずねします】

問10 あなたは子育てが楽しいですか。(1つに○)

- | | |
|-----------|------------------------|
| 1. とても楽しい | 3. つらいこともあるが楽しいことの方が多い |
| 2. とてもつらい | 4. 楽しいこともあるがつらいことの方が多い |

問11 子育てに関して悩んでいることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1. 病気や発育・発達 | 9. 登園拒否や不登校など |
| 2. 食事や栄養 | 10. 子どもの教育・塾、進路 |
| 3. しつけの方法がわからない | 11. 子どもの学力の遅れて |
| 4. 子どもとの接し方に自信が持てない | 12. いじめ |
| 5. 子どもとの時間を十分にとれない | 13. 子どもに落ち着きがない |
| 6. 子どものほめ方やしかり方がよくわからない | 14. 仕事や自分のやりたいことが十分でない |
| 7. 子育てに関する話し相手や相談相手がいない | 15. その他 () |
| 8. 友だちづきあいなど対人関係 | 16. 特にない |

問12 お子さんのことで何かわからないことや困ったこと、悩みごとがあるとき、誰に相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 1. 配偶者(夫、妻) | 10. 医師 |
| 2. 父母(子どもの祖父母) | 11. 健康いきがい課各健康相談係の保健師や相談員 |
| 3. その他の親族 | 12. 民生委員・児童委員 |
| 4. 近所の知人 | 13. 区や都など公的相談機関 |
| 5. 地域の子育て仲間 | (電話相談含む) |
| 6. 子ども家庭支援センター(育ち愛ほっと館) | 14. 民間の相談機関(電話相談含む) |
| 7. 児童館(児童室)・学童クラブの職員 | 15. 育児書や育児雑誌 |
| 8. 保育園の保育士・幼稚園の先生 | 16. インターネット |
| 9. 塾・習い事の先生 | 17. その他 () |
| | 18. 誰にも相談しない |

問13 子育てに関する情報をどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| 1. 家族・知人・友人 | 6. 子ども家庭支援センター(育ち愛ほっと館) |
| 2. 保育園、幼稚園、学校、児童館(児童室)、学童クラブ | 7. テレビ、ラジオ、新聞 |
| 3. 健康いきがい課各健康相談係 | 8. 医療機関 |
| 4. 区役所や区の機関 | 9. 育児書・育児雑誌 |
| 5. 区の広報やホームページ | 10. インターネット |
| | 11. その他 () |

【仕事と生活の調和についておたずねします】

問14 あて名のお子さんとかかわる時間（会話、食事、一緒にテレビを見る、一緒に遊ぶ、風呂に入る、身の回りの世話、勉強をみるなどの合計の時間）はだいたいどのくらいありますか。（父親、母親とも平日と休日に分けてそれぞれ1つに○）

（父親）

平日（1つに）	休日（1つに）
1．ほとんどない	1．ほとんどない
2．30分くらい	2．30分くらい
3．1時間くらい	3．1時間くらい
4．2時間くらい	4．2時間くらい
5．3時間くらい	5．3時間くらい
6．4時間以上	6．4時間以上

（母親）

平日（1つに）	休日（1つに）
1．ほとんどない	1．ほとんどない
2．30分くらい	2．30分くらい
3．1時間くらい	3．1時間くらい
4．2時間くらい	4．2時間くらい
5．3時間くらい	5．3時間くらい
6．4時間以上	6．4時間以上

問15 仕事と子育てを両立させるためには何が必要と思われますか。

（あてはまるものすべてに○）

1．家族の協力	6．職場の中の意識や理解、協力体制
2．育児休業制度の充実	7．親の仕事の形態に合わせた保育施設やサービスの充実
3．子育て後に再就職できる制度の充実	8．学童クラブの整備・充実
4．フレックスタイム制度や短時間勤務制度の導入	9．その他（ ）
5．企業内保育所の整備・充実	

【住宅環境についておたずねします】

問16 お住まいの形態は、次のどれですか。（1つに○）

1．持ち家（一戸建て）	4．公共賃貸住宅
2．持ち家（マンション）	5．給与住宅（社宅、公務員住宅）
3．民間賃貸住宅	6．その他（ ）

問17 現在のお住まいで困っていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1．家が狭い	6．家主や地主とのトラブル
2．間取りや設備が悪い	7．隣近所の住人とのトラブル
3．近隣の音がうるさい	8．家賃やローン
4．日当たりが悪い	9．その他（ ）
5．建物が老朽化している	10．特にない

問18 子育て中のファミリー世帯等の住みやすい環境を、住宅施策の面から整えるためには、北区はどのような施策を進めていくべきだと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--------------------------------------|
| 1. 子育て家庭に対する公共住宅の優先枠の設定や住み替え等の仕組みづくり |
| 2. 子育てがしやすい良質な民間住宅を区が認定しPRするなどの供給誘導 |
| 3. 子育てがしやすい住宅や住宅設備に関する相談・情報提供体制の整備 |
| 4. 子育て世帯に対する住宅取得・賃借、修繕等のための融資や助成 |
| 5. その他() |

【あて名のお子さんの日常生活についておたずねします】

問19 休日や夜間にお子さん(あて名のお子さんに限りません)が病気になったとき、受診できる医療機関を知っていますか。(1つに○)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問20 あて名のお子さんは、毎日朝食を食べていますか。(1つに○)

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. ほぼ毎日食べる | 3. 週に1日~2日程度は食べる |
| 2. 週に3日~5程度は食べる | 4. ほとんど食べない |

問21 やる気がおこらず、お子さん(あて名のお子さんに限りません)の世話をしたくないときがありますか。(1つに○)

- | | | | |
|---------|---------|-----------|-------|
| 1. よくある | 2. 時々ある | 3. ほとんどない | 4. ない |
|---------|---------|-----------|-------|

問22 自分は、子どもを虐待していると思うことがありますか。(1つに○)

- | | | |
|---------|-----------|------------|
| 1. よくある | 3. ほとんどない | } (問23へ進む) |
| 2. 時々ある | 4. ない | |

→《問22で「1」又は「2」とお答えの方におたずねします》

問22-1 子どもを虐待していると思うのは、どのようなときですか(2つまでに○)

- | |
|-----------------------------|
| 1. 子どもを叩いたり、つねったりする |
| 2. 食事を与えない、お風呂に入れないなど世話をしない |
| 3. 何度でもできるまでやらせるなど厳しくしつける |
| 4. 言葉で脅したり、子どもからの働きかけを無視する |
| 5. その他() |

→問22-2 そのような行動をとるのはどうしてですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|------------------------|
| 1. 配偶者の協力が得られない |
| 2. 自分も小さな頃にそのようにしつけられた |
| 3. 子育てによるストレスをぶつけてしまう |
| 4. その他() |

【地域での子育て支援についておたずねします】

問23 あなたの周りには子育ての仲間がいますか。(1つに○)

1. 子どもを預けることができるくらいの仲間がいる 2. 話をする仲間がいる 3. いない

問24 あなたは子育てサークルに参加していますか。(1つに○)

1. 参加している (問25へ進む) 2. 参加していない

→《問24で「2」とお答えの方におたずねします》

問24-1 参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 既に他の仲間がいる 4. サークルに関する情報がない
2. 親同士の間関係が難しい 5. その他 ()
3. 参加する機会がない

問25 安心して子育てをするためには、地域でどのような取り組みが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 子育て中の人や子育て経験者が身近に集まれる場や仕組みをつくる
2. 子育て中の親子が集まったり遊べる場を増やす
3. 子育てサークルなどの自主的な活動がしやすい仕組みをつくる
4. ボランティアが活動しやすい環境をつくる
5. 子どもと親と一緒にできる活動を増やす
6. 子どもの自主的な活動を育成・支援するために、地域の団体などが連携する
7. 学校や保護者、地域の人たちが協力し、子どもの安全や非行防止の活動をする
8. その他 ()
9. 特に必要ない

「問26～問40までは、母子家庭・父子家庭の方のみお答えください。
該当しない方は、問41へ進んでください」

【母子家庭・父子家庭の方におたずねします】

問26 子どもの養育費について取り決めをしていますか。(1つに○)

1. 取り決めをしていない 3. 取り決めをしている } (問27へ進む)
2. 現在、協議中である 4. 取り決める相手がいない }
(死別など)

→《問26で「1」又は「2」とお答えの方におたずねします》

問26-1 養育費等に関する法律相談(無料)を利用したいと思いますか。(1つに○)

1. 現在、利用している 2. 今後、利用したいと思う 3. 利用しない

問 27 ひとり親世帯になったときに、困ったこと、悩んだことは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)。

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1. 保証人が見つからず、住宅が借りられなかった | 6. 子どもが保育所に入れなかった |
| 2. ひとり親世帯のため賃貸住宅に入居できなかった | 7. 子どものしつけ |
| 3. 公営住宅に落選し、入居できなかった | 8. 子どもの養育費(教育費など) |
| 4. 就職先が決まらなかった | 9. 生活費が不足した |
| 5. 就業に関する相談先、情報入手先がわからなかった | 10. 炊事洗濯等の日常の家事ができなかった |
| | 11. その他 () |

問 28 あなたには、現在困ったことや悩み事を相談できる人がいますか。(1つに○)

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

問 29 相談できる相手がいる方は、その相談できる人は誰ですか。また、相談できる人がいない方は、どのような人だったら相談したいと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. 親・親族 | 5. 民間団体やボランティア |
| 2. 知人・友人・隣人 | 6. 母子自立支援員 |
| 3. 民生・児童委員、主任児童委員 | 7. その他 |
| 4. 区役所相談窓口の職員 | () |

問 30 あなたは、現在収入を伴う仕事をしていますか。(1つに○)

- | | |
|----------|----------------------|
| 1. していない | 2. している (問 31 へ進む) |
|----------|----------------------|

→《問 30 で「1」とお答えの方におたずねします》

問 30-1 あなたは、現在働きたいと思っていますか。(1つに○)

- | | |
|-------|---------------------|
| 1. はい | 2. いいえ (問 37 へ進む) |
|-------|---------------------|

→《問 30-1 で「1」とお答えの方におたずねします》

問 30-2 働きたいと思われているのに、働いていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 仕事の探し方がわからない | 7. 自身の健康などの問題がある |
| 2. 収入について条件のあう仕事がない | 8. 子どもの健康などの問題がある |
| 3. 時間について条件のあう仕事がない | 9. 家族(親など)を介護している |
| 4. 年齢制限のため仕事がない | 10. 学校や職業訓練などを受講中 |
| 5. 仕事に必要な専門知識や資格がない | 11. その他 () |
| 6. 子どもの保育の手立てがない | |

→ 問 30-3 仕事に就く場合、重視することはどのようなことですか。(3つまでに○)

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 身分が安定している | 8. 経験や能力が発揮できる |
| 2. 休暇が取りやすい | 9. 簡単な仕事である |
| 3. 十分な収入が得られる | 10. 就業時間に融通がきく |
| 4. 土・日曜日に休める | 11. 残業が少ない |
| 5. 通勤時間が短い | 12. 労働時間が短い |
| 6. 厚生年金や雇用保険に入れる | 13. 技術や技能を身につけられる |
| 7. 在宅でできる | 14. その他 () |

【次は問 37 へ進んでください】

[問 31～問 36 は、問 30 で「 2 」と回答した方だけお答えください]

問 31 現在のあなたの職業は、次のうちどれにあてはまりますか。(1 つに○)

1 . 常勤 (フルタイム)	4 . 内職・在宅就労
2 . パート・アルバイト	5 . その他
3 . 自営業・家業従事・自由業	()

問 32 現在の仕事の職種は、次のどれにあたりますか。(1 つに○)

1 . 専門知識・技術を必要とする仕事 (教員、看護師、システムエンジニアなど)
2 . 事務的な仕事 (一般事務、経理事務など)
3 . 営業・販売の仕事 (スーパー・デパート店員、セールス、外交員など)
4 . サービスの仕事 (理・美容師、飲食店店員、ホームヘルパーなど)
5 . 運輸、通信の仕事 (タクシー運転手、電話交換手など)
6 . 製造・技術・労務の仕事 (製造技能工、建設技能工など)
7 . その他 ()

問 33 現在の仕事を始めた時期はいつですか。(1 つに○)

1 . ひとり親世帯になる前から	2 . ひとり親世帯になってから
------------------	------------------

問 34 現在の仕事の一週間あたりの勤務日数と残業時間を含めた一週間あたりの平均就業時間は、どのくらいですか。それぞれの の中にご記入ください。

一週間あたりの平均勤務日数	約 <input type="text"/> 日
一週間あたりの平均就業時間	約 <input type="text"/> 時間

問 35 あなたは、転職する希望がありますか。(1 つに○)

1 . は い	2 . いいえ
---------	---------

問 36 問 35 で「はい」とお答えになった方は、どのような点を重視して新しい仕事・職場を選びますか、また、「いいえ」とお答えになった方は、現在の仕事・職場の良いところは何か。(3 つまでに○)

1 . 身分が安定している	8 . 経験や能力が発揮できる
2 . 休暇が取りやすい	9 . 簡単な仕事である
3 . 十分な収入が得られる	10 . 在宅でできる
4 . 土・日曜日に休める	11 . 労働時間が短い
5 . 通勤時間が短い	12 . 残業が少ない
6 . 厚生年金や雇用保険に入れる	13 . 技術や技能を身につけられる
7 . 就業時間に融通がきく	14 . その他 ()

問 37 あなたは、現在どのような資格や技能を持っていますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 看護師	7. ホームヘルパー	13. 医療事務
2. 栄養士	8. 介護福祉士	14. 運転免許
3. 調理師	9. 簿記	15. その他()
4. 理・美容師	10. 教員	16. 特に持っていない
5. 保育士	11. パソコン	(問 37-3 へ進む)
6. ケアマネージャー	12. 外国語	

→《問 37 で「1」～「15」のいずれかをお答えの方におたずねします》

問 37-1 持っている資格や技能のうち、ひとり親世帯になってから取得したものはどれですか。問 37 の選択肢の中から選んで、次の の中に番号を記入してください。

ひとり親世帯になってから取得した 資格・技能	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
---------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------

4 つ以上ある場合は欄外にお書きください。

→ 問 37-2 持っている資格や技能のうち、実際の仕事で役立っているものはどれですか。

問 37 の選択肢の中から選んで、次の の中に番号を記入してください。

実際の仕事で役に立っている 資格・技能	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------

《問 37 で「16」とお答えの方におたずねします》

問 37-3 これから身につけたい資格、技能はどんな資格、技能ですか。問 37 の選択肢の中から選んで、次の の中に番号を記入してください。

(身につけたいものが選択肢にないときは、その名称をご記入ください。)

これから身につけたい 資格・技能	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	名称 { }
---------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------

問 38 あなたは、北区が実施している次の制度を利用したことがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 母子家庭のための相談	5. 児童育成手当
2. 母子福祉資金	6. 児童扶養手当
3. 母子福祉応急小口資金	7. ホームヘルパーの派遣
4. ひとり親家庭休養ホーム	8. その他()
5. ひとり親家庭等医療費助成	9. 特にない

問 39 問 38 で掲げた制度などのうち、あなたが内容を知りたい、もっと詳しく聞きたいと思われるものはどれですか。問 38 の選択肢の中から選んで、次の の中に番号を記入してください。

(内容を知りたいものが選択肢にないときは、その名称をご記入ください。)

知りたい、詳しく 聞きたい制度など	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	名称 { }
----------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------

※ 北区からのご回答は個別に差し上げませんので、具体的な内容については北区役所の担当課へ直接お問い合わせください。電話 (3908) 1111 (大代表)

問 40 あなたは就職や仕事のため、区からどのような支援を望みますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 技能講習、職業訓練などの機会が増える
2. 訓練受講などに経済的援助が受けられる
3. 仕事を探したり、訓練受講などの際に子どもを預かってもらえる
4. 相談が一か所で行える
5. 就労のための支援策などの情報が得られる
6. 保育園にすぐ入れる
7. 延長保育、休日保育が充実する
8. 病気の子どもを預かってもらえる
9. 学童クラブにすぐに入れる
10. 仕事から帰宅するまでの間、子どもを預かってくれる
11. 親が病気の時、一時的に子どもを預かってくれる
12. 子どもが病気で保育園に行けないときなど、自宅で面倒を見てくれる人を派遣してもらう
13. 母子家庭・父子家庭の就職相談や求職情報、養育費の相談など生活支援サービスを利用できる
14. 就職のための資格・技能を取得する講習会等の受講費用を援助する
15. 長期(2年以上)に渡って資格・技能の訓練を受講するときに、生活費の支援をする
16. その他()

【まちづくりや子育て支援のあり方についておたずねします】

[問41以降は、すべての方がお答えください]

問41 子どもを健やかに産み育てるために必要と思われることはどのようなことですか。

(3つまでに○)

1. 出産や育児のしやすい就労条件を促進する
2. 出産や子育てについて気軽に相談できるようにする
3. 妊産婦や乳幼児の保健指導等を充実する
4. 親の就労形態や通勤時間に応じた保育を進める
5. 保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する
6. 保育園や幼稚園に入りやすくする
7. 子ども各人の個性を尊重した、ゆとりある教育を進める
8. 児童館(児童室)や身近な公園など、子どもの安全な遊び場を確保する
9. 子ども会など地域の健全育成活動を進める
10. 子育てを助け合うコミュニティづくりを進める
11. 自然環境を保護し、子どもが自然とふれあう体験の機会を増やす
12. 妊婦や子ども連れでも安心して自由に活動できるまちづくりを進める
13. 質の高い住まいづくりや住環境の整備を進める
14. 男性と女性が一緒に家事育児に参加していくという考え方を広める
15. その他()

北区次世代育成支援行動計画策定のための 事業所アンケート調査

調査ご協力をお願い

このアンケート調査は、次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、育成されるよう支援するための計画である『北区次世代育成支援行動計画（後期）』（平成22年度～平成26年度）の策定に向けて実施するもので、区民の皆様の子育て支援に関するニーズや意識・意向を把握するために行うものです。

この調査は、幅広い区民の方を対象とするため、

- ①就学前のお子さんの保護者
- ②小学1年生から6年生までのお子さんの保護者
- ③12歳～18歳の方
- ④30歳以上40歳未満の、世帯主のみの世帯、世帯主と夫又は妻のみの世帯
- ⑤世帯主と子のみで構成されている世帯の18歳以下のお子さんの保護者
- ⑥従業員数が10人以上300人未満の事業所

を対象とし、①～⑤については平成20年11月1日現在、住民基本台帳に登録のある方の中から、無作為に選ばせていただきました。

なお、この調査票は東京商工会議所北支部のご協力をいただき「調査の⑥」の東京商工会議所北支部の方（428事業所）を対象としております。

調査結果は、統計的に処理するもので、この調査の目的以外に使用することはありません。また、個々のご回答やプライバシーに関わる内容が公表されることは一切ありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成20年11月

北区子ども家庭部子育て支援課

《ご記入にあたってのお願い》

1. この調査票のご記入は、事業所の経営者・責任者もしくは人事総務担当者をお願いします。
2. 質問は、事業所を単位として行っています。各設問については貴事業所に限った回答にしてください。
3. ご回答は、特にことわりのない限り、**平成20年11月1日現在**の状況をご記入ください。
4. ご回答は、最初から1問ずつ、最後の質問までお答えください。中には一部の方だけお答えいただく質問もありますが、その場合は矢印（ ）や説明にしたがって回答してください。
5. ご回答は、あてはまる選択肢の番号に 印をつけていただく場合と、数字等をご記入いただく場合があります。数字を記入する質問では、該当欄がゼロの場合、必ず「0」とご記入ください。
6. 質問によって、 をつける選択肢の番号を「2つまで」などと指定している場合は、指定の範囲内で をつけてください。また、「その他」をお選びいただいた場合、その後にある（ ）内に、具体的な内容を記入してください。

ご記入が済みましたら、誠に恐縮ですが、同封の返信用封筒に入れて、**12月11日（木）まで**にご投函ください。

ご回答いただく上でご不明な点、調査に関するお問い合わせは、下記までお願い致します。

連絡先：子ども家庭部 子育て支援課 担当 浅香・田口

電話：03(3908)8143(直通)

【最初に、貴社（事業所）の概要についておたずねします】

問1 貴社（事業所）の概要についてお答えください。（それぞれ1つに○）

業種	1. 建設業 2. 製造業 3. 情報通信業 4. 運輸業	5. 卸売・小売業 6. 金融・保険業 7. 不動産業 8. 飲食店・宿泊業	9. 医療・福祉 10. 教育・学習サービス 11. サービス業 12. その他（ ）
事業所の性格	1. 単独事業所	2. 本社・本店	3. 支社・営業所
就業規則の有無	1. 有	2. 無	

問2 貴社（事業所）における従業員の雇用状況についてお答えください。

	合計	男性	女性
正社員数	人	人	人
パート従業員数(契約社員を含む)	人	人	人
役員	人	人	人
管理職(合計)	人	人	人
部長相当職	人	人	人
課長相当職	人	人	人
係長相当職	人	人	人
正社員の平均勤務年数(合計、男性、女性それぞれ1つに)	1. 0年 2. 1～4年 3. 5～9年 4. 10～19年 5. 20～29年 6. 30年以上	1. 0年 2. 1～4年 3. 5～9年 4. 10～19年 5. 20～29年 6. 30年以上	1. 0年 2. 1～4年 3. 5～9年 4. 10～19年 5. 20～29年 6. 30年以上
前年度の正社員新規採用者数	人	人	人

(注) 1. 管理職には、企業の組織系列の各部署において、配下の係員等を指揮・監督する役職のほか、専門職、スタッフ管理職等と呼ばれている役職を含みます。

2. 部長・課長・係長等の役職名を採用していない場合や次長等役職欄にない職については、貴社（事業所）の実態によりどの役職に該当するか適宜判断してお答えください。

【次世代育成支援行動計画（一般事業主行動計画）についておたずねします】

【次世代育成支援行動計画（一般事業主行動計画）とは】

次世代を担う子どもたちが健やかに生まれ育つことのできる環境整備を進めるため、平成17年4月に「次世代育成支援対策推進法」が施行されました。この法律に基づき、事業主は労働者が仕事と子育てを両立させることができるよう雇用環境を整備し、次世代育成支援対策を実施するための「一般事業主行動計画」を策定することが定められています。計画を策定した事業主は、策定したことを都道府県労働局に届けることとなっています。300人を超える従業員を雇用する事業主は策定義務があり、300人以下の従業員を雇用する事業主は努力義務があります。

また、策定した行動計画を実施し、計画に定めた目標を達成したことなど一定の要件を満たす場合には、申請を行うことにより都道府県労働局の認定を受けることができます。認定を受けた事業主は、その旨を示す表示（次世代認定マーク）を広告、商品などにつけることができるようになり、認定を受けた企業であることを対外的に示すことができます。

問3 次世代育成支援対策推進法に規定している一般事業主行動計画の策定についてご存知ですか。（1つに○）

1. 知っていた

2. 知らなかった

問4 貴社（事業所）では、次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画を策定しましたか（あるいは策定する予定ですか）。（1つに○）

1. 策定済み

4. 検討中

2. 策定中

5. 策定する予定はない

3. 近いうちに策定予定

（問4-3へ進む）

《問4で「1」～「4」のいずれかをお答えの企業におたずねします》

問4-1 策定した又は今後策定する時期はいつですか。

平成

年

月

《問4で「1」とお答えの企業におたずねします》

問4-2 貴社（事業所）では行動計画を実施し、一定の成果が認められると取得が可能である「次世代認定マーク」を取得しましたか。（1つに○）

1. 取得した

2. 取得する予定である

3. 取得する予定がない

《問4で「5」とお答えの企業におたずねします》

問4-3 策定する予定がない理由はなぜですか。（1つに○）

1. 仕事と子育ての両立を図るために必要な雇用環境の整備等は、必要ない

2. 仕事と子育ての両立を図るために必要な雇用環境の整備等は大切だと思うが、行動計画を策定する余裕がない

3. 行動計画を策定しなくても、仕事と子育ての両立を図るために必要な雇用環境の整備等は整っている

4. その他（

）

[問 5 以降は、すべての企業がお答えください]

【仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）とは】

仕事は、暮らしを支え、生きがいや喜びをもたらすものですが、同時に、家事・育児、近隣とのつきあいなどの生活も暮らしに欠かすことができないものであり、その充実があってこそ、人生の生きがい、喜びは倍増します。しかし、現実の社会には、

安定した仕事に就けず、経済的に自立することができない

仕事に追われ、心身の疲労から健康を害しかねない

仕事と子育てや老親の介護との両立に悩む

など、仕事と生活の間で問題を抱える人が多くみられます。

これらが、働く人々の将来への不安や豊かさが実感できない大きな要因となっており、社会の活力の低下や少子化・人口減少という現象にまで繋がっているといえます。それを解決する取り組みが、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現です。

【育児・介護休業法】

育児・介護休業等の育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律です。育児又は家族介護を行う労働者の職業生活と家庭生活との両立が図れるよう支援することによって、その福祉を増進するとともに、併せてわが国の経済及び社会の発展に資することを目的としています。平成 17 年 4 月から、育児休暇・介護休暇が取得できる雇用の拡大、子どもの年齢上限の拡大、子どもの看護休暇の取得ができるようになりました。

問 5 貴社（事業所）では、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）についてどの程度関心がありますか。（1 つに○）

- 1 . 関心がある
- 2 . どちらかといえば関心がある
- 3 . どちらともいえない
- 4 . どちらかといえば関心がない
- 5 . 関心がない
- 6 . 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）についてよくわからない

問8 貴社（事業所）では、就業規則等に「子の育児休業制度」の規定がありますか。

（1つに○）

- | | |
|---|-----------------|
| 1. 法定どおりの規定がある | 3. 規定がない（問9へ進む） |
| 2. 法定を超える規定がある（子が <input type="text"/> 歳まで） | |

→《問8で「1」又は「2」とお答えの企業におたずねします》

問8-1 平成19年度に「子の育児休業制度」の対象者はいましたか。（1つに○）

- | |
|--|
| 1. 対象者がいた → 対象者数（ <input type="text"/> 人、うち男性対象者 <input type="text"/> 人） |
| 2. 対象者はいない（問9へ進む） |

→《問8-1で「1」とお答えの企業におたずねします》

問8-2 平成19年度に「子の育児休業制度」を利用した従業員はいましたか。利用者がいる場合は、利用人数についてもお答えください。（1つに○）

- | |
|--|
| 1. 利用者がいた → 利用人数（ <input type="text"/> 人、うち男性利用者 <input type="text"/> 人） |
| 2. 利用者はいない（問9へ進む） |

→《問8-2で「1」とお答えの企業におたずねします》

問8-3 その従業員の代替要員はどうしましたか。（1つに○）

- | | |
|-------------------|--------------------------------|
| 1. 代替要員を採用した | 3. 代替はなかった |
| 2. 社内の配置転換により代替した | 4. その他（ <input type="text"/> ） |

問9 貴社（事業所）では、就業規則等に「子の看護休暇制度」の規定がありますか。

（1つに○）

- | | |
|----------|------------------|
| 1. 規定がある | 2. 規定がない（問10へ進む） |
|----------|------------------|

→《問9で「1」とお答えの企業におたずねします》

問9-1 貴社（事業所）では、1年間に何日取得できますか。（1つに○）

- | | | |
|---------|-------|---------|
| 1. 1～4日 | 2. 5日 | 3. 6日以上 |
|---------|-------|---------|

→問9-2 また、子どもが何歳になるまで取得できますか。（1つに○）

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. 3歳まで | 4. 小学校卒業まで |
| 2. 小学校入学まで | 5. 小学校卒業以降も対象 |
| 3. 小学校低学年（3年生）まで | |

→問9-3 平成19年度に「子の看護休暇制度」を利用した従業員はいましたか。利用者がいる場合は、利用人数についてもお答えください。（1つに○）

- | |
|--|
| 1. 利用者がいた → 利用人数（ <input type="text"/> 人、うち男性利用者 <input type="text"/> 人） |
| 2. 利用者はいない（問10へ進む） |

【子育て支援制度の利用促進に関する取り組みについておたずねします】

問 10 貴社（事業所）では、子育て支援制度の利用を促進するための取り組みを行っていますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1．全社的に時間外労働の縮減や有給休暇の取得率の向上に取り組んでいる
- 2．育児休業中の待遇や休業後の労働条件を就業規則等で定め、従業員に明示している
- 3．育児休業を取得した従業員が職場復帰しやすいように支援している（職場復帰プログラムの実施など）
- 4．子育てを必要とする家族のいる従業員に対しては、配置転換にあたって配慮している
- 5．子育てを理由に退職した従業員の再雇用制度がある
- 6．男性にも育児休業や短時間勤務制度などを利用するよう勧めている
- 7．その他（)
- 8．現状では取り組んでいない

問 11 貴社（事業所）では、子育て支援制度の利用を促進する上でどのような問題点があるとお考えですか。（あてはまるものすべてに○）

- 1．代替要員の確保が難しい
- 2．職場で周りの人の業務量が増える
- 3．一人あたりの業務量が多い
- 4．仕事と子育ての両立支援策の導入に伴い、コストが増大する
- 5．営業時間の制約がある
- 6．始業・終業時間が固定的である
- 7．日常的に労働時間が長い部門・事業所がある
- 8．通勤時間の長い従業員が多い
- 9．全体的に休暇の取得率が低い
- 10．育児に関する休暇・休業がとりにくい
- 11．子育て支援に関する管理職の認識が乏しい
- 12．子育て支援に関する一般従業員の認識が乏しい
- 13．子育て支援の利用が昇任・昇格に影響する
- 14．継続就業してキャリア形成している例が少ない
- 15．復職にあたって、異動・配置の本人の希望がとりにくい
- 16．社会通念上、男性は子育て参加しにくい
- 17．父親が家庭責任をとりにくい職場環境のため、母親に負担がかかる
- 18．公的及び民間の保育サービスが不足している
- 19．その他（)
- 20．特に問題になることはない

問 12 貴社（事業所）では、子育て支援制度を利用しやすい職場環境づくりのためにはどのようなことが必要とお考えですか。（あてはまるものすべてに○）

- 1．職場ごとに利用しやすい雰囲気を作成する
- 2．子育て支援策を積極的に従業員にPRし、理解を深める
- 3．管理職が積極的に従業員へ利用を呼びかける
- 4．子育て支援を利用したことを理由に、昇任・昇格で不利益を与えない
- 5．国や自治体が公的な支援策について、より積極的にPRする
- 6．経営トップが積極的に従業員に利用を呼びかける
- 7．国や自治体がNPOや民間事業者のサービスを紹介する
- 8．利用可能なNPOの支援策や民間事業者のサービスを広げる
- 9．管理職が率先して子育て支援策を利用する
- 10．その他（)

【経営方針における子育て支援策の位置づけについておたずねします】

問 13 貴社（事業所）の経営方針に仕事と子育ての両立支援を位置づけていますか。
(1つに○)

- 1．仕事と子育ての両立支援の促進を経営方針に位置づけている
- 2．仕事と子育ての両立支援の促進を経営方針に位置づけていない(問 14 へ進む)

→《問 13 で「1」とお答えの企業におたずねします》

問 13-1 仕事と子育ての両立支援の促進を経営方針に位置づけている理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1．企業の経営理念として
- 2．企業の社会的責任（CSR）として
- 3．消費者（顧客）へのアピールとして
- 4．優秀な人材を確保するため
- 5．企業のブランド価値の向上のため
- 6．従業員の福利厚生として
- 7．良好な労使関係の形成策として
- 8．社長のポリシーとして
- 9．国・自治体の制度への対応として
- 10．その他（)

【子育て支援策の効果についておたずねします】

問 14 子育て支援策を導入し積極的に利用促進を図ることは、貴社（事業所）にとってどのようなメリット・デメリットがあるとお考えですか。（ア～トそれぞれ1つに○）

	かなりある	ややある	いえない どちらとも	あまりない	ほとんどない
記入例) 女性従業員の定着率が向上する	1	②	3	4	5
【メリット】					
ア．女性従業員の定着率が向上する	1	2	3	4	5
イ．意欲や能力がある女性の人材活用が進む	1	2	3	4	5
ウ．優秀な人材の確保が以前より容易になる	1	2	3	4	5
エ．仕事に積極的に取り組むようになる	1	2	3	4	5
オ．従業員のストレスが減る	1	2	3	4	5
カ．従業員同士が助け合う雰囲気や一体感が醸成される	1	2	3	4	5
キ．仕事の進め方の効率化や業務改善に役立つ	1	2	3	4	5
ク．労働時間に対する意識が変化し生産性が高まる	1	2	3	4	5
ケ．子育てを経験することにより、従業員の視野が広がる	1	2	3	4	5
コ．育児休業者等の仕事を引き継いだ人の能力が高まる	1	2	3	4	5
サ．社会的責任を果たす企業のイメージが高まる	1	2	3	4	5
シ．子育てを経験することにより、新商品開発や販路開拓につながる	1	2	3	4	5
ス．企業や職場への従業員の愛着や信頼が高まる	1	2	3	4	5
セ．総体的にみて、経営にとって効果がある	1	2	3	4	5
ソ．その他（ ）	1	2	3	4	5
【デメリット】					
タ．職場で他の従業員の不満が高まる	1	2	3	4	5
チ．子育て支援策の利用者が孤立するようになる	1	2	3	4	5
ツ．現場管理職のマネジメントが難しくなる	1	2	3	4	5
テ．人件費等コストが増大する	1	2	3	4	5
ト．その他（ ）	1	2	3	4	5

北区次世代育成支援行動計画策定のためのアンケート調査報告書

平成21年(2009年)3月発行

発行 北区

編集 北区子ども家庭部子ども施策担当

〒114-8508

北区王子本町1-15-22

電話 03(3908)8143

刊行物登録番号

20-1-141

調査分析 株式会社 日本能率協会総合研究所